

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2022-147432
(P2022-147432A)

(43)公開日 令和4年10月6日(2022.10.6)

(51)国際特許分類

F I

テーマコード (参考)

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 0

2 C 0 8 8

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

2 C 3 3 3

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全268頁)

(21)出願番号	特願2021-48668(P2021-48668)	(71)出願人	000144153
(22)出願日	令和3年3月23日(2021.3.23)		株式会社三共
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
		(72)発明者	小倉 敏男
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
			株式会社三共内
		Fターム (参考)	2C088 AA11
			2C333 AA11 CA05 CA08 CA16
			CA29 CA31 CA49 CA50
			CA76 CA77

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【要約】

【課題】可変表示に関する遊技興趣を向上させる。

【解決手段】演出状態選択指定値が0C[H]である場合に、遊技状態は高確高ベース状態であり変動パターンPB1-8に決定可能である。演出状態選択指定値が0D[H]である場合に、遊技状態は低確高ベース状態であり変動パターンPB1-9に決定可能である。変動パターンPB1-8は特図変動時間が12500ミリ秒に設定され、変動パターンPB1-9は特図変動時間が29900ミリ秒に設定される。変動パターンPB1-8、PB1-9のいずれの場合にもリザルト表示を実行するための制御が行われ、変動パターンPB1-9の場合に状態報知演出を実行するための制御が行われる。

【選択図】図9-30

【図9-30】

(A) 可変表示制御例				AKC11	
演出状態 選択指定値	遊技状態	可変表示結果	決定可能 パターン種別	決定可能パターン	特図変動時間(ms)
0C	高確高ベース	ハズレ	CB1-8	PB1-8	12500
0D	低確高ベース	ハズレ	CB1-9	PB1-9	29900

(B) 大当り制御例				AKC12	
大当り種別	大入賞口開放 回数最大値	時短カウンタ 初期値	高ベース中 決定率(第2特図)		
NA09	02	10000	2%		
NA10	04	10000	2%		
NA11	07	10000	2%		
KA12	02	70	31%		
KA13	04	70	25%		
KA14	07	70	31%		
KA15	10	70	7%		

(C) 大当り時演出制御例						AKC13	
大当り種別	大入賞口開放 回数最大値	大当り開始 演出時間(ms)	大当り開始 演出パターン	大当り中 演出パターン	大当り終了 演出パターン		
NA09	02	100	APA32	APB32	APC32		
NA10	04	100	APA33	APB33	APC33		
NA11	07	100	APA34	APB34	APC34		
KA12	02	100	APA32	APB32	APC32		
KA13	04	100	APA33	APB33	APC33		
KA14	07	100	APA34	APB34	APC34		
KA15	10	14000	APA35	APB35	APC35		

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
通常状態に比べて可変表示が実行されやすい特別状態に制御可能な特別状態制御手段と

、
可変表示パターンを決定可能な可変表示パターン決定手段と、
遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知を含む複数種類の報知を実行可能な報知手段と、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出を実行する群演出実行手段と、

を備え、

前記特別状態制御手段は、前記有利状態の終了後に第 1 回数の可変表示が実行されるまで前記特別状態に制御可能であり、

前記報知手段は、前記特別状態中における可変表示の実行回数が前記第 1 回数である可変表示中に前記価値報知を実行し、

前記有利状態は、第 1 種別有利状態と、第 2 種別有利状態と、を含み、

前記群演出における画像の表示期間は、第 1 表示期間と、第 2 表示期間と、第 3 表示期間とを含み、

前記第 1 表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり、

前記第 2 表示期間は、前記第 1 表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり、

、
前記第 3 表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり、

前記第 1 表示期間において、最初に表示されたキャラクタの一部が表示されている第 1 状況から、当該最初に表示されたキャラクタの一部が前記第 1 状況よりも表示され、かつ 2 番目に表示されたキャラクタの一部が表示された第 2 状況になり、

前記可変表示パターン決定手段は、

前記特別状態中における可変表示の実行回数が前記第 1 回数である場合に、特定決定用データを用いて決定可能であり、

前記特別状態中における可変表示の実行回数が前記第 1 回数未満である場合に、通常決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、

前記通常決定用データは、前記第 1 種別有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、特定可変表示パターンおよび特別可変表示パターンを含む複数種類の可変表示パターンのうちからいずれかの可変表示パターンを決定可能とし、前記第 2 種別有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、該特定可変表示パターンおよび該特別可変表示パターンとは異なる所定可変表示パターンを含む複数種類の可変表示パターンのうちからいずれかの可変表示パターンを決定可能とするデータであり、

前記特定決定用データは、前記第 1 種別有利状態に制御する契機となる可変表示の場合と、前記第 2 種別有利状態に制御する契機となる可変表示の場合とのいずれの場合においても、前記特定可変表示パターンを決定し、前記有利状態に制御する契機とならない可変表示に対応して、前記報知手段による前記価値報知を実行可能な報知可変表示パターンを決定するデータであり、

前記特定可変表示パターンは、前記報知可変表示パターンよりも可変表示期間が短い可変表示パターンである、

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

20

30

40

50

【0001】

本発明は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

パチンコ遊技機等の遊技機として、特許文献1に示すように、確変状態における最終の可変表示に対応して特定の遊技情報を報知する遊技機がある。また、特許文献2に示すように、複数のキャラクタやオブジェクトの画像が登場する群演出を実行可能な遊技機がある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2017-164640号公報

【特許文献2】特開2019-050851号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1や特許文献2の機能や構成を有する遊技機において、商品性を高める余地があった。

【0005】

この発明は、上記実状に鑑みてなされたものであり、商品性を高めた遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するため、本願発明に係る遊技機は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、通常状態に比べて可変表示が実行されやすい特別状態に制御可能な特別状態制御手段と、可変表示パターンを決定可能な可変表示パターン決定手段と、遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知を含む複数種類の報知を実行可能な報知手段と、複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図46に示す群予告実行処理，図93～図99に示す6人群予告演出）と、を備え、前記特別状態制御手段は、前記有利状態の終了後に第1回数の可変表示が実行されるまで前記特別状態に制御可能であり、前記報知手段は、前記特別状態中における可変表示の実行回数が前記第1回数である可変表示中に前記価値報知を実行し、前記有利状態は、第1種別有利状態と、第2種別有利状態と、を含み、前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み（たとえば、図148に示す期間）、前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図93（a23）～図95（a30）に示す期間）、前記第2表示期間は、前記第1表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図96（a31）～図97（a36）に示す期間）、前記第3表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることがなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図98（a37）～図99（a42）に示す期間）、前記第1表示期間において、最初に表示されたキャラクタの一部が表示されている第1状況から、当該最初に表示されたキャラクタの一部が前記第1状況よりも表示され、かつ2番目に表示されたキャラクタの一部が表示された第2状況になり（たとえば、図56，図93に示す例）、前記可変表示パターン決定手段は、前記特別状態中における可変表示の実行回数が前記第1回数である場合に、特定決定用データを用いて決定可能であり、前記特別状態中における可変表示の実行回数が前記第1回数未満である場合に、通常決定用データを用いて可変表示パターンを

10

20

30

40

50

決定可能であり、前記通常決定用データは、前記第1種別有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、特定可変表示パターンおよび特別可変表示パターンを含む複数種類の可変表示パターンのうちからいずれかの可変表示パターンを決定可能とし、前記第2種別有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、該特定可変表示パターンおよび該特別可変表示パターンとは異なる所定可変表示パターンを含む複数種類の可変表示パターンのうちからいずれかの可変表示パターンを決定可能とするデータであり、前記特定決定用データは、前記第1種別有利状態に制御する契機となる可変表示の場合と、前記第2種別有利状態に制御する契機となる可変表示の場合とのいずれの場合においても、前記特定可変表示パターンを決定し、前記有利状態に制御する契機とならない可変表示に対応して、前記報知手段による前記価値報知を実行可能な報知可変表示パターンを決定するデータであり、前記特定可変表示パターンは、前記報知可変表示パターンよりも可変表示期間が短い可変表示パターンである（ここで、第1種別有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「02」である大当り遊技状態などであればよい。第2種別有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「04」である大当り遊技状態などであればよい。特定決定用データは、例えば変動パターン種別CB1-8、CB1-9、CB4-1、CB4-2が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。通常決定用データは、例えば変動パターン種別CB2-1、CB3-2～CB3-5が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。第1種別可変表示パターンは、例えば変動パターンPB3-1、PB3-2などであればよい。第2種別可変表示パターンは、例えば変動パターンPB3-2～PB3-8などであればよい。種別共通可変表示パターンは、例えば変動パターンPB3-2などであればよい。報知可変表示パターンは、例えば変動パターンPB1-8、PB1-9などであればよい。可変表示期間が短いことは、例えば可変表示制御例AKC32において変動パターンPB1-8、PB1-9と比べた変動パターンPB3-2の場合などであればよい）。

10

20

このような構成によれば、データ容量の増大を防止するとともに、可変表示が特定結果となる場合の意外性を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができるとともに、より好適に群演出を実行することができる遊技機を提供できるので、遊技機における商品性を高めることができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】パチンコ遊技機の正面図である。

【図2】各種の制御基板などを示す構成図である。

【図3】遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

【図4】遊技制御用タイマ割込み処理を示すフローチャートなどである。

【図5】特別図柄プロセス処理を示すフローチャートなどである。

【図6】特図表示結果の判定例を示す図である。

【図7】演出制御メイン処理を示すフローチャートである。

【図8】演出制御プロセス処理を示すフローチャートなどである。

【図9-1】特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

40

【図9-2】大当り種別決定例を示す図である。

【図9-3】変動パターン設定処理を示すフローチャートである。

【図9-4】ハズレ変動パターンの構成例を示す図である。

【図9-5】大当り変動パターンの構成例を示す図である。

【図9-6】ハズレ時参照テーブルを示す図である。

【図9-7】ハズレ時参照テーブルを示す図である。

【図9-8】大当り時参照テーブルを示す図である。

【図9-9】変動パターン種別選択テーブルを示す図である。

【図9-10】変動パターン種別選択テーブルを示す図である。

【図9-11】変動パターン種別選択テーブルを示す図である。

50

- 【図 9-12】変動パターン種別選択テーブルを示す図である。
- 【図 9-13】変動パターン種別に対応した変動パターンの決定割合を示す図である。
- 【図 9-14】変動パターン種別に対応した変動パターンの決定割合を示す図である。
- 【図 9-15】変動パターン種別に対応した変動パターンの決定割合を示す図である。
- 【図 9-16】変動パターン種別に対応した変動パターンの決定割合を示す図である。
- 【図 9-17】演出図柄指定コマンド設定例を示す図である。
- 【図 9-18】特別図柄変動処理を示すフローチャートである。
- 【図 9-19】特別期間演出設定テーブルを示す図である。
- 【図 9-20】特別図柄停止処理を示すフローチャートである。
- 【図 9-21】大当たり開始時設定例を示す図である。 10
- 【図 9-22】大当たり終了処理を示すフローチャートである。
- 【図 9-23】大当たり終了時設定例を示す図である。
- 【図 9-24】大当たり終了時設定例を示す図である。
- 【図 9-25】大当たり終了時設定例を示す図である。
- 【図 9-26】演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。
- 【図 9-27】演出図柄変動中処理を示すフローチャートである。
- 【図 9-28】演出状態制御例を示す図である。
- 【図 9-29】演出状態制御例を示す図である。
- 【図 9-30】可変表示制御例、大当たり制御例、大当たり時演出制御例を示す図である。
- 【図 9-31】可変表示制御例を示す図である。 20
- 【図 9-32】可変表示制御例を示す図である。
- 【図 9-33】可変表示制御例を示す図である。
- 【図 9-34】演出状態制御例を示す図である。
- 【図 9-35】演出状態制御例を示す図である。
- 【図 9-36】演出実行例を示す図である。
- 【図 10】本実施の形態に係るパチンコ遊技機の正面図である。
- 【図 11】本実施の形態に係るパチンコ遊技機の正面図である。
- 【図 12】本実施の形態に係るパチンコ遊技機の背面斜視図である。
- 【図 13】枠ランプを説明するための図である。
- 【図 14】特図 LED 基板および第 4 図柄ユニットを説明するための図である。 30
- 【図 15】遊技盤と画像表示装置との間を覗いた図である。
- 【図 16】画像表示装置における画面の表示態様を説明するための図である。
- 【図 17】パチンコ遊技機に搭載された各種基板などを説明するための図である。
- 【図 18】当り種別を説明するための図である。
- 【図 19】各乱数を説明するための図である。
- 【図 20】大当たり判定テーブルおよび大当たり種類判定テーブルを説明するための図である。
- 【図 21】演出制御コマンドの一例を説明するための図である。
- 【図 22】メイン側における前変動パターンの一例を説明するための図である。
- 【図 23】メイン側における後変動パターンの一例を説明するための図である。 40
- 【図 24】ハズレ時における後変動パターン判定テーブルを説明するための図である。
- 【図 25】大当たり時における後変動パターン判定テーブルを説明するための図である。
- 【図 26】前変動パターン判定テーブルを説明するための図である。
- 【図 27】メイン側における全変動パターンの一例を説明するための図である。
- 【図 28】サブ側における全変動パターンの一例を説明するための図である。
- 【図 29】各予告演出における抽選テーブルを説明するための図である。
- 【図 30】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 31】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 32】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 33】始動入賞判定処理を示すフローチャートである。 50

- 【図 3 4】 特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 3 5】 変動パターン設定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 3 6】 特別図柄変動処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 3 7】 特別図柄停止処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 3 8】 大当たり開放前処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 3 9】 大当たり開放中処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 0】 大当たり開放後処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 1】 大当たり終了処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 2】 演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 3】 演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。 10
- 【図 4 4】 可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 5】 群予告設定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 6】 群予告実行処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 7】 群予告作業工程の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 8】 本映像制作工程の一例を説明するための図である。
- 【図 4 9】 本映像制作工程の一例を説明するための図である。
- 【図 5 0】 本映像制作工程の一例を説明するための図である。
- 【図 5 1】 本映像制作工程の一例を説明するための図である。
- 【図 5 2】 6 人群予告の全体像を示す図である。
- 【図 5 3】 群予告演出において用いられる補助表示を説明するための図である。 20
- 【図 5 4】 群予告演出において用いられるモーションブラー処理を説明するための図である。
- 【図 5 5】 群予告演出においてキャラクタが重なるときの輪郭の態様を説明するための図である。
- 【図 5 6】 群予告演出の実行中に遊技盤と画像表示装置との間を覗いた図である。
- 【図 5 7】 爆チュー群予告の全体像を示す図である。
- 【図 5 8】 群予告演出における音量の変化および輝度データテーブルを説明するための図である。
- 【図 5 9】 ステージ A における 6 人群予告の発生タイミングを説明するための図である。
- 【図 6 0】 ステージ B における爆チュー群予告の発生タイミングを説明するための図である。 30
- 【図 6 1】 群予告輝度データテーブルにおける親テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 6 2】 群予告輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 6 3】 群予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 6 4】 群予告輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 6 5】 群予告輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。 40
- 【図 6 6】 群予告輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 6 7】 群予告輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 6 8】 リーチライン輝度データテーブルにおける親テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 6 9】 リーチライン輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。
- 【図 7 0】 リーチライン輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明 50

するための図である。

【図 7 1】リーチライン輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 7 2】リーチライン輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 7 3】リーチライン輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 7 4】リーチライン輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 7 5】背景予告輝度データテーブルにおける親テーブルの一例を説明するための図である。

10

【図 7 6】背景予告輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。

【図 7 7】背景予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 7 8】背景予告輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 7 9】背景予告輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 8 0】背景予告輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

20

【図 8 1】背景予告輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 8 2】全点灯時輝度データテーブルの一例を説明するための図である。

【図 8 3】PUSH演出時輝度データテーブルの一例を説明するための図である。

【図 8 4】変形例に係る群予告輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。

【図 8 5】変形例に係る群予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。

【図 8 6】ステージ A における演出態様を説明するための図である。

30

【図 8 7】ステージ A における演出態様を説明するための図である。

【図 8 8】ステージ A における演出態様を説明するための図である。

【図 8 9】ステージ A における演出態様を説明するための図である。

【図 9 0】ステージ A における演出態様を説明するための図である。

【図 9 1】ステージ A における演出態様を説明するための図である。

【図 9 2】ステージ A における演出態様を説明するための図である。

【図 9 3】ステージ A において 6 人群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。

【図 9 4】ステージ A において 6 人群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。

40

【図 9 5】ステージ A において 6 人群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。

【図 9 6】ステージ A において 6 人群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。

【図 9 7】ステージ A において 6 人群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。

【図 9 8】ステージ A において 6 人群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。

【図 9 9】ステージ A において 6 人群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。

50

【図146】ステージBにおける演出態様を説明するための図である。

- 【図 1 4 7】ステージ B における演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 4 8】ステージ B における演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 4 9】ステージ B における演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 0】ステージ B において爆チュー群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 1】ステージ B において爆チュー群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 2】ステージ B において爆チュー群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 3】ステージ B において爆チュー群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。 10
- 【図 1 5 4】ステージ B において爆チュー群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 5】ステージ B において爆チュー群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 6】ステージ B において爆チュー群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 7】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 5 8】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。 20
- 【図 1 5 9】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 0】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 1】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 2】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 3】ボインゴ群予告の詳細を説明するための図である。 30
- 【図 1 6 4】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の比較例の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 5】ステージ A においてボインゴ群予告が実行された場合の比較例の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 6】変形例に係るボインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 7】変形例に係る犬群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 6 8】変形例に係る犬群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。 40
- 【図 1 6 9】6 人群予告と犬群予告の比較を説明するための図である。
- 【図 1 7 0】リーチライン中に群予告演出が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【図 1 7 1】リーチライン中に群予告演出が実行された場合の演出態様を説明するための図である。
- 【発明を実施するための形態】
- 【0 0 0 8】
- (基本説明)
- まず、パチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御について説明する。
- 【0 0 0 9】 50

(パチンコ遊技機 1 の構成等)

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

【0010】

遊技盤 2 の所定位置には、第 1 特別図柄表示装置 4 A と、第 2 特別図柄表示装置 4 B と、が設けられている。図 1 に示す例では、遊技領域の右側方に設けられている。第 1 特別図柄表示装置 4 A と、第 2 特別図柄表示装置 4 B とは、それぞれ、複数種類の特別識別情報としての特別図柄の可変表示を行うことができる。特別図柄は、「特図」ともいう。特別図柄の可変表示は、「特図ゲーム」ともいう。第 1 特別図柄表示装置 4 A と、第 2 特別図柄表示装置 4 B とは、いずれも 7 セグメントの LED などを用いて構成される。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「-」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、LED を全て消灯したパターンが含まれてもよい。

【0011】

特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである。演出図柄や小図柄、普通図柄など、他の図柄についても、「可変表示」は同じく複数種類の図柄を変動可能に表示することである。演出図柄は、飾り図柄あるいは装飾図柄ともいう。可変表示は、変動表示、あるいは単に、変動ともいう。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1 以上の図柄の変形、拡大、縮小などがある。変動には、ある図柄を点滅表示する態様が含まれてもよい。特別図柄や普通図柄の可変表示では、複数種類の特別図柄または普通図柄が更新可能に表示される。演出図柄の可変表示では、複数種類の演出図柄がスクロール表示または更新表示されたり、1 以上の演出図柄が変形、拡大、縮小されたりする。任意の図柄の可変表示において、最後には表示結果として所定の図柄が停止表示される。停止表示は、導出表示、あるいは単に、導出ともいう。可変表示において最終的に停止表示される図柄は、最終停止図柄あるいは確定図柄ともいう。特図ゲームにおける最終停止図柄は、確定特別図柄ともいう。可変表示の表示結果は、特別図柄の表示結果を含み、可変表示結果ともいう。特別図柄の表示結果は、特図表示結果ともいう。可変表示の実行時間は、特別図柄の変動時間である特図変動時間を含み、可変表示時間ともいう。

【0012】

第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄は「第 1 特図」ともいう。第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄は「第 2 特図」ともいう。第 1 特図を用いた特図ゲームは「第 1 特図ゲーム」ともいう。第 2 特図を用いた特図ゲームは「第 2 特図ゲーム」ともいう。特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は 1 種類であってもよい。

【0013】

遊技盤 2 の所定位置には、普通図柄表示器 20 が設けられている。図 1 に示す例では、遊技領域の左側方に設けられている。普通図柄表示器 20 は、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行うことができる。普通図柄は、「普図」ともいう。普通図柄の可変表示は、「普図ゲーム」ともいう。普通図柄表示器 20 は、7 セグメントの LED などを用いて構成される。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「-」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、複数の LED における一部または全部を点灯したパターンや、複数の LED を全て消灯したパターンが、含まれてもよい。普図ゲームにおける最終停止図柄は、確定普通図柄ともいう。普通図柄の表示結果は、普図表示結果ともいう。普図ゲームにおいて普通図柄が可変表示される実行時間は、普図変動時間ともいう。

【0014】

遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には画像表示装置 5 が設けられている。画像表示

装置 5 は、例えば L C D（液晶表示装置）、有機 E L（Electro Luminescence）、プロジェクタおよびスクリーンのうち、いずれかを用いて構成されたものであればよい。その他、任意の画像を形成可能な機構を用いて画像表示装置 5 が構成されてもよい。画像表示装置 5 は、各種の演出画像を表示可能である。また、画像表示装置 5 は、演出画像に限定されず、検査用画像や設定用画像といった、任意の制御関連画像を表示可能である。

【0015】

例えば、画像表示装置 5 の画面上では、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームと同期して、演出図柄の可変表示が行われる。演出図柄は、数字などを示す表示図柄であり、特別図柄や普通図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報となる。図 1 に示す画像表示装置 5 の画面上には、「左」、「中」、「右」の各演出図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R が設けられ、第 1 特図ゲームまたは第 2 特図ゲームに同期して、例えば演出図柄が上下方向のスクロール表示や更新表示されることにより、演出図柄の可変表示が行われる。同期して実行される特図ゲームおよび演出図柄の可変表示は、総称して単に、可変表示ともいう。可変表示の同期は、図柄の変動が開始されるタイミングと、その変動が終了して図柄が最終的に停止表示されるタイミングとが、異なる種類の図柄について共通のタイミングとなるものであればよい。演出図柄の可変表示における最終停止図柄は、確定演出図柄、確定飾り図柄、確定装飾図柄ともいう。演出図柄の可変表示は第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームと同期するので、演出図柄の可変表示時間は、特図変動時間と同じになる。

【0016】

画像表示装置 5 の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示と、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示とを、表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示およびアクティブ表示は、可変表示に対応する可変表示対応表示とも総称される。保留表示を行う表示エリアは、保留表示エリアともいう。アクティブ表示を行う表示エリアは、アクティブ表示エリアともいう。保留されている可変表示の数は、保留記憶数ともいう。第 1 特図ゲームに対応する保留記憶数は、第 1 保留記憶数ともいう。第 2 特図ゲームに対応する保留記憶数は、第 2 保留記憶数ともいう。第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数との合計値は、合計保留記憶数ともいう。図 1 に示す第 1 特別図柄表示装置 4 A および第 2 特別図柄表示装置 4 B の上方には、複数の L E D を含んで構成された第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B とが設けられる。第 1 保留表示器 2 5 A は、L E D の点灯個数によって、第 1 保留記憶数を表示する。第 2 保留表示器 2 5 B は、L E D の点灯個数によって、第 2 保留記憶数を表示する。図 1 に示す普通図柄表示器 2 0 の上方には、複数の L E D を含んで構成された普図保留表示器 2 5 C が設けられている。普図保留表示器 2 5 C は、L E D の点灯個数によって、普図保留記憶数を表示する。普図保留記憶数は、普図ゲームに対応する保留記憶数である。

【0017】

画像表示装置 5 の下方には、入賞球装置 6 A と、可変入賞球装置 6 B と、が設けられている。入賞球装置 6 A は、例えば所定の玉受部材によって、常に遊技球が進入可能な一定の開放状態に保たれる第 1 始動入賞口を形成する。第 1 始動入賞口に遊技球が進入したときに、例えば 3 個といった、所定個の賞球が払い出され、第 1 特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立し得る。可変入賞球装置 6 B は、普通電動役物として、図 2 に示す普通電動役物ソレノイド 8 1 により閉鎖状態と開放状態とに変化可能な第 2 始動入賞口を形成する。可変入賞球装置 6 B は、例えば一对の可動翼片を有する電動チューリップ型役物を備え、普通電動役物ソレノイド 8 1 がオフ状態であるときに可動翼片が垂直位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入しない閉鎖状態になる。可変入賞球装置 6 B が閉鎖状態になることは、第 2 始動入賞口が閉鎖状態になるともいう。可変入賞球装置 6 B は、普通電動役物ソレノイド 8 1 がオン状態であるときに可動翼片が傾動位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入できる開放状態になる。可変入賞球装置 6 B が開放状態になることは、第 2 始動入賞口が開放状態になるともいう。第 2 始動入賞口に遊技球が進入したときに、例えば 3 個といった、所定個の賞球が払い出され、第 2 特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立し得る。なお、可変入賞球装置 6 B は、閉鎖状

態と開放状態とに変化可能なものであればよく、電動チューリップ型役物を備えるものに限定されない。

【0018】

入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口に遊技球が進入することは、第1始動入賞ともいう。可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に遊技球が進入することは、第2始動入賞ともいう。第1始動入賞口に進入した遊技球は、図2に示す第1始動口スイッチ21Aによって検出される。第2始動入賞口に進入した遊技球は、図2に示す第2始動口スイッチ21Bによって検出される。第1始動入賞の発生にもとづいて、第1保留記憶数の加算更新が可能になり、第1特図ゲームとして、第1特別図柄表示装置4Aによる特別図柄の可変表示が実行可能になる。第2始動入賞の発生にもとづいて、第2保留記憶数の加算更新が可能になり、第2特図ゲームとして、第2特別図柄表示装置4Bによる特別図柄の可変表示が実行可能になる。

10

【0019】

遊技盤2の所定位置には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口10が設けられる。図1に示す例では、遊技領域の左下方2箇所に一般入賞口10が設けられている。一般入賞口10のいずれかに遊技球が進入したときに、例えば10個といった、所定個の賞球が払い出される。

【0020】

遊技盤2が形成する遊技領域においては、遊技球が流下する流下経路として、第1経路と、第2経路と、が設けられている。第1経路は、正面から見て画像表示装置5よりも左側の領域に主に設けられている。第2経路は、正面から見て画像表示装置5よりも右側の領域に主に設けられている。画像表示装置5の左側領域は、左側遊技領域あるいは左遊技領域ともいう。画像表示装置5の右側領域は、右側遊技領域あるいは右遊技領域ともいう。左側遊技領域と右側遊技領域とは、例えば遊技領域における画像表示装置5の端面や、遊技釘の配列などにより分けられていればよい。第1経路に遊技球を流下させるために左側遊技領域に向けて遊技球を発射させることは、左打ちともいう。第2経路に遊技球を流下させるために右側遊技領域に向けて遊技球を発射させることは、右打ちともいう。第1経路は、左打ち経路ともいう。第2経路は、右打ち経路ともいう。第1経路と第2経路とは、別の経路により構成されてもよく、一部が共通化された経路であってもよい。

20

【0021】

打球発射装置が備える打球操作ハンドルの操作に応じて、遊技球が打球発射装置から発射されて遊技領域に打ち込まれる。遊技領域に打ち込まれた遊技球は、左側遊技領域へと誘導されて第1経路を流下する場合に、例えば遊技釘の配列に沿って誘導されることにより、右側遊技領域における第2経路へは誘導不可能または誘導困難となる。遊技領域に打ち込まれた遊技球は、右側遊技領域へと誘導されて第2経路を流下する場合に、例えば遊技釘の配列に沿って誘導されることにより、左側遊技領域における第1経路へは誘導不可能または誘導困難となる。

30

【0022】

入賞球装置6Aは、左側遊技領域における第1経路に設けられ、第1経路を流下する遊技球が進入可能となる。可変入賞球装置6Bは、右側遊技領域における第2経路に設けられ、第2経路を流下する遊技球が進入可能となる。なお、可変入賞球装置6Bは、左側遊技領域における第1経路を流下する遊技球が進入可能となってもよい。可変入賞球装置6Bは、左側遊技領域における第1経路を流下する遊技球よりも、右側遊技領域における第2経路を流下する遊技球の方が、進入しやすくなるように配置されてもよい。

40

【0023】

右側遊技領域における第2経路には、通過ゲート41と、特別可変入賞球装置50と、が設けられている。通過ゲート41は、遊技球が通過可能な通過領域を形成する。通過ゲート41を通過した遊技球は、図2に示すゲートスイッチ21によって検出される。遊技球が通過ゲート41を通過したことにもとづいて、普通保留記憶数の加算更新が可能になり、普図ゲームとして、普通図柄表示器20による普通図柄の可変表示が実行可能になる

50

。

【0024】

特別可変入賞球装置50は、特別電動役物として、大入賞口ソレノイド82により閉鎖状態と開放状態とに変化可能な大入賞口を形成する。特別可変入賞球装置50の上部は、遊技球が通過可能な程度に前後方向の通路幅を有する誘導通路が形成されている。この誘導経路は、右側から左側へと向けて下降するように傾斜し、延在した通路の両側となる手前側および奥側に壁部が設けられる。誘導通路の中央部には、大入賞口となる役物進入口が形成されている。特別可変入賞球装置50において、大入賞口を開閉可能な位置には、大入賞口開閉部材として、前後方向に移動可能な可動部材52が設けられている。特別可変入賞球装置50において、誘導通路の大入賞口が形成されていない部分は、固定された通路を形成する固定部材53が設けられている。

10

【0025】

可動部材52は、大入賞口ソレノイド82により駆動され、大入賞口となる役物進入口を開閉するための進退動作が可能である。特別可変入賞球装置50において、大入賞口から内部に進入した遊技球は、カウントスイッチ23によって検出される。特別可変入賞球装置50の内部には、遊技球が通過可能な入賞領域として、特定領域となるV入賞領域51が設けられている。また、特別可変入賞球装置50の内部には、V入賞領域51とは異なる通常領域が設けられている。V入賞領域51の上部には、V入賞口開閉部材として、V入賞領域51を開放状態と閉鎖状態とに切替え可能な板状の振分部材が設けられている。振分部材は、特定領域ソレノイド83により駆動され、V入賞領域51を開閉するための進退動作が可能である。V入賞領域51は、開放状態であるときに遊技球が通過可能であり、閉鎖状態であるときに遊技球が通過不可能である。V入賞領域51を通過した遊技球は、特定領域スイッチ24によって検出される。V入賞領域51を通過しなかった遊技球は、通常領域を通過する。V入賞領域51を通過した遊技球と、V入賞領域51を通過せずに通常領域を通過した遊技球とは、いずれも排出口スイッチ26によって検出された後に、特別可変入賞球装置50の外部へと排出される。

20

【0026】

遊技盤2の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車および多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。遊技機用枠3の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ8L、8Rが設けられており、遊技領域周辺部には、点灯演出用の遊技効果ランプ9が設けられている。遊技効果ランプ9は、LEDを含んで構成されている。遊技盤2の所定位置には、演出に応じて動作する可動体32が設けられている。

30

【0027】

遊技機用枠3の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドルが設けられている。打球操作ハンドルは、操作ノブともいう。遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持する打球供給皿が設けられている。打球供給皿は、上皿ともいう。上皿の下方には、上皿満タン時に払い出された賞球が流下して貯留される賞球貯留皿が設けられている。賞球貯留皿は、下皿ともいう。

40

【0028】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、スティックコントローラ31Aと、プッシュボタン31Bと、が設けられている。スティックコントローラ31Aは、遊技者が把持して傾倒操作を可能であり、遊技者が押引操作を可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ31Aに対する操作は、図2に示すコントローラセンサユニット35Aによって検出される。プッシュボタン31Bは、遊技者が押下操作を可能である。プッシュボタン31Bに対する操作は、図2に示すプッシュセンサ35Bによって検出される。パチンコ遊技機1では、遊技者の操作などの動作を検出する検出手段と

50

して、スティックコントローラ 3 1 A や プッシュボタン 3 1 B が用いられるが、これら以外の検出手段が用いられてもよい。

【 0 0 2 9 】

(遊技の進行の概略)

パチンコ遊技機 1 が備える打球操作ハンドルへの遊技者による回転操作により、遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技球が通過ゲート 4 1 を通過すると、普通図柄表示器 2 0 による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間などである場合に、遊技球が通過ゲート 4 1 を通過しても当該通過にもとづく普図ゲームを直ちに実行できないので、当該通過にもとづく普図ゲームは、例えば「4」といった所定の上限数まで保留される。普図ゲームでは、普図当り図柄といった、特定の普通図柄が確定普通図柄として停止表示された場合に、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。これに対し、確定普通図柄として、普図ハズレ図柄といった、普図当り図柄以外の普通図柄が停止表示された場合に、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」である場合に、可変入賞球装置 6 B を所定期間において開放状態とする開放制御が行われる。このときに、第 2 始動入賞口が開放状態になる。

10

【 0 0 3 0 】

入賞球装置 6 A に形成された第 1 始動入賞口を遊技球が通過して進入した場合に、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図ゲームが開始可能になる。可変入賞球装置 6 B に形成された第 2 始動入賞口を遊技球が通過して進入した場合に、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図ゲームが開始可能になる。なお、特図ゲームを実行中の期間や、大当り遊技状態または小当り遊技状態に制御されている期間などである場合に、遊技球が始動入賞口に進入して始動入賞が発生しても当該始動入賞にもとづく特図ゲームを直ちに実行できないので、当該始動入賞にもとづく特図ゲームは、例えば「4」といった所定の上限数まで保留される。特図ゲームでは、大当り図柄といった、特定の特別図柄が確定特別図柄として停止表示された場合に、特別図柄の表示結果が「大当り」となる。これに対し、確定特別図柄として、小当り図柄といった、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄が停止表示された場合に、特別図柄の表示結果が「小当り」となる。また、確定特別図柄として、ハズレ図柄といった、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄が停止表示された場合に、特別図柄の表示結果が「ハズレ」となる。さらに、確定特別図柄として、時短図柄といった、大当り図柄、小当り図柄、ハズレ図柄とは異なる特別図柄が停止表示された場合に、特別図柄の表示結果が「時短」となることがあってもよい。特別図柄は、時短図柄を含まないものであってもよい。すなわち、特別図柄の表示結果は、「時短」を含まないものであってもよい。

20

30

【 0 0 3 1 】

特図ゲームにおいて、特別図柄の表示結果が「大当り」になった後には、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。大当り遊技状態では、特別可変入賞球装置 5 0 に形成された大入賞口が所定の態様で開放状態となることができる。このときの開放状態は、例えば 2 9 秒間や 1 . 8 秒間など、所定期間の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数に達するタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。大入賞口を開放状態に制御可能な所定期間は、1 ラウンドにおいて大入賞口を開放することができる上限期間であり、開放上限期間ともいう。大当り遊技状態において大入賞口が開放状態となる 1 のサイクルは、ラウンドあるいはラウンド遊技という。大当り遊技状態では、このようなラウンドを、例えば 1 5 回や 2 回など、所定の上限回数に達するまで繰り返し実行可能となっている。大当り遊技状態において、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。したがって、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な有利状態となる。大当り遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程、遊技者にとって有利になる。

40

【 0 0 3 2 】

特別図柄の表示結果が「大当り」になる場合は、複数の大当り種別を含んでいる。例えば、ラウンド数や開放上限期間といった大入賞口の開放態様、通常状態や時短状態や確変

50

状態といった大当り遊技状態の終了後における遊技状態を、複数種類の異なる設定とし、各設定に対応して大当り種別が指定される。複数の大当り種別は、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない大当り種別、または、ほとんど賞球を得ることができない大当り種別のうち、一部または全部を含んでいてもよいし、獲得可能な賞球に関しては同程度の大当り種別を含んでいてもよい。特別図柄の表示結果が「大当り」であることにもとづいて大当り遊技状態に制御されることは、図柄大当り、特別図柄による大当り、可変表示大当り、あるいは直撃大当りともいう。

【0033】

特図ゲームにおいて、特別図柄の表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。小当り遊技状態では、特別可変入賞球装置50に形成された大入賞口が所定の開放態様で開放状態となることができる。例えば、小当り遊技状態では、一部の大当り種別のときの大当り遊技状態と同様の開放態様で大入賞口が開放状態となってもよい。大入賞口は、開放回数や開放期間が共通することにより、同様の開放態様にできればよい。あるいは、小当り遊技状態において、大当り遊技状態とは異なる開放態様で大入賞口が開放状態となってもよい。大当り種別と同様に、特別図柄の表示結果が「小当り」になる場合にも、複数の小当り種別が含まれてもよい。大当り種別や小当り種別は、当り種別とも総称される。小当り遊技状態において大入賞口を開閉させる動作は、始動動作ともいう。小当り遊技状態であるときに、特別可変入賞球装置50の大入賞口となる役物進入口が開放され、遊技球がV入賞領域51を通過して特定領域スイッチ24によって検出されると、大当りの発生条件が成立し、大当り遊技状態に制御可能となる。小当り遊技状態において遊技球がV入賞領域51を通過することによるV入賞の発生にもとづいて大当り遊技状態に制御されることは、小当り経由大当りともいう。

【0034】

大当り遊技状態が終了した後に、大当り種別と対応して、遊技状態を時短状態や確変状態に制御可能である。また、特図ゲームにおいて、特別図柄の表示結果が「時短」になった後には、大当り遊技状態に制御されずに、遊技状態が時短状態に制御される。時短状態は、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームが通常状態よりも実行されやすい遊技状態である。通常状態よりも第2特図ゲームが実行されやすい遊技状態は、通常状態よりも第2始動入賞口を遊技球が通過して進入しやすい遊技状態である。第2始動入賞口を遊技球が通過しやすいか否かの制御は、ベース制御ともいう。通常状態におけるベース制御は、通常ベース制御あるいは低ベース制御ともいう。時短状態におけるベース制御は、高ベース制御を含んでいる。高ベース制御に加えて、時短状態が中ベース制御を含んでいてもよい。中ベース制御は、低ベース制御よりも第2始動入賞口を遊技球が通過しやすい一方で、高ベース制御よりも第2始動入賞口を遊技球が通過しにくいベース制御である。中ベース制御が行われる遊技状態は、中ベース状態ともいう。高ベース制御が行われる遊技状態は、高ベース状態ともいう。高ベース制御は、高開放制御ともいう。

【0035】

通常状態である場合と、中ベース状態である場合と、高ベース状態である場合とで、いずれも特別図柄の表示結果として時短図柄の停止表示が可能である。ただし、中ベース状態である場合と、高ベース状態である場合とでは、特別図柄の表示結果として時短図柄が停止表示されたとしても、その時短図柄にもとづくベース制御は行われず、中ベース状態や高ベース状態に移行する新たな制御は開始されない。時短状態では、平均的な可変表示時間を通常状態よりも短縮させる時短制御が可能である。これにより、時短状態は、時間短縮状態ともいう。

【0036】

時短状態は、特に第2特別図柄といった、特別図柄の変動効率が向上する状態であるので、大当り遊技状態とは異なる遊技者にとって有利な特別状態に含まれる。遊技状態が確変状態であるときに、時短制御に加えて、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が可能である。これにより、確変状態は、確率変動状態ともいう。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態で

あるので、大当り遊技状態とは異なる遊技者にとって有利な特別状態に含まれる。時短状態や確変状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたこと、次回の大当り遊技状態に制御されたことなど、予め定められた終了条件のいずれか1つが先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切りともいう。回数切りの時短状態は、回数切り時短ともいう。回数切りの確変状態は、回数切り確変ともいう。

【0037】

通常状態となる遊技状態は、遊技者にとって有利な大当り遊技状態などの有利状態、小当り遊技状態などの所定状態、時短状態や確変状態などの特別状態には含まれない遊技状態である。通常状態は、普図ゲームにおける表示結果が「普図当り」となる確率、特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などが、パチンコ遊技機1の初期設定状態と同一に制御される遊技状態である。パチンコ遊技機1の初期設定状態は、例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復旧処理を実行せずに初期設定処理を実行した後の制御状態である。

【0038】

確変制御が実行されている状態を高確状態、確変制御が実行されていない状態を低確状態ともいう。時短制御が実行されている状態を高ベース状態、時短制御が実行されていない状態を低ベース状態ともいう。これらを組み合わせて、時短状態は低確高ベース状態、確変状態は高確高ベース状態、通常状態は低確低ベース状態などともいわれる。高確状態かつ低ベース状態は高確低ベース状態ともいう。なお、パチンコ遊技機1は、遊技状態として確変状態を含まないものであってもよい。

【0039】

小当り遊技状態が終了した後に、V入賞の発生にもとづいて大当り遊技状態に制御される場合と、V入賞が発生せずに小当り遊技状態となる前の遊技状態が変更されない場合と、がある。ただし、特図ゲームの表示結果が「小当り」となり、回数切りにおける所定回数の特図ゲームが実行された場合に、時短状態や確変状態の制御が終了して、通常状態となることがある。なお、パチンコ遊技機1は、遊技状態として小当り遊技状態を含まないものであってもよい。すなわち、特別図柄の表示結果は、「小当り」を含まないものであってもよい。

【0040】

可変表示の実行回数にもとづく時短条件が成立した場合に、遊技状態を時短状態に制御可能であってもよい。このような時短状態は、救済時短ともいう。時短条件は、パチンコ遊技機1への電源投入後や、大当り発生後、特図ゲームの表示結果が「時短」となった後に、特定回数の可変表示を実行しても新たな大当り遊技状態や時短状態への制御が行われなかった場合に、成立可能な条件であればよい。

【0041】

(演出の進行など)

パチンコ遊技機1では、遊技の進行にあわせて種々の演出を実行可能である。この演出は、遊技の進行状況を報知する演出と、遊技を盛り上げる演出と、を含む。これらの演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示すること、スピーカ8L、8Rから効果音を出力すること、遊技効果ランプ9を点灯すること、可動体32を動作させること、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bを振動させること、あるいは、これらの一部または全部の組合せを含み、任意の演出装置を用いて実行可能なものであればよい。

【0042】

遊技の進行にあわせて実行可能な演出は、演出図柄の可変表示を含む。第1特図ゲームまたは第2特図ゲームが開始されることに対応して、画像表示装置5の画面上に設けられた「左」、「中」、「右」の演出図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、演出図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果となる確定特別図柄が停止表示されるときに、演出図柄の可変表示において表示結果となる確定演出図柄が停止表示される。確定演出図柄は、「左」、「中」、「右」の演出図柄表示エリア5

10

20

30

40

50

L、5C、5Rに対応した3つの演出図柄の組合せで構成される。演出図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間に、演出図柄の可変表示における表示態様がリーチ態様となることがある。リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止した演出図柄が大当たり組合せの一部を構成しているときに、未だ停止していない演出図柄について変動が継続している態様などである。演出図柄の可変表示における表示態様がリーチ態様となることは、リーチが成立するともいう。

【0043】

演出図柄の可変表示がリーチ態様となったことに対応して、リーチ演出を実行可能である。パチンコ遊技機1は、演出態様が異なる場合に、可変表示の表示結果が「大当たり」となる割合が異なるように、複数種類のリーチ演出を実行可能である。演出態様に対応する「大当たり」の割合は、大当たり信頼度、大当たり期待度ともいう。リーチ演出は、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当たり信頼度が高いスーパーリーチと、を含む。その他、リーチ演出の実行時間に対応して、ショートリーチと、ショートリーチよりも実行時間が長いロングリーチと、を含むものとしてもよい。

【0044】

特図ゲームの表示結果が「大当たり」となるときに、画像表示装置5の画面上において、予め定められた大当たり組合せとなる確定演出図柄が、演出図柄の表示結果として停止表示される。一例として、「左」、「中」、「右」の演出図柄表示エリア5L、5C、5Rに、例えば「7」の数字を示す演出図柄といった、同一の演出図柄が揃って所定の有効ライン上に停止表示される。大当たり遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当たり」である場合に、例えば「7」の数字を示す演出図柄など、奇数の演出図柄が揃って停止表示されてもよい。大当たり遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当たり」である場合に、例えば「6」の数字を示す演出図柄など、偶数の演出図柄が揃って停止表示されてもよい。「非確変大当たり」は、「通常大当たり」ともいう。この場合に、奇数の演出図柄は、確変図柄ともいう。偶数の演出図柄は、非確変図柄あるいは通常図柄ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当たり」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

【0045】

特図ゲームの表示結果が「小当たり」となるときに、画像表示装置5の画面上において、予め定められた小当たり組合せとなる確定演出図柄が、演出図柄の表示結果として停止表示される。一例として、「左」、「中」、「右」の演出図柄表示エリア5L、5C、5Rに、例えば「7」以外の数字を示す演出図柄といった、同一の演出図柄が揃って所定の有効ライン上に停止表示されてもよい。特図ゲームの表示結果が「大当たり」になるときと「小当たり」になるときとで、共通の確定演出図柄が停止表示されてもよい。

【0046】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となるときに、演出図柄の可変表示においてリーチ態様とならずに、表示結果が停止表示される場合がある。この場合に、演出図柄の表示結果として、非リーチ組合せの確定演出図柄が停止表示される。リーチ態様とならずに非リーチ組合せの確定演出図柄が停止表示される表示結果は、非リーチハズレともいう。特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となるときに、演出図柄の可変表示においてリーチ態様となり、リーチ演出が実行された後に表示結果が停止表示される場合がある。この場合に、演出図柄の表示結果として、大当たり組合せや小当たり組合せではないリーチ組合せの確定演出図柄が停止表示される。リーチ態様となった後にリーチ組合せの確定演出図柄が停止表示される表示結果は、リーチハズレともいう。

【0047】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出は、保留表示やアクティブ表示などの可変表示対応表示を含む。その他に、例えば、大当たり信頼度を予告する予告演出などを、演出図柄の可変表示中に実行可能である。予告演出は、実行中の可変表示に対応した大当たり信頼度を予告する当該変動予告演出と、実行が保留されている実行前の可変表示に対応した大当たり信頼度を予告する先読み予告演出と、を含んでもよい。先読み予告演出は、例えば保留表示

10

20

30

40

50

やアクティブ表示などの可変表示対応表示の表示態様を、通常とは異なる態様に变化させる変化演出を実行可能であってもよい。

【0048】

画像表示装置5の画面上において、演出図柄の可変表示中に演出図柄を一旦仮停止させた後に、可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行可能であってもよい。擬似連演出は、演出図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させる再変動回数が多い場合の方が、再変動回数が少ない場合よりも大当たり信頼度が高くなるように設定されてもよい。演出図柄の可変表示において、リーチ態様となるより前に擬似連演出が実行される場合と、リーチ態様となった後に擬似連演出が実行される場合と、が含まれてもよい。その他、演出図柄の可変表示において、

10

【0049】

大当たり遊技状態の制御中に、大当たり遊技状態を報知する大当たり中演出を実行可能である。大当たり中演出は、ラウンド数を報知する演出と、大当たり遊技状態の有利度が向上することを示唆または報知する昇格演出と、を含んでいてもよい。小当たり遊技状態の制御中に、小当たり遊技状態を報知する小当たり中演出を実行可能である。大当たり遊技状態の制御中と、小当たり遊技状態の制御中とで、共通の演出を実行することで、現在の遊技状態が大当たり遊技状態であるか小当たり遊技状態であるかを、遊技者が認識不可能または認識困難となるようにしてもよい。

【0050】

特図ゲームなどの実行がなく、遊技が進行していない非遊技状態では、画像表示装置5の画面上にデモンストレーション用の演出画像を表示可能である。デモンストレーション用の演出画像は、デモ画像ともいう。デモ画像の表示は、デモ表示ともいう。デモ表示による演出は、客待ちデモ演出ともいう。

20

【0051】

(基板構成)

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14、中継基板15、電源基板17などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板など、各種の基板が配置されている。

30

【0052】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御可能な機能を有する。遊技の進行は、保留の管理を伴う特図ゲームの実行、保留の管理を伴う普図ゲームの実行、大当たり遊技状態、小当たり遊技状態、時短状態、確変状態など、各種遊技の実行や遊技状態の移行を含む。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100と、スイッチ回路110と、ソレノイド回路111と、を備える。

【0053】

主基板11が備える遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM(Read Only Memory)101と、RAM(Random Access Memory)102と、CPU(Central Processing Unit)103と、乱数回路104と、I/O(Input/Output port)105と、を含んで構成可能である。ROM101、RAM102、乱数回路104の一部または全部は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に対して外付可能な構成であってもよいし、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵された構成であってもよい。スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチからの検出信号を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。遊技球検出用の各種スイッチは、例えばゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22Aや第2始動口スイッチ22Bといった始動口スイッチ、カウントスイッチ23、特定領域スイッチ24、排出口スイッチ26を含む。検出信号は、遊技球が通過または進入してスイッチがオンになったことなどを示す。検出信号の伝送により、遊技球の通過または進入が検出されたことになる。ソレノイド回路111は、遊技制御用マイクロコンピ

40

50

ュータ１００からのソレノイド駆動信号を、普通電動役物ソレノイド８１と、大入賞口ソレノイド８２と、特定領域ソレノイド８３と、に供給可能である。ソレノイド駆動信号は、各ソレノイドをオンする信号などであればよい。

【００５４】

遊技制御用マイクロコンピュータ１００において、ＲＯＭ１０１は、遊技制御に用いられるコンピュータプログラムやデータを記憶する不揮発性記憶装置である。ＲＯＭ１０１が記憶するデータは、変動パターン、演出制御コマンド、その他の各種設定や判定、決定に用いられるテーブルを構成するテーブルデータなどを含む。ＲＡＭ１０２は、遊技制御に用いられるワークエリアやデータを退避するためのスタックを提供する一時記憶装置である。ＲＡＭ１０２は、パチンコ遊技機１に対する電力供給が停止した場合でも、所定期間内であれば記憶領域の一部または全部における記憶内容を復旧可能となるように保存するバックアップＲＡＭとなっていればよい。ＲＡＭ１０２は、ＲＷＭ（Read/Write Memory）ともいう。ＲＡＭ１０２のワークエリアは、カウンタ、タイマ、バッファ、その他の各種コードや数値の格納領域など、遊技制御に用いられる各種データを記憶可能な記憶領域を含んでいる。ＣＰＵ１０３は、ＲＯＭ１０１に記憶されたプログラムに対応する処理を実行することにより、パチンコ遊技機１における遊技の進行を制御可能である。乱数回路１０４は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技の進行を制御するときに使用される乱数は、遊技用乱数ともいう。遊技用乱数の一部または全部は、専用回路を用いてハードウェアにより更新されるものであってもよいし、ＣＰＵ１０３が実行するコンピュータプログラムなどのソフトウェアにより更新されるものであってもよい。Ｉ／Ｏ１０５は、各種信号が入力される入力ポートと、各種信号が出力される出力ポートと、を含んで構成される。Ｉ／Ｏ１０５の入力ポートに入力される各種信号は、スイッチ回路１１０を介して伝送される各種スイッチからの検出信号を含んでいればよい。Ｉ／Ｏ１０５の出力ポートから出力される各種信号は、第１特別図柄表示装置４Ａ、第２特別図柄表示装置４Ｂ、普通図柄表示器２０、第１保留表示器２５Ａ、第２保留表示器２５Ｂ、普図保留表示器２５Ｃなどを制御する信号と、普通電動役物ソレノイド８１、大入賞口ソレノイド８２、特定領域ソレノイド８３などを駆動するソレノイド駆動信号と、を含んでいればよい。

【００５５】

主基板１１は、遊技制御用マイクロコンピュータ１００により、遊技の進行を制御する動作の一部として、遊技の進行に応じた演出制御コマンドを、演出制御基板１２に対して送信可能に出力する。演出制御コマンドは、遊技の進行状況などを指定または通知するコマンドである。主基板１１から出力された演出制御コマンドは、中継基板１５により中継され、演出制御基板１２に供給される。演出制御コマンドは、例えば特図ゲームの表示結果、当り種別、変動パターンなど、主基板１１における各種の決定結果を指定するコマンドと、例えば可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態など、遊技の状況を指定するコマンドと、エラーの発生などを指定するコマンドと、を含むものであればよい。

【００５６】

演出制御基板１２は、主基板１１とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドにもとづいて演出を制御可能な機能を有する。演出制御基板１２において制御可能な演出は、例えば可動体３２の駆動など、遊技の進行に応じた種々の演出であり、その他に、エラー報知、電断復旧の報知など、各種報知を含む。演出制御基板１２は、演出制御用ＣＰＵ１２０と、ＲＯＭ１２１と、ＲＡＭ１２２と、表示制御部１２３と、乱数回路１２４と、Ｉ／Ｏ１２５と、を備える。

【００５７】

演出制御用ＣＰＵ１２０は、ＲＯＭ１２１に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部１２３とともに演出の実行を制御するための処理を行う。この処理は、演出制御基板１２の諸機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定などを含む。演出制御用ＣＰＵ１２０は、各種テーブルのデータなど、ＲＯＭ１２１が記憶する各種デ

ータを用いるとともに、RAM 122をメインメモリとして使用する。演出制御用CPU 120は、コントローラセンサユニット35Aやプッシュセンサ35Bからの検出信号にもとづいて、演出の実行を表示制御部123に指示することもある。ここでの検出信号は、遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号であればよい。

【0058】

表示制御部123は、VDP (Video Display Processor)、CGROM (Character Generator ROM)、VRAM (Video RAM) などを含み、演出制御用CPU 120からの演出の実行指示にもとづいて、主に表示に関する演出を実行可能に制御する。表示制御部123は、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置5に供給することにより、演出画像を画像表示装置5の画面上に表示させる。表示制御部123は、さらに、音指定信号を音声制御基板13に供給したり、ランプ信号をランプ制御基板14に供給したりする。音指定信号は、スピーカ8L、8Rにて出力される音声を指定する。ランプ信号は、遊技効果ランプ9の点灯態様や消灯態様を指定する。音指定信号やランプ信号の供給により、演出画像の表示に同期して、スピーカ8L、8Rの音声出力や、遊技効果ランプ9の点灯または消灯が可能になる。表示制御部123は、可動体32を動作させる信号を、可動体32のモータやソレノイドに、または可動体32を駆動するドライバ回路に、供給可能であってもよい。演出制御基板12とは別に、可動体32を駆動するためのドライバ基板が設けられてもよい。

【0059】

乱数回路124は、各種演出の実行を制御するときに使用される各種の乱数値を示す数値データを更新可能にカウントする。演出の実行を制御するときに使用される乱数は、演出用乱数ともいう。演出用乱数は、演出制御用CPU 120が実行するコンピュータプログラムなどのソフトウェアにより更新されるものであってもよい。I/O 125は、例えば主基板11から伝送された演出制御コマンドなどを取り込むための入力ポートと、各種信号を伝送するための出力ポートと、を含んで構成される。I/O 125の入力ポートは、コントローラセンサユニット35Aから供給される検出信号の入力端子と、プッシュセンサ35Bから供給される検出信号の入力端子と、を含んでいけばよい。I/O 125の出力ポートは、画像表示装置5に供給される映像信号の出力端子と、音声制御基板13に供給される音指定信号の出力端子と、ランプ制御基板14に供給されるランプ信号の出力端子と、を含んでいけばよい。

【0060】

音声制御基板13は、スピーカ8L、8Rを駆動する各種回路を搭載しており、表示制御部123からの音指定信号にもとづいてスピーカ8L、8Rを駆動し、音指定信号が指定する音声をスピーカ8L、8Rから出力させる。ランプ制御基板14は、遊技効果ランプ9を駆動する各種回路を搭載しており、表示制御部123からのランプ信号にもとづいて遊技効果ランプ9を駆動し、ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ9を点灯または消灯する。このようにして、スピーカ8L、8Rからの音声出力と、遊技効果ランプ9の点灯や消灯とは、表示制御部123からの信号にもとづいて制御することができる。なお、音指定信号やランプ信号の供給など、音声出力およびランプの点灯や消灯の制御と、可動体32を動作させる信号の供給など、可動体32の制御とは、演出制御用CPU 120が一部または全部を実行するようにしてもよい。演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14といった、主基板11以外の基板は、サブ基板ともいう。図2に示す構成例のように、サブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、図2に示す構成例とは異なり、1のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0061】

電源基板17は、商用電源などの外部電源におけるAC 100Vといった交流電源からの電力を、主基板11や演出制御基板12などの各種制御基板を含めた電気部品に供給可能である。電源基板17は、例えば交流(AC)を直流(DC)に変換するための整流回路、所定の直流電圧を特定の直流電圧(例えば直流12Vや直流5Vなど)に変換するた

めの電源回路などを備えている。パチンコ遊技機 1 は、電源スイッチ 9 1 の操作により、電源投入の開始と終了とを切替可能である。主基板 1 1 のスイッチ回路 1 1 0 には、電源基板 1 7 からのリセット信号、電源断信号、クリア信号が取り込まれて遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に伝送される。リセット信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 などの制御回路を動作停止状態とするための動作停止信号であり、電源監視回路、ウォッチドッグタイマ内蔵 IC、システムリセット IC のいずれかを用いて出力可能であればよい。電源断信号は、パチンコ遊技機 1 において用いられる所定電源電圧が所定値を超えるとオフ状態となり、所定電源電圧が所定値以下になった期間が電断基準時間以上まで継続したときにオン状態となる。クリア信号は、例えば電源基板 1 7 に設けられたクリアスイッチ 9 2 に対する押下操作などに応じてオン状態となる。

10

【0062】

(動作)

次に、パチンコ遊技機 1 の動作 (作用) を説明する。

【0063】

(主基板 1 1 の主要な動作)

まず、主基板 1 1 における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機 1 に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が起動し、CPU 1 0 3 によって遊技制御メイン処理が実行される。

【0064】

図 3 は、主基板 1 1 において CPU 1 0 3 が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。図 3 に示す遊技制御メイン処理を開始すると、CPU 1 0 3 は、まず、割込み禁止に設定する (ステップ S 1)。これにより、以後は割込み許可となるまで、他の処理が実行されない。続いて、内蔵デバイスレジスタの設定を行う (ステップ S 2)。内蔵デバイスレジスタの設定では、例えば内蔵デバイスレジスタ設定テーブルを用いて、指定された内蔵デバイスアドレスに内蔵デバイスレジスタ設定値を格納する。内蔵デバイスレジスタは、例えばタイマ回路であるタイマカウンタとしての P T C (Programmable Timer Counter)、乱数回路 1 0 4、I/O 1 0 5 の入力ポート、シリアル通信回路、RWM アクセス制御回路など、各種回路や電子部品に対応して設けられたものであればよい。また、スタックポインタの初期設定や割込みベクタの設定などが行われてもよい。

20

30

【0065】

続いて、RWM チェック処理 (ステップ S 3) を実行し、予め定められた復旧条件が成立したか否かを判定する (ステップ S 4)。復旧条件は、クリアスイッチ 9 2 の操作に対応したクリア信号がオフ状態であり、バックアップデータがあり、バックアップ RAM としての RAM 1 0 2 における記憶内容が正常である場合に、成立可能である。パチンコ遊技機 1 の電源投入時に、例えば電源基板 1 7 に設けられたクリアスイッチ 9 2 が押下操作されていれば、オン状態のクリア信号が遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に入力される。このようなオン状態のクリア信号が入力されている場合に、ステップ S 4 にて復旧条件が成立していないと判定すればよい。バックアップデータは、遊技制御用のバックアップ RAM となる RAM 1 0 2 に保存可能であればよい。ステップ S 3 の RWM チェック処理は、チェックサム算出処理を含み、処理結果として得られたチェックサムデータを、チェックサムバッファの記憶データと比較して、両者のデータが合致した場合に、RAM 1 0 2 における記憶内容が正常であると判断する。ステップ S 4 では、ステップ S 3 の RWM チェック処理によりバックアップデータの有無やデータ誤りの有無などを確認あるいは検査した結果にもとづいて、復旧条件が成立し得るか否かを判定すればよい。

40

【0066】

復旧条件が成立した場合に (ステップ S 4 ; Yes)、復旧用の設定が行われる。復旧用の設定は、バックアップ時コマンド送信テーブルの指定 (ステップ S 5) と、バックアップ時設定テーブルの指定 (ステップ S 6) と、を含んでいる。バックアップ時コマンド送信テーブルは、バックアップデータを用いた復旧が行われたことを指定する停電復旧指

50

定コマンドを、演出制御基板 12 に対して送信するためのテーブルデータを含んでいる。バックアップ時設定テーブルは、バックアップデータを用いた復旧が行われた場合に、ワークエリアの初期設定に用いられるテーブルデータを含んでいる。テーブルの指定は、ROM 101 に記憶されたテーブルの先頭アドレスに対応する値を、汎用ポインタまたはテーブルポインタに格納する。他のテーブルについても同様である。

【0067】

復旧条件が成立しない場合に（ステップ S 4；No）、初期化用の設定が行われる。初期化用の設定は、RWM 初期設定処理（ステップ S 7）と、初期化時コマンド送信テーブルの指定（ステップ S 8）と、初期化時設定テーブルの指定（ステップ S 9）と、を含んでいる。RWM 初期設定処理は、RAM 102 におけるワークエリアとなる所定領域にクリアデータを格納することにより、ワークエリアを初期化する処理が含まれている。初期化時コマンド送信テーブルは、電源投入時の初期設定が行われたことを指定する電源投入指定コマンドを、演出制御基板 12 に対して送信するためのテーブルデータを含んでいる。初期化時設定テーブルは、電源投入時の初期設定が行われた場合に、ワークエリアの初期設定に用いられるテーブルデータを含んでいる。例えば、初期化時設定テーブルは、特定回数カウンタの計数値を、特定回数初期値に設定するためのテーブルデータを含んでいる。また、初期化時設定テーブルは、特定回数コマンドバッファの格納値を、特定回数コマンド上限値に設定するためのテーブルデータを含んでいる。特定回数は、大当り遊技状態や時短状態に制御されない期間が継続した場合に、遊技状態を通常状態から時短状態に移行させる時短条件となる可変表示の実行回数である。

【0068】

その後、コマンドセット処理（ステップ S 10）と、データセット処理（ステップ S 11）と、を実行する。コマンドセット処理は、コマンド送信テーブルにおいて指定されたコマンドデータを、シリアル通信データレジスタに格納することにより、演出制御基板 12 に対して演出制御コマンドを送信するための処理が含まれる。データセット処理は、ポインタにより指定されたデータ設定テーブルを用いて、テーブルデータが示すアドレスに指定値を格納する処理と、テーブルデータが示すアドレスの記憶内容をクリアする処理と、が含まれる。

【0069】

そして、ウェイト処理（ステップ S 12）を実行した後に、特定回数コマンド送信処理（ステップ S 13）を実行する。ウェイト処理は、所定期間が経過するまで待機することにより、演出制御基板 12 などのサブ基板が確実に起動可能となる。特定回数コマンド処理は、電源投入時に特定回数カウンタの計数値を指定する演出制御コマンドを、演出制御基板 12 に対して送信するための処理である。特定回数カウンタは、RAM 102 の所定アドレスに設けられ、可変表示の実行回数が時短条件に対応する特定回数となるまでの残り回数を計数可能であればよい。

【0070】

ステップ S 13 の特定回数コマンド送信処理に続いて、割込み初期設定（ステップ S 14）を行い、例えば 4 ミリ秒といった、所定時間ごとに定期的なタイマ割込みが発生するように PTC カウンタ出力値を設定して、ループ処理に入る。このループ処理では、割込み禁止（ステップ S 15）、初期値決定用乱数更新処理（ステップ S 16）、割込み許可（ステップ S 17）が、繰り返し実行される。以後、PTC から割込み要求信号が CPU 103 へ送出されるごとに、CPU 103 はタイマ割込み処理を実行可能になる。これにより、CPU 103 は、例えば 4 ミリ秒といった、所定時間ごとにタイマ割込み処理を実行することができる。

【0071】

図 4（A）は、遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。CPU 103 は、PTC からの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けることで、遊技制御用タイマ割込み処理を実行可能である。図 4（A）に示す遊技制御用タイマ割込み処理は、電源断処理（ステップ S 21）と、スイッチ処理（ステップ S 22）と、メイン

側エラー処理（ステップS23）と、遊技用乱数更新処理（ステップS24）と、特別図柄プロセス処理（ステップS25）と、普通図柄プロセス処理（ステップS26）と、情報出力処理（ステップS27）と、賞球処理（ステップS28）と、メイン側表示制御処理（ステップS29）と、を含んでいる。

【0072】

ステップS21の電源断処理は、電源基板17から伝送される電源断信号を確認して、電源断の発生有無を判定する処理などが含まれる。電源断が発生した場合に、チェックサム算出処理を実行し、チェックサムデータをチェックサムバッファに設定した後、RWMアクセス禁止など、電源断時の設定が行われる。ステップS22のスイッチ処理は、ゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23など、スイッチ回路110を介して入力される各種スイッチからの検出信号について、受信の有無を判定する処理が含まれる。検出信号の受信結果は、スイッチオンバッファに設定される。ステップS23のメイン側エラー処理は、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする処理が含まれる。ステップS24の遊技用乱数更新処理は、主基板11の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新する処理が含まれる。

【0073】

図4（B）は、遊技用乱数の一例を示している。遊技用乱数は、特別図柄判定用の乱数MR1と、当り図柄選択用の乱数MR2と、MR2初期値決定用の乱数MR3と、変動パターン種別選択用の乱数MR4と、変動パターン決定用の乱数MR5と、普通図柄当り判定用の乱数MR6と、MR6初期値決定用の乱数MR7と、を含んでいる。特別図柄判定用の乱数MR1は、特別図柄の表示結果を「大当り」にするか否か、特別図柄の表示結果を「小当り」にするか否かなど、特別図柄の表示結果を判定するときに使用する。当り図柄選択用の乱数MR2は、特別図柄の表示結果を「大当り」にする場合の大当り図柄や、特別図柄の表示結果を「小当り」にする場合の小当り図柄など、確定特別図柄を複数の特別図柄から選択するときに使用する。MR2初期値決定用の乱数MR3は、乱数MR2の初期値を作成するために使用する。変動パターン種別選択用の乱数MR4は、特別図柄の変動パターン種別選択に使用する。変動パターン決定用の乱数MR5は、変動パターン種別に対応した変動パターンの決定に使用する。普通図柄当り判定用の乱数MR6は、普通図柄の表示結果を「普図当り」にするか否かという、普通図柄の表示結果を判定するときに使用する。MR6初期値決定用の乱数MR7は、乱数MR6の初期値を作成するために使用する。MR2初期値決定用の乱数MR3と、MR6初期値決定用の乱数MR7は、ステップS24の遊技用乱数更新処理だけでなく、図3に示されたステップS16の初期値決定用乱数更新処理においても更新可能であればよい。

【0074】

変動パターンは、変動パターン種別選択用の乱数MR4の値にもとづいて選択された変動パターン種別に含まれる1または複数の変動パターンのうちから、今回の可変表示における使用パターンとなるものが、変動パターン決定用の乱数MR5の値を用いて決定される。変動パターンは、特図ゲームの実行時間である特図変動時間と、演出図柄の可変表示の態様と、演出図柄の可変表示中の演出内容と、を含む各種の変動設定事項を指定する。特図変動時間は、演出図柄の可変表示における実行時間ともなる。演出図柄の可変表示の態様は、リーチの有無などを含む。演出図柄の可変表示中の演出内容は、リーチ演出の種類などを含む。変動パターンは、可変表示パターンともいう。変動パターン種別は、例えば演出図柄の可変表示中における演出態様などにもとづいて、予め分類された1または複数の変動パターンが含まれるグループである。

【0075】

図4（A）に示すステップS25の特別図柄プロセス処理は、特図ゲームの実行および保留の管理や、大当り遊技状態および小当り遊技状態の制御、遊技状態の制御など、特別図柄の可変表示と遊技状態に関する処理が含まれる。ステップS26の普通図柄プロセス処理は、ゲートスイッチ21からの検出信号にもとづく普図ゲームの実行および保留の管

10

20

30

40

50

理や、「普図当り」にもとづく可変入賞球装置 6 B の開放制御など、普通図柄の可変表示と第 2 始動入賞口の状態制御に関する処理が含まれる。ステップ S 2 7 の情報出力処理は、情報出力信号の設定を行う。情報出力信号は、大当り情報、始動情報、確率変動情報など、例えばパチンコ遊技機 1 の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される情報に対応した信号である。大当り情報は、大当りの発生回数などを示す。始動情報は、始動入賞の回数などを示す。確率変動情報は、確変状態となった回数などを示す。ステップ S 2 8 の賞球処理は、賞球コマンド出力カウンタ加算処理と、賞球制御処理と、が含まれる。賞球コマンド出力カウンタ加算処理は、賞球個数テーブルを使用してスイッチのオン判定を行い、オン検出時に、賞球コマンド出力カウンタの更新、入賞情報出力カウンタの更新を行う。賞球制御処理は、賞球プロセスコードに対応した処理を選択して、遊技球の検出にもとづく賞球を払出可能に制御する。ステップ S 2 9 のメイン側表示制御処理は、第 1 特別図柄の表示設定と、第 2 特別図柄の表示設定と、を含んでいる。第 1 特別図柄の表示設定は、特別図柄制御処理の実行により、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特別図柄の表示を更新可能に制御するための設定である。第 2 特別図柄の表示設定は、特別図柄制御処理の実行により、第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特別図柄の表示を更新可能に制御するための設定である。

10

【0076】

図 5 (A) は、特別図柄プロセス処理として、図 4 (A) に示すステップ S 2 5 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。CPU 103 は、特別図柄プロセス処理において、まず、始動入賞判定処理 (ステップ S 101) を実行する。始動入賞判定処理は、始動入賞の発生を検出し、RAM 102 の所定領域に保留情報を格納して保留記憶数を更新する処理が含まれる。始動入賞の発生が検出された場合に、保留記憶数が上限値未満であれば、表示結果、当り種別、変動パターンなどの決定に用いられる乱数値が抽出される。抽出された乱数値は、保留情報として記憶される。また、抽出された乱数値にもとづいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報の記憶や保留記憶数を更新した後に、演出制御基板 12 に対して、始動入賞の発生、保留記憶数、先読み判定などの判定結果を指定する演出制御コマンドを送信するためのコマンド設定が行われる。こうしたコマンド設定により、始動入賞時の演出制御コマンドは、主基板 11 から演出制御基板 12 に対して伝送される。

20

【0077】

CPU 103 は、ステップ S 101 の始動入賞判定処理を実行した後に、RAM 102 の所定アドレスに記憶された特図プロセスコードを読み出す (ステップ S 102)。特図プロセスコードは、00 [H] ~ 0B [H] のいずれかに更新設定が可能であり、特別図柄プロセスコードともいう。[H] は 16 進数であることを示す。CPU 103 は、特図プロセスコードの読出値に対応する処理を、選択して実行する (ステップ S 103)。これにより、特別図柄の可変表示に関する遊技の進行を制御可能になる。

30

【0078】

図 5 (B) は、特別図柄プロセス処理において、特図プロセスコードに対応して実行可能な処理の一例を示している。特別図柄プロセス処理は、特図プロセスコードに対応して実行可能な処理として、特図プロセスコードが 00 [H] に対応する特別図柄通常処理と、特図プロセスコードが 01 [H] に対応する特別図柄変動処理と、特図プロセスコードが 02 [H] に対応する特別図柄停止処理と、特図プロセスコードが 03 [H] に対応する小当り開放前処理と、特図プロセスコードが 04 [H] に対応する小当り開放中処理と、特図プロセスコードが 05 [H] に対応する小当り開放後処理と、特図プロセスコードが 06 [H] に対応する小当り排出球待機処理と、特図プロセスコードが 07 [H] に対応する小当り終了処理と、特図プロセスコードが 08 [H] に対応する大入賞口開放前処理と、特図プロセスコードが 09 [H] に対応する大入賞口開放中処理と、特図プロセスコードが 0A [H] に対応する大入賞口開放後処理と、特図プロセスコードが 0B [H] に対応する大当り終了処理と、を含んでいる。

40

【0079】

50

特別図柄通常処理は、記憶された保留情報の有無などにもとづいて、第1特図ゲームまたは第2特図ゲームを開始するか否かを判定可能な処理を含む。特別図柄通常処理は、特別図柄判定用の乱数MR1の値にもとづいて、特別図柄の表示結果を「大当り」とするか否かや「小当り」とするか否か、さらに、「時短」とするか否かなどを、判定可能な処理を含む。特別図柄通常処理は、表示結果の判定に対応して、特別図柄の可変表示において停止表示する確定特別図柄を決定する処理を含む。特別図柄通常処理は、変動パターンを決定する処理を含む。このように、特別図柄通常処理では、特別図柄の可変表示が開始される場合に、その表示結果が導出表示される以前に、可変表示に関する各種の判定や決定（事前決定）が行われるとともに、特図プロセスコードが01[H]に更新される。

【0080】

CPU103は、乱数値にもとづいて各種の判定や決定を行う場合に、各種のテーブルをROM101から読み出して参照する。主基板11における乱数値を用いた他の判定や決定についても同様である。乱数値を用いない場合でも、必要なテーブルをROM101から読み出して参照し、各種の判定や決定、設定などが行われてもよい。演出制御基板12においては、各種のテーブルをROM121から読み出して参照し、各種の判定や決定、設定などができればよい。

【0081】

特別図柄通常処理では、第2特図を用いた特図ゲームが、第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるという、特図2優先消化の制御が行われてもよい。あるいは、特別図柄通常処理では、第1始動入賞口と第2始動入賞口に遊技球が入賞した順序と対応して、その入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるという、入賞順消化の制御が行われてもよい。

【0082】

特別図柄変動処理は、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測し、変動パターンに対応する特図変動時間が経過したか否かを判定する処理が含まれる。特図変動時間が経過した場合に、確定特別図柄を停止表示する図柄停止時間を設定し、各種カウンタの計数値を更新するとともに、特図プロセスコードが02[H]に更新される。特別図柄停止処理は、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄が変動を停止してからの経過時間を計測し、特別図柄変動処理にて設定された図柄停止時間が経過したか否かを判定する処理が含まれる。図柄停止時間が経過した場合に、可変表示の表示結果に対応して、特図プロセスコードの更新や各種設定が行われる。例えば、可変表示の表示結果が「大当り」である場合に、特図プロセスコードは08[H]に更新される。可変表示の表示結果が「小当り」である場合に、特図プロセスコードは03[H]に更新される。可変表示の表示結果が「時短」や「ハズレ」である場合に、特図プロセスコードはクリアされて初期値である00[H]に更新される。また、可変表示の表示結果が「大当り」である場合に、大当り遊技状態の開始に対応した設定が行われる。可変表示の表示結果が「小当り」である場合に、小当り遊技状態の開始に対応した設定が行われる。可変表示の表示結果が「時短」である場合に、遊技状態を時短状態に制御するための設定が行われる。

【0083】

小当り開放前処理は、可変表示の表示結果が「小当り」であることにもとづいて、小当り遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行い、特図プロセスコードを04[H]に更新する。小当り開放中処理は、小当り遊技状態において大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測し、小当り用開放時間が経過したか否かを判定する処理が含まれる。小当り用開放時間が経過した場合に、大入賞口を閉鎖状態とするための設定とともに、特図プロセスコードが05[H]に更新される。小当り開放後処理は、小当り遊技状態における大入賞口の入賞検出を行い、所定時間の経過後に、特図プロセスコードを06[H]に更新する。小当り排出球待機処理は、大入賞口排出球エラーの設定、V入賞領域51の通過判定、大入賞口の排出完了判定を行う処理が含まれる。大入賞口の排出完了と判定された場合に、小当り終了前の設定とともに、特図プロセスコードが07[H]

10

20

30

40

50

に更新される。小当り終了処理は、特定領域通過フラグによりV入賞領域51の通過有無を判定する処理が含まれる。特定領域通過フラグは、V入賞領域51を通過した遊技球があった場合に、オン状態に対応する指定値01[H]が設定される。特定領域通過フラグがオンである場合に、大当りの開始設定とともに、特図プロセスコードが08[H]に更新される。特定領域フラグがオフである場合に、小当りの終了設定とともに、特図プロセスコードがクリアされて初期値である00[H]に更新される。

【0084】

大入賞口開放前処理は、大入賞口開放回数カウンタの更新や大入賞口の作動設定を含めた大入賞口開放時の設定など、大入賞口を開放状態に制御するための設定を行い、特図プロセスコードを09[H]に更新する。大入賞口開放中処理は、大当り遊技状態において大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測するとともに、大入賞口の入賞検知を行い、大入賞口入賞個数最大値に達した場合や、大当り用開放時間が経過した場合に、大入賞口を閉鎖状態とするための設定とともに、特図プロセスコードを0A[H]に更新する。大入賞口開放後処理は、大入賞口排出球不一致エラーの設定を行った後に、大入賞口開放後時間の終了判定を行い、開放終了時と判定された場合に、大入賞口開放回数カウンタの計数値を判定する処理が含まれる。大入賞口開放回数カウンタの計数値が大入賞口開放回数最大値未満である場合に、特図プロセスコードを08[H]に更新して、次のラウンドを開始可能に制御する。大入賞口開放回数カウンタの計数値が大入賞口開放回数最大値である場合に、大当り終了演出時間の設定を含めた開放終了時の設定とともに、特図プロセスコードを0B[H]に更新する。大当り終了処理は、大当り終了演出時間が経過したか否かを判定する処理が含まれる。大当り終了演出時間が経過した場合に、大当り終了時の遊技状態設定を含めた大当りの終了設定とともに、特図プロセスコードがクリアされて初期値である00[H]に更新される。

【0085】

特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理は、特別図柄大当り判定処理と、特別図柄小当り判定処理と、を含んでいる。また、特別図柄通常処理は、特別図柄時短判定処理を含んでいてもよい。これらの判定処理では、特別図柄判定用バッファから読み出した特別図柄判定用の乱数MR1の値を用いて、その値がいずれの判定範囲に含まれるかという、特別図柄判定値チェックが行われる。例えば、特別図柄判定用の乱数MR1の値が大当り判定範囲に含まれる場合に、特別図柄大当り判定処理により特別図柄の表示結果を「大当り」にすると判定される。また、特別図柄判定用の乱数MR1の値が小当り判定範囲に含まれる場合に、特別図柄小当り判定処理により特別図柄の表示結果を「小当り」にすると判定される。特別図柄判定用の乱数MR1の値が時短判定範囲に含まれる場合に、特別図柄時短判定処理により特別図柄の表示結果を「時短」にすると判定されてもよい。

【0086】

図6は、特別図柄の表示結果である特図表示結果の判定例を示している。始動口入賞指定値は、第1始動入賞口に遊技球が進入したことによる第1始動入賞の場合に対応して「1」が設定され、第2始動入賞口に遊技球が進入したことによる第2始動入賞の場合に対応して「2」が設定される。すなわち、始動口入賞指定値が「1」の場合に、第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた特図ゲームである第1特図ゲームが実行される。これに対し、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた特図ゲームである第2特図ゲームが実行される。特別図柄大当り判定処理、特別図柄小当り判定処理、特別図柄時短判定処理では、始動口入賞指定値が「1」である場合と「2」である場合とに対応して、特図表示結果が「大当り」、「小当り」、「時短」、「ハズレ」のいずれかに決定されるように、乱数MR1の値と比較されるMR1判定値が設定される。特図表示結果が「大当り」に割り当てられたMR1判定値は、大当り判定値ともいう。特図表示結果が「小当り」に割り当てられたMR1判定値は、小当り判定値ともいう。特図表示結果が「時短」に割り当てられたMR1判定値は、時短判定値ともいう。大当り判定値の設定による大当り確率は、特図ゲームにより大当りとなる割合を示す。小当り判定値の設定による小当り確率は、特図ゲームにより小当りとなる割合を

示す。時短判定値の設定による時短確率は、特図ゲームによりベース制御が変更可能な割合を示す。

【0087】

(演出制御基板12の主要な動作)

次に、演出制御基板12における主要な動作を説明する。演出制御基板12では、電源基板17などから電源電圧の供給を受けると、演出制御用CPU120が起動して、演出制御メイン処理を実行する。

【0088】

図7は、演出制御基板12において演出制御用CPU120が実行する演出制御メイン処理を示すフローチャートである。図7に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用CPU120は、まず、初期化处理(ステップS71)を実行する。初期化处理は、RAM122のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板12に搭載されたタイマ回路用のレジスタ設定などを含む。このときに、初期動作制御処理(ステップS72)を実行する。初期動作制御処理は、可動体32を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御など、可動体32の初期動作を行う制御が含まれる。その後、タイマ割込みフラグがオンであるか否かを判定する(ステップS73)。タイマ割込みフラグは、例えばタイマ回路用のレジスタ設定にもとづいて、2ミリ秒といった所定時間が経過するごとに、オン状態にセットされる。タイマ割込みフラグがオフである場合に(ステップS73; No)、ステップS73を繰り返して待機する。

10

【0089】

タイマ割込みフラグがオンである場合に(ステップS73; Yes)、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに(ステップS74)、コマンド解析処理(ステップS75)を実行する。コマンド解析処理は、例えば主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信されて演出制御コマンド受信バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などの処理が含まれる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したか、あるいは、演出制御コマンドが特定する内容などを、演出制御プロセス処理などで確認できるように、読み出された演出制御コマンドをRAM122の所定領域に格納したり、RAM122に設けられた受信フラグをオンしたりする。演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合に、その遊技状態に対応する背景の表示を表示制御部123に指示してもよい。

20

30

【0090】

コマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理(ステップS76)を実行する。演出制御プロセス処理は、例えば画像表示装置5の画面上における演出画像の表示動作、スピーカ8L、8Rからの音声出力動作、遊技効果ランプ9および装飾用LEDといった装飾発光体における点灯動作、可動体32の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が含まれる。各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板11から送信された演出制御コマンドなどにもとづいた判定や決定、設定などが行われる。演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理(ステップS77)を実行する。演出用乱数更新処理は、演出制御基板12の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新する。その後、ステップS73に戻る。ステップS73に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

40

【0091】

図8(A)は、演出制御プロセス処理として、図7に示すステップS76にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。演出制御用CPU120は、演出制御プロセス処理において、まず、先読み演出設定処理(ステップS151)を実行する。先読み演出設定処理は、例えば、主基板11から送信された始動入賞時の演出制御コマンドにもとづいて、先読み予告演出の実行に関する判定や決定、設定などの処理が含まれる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数にもとづいて保留表示を表示するための処理が含まれる。

【0092】

50

演出制御用CPU120は、先読み演出設定処理を実行した後に、RAM122の所定アドレスに記憶された演出プロセスコードを読み出す（ステップS152）。演出プロセスコードは、00[H]～0A[H]のいずれかに更新設定が可能であり、演出制御プロセスコードともいう。演出制御用CPU120は、演出プロセスコードの読出値に対応する処理を、選択して実行する（ステップS153）。これにより、演出図柄の可変表示を含めた演出の実行を制御可能になる。

【0093】

図8（B）は、演出制御プロセス処理において、演出プロセスコードに対応して実行可能な処理の一例を示している。演出制御プロセス処理は、演出プロセスコードに対応して実行可能な処理として、演出プロセスコードが00[H]に対応する変動パターンコマンド待ち処理と、演出プロセスコードが01[H]に対応する演出図柄変動開始処理と、演出プロセスコードが02[H]に対応する演出図柄変動中処理と、演出プロセスコードが03[H]に対応する演出図柄変動停止処理と、演出プロセスコードが04[H]に対応する小当り表示処理と、演出プロセスコードが05[H]に対応する小当り開放中処理と、演出プロセスコードが06[H]に対応する小当り終了演出処理と、演出プロセスコードが07[H]に対応する大当り表示処理と、演出プロセスコードが08[H]に対応するラウンド中処理と、演出プロセスコードが09[H]に対応するラウンド後処理と、演出プロセスコードが0A[H]に対応する大当り終了演出処理と、を含んでいる。

【0094】

変動パターンコマンド受信待ち処理は、主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から伝送された変動パターン指定コマンドを受信したか否かを判定可能な処理を含む。例えば、コマンド解析処理でセットされる変動パターン指定コマンド受信フラグがオンであるか否かにより、受信有無を判定可能である。変動パターン指定コマンドの受信ありと判定された場合に、演出プロセスコードが01[H]に更新される。変動パターン指定コマンドの受信なしと判定された場合に、デモ表示の制御が行われる。演出図柄変動開始処理は、特図ゲームに対応する変動時演出が開始されるように制御する処理を含む。例えば、受信した変動パターンコマンドに対応して、変動時演出の演出パターンを選択し、演出実行時間を計測する演出プロセスタイマの計時値について更新を開始させ、演出プロセスコードが02[H]に更新される。演出図柄変動中処理は、演出パターンを構成する各演出要素の切替えタイミングなどを制御するとともに、演出プロセスタイマの計時値にもとづいて演出実行時間が経過したか否かを判定可能な処理を含む。演出実行時間が経過したと判定された場合に、演出プロセスコードが03[H]に更新される。演出図柄変動停止処理は、演出実行時間が経過したこと、または演出図柄確定コマンドを受信したことなど、変動時演出の終了条件が成立したことにもとづいて、変動時演出の終了制御を行い、確定特別図柄に対応した演出結果を表示可能に制御する処理を含む。そして、可変表示の表示結果に対応して、演出プロセスコードの更新や各種設定が行われる。例えば、可変表示の表示結果が「大当り」である場合に、演出プロセスコードは07[H]に更新される。可変表示の表示結果が「小当り」である場合に、演出プロセスコードは04[H]に更新される。可変表示の表示結果が「時短」や「ハズレ」である場合に、演出プロセスコードはクリアされて初期値である00[H]に更新される。

【0095】

小当り表示処理は、小当りが発生したときに、小当りファンファーレ演出を行うための設定処理を含む。小当りファンファーレ演出は、画像表示装置5の画面上に小当りの発生を報知する演出画像が表示される小当り表示を含み、小当りファンファーレ演出時間が経過するまで実行可能である。小当りファンファーレ演出時間が経過したときに、小当りファンファーレ演出の終了制御とともに、演出プロセスコードが05[H]に更新される。小当り開放中処理は、小当り遊技状態において大入賞口の開放中に対応して、小当り開放中演出を行うための設定を行い、演出プロセスコードを06[H]に更新する。小当り終了演出処理は、画像表示装置5の画面上に小当り遊技状態の終了を報知する演出画像を表示可能に制御する処理を含む。また、小当り遊技状態において、特定領域スイッチ24に

より遊技球が検出され、V入賞が発生したと判定された場合に、V入賞の発生を報知するV入賞演出の実行制御が行われる。小当り遊技状態においてV入賞が発生した場合に、演出プロセスコードは07[H]に更新される。小当り遊技状態においてV入賞が発生しなかった場合に、演出プロセスコードはクリアされて初期値である00[H]に更新される。

【0096】

大当り表示処理は、大当りが発生したときに、ファンファーレ演出を行うための設定処理を含む。ファンファーレ演出は、画像表示装置5の画面上に大当りの発生を報知する演出画像が表示される大当り表示を含み、ファンファーレ演出時間が経過するまで実行可能である。ファンファーレ演出時間が経過したときに、ファンファーレ演出の終了制御とともに、演出プロセスコードが08[H]に更新される。ラウンド中処理は、大当り遊技状態におけるラウンド中の表示設定を含む。ラウンド終了条件が成立したときに、最終ラウンドの終了でなければ、演出プロセスコードを09[H]に更新し、最終ラウンドの終了であれば、演出プロセスコードを0A[H]に更新する。ラウンド後処理は、大当り遊技状態におけるラウンド間の表示設定を含む。そして、ラウンド開始条件が成立したときに、演出プロセスコードを08[H]に更新する。大当り終了演出は、画像表示装置5の画面上に大当り遊技状態の終了を報知する演出画像を表示可能に制御する処理を含む。その後、大当り終了の報知時間が経過したときに、演出プロセスコードはクリアされて初期値である00[H]に更新される。

【0097】

(基本説明の変形例)

パチンコ遊技機1は、基本説明における構成、機能、処理、動作に限定されず、様々な変形および応用が可能である。例えばパチンコ遊技機1は、上記実施の形態で示した全ての技術的特徴を備えるものでなくてもよく、従来技術における少なくとも1つの課題を解決できるように、上記実施の形態で説明した一部の構成を備えたものであってもよい。上記実施の形態において、下位概念となる事項が記載されている場合に、同族的事項や同類的事項を用いた上位概念の発明、あるいは、共通する性質を用いた上位概念の発明は、本願発明として包含され、従来技術における少なくとも1つの課題を解決できるように、上記実施の形態で説明した一部の構造や特性を備えたものであってもよい。

【0098】

パチンコ遊技機1は、入賞の発生にもとづいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であってもよいし、遊技媒体を封入し入賞の発生にもとづいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【0099】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは、例えば、「ー」を示す記号など、1種類の図柄だけとして、この図柄の表示と消灯とを繰り返す可変表示を行うようにしてもよい。可変表示中に1種類の図柄が表示され、可変表示の停止時に、この図柄が表示されなくてもよい。例えば、表示結果としては「ー」を示す記号が表示されず、特別図柄の表示がない非表示状態としてもよい。

【0100】

パチンコ遊技機1は、複数の設定値に対応して大当りの当選確率や出玉率が変わる構成を備えてもよい。例えば、特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定されている設定値ごとに異なる大当り判定値を用いることにより、大当りの当選確率や出玉率を変更可能であってもよい。具体的な一例として、設定値は1～6の6段階からなり、6が最も大当りの当選確率が高く、6、5、4、3、2、1の順に値が小さくなるほど大当りの当選確率が低くなる。この場合に、設定値として6が設定されていれば遊技者にとって最も有利度が高く、6、5、4、3、2、1の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。設定値に応じて大当りの当選確率が変われば、出玉率も設定値に応じて変わってもよい。大当りの当選確率は設定値にかかわらず一定であるのに対し、大当り遊技状態におけるラウンド数が設定値に応じて変わってもよい。パチンコ遊技機1は、遊技者に

とっての有利度が異なる複数の設定値のうちいずれかを設定可能に構成されていればよい。パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値は、主基板 1 1 の側から演出制御基板 1 2 の側へ設定値指定コマンドが送信されることにより通知されてもよい。可変表示の実行中には、所定割合でパチンコ遊技機 1 における設定値を示唆する設定示唆演出を実行可能であってもよい。パチンコ遊技機 1 の設定値に関する示唆は、パチンコ遊技機 1 における設定値を示唆するものに限定されず、例えばパチンコ遊技機 1 における設定値が変更されたか否かを示唆するものであってもよい。設定示唆演出は、任意の演出によって大当たり期待度を示唆するとともに、パチンコ遊技機 1 の設定値に関する示唆を行うことができるようにしてもよい。

【0101】

大当たり遊技状態の制御に関する示唆の一部または全部に代えて、あるいは、大当たり遊技状態の制御に関する示唆の一部または全部とともに、大当たり遊技状態とは異なる遊技者にとって有利な状態の制御に関する示唆を行うものであってもよい。例えば、大当たり遊技状態の終了後に制御される確変状態に関する示唆を行うものであってもよい。その他、有利状態として、遊技者にとって有利な任意の遊技価値が付与される状態に関して、制御されるか否かなどに応じた示唆を行うものであってもよい。

【0102】

遊技機に関する発明は、パチンコ遊技機 1 に限定されず、スロットマシンにも、適宜、適用することができる。スロットマシンは、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能である。スロットマシンにおいて、遊技者にとって有利な有利状態は、例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、RT、AT、ART、CZといった、いわゆるボーナスのうち 1 以上のものを含んでいればよい。

【0103】

遊技の進行や演出の実行を含めた各種の制御を実現するためのプログラムおよびデータは、パチンコ遊技機 1 などの遊技機に含まれるコンピュータ装置に対して、着脱自在の記録媒体により配布と提供が可能なものであってもよいし、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布と提供が可能なものであってもよい。また、通信回線などを介してネットワーク上の外部機器に接続可能な通信処理部を備え、その外部機器からプログラムやデータをダウンロードすることにより配布や提供が可能なものであってもよい。遊技や演出の実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行可能なものであってもよいし、通信回線などを介してダウンロードしたプログラムおよびデータを、内部メモリなどに一旦格納することにより実行可能なものであってもよいし、通信回線などを介して接続されたネットワーク上の外部機器におけるハードウェア資源を用いて直接実行が可能なものであってもよいし、他のコンピュータ装置などとネットワークを介してデータの交換を行うことにより遊技や演出を実行可能なものであってもよい。

【0104】

処理やデータの決定割合、演出の実行割合など、各種割合を比較する場合に、「高い」、「低い」、「異なる」などの表現は、一方が「0%」または「100%」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方の決定結果や実行内容について、「0%」の割合で決定や実行がない場合を含んでもよいし、「100%」の割合で必ず決定や実行がある場合を含んでもよい。

【0105】

(特徴部 23AK に関する説明)

特徴部 23AK におけるパチンコ遊技機 1 は、特別図柄の表示結果が「ハズレ」または「大当たり」になる一方で、「小当たり」や「時短」にはならないように制御される。また、所定の確変制御条件が成立したことにもとづいて、大当たり遊技状態の終了後に遊技状態が

10

20

30

40

50

確変状態に制御される。確変状態は、所定回数の可変表示が実行されること、あるいは次回の大当り遊技状態が開始されることといった、所定の確変終了条件が成立するまで、継続するように制御される。

【0106】

大当り遊技状態であるときに、特別可変入賞球装置50の大入賞口となる役物進入口が開放され、遊技球がV入賞領域51を通過して特定領域スイッチ24によって検出されたことにもとづいて、大当り遊技状態の終了後に確変状態となるための確変制御条件が成立する。すなわち、特定領域スイッチ24の設置箇所を特定領域とし、この特定領域を遊技球が通過したことにもとづいて、確変制御条件を成立させることができる。

【0107】

こうした確変制御条件の成立にもとづいて、大当り遊技状態の終了後に、高確高ベース状態に制御される。高確高ベース状態は、確変制御により通常状態に比べて大当り遊技状態に制御される確率が高くなるとともに、高ベース制御により通常状態に比べて可変表示が実行されやすくなる。確変制御条件の不成立にもとづいて、大当り遊技状態の終了後に、低確高ベース状態に制御される。低確高ベース状態は、大当り遊技状態に制御される確率が通常状態と同じであるとともに、高ベース制御により通常状態に比べて可変表示が実行されやすくなる。

【0108】

図9-1は、特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄通常処理において、CPU103は、合計保留記憶数が「0」であるか否かを判定する（ステップAKS101）。合計保留記憶数は、第1保留記憶数と第2保留記憶数との合計値により、未だ開始されていない可変表示に関する保留情報の記憶数を示す。ステップAKS101では、例えば合計保留記憶カウンタの計数値が「0」である場合に、合計保留記憶数が「0」であると判定する。合計保留記憶カウンタは、RAM102の所定アドレスに設けられ、合計保留記憶数を計数可能であればよい。

【0109】

ステップAKS101に対応して合計保留記憶数が「0」以外である場合に（ステップAKS101; No）、合計保留記憶数を1減算更新する（ステップAKS102）。このとき、始動口入賞指定値を示すデータが設定されてもよい。例えば第2保留記憶数が「0」以外である場合に、始動口入賞指定値を「2」に設定するとともに、第2保留記憶数を1減算更新する。これに対し、第2保留記憶数が「0」である場合に、始動口入賞指定値を「1」に設定するとともに、第1保留記憶数を1減算更新する。ステップAKS101にて合計保留記憶数が「0」以外であれば、第1保留記憶数と第2保留記憶数のうち、少なくともいずれか一方は「0」以外である。始動口入賞指定値を示すデータを設定するときに、第2保留記憶数について先に「0」以外であるか否かを判定することにより、第2特別図柄を用いた特図ゲームの方が、第1特別図柄を用いた特図ゲームよりも優先して実行することができればよい。

【0110】

ステップAKS102に続いて、特別図柄判定制御テーブルを指定する（ステップAKS103）。特別図柄判定制御テーブルは、特別図柄に関する判定の制御に用いられる各種情報が格納されている。例えば特別図柄判定制御テーブルは、特別図柄判定用バッファや当り図柄用バッファ、特別図柄バッファなどのアドレスを指定する。特別図柄判定用バッファは、図5(A)に示された特別図柄プロセス処理のステップS101における始動入賞判定処理により、始動入賞の発生にもとづいて抽出された遊技用乱数のうち、特別図柄判定用の乱数MR1を示すデータが記憶される。当り図柄用バッファは、始動入賞の発生にもとづいて抽出された遊技用乱数のうち、当り図柄選択用の乱数MR2を示すデータが記憶される。特別図柄バッファは、確定特別図柄を示すデータが記憶される。確定特別図柄は、特図ゲームにおける特別図柄の表示結果となる。

【0111】

特別図柄判定制御テーブルは、第1特別図柄に対応した第1特別図柄判定制御テーブル

10

20

30

40

50

と、第2特別図柄に対応した第2特別図柄判定制御テーブルと、を含んでいてもよい。ステップA K S 1 0 3では、第2特別図柄判定制御テーブルを指定した後に、始動口入賞指定値が「1」であるか否かを判定してもよい。そして、始動口入賞指定値が「1」である場合に、第1特別図柄判定制御テーブルを指定し直してもよい。第2特別図柄判定制御テーブルの指定は、第2特別図柄判定制御テーブルの先頭アドレスに対応する値を、ポインタとなるH Lレジスタに格納することにより実行可能である。第1特別図柄判定制御テーブルを指定し直す場合に、第1特別図柄判定制御テーブルの先頭アドレスに対応する値を、ポインタとなるH Lレジスタに格納することにより、ポインタの値を上書き設定する。このように、第2特別図柄判定制御テーブルを指定してから、始動口入賞判定値が「1」である場合に、第1特別図柄判定制御テーブルを設定し直すことにより、第2特別図柄判定制御テーブルの使用頻度が第1特別図柄判定制御テーブルの使用頻度よりも高い場合に、テーブル設定に用いる格納命令のプログラム容量を削減でき、パチンコ遊技機1の商品性を高めることができる。また、第2特別図柄判定制御テーブルの使用頻度が第1特別図柄判定制御テーブルの使用頻度よりも高い場合に、分岐命令による処理を簡素化して、設計段階での確認が容易になり、パチンコ遊技機1の商品性を高めることができる。

10

【0112】

ステップA K S 1 0 3の次に、特別図柄対応バッファの記憶内容をシフトさせる（ステップA K S 1 0 4）。特別図柄対応バッファは、特別図柄判定用バッファや当り図柄用バッファの他に、変動パターン種別選択用バッファや変動パターン用バッファなどを含み、始動入賞の発生にもとづいて抽出された遊技用乱数を示すデータが記憶される乱数格納用のバッファであればよい。ステップA K S 1 0 4では、例えば、転送先アドレス、転送元アドレス、転送回数を設定した後に、ブロック転送命令を実行することにより、特別図柄対応バッファの各格納領域における記憶内容を、1単位ずつ前の格納領域に転送してシフトさせればよい。

20

【0113】

ステップA K S 1 0 4に続いて、特別図柄判定用の乱数M R 1の値を読み出す（ステップA K S 1 0 5）。その後に、特別図柄大当り判定（ステップA K S 1 0 6）と、特別図柄情報設定（ステップA K S 1 0 7）と、を行う。この実施の形態では、特図ゲームにおける特別図柄の表示結果が、「大当り」または「ハズレ」のいずれかに決定され、「小当り」や「時短」には決定されない。

30

【0114】

ステップA K S 1 0 6の特別図柄大当り判定は、ステップA K S 1 0 5により読み出した特別図柄判定用の乱数M R 1の値を、大当り判定値と比較することにより、特図表示結果を「大当り」とするか否かを判定する。特図表示結果を「大当り」とするか否かの判定は、有利状態としての大当り遊技状態に制御するか否かの判定となる。そして、特別図柄大当り判定において特図表示結果を「大当り」とする判定がなされた場合に、大当り指定値となる01 [H] が、当りフラグにセットされる。なお、当りフラグは、特別図柄通常処理が実行される場合に、初期値となる00 [H] が設定されている。

【0115】

ステップA K S 1 0 7の特別図柄情報設定は、特図表示結果が「大当り」である場合における大当り種別の設定および大当り図柄の設定と、特図表示結果が「ハズレ」である場合におけるハズレ図柄の設定と、を含んでいる。大当り種別を示すデータは、大当り種別バッファに格納して記憶される。大当り図柄またはハズレ図柄といった確定特別図柄を示すデータは、特別図柄バッファに格納して記憶される。特別図柄バッファは、第1特別図柄に対応した第1特別図柄バッファと、第2特別図柄に対応した第2特別図柄バッファと、を含んでいる。ステップA K S 1 0 7では、ステップA K S 1 0 3により指定された特別図柄判定制御テーブルを参照することにより、第1特別図柄バッファまたは第2特別図柄バッファのアドレスを特定可能である。

40

【0116】

ステップA K S 1 0 7の後に、判定後データ設定（ステップA K S 1 0 8）と、変動パ

50

ターン設定処理（ステップA K S 1 0 9）と、を実行してから、特別図柄通常処理を終了する。ステップA K S 1 0 8の判定後データ設定は、判定後ワーク設定テーブルの指定と、データセット処理の実行と、を含んでいる。判定後ワーク設定テーブルを指定するとき、ステップA K S 1 0 3により指定された特別図柄判定制御テーブルを参照することにより、第1特別図柄または第2特別図柄に対応した判定後ワーク設定テーブルのアドレスを特定可能である。ステップA K S 1 0 9のデータセット処理は、特別図柄判定用バッファや当り図柄用バッファをクリアして、格納値を初期化するためのデータクリア処理を含んでいけばよい。

【0117】

ステップA K S 1 0 1に対応して合計保留記憶数が「0」である場合に（ステップA K S 1 0 1；Y e s）、デモ表示フラグがオンであるか否かを判定する（ステップA K S 1 1 0）。デモ表示フラグは、デモンストレーション表示を実行中であることを示すフラグである。デモ表示フラグがオンである場合に（ステップA K S 1 1 0；Y e s）、特別図柄通常処理は終了する。これに対し、デモ表示フラグがオフである場合に（ステップA K S 1 1 0；N o）、デモ表示フラグをオン状態にセットし（ステップA K S 1 1 1）、待機時コマンドの送信設定を行ってから（ステップA K S 1 1 2）、特別図柄通常処理は終了する。ステップA K S 1 1 2の送信設定は、待機時コマンド送信テーブルの指定と、コマンドセット処理と、を含んでいる。待機時コマンド送信テーブルは、背景指定コマンドと、客待ちデモコマンドと、を送信するためのテーブルデータを含んでいけばよい。

【0118】

図9-2は、大当り種別決定例A K D 0 1を示している。図9-1に示された特別図柄通常処理では、ステップA K S 1 0 7の特別図柄情報設定において、特図表示結果が「大当り」である場合に、大当り種別決定用の乱数の値などを用いて大当り種別の設定を行う。例えば、当りフラグが01[H]に設定されて大当り指定値を示す場合に、大当り種別決定用の乱数の値を示すデータが読み出され、また、始動口入賞指定値と、確変フラグと、時短フラグとに対応して、大当り種別決定テーブルが選択される。大当り種別決定テーブルは、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合、確変フラグがオンである場合とオフである場合、時短フラグがオンである場合とオフである場合などに、それぞれ対応して、予め用意されていけばよい。確変フラグは確変状態としての高確状態に対応してオン状態にセットされ、時短フラグは時短状態としての高ベース状態に対応してオン状態にセットされる。大当り種別決定テーブルは、判定値データを含むテーブルデータにより構成される。大当り種別決定テーブルの判定値データは、決定可能な大当り種別ごとの振り分け判定値を示し、複数の大当り種別に対応した複数の振り分け判定値を設定可能である。ステップA K S 1 0 7の特別図柄情報設定では、特図表示結果が「大当り」である場合に、大当り種別決定用の乱数を用いて大当り種別を決定するとともに、当り図柄選択用の乱数M R 2を用いて大当り図柄となる特別図柄を選択してもよい。例えば、大当り種別決定用の乱数の値を、判定値データに示される複数の振り分け判定値と順次に比較可能なループ処理を実行して、乱数の値が振り分け判定値以下となった場合に、その振り分け判定値に対応する大当り種別が決定されるようにすればよい。あるいは、当り図柄選択用の乱数M R 2を用いて、大当り種別の決定と大当り図柄の選択とが、行われてもよい。

【0119】

大当り遊技状態には、特定ラウンドの実行中に、V入賞口開閉部材となる振分部材がV入賞領域51を開放状態とする上限時間について設定が共通または相違する複数の大当り種別がある。一例として、複数の大当り種別は、大当り種別が「通常」の場合と、大当り種別が「確変」の場合とに、分類可能である。このうち、大当り種別が「通常」の場合に、V入賞領域51を開放状態とする上限時間が50ミリ秒（m s）に設定される。これに対し、大当り種別が「確変」の場合に、V入賞領域51を開放状態とする上限時間が29500ミリ秒に設定される。したがって、大当り種別が「通常」の場合に、V入賞領域51を遊技球が通過（進入）する可能性が低く、大当り遊技状態の終了後に確変状態となるための確変制御条件が成立しにくい。その一方で、大当り種別が「確変」の場合に、V入

10

20

30

40

50

賞領域 5 1 を遊技球が通過（進入）する可能性が高く、大当り遊技状態の終了後に確変状態となるための確変制御条件が成立しやすい。

【0120】

この実施の形態では、大当り種別が「通常」の場合として大当り種別 NA01～NA11 が含まれ、大当り種別が「確変」の場合として大当り種別 KA01～KA15 が含まれている。決定例 AKD01 において、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合、確変状態における確変制御の有無、時短状態における高ベース制御の有無などに対応して、所定割合で複数の大当り種別のいずれかに決定可能である。ここで、高ベース制御が行われない「なし」の場合に、確変制御が「なし」の場合と「あり」の場合とで、異なる割合により大当り種別が決定される。これに対し、高ベース制御が行われる「あり」の場合に、確変制御が「なし」の場合と「あり」の場合とで、共通の割合により大当り種別が決定される。また、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、一部または全部が異なる大当り種別に決定可能である。

10

【0121】

決定例 AKD01 では、確変制御および高ベース制御がともに「なし」の場合のうち、始動口入賞指定値が「1」の場合に、大当り種別 NA01～NA04 と、大当り種別 KA01～KA06 とのいずれかに決定可能である一方、始動口入賞指定値が「2」の場合に、大当り種別 NA05～NA07 と、大当り種別 KA07～KA10 とのいずれかに決定可能である。したがって、確変制御および高ベース制御がともに「なし」の場合は、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、全部が異なる大当り種別に決定可能である。また、確変制御が「あり」および高ベース制御が「なし」の場合のうち、始動口入賞指定値が「1」の場合に、大当り種別 NA02、NA04 と、大当り種別 KA02、KA04～KA06 とのいずれかに決定可能である一方、始動口入賞指定値が「2」の場合に、大当り種別 NA05～NA07 と、大当り種別 KA07～KA10 とのいずれかに決定可能である。したがって、確変制御が「あり」および高ベース制御が「なし」の場合のうち、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、全部が異なる大当り種別に決定可能である。あるいは、高ベース制御が「あり」の場合のうち、始動口入賞指定値が「1」の場合に、大当り種別 NA08 と、大当り種別 KA11、KA15 とのいずれかに決定可能である一方、始動口入賞指定値が「2」の場合に、大当り種別 NA09～NA11 と、大当り種別 KA12～KA15 とのいずれかに決定可能である。このように、高ベース制御が「あり」の場合は、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、共通の大当り種別 KA15 に決定可能である。したがって、高ベース制御が「あり」の場合は、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、一部が異なる大当り種別に決定可能である。

20

30

【0122】

決定例 AKD01 では、始動口入賞指定値が「1」の場合に、確変制御の有無や高ベース制御の有無によらず、 $100/200$ の決定割合すなわち 50 % の決定率で大当り種別が「通常」に含まれるものに決定され、 $100/200$ の決定割合すなわち 50 % の決定率で大当り種別が「確変」に含まれるものに決定される。また、始動口入賞指定値が「2」の場合に、確変制御の有無や高ベース制御の有無によらず、 $12/200$ の決定割合すなわち 6 % の決定率で大当り種別が「通常」に含まれるものに決定され、 $188/200$ の決定割合すなわち 94 % の決定率で大当り種別が「確変」に含まれるものに決定される。このように、始動口入賞指定値が「2」の場合は、始動口入賞指定値が「1」の場合よりも高い割合で大当り種別が「確変」に含まれるものに決定される。したがって、第 2 特別図柄を用いた特図ゲームにおいて特図表示結果が「大当り」であり大当り遊技状態に制御される場合の方が、第 1 特別図柄を用いた特図ゲームにおいて特図表示結果が「大当り」であり大当り遊技状態に制御される場合よりも高い割合で、大当り遊技状態が終了した後の遊技状態を確変状態に制御可能である。

40

【0123】

大当り種別決定テーブルは、始動口入賞指定値が「1」の場合に、確変制御の有無や高

50

ベース制御の有無によらず、決定可能な大当り種別が「通常」に含まれるものに対応して決定割合が $11/200$ である第1区分、 $44/200$ である第2区分、 $11/200$ である第3区分、 $34/200$ である第4区分の順に複数区分を有し、決定可能な大当り種別が「確変」に含まれるものに対応して決定割合が $12/200$ である第5区分、 $7/200$ である第6区分、 $12/200$ である第7区分、 $19/200$ である第8区分、 $15/200$ である第9区分、 $35/200$ である第10区分の順に複数区分を有するように、複数の振り分け判定値を示す判定値データが設定される。また、大当り種別決定テーブルは、始動口入賞指定値が「2」の場合に、確変制御の有無や高ベース制御の有無によらず、決定可能な大当り種別が「通常」に含まれるものに対応して決定割合が $2/200$ である第1区分、 $2/200$ である第2区分、 $2/200$ である第3区分、 $2/200$ である第4区分、 $1/200$ である第5区分、 $1/200$ である第6区分、 $2/200$ である第7区分の順に複数区分を有し、決定可能な大当り種別が「確変」に含まれるものに対応して決定割合が $62/200$ である第8区分、 $50/200$ である第9区分、 $62/200$ である第10区分、 $14/200$ である第11区分の順に、複数区分を有するように複数の振り分け判定値を示す判定値データが設定される。

10

【0124】

大当り種別決定テーブルは、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とに対応して、確変制御の有無や高ベース制御の有無によらず、決定割合が共通の複数区分を有する一方で、確変制御の有無や高ベース制御の有無によって、決定結果となる大当り種別に対する各区分の割当てが異なるように、複数の振り分け判定値を示す判定値データが設定される。このような決定割合が共通の複数区分を有するので、大当り種別の決定に用いるテーブルを容易に設計可能となり、パチンコ遊技機1の商品性を高めることができる。また、決定結果となる大当り種別に対する各区分の割当てが異なるので、大当り種別の決定割合を柔軟に設計可能となり、パチンコ遊技機1の商品性を高めることができる。

20

【0125】

決定例AKD01において、始動口入賞指定値が「1」の場合に、確変制御および高ベース制御がともに「なし」であることにより、決定割合が $11/200$ の第1区分は大当り種別NA01に割り当てられ、決定割合が $44/200$ の第2区分は大当り種別NA02に割り当てられ、決定割合が $11/200$ の第3区分は大当り種別NA03に割り当てられ、決定割合が $34/200$ の第4区分は大当り種別NA04に割り当てられるように判定値データが設定され、決定割合が $12/200$ の第5区分は大当り種別KA01に割り当てられ、決定割合が $7/200$ の第6区分は大当り種別KA02に割り当てられ、決定割合が $12/200$ の第7区分は大当り種別KA03に割り当てられ、決定割合が $19/200$ の第8区分は大当り種別KA04に割り当てられ、決定割合が $15/200$ の第9区分は大当り種別KA05に割り当てられ、決定割合が $35/200$ の第10区分は大当り種別KA06に割り当てられるように判定値データが設定される。また、始動口入賞指定値が「1」の場合に、確変制御が「あり」および高ベース制御が「なし」であることにより、決定割合が $11/200$ の第1区分と決定割合が $44/200$ の第2区分とは大当り種別NA02に割り当てられ、決定割合が $11/200$ の第3区分と決定割合が $34/200$ の第4区分とは大当り種別NA04に割り当てられるように判定値データが設定され、決定割合が $12/200$ の第5区分と決定割合が $7/200$ の第6区分とは大当り種別KA02に割り当てられ、決定割合が $12/200$ の第7区分と決定割合が $19/200$ の第8区分とは大当り種別KA04に割り当てられ、決定割合が $15/200$ の第9区分は大当り種別KA05に割り当てられ、決定割合が $35/200$ の第10区分は大当り種別KA06に割り当てられるように判定値データが設定される。始動口入賞指定値が「1」の場合に、確変制御の有無によらず高ベース制御が「あり」であることにより、決定割合が $11/200$ の第1区分と決定割合が $44/200$ の第2区分と決定割合が $11/200$ の第3区分と決定割合が $34/200$ の第4区分とは大当り種別NA08に割り当てられるように判定値データが設定され、決定割合が $12/200$ の第5区分と決定割合が $7/200$ の第6区分と決定割合が $12/200$ の第7区分と決定割合が $19/200$

30

40

50

0の第8区分とは大当り種別KA11に割り当てられ、決定割合が15/200の第9区分と決定割合が35/200の第10区分とは大当り種別KA15に割り当てられるように判定値データが設定される。

【0126】

決定例AKD01において、始動口入賞指定値が「2」の場合に、確変制御および高ベース制御がともに「なし」であることにより、決定割合が2/200の第1区分と決定割合が2/200の第2区分とは大当り種別NA05に割り当てられ、決定割合が2/200の第3区分と決定割合が2/200の第4区分とは大当り種別NA06に割り当てられ、決定割合が1/200の第5区分と決定割合が1/200の第6区分と決定割合が2/200の第7区分とは大当り種別NA07に割り当てられるように判定値データが設定され、決定割合が62/200の第8区分は大当り種別KA07に割り当てられ、決定割合が50/200の第9区分は大当り種別KA08に割り当てられ、決定割合が62/200の第10区分は大当り種別KA09に割り当てられ、決定割合が14/200の第11区分は大当り種別KA10に割り当てられるように判定値データが設定される。また、始動口入賞指定値が「2」の場合に、確変制御が「あり」および高ベース制御が「なし」であることによる決定割合の各区分は、確変制御および高ベース制御がともに「なし」であることによる決定割合の各区分と、共通の大当り種別に割り当てられるように判定値データが設定される。始動口入賞指定値が「2」の場合に、確変制御の有無によらず高ベース制御が「あり」であることにより、決定割合が2/200の第1区分と決定割合が2/200の第2区分とは大当り種別NA09に割り当てられ、決定割合が2/200の第3区分と決定割合が2/200の第4区分とは大当り種別NA10に割り当てられ、決定割合が1/200の第5区分と決定割合が1/200の第6区分と決定割合が2/200の第7区分とは大当り種別NA11に割り当てられるように判定値データが設定され、決定割合が62/200の第8区分は大当り種別KA12に割り当てられ、決定割合が50/200の第9区分は大当り種別KA13に割り当てられ、決定割合が62/200の第10区分は大当り種別KA14に割り当てられ、決定割合が14/200の第11区分は大当り種別KA15に割り当てられるように判定値データが設定される。

【0127】

図9-3は、変動パターン設定処理として、図9-1のステップAKS109にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。変動パターン設定処理において、CPU103は、特図表示結果が「大当り」であるか否かを判定する（ステップAKS221）。例えば、当りフラグを読み出し、その読出値が大当り指定値である01[H]の場合に、特図表示結果が「大当り」であると判定すればよい。特図表示結果が「ハズレ」であり「大当り」でない場合に（ステップAKS221；No）、始動口入賞指定値を読み出す（ステップAKS222）。これに伴い、演出状態選択指定値を読み出す（ステップAKS223）。演出状態選択指定値は、演出状態選択バッファの格納値であり、例えば、00[H]～0D[H]のうちいずれかの値を設定可能である。大当り遊技状態が終了するときに、大当り種別に対応した値を、演出状態選択指定値として設定可能である。また、可変表示が終了するときに、予め設定された更新条件の成立に対応して演出状態選択指定値を更新可能である。遊技状態が通常状態であるときに、演出状態選択指定値は00[H]に設定される。

【0128】

ステップAKS223の後に、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルを指定する（ステップAKS224）。ハズレ時変動パターン種別選択テーブルは、特図表示結果が「ハズレ」の場合に、変動パターン種別を選択するために用いられるテーブルであり、ステップAKS222により読み出した始動口入賞指定値と、ステップAKS223により読み出した演出状態選択指定値と、にもとづいて異なるテーブルを指定可能であればよい。さらに、特図表示結果が「ハズレ」の場合には、第1保留記憶数や第2保留記憶数に対応して選択可能な複数の変動パターン種別選択テーブルが予め用意されていればよい。

【0129】

ステップ A K S 2 2 1 に対応して特図表示結果が「大当り」である場合に（ステップ A K S 2 2 1 ; Y e s）、大当り種別指定値を読み出す（ステップ A K S 2 2 5）。これに伴い、演出状態選択指定値を読み出す（ステップ A K S 2 2 6）。そして、大当り時変動パターン種別選択テーブルを指定する（ステップ A K S 2 2 7）。大当り時変動パターン種別選択テーブルは、特図表示結果が「大当り」の場合に、変動パターン種別を選択するために用いられるテーブルであり、ステップ A K S 2 2 5 により読み出した大当り種別と、ステップ A K S 2 2 6 により読み出した演出状態選択指定値と、に対応したテーブルを指定可能であればよい。

【 0 1 3 0 】

ステップ A K S 2 2 4、A K S 2 2 7 の後に、変動パターン種別選択用の乱数 M R 4 の値を読み出す（ステップ A K S 2 2 8）。変動パターン種別選択用の乱数値 M R 4 の値を示すデータは、特別図柄対応バッファにおいてバッファ番号「0」が割り当てられた格納領域に含まれる変動パターン種別選択用バッファに記憶されていればよい。続いて、変動パターン種別選択用の乱数 M R 4 の値により、変動パターン種別を選択する（ステップ A K S 2 2 9）。次に、変動パターン決定テーブルを指定する（ステップ A K S 2 3 0）。ステップ A K S 2 3 0 では、ステップ A K S 2 2 9 により選択された変動パターン種別に対応して異なる変動パターン決定テーブルを指定可能であればよい。そして、変動パターン決定用の乱数 M R 5 の値を読み出す（ステップ A K S 2 3 1）。変動パターン決定用の乱数 M R 5 の値を示すデータは、特別図柄対応バッファにおいてバッファ番号「0」が割り当てられた格納領域に含まれる変動パターン決定用バッファに記憶されていればよい。さらに、変動パターン決定用の乱数 M R 5 の値により、変動パターンを決定する（ステップ A K S 2 3 2）。

【 0 1 3 1 】

ステップ A K S 2 3 2 に続いて、変動開始時コマンド送信設定を行う（ステップ A K S 2 3 3）。変動開始時コマンド送信設定は、変動コマンド送信テーブルの指定と、コマンドセット処理の実行と、を含んでいればよい。変動コマンド送信テーブルは、特図ゲームにおける特別図柄の変動開始に対応して、変動開始時の演出制御コマンドを送信するためのテーブルデータを含んでいる。例えば、第 1 特図ゲームに対応して指定される変動コマンド送信テーブルは、処理数を示すテーブル先頭データの他に、演出図柄指定コマンドと、第 1 変動開始指定コマンドと、変動パターン指定コマンドと、を送信するためのテーブルデータを含んでいる。これに対し、第 2 特図ゲームに対応して指定される変動コマンド送信テーブルは、処理数を指定するテーブル先頭データの他に、演出図柄指定コマンドと、第 2 変動開始指定コマンドと、変動パターン指定コマンドと、を送信するためのテーブルデータを含んでいる。

【 0 1 3 2 】

ステップ A K S 2 3 3 の後に、特別図柄変動時間を設定する（ステップ A K S 2 3 6）。特別図柄変動時間は、特図変動時間としての可変表示時間を示す。特別図柄変動時間を設定するために、特別図柄変動時間テーブルが指定される。特別図柄変動時間テーブルは、変動パターンの決定結果に対応して、特図変動時間などの可変表示時間を示す時間データを設定するためのテーブルデータを含んでいる。ステップ A K S 2 3 6 では、指定された特別図柄変動時間テーブルを参照して、時間データ展開処理を実行することにより、変動パターンの決定結果に対応した時間データが H L レジスタに格納される。こうして取得された時間データなどを、変動時間データとして特別図柄プロセスタイマにおけるタイマ初期値として設定すればよい。

【 0 1 3 3 】

ステップ A K S 2 3 6 の次に、変動パターン設定後データ設定を行ってから（ステップ A K S 2 3 7）、変動パターン設定処理を終了する。変動パターン設定後データ設定を行うために、変動パターン設定後データテーブルが指定される。変動パターン設定後データテーブルは、特図プロセスコードを、特別図柄変動処理に対応した値である 0 1 [H] に更新するためのテーブルデータを含んでいる。また、変動パターン設定後データテーブル

は、特別図柄変動中表示バッファの格納値を 0 1 [H] に更新するためのテーブルデータを含んでいる。特別図柄変動中表示バッファは、第 1 特別図柄や第 2 特別図柄の変動中における表示図柄を指定する値が格納され、第 1 特別図柄に対応した第 1 特別図柄変動中表示バッファと、第 2 特別図柄に対応した第 2 特別図柄変動中表示バッファと、を含んでいる。ステップ A K S 2 3 7 では、指定された変動パターン設定後データテーブルを参照して、データセット処理を実行することにより、第 1 特図ゲームを開始する場合に第 1 特別図柄変動中表示バッファの格納値を 0 1 [H] に更新し、第 2 特図ゲームを開始する場合に第 2 特別図柄変動中表示バッファの格納値を 0 1 [H] に更新すればよい。また、変動パターンの決定などに用いた乱数が格納された乱数値バッファをクリアして、格納値を初期化してもよい。

10

【0 1 3 4】

図 9-4 は、ハズレ変動パターンの構成例を示している。ハズレ変動パターンは、特図表示結果が「ハズレ」の場合に決定可能な変動パターンである。複数の変動パターンは、それぞれ、特図変動時間や演出図柄の可変表示態様が異なる。ハズレ変動パターンは、演出図柄の可変表示においてリーチ態様になるリーチ変動パターンと、リーチ態様にならない非リーチ変動パターンと、を含んでいる。図 9-4 に示された構成例において、変動パターン P A 1-1 ~ P A 1-6 と、変動パターン P B 1-1 ~ P B 1-9 とは、非リーチ変動パターンに含まれ、変動パターン P A 2-1 ~ P A 2-7 と、変動パターン P B 2-1 ~ P B 2-3 とは、リーチ変動パターンに含まれる。リーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンと、が含まれている。図 9-4 に示された構成例において、変動パターン P A 2-1 ~ P A 2-3 はノーマルリーチ変動パターンに含まれ、変動パターン P A 2-4 ~ P A 2-7 と、変動パターン P B 2-2、P B 2-3 とは、スーパーリーチ変動パターンに含まれる。ノーマルリーチ変動パターンは、ノーマルリーチ N O A、ノーマルリーチ N O B、ノーマルリーチ N O C といった、リーチ演出などの演出態様が異なる変動パターンが含まれている。スーパーリーチ変動パターンは、スーパーリーチ S P A、スーパーリーチ S P B、スーパーリーチ S P C、スーパーリーチ S P D、スーパーリーチ S P E、スーパーリーチ S P F といった、リーチ演出などの演出態様が異なる変動パターンが含まれている。リーチ変動パターンには、ノーマルリーチ変動パターンやスーパーリーチ変動パターンの他にも、短時間でリーチ態様となった後に表示結果が停止表示する高速リーチ変動パターンが含まれている。例えば、図 9-4 に示された変動パターン P B 2-1 は、特図変動時間が短い 3 5 0 0 ミリ秒であり、高速リーチ S R A の演出態様となる高速リーチ変動パターンである。

20

30

【0 1 3 5】

図 9-5 は、大当たり変動パターンの構成例を示している。大当たり変動パターンは、特図表示結果が「大当たり」の場合に決定可能な変動パターンである。大当たり変動パターンによる演出図柄の可変表示は、リーチ態様となった後に、大当たり組合せの確定演出図柄が停止表示される。大当たり変動パターンは、ハズレ変動パターンにおけるリーチ変動パターンと同様に、ノーマルリーチのリーチ演出が実行される変動パターンと、スーパーリーチのリーチ演出が実行される変動パターンと、を含んでいる。図 9-5 に示された構成例において、変動パターン P A 3-1 ~ P A 3-3 は、ノーマルリーチのリーチ演出が実行される変動パターンに含まれ、変動パターン P A 3-4 ~ P A 3-10 と、変動パターン P B 3-3 ~ P B 3-11 とは、スーパーリーチのリーチ演出が実行される変動パターンに含まれる。また、大当たり変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出やスーパーリーチのリーチ演出が実行される変動パターンの他にも、短時間で大当たり組合せの確定演出図柄が停止表示する変動パターンが含まれている。例えば、図 9-5 に示された変動パターン P B 3-1 は、特図変動時間が極めて短い 2 5 0 0 ミリ秒であり、リーチ演出を実行せずに表示結果が停止表示する高速 S Q A の演出態様となる変動パターンである。また、変動パターン P B 3-2 は、特図変動時間が短い 4 5 0 0 ミリ秒であり、短時間でリーチ態様となった後に表示結果が停止表示する高速リーチ S R A の演出態様となる高速リーチ演出パ

40

50

ターンである。

【0136】

図9-6(A)は、ハズレ時参照テーブルの設定例AKA01を示している。ハズレ時参照テーブルは、図9-3に示された変動パターン設定処理のステップAKS224にて、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルを指定する場合に参照されるテーブルである。ハズレ時参照テーブルとして、演出状態選択指定値に対応する複数のテーブルが、予め用意されていればよい。設定例AKA01では、演出状態選択指定値が00[H]の場合と06[H]～0E[H]の場合とに対応して、参照テーブルTS01～TS09のいずれかがハズレ時参照テーブルとして参照される。各参照テーブルTS01～TS09は、始動口入賞指定値や第1保留記憶数および第2保留記憶数に対応して、予め用意された複数

10

【0137】

図9-6(B)は、参照テーブルTS01の構成例を示している。参照テーブルTS01は、演出状態選択指定値が00[H]の場合に参照される。参照テーブルTS01は、始動口入賞指定値が「1」の場合に、第1保留記憶数が「0」に対応してテーブルTA10を、第1保留記憶数が「1」に対応してテーブルTA11を、第1保留記憶数が「2」に対応してテーブルTA12を、第1保留記憶数が「3」に対応してテーブルTA13を、それぞれハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。また、参照テーブルTS01は、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第1保留記憶数が「0」と第2保留記憶数が「0」～「3」とに対応してテーブルTA20を、第1保留記憶数が「1」～「4」と第2保留記憶数が「0」～「3」とに対応してテーブルTA21を、それぞれハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。なお、図9-1に示された特別図柄通常処理のステップAKS102では、第2保留記憶数が「0」以外である場合に、始動口入賞指定値が「2」に設定され、第2保留記憶数が1減算更新される。これに対し、第2保留記憶数が「0」である場合に、始動口入賞指定値が「1」に設定され、第1保留記憶数が1減算更新される。そして、第1保留記憶数や第2保留記憶数は上限値が「4」である。したがって、変動パターン設定処理のステップAKS224にて始動口入賞指定値が「1」の場合に、第1保留記憶数は「0」～「3」のいずれかであり、第2保留記憶数は「0」である。また、変動パターン設定処理のステップAKS224にて始動口入賞指定値が「2」の場合に、第1保留記憶数は「0」～「4」のいずれかであり、第2保留記憶数は「0」～「3」のいずれかである。

20

30

【0138】

図9-6(C)は、参照テーブルTS02の構成例を示している。参照テーブルTS02は、演出状態選択指定値が06[H]または0E[H]の場合に参照される。参照テーブルTS02は、始動口入賞指定値が「1」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「3」に対応してテーブルTB10を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。また、参照テーブルTS02は、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「0」とに対応してテーブルTB20を、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「1」～「3」とに対応してテーブルTB21を、それぞれハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。

40

【0139】

図9-6(D)は、参照テーブルTS03の構成例を示している。参照テーブルTS03は、演出状態選択指定値が07[H]の場合に参照される。参照テーブルTS03は、始動口入賞指定値が「1」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「3」に対応してテーブルTB10を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。また、参照テーブルTS03は、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「0」とに対応してテーブルTB22を、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「1」～「3」とに対応してテーブルTB23を、それぞれハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。

50

【0140】

図9-6(E)は、参照テーブルTS04の構成例を示している。参照テーブルTS04は、演出状態選択指定値が08[H]の場合に参照される。参照テーブルTS04は、始動口入賞指定値が「1」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「3」に対応してテーブルTB10を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。また、参照テーブルTS04は、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「0」とに対応してテーブルTB24を、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「1」～「3」とに対応してテーブルTB25を、それぞれハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。

【0141】

図9-7(A)は、参照テーブルTS05の構成例を示している。参照テーブルTS05は、演出状態選択指定値が09[H]の場合に参照される。参照テーブルTS05は、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、第1保留記憶数や第2保留記憶数によらず共通のテーブルTB11を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。

【0142】

図9-7(B)は、参照テーブルTS06の構成例を示している。参照テーブルTS06は、演出状態選択指定値が0A[H]の場合に参照される。参照テーブルTS06は、始動口入賞指定値が「1」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「3」に対応してテーブルTB12を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。また、参照テーブルTS06は、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「0」とに対応してテーブルTB26を、第1保留記憶数が「0」～「4」と第2保留記憶数が「1」～「3」とに対応してテーブルTB27を、それぞれハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。

【0143】

図9-7(C)は、参照テーブルTS07の構成例を示している。参照テーブルTS07は、演出状態選択指定値が0B[H]の場合に参照される。参照テーブルTS07は、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、第1保留記憶数や第2保留記憶数によらず共通のテーブルTB13を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。図9-7(D)は、参照テーブルTS08の構成例を示している。参照テーブルTS08は、演出状態選択指定値が0C[H]の場合に参照される。参照テーブルTS08は、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、第1保留記憶数や第2保留記憶数によらず共通のテーブルTB14を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。図9-7(E)は、参照テーブルTS09の構成例を示している。参照テーブルTS09は、演出状態選択指定値が0D[H]の場合に参照される。参照テーブルTS09は、始動口入賞指定値が「1」の場合と「2」の場合とで、第1保留記憶数や第2保留記憶数によらず共通のテーブルTB15を、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。

【0144】

図9-8は、大当たり時参照テーブルTS21の構成例を示している。大当たり時参照テーブルTS21は、図9-3に示された変動パターン設定処理のステップAKS227にて、大当たり時変動パターン種別選択テーブルを指定する場合に参照されるテーブルである。大当たり時参照テーブルTS21は、演出状態選択指定値や大当たり種別に対応して、予め用意された複数テーブルのいずれかを、大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にするテーブルデータから構成されている。

【0145】

大当たり時参照テーブルTS21は、演出状態選択指定値が00[H]の場合に、大当たり種別NA01、NA02、NA05、KA01、KA02、KA07に対応してテーブルTA30を、大当たり種別NA03、NA04、NA06、KA03、KA04、KA05、KA08に対応して選択テーブルTA31を、大当たり種別NA07、KA06、KA0

10

20

30

40

50

9、K A 1 0 に対応してテーブル T A 3 2 を、それぞれ大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。なお、演出状態選択指定値が 0 0 [H] の場合に、遊技状態は通常状態に対応した低確低ベース状態であり、高確状態としての確変状態における確変制御と、高ベース状態としての時短状態における高ベース制御と、が行われない。図 9-2 に示された大当たり種別決定例 A K D 0 1 では、確変制御および高ベース制御が「なし」の場合に、大当たり種別 N A 0 1 ~ N A 0 6 と、大当たり種別 K A 0 1 ~ K A 1 0 とのうちで、いずれかに決定可能であり、他の大当たり種別には決定されない。したがって、大当たり時参照テーブル T S 2 1 は、演出状態選択指定値が 0 0 [H] の場合に決定可能な大当たり種別に対応して、大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能なテーブルを示すものになっている。演出状態選択指定値が 0 0 [H] 以外の場合にも、その演出状態選択指定値である場合に決定可能な大当たり種別に対応して、大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能なテーブルが示されている。

10

【0146】

大当たり時参照テーブル T S 2 1 は、演出状態選択指定値が 0 6 [H] または 0 E [H] の場合に、大当たり種別 N A 0 8 ~ N A 1 1 または大当たり種別 K A 1 1 ~ K A 1 5 に対応してテーブル T B 3 0 を、大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。また、大当たり時参照テーブル T S 2 1 は、演出状態選択指定値が 0 7 [H] の場合に、大当たり種別 N A 0 8、N A 0 9、K A 1 1、K A 1 2 に対応してテーブル T B 3 1 を、大当たり種別 N A 1 0、K A 1 3 に対応してテーブル T B 3 2 を、大当たり種別 N A 1 1、K A 1 4 に対応してテーブル T B 3 3 を、大当たり種別 K A 1 5 に対応してテーブル T B 3 4 を、それぞれ大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。あるいは、大当たり時参照テーブル T S 2 1 は、演出状態選択指定値が 0 8 [H] の場合に、大当たり種別 N A 0 8、N A 0 9、K A 1 1、K A 1 2 に対応してテーブル T B 3 5 を、大当たり種別 N A 1 0、K A 1 3 に対応してテーブル T B 3 6 を、大当たり種別 N A 1 1、K A 1 4 に対応してテーブル T B 3 7 を、大当たり種別 K A 1 5 に対応してテーブル T B 3 8 を、それぞれ大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。

20

【0147】

大当たり時参照テーブル T S 2 1 は、演出状態選択指定値が 0 9 [H] または 0 B [H] または 0 C [H] または 0 D [H] の場合に、大当たり種別 N A 0 8 ~ N A 1 1 または大当たり種別 K A 1 1 ~ K A 1 4 に対応してテーブル T B 4 0 を、大当たり種別 K A 1 5 に対応してテーブル T B 4 1 を、それぞれ大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。また、大当たり時参照テーブル T S 2 1 は、演出状態選択指定値が 0 A [H] の場合に、大当たり種別 N A 0 8、N A 0 9、K A 1 1、K A 1 2 に対応してテーブル T B 4 2 を、大当たり種別 N A 1 0、K A 1 3 に対応してテーブル T B 4 3 を、大当たり種別 N A 1 1、K A 1 4 に対応してテーブル T B 4 4 を、大当たり種別 K A 1 5 に対応してテーブル T B 4 5 を、それぞれ大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。なお、演出状態選択指定値が 0 6 [H] ~ 0 E [H] のいずれかに設定可能となる期間は、高ベース状態としての時短状態における高ベース制御が行われている期間に含まれる。図 9-2 に示された大当たり種別決定例 A K D 0 1 では、高ベース制御が「あり」の場合に、大当たり種別 N A 0 8 ~ N A 1 1 と、大当たり種別 K A 1 1 ~ K A 1 5 とのうちで、いずれかに決定可能であり、他の大当たり種別には決定されない。したがって、大当たり時参照テーブル T S 2 1 は、演出状態選択指定値が 0 6 [H] ~ 0 E [H] のいずれかである場合に決定可能な大当たり種別に対応して、大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能なテーブルを示すものになっている。

30

40

【0148】

図 9-9 および図 9-10 は、ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能なテーブルの構成例を示している。ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能なテーブルは、テーブル T A 1 0 ~ T A 1 3 と、テーブル T A 2 0、T A 2 1 と、テーブル T B 1 0 ~ T B 1 5 と、テーブル T B 2 0 ~ T B 2 7 と、を含んでいる。ハズレ時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能な各テーブルは、選択可能な変動パターン種

50

別ごとの振り分け判定値が示される判定値データを含むテーブルデータにより構成される。

【0149】

図9-9(A)に示すテーブルTA10は、図9-6(B)に示された参照テーブルTS01を参照した場合に指定可能となる。テーブルTA10は、変動パターン種別CA1-1、CA1-5、CA2-1、CA2-2、CA2-3のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-9(B)に示すテーブルTA11は、図9-6(B)に示された参照テーブルTS01を参照した場合に指定可能となる。テーブルTA11は、変動パターン種別CA1-2、CA1-5、CA2-1、CA2-2、CA2-3のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-9(C)に示すテーブルTA12は、図9-6(B)に示された参照テーブルTS01を参照した場合に指定可能となる。テーブルTA12は、変動パターン種別CA1-3、CA1-5、CA2-1、CA2-2、CA2-3のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-9(D)に示すテーブルTA13は、図9-6(B)に示された参照テーブルTS01を参照した場合に指定可能となる。テーブルTA13は、変動パターン種別CA1-4、CA1-5、CA2-1、CA2-2、CA2-3のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-9(E)に示すテーブルTA20は、図9-6(B)に示された参照テーブルTS01を参照した場合に指定可能となる。テーブルTA20は、変動パターン種別CA1-1のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-9(F)に示すテーブルTA21は、図9-6(B)に示された参照テーブルTS01を参照した場合に指定可能となる。テーブルTA21は、変動パターン種別CA1-3のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。

【0150】

図9-10(A)に示すテーブルTB10は、図9-6(C)に示された参照テーブルTS02または図9-6(D)に示された参照テーブルTS03を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB10は、変動パターン種別CB1-1のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(B)に示すテーブルTB11は、図9-7(A)に示された参照テーブルTS05を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB11は、変動パターン種別CB1-5のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(C)に示すテーブルTB12は、図9-7(B)に示された参照テーブルTS06を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB12は、変動パターン種別CB1-1のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(D)に示すテーブルTB13は、図9-7(C)に示された参照テーブルTS07を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB13は、変動パターン種別CB1-7のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(E)に示すテーブルTB14は、図9-7(D)に示された参照テーブルTS08を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB14は、変動パターン種別CB1-8のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(F)に示すテーブルTB15は、図9-7(E)に示された参照テーブルTS09を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB15は、変動パターン種別CB1-9のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。

【0151】

図9-10(G)に示すテーブルTB20は、図9-6(C)に示された参照テーブルTS02を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB20は、変動パターン種別CB

1-2のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(H)に示すテーブルTB21は、図9-6(C)に示された参照テーブルTS02を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB21は、変動パターン種別CB1-3のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(I)に示すテーブルTB22は、図9-6(D)に示された参照テーブルTS03を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB22は、変動パターン種別CB1-2、CB1-4、CB2-1のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(J)に示すテーブルTB23は、図9-6(D)に示された参照テーブルTS03を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB23は、変動パターン種別CB1-3、CB1-4、CB2-1のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(K)に示すテーブルTB24は、図9-6(E)に示された参照テーブルTS04を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB24は、変動パターン種別CB1-2、CB1-4、CB2-1のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(L)に示すテーブルTB25は、図9-6(E)に示された参照テーブルTS04を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB25は、変動パターン種別CB1-3、CB1-4、CB2-1のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(M)に示すテーブルTB26は、図9-7(B)に示された参照テーブルTS06を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB26は、変動パターン種別CB1-2、CB1-6、CB2-2のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図9-10(N)に示すテーブルTB27は、図9-7(B)に示された参照テーブルTS06を参照した場合に指定可能となる。テーブルTB27は、変動パターン種別CB1-3、CB1-6、CB2-2のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。

10

20

30

40

50

【0152】

図9-11および図9-12は、大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能なテーブルの構成例を示している。大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能なテーブルは、テーブルTA30~TA32と、テーブルTB30~TB38と、テーブルTB40~TB45と、を含んでいる。大当たり時変動パターン種別選択テーブルとして指定可能な各テーブルは、選択可能な変動パターン種別ごとの振り分け判定値が示される判定値データを含むテーブルデータにより構成される。

【0153】

図9-11(A)に示すテーブルTA30から図9-11(C)に示すテーブルTA32までの各テーブルは、図9-8に示された大当たり時参照テーブルTS21の参照に伴い、演出状態選択指定値が00[H]である場合の大当たり種別に対応して指定可能となる。テーブルTA30は、変動パターン種別CA3-1~CA3-3のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブルTA31は、変動パターン種別CA3-1~CA3-4のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブルTA32は、変動パターン種別CA3-2~CA3-4のうちからいずれかの変動パターン種別を選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。

【0154】

図9-11(D)に示すテーブルTB30は、図9-8に示された大当たり時参照テーブルTS21の参照に伴い、演出状態選択指定値が06[H]または0E[H]である場合に任意の大当たり種別に対応して指定可能となる。テーブルTB30は、変動パターン種別

C B 3 - 1 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図 9 - 1 1 (E) に示すテーブル T B 3 1 から図 9 - 1 1 (H) に示すテーブル T B 3 4 までの各テーブルは、図 9 - 8 に示された大当たり時参照テーブル T S 2 1 の参照に伴い、演出状態選択指定値が 0 7 [H] である場合の大当たり種別に対応して指定可能となる。テーブル T B 3 1 は、変動パターン種別 C B 3 - 2 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 3 2 は、変動パターン種別 C B 3 - 3 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 3 3 は、変動パターン種別 C B 3 - 4 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 3 4 は、変動パターン種別 C B 3 - 5 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図 9 - 1 1 (I) に示すテーブル T B 3 5 から図 9 - 1 1 (L) に示すテーブル T B 3 8 までの各テーブルは、図 9 - 8 に示された大当たり時参照テーブル T S 2 1 の参照に伴い、演出状態選択指定値が 0 8 [H] である場合の大当たり種別に対応して指定可能となる。テーブル T B 3 5 は、変動パターン種別 C B 3 - 2 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 3 6 は、変動パターン種別 C B 3 - 3 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 3 7 は、変動パターン種別 C B 3 - 4 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 3 8 は、変動パターン種別 C B 3 - 5 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。

10

20

【 0 1 5 5 】

図 9 - 1 2 (A) に示すテーブル T B 4 0 と図 9 - 1 2 (B) に示すテーブル T B 4 1 とは、図 9 - 8 に示された大当たり時参照テーブル T S 2 1 の参照に伴い、演出状態選択指定値が 0 9 [H] 、 0 B [H] 、 0 C [H] 、 0 D [H] のいずれかである場合の大当たり種別に対応して指定可能となる。テーブル T B 4 0 は、変動パターン種別 C B 4 - 1 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 4 1 は、変動パターン種別 C B 4 - 2 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。図 9 - 1 2 (C) に示すテーブル T B 4 2 から図 9 - 1 2 (F) に示すテーブル T B 4 5 までの各テーブルは、図 9 - 8 に示された大当たり時参照テーブル T S 2 1 の参照に伴い、演出状態選択指定値が 0 A [H] である場合の大当たり種別に対応して指定可能となる。テーブル T B 4 2 は、変動パターン種別 C B 4 - 3 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 4 3 は、変動パターン種別 C B 4 - 4 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 4 4 は、変動パターン種別 C B 4 - 5 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。テーブル T B 4 6 は、変動パターン種別 C B 4 - 6 のみを選択可能となるように、振り分け判定値が設定された判定値データにより構成される。

30

40

【 0 1 5 6 】

図 9 - 1 3 から図 9 - 1 6 までは、変動パターン種別に対応した変動パターンの決定割合を示している。図 9 - 3 に示された変動パターン設定処理では、ステップ A K S 2 2 9 により選択された変動パターン種別に対応して、ステップ A K S 2 3 0 により指定された変動パターン決定テーブルなどにもとづき、ステップ A K S 2 3 2 により 1 の変動パターンが決定される。変動パターン決定テーブルは、決定可能な変動パターンごとの振り分け判定値が示される判定値データを含むテーブルデータにより構成される。

【 0 1 5 7 】

図 9 - 1 3 (A) に示す変動パターン種別 C A 1 - 1 は、変動パターン P A 1 - 1 、 P A 1 - 5 、 P A 1 - 6 のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9 - 1 3 (

50

10

20

30

40

50

50

図 9-14 (A) に示す変動パターン種別 C B 1-1 は、変動パターン P B 1-1 のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9-14 (B) に示す変動パターン種別 C B 1-2 は、変動パターン P B 1-2 のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9-14 (C) に示す変動パターン種別 C B 1-3 は、変動パターン P B 1-3 のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9-14 (D) に示す変動パターン種別 C B 1-4 は、変動パターン P B 1-4、P B 1-5 のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9-14 (E) に示す変動パターン種別 C B 1-5 は、変動パターン P B 1-6 のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9-14 (F) に示す変動パターン種別 C B 1-6 は、変動パターン P B 1-4、P B 1-5 のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9-14 (G) に示す変動パターン種別 C B 1-7 は、変動パターン P B 1-7 のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図 9-14 (H) に示す変動パターン種別 C B 1-8 は、変動パタ

ーンPB1-8のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-14(I)に示す変動パターン種別CB1-9は、変動パターンPB1-9のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-14(J)に示す変動パターン種別CB2-1および図9-14(K)に示す変動パターン種別CB2-2は、変動パターンPB2-1~PB2-3のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。

【0161】

図9-15(A)に示す変動パターン種別CB3-1は、変動パターンPB3-1のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-15(B)に示す変動パターン種別CB3-2は、変動パターンPB3-1、PB3-2のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-15(C)に示す変動パターン種別CB3-3および図9-15(D)に示す変動パターン種別CB3-4は、変動パターンPB3-2~PB3-8のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-15(E)に示す変動パターン種別CB3-5は、変動パターンPB3-9~PB3-11のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。

【0162】

図9-16(A)に示す変動パターン種別CB4-1は、変動パターンPB3-2のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-16(B)に示す変動パターン種別CB4-2は、変動パターンPB3-9のみに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-16(C)に示す変動パターン種別CB4-3は、変動パターンPB3-1、PB3-2のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-16(D)に示す変動パターン種別CB4-4および図9-16(E)に示す変動パターン種別CB4-5は、変動パターンPB3-2~PB3-8のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。図9-16(F)に示す変動パターン種別CB4-6は、変動パターンPB3-9~PB3-11のうちからいずれかの変動パターンに決定可能となるように、変動パターン決定テーブルの判定値データにより振り分け判定値が設定される。

【0163】

図9-17は、演出図柄指定コマンド設定例AKB01を示している。図9-3に示された変動パターン設定処理では、ステップAKS233による変動開始時コマンドの送信設定において、演出図柄指定コマンドを送信可能に制御される。例えば、特図表示結果が「大当り」の場合に、大当り種別の決定結果に対応した演出図柄指定コマンドを送信可能にする。例えば、大当り種別が「通常」に含まれる大当り種別NA01~NA11に対応して、演出図柄指定コマンドがコマンド8C01[H]、8C02[H]、8C0B[H]、8C0C[H]のうちからいずれかに設定される。大当り種別が「確変」に含まれる大当り種別KA01~KA15に対応して、演出図柄指定コマンドがコマンド8C04[H]~8C0A[H]のうちからいずれかに設定される。演出制御基板12では、主基板11から送信された演出図柄指定コマンドにもとづいて、確定演出図柄を構成する演出図柄を決定可能である。

【0164】

図9-18は、特別図柄変動処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄変動処理において、CPU103は、特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」であるか否かを判定する(ステップAKS121)。ここでの特別図柄プロセスタイマには、図9-3に

10

20

30

40

50

示された変動パターン設定処理のステップ A K S 2 3 6 にて、変動パターンの決定結果に対応する変動時間データがタイマ初期値として設定されたものである。特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」以外である場合に（ステップ A K S 1 2 1 ; N o）、特別図柄プロセスタイマの計時値を 1 減算更新して（ステップ A K S 1 2 2）、特別図柄変動処理は終了する。

【0165】

ステップ A K S 1 2 1 に対応して特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」である場合に（ステップ A K S 1 2 1 ; Y e s）、特図プロセスコードを、特別図柄停止処理に対応した値である 0 2 [H] に更新する（ステップ A K S 1 2 3）。また、特別図柄停止時間設定を行う（ステップ A K S 1 2 4）。ステップ A K S 1 2 4 では、例えば 5 0 0 ミリ秒といった、予め定められた特別図柄停止時間に対応する時間データなどを、特別図柄停止時間データとして特別図柄プロセスタイマにおけるタイマ初期値として設定すればよい。特別図柄停止時間設定に伴い、演出図柄確定コマンドを送信するための設定が行われてもよい。その後、確変カウンタの計数値が「0」であるか否かを判定する（ステップ A K S 1 2 5）。確変カウンタは、大当り遊技状態が終了するときに、確変制御条件の成立に対応して予め定められた確変カウンタ初期値が設定される。確変制御条件が成立しない場合には、確変カウンタの計数値が「0」に維持される。

【0166】

ステップ A K S 1 2 5 に対応して確変カウンタの計数値が「0」以外である場合に（ステップ A K S 1 2 5 ; N o）、確変カウンタの計数値を 1 減算更新する（ステップ A K S 1 2 6）。そして、更新後における確変カウンタの計数値が「0」となったか否かを判定する（ステップ A K S 1 2 7）。更新後の計数値が「0」である場合に（ステップ A K S 1 2 7 ; Y e s）、確変終了時データ設定が行われる（ステップ A K S 1 2 8）。確変終了時データ設定は、確変終了時データテーブルの指定と、データセット処理の実行と、を含んでいる。確変終了時データテーブルは、確変フラグをクリアするためのクリアデータを含んでいけばよい。これにより、確変フラグがクリアされてオフ状態となり、高確状態としての確変状態における確変制御が終了する。

【0167】

ステップ A K S 1 2 5 に対応して確変カウンタの計数値が「0」である場合（ステップ A K S 1 2 5 ; Y e s）、ステップ A K S 1 2 7 に対応して更新後の計数値が「0」以外である場合（ステップ A K S 1 2 7 ; N o）、またはステップ A K S 1 2 8 の後に、時短カウンタの計数値が「0」であるか否かを判定する（ステップ A K S 1 2 9）。時短カウンタは、大当り遊技状態が終了するときに、大当り種別に対応して予め定められた時短カウンタ初期値が設定される。

【0168】

ステップ A K S 1 2 9 に対応して時短カウンタの計数値が「0」以外である場合に（ステップ A K S 1 2 9 ; N o）、時短カウンタの計数値を 1 減算更新する（ステップ A K S 1 3 0）。そして、更新後における時短カウンタの計数値が「0」となったか否かを判定する（ステップ A K S 1 3 1）。更新後の計数値が「0」である場合に（ステップ A K S 1 3 1 ; Y e s）、時短終了時データ設定が行われる（ステップ A K S 1 3 2）。時短終了時データ設定は、時短終了時データテーブルの指定と、データセット処理の実行と、を含んでいる。時短終了時データテーブルは、時短フラグをクリアするためのクリアデータを含んでいけばよい。これにより、時短フラグがクリアされてオフ状態となり、高ベース状態としての時短状態における高ベース制御が終了する。

【0169】

ステップ A K S 1 2 9 に対応して時短カウンタの計数値が「0」である場合（ステップ A K S 1 2 9 ; Y e s）、ステップ A K S 1 3 1 に対応して更新後の計数値が「0」以外である場合（ステップ A K S 1 3 1 ; N o）、またはステップ A K S 1 3 2 の後に、特別期間演出指定値が 0 0 [H] であるか否かを判定する（ステップ A K S 1 3 3）。特別期間演出指定値は、特別期間演出バッファの格納値であり、例えば、0 0 [H] ~ 0 E [H]

10

20

30

40

50

」のうちいずれかの値を設定可能である。大当り遊技状態が終了するときに、大当り種別やV入賞の有無に対応した値を、特別期間演出指定値として設定可能である。遊技状態が通常状態であるときに、特別期間演出指定値は00[H]に設定される。

【0170】

ステップAKS133に対応して特別期間演出指定値が00[H]である場合に（ステップAKS133；Yes）、特別図柄変動処理は終了する。これに対し、特別期間演出指定値が00[H]以外である場合に（ステップAKS133；No）、特別期間演出更新設定を行い（ステップAKS134）、特別図柄変動処理は終了する。ステップAKS134では、特別期間演出更新設定を行うために、特別期間演出設定テーブルが指定される。特別期間演出設定テーブルは、可変表示の実行回数にもとづいて演出状態指定値を更新するためのテーブルデータを含んでいる。

10

【0171】

図9-19は、特別期間演出設定テーブルAKT01の構成例を示している。図9-18に示された特別図柄変動処理では、ステップAKS134の特別期間演出更新設定において、特別期間演出設定テーブルAKT01を参照し、演出状態選択指定値を更新可能である。特別期間演出設定テーブルAKT01は、特別期間演出指定値ごとの時短カウンタ判定値に対応付けて、演出状態選択指定値と、背景指定コマンドと、を設定するためのテーブルデータにより構成される。特別期間演出指定値ごとの時短カウンタ判定値は、時短カウンタの計数値と比較され、いずれかの判定値と合致した場合に、その判定値と対応付けられた演出状態選択指定値が演出状態選択バッファに格納され、その判定値と対応付けられた背景指定コマンドを示すコマンドデータが背景指定コマンドバッファなどに格納される。

20

【0172】

例えば、特別期間演出指定値が05[H]の場合に、時短カウンタの計数値が時短カウンタ判定値の「63」と合致すれば、演出状態選択指定値が03[H]に更新され、背景指定コマンドとしてコマンド9503[H]を示すコマンドデータが格納される。また、同様の場合に、時短カウンタの計数値が時短カウンタ判定値の「62」と合致すれば、演出状態選択指定値が07[H]に更新されるとともに背景指定コマンドとしてコマンド9506[H]を示すコマンドデータが格納され、時短カウンタの計数値が時短カウンタ判定値の「1」と合致すれば、演出状態選択指定値が0C[H]に更新されるとともに背景指定コマンドとしてコマンド9506[H]を示すコマンドデータが格納され、時短カウンタの計数値が時短カウンタ判定値の「0」と合致すれば、演出状態選択指定値が00[H]に更新されるとともに背景指定コマンドとしてコマンド9500[H]を示すコマンドデータが格納される。なお、時短カウンタの計数値が「0」となった場合には、特別期間演出指定値をクリアして、その値が00[H]に初期化されるようにすればよい。これにより、高ベース状態としての時短状態における時短制御が終了することに対応して、特別期間に対応した演出状態の制御を終了することができる。

30

【0173】

図9-20は、特別図柄停止処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄停止処理において、CPU103は、特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」であるか否かを判定する（ステップAKS141）。ここでの特別図柄プロセスタイマは、図9-18に示された特別図柄変動処理のステップAKS124にて、特別図柄停止時間に対応したタイマ初期値が設定されたものである。特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」以外である場合に（ステップAKS141；No）、特別図柄プロセスタイマの計時値を1減算更新して（ステップAKS142）、特別図柄変動処理は終了する。これにより、特別図柄停止時間が経過するまで待機する。

40

【0174】

ステップAKS141に対応して特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」である場合に（ステップAKS141；Yes）、特図表示結果が「大当り」であるか否かを判定する（ステップAKS143）。特図表示結果が「大当り」である場合に（ステップAKS

50

143; Yes)、特図プロセスコードを大入賞口開放前処理に対応した値である08[H]に更新する(ステップAKS144)。また、大当り種別指定値を読み出す(ステップAKS145)。このとき、大当り種別指定値の読出結果に対応する大当り開始演出初期値が、特別図柄プロセスタイマにおける初期値として設定される(ステップAKS146)。その後、大当り開始指定コマンドの送信設定と(ステップAKS147)、大入賞口初回開放前データ設定と(ステップAKS148)、を行い特別図柄停止処理は終了する。大入賞口初回開放前データ設定は、大入賞口初回開放前データテーブルの指定と、データセット処理の実行と、を含んでいる。大入賞口初回開放前データテーブルは、大入賞口初回開放前クリア対象に含まれる各種データをクリアするためのクリアデータが含まれている。大入賞口初回開放前クリア対象は、当りフラグ、時短フラグ、時短カウンタ、確変フラグ、確変カウンタ、演出状態選択バッファ、特別期間演出バッファ、を含んでいる。このうち、時短フラグと時短カウンタとがクリアされることにより、高ベース状態としての時短状態における時短制御が終了する。また、確変フラグと確変カウンタとがクリアされることにより、高確状態としての確変状態における確変制御が終了する。

10

20

30

40

50

【0175】

ステップAKS143に対応して特図表示結果が「ハズレ」であり「大当り」でない場合に(ステップAKS143; No)、特図プロセスコードをクリアして格納値を00[H]に初期化する(ステップAKS149)。また、ハズレ停止後データ設定を行い(ステップAKS150)、特別図柄停止処理は終了する。ハズレ停止後データ設定は、ハズレ停止後データテーブルの指定と、データ設定処理の実行と、を含んでいる。ハズレ停止後データテーブルは、ハズレ停止後設定クリア対象に含まれる各種データをクリアするためのクリアデータが含まれている。ハズレ停止後設定クリア対象は、デモ表示フラグや始動口入賞指定値を、含んでいればよい。これらに対応する格納領域は、ハズレ停止後データ設定に含まれるデータセット処理によりクリアされ、それぞれの格納値などが「0」に対応する値に初期化される。デモ表示フラグをクリアすることにより、特別図柄通常処理において、待機時コマンド送信設定などを行うことができる。また、特図ゲームの終了に対応して、第1特図ゲームであるか第2特図ゲームであるかを特定可能な始動口入賞指定値がクリアされて「0」に対応する00[H]に初期化される。

【0176】

図9-21は、大当り開始時設定例AKB02を示している。特別図柄停止処理では、ステップAKS145にて読み出した大当り種別指定値にもとづいて、ステップAKS148の大入賞口初回開放前データ設定などにより、大入賞口開放回数最大値と、大当り開始指定コマンドと、大当り開始演出時間と、大当り開始演出パターンと、を設定可能にする。なお、大当り開始指定コマンドは、ステップAKS147の送信設定において設定される。大入賞口初回開放前データテーブルは、大当り種別指定値から特定される大当り種別に対応付けて、大入賞口開放回数最大値と、大当り開始指定コマンドと、大当り開始演出時間と、大当り開始演出パターンと、を設定するためのテーブルデータにより構成される。大入賞口初回開放前データ設定により設定された大入賞口開放回数最大値を示すデータは、大入賞口開放回数最大値バッファに格納して記憶される。大入賞口初回開放前データ設定により設定された大当り開始演出時間に対応する時間データは、特別図柄プロセスタイマにおけるタイマ初期値として設定される。大当り開始演出パターンは、例えば主基板11から送信された演出図柄指定コマンドと大当り開始指定コマンドとの組合せなどにもとづいて、演出制御基板12の演出制御用CPU120などにより設定されてもよい。

【0177】

大入賞口開放回数最大値は、大当り遊技状態において実行可能なラウンドの上限回数に対応する。大当り開始時設定例AKB02では、大入賞口開放回数最大値を、大当り種別に対応して、「02」、「03」、「04」、「07」、「10」のうちのいずれかに設定可能である。したがって、大当り遊技状態におけるラウンドの上限回数は、2ラウンド、3ラウンド、4ラウンド、7ラウンド、10ラウンドのうちのいずれかに設定される。上限回数が2ラウンドの大当り遊技状態となる場合は、2ラウンド大当たりともいう。上限

回数が3ラウンドの大当り遊技状態となる場合は、3ラウンド大当りともいう。上限回数が4ラウンドの大当り遊技状態となる場合は、4ラウンド大当りともいう。上限回数が7ラウンドの大当り遊技状態となる場合は、7ラウンド大当りともいう。上限回数が10ラウンドの大当り遊技状態となる場合は、10ラウンド大当りともいう。

【0178】

大当り開始時設定例AKB02では、大当り開始演出時間を、100ミリ秒、7500ミリ秒、8000ミリ秒、14000ミリ秒のうちのいずれかに設定可能である。例えば、大当り種別NA08～NA11と大当り種別KA11～KA14とに対応して、大当り開始演出時間を100ミリ秒に設定可能である。図9-2に示された大当り種別決定例AKD01では、高ベース制御が「あり」の場合に、大当り種別NA08～NA11と大当り種別KA11～KA15とのうちで、いずれかに決定可能である。その一方で、高ベース制御が「なし」の場合に、大当り種別NA08～NA11や大当り種別KA11～KA14が決定されることはない。したがって、大当り開始演出時間は、高ベース状態としての時短状態において高ベース制御が行われている期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合の方が、高ベース制御が行われていない低ベース状態の期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合よりも、短い時間に設定可能である。あるいは、大当り種別KA15に対応して大当り開始演出時間を14000ミリ秒に設定可能であり、大当り種別KA15以外に対応して大当り開始時間を14000ミリ秒よりも短い時間に設定可能である。図9-2に示された大当り種別決定例AKD01では、高ベース制御が「あり」の場合に所定割合で大当り種別KA15が決定可能となり、高ベース制御が「なし」の場合に大当り種別KA15が決定されることはない。したがって、大当り開始演出時間は、高ベース状態としての時短状態において高ベース制御が行われている期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合の方が、高ベース制御が行われていない低ベース状態の期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合よりも、長い時間に設定可能である。

【0179】

図9-22は、大当り終了処理の一例を示すフローチャートである。大当り終了処理において、CPU103は、特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」であるか否かを判定する(ステップAKS161)。ここでの特別図柄プロセスタイマは、特別図柄プロセス処理により選択される大入賞口開放後処理において、大当り終了演出時間に対応したタイマ初期値が設定されたものである。特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」以外である場合に(ステップAKS161; No)、特別図柄プロセスタイマの計時値を1減算更新して(ステップAKS162)、処理は終了する。これにより、大当り終了演出時間が経過するまで待機する。

【0180】

ステップAKS161に対応して特別図柄プロセスタイマの計時値が「0」である場合に(ステップAKS161; Yes)、特図プロセスコードをクリアして、初期値としての00[H]に更新する(ステップAKS163)。また、大当り種別指定値を読み出し(ステップAKS164)、特定領域通過フラグを確認する(ステップAKS165)。特定領域通過フラグは、大当り遊技状態におけるラウンドの実行に対応して、V入賞領域51を通過した遊技球が特定領域スイッチ24によって検出された場合に、オン状態にセットされる。これに対し、遊技球がV入賞領域51を通過せず特定領域スイッチ24による検出がない場合に、特定領域通過フラグはオフ状態に維持される。

【0181】

ステップAKS165の後に、大当り終了時状態設定と(ステップAKS166)、大当り終了時コマンド送信設定と(ステップAKS167)、大当り終了時データ設定と(AKS168)、を行い処理は終了する。大当り終了時状態設定は、大当り遊技状態の終了後における遊技状態や演出状態に関する設定を含み、大当り種別やV入賞の有無に対応して、時短フラグや時短カウンタ初期値の設定、確変フラグや確変カウンタ初期値の設定、特別期間演出指定値や演出状態選択指定値の設定などが可能であればよい。大当り終了時コマンド送信設定は、大当り終了時コマンドテーブルの指定と、コマンドセット処理の

実行と、を含んでいけばよい。大当り終了時コマンドテーブルは、大当り遊技状態の終了に対応して、大当り終了時の演出制御コマンドを送信するためのテーブルデータを含んでいる。例えば、大当り終了時の演出制御コマンドは、大当り終了指定コマンドと、背景指定コマンドと、を含んでいけばよい。大当り終了時データ設定は、大当り終了時データテーブルの指定と、データセット処理の実行と、を含んでいけばよい。大当り終了時データテーブルは、大当り終了時クリア対象に含まれる各種データをクリアするためのクリアデータが含まれている。大当り終了時クリア対象は、デモ表示フラグ、変動コマンド指定バッファ、大入賞口開放回数最大値バッファ、始動口入賞指定値などを、含んでいけばよい。これらに対応する格納領域は、大当り終了時データ設定に含まれるデータセット処理によりクリアされ、それぞれの格納値などが「0」に対応する値に初期化される。

10

【0182】

図9-23は、大当り終了時設定例AKB11を示している。大当り終了時設定例AKB11は、大当り遊技状態が終了する場合に、時短カウンタ初期値と、大当り終了演出時間と、演出状態選択指定値と、を大当り種別に対応して設定可能にする。時短カウンタ初期値は、大当り終了処理のステップAKS166における大当り終了時状態設定により設定可能である。大当り終了演出時間および演出状態選択指定値は、特別図柄プロセス処理により選択される大入賞口開放後処理において、特図プロセスコードの更新に伴い設定可能であればよい。

【0183】

時短カウンタ初期値は、高ベース状態としての時短状態において実行可能な可変表示の上限回数に対応する。大当り終了時設定例AKB11では、時短カウンタ初期値を、大当り種別に対応して、「8」、「70」、「100」、「570」、「10000」のうちのいずれかに設定可能である。したがって、高ベース状態としての時短状態において実行可能な可変表示の上限回数は、8回、70回、100回、570回、10000回のうちのいずれかに設定される。

20

【0184】

確変カウンタ初期値は、V入賞ありに対応して特定領域通過フラグがオンの場合に、「70」に設定可能である。これに対し、V入賞なしに対応して特定領域通過フラグがオフの場合に、確変カウンタ初期値は「0」に設定される。したがって、高確状態としての確変状態において実行可能な可変表示の上限回数は、大当り遊技状態におけるV入賞発生による確変制御条件の成立にもとづいて、70回に設定される。

30

【0185】

高ベース状態としての時短状態において実行可能な可変表示の上限回数は、高確状態としての確変状態において実行可能な可変表示の上限回数と比べた場合に、共通する回数に設定される場合と、相違する回数に設定される場合と、がある。例えば、時短カウンタ初期値が「8」に設定された場合に、時短状態において実行可能な可変表示の上限回数は、確変状態において実行可能な可変表示の上限回数である70回よりも、少ない8回になる。これに対し、時短カウンタ初期値が「570」または「10000」のうちのいずれかに設定された場合に、時短状態において実行可能な可変表示の上限回数は、確変状態において実行可能な可変表示の上限回数である70回よりも、多い570回または10000回になる。他方において、時短カウンタ初期値が「70」に設定された場合に、時短状態において実行可能な可変表示の上限回数は、確変状態において実行可能な可変表示の上限回数である70回と、共通する回数になる。

40

【0186】

確変状態の制御に対応して設定可能な確変カウンタ初期値である「70」は、時短状態の制御に対応して設定可能な時短カウンタ初期値にも含まれて、第1状態において可変表示を実行可能な第1回数となる。このような確変カウンタ初期値および時短カウンタ初期値が「70」に設定された場合に、確変制御とともに高ベース制御が行われる高確高ベース状態は、有利状態となる大当り遊技状態の終了後に第1回数の可変表示が実行されるまで制御可能な第1状態となる。大当り終了時設定例AKB11では、大当り種別NA05

50

～N A 0 7 または大当り種別 K A 0 2、K A 0 4～K A 1 5 のうちのいずれかに対応する大当り遊技状態においてV入賞ありの場合に、確変カウンタ初期値および時短カウンタ初期値が「7 0」に設定され、大当り遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される。ただし、大当り種別が「通常」に含まれる大当り種別 N A 0 5～N A 0 7 のうちのいずれかに対応する大当り遊技状態では、遊技球がV入賞領域51を通過しにくいように、V入賞口開閉部材となる振分部材の動作が制御される。

【0187】

時短状態の制御に対応して設定可能な時短カウンタ初期値に含まれる「1 0 0 0 0」は、第2状態において可変表示を実行可能な第2回数となる。そこで、確変カウンタ初期値が「0」で時短カウンタ初期値が「1 0 0 0 0」に設定された場合に、確変制御がなく高ベース制御が行われる低確高ベース状態は、有利状態となる大当り遊技状態の終了後に第1回数よりも多い可変表示が実行されるまで制御可能な第2状態となる。大当り終了時設定例 A K B 1 1 では、大当り種別 N A 0 9～N A 1 1 のうちのいずれかに対応する大当り遊技状態においてV入賞なしの場合に、時短カウンタ初期値が「1 0 0 0 0」に設定され、大当り遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される。ここで、大当り種別 N A 0 9～N A 1 1 は大当り種別が「通常」に含まれるので、大当り遊技状態では遊技球がV入賞領域51を通過しにくく、確変カウンタ初期値は高い割合で「0」になる。

【0188】

大当り終了時設定例 A K B 1 1 では、大当り終了演出時間を、大当り種別に対応して、3 5 0 0 ミリ秒、9 5 0 0 ミリ秒、4 8 0 0 0 ミリ秒のうちのいずれかに設定可能である。例えば、大当り種別 N A 0 8～N A 1 1 と大当り種別 K A 1 1～K A 1 5 とに対応して、大当り終了演出時間を3 5 0 0 ミリ秒に設定可能である。図9-2に示された大当り種別決定例 A K D 0 1 では、高ベース制御が「あり」の場合に、大当り種別 N A 0 8～N A 1 1 と大当り種別 K A 1 1～K A 1 5 とのうちで、いずれかに決定可能である。その一方で、高ベース制御が「なし」の場合に、大当り種別 N A 0 8～N A 1 1 や大当り種別 K A 1 1～K A 1 4 が決定されることはない。したがって、大当り終了演出時間は、高ベース状態としての時短状態において高ベース制御が行われている期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合の方が、高ベース制御が行われていない低ベース状態の期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合よりも、短い時間に設定可能である。

【0189】

大当り終了時設定例 A K B 1 1 では、演出状態選択指定値を、大当り種別に対応して、0 2 [H]、0 6 [H] のうちのいずれかに設定可能である。例えば、大当り種別 N A 0 8～N A 1 1 と大当り種別 K A 1 1～K A 1 5 とに対応して、いずれも演出状態選択指定値を0 6 [H]に設定可能である。これに対し、大当り種別 N A 0 1～N A 0 7 と大当り種別 K A 0 1～K A 1 0 とに対応して、演出状態選択指定値を0 2 [H]に設定する場合と0 6 [H]に設定する場合とがある。図9-2に示された大当り種別決定例 A K D 0 1 では、高ベース制御が「あり」の場合に、大当り種別 N A 0 8～N A 1 1 と大当り種別 K A 1 1～K A 1 5 とのうちで、いずれかに決定可能である。その一方で、高ベース制御が「なし」の場合に、大当り種別 N A 0 8～N A 1 1 や大当り種別 K A 1 1～K A 1 4 が決定されることはない。したがって、高ベース制御が行われていない低ベース状態の期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合に、大当り遊技状態の終了に対応した演出状態選択指定値は、高ベース状態としての時短状態において高ベース制御が行われている期間にて特図表示結果が「大当り」となった場合と、同じ値に設定される場合もあれば異なる値に設定される場合もある。

【0190】

図9-24は、大当り終了時設定例 A K B 1 2 を示している。大当り終了時設定例 A K B 1 2 は、大当り遊技状態が終了する場合に、大当り終了指定コマンドと、特別期間演出指定値と、大当り後背景指定と、を大当り種別が「通常」に含まれる大当り種別 N A 0 1～N A 1 1 に対応して設定可能にする。大当り終了指定コマンドは、図9-22に示され

た大当り終了処理のステップ A K S 1 6 7 における大当り終了時コマンド送信設定により設定可能である。特別期間演出指定値は、大当り終了処理のステップ A K S 1 6 6 における大当り終了時状態設定により設定可能である。大当り後背景指定は、大当り終了処理のステップ A K S 1 6 8 における大当り終了時データ設定により設定可能であり、背景指定コマンドを示すコマンドデータが背景指定コマンドバッファなどに格納される。また、大当り終了処理のステップ A K S 1 6 7 における大当り終了時コマンド送信設定により、大当り後背景指定に対応した背景指定コマンドを送信可能に設定してもよい。

【 0 1 9 1 】

例えば、大当り種別 N A 0 1 に対応する大当り遊技状態において V 入賞なしの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 0 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 1 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとしてコマンド 9 5 0 2 [H] を示すコマンドデータが格納される。これに対し、大当り種別 N A 0 1 に対応する大当り遊技状態において V 入賞ありの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 0 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 2 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとして 9 5 0 8 [H] を示すコマンドデータが格納される。また、大当り種別 N A 0 2 に対応する大当り遊技状態において V 入賞なしの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 1 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 3 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとしてコマンド 9 5 0 2 [H] を示すコマンドデータが格納される。これに対し、大当り種別 N A 0 2 に対応する大当り遊技状態において V 入賞ありの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 7 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 4 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとして 9 5 0 3 [H] を示すコマンドデータが格納される。その他の大当り種別や V 入賞の有無に対応した設定は、図 9 - 2 4 に示すとおりである。

【 0 1 9 2 】

図 9 - 2 5 は、大当り終了時設定例 A K B 1 3 を示している。大当り終了時設定例 A K B 1 3 は、大当り遊技状態が終了する場合に、大当り終了指定コマンドと、特別期間演出指定値と、大当り後背景指定と、を大当り種別が「確変」に含まれる大当り種別 K A 0 1 ~ K A 1 5 に対応して設定可能にする。例えば、大当り種別 K A 0 1 に対応する大当り遊技状態において V 入賞なしの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 0 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 1 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとしてコマンド 9 5 0 2 [H] を示すコマンドデータが格納される。これに対し、大当り種別 K A 0 1 に対応する大当り遊技状態において V 入賞ありの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 0 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 2 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとして 9 5 0 8 [H] を示すコマンドデータが格納される。また、大当り種別 K A 0 2 に対応する大当り遊技状態において V 入賞なしの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 2 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 6 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとしてコマンド 9 5 0 3 [H] を示すコマンドデータが格納される。これに対し、大当り種別 K A 0 2 に対応する大当り遊技状態において V 入賞ありの場合に、大当り終了指定コマンドとしてコマンド A 3 0 2 [H] が送信され、特別期間演出指定値が 0 5 [H] に設定され、大当り後背景指定となる背景指定コマンドとして 9 5 0 3 [H] を示すコマンドデータが格納される。その他の大当り種別や V 入賞の有無に対応した設定は、図 9 - 2 5 に示すとおりである。

【 0 1 9 3 】

図 9 - 2 6 は、演出図柄変動開始処理の一例を示すフローチャートである。演出図柄変動開始処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出図柄の表示結果としての確定演出図柄となる最終停止図柄などを決定する（ステップ A K S 5 0 1）。演出制御用 C P U 1 2 0 は、主基板 1 1 から伝送された変動パターン指定コマンドで示された変動パターンや、演出図柄指定コマンドから特定可能な大当り種別などに対応する可変表示結果といった、可変表示内容にもとづいて、最終停止図柄を決定すればよい。一例として、変動パター

ンや可変表示結果の組合せに対応した可変表示内容には、「非リーチ（ハズレ）」、「リーチ（ハズレ）」、「非確変（大当たり）」、「確変（大当たり）」があればよい。

【0194】

図9-17に示された演出図柄指定コマンド設定例AKB01と、図9-21に示された大当たり開始時設定例AKB02とにより、各演出図柄指定コマンドは、以下のような決定内容を通知可能である。コマンド8C01[H]の場合に大当たり種別が「通常」に含まれて3ラウンド大当たりとなり、コマンド8C02[H]の場合に大当たり種別が「通常」に含まれて3ラウンド大当たりまたは4ラウンド大当たりとなり、コマンド8C03[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて2ラウンド大当たりとなり、コマンド8C04[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて3ラウンド大当たりとなり、コマンド8C05[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて3ラウンド大当たりまたは4ラウンド大当たりとなり、コマンド8C06[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて7ラウンド大当たりとなる。また、コマンド8C07[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて10ラウンド大当たりとなり、コマンド8C08[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて10ラウンド大当たりとなり、コマンド8C09[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて3ラウンド大当たりとなり、コマンド8C0A[H]の場合に大当たり種別が「確変」に含まれて3ラウンド大当たりとなり、コマンド8C0B[H]の場合に大当たり種別が「通常」に含まれて2ラウンド大当たりとなり、コマンド8C0C[H]の場合に大当たり種別が「通常」に含まれて7ラウンド大当たりとなる。

【0195】

可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」の場合には、演出図柄の可変表示がリーチ態様にはならず、非リーチ組合せの確定演出図柄が停止表示されて、可変表示の表示結果が「ハズレ」となる。可変表示内容が「リーチ（ハズレ）」の場合には、演出図柄の可変表示がリーチ態様となった後に、リーチハズレ組合せの確定演出図柄が停止表示されて、可変表示の表示結果が「ハズレ」となる。可変表示内容が「非確変（大当たり）」の場合には、可変表示の表示結果が「大当たり」となり、大当たり遊技状態においてV入賞が発生しにくくなる。可変表示内容が「確変（大当たり）」の場合には、可変表示の表示結果が「大当たり」となり、大当たり遊技状態においてV入賞が発生しやすくなる。

【0196】

可変表示内容が「非リーチ（ハズレ）」である場合には、「左」および「右」の演出図柄表示エリア5L、5Rにて異なる（不一致の）演出図柄が最終停止図柄に決定される。可変表示内容が「リーチ（ハズレ）」である場合には、「左」および「右」の演出図柄表示エリア5L、5Rにて同一の（一致する）演出図柄が最終停止図柄に決定される。この場合に、確定演出図柄のうち画像表示装置5の画面上における「中」の演出図柄表示エリア5Cにて停止表示される中確定演出図柄は、左右の確定演出図柄とは異なる演出図柄に決定される。可変表示内容が「非確変（大当たり）」や「確変（大当たり）」である場合には、「左」、「中」、「右」の演出図柄表示エリア5L、5C、5Rにて同一の（一致する）演出図柄が最終停止図柄に決定される。このときには、可変表示内容が「非確変（大当たり）」と「確変（大当たり）」のいずれであるかや、大当たり中昇格演出が実行されるか否かなどに応じて、通常図柄（例えば偶数を示す演出図柄）と確変図柄（例えば奇数を示す演出図柄）のいずれを確定演出図柄とするかが決定されればよい。大当たり中昇格演出は、画像表示装置5において大当たりを想起させるが確変状態を想起させないような演出図柄の組合せ（非確変大当たり組合せ）が一旦は停止表示されてから、大当たり遊技状態中や大当たり遊技状態の終了時に確変状態となるか否かを報知する演出である。可変表示内容が「非確変（大当たり）」である場合には、複数種類の通常図柄のうちから、確定演出図柄となるものを決定する。また、可変表示内容が「確変（大当たり）」で大当たり中昇格演出を実行しないと決定されたときには、複数種類の確変図柄のうちから、確定演出図柄となるものを決定する。これに対して、可変表示内容が「確変（大当たり）」であっても大当たり中昇格演出を実行すると決定されたときには、複数種類の通常図柄のうちから、確定演出図柄となるものを決定する。これにより、確定演出図柄として確変図柄が揃って導出表示されたにもか

かわらず、大当たり中昇格演出が実行されてしまうことを防止して、遊技者に不信感を与えないようにすればよい。

【0197】

ステップA K S 5 0 1にて最終停止図柄などを決定した後は、変動パターン指定コマンドに示された変動パターンがリザルト表示用のものであるか否かを判定する（ステップA K S 5 0 2）。確変状態や時短状態では、可変表示の実行回数が70回に達したときに、リザルト表示を実行可能である。リザルト表示は、大当たり遊技状態において遊技者が獲得した賞球総数や、連続して大当たりした回数など、遊技者が獲得した遊技価値の結果に関する情報の表示である。連続して大当たりした回数は、連荘回数ともいう。図9-4に示されたハズレ変動パターンでは、時短中第1最終から時短中第4最終までの変動パターンP B 1-6～P B 1-9のうちのいずれかによる可変表示の実行中に、リザルト表示を行い、遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知を実行することができる。図9-5に示された大当たり変動パターンでは、変動パターンP B 3-2または変動パターンP B 3-9のいずれかによる可変表示が、確変状態や時短状態における70回目の可変表示である場合に、その可変表示の実行中に、リザルト表示を行い、遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知を実行可能であってもよい。ステップA K S 5 0 2では、確変状態や時短状態における70回目の可変表示である場合に、変動パターンP B 1-6～P B 1-9と、変動パターンP B 3-2、P B 3-9と、に対応してリザルト表示用の変動パターンであると判定すればよい。なお、価値報知は、遊技者によって得られた任意の価値に関する情報の提供を含んでいてもよい。

10

20

【0198】

ステップA K S 5 0 2に対応してリザルト表示用の変動パターンである場合に（ステップA K S 5 0 2；Y e s）、リザルト表示制御設定を行う（ステップA K S 5 0 3）。リザルト表示制御設定は、可変表示の実行中に価値報知となるリザルト表示を実行可能に制御するための設定である。例えば、演出制御用C P U 1 2 0は、リザルト表示用に設けられた演出パターンを選択して、可変表示の実行中にリザルト表示を実行可能に設定すればよい。

【0199】

ステップA K S 5 0 3の後に、変動パターンが状態報知演出用のものであるか否かを判定する（ステップA K S 5 0 4）。可変表示の実行中にリザルト表示が行われた場合に、状態報知演出が実行される場合と実行されない場合とがある。状態報知演出は、時短状態において実行可能な可変表示の上限回数が10000回である場合に、可変表示の実行回数が70回に達した後も時短状態が継続することなど、第2状態としての低確高ベース状態である旨の報知を実行する演出である。図9-4に示されたハズレ変動パターンでは、時短中第4最終の変動パターンP B 1-9による可変表示の実行中に、状態報知演出を行い、実行可能な可変表示の上限回数が10000回の時短状態である旨の報知を実行することができる。ステップA K S 5 0 4では、変動パターンP B 1-9に対応して状態報知演出用の変動パターンであると判定すればよい。

30

【0200】

ステップA K S 5 0 4に対応して状態報知演出用の変動パターンである場合に（ステップA K S 5 0 4；Y e s）、状態報知演出制御設定を行う（ステップA K S 5 0 5）。状態報知演出制御設定は、可変表示の実行中に状態報知演出による報知を実行可能に制御するための設定である。例えば、演出制御用C P U 1 2 0は、状態報知演出用に設けられた演出パターンを選択して、可変表示の実行中に状態報知演出を実行可能に設定すればよい。状態報知演出は、例えばプッシュボタン31Bを模したボタン表示の演出画像といった、特定画像の表示を含んでいてもよい。

40

【0201】

ステップA K S 5 0 2に対応してリザルト表示用の変動パターンでない場合（ステップA K S 5 0 2；N o）、ステップA K S 5 0 4に対応して状態放置演出用の変動パターンでない場合（ステップA K S 5 0 4；N o）、またはステップA K S 5 0 5に続いて、そ

50

の他の可変表示中演出を決定する（ステップA K S 5 0 6）。例えば、予告演出の有無や実行する場合の予告演出パターンなどを決定してもよい。その後に、演出制御パターンを決定する（ステップA K S 5 0 7）。例えば、演出制御用C P U 1 2 0は、変動パターン指定コマンドで示された変動パターンなどに対応して、複数用意された演出制御パターン（特図変動時演出制御パターン）のいずれかを選択し、使用パターンとしてセットする。また、演出制御用C P U 1 2 0は、リザルト表示の実行に対応して、予め用意された演出制御パターン（リザルト表示制御パターン）を選択し、使用パターンとしてセットしてもよい。状態報知演出の実行に対応して、予め用意された演出制御パターン（状態報知演出制御パターン）を選択し、使用パターンとしてセットしてもよい。予告演出の実行に対応して、予め用意された演出制御パターン（予告演出制御パターン）を選択し、使用パターンとしてセットしてもよい。なお、特図変動時演出制御パターン、リザルト表示制御パターン、状態報知演出制御パターン、予告演出制御パターン、あるいは、これらの一部または全部として、別個の演出制御パターンをセットするものに限定されず、各演出の実行設定の組合せに対応した1の演出制御パターンをセットするものであってもよい。

10

20

30

40

50

【0202】

ステップA K S 5 0 7の次に、例えば変動パターン指定コマンドにより指定された変動パターンに対応して、演出制御プロセスタイマの初期値を設定する（ステップA K S 5 0 8）。演出制御プロセスタイマは、例えばR A M 1 0 2の所定アドレスに設けられ、演出制御に用いられる計時値を示すデータが格納されて記憶可能である。また、画像表示装置5の画面上にて演出図柄などの変動を開始させるための設定を行う（ステップA K S 5 0 9）。このときには、例えばステップA K S 5 0 7により決定された演出制御パターン（特図変動時演出制御パターン）に含まれる表示制御データを用いて、画像表示装置5の画面上に設けられた「左」、「中」、「右」の各演出図柄表示エリア5 L、5 C、5 Rにて演出図柄の変動を開始させればよい。これに伴い、可変表示の開始に対応して、画像表示装置5の画面上における保留表示を更新するための設定を行う（ステップA K S 5 1 0）。そして、演出プロセスコードを演出図柄変動中処理に対応した値である02 [H]に更新し（ステップA K S 5 1 1）、演出図柄変動開始処理は終了する。

【0203】

図9-27は、演出図柄変動中処理の一例を示すフローチャートである。演出図柄変動中処理において、演出制御用C P U 1 2 0は、例えば演出制御プロセスタイマの計時値などにもとづいて、変動パターンに対応した可変表示時間である特図変動時間が経過したか否かを判定する（ステップA K S 5 2 1）。可変表示時間を計測するために、演出制御プロセスタイマの計時値を1減算更新するなどの更新を行う。ステップA K S 5 2 1では、その更新後における演出制御プロセスタイマの計時値に対応して演出制御パターンから終了コードが読み出されたときなどに、可変表示時間が経過したと判定すればよい。

【0204】

ステップA K S 5 2 1に対応して可変表示時間が経過していない場合に（ステップA K S 5 2 1 ; N o）、予告演出期間であるか否かを判定する（ステップA K S 5 2 2）。予告演出期間は、例えば演出図柄変動開始処理のステップA K S 5 0 7にて決定された演出制御パターン（予告演出制御パターンなど）において、予め定められていればよい。予告演出期間である場合に（ステップA K S 5 2 2 ; Y e s）、予告演出を実行する制御が行われる（ステップA K S 5 2 3）。

【0205】

ステップA K S 5 2 2に対応して予告演出期間でない場合や（ステップA K S 5 2 2 ; N o）、ステップA K S 5 2 3による制御の後に、リザルト表示期間であるか否かを判定する（ステップA K S 5 2 4）。リザルト表示期間は、例えば演出図柄変動開始処理のステップA K S 5 0 7にて決定された演出制御パターン（リザルト表示制御パターンなど）において、予め定められていればよい。リザルト表示期間である場合に（ステップA K S 5 2 4 ; Y e s）、リザルト表示を実行する制御が行われる（ステップA K S 5 2 5）。リザルト表示期間でない場合や（ステップA K S 5 2 4 ; N o）、ステップA K S 5 2 5

による制御の後に、状態報知演出期間であるか否かを判定する（ステップ A K S 5 2 6）。状態報知演出期間は、例えば演出図柄変動開始処理のステップ A K S 5 0 7 にて決定された演出制御パターン（状態報知演出制御パターンなど）において、予め定められていればよい。状態報知演出期間である場合に（ステップ A K S 5 2 6；Y e s）、状態報知演出を実行する制御が行われる（ステップ A S K 5 2 7）。このように、ステップ A K S 5 2 5 の制御が行われることで、可変表示中に価値報知となるリザルト表示を実行可能である。また、ステップ A K S 5 2 7 の制御が行われることで、可変表示中に第 2 状態としての低確高ベース状態である旨の報知が含まれる状態報知演出を実行可能である。

【0206】

ステップ A K S 5 2 6 に対応して状態報知演出期間でない場合や（ステップ A K S 5 2 6；N o）、ステップ A K S 5 2 7 による制御の後に、リーチ演出期間であるか否かを判定する（ステップ A K S 5 2 8）。リーチ演出期間は、例えば演出図柄変動開始処理のステップ A K S 5 0 7 にて決定された演出制御パターン（特図変動時演出制御パターンなど）において、予め定められていればよい。リーチ演出期間である場合に（ステップ A K S 5 2 8；Y e s）、リーチ演出を実行する制御が行われる（ステップ A K S 5 2 9）。リーチ演出期間でない場合や（ステップ A K S 5 2 8；N o）、ステップ A K S 5 2 9 による制御の後に、例えば変動パターンに対応して決定された演出制御パターンにおける設定などにもとづいて、その他、演出図柄の可変表示動作を含めた可変表示中における演出を実行する制御を行い（ステップ A K S 5 3 0）、演出図柄変動中処理は終了する。

【0207】

ステップ A K S 5 2 1 に対応して可変表示時間が経過した場合に（ステップ A K S 5 2 1；Y e s）、主基板 1 1 から送信される演出図柄確定コマンドの受信があったか否かを判定する（ステップ A K S 5 3 1）。このときに、演出図柄確定コマンドの受信がなければ（ステップ A K S 5 3 1；N o）、演出図柄変動中処理を終了して待機する。なお、可変表示時間が経過した後に、演出図柄確定コマンドを受信することなく所定時間が経過したことに対応して、演出図柄確定コマンドを正常に受信できなかったものとし、所定のエラー処理が実行されるようにしてもよい。演出図柄確定コマンドの受信があった場合に（ステップ A K S 5 3 1；Y e s）、演出図柄の可変表示において表示結果となる最終停止図柄を停止表示として導出表示とする制御が行われる（ステップ A K S 5 3 2）。また、大当り開始指定コマンド受信待ち時間として予め定められた時間を設定する（ステップ A K S 5 3 3）。そして、演出プロセスコードを演出図柄変動停止処理に対応した値である 0 3 [H] に更新し（ステップ A K S 5 3 4）、演出図柄変動中処理は終了する。

【0208】

次に、特徴部 2 3 A K に関する各種制御例を説明する。パチンコ遊技機 1 は、高ベース制御が行われている時短状態などの高ベース中に、第 1 特別図柄を用いた特図ゲームが実行され、特図表示結果が「大当り」となる場合がある。このような大当りは、高ベース中第 1 特図大当りともいう。この場合に、図 9-2 に示された大当り種別決定例 A K D 0 1 にもとづいて、高ベース制御が行われる「あり」なので、大当り種別が「通常」に含まれる大当り種別 N A 0 8 と、大当り種別が「確変」に含まれる大当り種別 K A 1 1、K A 1 5 と、のうちのいずれかに決定される。図 9-2 3 に示された大当り終了時設定 A K B 1 1 において、大当り種別 N A 0 8 の場合に時短カウンタ初期値の「570」および演出状態選択指定値の 0 6 [H] が設定され、大当り種別 K A 1 1、K A 1 5 の場合に時短カウンタ初期値の「70」および演出状態選択指定値の 0 6 [H] が設定される。また、大当り種別が「通常」に含まれる大当り種別 N A 0 8 は V 入賞が発生しにくいので、図 9-2 4 に示された大当り終了時設定例 A K B 1 2 において、大当り種別 N A 0 8 の V 入賞なしならば特別期間演出指定値が 0 C [H] に設定される。これに対し、大当り種別が「確変」に含まれる大当り種別 K A 1 1、K A 1 5 は V 入賞が発生しやすいので、図 9-2 5 に示された大当り終了時設定例 A K B 1 3 において、大当り種別 K A 1 1、K A 1 5 の V 入賞ありならば特別期間演出指定値が 0 7 [H] に設定される。

【0209】

図 9-28 は、高ベース中第 1 特図大当りにもとづく演出状態制御例 A K C 0 1 を示している。高ベース中第 1 特図大当りが大当り種別 N A 0 8 の場合に、V 入賞なしに対応して特別演出期間指定値が 0 C [H] に設定され、時短カウンタ初期値が「570」に設定され、演出状態選択指定値が 0 6 [H] に設定される。その後、可変表示の終了に対応して、図 9-18 に示された特別図柄変動処理のステップ A K S 1 3 0 により時短カウンタの計数値が 1 減算更新される。これに伴い、ステップ A K S 1 3 3 にて特別期間演出指定値が 0 0 [H] 以外であると判定され、ステップ A K S 1 3 4 により特別期間演出更新設定が行われる。図 9-19 に示す特別期間演出設定テーブル A K T 0 1 において、特別演出期間指定値が 0 C [H] の場合に、時短カウンタの計数値が「566」になると演出状態選択指定値が 0 8 [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「501」になると演出状態選択指定値が 0 9 [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「500」になると演出状態選択指定値が 0 A [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「1」になると演出状態選択指定値が 0 B [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「0」になると演出状態選択指定値が 0 0 [H] に更新されて初期化される。

10

【0210】

高ベース中第 1 特図大当りが大当り種別 K A 1 1、K A 1 5 のいずれかである場合に、V 入賞ありに対応して特別期間演出指定値が 0 7 [H] に設定され、時短カウンタ初期値が「70」に設定され、演出状態選択指定値が 0 6 [H] に設定される。その後、可変表示の終了に対応して時短カウンタの計数値が 1 減算更新され、特別期間演出更新設定が行われる。図 9-19 に示す特別期間演出設定テーブル A K T 0 1 において、特別演出期間指定値が 0 7 [H] の場合に、時短カウンタの計数値が「66」になると演出状態選択指定値が 0 7 [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「1」になると演出状態選択指定値が 0 C [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「0」になると演出状態選択指定値が 0 0 [H] に更新されて初期化される。

20

【0211】

図 9-6 (A) に示されたハズレ時参照テーブル A K A 0 1 において、演出状態選択指定値に対応した参照テーブルが指定され、異なる参照テーブルを用いて変動パターンを決定可能である。例えば、演出状態選択指定値が 0 6 [H] の場合に参照テーブル T S 0 2 が指定され、演出状態選択指定値が 0 7 [H] の場合に参照テーブル T S 0 3 が指定され、演出状態選択指定値が 0 9 [H] の場合に参照テーブル T S 0 5 が指定され、演出状態選択指定値が 0 A [H] の場合に参照テーブル T S 0 6 が指定され、演出状態選択指定値が 0 B [H] の場合に参照テーブル T S 0 7 が指定され、演出状態選択指定値が 0 C [H] の場合に参照テーブル T S 0 8 が指定される。図 9-6 (C) に示された参照テーブル T S 0 2 では、始動口入賞指定値が「2」の場合に第 2 保留記憶数と対応付けられた選択テーブル T B 2 0、T B 2 1 のいずれかを、変動パターン種別選択テーブルとして指定可能である。図 9-6 (D) に示された参照テーブル T S 0 3 では、始動口入賞指定値が「2」の場合に第 2 保留記憶数と対応付けられた選択テーブル T B 2 2、T B 2 3 のいずれかを、変動パターン種別選択テーブルとして指定可能である。このように、演出状態選択指定値に対応して異なるテーブルデータにより構成される変動パターン種別選択テーブルなどを用いて、変動パターンを決定することができる。

30

40

【0212】

パチンコ遊技機 1 は、高ベース制御が行われている時短状態などの高ベース中に、第 2 特別図柄を用いた特図ゲームが実行され、特図表示結果が「大当り」となる場合がある。このような大当りは、高ベース中第 2 特図大当りともいう。この場合に、図 9-2 に示された大当り種別決定例 A K D 0 1 にもとづいて、大当り種別が「通常」に含まれる大当り種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 と、大当り種別が「確変」に含まれる大当り種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 と、のうちのいずれかに決定される。図 9-23 に示された大当り終了時設定 A K B 1 1 において、大当り種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 の場合に時短カウンタ初期値の「10000」および演出状態選択指定値の 0 6 [H] が設定され、大当り種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 の場合に時短カウンタ初期値の「70」および演出状態選択指定値の 0 6 [H] が設定さ

50

れる。また、大当り種別が「通常」に含まれる大当り種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 は V 入賞が発生しにくいので、図 9 - 2 4 に示された大当り終了時設定例 A K B 1 2 において、大当り種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 の V 入賞なしならば特別期間演出指定値が 0 E [H] に設定される。これに対し、大当り種別が「確変」に含まれる大当り種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 は V 入賞が発生しやすいので、図 9 - 2 5 に示された大当り終了時設定例 A K B 1 3 において、大当り種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 の V 入賞ありならば特別期間演出指定値が 0 7 [H] に設定される。

【 0 2 1 3 】

図 9 - 2 9 は、高ベース中第 2 特図大当りにもとづく演出状態制御例 A K C 0 2 を示している。高ベース中第 2 特図大当りが大当り種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 の場合に、V 入賞なしに対応して特別演出期間指定値が 0 E [H] に設定され、時短カウンタ初期値が「1 0 0 0 0」に設定され、演出状態選択指定値が 0 6 [H] に設定される。その後に、可変表示の終了に対応して時短カウンタの計数値が 1 減算更新され、特別期間演出更新設定が行われる。図 9 - 1 9 に示す特別期間演出設定テーブル A K T 0 1 において、特別演出期間指定値が 0 E [H] の場合に、時短カウンタの計数値が「9 9 9 6」になると演出状態選択指定値が 0 8 [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「9 9 3 1」になると演出状態選択指定値が 0 D [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「9 9 3 0」になると演出状態選択指定値が 0 E [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「0」になると演出状態選択指定値が 0 0 [H] に更新されて初期化される。

【 0 2 1 4 】

高ベース中第 2 特図大当りが大当り種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 の場合に、V 入賞ありに対応して特別期間演出指定値が 0 7 [H] に設定され、時短カウンタ初期値が「7 0」に設定され、演出状態選択指定値が 0 6 [H] に設定される。その後に、可変表示の終了に対応して時短カウンタの計数値が 1 減算更新され、特別期間演出更新設定が行われる。図 9 - 1 9 に示す特別期間演出設定テーブル A K T 0 1 において、特別演出期間指定値が 0 7 [H] の場合に、時短カウンタの計数値が「6 6」になると演出状態選択指定値が 0 7 [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「1」になると演出状態選択指定値が 0 C [H] に更新され、時短カウンタの計数値が「0」になると演出状態選択指定値が 0 0 [H] に更新されて初期化される。

【 0 2 1 5 】

高ベース中第 2 特図大当りが大当り種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 であったことにもとづいて低確高ベース状態に制御され、6 9 回目の可変表示が終了した場合に、時短カウンタの計数値は「9 9 3 1」に更新される。これにより、演出状態選択指定値が 0 D [H] に更新され、続いて 7 0 回目の可変表示が開始されるときに、特図表示結果が「ハズレ」に対応して、図 9 - 6 (A) に示されたハズレ時参照テーブル A K A 0 1 において、参照テーブル T S 0 9 が指定される。図 9 - 7 (E) に示された参照テーブル T S 0 9 は、始動口入賞指定値や第 1 保留記憶数および第 2 保留記憶数によらずテーブル T B 1 5 を、変動パターン種別選択テーブルとして指定可能にする。図 9 - 1 0 (F) に示されたテーブル T B 1 5 は、変動パターン種別 C B 1 - 9 のみを選択可能である。図 9 - 1 4 (I) に示す変動パターン種別 C B 1 - 9 の場合に、変動パターン P B 1 - 9 のみが決定可能になる。こうして、時短カウンタ初期値が「1 0 0 0 0」である低確高ベース状態における 7 0 回目の可変表示に対応して、変動パターン P B 1 - 9 を決定することができる。

【 0 2 1 6 】

高ベース中第 2 特図大当りが大当り種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 であったことにもとづいて高確高ベース状態に制御され、6 9 回目の可変表示が終了した場合に、時短カウンタの計数値は「1」に更新される。これにより、演出状態選択指定値が 0 C [H] に更新され、続いて 7 0 回目の可変表示が開始されるときに、特図表示結果が「ハズレ」に対応して、図 9 - 6 (A) に示されたハズレ時参照テーブル A K A 0 1 において、参照テーブル T S 0 8 が指定される。図 9 - 7 (D) に示された参照テーブル T S 0 8 は、始動口入賞指定値や第 1 保留記憶数および第 2 保留記憶数によらずテーブル T B 1 4 を、変動パターン種

10

20

30

40

50

別選択テーブルとして指定可能にする。図 9-10 (E) に示されたテーブル T B 1 4 は、変動パターン種別 C B 1-8 のみを選択可能である。図 9-14 (H) に示す変動パターン種別 C B 1-8 の場合に、変動パターン P B 1-8 のみが決定可能になる。こうして、時短カウンタ初期値が「70」である高確高ベースにおける 70 回目の可変表示に対応して、変動パターン P B 1-8 を決定することができる。

【0217】

図 9-30 (A) は、演出状態選択指定値 0 C [H]、0 D [H] に対応した可変表示制御例 A K C 1 1 を示している。演出状態選択指定値が 0 C [H] である場合に、遊技状態は高確高ベース状態であり、特図表示結果を含めた可変表示結果が「ハズレ」であれば変動パターン種別 C B 1-8 のみに決定可能であるとともに変動パターン P B 1-8 のみに決定可能である。図 9-4 に示すハズレ変動パターンの構成例において、変動パターン P B 1-8 は、時短中第 3 最終に対応して特図変動時間が 1 2 5 0 0 ミリ秒に設定される。これに対し、演出状態選択指定値が 0 D [H] である場合に、遊技状態は低確高ベース状態であり、特図表示結果を含めた可変表示結果が「ハズレ」であれば変動パターン種別 C B 1-9 のみに決定可能であるとともに変動パターン P B 1-9 のみに決定可能である。図 9-4 に示すハズレ変動パターンの構成例において、変動パターン P B 1-9 は、時短中第 4 最終に対応して特図変動時間が 2 9 9 0 0 ミリ秒に設定される。

【0218】

図 9-26 に示された演出図柄変動開始処理のステップ A K S 5 0 2 では、変動パターン P B 1-8、P B 1-9 のいずれの場合にもリザルト表示用変動パターンであると判定され、ステップ A K S 5 0 3 によるリザルト表示制御設定が行われる。この設定にもとづいて、図 9-27 に示された演出図柄変動中処理のステップ A K S 5 2 5 では、リザルト表示を実行するための制御が行われ、遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知としてのリザルト表示が実行可能となる。また、図 9-26 に示された演出図柄変動開始処理のステップ A K S 5 0 4 では、変動パターン P B 1-9 の場合に状態報知演出用変動パターンであると判定され、ステップ A K S 5 0 5 による状態報知演出制御設定が行われる。この設定にもとづいて、図 9-27 に示された演出図柄変動中処理のステップ A K S 5 2 7 では、状態報知演出を実行するための制御が行われ、時短カウンタ初期値が「10000」の設定にもとづく低確高ベース状態である旨の報知が実行される。

【0219】

以上により、高ベース制御により第 2 特別図柄を用いた特図ゲームが通常状態に比べて実行されやすい低確高ベース状態や高確高ベース状態は、例えば大当たり種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 に対応して大当たり遊技状態の終了後に時短カウンタ初期値が第 1 回数としての「70」に対応した 70 回の可変表示が実行されるまで制御可能な高確高ベース状態と、大当たり種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 に対応して大当たり遊技状態の終了後に時短カウンタ初期値が第 1 回数よりも多い第 2 回数としての「10000」に対応した 10000 回の可変表示が実行されるまで制御可能な低確高ベース状態と、を含む。このときの高確高ベース状態は第 1 状態に対応し、低確高ベース状態は第 2 状態に対応する。このうち高確高ベース状態中における可変表示の実行回数が第 1 回数としての「70」であることに対応して変動パターン P B 1-8 を決定可能であり、低確高ベース状態中における可変表示の実行回数が第 1 回数としての「70」であることに対応して変動パターン P B 1-9 を決定可能である。このときの変動パターン P B 1-8 は第 1 可変表示パターンに対応し、変動パターン P B 1-9 は第 2 可変表示パターンに対応する。そして、変動パターン P B 1-8 による可変表示中に価値報知となるリザルト表示を実行する。また、変動パターン P B 1-9 による可変表示中に価値報知となるリザルト表示および低確低ベース状態に関する報知を含む状態報知演出を実行する。ここで、特図変動時間を比較すると、変動パターン P B 1-9 における 2 9 9 0 0 ミリ秒の方が、変動パターン P B 1-8 における 1 2 5 0 0 ミリ秒よりも長い時間となる。これにより、第 1 可変表示パターンに対応する変動パターン P B 1-8 と第 2 可変表示パターンに対応する変動パターン P B 1-9 とで、特図変動時間や報知内容を異ならせて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0220】

加えて、第1状態に対応する高確高ベース状態中と第2状態に対応する低確高ベース状態中とで、可変表示の回数が第1回数としての「70」である場合に、それぞれ、変動パターン種別CB1-8と変動パターン種別CB1-9とに対応した異なる決定用データとなる変動パターン決定テーブルのテーブルデータを用いて、変動パターンを決定可能である。このように、異なる決定用データを用いて変動パターンが決定されるので、第1回数に対応した70回目の可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0221】

可変表示制御例AKC11において、第1状態に対応する高確高ベース状態において可変表示の実行回数が第1回数としての「70」である場合に、特図表示結果が「ハズレ」に対応して決定可能な変動パターンPB1-8は、第1非特定パターンに対応する。また、第2状態に対応する低確高ベース状態において可変表示の実行回数が第1回数としての「70」である場合に、特図表示結果が「ハズレ」に対応して決定可能な変動パターンPB1-9は、第2非特定パターンに対応する。そして、第1非特定パターンに対応する変動パターンPB1-8は特図変動時間が12500ミリ秒であり、第2非特定パターンに対応する変動パターンPB1-9は特図変動時間が2倍以上の期間となる29900ミリ秒である。変動パターンPB1-8、PB1-9のいずれの場合にもリザルト表示用変動パターンであるので、それぞれの可変表示中に価値報知となるリザルト表示が実行される。さらに、変動パターンPB1-9の場合に状態報知演出用変動パターンであるので、その可変表示中に第2状態としての低確高ベース状態である旨の報知が実行される。これにより、第1回数に対応した70回目の可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0222】

図9-30(B)は、大当たり種別NA09~NA11と、大当たり種別KA12~KA15と、に対応した大当たり制御例AKC12を示している。図9-21に示された大当たり開始時設定例AKB02において、大入賞口開放回数最大値は、大当たり種別NA09に対応して「02」に、大当たり種別NA10に対応して「04」に、大当たり種別NA11に対応して「07」に、大当たり種別KA12に対応して「02」に、大当たり種別KA13に対応して「04」に、大当たり種別KA14に対応して「07」に、大当たり種別KA15に対応して「10」に、それぞれ設定される。また、図9-23に示された大当たり終了時設定例AKB11において、時短カウンタ初期値は、大当たり種別NA09~NA11に対応して「10000」に、大当たり種別KA12~KA15に対応して「70」に、それぞれ設定される。そして、時短カウンタ初期値が「10000」に設定されるのは大当たり種別NA09~NA11のうちのいずれかである場合に限られ、他の大当たり種別では設定されない。図9-2に示された大当たり種別決定例AKD01では、高ベース制御が行われる「あり」および第2特別図柄を用いた特図ゲームが実行される始動口入賞指定値「2」に対応して、大当たり種別NA09~NA11に決定可能である。これに対し、高ベース制御が行われない「なし」および始動口入賞指定値「2」に対応して、大当たり種別NA09~NA11に決定されない。また、高ベース制御が「なし」の場合と「あり」の場合とで、第1特別図柄を用いた特図ゲームが実行される始動口入賞指定値「1」に対応して、大当たり種別NA09~NA11に決定されない。

【0223】

以上により、高ベース制御が行われている時短状態などの高ベース中に、第2特別図柄を用いた特図ゲームの特図表示結果が「大当たり」となったことにもとづいて、時短カウンタ初期値が「10000」の設定に対応する第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合がある。その一方で、高ベース制御が行われていない低ベース中に、第2特別図柄を用いた特図ゲームの特図表示結果が「大当たり」となったことにもとづいて、第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合がない。また、高ベース中の場合と低ベース中の場合とで、第1特別図柄を用いた特図ゲームの特図表示結果が「大当たり」となったこ

10

20

30

40

50

とにもとづいて、第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合がない。このように、高ベース制御の有無や表示結果が「大当たり」となった特別図柄に対応した制御により、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0224】

大当たり制御例AKC12において、大入賞口開放回数最大値が「10」に設定されるのは大当たり種別KA15の場合である。その他の大当たり種別NA09～NA11や大当たり種別KA12～KA14の場合に、大入賞口開放回数最大値は「10」よりも少なくなる。大当たり種別NA09～NA11と、大当たり種別KA12～KA15とは、いずれも高ベース制御が行われる「あり」および第2特別図柄を用いた特図ゲームが実行される始動口入賞指定値「2」に対応して決定可能である。このように、高ベース制御が行われている時短状態などの高ベース中に、第2特別図柄を用いた特図ゲームの特図表示結果が「大当たり」となったことにもとづいて制御可能な大当たり遊技状態は、10ラウンド大当たりとなる大当たり種別KA15に対応する第1大当たり遊技状態と、10ラウンド大当たりよりもラウンドの回数が少ない大当たり種別NA09～NA11と大当たり種別KA12～KA14とに対応する第2大当たり遊技状態と、を含む。大当たり種別KA15に対応する第1大当たり遊技状態の終了後に、時短カウンタ初期値が「70」の設定にもとづく第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合があり、時短カウンタ初期値が「10000」の設定にもとづく第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合がない。これに対し、大当たり種別NA09～NA11と大当たり種別KA12～KA14とに対応する第2大当たり遊技状態の終了後に、時短カウンタ初期値が「70」の設定にもとづく第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、時短カウンタ初期値が「10000」の設定にもとづく第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合と、がある。これにより、ラウンドの回数が少ない第2大当たり遊技状態である場合に、第2状態として時短カウンタ初期値が多い低確高ベース状態に制御される場合があることで、遊技者の不利益を防止するとともに、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0225】

大当たり制御例AKC12において、大入賞口開放回数最大値が「10」に設定されるのは大当たり種別KA15の場合であり、大入賞口開放回数最大値が「07」に設定されるのは大当たり種別NA11、KA14の場合であり、大入賞口開放回数最大値が「04」に設定されるのは大当たり種別NA10、KA13の場合である。このうち、大当たり種別KA15である場合の大当たり遊技状態は第1大当たり遊技状態に対応し、大当たり種別NA11、KA14である場合の大当たり遊技状態は第1大当たり遊技状態よりもラウンドの回数が少ない第2大当たり遊技状態に対応し、大当たり種別NA10、KA13である場合の大当たり遊技状態は第2大当たり遊技状態よりもラウンドの回数が少ない第3大当たり遊技状態に対応する。大当たり種別NA10、NA11と、大当たり種別KA13～KA15とは、いずれも高ベース制御が行われる「あり」および第2特別図柄を用いた特図ゲームが実行される始動口入賞指定値「2」に対応して決定可能である。このように、高ベース制御が行われている時短状態などの高ベース中に、第2特別図柄を用いた特図ゲームの特図表示結果が「大当たり」となったことにもとづいて制御可能な大当たり遊技状態は、10ラウンド大当たりとなる大当たり種別KA15に対応する第1大当たり遊技状態と、10ラウンド大当たりよりもラウンドの回数が少ない7ラウンド大当たりとなる大当たり種別NA11、KA14に対応する第2大当たり遊技状態と、7ラウンド大当たりよりもラウンドの回数が少ない4ラウンド大当たりとなる大当たり種別NA10、KA13に対応する第3大当たり遊技状態と、を含む。大当たり種別KA15に対応する第1大当たり遊技状態の終了後に、時短カウンタ初期値が「70」の設定にもとづく第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合があり、時短カウンタ初期値が「10000」の設定にもとづく第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合がない。これに対し、大当たり種別NA10、NA11と大当たり種別KA13、KA14とに対応する第2大当たり遊技状態の終了後に、時短カウンタ初期値が「70」の設定にもとづく第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、時短カウンタ初期値が「10000」の設定にもとづく第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合

と、がある。そして、大当り種別 K A 1 3 の高ベース中決定率は 2 5 % であり、大当り種別 K A 1 4 の高ベース中決定率である 3 1 % よりも低くなっている。その一方で、大当り種別 N A 1 0、N A 1 1 の高ベース中決定率は、いずれも 2 % である。したがって、4 ラウンド大当りに対応する第 3 大当り遊技状態の終了後には、7 ラウンド大当りに対応する第 2 大当り遊技状態の終了後よりも高い割合で、第 2 状態として時短カウンタ初期値が「1 0 0 0 0」の設定にもとづく第 2 状態としての低確高ベース状態に制御可能である。これにより、ラウンドの回数が少ない第 3 大当り遊技状態である場合に、第 2 状態として時短カウンタ初期値が多い低確高ベース状態に制御される割合が高くなることで、遊技者の不利益を防止するとともに、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0 2 2 6】

図 9 - 8 に示された大当り時参照テーブル T S 2 1 において、演出状態選択指定値が 0 7 [H] の場合に、大当り種別 N A 1 0、K A 1 3 のいずれかであればテーブル T B 3 2 が変動パターン種別選択テーブルに指定され、大当り種別 N A 1 1、K A 1 4 のいずれかであればテーブル T B 3 3 が変動パターン種別選択テーブルに指定される。図 9 - 1 1 (F) に示されたテーブル T B 3 2 は、変動パターン種別 C B 3 - 3 のみを選択可能である。図 9 - 1 1 (G) に示されたテーブル T B 3 3 は、変動パターン種別 C B 3 - 4 のみを選択可能である。このように、大当り種別 N A 1 0 と大当り種別 K A 1 3 とに対応して、4 ラウンド大当りとなる場合に、図 9 - 1 5 (C) に示された変動パターン種別 C B 3 - 3 における変動パターン決定テーブルを用いて変動パターンが決定される。また、大当り種別 N A 1 1 と大当り種別 K A 1 4 とに対応して、7 ラウンド大当りとなる場合に、図 9 - 1 5 (D) に示された変動パターン種別 C B 3 - 4 における変動パターン決定テーブルを用いて、変動パターンが決定される。したがって、7 ラウンド大当りに対応する第 2 大当り遊技状態の終了後に第 1 状態としての高確高ベース状態に制御される場合と第 2 状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の変動パターン種別 C B 3 - 4 における変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータが用いられて変動パターンを決定可能である。また、4 ラウンド大当りに対応する第 3 大当り遊技状態の終了後に第 1 状態としての高確高ベース状態に制御される場合と第 2 状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の変動パターン種別 C B 3 - 3 における変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータが用いられて変動パターンを決定可能である。ここで、変動パターン種別 C B 3 - 4 における変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータは第 1 データに対応し、変動パターン種別 C B 3 - 3 における変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータは第 2 データに対応する。このように、共通の変動パターン種別に対応したデータを用いて変動パターンを決定することにより、可変表示の共通性を高めて高確高ベース状態となるか低確高ベース状態となるかを認識しにくくすることで、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0 2 2 7】

図 9 - 3 0 (C) は、大当り種別 N A 0 9 ~ N A 1 1 と、大当り種別 K A 1 2 ~ K A 1 5 と、に対応した大当り時演出制御例 A K C 1 3 を示している。大当り時演出制御例 A K C 1 3 においても、大当り制御例 A K C 1 2 と同様に、大入賞口開放回数が「1 0」に設定されるのは大当り種別 K A 1 5 の場合であり、大入賞口開放回数が「0 7」に設定されるのは大当り種別 N A 1 1、K A 1 4 の場合であり、大入賞口開放回数が「0 4」に設定されるのは大当り種別 N A 1 0、K A 1 3 の場合である。このうち、大当り種別 K A 1 5 である場合の大当り遊技状態は第 1 大当り遊技状態に対応し、大当り種別 N A 1 1、K A 1 4 である場合の大当り遊技状態は第 1 大当り遊技状態よりもラウンドの回数が少ない第 2 大当り遊技状態に対応し、大当り種別 N A 1 0、K A 1 3 である場合の大当り遊技状態は第 2 大当り遊技状態よりもラウンドの回数が少ない第 3 大当り遊技状態に対応する。図 9 - 2 1 に示された大当り開始時設定例 A K B 0 2 において、大当り開始演出パターンは、大当り種別 N A 1 0、K A 1 3 に対応して共通のパターン A P A 3 3 に、大当り種別 N A 1 1、K A 1 4 に対応して共通のパターン A P A 3 4 に、それぞれ設定される。したがって、7 ラウンド大当りに対応する第 2 大当り遊技状態が開始されるときに、その大当り

10

20

30

40

50

遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり開始演出パターンA P A 3 4による大当たり開始演出を実行可能である。また、4ラウンド大当たりに対応する第3大当たり遊技状態が開始されるときに、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり開始演出パターンA P A 3 3による大当たり開始演出を実行可能である。このように、共通の大当たり開始演出パターンによる大当たり開始演出を実行することにより、大当たり開始演出が実行された場合に高確高ベース状態となるか低確高ベース状態となるかを認識しにくくすることで、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

10

【0228】

大当たり時演出制御例A K C 1 3において、大当たり中演出パターンは、大当たり種別N A 1 0、K A 1 3に対応して共通のパターンA P B 3 3に、大当たり種別N A 1 1、K A 1 4に対応して共通のパターンA P B 3 4に、それぞれ設定される。したがって、7ラウンド大当たりに対応する第2大当たり遊技状態において、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり中演出パターンA P B 3 4による大当たり中演出を実行可能である。また、4ラウンド大当たりに対応する第3大当たり遊技状態において、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり中演出パターンA P B 3 3による大当たり中演出を実行可能である。大当たり中演出パターンA P B 3 3による大当たり中演出や、大当たり中演出パターンA P B 3 4による大当たり中演出は、それぞれの大当たり遊技状態に対応して実行可能なラウンドに対応して実行される演出を含んでいればよい。したがって、7ラウンド大当たりに対応する第2大当たり遊技状態におけるラウンドが実行される場合に、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり中演出パターンA P B 3 4による大当たり中演出を実行可能である。また、4ラウンド大当たりに対応する第3大当たり遊技状態におけるラウンドが実行される場合に、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり中演出パターンA P B 3 3による大当たり中演出を実行可能である。このように、共通の大当たり中演出パターンによる大当たり中演出を実行することにより、大当たり中演出が実行された場合に高確高ベース状態となるか低確高ベース状態となるかを認識しにくくすることで、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

20

30

【0229】

大当たり時演出制御例A K C 1 3において、大当たり終了演出パターンは、大当たり種別N A 1 0、K A 1 3に対応して共通のパターンA P C 3 3に、大当たり種別N A 1 1、K A 1 4に対応して共通のパターンA P C 3 4に、それぞれ設定される。したがって、7ラウンド大当たりに対応する第2大当たり遊技状態が終了するときに、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり終了演出パターンA P C 3 4による大当たり終了演出を実行可能である。また、4ラウンド大当たりに対応する第3大当たり遊技状態が終了するときに、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり終了演出パターンA P C 3 3による大当たり終了演出を実行可能である。したがって、7ラウンド大当たりに対応する第2大当たり遊技状態が終了するときに、その大当たり遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当たり遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当たり終了演出パターンA P C 3 4による大当

40

50

り終了演出を実行可能である。また、4ラウンド大当りに対応する第3大当り遊技状態が終了するときに、その大当り遊技状態の終了後に第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合と、その大当り遊技状態の終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、共通の大当り終了演出パターンA P B 3 3による大当り終了演出を実行可能である。このように、共通の大当り終了演出パターンによる大当り終了演出を実行することにより、大当り終了演出が実行された場合に高確高ベース状態となるか低確高ベース状態となるかを認識しにくくすることで、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0230】

図9-31は、演出状態選択指定値が07[H]または08[H]の場合に、特図表示結果が「大当り」にもとづく可変表示制御例AKC21を示している。図9-8に示された大当り時参照テーブルTS21において、演出状態選択指定値が07[H]の場合に、変動パターン種別選択テーブルは、大当り種別NA09、KA12に対応してテーブルTB31が、大当り種別NA10、KA13に対応してテーブルTB32が、大当り種別NA11、KA14に対応してテーブルTB33が、大当り種別KA15に対応してテーブルTB34が、それぞれ指定される。また、図9-8に示された大当り時参照テーブルTS21において、演出状態選択指定値が08[H]の場合に、変動パターン種別選択テーブルは、大当り種別NA09、KA12に対応してテーブルTB35が、大当り種別NA10、KA13に対応してテーブルTB36が、大当り種別NA11、KA14に対応してテーブルTB37が、大当り種別KA15に対応してテーブルTB38が、それぞれ指定される。

【0231】

図9-11(E)に示されたテーブルTB31および図9-11(I)に示されたテーブルTB35は、変動パターン種別CB3-2のみを選択可能である。図9-11(F)に示されたテーブルTB32および図9-11(J)に示されたテーブルTB36は、変動パターン種別CB3-3のみを選択可能である。図9-11(G)に示されたテーブルTB33および図9-11(K)に示されたテーブルTB37は、変動パターン種別CB3-4のみを選択可能である。図9-11(H)に示されたテーブルTB34および図9-11(L)に示されたテーブルTB38は、変動パターン種別CB3-5のみを選択可能である。図9-15(B)に示された変動パターン種別CB3-2の場合に、変動パターンPB3-1、PB3-2のいずれかに決定可能である。図9-15(C)に示された変動パターン種別CB3-3の場合および図9-15(D)に示された変動パターン種別CB3-4の場合に、変動パターンPB3-2~PB3-8のうちのいずれかに決定可能である。図9-15(E)に示された変動パターン種別CB3-5の場合に、変動パターンPB3-9~PB3-11のうちのいずれかに決定可能である。

【0232】

可変表示制御例AKC21において、大入賞口開放回数最大値が「10」に設定されるのは大当り種別KA15の場合であり、大入賞口開放回数最大値が「07」に設定されるのは大当り種別NA11、KA14の場合であり、大入賞口開放回数最大値が「04」に設定されるのは大当り種別NA10、KA13の場合であり、大入賞口開放回数最大値が「02」に設定されるのは大当り種別NA09、KA12の場合である。このうち、大当り種別KA15である場合の大当り遊技状態は第1大当り遊技状態に対応し、大当り種別NA10、NA11、KA13、KA14である場合の大当り遊技状態は第1大当り遊技状態よりもラウンドの回数が少ない第2大当り遊技状態に対応し、大当り種別NA09、KA12である場合の大当り遊技状態は第2大当り遊技状態よりもラウンドの回数が少ない第3大当り遊技状態に対応し得る。大当り種別NA09~NA11と、大当り種別KA12~KA15とは、いずれも高ベース制御が行われる「あり」および第2特別図柄を用いた特図ゲームが実行される始動口入賞指定値「2」に対応して決定可能である。このように、高ベース制御が行われている時短状態などの高ベース中に、第2特別図柄を用いた特図ゲームの特図表示結果が「大当り」となったことにもとづいて制御可能な大当り遊技

10

20

30

40

50

状態は、10ラウンド大当たりとなる大当たり種別KA15に対応する第1大当たり遊技状態と、10ラウンド大当たりよりもラウンドの回数が少ない7ラウンド大当たりとなる大当たり種別NA11、KA14あるいは4ラウンド大当たりとなる大当たり種別NA10、KA13に対応する第2大当たり遊技状態と、7ラウンド大当たりや4ラウンド大当たりよりもラウンドの回数が少ない2ラウンド大当たりとなる大当たり種別NA09、KA12に対応する第3大当たり遊技状態と、を含む。

【0233】

第2大当たり遊技状態としての7ラウンド大当たりや4ラウンド大当たりに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な変動パターンは、大当たり種別NA10、NA11、KA13、KA14に対応して決定可能な変動パターンPB3-2~PB3-8である。そして、大当たり種別NA10、NA11のいずれかであれば、第2大当たり遊技状態の終了後に時短カウンタ初期値が「10000」の設定にもとづく第2状態としての低確高ベース状態に制御可能である。これに対し、第3大当たり遊技状態としての2ラウンド大当たりに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な変動パターンは、大当たり種別NA09、KA12に対応して決定可能な変動パターンPB3-1、PB3-2である。そして、大当たり種別NA09であれば、第3大当たり遊技状態の終了後に時短カウンタ初期値が「10000」の設定にもとづく第2状態としての低確高ベース状態に制御可能である。このような大当たり種別NA09に対応して決定可能な変動パターンに含まれる変動パターンPB3-1は、特図変動時間が2500ミリ秒であり、大当たり種別NA10、NA11に対応して決定可能な変動パターンに含まれる変動パターンPB3-3~PB3-8よりも、可変表示期間が短くなる。言い換えると、大当たり種別NA10、NA11に対応して決定可能な変動パターンに含まれる変動パターンPB3-3~PB3-8は、大当たり種別NA09に対応して決定可能な変動パターンに含まれる変動パターンPB3-1よりも、可変表示期間が長くなる。これにより、可変表示期間が長い変動パターンである場合に、ラウンドの回数が第3大当たり遊技状態よりも多い第2大当たり遊技状態に制御される期待感を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0234】

また、大当たり種別NA09に対応して決定可能な変動パターンに含まれる変動パターンPB3-2は、大当たり種別NA10、NA11に対応して決定可能な変動パターンにも含まれる。大当たり種別NA09の場合に、第3大当たり遊技状態としての2ラウンド大当たりが終了した後に、第2状態としての低確高ベース状態に制御可能である。大当たり種別NA10、NA11の場合に、第2大当たり遊技状態としての4ラウンド大当たりや7ラウンド大当たりが終了した後に、第2状態としての低確高ベース状態に制御可能である。このように、第2大当たり遊技状態である4ラウンド大当たりや7ラウンド大当たりの終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合と、第3大当たり遊技状態である2ラウンド大当たりの終了後に第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合とで、変動パターンPB3-2といった、共通の変動パターンを決定可能である。これにより、特定の可変表示期間となる変動パターンである場合に、第2大当たり遊技状態となるか第3大当たり遊技状態となるかを認識しにくくすることで、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0235】

高ベース中第2特図大当たりにもとづく大当たり遊技状態の終了に対応して、特別期間演出指定値は、大当たり種別NA09~NA11の場合に時短カウンタ初期値が「10000」に設定されてV入賞なしならば特別期間演出指定値が0E[H]に設定され、大当たり種別KA12~KA15の場合に時短カウンタ初期値が「70」に設定されてV入賞ありならば特別期間演出指定値が07[H]に設定される。時短カウンタ初期値が「70」の高確高ベース状態は第1状態に対応し、時短カウンタ初期値が「10000」の低確高ベース状態は第2状態に対応する。特別期間演出指定値を示すデータは、特別期間演出バッファに格納して記憶される。図9-24に示された大当たり終了時設定例AKB12において、大当たり種別NA09~NA11でV入賞なしの場合に、大当たり後背景指定としてコマンド

9505 [H] を示すコマンドデータが背景指定コマンドバッファなどに格納されて送信可能となる。図9-25に示された大当たり終了時設定例AKB13において、大当たり種別KA12~KA15でV入賞ありの場合に、大当たり後背景指定としてコマンド9506 [H] を示すコマンドデータが背景指定コマンドバッファなどに格納されて送信可能となる。背景指定コマンドとして、コマンド9505 [H] が送信された場合とコマンド9506 [H] が送信された場合とで、高ベース制御が行われている時短状態や確変状態などの高ベース中であることに対応して、共通の演出画像を用いて背景表示が行われてもよい。

【0236】

以上により、大当たり遊技状態の終了に対応して、計数情報となる特別期間演出指定値を示すデータを設定可能であり、第1状態としての高確高ベース状態に制御される場合に特別期間演出指定値として07 [H] を設定し、第2状態としての低確高ベース状態に制御される場合に特別期間演出指定値として0E [H] を設定する。また、第1状態に対応する高確高ベース状態中と、第2状態に対応する低確高ベース状態中とで、背景指定コマンドにもとづいて共通の演出画像を用いた背景表示が可能である。このように、共通の背景画像となる演出画像の表示にもとづいて高確高ベース状態中であるか低確高ベース状態中であるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0237】

高ベース中第2特図大当たりにもとづく大当たり遊技状態の終了に対応して、演出状態選択指定値は、大当たり種別NA09~NA11の場合と大当たり種別KA12~KA15の場合とで、共通の値である06 [H] に設定される。その後、大当たり種別NA09~NA11にもとづく低確高ベース状態中には演出状態選択指定値が08 [H] に更新され、大当たり種別KA12~KA15にもとづく高確高ベース状態中には演出状態選択指定値が07 [H] に更新される。演出状態選択指定値が06 [H] の場合に、特図表示結果が「ハズレ」に対応して、図9-6 (A) に示されたハズレ時参照テーブルAKA01において、参照テーブルTS02が指定される。演出状態選択指定値が07 [H] の場合に、特図表示結果が「ハズレ」に対応して、図9-6 (A) に示されたハズレ時参照テーブルAKA01において、参照テーブルTS03が指定される。演出状態選択指定値が08 [H] の場合に、特図表示結果が「ハズレ」に対応して、図9-6 (A) に示されたハズレ時参照テーブルAKA01において、参照テーブルTS04が指定される。図9-6 (D) に示された参照テーブルTS03は、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第2保留記憶数に対応してテーブルTB22、TB23のいずれかを変動パターン種別選択テーブルとして指定可能である。図9-6 (E) に示された参照テーブルTS04は、始動口入賞指定値が「2」の場合に、第2保留記憶数に対応してテーブルTB24、TB25のいずれかを変動パターン種別選択テーブルに指定可能である。図9-10 (I) に示されたテーブルTB22および図9-10 (J) に示されたテーブルTB23の場合と、図9-10 (K) に示されたテーブルTB24の場合および図9-10 (L) に示されたテーブルTB25の場合とは、いずれも変動パターン種別CB1-2~CB1-4、CB2-1が決定可能になる。特に、変動パターン種別CB1-4、CB2-1は、テーブルTB22~TB25のいずれが指定された場合にも決定可能になる。

【0238】

以上により、第1状態に対応する高確高ベース状態中と第2状態に対応する低確高ベース状態中とで、可変表示の回数が第1回数としての「70」未満である場合に、例えば変動パターン種別CB1-4、CB2-1などに対応した共通の決定用データとなる変動パターン決定テーブルのテーブルデータを用いて、変動パターンを決定可能である。このように、共通の決定用データを用いて変動パターンが決定されるので、可変表示の共通性を高めて高確高ベース状態中であるか低確高ベース状態中であるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0239】

可変表示制御例AKC21において、各大当たり種別に対応した平均変動時間は、それぞれ

れの大当り種別に対応した決定可能パターンの特図変動時間と決定割合とから求めることができる。より具体的に、決定可能パターンごとに特図変動時間と決定割合とを乗算した値を、大当り種別に対応する複数の決定可能パターンについて加算することで、各大当り種別に対応した平均変動時間を得ることができる。例えば、大当り種別 N A 0 9、K A 1 2 に対応して 3 9 0 0 ミリ秒となり、大当り種別 N A 1 0、K A 1 3 に対応して 1 6 1 9 0 ミリ秒となり、大当り種別 N A 1 1、K A 1 4 に対応して 1 6 7 4 0 ミリ秒となり、大当り種別 K A 1 5 に対応して 2 0 9 6 0 ミリ秒となる。第 1 大当り遊技状態としての 1 0 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な変動パターンは、大当り種別 K A 1 5 に対応して決定可能な変動パターン P B 3 - 9 ~ P B 3 - 1 1 である。第 2 大当り遊技状態としての 7 ラウンド大当りや 4 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な変動パターンは、大当り種別 N A 1 0、N A 1 1、K A 1 3、K A 1 4 に対応して決定可能な変動パターン P B 3 - 2 ~ P B 3 - 8 である。第 3 大当り遊技状態としての 2 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な変動パターンは、大当り種別 N A 0 9、K A 1 2 に対応して決定可能な変動パターン P B 3 - 1、P B 3 - 2 である。このように、第 1 大当り遊技状態としての 1 0 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間である 2 0 9 6 0 ミリ秒は、第 2 大当り遊技状態としての 7 ラウンド大当りや 4 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間である 1 6 7 4 0 ミリ秒や 1 6 1 9 0 ミリ秒よりも、可変表示期間が長くなるように設定される。また、第 2 大当り遊技状態としての 7 ラウンド大当りや 4 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間は、第 3 大当り遊技状態としての 2 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間である 3 9 0 0 ミリ秒よりも、可変表示期間が長くなるように設定される。これにより、可変表示期間が長い変動パターンである場合に、ラウンドの回数が第 3 大当り遊技状態よりも多い第 2 大当り遊技状態に制御される期待感を高め、また、ラウンドの回数が第 2 大当り遊技状態よりも多い第 1 大当り遊技状態に制御される期待感を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

10

20

30

40

50

【 0 2 4 0 】

図 9 - 3 2 は、演出状態選択指定値が 0 7 [H] または 0 8 [H] の場合に、大当り遊技状態に制御する契機となる可変表示に関する可変表示制御例 A K C 2 2 を示している。可変表示制御例 A K C 2 2 では、大当り遊技状態に制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な変動パターンの全体についての平均変動時間が示されている。こうした変動パターンの全体についての平均変動時間は、可変表示制御例 A K C 2 1 において求めた各大当り種別に対応した平均変動時間と各大当り種別の高ベース中決定率とから求めることができる。より具体的に、大当り種別ごとの平均変動時間と決定割合とを乗算した値を、すべての大当り種別について加算することで、全体についての平均変動時間を得ることができる。これにより、可変表示制御例 A K C 2 2 では、全体についての平均変動時間が 1 2 6 5 0 ミリ秒となる。この場合に、第 1 大当り遊技状態としての 1 0 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間である 2 0 9 6 0 ミリ秒は、全体についての平均変動時間である 1 2 6 5 0 ミリ秒よりも、可変表示期間が長くなるように設定される。また、第 2 大当り遊技状態としての 7 ラウンド大当りや 4 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間である 1 6 7 4 0 ミリ秒や 1 6 1 9 0 ミリ秒は、全体についての平均変動時間である 1 2 6 5 0 ミリ秒よりも、可変表示期間が長くなるように設定される。これに対し、第 3 大当り遊技状態としての 2 ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間である 3 9 0 0 ミリ秒は、全体についての平均変動時間である 1 2 6 5 0 ミリ秒よりも、可変表示期間が短くなるように設定される。これにより、可変表示期間が長い変動パターンである場合に、ラウンドの回数が第 3 大当り遊技状態よりも多い第 2 大当り遊技状態に制

御される期待感を高め、また、ラウンドの回数が第2大当り遊技状態よりも多い第1大当り遊技状態に制御される期待感を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0241】

図9-33(A)は、演出状態選択指定値07[H]、08[H]、0C[H]、0D[H]に対応した可変表示制御例AKC31を示している。演出状態選択指定値が07[H]である場合に、遊技状態は高確高ベース状態であり、特別図柄の可変表示結果である特図表示結果が「ハズレ」に対応して変動パターン種別CB2-1を選択可能である。また、演出状態選択指定値が08[H]である場合に、遊技状態は低確高ベース状態であり、特別図柄の可変表示結果である特図表示結果が「ハズレ」に対応して変動パターン種別CB2-1を選択可能である。そして、変動パターン種別CB2-1は、決定可能な変動パターンとして変動パターンPB2-2、PB2-3を含んでいる。

10

【0242】

図9-4に示されたハズレ変動パターンの構成例において、変動パターンPB2-2は、可変表示中に第2可変表示演出となるスーパーリーチSPEのリーチ演出を実行し、特図変動時間が16500ミリ秒である。これに対し、変動パターンPB2-3は、可変表示中に第1可変表示演出となるスーパーリーチSPFのリーチ演出を実行し、特図変動時間が35500ミリ秒である。また、図9-5に示された大当り変動パターンの構成例において、第2可変表示演出となるスーパーリーチSPEのリーチ演出は変動パターンPB3-3の可変表示中に実行され、第1可変表示演出となるスーパーリーチSPFのリーチ演出は変動パターンPB3-4の可変表示中に実行される。一方において、図9-14(J)に示された変動パターン種別CB2-1あるいは図9-14(K)に示された変動パターン種別CB2-2の場合に、変動パターンPB2-2の決定割合よりも、変動パターンPB2-3の決定割合が低くなるように設定される。他方において、図9-16(D)に示された変動パターンCB4-4あるいは図9-16(E)に示された変動パターン種別CB4-5の場合に、変動パターンPB3-3の決定割合よりも、変動パターンPB3-4の決定割合が高くなるように設定される。このような設定により、第1可変表示演出となるスーパーリーチSPFのリーチ演出は大当り遊技状態に制御される割合が高く、第2可変表示演出となるスーパーリーチSPEのリーチ演出は大当り遊技状態に制御される割合がスーパーリーチSPFのリーチ演出よりも低くなる。

20

30

【0243】

可変表示制御例AKC31では、演出状態選択指定値が0C[H]である場合に、遊技状態は高確高ベース状態であり、特別図柄の可変表示結果である特図表示結果が「ハズレ」に対応して変動パターン種別CB1-8を、特図表示結果が「大当り」に対応して変動パターン種別CB4-1、CB4-2を、それぞれ選択可能である。また、演出状態選択指定値が0D[H]である場合に、遊技状態は低確高ベース状態であり、特別図柄の可変表示結果である特図表示結果が「ハズレ」に対応して変動パターン種別CB1-9を、特図表示結果が「大当り」に対応して変動パターン種別CB4-1、CB4-2を、それぞれ選択可能である。そして、変動パターン種別CB1-8の場合に変動パターンPB1-8に決定可能であり、変動パターン種別CB1-9の場合に変動パターンPB1-9に決定可能であり、変動パターン種別CB4-1の場合に変動パターンPB3-2に決定可能であり、変動パターン種別CB4-2の場合に変動パターンPB3-9に決定可能である。

40

【0244】

第2特別パターンに対応する変動パターンPB2-2の特図変動時間は16500ミリ秒であり、第1特別パターンに対応する変動パターンPB2-3の特図変動時間である35500ミリ秒よりも、可変表示期間が短くなるように設定される。また、高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」であることに对应して、特図表示結果が「ハズレ」の場合に変動パターンPB1-8を決定可能であり、特図表示結果が「大当り」の場合に変動パターンPB3-2

50

、PB3-9を決定可能である。そして、変動パターンPB1-8の特図変動時間は12500ミリ秒であり、変動パターンPB3-2の特図変動時間は4500ミリ秒であり、変動パターンPB3-9の特図変動時間は11500ミリ秒であるから、いずれも第2特別パターンに対応する変動パターンPB2-2の特図変動時間である16500ミリ秒よりも、可変表示期間が短くなるように設定される。これにより、価値報知となるリザルト表示を実行可能な変動パターンによる可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0245】

高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」であることに対応して、特図表示結果が「大当り」の場合に決定可能な変動パターンPB3-2、PB3-9は第1パターンとなり、特図表示結果が「ハズレ」に対応して決定可能な変動パターンPB1-8は第2パターンとなる。そして、変動パターンPB3-2の特図変動時間は4500ミリ秒であり、変動パターンPB3-9の特図変動時間は11500ミリ秒であり、変動パターンPB1-8の特図変動時間は12500ミリ秒である。これらの変動パターンは、いずれも第2可変表示演出となるスーパーリーチSPEのリーチ演出を実行する変動パターンPB2-2の特図変動時間である16500ミリ秒よりも、可変表示期間が短くなるように設定される。これにより、価値報知となるリザルト表示が実行される変動パターンPB1-8による可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0246】

可変表示制御例AKC31において、変動パターンPB3-2は、変動パターン種別CB4-1の場合に決定可能である。変動パターン種別CB4-1は、図9-12(A)に示されたテーブルTB40が指定された場合に選択可能である。テーブルTB40は、図9-8に示された大当り時参照テーブルTS21により、演出状態選択指定値が0C[H]、0D[H]の場合に、大当り種別NA09~NA11と大当り種別KA12~KA14とに対応して指定可能である。ただし、演出状態選択指定値が0C[H]、0D[H]の場合に、大当り種別NA08、KA11は決定されない。これに対し、変動パターンPB3-9は、変動パターン種別CB4-2の場合に決定可能である。変動パターン種別CB4-2は、図9-12(B)に示されたテーブルTB41が指定された場合に選択可能である。テーブルTB41は、図9-8に示された大当り時参照テーブルTS21により、演出状態選択指定値が0C[H]、0D[H]の場合に、大当り種別KA15に対応して指定可能である。したがって、変動パターンPB3-9に決定された場合は大当り種別KA15に対応した10ラウンド大当りに制御可能であり、変動パターンPB3-2に決定された場合は大当り種別NA09~NA11と大当り種別KA12~KA14とに対応した2ラウンド大当りと4ラウンド大当りと7ラウンド大当りといずれかに制御可能である。

【0247】

高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」であることに対応して、特図表示結果が「大当り」の場合に決定可能な変動パターンのうち、変動パターンPB3-2は第3パターンとなり、変動パターンPB3-9は第4パターンとなる。これらの第3パターンと第4パターンは、第1パターンに含まれる。また、特図表示結果が「ハズレ」に対応して決定可能な変動パターンPB1-8、PB1-9は第2パターンとなる。そして、変動パターンPB3-2の特図変動時間は4500ミリ秒であり、変動パターンPB3-9の特図変動時間は11500ミリ秒であり、変動パターンPB1-8の特図変動時間は12500ミリ秒であり、変動パターンPB1-9の特図変動時間は29900ミリ秒である。したがって、第3パターンである変動パターンPB3-2や第4パターンである変動パターンPB3-9の方が、第2パターンである変動パターンPB1-8、PB1-9よりも可変表示期間が短くなるように設定される。これにより、価値報知となるリザルト表示が実行される可変表示において特図表示結果が「大当り」となる場合の意外性を高めて、可変表示に関する遊技興

10

20

30

40

50

趣を向上させることができる。

【0248】

高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」であることに対応して、特図表示結果が「大当り」の場合に決定可能な変動パターンPB3-2、PB3-9は特別可変表示パターンとなる。また、高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満であることに対応して、特図表示結果が「大当り」の場合に制御可能な大当り遊技状態は、10ラウンド大当りとなる大当り種別KA15に対応する第1大当り遊技状態と、10ラウンド大当りよりもラウンドの回数が少ない7ラウンド大当りとなる大当り種別NA11、KA14あるいは4ラウンド大当りとなる大当り種別NA10、KA13あるいは2ラウンド大当りとなる大当り種別NA09、KA12に対応する第2大当り遊技状態と、を含む。第1大当り遊技状態としての10ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な変動パターンは、大当り種別KA15に対応して決定可能な変動パターンPB3-9～PB3-11である。これらの変動パターンPB3-9～PB3-11は、複数の特定可変表示パターンに含まれる。

10

【0249】

図9-31に示された可変表示制御例AKC21において、第1大当り遊技状態としての10ラウンド大当りに制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な複数の変動パターンにおける平均変動時間は20960ミリ秒である。これに対し、変動パターンPB3-2の特図変動時間は4500ミリ秒であり、変動パターンPB3-9の特図変動時間は11500ミリ秒であり、いずれも20960ミリ秒より可変表示期間が短くなるように設定される。こうして、特別可変表示パターンとなる変動パターンPB3-2、PB3-9は、複数の特定可変表示パターンとなる変動パターンPB3-9～PB3-11における平均変動時間よりも可変表示期間が短くなるように設定される。これにより、価値報知となるリザルト表示が実行される可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

20

【0250】

可変表示制御例AKC31では、高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」であることに対応して、特図表示結果が「ハズレ」の場合に変動パターン種別CB1-8、CB1-9を選択可能であり、特図表示結果が「大当り」の場合に変動パターン種別CB4-1、CB4-2を選択可能である。変動パターン種別CB1-8の場合は変動パターンPB1-8のみに決定可能であり、変動パターン種別CB1-9の場合は変動パターンPB1-9のみに決定可能であり、変動パターン種別CB4-1の場合は変動パターンPB3-2のみに決定可能であり、変動パターン種別CB4-2の場合は変動パターンPB3-9のみに決定可能である。変動パターン種別CB1-8、CB1-9、CB4-1、CB4-2における変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータは特定決定用データに対応する。このように、特別状態中における70回目の可変表示に対応して価値報知となるリザルト表示が実行される場合に、特定決定用データを用いて決定可能な変動パターンの合計数は「4」である。これに対し、高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満であることに対応して、特図表示結果が「ハズレ」の場合に変動パターン種別CB2-1を選択可能である。

30

40

【0251】

図9-31に示された可変表示制御例AKC21では、高確高ベース状態中や低確低ベース中といった特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満であることに対応して、特図表示結果が「大当り」の場合に変動パターン種別CB3-2～CB3-5を選択可能である。変動パターン種別CB2-1の場合は変動パターンPB2-2、PB2-3のいずれかに決定可能である。変動パターン種別CB3-2～CB3-5の場合は、全体として変動パターンPB3-1～PB3-11のうちのいずれかに決定可能である。変動パターン種別CB2-1、CB3-2～CB3-5における変動パタ

50

ーン決定テーブルを構成するテーブルデータは通常決定用データに対応する。このように、特別状態中における70回目より前の可変表示に対応して、通常決定用データを用いて決定可能な変動パターンの合計数は「13」である。したがって、価値報知となるリザルト表示が実行される場合に決定可能な変動パターンの合計数の方が、それより前の特別状態中に決定可能な変動パターンの合計数よりも少なくなる。これにより、価値報知となるリザルト表示が実行される可変表示を実行するためのデータ容量が増大することを防止しつつ、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0252】

大当り種別KA12～KA15に対応して大当り遊技状態の終了後に時短カウンタ初期値が第1回数としての「70」に対応した70回の可変表示が実行されるまで制御可能な高確高ベース状態は第1状態に対応し、大当り種別NA09～NA11に対応して大当り遊技状態の終了後に時短カウンタ初期値が第1回数よりも多い第2回数としての「10000」に対応した10000回の可変表示が実行されるまで制御可能な低確高ベース状態は第2状態に対応する。第1状態に対応する高確高ベース状態は、通常状態に比べて大当り遊技状態に制御される確率が高くなるとともに、高ベース制御により通常状態に比べて可変表示が実行されやすくなる。第2状態に対応する低確高ベース状態は、大当り遊技状態に制御される確率が通常状態と同じであるとともに、高ベース制御により通常状態に比べて可変表示が実行されやすくなる。第2状態中となる低確高ベース状態中は、時短カウンタの計数値が「9931」となるまで、演出状態選択指定値が08[H]に対応して、特図表示結果が「ハズレ」の場合に、図9-6(A)に示されたハズレ時参照テーブルAKA01により参照テーブルTS04が指定される。参照テーブルTS04を構成するテーブルデータなどは、第1決定用データに対応する。また、時短カウンタの計数値が「9930」になると、演出状態選択指定値が0E[H]に対応して、特図表示結果が「ハズレ」の場合に、ハズレ時参照テーブルAKA01により参照テーブルTS02が指定される。参照テーブルTS02を構成するテーブルデータなどは、第2決定用データに対応する。

【0253】

図9-6(E)に示された参照テーブルTS04は、始動口入賞指定値や第1保留記憶数および第2保留記憶数に対応してテーブルTB10、TB24、TB25のうちのいずれかを、変動パターン種別決定テーブルとして指定可能にする。図9-6(C)に示された参照テーブルTS02は、始動口入賞指定値や第1保留記憶数および第2保留記憶数に対応してテーブルTB10、TB20、TB21のうちのいずれかを、変動パターン種別決定テーブルとして指定可能にする。図9-10(G)に示されたテーブルTB20は変動パターン種別CB1-2のみを選択可能であり、図9-10(H)に示されたテーブルTB21は変動パターン種別CB1-3のみを選択可能である。これに対し、図9-10(K)に示されたテーブルTB24は、変動パターン種別CB1-2の他にも変動パターン種別CB1-4、CB2-1を選択可能であり、図9-10(L)に示されたテーブルTB25は、変動パターン種別CB1-3の他にも変動パターン種別CB1-4、CB2-1を選択可能である。一方において、図9-14(B)に示された変動パターン種別CB1-2の場合に変動パターンPB1-2のみが決定可能になり、図9-14(C)に示された変動パターン種別CB1-3の場合に変動パターンPB1-3のみが決定可能になる。他方において、図9-14(D)に示された変動パターン種別CB1-4の場合に変動パターンPB1-4、PB1-5が決定可能になり、図9-14(J)に示された変動パターン種別CB2-1の場合に変動パターンPB2-1～PB2-3のうちのいずれかに決定可能である。

【0254】

図9-4に示されたハズレ変動パターンの構成例において、変動パターンPB1-2は特図変動時間が3500ミリ秒であり、変動パターンPB1-3は特図変動時間が500ミリ秒であり、変動パターンPB1-4は特図変動時間が500ミリ秒であり、変動パターンPB1-5は特図変動時間が2000ミリ秒である。また、変動パターンPB2-1

は特図変動時間が3500ミリ秒であり、変動パターンPB2-2は特図変動時間が16500ミリ秒であり、変動パターンPB2-3は特図変動時間が35500ミリ秒である。このように、第1決定用データに対応する参照テーブルTS04を用いた場合は変動パターン種別CB2-1を選択可能である一方、第2決定用データに対応する参照テーブルTS02を用いた場合は変動パターン種別CB2-1を選択しない。したがって、第2決定用データに対応する参照テーブルTS02を用いて決定可能な変動パターンの方が、第1決定用データに対応する参照テーブルTS04を用いて決定可能な変動パターンよりも平均可変表示期間が短くなるように設定される。これにより、第2状態中に対応する低確高ベース中における可変表示は、第1回数となる「70」を超えた後に、平均可変表示期間が短くなることで迅速に実行可能となるように、可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

10

【0255】

第1決定用データに対応する参照テーブルTS04を用いた場合は変動パターン種別CB2-1を選択可能であり、変動パターン種別CB2-1の場合に決定可能な変動パターンPB2-1～PB2-3は、可変表示がリーチ態様となった後にリーチ演出を実行可能な変動パターンである。特に、変動パターンPB2-2はスーパーリーチSPEのリーチ演出を実行可能であり、変動パターンPB2-3はスーパーリーチSPFのリーチ演出を実行可能である。スーパーリーチSPE、SPFのリーチ演出は特定演出に対応し、変動パターンPB2-2、PB2-3は演出可変表示パターンに対応する。第2決定用データに対応する参照テーブルTS02を用いた場合は変動パターン種別CB2-1を選択しないので、参照テーブルTS02を用いて決定可能な変動パターンは、演出可変表示パターンに対応する変動パターンPB2-2、PB2-3を含まない。これにより、第2状態中に対応する低確高ベース中における可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

20

【0256】

図9-33(B)は、演出状態選択指定値07[H]、08[H]、0C[H]、0D[H]に対応した別観点にもとづく可変表示制御例AKC32を示している。図9-31に示された可変表示制御例AKC21と同様に、演出状態選択指定値が07[H]、08[H]に対応して、特図表示結果が「大当り」で大当り種別NA09、KA12であれば、大入賞口開放回数最大値が「02」に設定され、変動パターン種別CB3-2のみを選択可能である。変動パターン種別CB3-2の場合に、変動パターンPB3-1、PB3-2のいずれかに決定可能である。大入賞口開放回数最大値が「02」である2ラウンド大当りは第1種別有利状態に対応し、変動パターンPB3-1、PB3-2は第1種別可変表示パターンに対応する。また、演出状態選択指定値が07[H]、08[H]に対応して、特図表示結果が「大当り」で大当り種別NA10、KA13であれば、大入賞口開放回数最大値が「04」に設定され、変動パターン種別CB3-3のみを選択可能である。変動パターン種別CB3-3の場合に、変動パターンPB3-2～PB3-8のうちのいずれかに決定可能である。大入賞口開放回数最大値が「04」である4ラウンド大当りは第2種別有利状態に対応し、変動パターンPB3-2～PB3-8は第2種別可変表示パターンに対応する。

30

40

【0257】

図9-33(A)に示された可変表示制御例AKC31において、演出状態選択指定値が0C[H]である場合に特図表示結果が「ハズレ」であれば変動パターン種別CB1-8のみを選択可能であり、演出状態選択指定値が0D[H]である場合に特図表示結果が「ハズレ」であれば変動パターン種別CB1-9のみを選択可能である。また、演出状態選択指定値が0C[H]、0D[H]である場合に特図表示結果が「大当り」であれば変動パターン種別CB4-1、CB4-2を選択可能である。こうして、特別状態中における70回目の可変表示に対応して価値報知となるリザルト表示が実行される場合に、変動パターン種別CB1-8、CB1-9、CB4-1、CB4-2の選択結果に対応した変動パターンを決定可能である。変動パターン種別CB1-8、CB1-9、CB4-1、

50

C B 4 - 2 における変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータは特定決定用データに対応する。

【 0 2 5 8 】

図 9 - 3 3 (A) に示された可変表示制御例 A K C 3 1 において、演出状態選択指定値が 0 7 [H] 、 0 8 [H] である場合に特図表示結果が「ハズレ」であれば変動パターン種別 C B 2 - 1 のみを選択可能である。また、図 9 - 3 1 に示された可変表示制御例 A K C 2 1 において、演出状態選択指定値が 0 7 [H] 、 0 8 [H] である場合に特図表示結果が「大当たり」であれば、大当たり種別に対応した変動パターン種別 C B 3 - 2 ~ C B 3 - 5 を選択可能である。このように、特別状態中における 7 0 回目より前の可変表示に対応して、変動パターン種別 C B 2 - 1 、 C B 3 - 2 ~ C B 3 - 5 の選択結果に対応した変動パターンを決定可能である。変動パターン種別 C B 2 - 1 、 C B 3 - 2 ~ C B 3 - 5 における変動パターン決定テーブルを構成するテーブルデータは通常決定用データに対応し、変動パターン P B 1 - 8 、 P B 1 - 9 は報知可変表示パターンに対応する。

10

【 0 2 5 9 】

第 1 種別可変表示パターンに対応する変動パターン P B 3 - 1 、 P B 3 - 2 と、第 2 種別可変表示パターンに対応する変動パターン P B 3 - 2 ~ P B 3 - 8 とは、いずれも種別共通可変表示パターンに対応する変動パターン P B 3 - 2 を含んでいる。変動パターン P B 3 - 2 の特図変動時間は 4 5 0 0 ミリ秒である。また、報知可変表示パターンに対応する変動パターン P B 1 - 8 、 P B 1 - 9 のうち、変動パターン P B 1 - 8 の特図変動時間は 1 2 5 0 0 ミリ秒であり、変動パターン P B 1 - 9 の特図変動時間は 2 9 9 0 0 ミリ秒である。したがって、種別共通変動パターンに対応する変動パターン P B 3 - 2 は、報知可変表示パターンに対応する変動パターン P B 1 - 8 、 P B 1 - 9 よりも可変表示期間が短くなるように設定される。こうした種別共通変動パターンに対応する変動パターン P B 3 - 2 を用いることで、特図表示結果が「大当たり」に対応した変動パターンの増加が抑制されるので、データ容量の増大を防止することができる。また、種別共通変動パターンに対応する変動パターン P B 3 - 2 の場合に可変表示期間が短くなるので、可変表示において特図表示結果が「大当たり」となる場合の意外性を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

20

【 0 2 6 0 】

図 9 - 2 6 に示された演出図柄変動開始処理のステップ A K S 5 0 2 において、確変状態や時短状態に対応した可変表示の実行回数が 7 0 回に達するとともに、変動パターン P B 3 - 2 である場合に、リザルト表示用変動パターンであると判定してもよい。この場合に、ステップ A K S 5 0 3 によるリザルト表示制御設定が行われる。この設定にもとづいて、図 9 - 2 7 に示された演出図柄変動中処理のステップ A K S 5 2 5 では、リザルト表示を実行するための制御が行われ、遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知としてのリザルト表示が実行可能となる。変動パターン P B 3 - 2 は、演出状態選択指定値が 0 C [H] 、 0 D [H] のいずれである場合にも、大当たり種別 N A 0 9 、 K A 1 2 と大当たり種別 N A 1 0 、 K A 1 3 とに対応して決定可能である。このような変動パターンは、共通の可変表示パターンに対応する。そして、大当たり種別 N A 0 9 の場合に、第 3 大当たり遊技状態としての 2 ラウンド大当たりが終了した後に、第 2 状態としての低確高ベース状態に制御可能である。大当たり種別 N A 1 0 の場合に、第 2 大当たり遊技状態としての 4 ラウンド大当たりが終了した後に、第 2 状態としての低確高ベース状態に制御可能である。したがって、低確高ベース状態中や高確高ベース状態中における可変表示の実行回数が第 1 回数としての「 7 0 」であることに对应して変動パターン P B 3 - 2 が決定された場合に、可変表示中に価値報知となるリザルト表示を実行し、大当たり遊技状態が 2 ラウンド大当たりでも 4 ラウンド大当たりでも、それらの終了後には第 2 状態に対応する低確高ベース状態に制御される場合を設けることができる。変動パターン P B 3 - 2 のような共通の変動パターンを決定可能であるので、価値報知となるリザルト表示が実行される可変表示の場合に第 2 大当たり遊技状態となるか第 3 大当たり遊技状態となるかを認識しにくくすることで、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

30

40

50

【0261】

図9-34は、高ベース中第2特図大当りに対応した別観点にもとづく演出状態制御例AKC41を示している。高ベース中第2特図大当りが大当り種別KA12~KA15の場合に、大当り種別が「確変」に含まれるので、V入賞が発生しやすくなる。その一方で、V入賞が発生せずに大当り遊技状態が終了した場合に、V入賞が発生した場合とは異なる演出状態に制御される。図9-25に示された大当り終了時設定例AKB13において、大当り種別KA12~KA15のV入賞なしならば特別期間演出指定値が08[H]に設定される。このように、大当り種別KA12~KA15に対応する大当り遊技状態におけるV入賞なしの場合に、図9-23に示された大当り終了時設定AKB11において、大当り種別KA12~KA15に対応する時短カウンタ初期値の「70」および演出状態選択指定値の06[H]が設定される。ただし、V入賞なしに対応して、確変カウンタ初期値は「0」に設定されるので、大当り遊技状態の終了後に低確高ベース状態に制御される。

10

【0262】

演出状態制御例AKC41において、高ベース中第2特図大当りが大当り種別KA12~KA15の場合に、V入賞なしに対応して特別演出期間指定値が08[H]に設定され、時短カウンタ初期値が「70」に設定され、演出状態選択指定値が06[H]に設定される。その後に、可変表示の終了に対応して時短カウンタの計数値が1減算更新され、特別期間演出更新設定が行われる。図9-19に示す特別期間演出設定テーブルAKT01において、特別演出期間指定値が08[H]の場合に、時短カウンタの計数値が「66」になると演出状態選択指定値が08[H]に更新され、時短カウンタの計数値が「1」になると演出状態選択指定値が0C[H]に更新され、時短カウンタの計数値が「0」になると演出状態選択指定値が00[H]に更新されて初期化される。これに対し、高ベース中第2特図大当りが大当り種別KA12~KA15の場合に、V入賞ありならば、図9-29に示された演出状態制御例AKC02と同様に、時短カウンタの計数値と対応した演出状態選択指定値に更新可能である。

20

【0263】

このように、高ベース中第2特図大当りが大当り種別KA12~KA15であったことにもとづいて、V入賞なしに対応して特別演出期間指定値が08[H]に設定された場合に、時短カウンタの計数値が「66」から「1」までの期間では演出状態選択指定値が08[H]となる。これに対し、高ベース中第2特図大当りが大当り種別KA12~KA15であったことにもとづいて、V入賞ありに対応して特別演出期間指定値が07[H]に設定された場合に、時短カウンタの計数値が「66」から「1」までの期間では演出状態選択指定値が07[H]となる。その一方で、時短カウンタの計数値が「1」になると、V入賞の有無によらず演出状態選択指定値が0C[H]に更新される。

30

【0264】

図9-6(A)に示されたハズレ時参照テーブルAKA01において、演出状態選択指定値が07[H]の場合に参照テーブルTS03が指定され、演出状態選択指定値が08[H]の場合に参照テーブルTS04が指定される。また、演出状態選択指定値が0C[H]の場合に参照テーブルTS08が指定される。参照テーブルTS03を構成するテーブルデータなどは第1特別決定用データに対応し、参照テーブルTS04を構成するテーブルデータなどは第2特別決定用データに対応し、参照テーブルTS08を構成するテーブルデータなどは第3特別決定用データに対応する。こうして、大当り種別KA12~KA15に対応する大当り遊技状態におけるV入賞なしの場合に制御可能な低確高ベース状態では、可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満であることに对应して、参照テーブルTS04を構成するテーブルデータなどを用いて変動パターンを決定可能である。これに対し、大当り種別KA12~KA15に対応する大当り遊技状態におけるV入賞ありの場合に制御可能な高確高ベース状態では、可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満であることに对应して、参照テーブルTS03を構成するテーブルデータなどを用いて変動パターンを決定可能である。そして、低確高ベース状態における可変表

40

50

示の実行回数が第1回数としての「70」である場合と、高確高ベース状態における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」である場合とに対応して、参照テーブルTS08を構成するテーブルデータなどを用いて変動パターンを決定可能である。したがって、特別状態中となる低確高ベース状態中や高確高ベース状態中において可変表示の実行回数が第1回数としての「70」である場合に、第3特別決定用データに対応する参照テーブルTS08を用いて変動パターンを決定することで、データ容量の増大を防止できる。また、可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満である場合に、異なる決定用データを用いて変動パターンを決定することで、第1回数までの可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0265】

図9-35は、高ベース中第2特図大当りに対応した別観点にもとづく演出状態制御例AKC42を示している。高ベース中第2特図大当りが大当り種別NA09~NA11の場合に、大当り種別が「通常」に含まれるので、V入賞が発生しにくくなる。その一方で、V入賞が発生して大当り遊技状態が終了した場合に、V入賞が発生しなかった場合とは異なる演出状態に制御される。図9-24に示された大当り終了時設定例AKB12において、大当り種別NA09~NA11のV入賞ありならば特別期間演出指定値が0D[H]に設定される。このように、大当り種別NA09~NA11に対応する大当り遊技状態におけるV入賞ありの場合に、図9-23に示された大当り終了時設定AKB11において、大当り種別NA09~NA11に対応する時短カウンタ初期値の「10000」および演出状態選択指定値の06[H]が設定される。さらに、V入賞ありに対応して、確変カウンタ初期値が「70」に設定されるので、大当り遊技状態の終了後に高確高ベース状態に制御される。

【0266】

演出状態制御例AKC42において、高ベース中第2特図大当りが大当り種別NA09~NA11の場合に、V入賞ありに対応して特別演出期間指定値が0D[H]に設定され、時短カウンタ初期値が「10000」に設定され、演出状態選択指定値が06[H]に設定される。その後、可変表示の終了に対応して時短カウンタの計数値が1減算更新され、特別期間演出更新設定が行われる。図9-19に示す特別期間演出設定テーブルAKT01において、特別演出期間指定値が0D[H]の場合に、時短カウンタの計数値が「9996」になると演出状態選択指定値が07[H]に更新され、時短カウンタの計数値が「9931」になると演出状態選択指定値が0D[H]に更新され、時短カウンタの計数値が「9930」になると演出状態選択指定値が0E[H]に更新され、時短カウンタの計数値が「0」になると演出状態選択指定値が00[H]に更新されて初期化される。これに対し、高ベース中第2特図大当りが大当り種別NA09~NA11の場合に、V入賞なしならば、図9-29に示された演出状態制御例AKC02と同様に、時短カウンタの計数値と対応した演出状態選択指定値に更新可能である。

【0267】

このように、高ベース中第2特図大当りが大当り種別NA09~NA11であったことにもとづいて、V入賞ありに対応して特別期間演出指定値が0D[H]に設定された場合に、時短カウンタの計数値が「9996」から「9931」までの期間では演出状態選択指定値が07[H]となる。これに対し、高ベース中第2特図大当りが大当り種別NA09~NA11であったことにもとづいて、V入賞なしに対応して特別演出期間指定値が0E[H]に設定された場合に、時短カウンタの計数値が「9996」から「9931」までの期間では演出状態選択指定値が08[H]となる。その一方で、時短カウンタの計数値が「9931」になると、V入賞の有無によらず演出状態選択指定値が0D[H]に更新される。さらに、時短カウンタの計数値が「9930」になると、V入賞の有無によらず演出状態選択指定値が0E[H]に更新される。

【0268】

図9-6(A)に示されたハズレ時参照テーブルAKA01において、演出状態選択指定値が07[H]の場合に参照テーブルTS03が指定され、演出状態選択指定値が08

10

20

30

40

50

〔H〕の場合に参照テーブルTS04が指定される。また、演出状態選択指定値がOD〔H〕の場合に参照テーブルTS09が指定され、演出状態選択指定値がOE〔H〕の場合に参照テーブルTS02が指定される。参照テーブルTS03を構成するテーブルデータなどは第1特別決定用データに対応し、参照テーブルTS04を構成するテーブルデータなどは第2特別決定用データに対応し、参照テーブルTS09を構成するテーブルデータなどは第4特別決定用データに対応し、参照テーブルTS02を構成するテーブルデータなどは共通の決定用データに対応する。こうして、大当り種別NA09～NA11に対応する大当り遊技状態におけるV入賞ありの場合に制御可能な高確高ベース状態では、可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満であることに対応して、参照テーブルTS03を構成するテーブルデータなどを用いて変動パターンを決定可能である。これに対し、大当り種別NA09～NA11に対応する大当り遊技状態におけるV入賞なしの場合に制御可能な低確高ベース状態では、可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満であることに対応して、参照テーブルTS04を構成するテーブルデータなどを用いて変動パターンを決定可能である。そして、低確高ベース状態における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」である場合と、高確高ベース状態における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」である場合とに対応して、参照テーブルTS09を構成するテーブルデータなどを用いて変動パターンを決定可能である。その後に、低確高ベース状態における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」を超えた場合と、高確高ベース状態における可変表示の実行回数が第1回数としての「70」を超えた場合とに対応して、参照テーブルTS02を構成するテーブルデータなどを用いて変動パターンを決定可能である。したがって、特別状態中となる低確高ベース状態中や高確高ベース状態中において可変表示の実行回数が第1回数としての「70」である場合あるいは「70」を超えた場合に、第4特別決定用データに対応する参照テーブルTS09や共通の決定用データに対応する参照テーブルTS02を用いて変動パターンを決定することで、データ容量の増大を防止できる。また、可変表示の実行回数が第1回数としての「70」未満である場合に、異なる決定用データを用いて変動パターンを決定することで、第1回数までの可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

10

20

【0269】

図9-36は、リザルト表示や状態報知演出が実行される場合の演出実行例を示している。この演出実行例は、大当り遊技状態の終了に対応して、時短カウンタ初期値が「70」である高確高ベース状態に制御される場合と、時短カウンタ初期値が「10000」である低確高ベース状態に制御される場合と、を含んでいる。ここでの高確高ベース状態は第1状態に対応し、低確高ベース状態は第2状態に対応している。

30

【0270】

図9-36(A)は、高ベース制御が行われている高確高ベース状態中や低確高ベース状態中に、可変表示の実行回数が第1回数としての70回未満である期間における演出実行例AK101を示している。演出実行例AK101では、第1状態に対応する高確高ベース状態の場合と、第2状態に対応する低確高ベース状態の場合と、に対応して共通の演出画像を背景画像とし、画像表示装置5の画面上に表示することによる高ベース中背景としての背景表示が行われている。

40

【0271】

図9-36(B)は、高確高ベース状態中や低確高ベース状態中に可変表示の実行回数が第1回数としての70回に達した場合の演出実行例AK102を示している。このとき、第1状態に対応する高確高ベース状態であれば変動パターンPB1-8が決定され、第2状態に対応する低確高ベース状態であれば変動パターンPB1-9が決定される。図9-26に示された演出図柄変動開始処理のステップAKS502では、変動パターンPB1-8、PB1-9のいずれの場合にもリザルト表示用変動パターンであると判定され、ステップAKS503によるリザルト表示制御設定が行われる。この設定にもとづいて、演出実行例AK102では、遊技者が獲得した賞球総数や、いわゆる連荘回数など、遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知となるリザルト表示が実行される。

50

【0272】

図9-36(C)は、第1状態に対応する高確高ベース状態の終了後における演出実行例AK103を示している。図9-19に示された特別期間演出設定テーブルAKT01において、時短カウンタの計数値が時短カウンタ判定値の「0」と合致した場合に、背景指定コマンドとしてコマンド9500[H]が送信可能に設定される。演出制御基板12の演出制御用CPU120は、この背景指定コマンドを受信したことにもとづいて、背景表示を通常状態における通常背景としての背景表示を行う。また、図9-18に示された特別図柄変動処理では、ステップAKS127にて確変カウンタの計数値が「0」とであると判定された場合に、ステップAKS128における確変フラグのクリアなどにより、確変状態における確変制御が終了する。また、ステップAKS131にて時短カウンタの計数値が「0」とであると判定された場合に、ステップAKS132における時短フラグのクリアなどにより、時短状態における高ベース制御が終了する。

10

【0273】

図9-36(D)～(F)は、第2状態に対応する低確高ベース状態が継続する場合の演出実行例AK104～AK106を示している。このうち、図9-36(D)に示す演出実行例AK104と、図9-36(E)に示す演出実行例AK105とが、変動パターンPB1-9に対応して実行可能な状態報知演出に含まれる。図9-26に示された演出図柄変動開始処理のステップAKS504では、変動パターンPB1-9の場合に状態報知演出用変動パターンであると判定され、ステップAKS505による状態報知演出制御設定が行われる。この設定にもとづいて、演出実行例AK104では、特定画像としてプッシュボタン31Bを示す演出画像を、画像表示装置5の画面上に表示することによるボタン表示AKE01が行われている。ボタン表示AKE01に対応する演出画像は、第1状態に対応する高確高ベース状態の場合に、演出実行例AK103のリザルト表示が行われる一方で、表示されないようにしてもよい。これに対し、ボタン表示AKE01に対応する演出画像は、第2状態に対応する低確高ベース状態の場合に、演出実行例AK103のリザルト表示が実行されることに伴い、表示されるようにしてもよい。このようなボタン表示AKE01による適切な報知の実行により、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

20

【0274】

その後、例えばプッシュボタン31Bに対する押下操作といった、遊技者の動作を検出したか否かに対応して、異なる状態報知演出を実行可能であってもよい。演出実行例AK105は、プッシュボタン31Bに対する押下操作が検出された場合に、第2状態に対応する低確高ベース状態である旨の報知となる演出画像を、画像表示装置5の画面上に表示することによる報知表示が行われている。これに対し、プッシュボタン31Bに対する押下操作が検出されなかった場合に、報知表示を行わずに、可変表示の終了に伴い、状態報知演出が終了してもよい。

30

【0275】

演出実行例AK106において、第2状態に対応する低確高ベース状態の場合に可変表示の実行回数が第1回数としての70回を超えた71回以降となる。この場合に、演出実行例AK101と同様の高ベース中背景としての背景表示が行われている。このような背景表示により、第2状態に対応する低確高ベース状態が継続していることを認識しやすくして、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

40

【0276】

(特徴部23AKの課題解決手段および効果)

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、通常状態に比べて可変表示が実行されやすい特別状態に制御可能な特別状態制御手段と、可変表示パターンを決定可能な可変表示パターン決定手段と、遊技者が獲得した価値の結果を報知する価値報知を含む複数種類の報知を実行可能な報知手段と、を備え、特別状態は、有利状態の終了後に第1回数の可変表示が実行されるまで制御可能な第1状態と、有利状態の終了後に第1回数よりも多い第2回数の可変表示が実行されるまで制御可能な第2状態

50

と、を含み、可変表示パターン決定手段は、第1状態中における可変表示の実行回数が第1回数であることに対応して第1可変表示パターンを決定可能であり、第2状態中における可変表示の実行回数が第1回数であることに対応して第2可変表示パターンを決定可能であり、報知手段は、第1可変表示パターンによる可変表示中に価値報知を実行し、第2可変表示パターンによる可変表示中に価値報知および第2状態である旨の報知を実行し、第2可変表示パターンの方が、第1可変表示パターンよりも可変表示期間が長い。ここで、有利状態は、例えば大当り遊技状態などであればよい。遊技機は、例えばパチンコ遊技機1などであればよい。特別状態は、例えば低確高ベース状態や高確高ベース状態などであればよい。特別状態制御手段は、例えばステップAKS166を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103などであればよい。可変表示パターン決定手段は、例えばステップAKS110の変動パターン設定処理を実行するCPU103などであればよい。価値報知は、例えば演出実行例AK102などであればよい。報知手段は、例えばステップAKS525、AKS527を実行する演出制御用CPU120などであればよい。第1回数は、例えば「70」などであればよい。第1状態は、例えば大当り種別KA12~KA15のいずれかにもとづく高確高ベース状態などであればよい。第2回数は、例えば「10000」などであればよい。第2状態は、例えば大当り種別NA09~NA11のいずれかにもとづく低確高ベース状態などであればよい。第1可変表示パターンは、例えば変動パターンPB1-8などであればよい。第2可変表示パターンは、例えば変動パターンPB1-9などであればよい。第2状態である旨の報知は、例えば演出実行例AK102、AK104、AK105などであればよい。可変表示期間が長いことは、例えば可変表示制御例AKC11などであればよい。

10

20

このような構成によれば、第1可変表示パターンと第2可変表示パターンとで可変表示期間や報知内容を異ならせて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0277】

〔1〕 識別情報の可変表示を行い、可変表示の表示結果が特定結果となったときに有利状態に制御可能な有利状態制御手段を備え、特別状態に制御されているときに、可変表示の表示結果が識別情報のうち第2識別情報により特定結果となったことにもとづいて、第2状態に制御される場合があり、特別状態に制御されていないときに、可変表示の表示結果が識別情報のうち第2識別情報により特定結果となったことにもとづいて、第2状態に制御される場合がなく、特別状態に制御されているときと、特別状態に制御されていないときに、可変表示の表示結果が識別情報のうち第1識別情報により特定結果となったことにもとづいて、第2状態に制御される場合がなくともよい。ここで、有利状態制御手段は、例えば大入賞口開放前処理、大入賞口開放中処理、大入賞口開放後処理、大当り終了処理を実行するCPU103などであればよい。第2状態に制御される場合は、例えば大当り種別NA09~NA11のいずれかに対応する大当り遊技状態が終了する場合などであればよい。

30

このような構成においては、特別状態に制御されているか否かや特定結果となった可変表示に対応した制御により、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0278】

〔2〕 遊技媒体が進入可能な第1可変状態と、遊技媒体が進入困難な第2可変状態とに変化可能な可変手段と、識別情報の可変表示を行い、可変表示の表示結果が特定結果となったときに有利状態に制御可能な有利状態制御手段と、有利状態において可変手段を第1可変状態に変化させる単位遊技を所定回数実行可能な可変制御手段と、を備え、特別状態に制御されているときに可変表示の表示結果が識別情報のうち第2識別情報により特定結果となったことにもとづいて制御可能な有利状態は、第1有利状態と、該第1有利状態よりも単位遊技の回数が少ない第2有利状態と、を含み、第1有利状態の終了後に、第1状態に制御される場合があり、第2状態に制御される場合がなく、第2有利状態の終了後に、第1状態に制御される場合と、第2状態に制御される場合と、があってもよい。ここで、第1可変状態は、例えば開放状態などであればよい。第2可変状態は、例えば閉鎖状態などであればよい。可変手段は、例えば特別可変入賞球装置50などであればよい。有利

40

50

状態制御手段は、例えば大入賞口開放前処理、大入賞口開放中処理、大入賞口開放後処理、大当たり終了処理を実行するCPU103などであればよい。単位遊技は、例えば大当たり遊技状態におけるラウンドなどであればよい。第1有利状態は、例えば大当たり種別KA15に対応する大当たり遊技状態などであればよい。第2有利状態は、例えば大当たり種別NA09~NA11、KA12~KA14に対応する大当たり遊技状態などであればよい。

このような構成においては、単位遊技の回数が少ない第2有利状態である場合に遊技者の不利益を防止するとともに、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0279】

【3】 特別状態に制御されているときに可変表示の表示結果が識別情報のうち第2識別情報により特定結果となったことにもとづいて制御可能な有利状態は、第1有利状態と、該第1有利状態よりも単位遊技の回数が少ない第2有利状態と、該第2有利状態よりも単位遊技の回数が少ない第3有利状態と、を含み、第1有利状態の終了後に、第1状態に制御される場合があり、第2状態に制御される場合がなく、第2有利状態の終了後および第3有利状態の終了後に、第1状態に制御される場合と、第2状態に制御される場合と、があり、第3有利状態の終了後の方が、第2有利状態の終了後よりも高い割合で第2状態に制御可能であってもよい。ここで、第1有利状態は、例えば大当たり種別KA15に対応する大当たり遊技状態などであればよい。第2有利状態は、例えば大当たり種別NA11、KA14に対応する大当たり遊技状態などであればよい。第3有利状態は、例えば大当たり種別NA10、KA13に対応する大当たり遊技状態などであればよい。第2状態に制御される場合は、例えば大当たり種別NA09~NA11のいずれかに対応する大当たり遊技状態が終了する場合などであればよい。高い割合で第2状態に制御可能であることは、例えば大当たり制御例AKC12の場合などであればよい。

このような構成においては、単位遊技の回数が少ない第3有利状態である場合に遊技者の不利益を防止するとともに、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0280】

【4】 可変表示パターン決定手段は、第2有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、該第2有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、該第2有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の第1データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第3有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、該第3有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、該第3有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の第2データを用いて可変表示パターンを決定可能であってもよい。ここで、共通の第1データは、例えば変動パターン種別CB3-4が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。共通の第2データは、例えば変動パターン種別CB3-3が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。

このような構成においては、可変表示の共通性を高めて第1状態となるか第2状態となるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0281】

【5】 第2有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な可変表示パターンは、該第2有利状態の終了後に第2状態に制御される場合の第1特定パターンを含み、第3有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な可変表示パターンは、該第3有利状態の終了後に第2状態に制御される場合の第2特定パターンを含み、第1特定パターンの方が、第2特定パターンよりも可変表示期間が長くてもよい。ここで、第1特定パターンは、例えば変動パターンPB3-3~PB3-8のいずれかなどであればよい。第2特定パターンは、例えば変動パターンPB3-1などであればよい。可変表示期間が長いことは、例えば可変表示制御例AKC21の場合などであればよい。

このような構成においては、可変表示期間が長い場合に単位遊技の回数が第3有利状態よりも多い第2有利状態に制御される期待感を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0282】

〔6〕 可変表示パターン決定手段は、特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数であることに対応して価値報知を実行可能な可変表示パターンとして、第2有利状態の終了後に第2状態に制御される場合と、第3有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の可変表示パターンを決定可能であってもよい。ここで、共通の可変表示パターンは、例えば変動パターンPB3-2などであればよい。

このような構成においては、第1回数の可変表示が実行された場合に第2有利状態となるか第3有利状態となるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0283】

〔7〕 有利状態の開始に対応して開始時演出を実行可能な開始時演出実行手段を備え、開始時演出実行手段は、第2有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、第2有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の開始時演出を実行可能であり、第3有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、第3有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の開始時演出を実行可能であってもよい。例えば大当たり時演出制御例AKC13における大当たり開始演出パターンが大入賞口開放回数最大値に対応して共通になる場合などであればよい。

このような構成においては、開始時演出が実行された場合に第1状態となるか第2状態となるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0284】

〔8〕 有利状態において所定回実行可能な単位遊技に対応して所定演出を実行可能な所定演出実行手段を備え、所定演出実行手段は、第2有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、第2有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の所定演出を実行可能であり、第3有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、第3有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の所定演出を実行可能であってもよい。例えば大当たり時演出制御例AKC13における大当たり中演出パターンが大入賞口開放回数最大値に対応して共通になる場合などであればよい。

このような構成においては、所定演出が実行された場合に第1状態となるか第2状態となるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0285】

〔9〕 有利状態の終了に対応して終了時演出を実行可能な終了時演出実行手段を備え、終了時演出実行手段は、第2有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、第2有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の終了時演出を実行可能であり、第3有利状態の終了後に第1状態に制御される場合と、第3有利状態の終了後に第2状態に制御される場合とで、共通の終了時演出を実行可能であってもよい。例えば大当たり時演出制御例AKC13における大当たり終了演出パターンが大入賞口開放回数最大値に対応して共通になる場合などであればよい。

このような構成においては、終了時演出が実行された場合に第1状態となるか第2状態となるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0286】

〔10〕 有利状態の終了に対応して計数情報を設定可能な計数手段を備え、計数手段は、第1状態に制御される場合に第1指定値を示す計数情報を設定し、第2状態に制御される場合に第2指定値を示す計数情報を設定し、第1状態中と第2状態中とで、共通の背景画像を表示可能であってもよい。ここで、計数手段は、例えば特別期間演出指定値バッファなどであればよい。第1指定値は、例えば07[H]などであればよい。第2指定値は、例えば0E[H]などであればよい。共通の背景画像は、例えば演出実行例AK101における高ベース中背景の演出画像などであればよい。

10

20

30

40

50

このような構成においては、背景画像の表示にもとづいて第1状態中であるか第2状態中であるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0287】

【11】 可変表示パターン決定手段は、第1状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満である場合と、第2状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満である場合とで、共通の決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であってもよい。例えば変動パターン種別CB2-1が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。

このような構成においては、可変表示の共通性を高めて第1状態中であるか第2状態中であるかを認識しにくくすることにより、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0288】

【12】 可変表示パターン決定手段は、第1状態中における可変表示の実行回数が第1回数である場合と、第2状態中における可変表示の実行回数が第1回数である場合とで、異なる決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であってもよい。例えば変動パターン種別CB1-8が選択された場合と変動パターン種別CB1-9が選択された場合とで指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。

このような構成においては、第1回数の可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0289】

【13】 可変表示パターン決定手段は、第1状態中における実行回数が第1回数である可変表示の表示結果が特定結果でない場合に、第1可変表示期間の可変表示を実行する第1非特定パターンを決定可能であり、第2状態中における実行回数が第1回数である可変表示の表示結果が特定結果でない場合に、第1可変表示期間の2倍以上の期間である第2可変表示期間の可変表示を実行する第2非特定パターンを決定可能であり、報知手段は、第1非特定パターンによる可変表示中に価値報知を実行し、第2非特定パターンによる可変表示中に価値報知および第2状態である旨の報知を実行してもよい。ここで、第1可変表示期間は、例えば特図変動時間が12500ミリ秒である場合などであればよい。第1非特定パターンは、例えば変動パターンPB1-8などであればよい。第2可変表示期間は、例えば特図変動時間が29900ミリ秒である場合などであればよい。第2非特定パターンは、例えば変動パターンPB1-9などであればよい。第2状態である旨の報知は、例えば演出実行例AK105などであればよい。

このような構成においては、第1回数の可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0290】

【14】 特定画像を表示可能な特定表示手段を備え、特定表示手段は、第1状態中における実行回数が第1回数である可変表示中に価値報知が実行される一方で特定画像を表示せず、第2状態中における実行回数が第1回数である可変表示中に価値報知が実行されることに伴い特定画像を表示してもよい。ここで、特定画像は、例えばボタン表示AKE01の演出画像などであればよい。特定表示手段は、例えば画像表示装置5などであればよい。特定画像を表示しないことは、例えば演出実行例AK103などであればよい。特定画像を表示することは、例えば演出実行例AK104などであればよい。

このような構成においては、適切な報知の実行により、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0291】

【15】 報知手段は、特別状態中における実行回数が第1回数である可変表示中に価値報知を実行し、可変表示パターン決定手段は、特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満である場合に、有利状態に制御される割合が高い第1可変表示演出を実行可能な第1特別パターンと、有利状態に制御される割合が第1可変表示演出よりも低い第2

10

20

30

40

50

可変表示演出を実行可能な第2特別パターンと、を含む複数の可変表示パターンのいずれかに決定可能であり、第2特別パターンの方が、第1特別パターンよりも可変表示期間が短く、可変表示パターン決定手段は、特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数である場合に、第2特別パターンよりも可変表示期間が短い可変表示パターンを決定可能であってもよい。ここで、第1可変表示演出は、例えばスーパーリーチSPFのリーチ演出などであればよい。第1特別パターンは、例えば変動パターンPB2-3などであればよい。第2可変表示演出は、例えばスーパーリーチSPEのリーチ演出などであればよい。第2特別パターンは、例えば変動パターンPB2-2などであればよい。第1特別パターンの可変表示期間は、例えば特図変動時間が35500ミリ秒である場合などであればよい。第2特別パターンの可変表示期間は、例えば特図変動時間が16500ミリ秒である場合などであればよい。第2特別パターンよりも可変表示期間が短い可変表示パターンは、例えば特図変動時間が12500ミリ秒である変動パターンPB1-8、特図変動時間が4500ミリ秒である変動パターンPB3-2、特図変動時間が11500ミリ秒である変動パターンPB3-9などであればよい。

10

このような構成においては、価値報知が実行される可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0292】

【16】 可変表示パターン決定手段は、特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満である場合に、有利状態に制御される割合が高い第1可変表示演出を実行可能な第1特別パターンと、有利状態に制御される割合が第1可変表示演出よりも低い第2可変表示演出を実行可能な第2特別パターンと、を含む複数の可変表示パターンのいずれかに決定可能であり、特別状態中における実行回数が第1回数である可変表示の表示結果が特定結果である場合に対応する第1パターンと、特別状態中における実行回数が第1回数である可変表示の表示結果が特定結果でない場合に対応する第2パターンと、を含む複数の可変表示パターンのいずれかに決定可能であり、第1パターンおよび第2パターンの方が、第2特別パターンよりも可変表示期間が短くてもよい。ここで、第1可変表示演出は、例えばスーパーリーチSPFのリーチ演出などであればよい。第1特別パターンは、例えば変動パターンPB2-3などであればよい。第2特別パターンは、例えば変動パターンPB2-2などであればよい。第1パターンは、例えば変動パターンPB3-2、PB3-9などであればよい。第2パターンは、例えば変動パターンPB1-8などであればよい。可変表示期間が短いことは、例えば可変表示制御例AKC31の場合などであればよい。

20

30

このような構成においては、価値報知が実行される可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0293】

【17】 有利状態は、第1価値有利状態と、該第1価値有利状態よりも遊技者にとって有利な第2価値有利状態と、を含み、可変表示パターン決定手段は、特別状態中における実行回数が第1回数である可変表示の表示結果が特定結果である場合に対応する第1パターンと、特別状態中における実行回数が第1回数である可変表示の表示結果が特定結果でない場合に対応する第2パターンと、を含む複数の可変表示パターンのいずれかに決定可能であり、第1パターンは、第1価値有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な第3パターンと、第2価値有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して決定可能な第4パターンと、を含み、第3パターンおよび第4パターンの方が、第2パターンよりも可変表示期間が短くてもよい。ここで、第1価値有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「02」、「04」、「07」のいずれかである大当たり遊技状態などであればよい。第2価値有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「10」である大当たり遊技状態などであればよい。第1パターンは、例えば変動パターンPB3-2、PB3-9などであればよい。第2パターンは、例えば変動パターンPB1-8、PB1-9などであればよい。第3パターンは、例えば変動パターンPB3-2などであればよい。第4パターンは、例えば変動パターンPB3-9などであればよい。可変表示期間が短いこ

40

50

とは、例えば可変表示制御例 A K C 3 1 において演出状態選択指定値 0 C [H]、0 D [H] の場合などであればよい。

このような構成においては、第 1 回数の可変表示が特定結果となる場合の意外性を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0294】

〔18〕 有利状態は、第 1 有利状態と、該第 1 有利状態よりも単位遊技の回数が少ない第 2 有利状態と、を含み、可変表示パターン決定手段は、特別状態中における可変表示の実行回数が第 1 回数未満である場合に、第 1 有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、複数の特定可変表示パターンのいずれかに決定可能であり、特別状態中における可変表示の実行回数が第 1 回数であることに対応して特別可変表示パターンを決定可能であり、特別可変表示パターンの方が、複数の特定可変表示パターンにおける平均可変表示期間よりも可変表示期間が短くてもよい。ここで、第 1 有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「10」である大当り遊技状態などであればよい。第 2 有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「02」、「04」、「07」のいずれかである大当り遊技状態などであればよい。特定可変表示パターンは、例えば変動パターン P B 3 - 9 ~ P B 3 - 11 などであればよい。特別可変表示パターンは、例えば変動パターン P B 3 - 2、P B 3 - 9 などであればよい。可変表示期間が短いことは、例えば可変表示制御例 A K C 2 1 において大当り種別 K A 1 5 の場合や可変表示制御例 A K C 3 1 において演出状態選択指定値 0 C [H]、0 D [H] で可変表示結果が「大当り」の場合などであればよい。

このような構成においては、第 1 回数の可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0295】

〔19〕 有利状態は、第 1 種別有利状態と、第 2 種別有利状態と、を含み、可変表示パターン決定手段は、特別状態中における可変表示の実行回数が第 1 回数であることに対応して報知手段による報知を実行可能な可変表示パターンを、特定決定用データを用いて決定可能であり、特別状態中における可変表示の実行回数が第 1 回数未満である場合に、通常決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、通常決定用データは、第 1 種別有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、第 1 種別可変表示パターンを決定可能とし、第 2 種別有利状態に制御する契機となる可変表示に対応して、第 2 種別可変表示パターンを決定可能とし、特定決定用データは、第 1 種別有利状態に制御する契機となる可変表示の場合と、第 2 種別有利状態に制御する契機となる可変表示の場合とで、共通の種別共通可変表示パターンを決定可能とし、有利状態に制御する契機とならない可変表示に対応して、報知手段による報知を実行可能な報知可変表示パターンを決定可能とし、種別共通可変表示パターンは、第 1 種別可変表示パターンおよび第 2 種別可変表示パターンに含まれ、報知可変表示パターンよりも可変表示期間が短くてもよい。ここで、第 1 種別有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「02」である大当り遊技状態などであればよい。第 2 種別有利状態は、例えば大入賞口開放回数最大値が「04」である大当り遊技状態などであればよい。特定決定用データは、例えば変動パターン種別 C B 1 - 8、C B 1 - 9、C B 4 - 1、C B 4 - 2 が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。通常決定用データは、例えば変動パターン種別 C B 2 - 1、C B 3 - 2 ~ C B 3 - 5 が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。第 1 種別可変表示パターンは、例えば変動パターン P B 3 - 1、P B 3 - 2 などであればよい。第 2 種別可変表示パターンは、例えば変動パターン P B 3 - 2 ~ P B 3 - 8 などであればよい。種別共通可変表示パターンは、例えば変動パターン P B 3 - 2 などであればよい。報知可変表示パターンは、例えば変動パターン P B 1 - 8、P B 1 - 9 などであればよい。可変表示期間が短いことは、例えば可変表示制御例 A K C 3 2 において変動パターン P B 1 - 8、P B 1 - 9 と比べた変動パターン P B 3 - 2 の場合などであればよい。

このような構成においては、データ容量の増大を防止するとともに、可変表示が特定結果となる場合の意外性を高めて、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0296】

【20】 可変表示パターン決定手段は、特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数であることに対応して報知手段による報知を実行可能な可変表示パターンを、特定決定用データを用いて決定可能であり、特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満である場合に、通常決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、特定決定用データを用いて決定可能な可変表示パターンの合計数の方が、通常決定用データを用いて決定可能な可変表示パターンの合計数よりも少なくてもよい。ここで、特定決定用データは、例えば変動パターン種別CB1-8、CB1-9、CB4-1、CB4-2が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。通常決定用データは、例えば変動パターン種別CB2-1、CB3-2～CB3-5が選択された場合に指定される変動パターン決定テーブルのテーブルデータなどであればよい。合計数が少ないことは、例えば可変表示制御例AKC21における変動パターンPB3-1～PB3-11および可変表示制御例AKC31における変動パターンPB2-2、PB2-3の合計数「13」と比した変動パターンPB1-8、PB1-9、PB3-2、PB3-9の合計数「4」となる場合などであればよい。

10

このような構成においては、データ容量の増大を防止するとともに、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0297】

【21】 第1状態は、通常状態に比べて有利状態に制御される確率が高くなるとともに、通常状態に比べて可変表示が実行されやすくなる制御を第1回数の可変表示が実行されるまで実行可能な状態であり、第2状態は、有利状態に制御される確率が通常状態と同じであるとともに、通常状態に比べて可変表示が実行されやすくなる制御を第2回数の可変表示が実行されるまで実行可能な状態であり、可変表示パターン決定手段は、第2状態中における可変表示の実行回数が第1回数となるまで、第1決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第2状態中における可変表示の実行回数が第1回数を越えた後に、第2決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第2決定用データを用いて決定可能な可変表示パターンの方が、第1決定用データを用いて決定可能な可変表示パターンよりも平均可変表示期間が短くてもよい。ここで、第1決定用データは、例えば参照テーブルTS04に対応するテーブルデータなどであればよい。第2決定用データは、例えば参照テーブルTS02に対応するテーブルデータなどであればよい。平均可変表示期間が短いことは、例えば変動パターン種別CB2-1が変動パターンPB2-2、PB2-3を含むことに対し、変動パターン種別CB1-2、CB1-3が変動パターンPB2-2、PB2-3を含まない場合などであればよい。

20

30

このような構成においては、第2状態中における可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0298】

【22】 第1決定用データを用いて決定可能な可変表示パターンは、可変表示においてリーチ状態が成立した後に、特定演出を実行して有利状態に制御するか否かを報知可能な演出可変表示パターンを含み、第2決定用データを用いて決定可能な可変表示パターンは、演出可変表示パターンを含まなくてもよい。ここで、特定演出は、例えばスーパーリーチSPE、SPFのリーチ演出などであればよい。演出可変表示パターンは、例えば変動パターンPB2-2、PB2-3などであればよい。

40

このような構成においては、第2状態中における可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0299】

【23】 有利状態は、特定条件が成立可能な特定有利状態を含み、特別状態制御手段は、特定有利状態中における特定条件の成立にもとづいて、該特定有利状態の終了後に第1特別状態に制御可能であり、特定有利状態中における特定条件の不成立にもとづいて、該特定有利状態の終了後に第2特別状態に制御可能であり、第1特別状態および第2特別状態は、第1回数の可変表示が実行されるまで可変表示が実行されやすい状態であり、可変

50

表示パターン決定手段は、第1特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満であることに対応して、第1特別決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第2特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満であることに対応して、第2特別決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第1特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数である場合と、第2特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数である場合とに対応して、第3特別決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であってもよい。ここで、特定条件は、例えば特定領域通過フラグがオンであることなどであればよい。特定有利状態は、例えば大当り種別KA12～KA15に対応する大当り遊技状態などであればよい。第1特別状態は、例えばV入賞ありに対応する時短カウンタ初期値が「70」の高確高ベース状態などであればよい。第2特別状態は、例えばV入賞なしに対応する時短カウンタ初期値が「70」の低確高ベース状態などであればよい。第1特別決定用データは、例えば参照テーブルTS03に対応するテーブルデータなどであればよい。第2特別決定用データは、例えば参照テーブルTS04に対応するテーブルデータなどであればよい。第3特別決定用データは、例えば参照テーブルTS08に対応するテーブルデータなどであればよい。

10

このような構成においては、データ容量の増大を防止しつつ、第1回数までの可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0300】

【24】 特定領域を有し、遊技媒体が進입可能な第1変化状態と、遊技媒体が進입困難な第2変化状態とに変化可能な可変入賞手段を備え、特定有利状態中に特定領域を遊技媒体が通過したことにより特定条件が成立し、第1状態は、通常状態に比べて有利状態に制御される確率が高くなるとともに、通常状態に比べて可変表示が実行されやすい状態であり、第2状態は、有利状態に制御される確率が通常状態と同じであるとともに、通常状態に比べて可変表示が実行されやすい状態であってもよい。ここで、特定領域は、例えばV入賞領域51などであればよい。第1変化状態は、例えば開放状態などであればよい。第2変化状態は、例えば閉鎖状態などであればよい。可変入賞手段は、例えば特別可変入賞球装置50などであればよい。

20

このような構成においては、データ容量の増大を防止しつつ、第1回数までの可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【0301】

【25】 有利状態は、特定条件が成立困難な特殊有利状態を含み、特別状態制御手段は、特殊有利状態中における特定条件の成立にもとづいて、該特殊有利状態の終了後に第3特別状態に制御可能であり、特殊有利状態中における特定条件の不成立にもとづいて、該特殊有利状態の終了後に第4特別状態に制御可能であり、第3特別状態および第4特別状態は、第2回数の可変表示が実行されるまで可変表示が実行されやすい状態であり、可変表示パターン決定手段は、第3特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満であることに対応して、第1特別決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第4特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数未満であることに対応して、第2特別決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第3特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数である場合と、第4特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数である場合とに対応して、第4特別決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であり、第3特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数を超えた場合と、第4特別状態中における可変表示の実行回数が第1回数を超えた場合とで、共通の決定用データを用いて可変表示パターンを決定可能であってもよい。ここで、特殊有利状態は、例えば大当り種別NA09～NA11に対応する大当り遊技状態などであればよい。第3特別状態は、例えばV入賞ありに対応する時短カウンタ初期値が「10000」の高確高ベース状態などであればよい。第4特別状態は、例えばV入賞なしに対応する時短カウンタ初期値が「10000」の低確高ベース状態などであればよい。第1特別決定用データは、例えば参照テーブルTS03に対応するテーブルデータなどであればよい。第2特別決定用データは、例えば参照テーブルTS04に対応するテーブルデータなどであ

30

40

50

ればよい。第４特別決定用データは、例えば参照テーブルＴＳ０９に対応するテーブルデータなどであればよい。共通の決定用データは、例えば参照テーブルＴＳ０２に対応するテーブルデータなどであればよい。

このような構成においては、データ容量の増大を防止しつつ、第１回数を超えた可変表示を適切に実行して、可変表示に関する遊技興趣を向上させることができる。

【０３０２】

図１０および図１１は、本実施の他の形態に係るパチンコ遊技機の正面図である。図１０および図１１には、遊技機の一例であるパチンコ遊技機１における主要部材の配置レイアウトが示されている。遊技機の一例であるパチンコ遊技機１は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）２と、遊技盤２を支持固定する遊技機用枠（台枠）３とから構成されている。遊技盤２には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

10

【０３０３】

パチンコ遊技機１においては、特別図柄が可変表示することで遊技が行われる。特別図柄の「可変表示」とは、たとえば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである（後述の他の図柄についても同じ）。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、１以上の図柄の変形、１以上の図柄の拡大／縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄または普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示または更新表示されたり、１以上の飾り図柄が変形や拡大／縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示（導出または導出表示などともいう）される（後述の他の図柄の可変表示についても同じ）。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

20

【０３０４】

なお、パチンコ遊技機１において可変表示される特別図柄としては、２種類の特別図柄が設けられている。たとえば、一方の特別図柄を「第１特図」や「第１特別図柄」ともいい、他方の特別図柄を「第２特図」や「第２特別図柄」ともいう。また、第１特図を用いた特図ゲームを「第１特図ゲーム」といい、第２特図を用いた特図ゲームを「第２特図ゲーム」ともいう。

【０３０５】

遊技盤２における遊技領域の中央付近には画像表示装置５が設けられている。画像表示装置５は、たとえばＬＣＤ（液晶表示装置）や有機ＥＬ（Electro Luminescence）などから構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置５は、プロジェクタおよびスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置５には、各種の演出画像が表示される。

30

【０３０６】

たとえば、画像表示装置５の画面上では、第１特図ゲームや第２特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など）の可変表示が行われる。ここでは、第１特図ゲームまたは第２特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリアにおいて飾り図柄が可変表示（たとえば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲームおよび飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

40

【０３０７】

画像表示装置５の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示およびアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

【０３０８】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第１特図ゲームに対応する保留記憶数を第１保留記憶数、第２特図ゲームに対応する保留記憶数を第２保留記憶数ともいう

50

。第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

【0309】

画像表示装置 5 の左側の遊技盤 2 上には、パチンコ遊技機 1 で実行される演出において登場する夢夢ちゃんというキャラクタが描かれている。夢夢ちゃんは、パチンコ遊技機 1 で用いられるコンテンツにおいて登場する主人公である。また、画像表示装置 5 の右下の遊技盤 2 上には、パチンコ遊技機 1 で実行される演出において登場するジャムちゃんというキャラクタが描かれている。ジャムちゃんは、パチンコ遊技機 1 で用いられるコンテンツにおいて登場するキャラクタである。夢夢ちゃんは、主人公であるため、全てのキャラクタの中で最も重要度が高く、ジャムちゃんを含む他のキャラクタよりも演出において登場する頻度（回数）が大きい。また、ジャムちゃんは、主人公である夢夢ちゃん以外のキャラクタの中で最も重要度が高く、夢夢ちゃん以外の他のキャラクタよりも演出において登場する頻度（回数）が大きい。また、夢夢ちゃんやジャムちゃんのように、他のキャラクタよりも優先度の高いキャラクタは、キャラクタを選択する場面において最初に登場するキャラクタや最も目立つ位置に配置されるキャラクタ、あるいは全選択キャラクタのうちで最も上位に位置するキャラクタであってもよい。

10

【0310】

画像表示装置 5 の下方には入賞球装置 6 A が設けられており、入賞球装置 6 A の右側方には、可変入賞球装置 6 B が設けられている。

【0311】

入賞球装置 6 A は、たとえば所定の玉受部材によって常に遊技球が進入可能な一定の開放状態に保たれる第 1 始動入賞口を形成する。第 1 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（たとえば 3 個）の賞球が払い出されるとともに、第 1 特図ゲームが開始され得る。

20

【0312】

可変入賞球装置 6 B（普通電動役物）は、ソレノイド 8 1（図 1 7 参照）によって閉鎖状態と開放状態とに変化する第 2 始動入賞口（電チュー）を形成する。可変入賞球装置 6 B は、たとえば、一对の可動翼片を有する電動チューリップ型役物を備え、ソレノイド 8 1 がオフ状態であるときに可動翼片が垂直位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入しない閉鎖状態になる（第 2 始動入賞口が閉鎖状態になるともいう。）。その一方で、可変入賞球装置 6 B は、ソレノイド 8 1 がオン状態であるときに可動翼片が傾動位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入できる開放状態になる（第 2 始動入賞口が開放状態になるともいう。）。第 2 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（たとえば 3 個）の賞球が払い出されるとともに、第 2 特図ゲームが開始され得る。なお、可変入賞球装置 6 B は、閉鎖状態と開放状態とに変化するものであればよく、電動チューリップ型役物を備えるものに限定されない。

30

【0313】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 0 に示す例では、遊技領域の左下方 3 箇所と可変入賞球装置 6 B の上方 1 箇所）には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口 1 0 が設けられる。この場合には、一般入賞口 1 0 のいずれかに進入したときには、所定個数（たとえば 1 0 個）の遊技球が賞球として払い出される。

40

【0314】

入賞球装置 6 A と可変入賞球装置 6 B との間には、大入賞口を有する特別可変入賞球装置 7 A が設けられている。特別可変入賞球装置 7 A は、ソレノイド 8 2（図 1 7 参照）によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化する特定領域としての大入賞口（以下、通常大入賞口と称する）を形成する。

【0315】

たとえば、特別可変入賞球装置 7 A は、パチンコ遊技機 1 の奥側に位置する遊技盤 2 と、パチンコ遊技機 1 の手前側（遊技者側）に位置するガラス扉枠 3 a（図 1 2 参照）との間の空間に大入賞口扉を備えており、この大入賞口扉がパチンコ遊技機 1 の奥側と手前側との間を水平方向にスライド開閉することで、遊技球による通常大入賞口への経路が開放

50

される。具体的には、ソレノイド 8 2 がオフ状態である場合、大入賞口扉がパチンコ遊技機 1 の手前側にスライド移動することで通常大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が通常大入賞口に進入（通過）できなくなる。一方、ソレノイド 8 2 がオン状態である場合、大入賞口扉がパチンコ遊技機 1 の奥側にスライド移動することで通常大入賞口を開放状態として、遊技球が通常大入賞口に進入しやすくなる。

【0316】

通常大入賞口に進入した遊技球は、通常大入賞口の内部に設けられた領域を通過することでカウントスイッチ 2 3 によって検出される。遊技球がカウントスイッチ 2 3（図 1 7 参照）によって検出されることで、賞球として検出に応じた遊技球（たとえば、1 回の検出ごとに 1 0 個）が遊技者に払い出される。通常大入賞口に進入したときには、たとえば第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口および一般入賞口 1 0 に遊技球が進入したときよりも多くの賞球が払い出される。また、カウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数が上限数（たとえば、1 0 個）に達すると、1 ラウンドが終了し、通常大入賞口が閉鎖状態に制御される。

【0317】

パチンコ遊技機 1 においては、特別可変入賞球装置 7 A の隣に V 可変入賞球装置 7 B が設けられている。V 可変入賞球装置 7 B は、ソレノイド 8 3（図 1 7 参照）によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化する大入賞口（以下、V 大入賞口と称する）を形成する。

【0318】

たとえば、特別可変入賞球装置 7 B は、遊技盤 2 とガラス扉枠 3 a との間の空間に大入賞口扉を備えており、この大入賞口扉がパチンコ遊技機 1 の奥側と手前側との間を水平方向にスライド開閉することで、遊技球による V 大入賞口への経路が開放される。具体的には、ソレノイド 8 3 がオフ状態である場合、大入賞口扉がパチンコ遊技機 1 の手前側にスライド移動することで V 大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が V 大入賞口に進入（通過）できなくなる。一方、ソレノイド 8 3 がオン状態である場合、大入賞口扉がパチンコ遊技機 1 の奥側にスライド移動することで V 大入賞口を開放状態として、遊技球が V 大入賞口に進入しやすくなる。

【0319】

V 大入賞口に進入した遊技球は、V 大入賞口の内部に設けられた特定領域（V 入賞領域とも称する）を通過することで V 入賞スイッチ 2 4（図 1 7 参照）によって検出される。遊技球が V 入賞スイッチ 2 4 によって検出されることで、遊技状態が確変状態に制御される。つまり、本実施の形態においては、大当り遊技状態のラウンド中において V 大入賞口に進入したことを条件に V 入賞が発生し、遊技状態が確変状態に制御されるようになっている。なお、通常大入賞口および V 大入賞口をまとめて大入賞口とも称する。また、大入賞口をアタッカとも称する。

【0320】

一般入賞口 1 0 を含む各入賞口に進入した遊技球を「入賞」ともいう。特に、始動口（第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口）への入賞を始動入賞ともいう。

【0321】

パチンコ遊技機 1 においては、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

【0322】

画像表示装置 5 の右方には、遊技球が通過可能な通過ゲート 4 1 が設けられている。遊技球が通過ゲート 4 1 を通過したことに基つき、普図ゲームが実行される。

【0323】

遊技盤 2 の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車および多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

【0324】

遊技機用枠 3 の左右上部位置には、効果音などを再生出力するためのスピーカ 8 L , 8 R が設けられている。

【0325】

遊技盤 2 の所定位置（図 10 では画像表示装置 5 の上方位置）には、演出に応じて動作する可動体 3 2 が設けられている。可動体 3 2 は、「POWERFUL」という文字が付された部材が、「2」という文字が付された部材の前面側に位置するように構成されている。これにより、「POWERFUL 2」という文字が形成されている。「POWERFUL 2」は、パチンコ遊技機 1 の機種名であってもよいし、パチンコ遊技機 1 で用いられるコンテンツを表す名称（たとえば、アニメのタイトルや歌手の名前など）であってもよい。また、可動体 3 2 に付された文字は、パチンコ遊技機 1 で用いられるコンテンツにおいて登場する主人公や当該主人公の次に優先度の高いキャラクタの名前（たとえば、主人公である夢夢ちゃんを示す「夢夢」）を示してもよい。本実施の形態においては、パチンコ遊技機 1 の機種名（パワフル 2）が可動体 3 2 に示されている。

10

【0326】

本実施の形態において、可動体 3 2 は、図 10 に示すように画像表示装置 5 の上方の位置と、図 11 に示すように画像表示装置 5 の前面に被さる位置との間で移動可能である。具体的には、可動体 3 2 は、「POWERFUL」という文字が付された部材と、「2」という文字が付された部材とのうち、「POWERFUL」という文字が付された部材のみが図 10 に示す位置から落下することで、図 11 に示すように画像表示装置 5 の前面に被さる位置で停止する。なお、可動体 3 2 は、役物とも称される。

20

【0327】

遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者などによって操作される打球操作ハンドル（操作ノブ）30 が設けられている。

【0328】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持（貯留）する打球供給皿（上皿）が設けられている。なお、遊技機用枠 3 には、上皿とは別に、上皿満タン時に賞球が払い出される払出部（打球供給皿）を設けてもよい。

【0329】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ 31 A が取り付けられている。スティックコントローラ 31 A には、遊技者が押圧（または押下）操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ 31 A に対する操作は、コントローラセンサユニット 35 A（図 17 参照）により検出される。

30

【0330】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が押圧操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン 31 B が設けられている。プッシュボタン 31 B に対する操作は、プッシュセンサ 35 B（図 17 参照）により検出される。

【0331】

パチンコ遊技機 1 では、遊技者の動作（操作など）を検出する検出手段として、スティックコントローラ 31 A やプッシュボタン 31 B が設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

40

【0332】

パチンコ遊技機 1 は、遊技盤 2 の左下に特図 LED 基板 9020 を備える。特図 LED 基板 9020 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 によって制御され、第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数などを、LED の点灯／点滅／消灯によって報知する LED 基板である。特図 LED 基板 9020 においては、複数の LED による点灯／点滅／消灯などの点灯態様の組合せによって、第 1 特図ゲームにおける特別図柄（第 1 特図）の種類や第 2 特図ゲームにおける特別図柄（第 2 特図）の種類を表す。たとえば、後述する図 14（a

50

）に示すように、特図ＬＥＤ基板９０２０においては、特図１可変表示部９０２１に設けられた複数のＬＥＤによる点灯／点滅／消灯などの点灯態様の組合せによって、第１特図の種類を表し、特図２可変表示部９０２２に設けられた複数のＬＥＤによる点灯／点滅／消灯などの点灯態様の組合せによって、第２特図の種類を表す。

【０３３３】

さらに、パチンコ遊技機１は、画像表示装置５の左下に第４図柄ユニット９０５０を備える。第４図柄ユニット９０５０は、演出制御用ＣＰＵ１２０によって制御され、特図の変動や保留記憶数、右打ち表示などを、ＬＥＤの点灯／点滅／消灯によって報知するＬＥＤ基板である。第４図柄ユニット９０５０においては、複数のＬＥＤによる点灯／点滅／消灯などの点灯態様の組合せによって、第１特図ゲームにおける特別図柄（第１特図）の種類や第２特図ゲームにおける特別図柄（第２特図）の種類を表す。たとえば、後述する図１４（ｂ）に示すように、第４図柄ユニット９０５０においては、特図１可変表示部９０５３に設けられた複数のＬＥＤによる点灯／点滅／消灯などの点灯態様の組合せによって、第１特図の種類を表し、特図２可変表示部９０５４に設けられた複数のＬＥＤによる点灯／点滅／消灯などの点灯態様の組合せによって、第２特図の種類を表す。

【０３３４】

パチンコ遊技機１は、遊技盤２および遊技機用枠３において複数のランプを備える。具体的には、パチンコ遊技機１は、可動体３２に設けられた役物ランプ９Ａと、遊技盤２の左側に設けられた盤左ランプ９Ｂと、遊技盤２の上方に設けられた盤上ランプ９Ｃと、特別可変入賞球装置７Ｂの付近に設けられたアタッカランプ９Ｅと、特別可変入賞球装置７Ａの付近に設けられたＶアタッカランプ９Ｆと、Ｖ大入賞口が開放してＶ入賞が発生可能な大当たり遊技状態のラウンド中であることやＶ入賞が発生したことを報知するＶランプ９Ｇと、可変入賞球装置６Ｂの付近に設けられた電チューランプ９Ｈと、スティックコントローラ３１Ａに設けられたスティックコントローラランプ９Ｊと、プッシュボタン３１Ｂに設けられたトリガボタンランプ９Ｋと、遊技機用枠３の左側に設けられた枠左ランプ９Ｌと、遊技機用枠３の右側に設けられた枠右ランプ９Ｒとを備える。Ｖランプは、大当たりが発生したことを報知するものであってもよい。

【０３３５】

役物ランプ９Ａは、役物ランプ９Ａ１～９Ａ４といった複数のランプから構成されている。具体的には、可動体３２に含まれる「POWERFUL」という文字が付された部材が４分割されており、役物ランプ９Ａ１は「Ｐ」および「Ｏ」の部分の裏側、役物ランプ９Ａ２は「Ｗ」および「Ｅ」の部分の裏側、役物ランプ９Ａ３は「Ｒ」および「Ｆ」の部分の裏側、役物ランプ９Ａ４は「Ｕ」および「Ｌ」の部分の裏側に各々配置されている。これにより、役物ランプ９Ａ１～９Ａ４が「POWERFUL」という文字が付された部材の裏側で点灯（発光）することで、「POWERFUL」が点灯（発光）するようになっている。

【０３３６】

盤左ランプ９Ｂは、盤左ランプ９Ｂ１～９Ｂ５といった複数のランプから構成されている。遊技盤２の左側には、パチンコ遊技機１で用いられるコンテンツにおいて主人公（たとえば、主人公である夢夢ちゃんを示す「夢夢」）が描かれており、盤左ランプ９Ｂ１～９Ｂ５は、その主人公が描かれた遊技盤２の部分の裏側に各々配置されている。これにより、盤左ランプ９Ｂ１～９Ｂ５が主人公が描かれた遊技盤２の部分の裏側で点灯（発光）することで、主人公が描かれた遊技盤２の部分が点灯（発光）するようになっている。

【０３３７】

盤上ランプ９Ｃは、図１１に示すように、盤上ランプ９Ｃ１～９Ｃ１３といった複数のランプから構成されている。遊技盤２の上側には、左、中、右の３つの領域に分かれて、盤上ランプ９Ｃ１～９Ｃ５、盤上ランプ９Ｃ６～９Ｃ８、盤上ランプ９Ｃ９～９Ｃ１３が遊技盤２の裏側に各々配置されている。盤上ランプ９Ｃ１～９Ｃ５、盤上ランプ９Ｃ６～９Ｃ８、盤上ランプ９Ｃ９～９Ｃ１３が設けられている遊技盤２の部分は光を透過可能な透明部材で形成されており、これにより、盤上ランプ９Ｃ１～９Ｃ１３が遊技盤２の上側

の部分の裏側で点灯（発光）することで、遊技盤 2 の上側の部分が白色や赤色などで点灯（発光）するようになっている。

【0338】

アタッカランプ 9 E は、特別可変入賞球装置 7 B の付近において遊技盤 2 の裏側に配置されている。これにより、アタッカランプ 9 E が遊技盤 2 の裏側で点灯（発光）することで、特別可変入賞球装置 7 B の付近を点灯（発光）するようになっている。また、Vアタッカランプ 9 F は、特別可変入賞球装置 7 A の付近において遊技盤 2 の裏側に配置されている。これにより、Vアタッカランプ 9 F が遊技盤 2 の裏側で点灯（発光）することで、特別可変入賞球装置 7 A の付近を点灯（発光）するようになっている。

【0339】

Vランプ 9 G は、「V」と描かれた遊技盤 2 の部分の裏側に配置されている。これにより、Vランプ 9 G が「V」と描かれた遊技盤 2 の部分の裏側で点灯（発光）することで、「V」と描かれた遊技盤 2 の部分が点灯（発光）するようになっている。電チューランプ 9 H は、可変入賞球装置 6 B の付近に配置されており、点灯（発光）することで、特別可変入賞球装置 7 B の付近を点灯（発光）するようになっている。

【0340】

スティックコントローラランプ 9 J は、スティックコントローラ 3 1 A に設けられており、点灯（発光）することで、スティックコントローラ 3 1 A を点灯（発光）するようになっている。トリガボタンランプ 9 K は、プッシュボタン 3 1 B に設けられており、点灯（発光）することで、プッシュボタン 3 1 B を点灯（発光）するようになっている。

【0341】

枠左ランプ 9 L は、遊技機用枠 3 の左側に設けられた複数のランプ 9 L 1 ~ 9 L 1 2 （図 1 3 で後述する）によって構成されており、各ランプが点灯（発光）することで、遊技機用枠 3 の左側を点灯（発光）するようになっている。枠右ランプ 9 R は、遊技機用枠 3 の右側に設けられた複数のランプ 9 R 2 ~ 9 R 1 2 （図 1 3 で後述する）によって構成されており、各ランプが点灯（発光）することで、遊技機用枠 3 の右側を点灯（発光）するようになっている。なお、枠左ランプ 9 L および枠右ランプ 9 R を総称して枠ランプとも称する。また、役物ランプ 9 A、盤左ランプ 9 B、盤上ランプ 9 C、アタッカランプ 9 E、Vアタッカランプ 9 F、Vランプ 9 G、電チューランプ 9 H、スティックコントローラランプ 9 J、トリガボタンランプ 9 K、枠左ランプ 9 L、および枠右ランプ 9 R を、総称して遊技効果ランプ 9 とも称する。

【0342】

図 1 2 は、本実施の形態に係るパチンコ遊技機 1 の背面斜視図である。パチンコ遊技機 1 の背面には、基板ケース 2 0 1 に収納された主基板 1 1 が搭載されている。主基板 1 1 には、設定キー 5 1 や設定切替スイッチ 5 2 が設けられている。設定キー 5 1 は、設定変更状態または設定確認状態に切り替えるための錠スイッチとして機能する。設定切替スイッチ 5 2 は、設定変更状態において大当りの当選確率や出玉率などの設定値を変更するための設定スイッチとして機能する。設定キー 5 1 や設定切替スイッチ 5 2 は、たとえば電源基板 1 7 （図 1 7 参照）の所定位置といった、主基板 1 1 の外部に取り付けられてもよい。

【0343】

主基板 1 1 の背面中央には、表示モニタ 2 9 が配置され、表示モニタ 2 9 の側方には表示切替スイッチ 3 0 （図 1 7 参照）が配置されている。表示モニタ 2 9 は、たとえば 7 セグメントの LED 表示装置を用いて、構成されていけばよい。表示モニタ 2 9 および表示切替スイッチ 3 0 は、遊技機用枠 3 を開放した状態で遊技盤 2 の裏面側を視認した場合に、主基板 1 1 を視認する際の正面に配置されている。

【0344】

表示モニタ 2 9 は、たとえば連比や役比、ベースなどの入賞情報を表示可能である。連比は、賞球合計数のうち大入賞口（アタッカ）への入賞による賞球数が占める割合である。役比は、賞球合計数のうち第 2 始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と大入賞

10

20

30

40

50

口（アタッカ）への入賞による賞球数が占める割合である。ベースは、打ち出した遊技球数に対する賞球合計数が占める割合である。設定変更状態や設定確認状態であるときに、表示モニタ２９は、パチンコ遊技機１における設定値を表示可能である。表示モニタ２９は、設定変更状態や設定確認状態であるときに、変更や確認の対象となる設定値などを表示可能であればよい。

【０３４５】

設定キー５１や設定切替スイッチ５２は、遊技機用枠３を閉鎖した状態であるときに、パチンコ遊技機１の正面側から操作が不可能となっている。遊技機用枠３には、ガラス窓を有するガラス扉枠３ａが回動可能に設けられ、ガラス扉枠３ａにより遊技領域を開閉可能に構成されている。ガラス扉枠３ａを閉鎖したときに、ガラス窓を通して遊技領域を透視可能である。

10

【０３４６】

パチンコ遊技機１において、縦長の方形枠状に形成された外枠１ａの右端部には、セキュリティカバー５０Ａが取り付けられている。セキュリティカバー５０Ａは、遊技機用枠３を閉鎖したときに、設定キー５１や設定切替スイッチ５２を含む基板ケース２０１の右側部を、背面側から被覆する。セキュリティカバー５０Ａは、短片５０Ａａおよび長片５０Ａｂを含む略Ｌ字状の部材であり、透明性を有する合成樹脂により構成されていればよい。

【０３４７】

図１３は、枠ランプを説明するための図である。枠左ランプ９Ｌは、遊技機用枠３の上方から下方に亘って左回りに、枠左ランプ９Ｌ１～９Ｌ１２の１２個のランプ群を有する。枠左ランプ９Ｌは、複数のランプ（この例では１２個のランプ）を各々点灯または点滅することで、遊技機用枠３の左側付近を発光させる。一方、枠右ランプ９Ｒは、遊技機用枠３の上方から下方に亘って右回りに、枠右ランプ９Ｒ１～９Ｒ１２の１２個のランプ群を有する。枠右ランプ９Ｒは、複数のランプ（この例では１２個のランプ）を各々点灯または点滅することで、遊技機用枠３の右側付近を発光させる。

20

【０３４８】

図１４は、特図ＬＥＤ基板９０２０および第４図柄ユニット９０５０を説明するための図である。図１４（ａ）に示すように、特図ＬＥＤ基板９０２０は、第１特図の可変表示を示す特図１可変表示部９０２１と、第２特図の可変表示を示す特図２可変表示部９０２２と、第１特図ゲームに対応する第１保留記憶数を示す特図１記憶表示部９０２３と、第２特図ゲームに対応する第２保留記憶数を示す特図２記憶表示部９０２４と、普通図保留記憶数を示す普通図記憶表示部９０２５と、普通図柄の可変表示を示す普通図表示部９０２６と、遊技者に対して右打ちを促す右打ち表示部９０３０と、確変状態の有無を示す確変表示部９０２８と、時短状態の有無を示す時短表示部９０２９と、大当りのラウンド数を示すラウンド表示部９０２７とを備える。各表示部は、ＬＥＤなどの点灯手段による点灯または点滅によって、特図や普通図柄の可変表示の有無やその結果、現在の遊技状態、および保留数などを、遊技者に対して報知することができる。

30

【０３４９】

たとえば、特図１可変表示部９０２１は、第１特図ゲームにおける第１特別図柄の可変表示が行われているか否か、および当該可変表示の結果によって決まった第１特別図柄の停止図柄を、ＬＥＤなどの点灯手段による点灯／点滅／消灯によって遊技者に報知する。特図２可変表示部９０２２は、第２特図ゲームにおける第２特別図柄の可変表示が行われているか否か、および当該可変表示の結果によって決まった第２特別図柄の停止図柄を、ＬＥＤなどの点灯手段による点灯／点滅／消灯によって遊技者に報知する。

40

【０３５０】

さらに、特図ＬＥＤ基板９０２０は、右打ち表示部９０３０におけるＬＥＤなどの点灯手段による点灯／点滅／消灯によって、右打ちをすることを遊技者に促すことができる。本実施の形態においては、右打ちをすることを遊技者に促す場合、右打ち表示部９０３０におけるＬＥＤなどの点灯手段が点灯（発光）し、右打ちをすることを遊技者に促さない

50

場合、すなわち左打ちすることを遊技者に促す場合、右打ち表示部 9030 における LED などの点灯手段が消灯する。CPU103 は、図柄確定後に、演出制御用 CPU120 に右打ち表示点灯指定コマンドを送信するとともに、右打ち表示部 9030 を点灯させ、通常状態に戻る前の高ベース状態において最終変動によって図柄が確定した後に、演出制御用 CPU120 に右打ち表示消灯指定コマンドを送信するとともに、右打ち表示部 9030 を消灯させる。なお、パチンコ遊技機 1 が大当り遊技状態後に高ベースに制御されない大当りや小当りを有する場合、演出制御用 CPU120 は、大当りラウンド中においてのみ、右打ち表示部 9030 を点灯させてもよい。この場合、CPU103 は、演出制御用 CPU120 に大当り終了指定コマンドを送信するとともに、右打ち表示部 9030 を消灯させる。

10

【0351】

ここで、右打ちとは、遊技盤 2 に設けられた遊技領域において遊技媒体が流下可能な第 1 流下経路と第 2 流下経路とのうち、当該第 2 流下経路に向けて遊技球を発射させるように打球操作ハンドル 30 を操作すること（打ち方）である。第 1 流下経路は、たとえば、遊技領域のうちの左側の領域を通る経路であって、その先には入賞球装置 6A に形成された第 1 始動入賞口が存在する一方で、可変入賞球装置 6B に形成された第 2 始動入賞口が存在しない経路である。第 2 流下経路は、たとえば、遊技領域のうちの右側の領域を通る経路であって、その先には可変入賞球装置 6B に形成された第 2 始動入賞口や大入賞口（通常大入賞口、V 大入賞口）が存在する経路である。遊技者が第 1 流下経路に向けて遊技球を発射させると、遊技球が第 1 流下経路を通過して、第 1 始動入賞口の方へと流れ込む。遊技者が第 2 流下経路に向けて遊技球を発射させると、遊技球が第 2 流下経路を通過して、第 2 始動入賞口や大入賞口（通常大入賞口、V 大入賞口）の方へと流れ込む。

20

【0352】

本実施の形態においては、大当りが発生した後の大当り遊技、および大当り遊技後の遊技状態（時短状態や確変状態）において、遊技者が右打ちをすることで、遊技領域の右側に設けられた第 2 始動入賞口や大入賞口に遊技球を進入させるようになっており、その間、右打ち表示部 9030 は、右打ちすることを遊技者に促す。遊技者は、右打ちすることを促す表示が行われている間に右打ちをすることで、第 2 始動入賞口に遊技球を進入させて所定個（たとえば 3 個）の賞球が払い出されるとともに第 2 特図ゲームの権利を得ることができたり、また、通常大入賞口に遊技球を進入させて所定個（たとえば 10 個）の賞球が払い出されたりする。さらに、詳しくは後述するが、確変大当たりのラウンド中においては V 大入賞口が開放するが、遊技者は、右打ちすることを促す表示が行われている間に右打ちをすることで、V 大入賞口に遊技球を進入させて確変状態に制御されるための権利を得ることもできる。このため、右打ちすることを促す表示が行われている間に右打ちをすることで、遊技者は総合的に有利となり得る。なお、右打ちとは異なり、第 1 流下経路に向けて遊技球を発射させるように打球操作ハンドル 30 を操作すること（打ち方）を、左打ちとも称する。

30

【0353】

図 14(b) に示すように、第 4 図柄ユニット 9050 は、第 1 特図ゲームに対応する第 1 保留記憶数を示す特図 1 記憶表示部 9051 と、第 2 特図ゲームに対応する第 2 保留記憶数を示す特図 2 記憶表示部 9052 と、第 1 特図の可変表示の状況または表示結果を示す特図 1 可変表示部 9053 と、第 2 特図の可変表示の状況または表示結果を示す特図 2 可変表示部 9054 と、遊技者に対して右打ちを促す右打ち表示部 9055 とを備える。各表示部は、LED などの点灯手段による点灯／点滅／消灯によって、特図の可変表示の有無、保留数、および右打ち指示などを、遊技者に対して報知することができる。

40

【0354】

たとえば、特図 1 可変表示部 9053 は、第 1 特図ゲームにおける第 1 特別図柄の可変表示が行われているか否か、および当該可変表示の結果によって決まった第 1 特別図柄の停止図柄を、LED などの点灯手段による点灯／点滅／消灯によって遊技者に報知する。特図 2 可変表示部 9054 は、第 2 特図ゲームにおける第 2 特別図柄の可変表示が行われ

50

ているか否か、および当該可変表示の結果によって決まった第2特別図柄の停止図柄を、LEDなどの点灯手段による点灯／点滅／消灯によって遊技者に報知する。

【0355】

以下では、特図1可変表示部9021や特図1可変表示部9053におけるLEDなどの点灯手段によって第1特別図柄の停止図柄の変動を表すことを、第1特別図柄の変動表示（可変表示）とも称する。また、特図2可変表示部9022や特図2可変表示部9054におけるLEDなどの点灯手段によって第2特別図柄の停止図柄の変動を表すことを、第2特別図柄の変動表示（可変表示）とも称する。

【0356】

さらに、本実施の形態においては、右打ちをすることを遊技者に促す場合、第4図柄ユニット9050の右打ち表示部9055におけるLEDなどの点灯手段が点灯（発光）し、右打ちをすることを遊技者に促さない場合、すなわち左打ちをすることを遊技者に促す場合、右打ち表示部9055におけるLEDなどの点灯手段が消灯する。演出制御用CPU120は、図柄確定後に、CPU103から右打ち表示点灯指定コマンドを受信したことに基づいて、右打ち表示部9055を点灯させ、通常状態に戻る前の高ベース状態において最終変動によって図柄が確定した後に、CPU103から右打ち表示消灯指定コマンドを受信したことに基づいて、右打ち表示部9055を消灯させる。なお、パチンコ遊技機1が大当たり遊技状態後に高ベースに制御されない大当たりや小当たりを有する場合、演出制御用CPU120は、大当たりラウンド中においてのみ、右打ち表示部9055を点灯させてもよい。この場合、演出制御用CPU120は、CPU103から大当たり終了指定コマンドを受信したことに基づいて、右打ち表示部9055を消灯させる。

【0357】

図15は、遊技盤2と画像表示装置5との間を覗いた図である。図10に示すように、遊技盤2は、画像表示装置5の画面の端部に覆い被さるようにして固定されている。このため、図15に示すように、遊技盤2と画像表示装置5との間を覗くと、遊技盤2の背面側に位置する画像表示装置5の画面の端部を視認可能になっている。

【0358】

図16は、画像表示装置5における画面の表示態様を説明するための図である。画像表示装置5の表示領域の大部分は、飾り図柄の可変表示やリーチ演出などの画像が表示される。具体的には、画像表示装置5の画面中央、第1特図ゲームや第2特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など）の可変表示が行われる。ここでは、第1特図ゲームまたは第2特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄が可変表示（たとえば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲームおよび飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

【0359】

画像表示装置5の画面の下端部には、第1保留記憶数を円形の保留表示の数によって表示可能な第1保留記憶表示エリア5Dと、第2保留記憶数を円形の保留表示の数によって表示可能な第2保留記憶表示エリア5Uと、実行中の可変表示に対応する保留表示をアクティブ表示として表示するためのアクティブ表示エリア5Aとが設けられている。

【0360】

画像表示装置5の画面の右上端部には、特別図柄の可変表示中であること、および第1保留記憶数や第2保留記憶数を示す第4図柄5Jが表示される。画像表示装置5の画面の左端部には、各飾り図柄よりも小さいサイズの小図柄5Mが表示されている。小図柄は、「左」の飾り図柄表示エリア5Lに表示されている飾り図柄、「中」の飾り図柄表示エリア5Cに表示されている飾り図柄、「右」の飾り図柄表示エリア5Rに表示されている飾り図柄のそれぞれに対応する図柄が縦に並列されている。また、小図柄5Mは、可変表示中は非表示化させることがなく、常時、画像表示装置5の画面に表示されている図柄でもある。

【0361】

10

20

30

40

50

なお、図 16 に示すように、画像表示装置 5 の画面の中央部に飾り図柄が配置されており、小図柄 5 M は、画像表示装置 5 の画面の左端部において飾り図柄よりも小さいサイズにて配置されている。このため、小図柄 5 M の視認性は、飾り図柄の視認性よりも低くなっている。

【0362】

なお、図 16 (a) に示すように、画像表示装置 5 の画面の形状は四角形または略四角形であるが、上述したように、遊技盤 2 は、画像表示装置 5 の画面の端部に覆いかぶさるようにして固定されている。このため、図 16 (b) に示すように、パチンコ遊技機 1 を正面から見た場合、画像表示装置 5 の画面の一部（特に端部）は、遊技盤 2 によって視認できない、または視認困難になっている。

【0363】

〔基板構成〕

図 17 は、パチンコ遊技機 1 に搭載された各種基板などを説明するための図である。図 17 に示すように、パチンコ遊技機 1 には、主基板 11、演出制御基板 12、音声制御基板 13、ランプ制御基板 14、中継基板 15 などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機 1 の背面には、たとえば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板などといった、各種の基板が配置されている。さらには、電源スイッチ 91 に接続された電源基板 17 も搭載されている。各種制御基板は、導体パターンが形成されて電気部品を実装可能なプリント配線板などの電子回路基板だけでなく、電子回路基板に電気部品が実装されて特定の電氣的機能を実現するように構成された電子回路実装基板を含む概念である。

【0364】

パチンコ遊技機 1 では、商用電源などの外部電源における AC 100V といった交流電源からの電力を、電源基板 17 により主基板 11 や演出制御基板 12 などの各種制御基板を含めた電気部品に供給可能である。電源基板 17 は、たとえば交流 (AC) を直流 (DC) に変換するための整流回路、所定の直流電圧を特定の直流電圧（たとえば直流 12V や直流 5V など）に変換するための電源回路などを備えている。

【0365】

主基板 11 は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機 1 における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当たり遊技状態、小当たり遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板 11 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100、スイッチ回路 110、出力回路 111 などを有する。

【0366】

主基板 11 に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、たとえば 1 チップのマイクロコンピュータであり、ROM (Read Only Memory) 101 と、RAM (Random Access Memory) 102 と、CPU (Central Processing Unit) 103 と、乱数回路 104 と、I/O (Input/Output port) 105 と、RTC (Real Time Clock) 106 とを備える。

【0367】

CPU 103 は、ROM 101 に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板 11 の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM 101 が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 102 がメインメモリとして使用される。RAM 102 は、その一部または全部がパチンコ遊技機 1 に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップ RAM となっている。なお、ROM 101 に記憶されたプログラムの全部または一部を RAM 102 に展開して、RAM 102 上で実行するようにしてもよい。

【0368】

乱数回路 104 は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU 103 が所定のコ

10

20

30

40

50

ンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0369】

I/O105は、たとえば各種信号（後述の検出信号）が入力される入力ポートと、各種信号（特図LED基板9020などを制御（駆動）する信号、ソレノイド駆動信号）を送送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0370】

スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチ（ゲートスイッチ21、始動口スイッチ（第1始動口スイッチ22Aおよび第2始動口スイッチ22B）、カウントスイッチ23、V入賞スイッチ24）からの検出信号（遊技球が通過または進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過または進入が検出されたことになる。

10

【0371】

スイッチ回路110には、電源基板17からのリセット信号、電源断信号、クリア信号が取り込まれて遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送される。リセット信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100などの制御回路を動作停止状態とするための動作停止信号であり、電源監視回路、ウォッチドッグタイマ内蔵IC、システムリセットICのいずれかを用いて出力可能であればよい。電源断信号は、パチンコ遊技機1において用いられる所定電源電圧が所定値を超えるとオフ状態となり、所定電源電圧が所定値以下になった期間が電断基準時間以上まで継続したときにオン状態となる。クリア信号は、たとえば電源基板17に設けられたクリアスイッチ92に対する押圧操作などに応じてオン状態となる。

20

【0372】

出力回路111は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号を、ソレノイド81、ソレノイド82、またはソレノイド83に伝送する。

【0373】

主基板11には、表示モニタ29、表示切替スイッチ30、設定キー51、設定切替スイッチ52、扉開放センサ90が接続されている。扉開放センサ90は、ガラス扉枠3aを含めた遊技機用枠3の開放を検知する。

30

【0374】

主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況などを指定（通知）するコマンド）を演出制御基板12に供給する。主基板11から出力された演出制御コマンドは、中継基板15により中継され、演出制御基板12に供給される。当該演出制御コマンドには、たとえば主基板11における各種の決定結果（たとえば、特図ゲームの表示結果（大当たり種類を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（たとえば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生などを指定するコマンドなどが含まれる。

【0375】

演出制御基板12は、主基板11とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体32の駆動、エラー報知、電断復旧の報知などの各種報知を含む）を実行する機能を有する。

40

【0376】

演出制御基板12には、演出制御用CPU120と、ROM121と、RAM122と、表示制御部123と、乱数回路124と、I/O125とが搭載されている。

【0377】

演出制御用CPU120は、ROM121に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部123とともに演出を実行するための処理（演出制御基板12の上記機能

50

を実現するための処理であり、実行する演出の決定などを含む）を行う。このとき、ROM 121が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 122がメインメモリとして使用される。

【0378】

演出制御用CPU 120は、コントローラセンサユニット35Aやプッシュセンサ35Bからの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部123に指示することもある。

【0379】

表示制御部123は、VDP（Video Display Processor）、CGROM（Character Generator ROM）、VRAM（Video RAM）などを備え、演出制御用CPU 120からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

10

【0380】

表示制御部123は、演出制御用CPU 120からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置5に供給することで、演出画像を画像表示装置5に表示させる。表示制御部123は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ9の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板13に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板14に供給したりする。また、表示制御部123は、可動体32を動作させる信号を当該可動体32または当該可動体32を駆動する駆動回路に供給する。

【0381】

20

音声制御基板13は、スピーカ8L，8Rを駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ8L，8Rを駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ8L，8Rから出力させる。

【0382】

ランプ制御基板14は、遊技効果ランプ9を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ9を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ9を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部123は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

【0383】

なお、音声出力、ランプの点灯／消灯の制御（音指定信号やランプ信号の供給など）、可動体32の制御（可動体32を動作させる信号の供給など）は、演出制御用CPU 120が実行するようにしてもよい。

30

【0384】

乱数回路124は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用CPU 120が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0385】

演出制御基板12に搭載されたI/O 125は、たとえば主基板11などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、ランプ信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

40

【0386】

演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14といった、主基板11以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機1のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0387】

第4図柄ユニット9050は、演出制御基板12に接続されており、制御用CPU 120の制御によって各表示部を点灯（点滅）可能となっている。

【0388】

〔遊技の進行の概略〕

50

上述した構成を備えるパチンコ遊技機 1 においては、以下のようにして遊技が進行する。パチンコ遊技機 1 が備える打球操作ハンドル 30 への遊技者による回転操作により、遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技球が通過ゲート 41 を通過すると、普通図柄表示器 20 による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間などに遊技球が通過ゲート 41 を通過した場合（遊技球が通過ゲート 41 を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（たとえば 4）まで保留される。

【0389】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図ハズレ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置 6B を所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第 2 始動入賞口が開放状態になる）。

【0390】

入賞球装置 6A に形成された第 1 始動入賞口に遊技球が進入すると、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 21 による第 1 特図ゲームが開始される。

【0391】

可変入賞球装置 6B に形成された第 2 始動入賞口に遊技球が進入すると、特図 LED 基板 9020 の特図 2 可変表示部 22 による第 2 特図ゲームが開始される。

【0392】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（たとえば 4）までその実行が保留される。

【0393】

特図ゲームにおいて、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 21 や特図 2 可変表示部 22 に設けられた複数の LED の点灯態様の組合せが、特定の特別図柄（大当り図柄、後述の大当り種類に応じて実際の図柄は異なる。）に対応する点灯態様の組合せとなったときに、「大当り」となる。なお、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 21 や特図 2 可変表示部 22 に設けられた複数の LED の点灯態様の組合せにおける、特定の特別図柄（大当り図柄）に対応する点灯態様を、「特定表示結果」とも称する。また、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 21 や特図 2 可変表示部 22 に設けられた複数の LED の点灯態様の組合せが、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄）に対応する点灯態様の組合せとなったときに、「小当り」となる。また、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 21 や特図 2 可変表示部 22 に設けられた複数の LED の点灯態様の組合せが、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄）に対応する点灯態様の組合せとなったときに、「ハズレ」となる。なお、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 21 や特図 2 可変表示部 22 に設けられた複数の LED の点灯態様の組合せにおける、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄）に対応する点灯態様を、「ハズレ表示結果」とも称する。

【0394】

特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。なお、当り種別として必ずしも小当りを設けなくてもよい。

【0395】

大当り遊技状態では、特別可変入賞球装置 7 により形成される大入賞口が所定の態様で開放状態となる。当該開放状態は、所定期間（たとえば 29 秒間や 1.8 秒間）の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（たとえば 9 個）に達するまでのタイミングとのうちのいずれか早いタイミングまで継続される。この所定期間は、1 ラウ

10

20

30

40

50

ンドにおいて大入賞口を開放することができる上限期間であり、以下、開放上限期間ともいう。このように大入賞口が開放状態となる1のサイクルをラウンド（ラウンド遊技）という。大当り遊技状態では、当該ラウンドが所定の上限回数（10回や7回）に達するまで繰り返し実行可能となっている。

【0396】

大当り遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当り遊技状態におけるラウンド数が多いほど、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

【0397】

なお、「大当り」には、大当り種類が設定されている。たとえば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（通常状態、時短状態、確変状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当り種類が設定されている。大当り種類として、多くの賞球を得ることができる大当り種類や、賞球の少ない大当り種類、または、ほとんど賞球を得ることができない大当り種類が設けられていてもよい。

【0398】

小当り遊技状態では、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。たとえば、小当り遊技状態では、一部の大当り種類のときの大当り遊技状態と同様の開放態様（大入賞口の開放回数が上記ラウンド数と同じであり、かつ、大入賞口の閉鎖タイミングも同じなど）で大入賞口が開放状態となる。なお、大当り種類と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

【0399】

大当り遊技状態が終了した後は、上記大当り種類に応じて、時短状態や確変状態に制御されることがある。

【0400】

時短状態では、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行される。時短状態では、平均的な普図変動時間（普図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させたり、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させるなどにより、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。時短状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

【0401】

確変状態（確率変動状態）では、時短制御に加えて、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

【0402】

時短状態や確変状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当り遊技状態が開始されたことなどといった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り時短、回数切り確変など）ともいう。

【0403】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当り遊技状態などの有利状態、時短状態、確変状態などの特別状態以外の遊技状態のことであり、普図ゲームにおける表示結果が「普図当り」となる確率および特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（たとえばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態である。

【0404】

確変制御が実行されている状態を高確状態、確変制御が実行されていない状態を低確状

10

20

30

40

50

態ともいう。時短制御が実行されている状態を高ベース状態、時短制御が実行されていない状態を低ベース状態ともいう。これらを組合せて、時短状態は低確高ベース状態、確変状態は高確高ベース状態、通常状態は低確低ベース状態などともいわれる。高確状態かつ低ベース状態は高確低ベース状態ともいう。

【0405】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。なお、特図ゲームの表示結果として「小当り」がなくてもよい。

【0406】

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（たとえば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。たとえば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0407】

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。なお、演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、表示に加えて、または表示に代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、遊技効果ランプ9の点灯や消灯、可動体32の動作、あるいは、これらの一部または全部を含む任意の演出装置を用いた演出として行われてもよい。

【0408】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲームまたは第2特図ゲームが開始されることに対応して、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0409】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

【0410】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに対応してリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に応じて表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、たとえば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、さらにスーパーリーチよりも大当り信頼度の高い最強リーチなどがある。また、スーパーリーチの中でも、スーパーリーチの前半とスーパーリーチの後半とに分けられる。本実施の形態においては、ノーマルリーチで可変表示の表示結果が導出されるよりも、スーパーリーチの前半で可変表示の表示結果が導出される方が大当り信頼度が高い。また、スーパーリーチの前半で可変表示の表示結果が導出されるよりも、スーパーリーチの後半で可変表示の表示結果が導出される方が大当り信頼度が高い。また、スーパーリーチの後半で可変表示の表示結果が導出されるよりも、最強リーチで可変表示の表示結果が導出される方が大当り信頼度が高い。なお、以下では、「スーパーリーチ」を「SPリーチ」、「スーパーリーチの前半」を「SP前半」、「スーパーリーチの後半」を「SP後半」とも称する。

【0411】

10

20

30

40

50

特図ゲームの表示結果が「大当り」に対応する点灯態様の組合せ（上述した特定表示結果）となるときには、画像表示装置 5 の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 C, 5 R における所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（たとえば、「7」など）が揃って停止表示される。

【0412】

大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当り」である場合には、奇数の飾り図柄（たとえば、「7」など）が揃って停止表示され、大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当り（通常大当り）」である場合には、偶数の飾り図柄（たとえば、「6」など）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当り」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

10

【0413】

特図ゲームの表示結果が「小当り」に対応する点灯態様の組合せとなるときには、画像表示装置 5 の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当り組合せとなる確定飾り図柄（たとえば、「1 3 5」など）が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 C, 5 R における所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。なお、特図ゲームの表示結果が、一部の大当り種類（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種類）の「大当り」となるときと、「小当り」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

20

【0414】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」に対応する点灯態様の組合せ（上述したハズレ表示結果）となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄（「非リーチハズレ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる）ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当り組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチハズレ」ともいう）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる）こともある。

30

【0415】

パチンコ遊技機 1 が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することも含まれる。また、他の演出として、たとえば、大当り信頼度を予告する予告演出などが飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当り信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当り信頼度を予告する先読予告演出がある。先読予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

40

【0416】

また、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1 回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行するようにしてもよい。

【0417】

大当り遊技状態中にも、大当り遊技状態を報知する大当り中演出が実行される。大当り中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当り遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当り遊技状態中にも、小当り遊技状態を報知する小当り中演出が実行される。なお、小当り遊技状態中と、一部の大当り種類（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種類で、たとえばその後の遊技状態を高

50

確状態とする大当り種類)での大当り遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が小当り遊技状態中であるか、大当り遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当り遊技状態の終了後と大当り遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

【0418】

また、たとえば特図ゲームなどが実行されていないときには、画像表示装置5にデモ(デモンストレーション)画像が表示される(客待ちデモ演出が実行される)。

【0419】

[大当りに関する各種テーブル]

図18および図19を参照しながら、大当りに関する各種テーブルについて説明する。

【0420】

(当り種別)

図18は、当り種別を説明するための図である。図18に示すように、当り種別表においては、大当りにおける当りの種別(種類)ごとに、大当り遊技状態の終了後の大当り確率、大当り遊技状態の終了後のベース、および、大当りにおける開放回数(ラウンド数)が示されている。

【0421】

具体的には、大当りの種別としては、通常大当り1, 2および確変大当り1~9が設けられている。なお、以下では、各ラウンドの標記を「R」で表すことがある。たとえば、1ラウンド目は1R目、2ラウンド目は2R目とも称する。

【0422】

通常大当り1は、3ラウンドの大当り遊技状態の終了後に、低確率状態かつ高ベース状態に制御される大当りである。通常大当り1においては、このような低確高ベース状態が、所定回数(たとえば、50回)に亘って可変表示(特図変動)が実行されるまで継続する。

【0423】

通常大当り2は、3ラウンドの大当り遊技状態の終了後に、低確率状態かつ高ベース状態に制御される大当りである。通常大当り2においては、このような低確高ベース状態が、所定回数(たとえば、100回)に亘って可変表示(特図変動)が実行されるまで継続する。

【0424】

確変大当り1~5は、3ラウンドの大当り遊技状態の終了後に、高確率状態かつ高ベース状態に制御される大当りである。確変大当り1においては、このような高確高ベース状態が、所定回数(たとえば、100回)に亘って可変表示(特図変動)が実行されるまで継続する。

【0425】

確変大当り6は、5ラウンドの大当り遊技状態の終了後に、高確率状態かつ高ベース状態に制御される大当りである。確変大当り6においては、このような高確高ベース状態が、所定回数(たとえば、100回)に亘って可変表示(特図変動)が実行されるまで継続する。

【0426】

確変大当り7は、7ラウンドの大当り遊技状態の終了後に、高確率状態かつ高ベース状態に制御される大当りである。確変大当り7においては、このような高確高ベース状態が、所定回数(たとえば、100回)に亘って可変表示(特図変動)が実行されるまで継続する。

【0427】

確変大当り8, 9は、10ラウンドの大当り遊技状態の終了後に、高確率状態かつ高ベース状態に制御される大当りである。確変大当り8, 9においては、このような高確高ベース状態が、所定回数(たとえば、100回)に亘って可変表示(特図変動)が実行され

10

20

30

40

50

るまで継続する。

【0428】

(各乱数)

図19は、各乱数を説明するための図である。図19に示すように、各乱数は、以下のように使用される。具体的には、ランダム1は、大当りにするか否かを判定する当り判定用のランダムカウンタである。ランダム1は、たとえば、1から1ずつ加算更新されてその上限である65536まで加算更新された後、再度1から加算更新される。ランダム2は、大当り種類(種別)を決定する(大当り種類決定用)ランダムカウンタである。

【0429】

ランダム3およびランダム4は、変動パターンの中の後変動に対応する変動パターン(以下、後変動パターンと称する)(変動時間)を決定する(後変動パターン判定用)ランダムカウンタである。後変動とは、特別図柄の変動のうち、後半部分の変動を指す。なお、ランダム3は、ハズレ時に対応する後変動パターンを決定するランダムカウンタであり、たとえば、1ずつ更新され、1から加算更新されてその上限である65519まで加算更新された後、再度1から加算更新される。ランダム4は、当り時に対応する後変動パターンを決定するランダムカウンタであり、たとえば、1から1ずつ加算更新されてその上限である239まで加算更新された後、再度1から加算更新される。

【0430】

ランダム5は、変動パターンの中の前変動に対応する変動パターン(以下、前変動パターンと称する)(変動時間)を決定する(前変動パターン判定用)ランダムカウンタである。前変動とは、特別図柄の変動のうち、前半部分の変動を指す。ランダム5は、たとえば、1から1ずつ加算更新されてその上限である251まで加算更新された後、再度1から加算更新される。ランダム6は、普通図柄に基づく当りを発生させるか否か決定する(普通図柄当り判定用)ランダムカウンタである。ランダム6は、たとえば、1から1ずつ加算更新されてその上限である201まで加算更新された後、再度1から加算更新される。

【0431】

本実施の形態では、遊技者にとって有利な有利状態としての大当り遊技状態に制御されるか否かが大当り判定用乱数(ランダム1)の値に基づいて決定される。そして、複数種類の大当りのうち、いずれの大当りとするかが、大当り種類判定用乱数(ランダム2)の値に基づいて決定される。このとき、ランダム2の値に基づいて大当り図柄も決定するようにすればよい。

【0432】

また、まず、後変動パターン判定用乱数(ランダム3, 4)を用いて当りまたはハズレに応じて後変動パターンが決定され、前変動パターン判定用乱数(ランダム5)を用いて前変動パターンが決定される。このように、この実施の形態では、2段階の抽選処理によって変動パターンが決定される。

【0433】

(大当り判定テーブル、大当り種類判定テーブル)

図20は、大当り判定テーブルおよび大当り種類判定テーブルを説明するための図である。これらテーブルは、ROM101に記憶されている。

【0434】

図20(a)は、大当り判定テーブルを示す説明図である。大当り判定テーブルとは、ROM101に記憶されているデータの集まりであって、ランダム1と比較される大当り判定値が設定されているテーブルである。大当り判定テーブルには、通常状態(確変状態でない遊技状態、すなわち非確変状態)において用いられる通常時(非確変時)大当り判定テーブルと、確変状態において用いられる確変時大当り判定テーブルとがある。

【0435】

通常時大当り判定テーブルには、図20(a)の上欄に記載されている判定値数の分だけ大当り判定値が設定され、確変時大当り判定テーブルには、図20(a)の下欄に記載

10

20

30

40

50

されている判定値数の分だけ大当り判定値が設定されている。確変時大当り判定テーブルに設定された大当り判定値は、通常時大当り判定テーブルに設定された大当り判定値と共通の大当り判定値に、確変時固有の大当り判定値が加えられたことにより、通常時大当り判定テーブルよりも多い個数の大当り判定値が設定されている。これにより、確変状態においては、通常状態よりも高い確率で大当りとする判定がなされる。

【0436】

CPU103は、所定の時期に、乱数回路104のカウント値を抽出して抽出値を大当り判定用乱数（ランダム1）の値と比較するが、大当り判定用乱数値が図20（a）に示すいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（通常大当り、または、確変大当り）にすることに決定する。なお、図20（a）には、大当りになる確率（割合）またはハズレになる確率（割合）が示されている。

10

【0437】

図20（b）、（c）は、大当り種類判定テーブルを示す説明図である。図20（b）は、第1特別図柄により大当りと判定されたときの大当り種類を決定するために用いる第1特図大当り種類判定テーブルである。図20（c）は、第2特別図柄により大当りと判定されたときの大当り種類を決定するために用いる第2特図大当り種類判定テーブルである。

【0438】

図20（b）の第1特図大当り種類判定テーブルには、大当り種類判定用のランダム2の値と比較される数値であって、通常大当り1、2および確変大当り1～4のそれぞれに対応した判定値数の分だけ判定値が設定されている。たとえば、図20（b）に示すように、第1特図について、通常大当り1は100個のランダム2のうちの25個のランダム2の値が割り当てられ、通常大当り2は100個のランダム2のうちの25個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り1は100個のランダム2のうちの5個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り2は100個のランダム2のうちの37個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り3は100個のランダム2のうちの4個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り4は100個のランダム2のうちの4個のランダム2の値が割り当てられている。

20

【0439】

図20（c）の第2特別図柄大当り種類判定テーブルには、ランダム2の値と比較される数値であって、確変大当り5～9のそれぞれに対応した判定値数の分だけ判定値が設定されている。たとえば、図20（c）に示すように、第2特図について、確変大当り5は100個のランダム2のうちの10個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り6は100個のランダム2のうちの5個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り7は100個のランダム2のうちの5個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り8は100個のランダム2のうちの70個のランダム2の値が割り当てられ、確変大当り9は100個のランダム2のうちの10個のランダム2の値が割り当てられている。

30

【0440】

このような各種の大当り種類判定テーブルを用いて、CPU103は、大当り種類として、ランダム2の値が一致した大当り種類判定値に対応する種類を決定するとともに、大当り図柄として、ランダム2の値が一致した大当り図柄を決定する。これにより、大当り種類と、大当り種類に対応する大当り図柄とが同時に決定される。

40

【0441】

[演出制御コマンド]

図21は、演出制御コマンドの一例を説明するための図である。メイン側の制御基板である主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、遊技制御状態に応じて、各種の演出制御コマンドを演出制御用CPU120へ送信する。演出制御コマンドは、たとえば2バイト構成であり、1バイト目はMODE（コマンドの分類）を示し、2バイト目はEXT（コマンドの種類）を示す。なお、図21に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。なお、以下において、「（H）」は1

50

6進数であることを示すが、本明細書においては、省略する場合もある。

【0442】

コマンド80XX(H)は、特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5において可変表示される飾り図柄の変動パターンのうち、前変動に対応する変動パターン(前変動パターン)を指定する変動パターンコマンドである(XXは、前変動パターンの番号に対応)。サブ側における前変動とは、特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5において可変表示される飾り図柄の変動のうち、前半部分の変動を指す。複数種類の前変動パターンのそれぞれに対して一意な番号を付した場合に、その番号で特定される前変動パターンのそれぞれに対応する前変動パターンコマンドがある。

【0443】

コマンド8101(H)は、第1特図の可変表示の開始を指定する第1可変表示開始コマンドである。コマンド8102(H)は、第2特図の可変表示の開始を指定する第2可変表示開始コマンドである。演出制御用CPU101は、コマンド8101(H)またはコマンド8102(H)を受信すると、画像表示装置5において飾り図柄の可変表示を開始するように制御する。

【0444】

コマンド84XX(H)は、特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5において可変表示される飾り図柄の変動パターンのうち、後変動に対応する変動パターン(後変動パターン)を指定する変動パターンコマンドである(XXは、後変動パターンの番号に対応)。サブ側における後変動とは、特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5において可変表示される飾り図柄の変動のうち、後半部分の変動を指す。複数種類の後変動パターンのそれぞれに対して一意な番号を付した場合に、その番号で特定される後変動パターンのそれぞれに対応する後変動パターンコマンドがある。

【0445】

コマンド8C01(H)は、ハズレに決定されていることを示す表示結果1指定コマンド(ハズレ指定コマンド)である。コマンド8C02(H)は、通常大当たり1に決定されていることを示す表示結果2指定コマンド(通常大当たり1指定コマンド)である。コマンド8C03(H)は、通常大当たり2に決定されていることを示す表示結果3指定コマンド(通常大当たり2指定コマンド)である。コマンド8C04(H)は、確変大当たり1に決定されていることを示す表示結果4指定コマンド(確変大当たり1指定コマンド)である。コマンド8C05(H)は、確変大当たり2に決定されていることを示す表示結果5指定コマンド(確変大当たり2指定コマンド)である。コマンド8C06(H)は、確変大当たり3に決定されていることを示す表示結果6指定コマンド(確変大当たり3指定コマンド)である。コマンド8C07(H)は、確変大当たり4に決定されていることを示す表示結果7指定コマンド(確変大当たり4指定コマンド)である。コマンド8C08(H)は、確変大当たり5に決定されていることを示す表示結果8指定コマンド(確変大当たり5指定コマンド)である。コマンド8C09(H)は、確変大当たり6に決定されていることを示す表示結果9指定コマンド(確変大当たり6指定コマンド)である。コマンド8C10(H)は、確変大当たり7に決定されていることを示す表示結果10指定コマンド(確変大当たり7指定コマンド)である。コマンド8C11(H)は、確変大当たり8に決定されていることを示す表示結果11指定コマンド(確変大当たり8指定コマンド)である。コマンド8C12(H)は、確変大当たり9に決定されていることを示す表示結果12指定コマンド(確変大当たり9指定コマンド)である。ハズレ指定コマンド、通常大当たり1,2指定コマンド、および確変大当たり1~9指定コマンドの各々、あるいはこれらをまとめて8C系コマンドとも称する。

【0446】

コマンド8D01(H)は、第1特図の可変表示を開始することを示す第1図柄変動指定コマンドである。コマンド8D02(H)は、第2特図の可変表示を開始することを示す第2図柄変動指定コマンドである。第1図柄変動指定コマンドおよび第2図柄変動指定コマンドの各々、あるいはこれらをまとめて8D系コマンドとも称する。コマンド8F0

10

20

30

40

50

0 (H) は、第 1 特図や第 2 特図の変動を終了することを指定する図柄確定指定コマンドである。

【0447】

コマンド 9000 (H) は、遊技機に関する電力供給が開始されたときに送信される初期化を指定（電源投入時の初期画面を表示することを指定）する初期化指定コマンドである。コマンド 9200 (H) は、遊技機に関する電力供給が再開されたときに送信される停電の復旧を指定（停電復旧画面を表示することを指定）する停電復旧指定コマンドである。コマンド 9500 (H) は、通常状態の背景を指定する通常状態指定コマンドである。コマンド 9501 (H) は、時短状態の背景を指定する時短状態指定コマンドである。コマンド 9502 (H) は、確変状態の背景を指定する確変状態指定コマンドである。通常状態指定コマンド、時短状態指定コマンド、および確変状態指定コマンドの各々、あるいはこれらをまとめて 95 系コマンドや背景指定コマンドとも称する。コマンド 9F00 (H) は、客待ちのデモンストレーションを指定する客待ちデモ指定コマンドである。

10

【0448】

コマンド A001 (H) は、通常大当り 1 の開始を指定する大当り開始 1 指定コマンドである。コマンド A002 (H) は、通常大当り 2 の開始を指定する大当り開始 2 指定コマンドである。コマンド A003 (H) は、確変大当り 1 の開始を指定する確変大当り開始 3 指定コマンドである。コマンド A004 (H) は、確変大当り 2 の開始を指定する確変大当り開始 4 指定コマンドである。コマンド A005 (H) は、確変大当り 3 の開始を指定する確変大当り開始 5 指定コマンドである。コマンド A006 (H) は、確変大当り 4 の開始を指定する確変大当り開始 6 指定コマンドである。コマンド A007 (H) は、確変大当り 5 の開始を指定する確変大当り開始 7 指定コマンドである。コマンド A008 (H) は、確変大当り 6 の開始を指定する確変大当り開始 8 指定コマンドである。コマンド A009 (H) は、確変大当り 7 の開始を指定する確変大当り開始 9 指定コマンドである。コマンド A010 (H) は、確変大当り 8 の開始を指定する確変大当り開始 10 指定コマンドである。コマンド A011 (H) は、確変大当り 9 の開始を指定する確変大当り開始 11 指定コマンドである。大当り開始 1～11 指定コマンドの各々、あるいはこれらをまとめて A0 系コマンドとも称する。

20

【0449】

A1XX (H) は、XX で示す回数（ラウンド）の大入賞口の開放中を示す大入賞口開放中指定コマンドである。大入賞口開放中指定コマンドを、A1 系コマンドとも称する。A2XX (H) は、XX で示す回数（ラウンド）の大入賞口の閉鎖を示す大入賞口開放後指定コマンドである。大入賞口開放後指定コマンドを、A2 系コマンドとも称する。

30

【0450】

コマンド A301 (H) は、通常大当り 1 の終了を指定する大当り終了 1 指定コマンドである。コマンド A302 (H) は、通常大当り 2 の終了を指定する大当り終了 2 指定コマンドである。コマンド A303 (H) は、確変大当り 1 の終了を指定する大当り終了 3 指定コマンドである。コマンド A304 (H) は、確変大当り 2 の終了を指定する大当り終了 4 指定コマンドである。コマンド A305 (H) は、確変大当り 3 の終了を指定する大当り終了 5 指定コマンドである。コマンド A306 (H) は、確変大当り 4 の終了を指定する大当り終了 6 指定コマンドである。コマンド A307 (H) は、確変大当り 5 の終了を指定する大当り終了 7 指定コマンドである。コマンド A308 (H) は、確変大当り 6 の終了を指定する大当り終了 8 指定コマンドである。コマンド A309 (H) は、確変大当り 7 の終了を指定する大当り終了 9 指定コマンドである。コマンド A310 (H) は、確変大当り 8 の終了を指定する大当り終了 10 指定コマンドである。コマンド A311 (H) は、確変大当り 9 の終了を指定する大当り終了 11 指定コマンドである。大当り終了 1～11 指定コマンドの各々、あるいはこれらをまとめて A3 系コマンドとも称する。

40

【0451】

コマンド AD00 (H) は、V 入賞が発生したことを指定する確変判定装置通過指定コマンドである。確変判定装置通過指定コマンドは、V 大入賞口を通過した遊技球が V 入賞

50

領域に進入してV入賞スイッチ24により検出されるときに送信されるコマンドである。

【0452】

コマンドB100(H)は、第1始動入賞があったことを指定する第1始動入賞指定コマンドである。コマンドB200(H)は、第2始動入賞があったことを指定する第2始動入賞指定コマンドである。

【0453】

コマンドC1XX(H)は、第1保留記憶数がXXで示す数になったことを指定する第1保留記憶数指定コマンドである。第1保留記憶数指定コマンドを、C1系コマンドとも称する。コマンドC2XX(H)は、第2保留記憶数がXXで示す数になったことを指定する第2保留記憶する指定コマンドである。第2保留記憶数指定コマンドを、C2系コマンドとも称する。

10

【0454】

コマンドC4XX(H)およびコマンドC6XX(H)は、第1始動入賞口または第2始動入賞口への始動入賞時における大当り判定、大当り種類判定、変動パターン種類判定などの入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンドである。このうち、コマンドC4XX(H)は、入賞時判定結果のうち、大当りとなるか否か、および、大当りの種類の判定結果を示す図柄指定コマンドである。

【0455】

C7XX(H)は、XXで示す回数目(ラウンド)の大入賞口への遊技球の通過を示す大入賞口入賞指定コマンドである。

20

【0456】

MODEがFD(H)でありかつ、EXTの4bit目が0であるコマンドは、右打ち表示の消灯を示す右打ち表示消灯指定コマンドである。MODEデータがFD(H)でありかつ、EXTデータの4bit目が1であるコマンドは、右打ち表示の点灯を示す右打ち表示点灯指定コマンドである。本実施の形態においては、特に右打ち表示点灯指定コマンドを、FD系コマンドとも称する。

【0457】

遊技制御用マイクロコンピュータ100は、始動入賞時に、大当りとなるか否か、大当りの種類、変動パターン種類判定用乱数の値がいずれの判定値の範囲となるかを判定する。そして、図柄指定コマンドのEXTデータに、大当りとなることを指定する値、および、大当りの種類を指定する値を設定し、演出制御用CPU120に送信する制御を行う。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、変動種別コマンドのEXTデータに変動パターン種別の判定結果としての判定値の範囲を指定する値を設定し、演出制御用CPU120に送信する制御を行う。演出制御用CPU120は、図柄指定コマンドに設定されている値に基づいて、表示結果が大当りとなるか否か、大当りの種別を認識できるとともに、変動種別コマンドに基づいて、変動パターン種別を認識できる。

30

【0458】

〔変動パターン〕

図22～図28を参照しながら、変動パターンの内容および変動パターンの決定などについて説明する。

40

【0459】

本実施の形態においては、メイン側である遊技制御用マイクロコンピュータ100によって、複数種類の変動パターンが設定される。各変動パターンは、メイン変動番号によって管理されるとともに、前変動に対応する変動パターンである前変動パターンと、後変動に対応する後変動パターンとの組合せで構成され、当該組合せによって互いに異なる内容を含むようになっている。なお、前変動パターンは、図21を用いて説明した前変動パターンコマンド(80XX(H))に対応し、後変動パターンは、図21を用いて説明した後変動パターンコマンド(84XX(H))に対応する。

【0460】

(メイン側の前変動パターン)

50

図 2 2 は、メイン側における前変動パターンの一例を説明するための図である。前変動番号が各々割り当てられた複数種類の前変動パターンのうち、前変動番号 1 は、通常変動（たとえば、1 3 秒間に亘る飾り図柄の変動）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 0（H））である。前変動番号 2 は、短縮変動（たとえば、7 秒間に亘る飾り図柄の変動）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 1（H））である。前変動番号 3 は、超短縮変動（たとえば、3 秒間に亘る飾り図柄の変動）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 2（H））である。

【0 4 6 1】

前変動番号 4 は、ノーマルリーチ（役物×）（リーチ態様となるが可動体 3 2 が動作しないリーチ）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 3（H））である。前変動番号 5 は、ノーマルリーチ（役物○）（リーチ態様となって可動体 3 2 が動作するリーチ）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 4（H））である。前変動番号 6 は、ノーマルリーチ（最終リーチ発展）（リーチ態様となって最終リーチに発展するリーチ）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 5（H））である。

【0 4 6 2】

前変動番号 7 は、擬似変動を 1 回した後にノーマルリーチ（役物×）を実行することを指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 6（H））である。擬似変動とは、飾り図柄の可変表示（変動表示）が開始されてから当該可変表示の表示結果が導出表示されるまでに、当該可変表示を一旦仮停止させた後に当該可変表示を再開するような可変表示（変動表示）である。このような擬似変動を繰り返す演出を擬似連ともいう。擬似連を実行することで、1 個の保留記憶に基づく可変表示を、擬似的に複数回の可変表示のように遊技者に見せることができる。なお、一旦仮停止させた後に再開する可変表示を「再可変表示」とも称する。前変動番号 8 は、擬似変動を 1 回した後にノーマルリーチ（役物○）を実行することを指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 7（H））である。前変動番号 9 は、擬似変動を 1 回した後にノーマルリーチ（最終リーチ発展）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 8（H））である。

【0 4 6 3】

前変動番号 1 0 は、擬似変動を 2 回した後にノーマルリーチ（役物×）を実行することを指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 9（H））である。前変動番号 1 1 は、擬似変動を 2 回した後にノーマルリーチ（役物○）を実行することを指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 A（H））である。前変動番号 1 2 は、擬似変動を 2 回した後にノーマルリーチ（最終リーチ発展）を指定する前変動パターンコマンド（8 0 0 B（H））である。

【0 4 6 4】

前変動パターンの各々は、変動時間が指定されており、各変動時間に亘って画像表示装置 5 にアニメーション（動画）が表示される。なお、パチンコ遊技機 1 においては、動画を構成する静止画 1 枚分（フレームと称する）につき、約 3 3 . 3 m s e c 分の時間を要する。たとえば、前変動番号 7 ～ 9 のパターンの場合、変動時間として 4 1 5 0 0 m s e c が設定されており、そのフレーム数は、約 1 2 4 6 枚となる。また、前変動番号 1 0 ～ 1 2 のパターンの場合、変動時間として 6 2 0 0 0 m s e c が設定されており、そのフレーム数は、約 1 8 6 1 枚となる。

【0 4 6 5】

（メイン側の後変動パターン）

図 2 3 は、メイン側における後変動パターンの一例を説明するための図である。後変動番号が各々割り当てられた複数種類の後変動パターンのうち、後変動番号 1 は、1 3 秒変動を指定する後変動パターンコマンド（8 4 0 0（H））である。後変動番号 2 は、7 秒変動を指定する後変動パターンコマンド（8 4 0 1（H））である。後変動番号 3 は、3 秒変動を指定する後変動パターンコマンド（8 4 0 2（H））である。後変動番号 4 は、擬似連ガセを実行することを指定する後変動パターンコマンド（8 4 0 3（H））である。擬似連ガセとは、擬似連を実行すると見せかけて結局は擬似連を実行しない演出などで

10

20

30

40

50

ある。

【0466】

後変動番号5は、ノーマルリーチ（ハズレ）（リーチ態様となるがSPリーチに発展することなくハズレ態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（8404（H））である。後変動番号6は、SP前半（ハズレ）（SPリーチに発展するがSPリーチの前半でハズレ態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（8405（H））である。後変動番号7は、SP後半（ハズレ）（SPリーチの後半に発展するがSPリーチの後半でハズレ態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（8406（H））である。後変動番号8は、最終リーチ（ハズレ）（最終リーチに発展するが最終リーチでハズレ態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（8407（H））である。

10

【0467】

後変動番号9は、ノーマルリーチ（当り）（リーチ態様となって当り態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（8408（H））である。後変動番号10は、SP前半（当り）（SPリーチに発展してSPリーチの前半で当り態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（8409（H））である。後変動番号11は、SP後半（当り）（SPリーチの後半に発展してSPリーチの後半で当り態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（840A（H））である。後変動番号12は、最終リーチ（当り）（最終リーチに発展して最終リーチで当り態様となる飾り図柄の変動）を指定する後変動パターンコマンド（840B（H））である。

20

【0468】

（後変動パターンの判定）

後変動パターンは、大当り判定において、大当りおよびハズレのいずれに決定されたかに応じて異なるランダムカウンタを用いて決定される。図24は、ハズレ時における後変動パターン判定テーブルを説明するための図である。図24に示すように、大当り判定においてハズレに決定された場合、図19で説明したランダム3を用いて後変動パターンが決定される。さらに、大当り判定においてハズレに決定された場合、消化後の保留記憶数に応じて、異なる判定値数を用いて後変動パターンが決定され、さらに、決定される後変動番号も異なる。

【0469】

具体的には、図24（a）に示すように、消化後の保留記憶数が0個の場合、後変動番号1，4，5～8のうちからいずれかの後変動パターンが決定され、後変動パターンの各々に対して異なる判定値数が設けられている。なお、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号6～8のいずれかに決定される確率（後変動番号6～8の選択率）は、約1／102となっている。

30

【0470】

消化後の保留記憶数が1個の場合、後変動番号1，4，5～8のうちからいずれかの後変動パターンが決定され、後変動パターンの各々に対して異なる判定値数が設けられている。なお、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号6～8のいずれかに決定される確率（後変動番号6～8の選択率）は、約1／102となっている。

40

【0471】

消化後の保留記憶数が2個の場合、後変動番号2，4，5～8のうちからいずれかの後変動パターンが決定され、後変動パターンの各々に対して異なる判定値数が設けられている。なお、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号6～8のいずれかに決定される確率（後変動番号6～8の選択率）は、約1／102となっている。

【0472】

消化後の保留記憶数が3個の場合、後変動番号3，4，5～8のうちからいずれかの後変動パターンが決定され、後変動パターンの各々に対して異なる判定値数が設けられている。なお、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号6～8のいずれかに決定される確率（後変動番号6～8の選択率）は、約1／102となっている。

50

【0473】

このように、消化後の保留記憶数に応じて異なる判定値数を用いて後変動パターンが決定され、さらに、消化後の保留記憶数に応じて異なる判定値数を用いて後変動番号が決定されるため、残っている保留記憶数に応じて変動パターンの種類が変化し、これにより、遊技に多様性を持たせて遊技の興趣を向上させることができる。

【0474】

図25は、大当たり時における後変動パターン判定テーブルを説明するための図である。図25に示すように、大当たり判定において大当たり決定された場合、図19で説明したランダム4を用いて後変動パターンが決定される。さらに、大当たり判定において大当たり決定された場合、大当たりの種類に応じて、異なる判定値数を用いて後変動パターンが決定される。

10

【0475】

具体的には、図25(a)に示すように、通常大当たり1, 2、確変大当たり1, 2, 5~8のいずれかに決定された場合、後変動番号9~12のうちからいずれかの後変動パターンが決定され、後変動パターンの各々に対して異なる判定値数が設けられている。なお、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号10~12のいずれかに決定される確率（後変動番号10~12の選択率）は、約1/1.1となっている。

【0476】

確変大当たり3, 9のいずれかに決定された場合、後変動番号9~12のうちからいずれかの後変動パターンが決定され、後変動パターンの各々に対して異なる判定値数が設けられている。なお、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号10~12のいずれかに決定される確率（後変動番号10~12の選択率）は、約1/1.1となっている。

20

【0477】

確変大当たり4に決定された場合、後変動番号9~12のうちからいずれかの後変動パターンが決定され、後変動パターンの各々に対して異なる判定値数が設けられている。なお、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号10~12のいずれかに決定される確率（後変動番号10~12の選択率）は、約1/1.1となっている。

【0478】

このように、大当たりの種類に応じて異なる判定値数を用いて後変動パターンが決定されるため、大当たりの種類に応じて変動パターンの種類が変化し、これにより、遊技に多様性を持たせて遊技の興趣を向上させることができる。

30

【0479】

また、図24に示すように、SPリーチや最終リーチに発展する後変動番号6~8のいずれかに決定される確率は、ハズレ時が約1/102となっているのに対して、大当たり時がそれよりも高い約1/1.1となっているため、SPリーチや最終リーチに発展した場合には、大当たりが発生することに対して遊技者に期待させることができる。

【0480】

(前変動パターンの判定)

図26は、前変動パターン判定テーブルを説明するための図である。前変動パターンは、先に決定された後変動パターンの種類に応じて異なるランダム5の判定値数を用いて決定される。さらに、先に決定された後変動パターンの種類に応じて、決定される前変動番号も異なる。

40

【0481】

具体的には、図26(a)に示すように、後変動番号1の後変動パターンに決定された場合、前変動番号1の前変動パターンに決定される。図26(b)に示すように、後変動番号2の後変動パターンに決定された場合、前変動番号2の前変動パターンに決定される。図26(c)に示すように、後変動番号3の後変動パターンに決定された場合、前変動番号3の前変動パターンに決定される。図26(d)に示すように、後変動番号4の後変動パターンに決定された場合、前変動番号1の前変動パターンに決定される。

【0482】

50

図 2 6 (e) に示すように、後変動番号 5 , 9 のいずれかの後変動パターンに決定された場合、前変動番号 4 , 7 のいずれかの前変動パターンに決定される。図 2 6 (f) に示すように、後変動番号 6 , 1 0 のいずれかの後変動パターンに決定された場合、前変動番号 4 , 7 , 1 0 のいずれかの前変動パターンに決定される。図 2 6 (g) に示すように、後変動番号 7 の後変動パターンに決定された場合、前変動番号 5 , 8 , 1 1 のいずれかの前変動パターンに決定される。

【 0 4 8 3 】

図 2 6 (h) に示すように、後変動番号 1 1 の後変動パターンに決定された場合、前変動番号 5 , 8 , 1 1 のいずれかの前変動パターンに決定される。図 2 6 (i) に示すように、後変動番号 8 の後変動パターンに決定された場合、前変動番号 6 , 9 , 1 2 のいずれかの前変動パターンに決定される。図 2 6 (j) に示すように、後変動番号 1 2 の後変動パターンに決定された場合、前変動番号 6 , 9 , 1 2 のいずれかの前変動パターンに決定される。

【 0 4 8 4 】

(全変動パターン)

図 2 7 は、メイン側における全変動パターンの一例を説明するための図である。図 2 4 ~ 図 2 6 で説明したようにして、後変動パターンおよび前変動パターンが決定されると、図 2 7 に示すようなメイン変動番号 1 ~ 2 6 の変動パターンのいずれかとなる。

【 0 4 8 5 】

図 2 8 は、サブ側における全変動パターンの一例を説明するための図である。さらに、サブ側においても、メイン変動番号 1 ~ 2 6 の変動パターンの各々に対応するように、サブ変動番号 1 ~ 2 6 の変動パターンが定められている。

【 0 4 8 6 】

[各予告演出]

図 2 9 は、各予告演出における抽選テーブルを説明するための図である。本実施の形態においては、特別図柄や飾り図柄の可変表示の表示結果が所定の大当り図柄になることを示唆する予告演出が実行されることがある。予告演出は、大当りの発生を示唆または予告する演出、遊技者に対して大当りを期待させる演出でもある。予告演出には、群予告演出 (群予告、群演出とも称する) と S P 前半タイトル予告演出 (S P 前半タイトル予告とも称する) が含まれる。

【 0 4 8 7 】

群予告演出は、複数のオブジェクトが群となって進行する画像を表示する演出である。複数のオブジェクトは、人や魚や動物などのキャラクタ、飛行機や車などの機械など、進行するものであればいずれのものも含まれる。キャラクタなどのオブジェクトは 1 種類であってもよいし、複数種類であってもよい。パチンコ遊技機 1 において、複数種類の群予告演出が設けられている。具体的には、メイドの格好をした 6 人のキャラクタが群となって進行する 6 人群予告、爆チューという名前の爆弾の体を持つネズミのキャラクタが群となって進行する爆チュー群予告、ボインゴという名前のキャラクタが群となって進行するボインゴ群予告が実行されうる。

【 0 4 8 8 】

本実施の形態においては、群予告演出は、S P リーチや最終リーチに発展する後変動番号 6 ~ 8 , 1 0 ~ 1 2 の後変動パターンに決定されたときに、群予告抽選で実行されるか否か、および実行する群予告演出の種類が決定される。

【 0 4 8 9 】

図 2 9 (a) には、ステージ A において群予告抽選を実行するための抽選テーブルが示されている。本実施の形態においては、同じ変動パターンに基づき可変表示が行われたとしても、その演出態様 (背景画像、B G M や効果音、登場するキャラクタなど) が互いに異なる複数種類のステージが設けられている。詳しくは後述するが、本実施の形態において、ステージ A は、メイドの格好をした 6 人のキャラクタに含まれる夢夢ちゃんというキャラクタによる演出が行われるステージである。

【0490】

図29(a)に示すように、ハズレに対応する後変動番号6～8の後変動パターンに決定された場合、15%の確率で群予告演出が実行され、そのうち、13%の確率で6人群予告に決定され、2%の確率でボイング群予告に決定される。また、当りに対応する後変動番号10～12の後変動パターンに決定された場合、85%の確率で群予告演出が実行され、そのうち、55%の確率で6人群予告に決定され、30%の確率でボイング群予告に決定される。

【0491】

ここで、ハズレになる確率が約 $319/320$ であり、後変動番号6～8の後変動パターンに決定される確率が約 $1/102$ であることを考慮すると、ハズレ時に変動番号6～8の後変動パターンに決定される確率は約 $1/102$ である。そして、この場合において群予告が実行される確率は約15%であるため、ハズレ時に群予告が実行される確率は約0.15%になる。一方、大当りになる確率が約 $1/320$ であり、後変動番号10～12の後変動パターンに決定される確率が約 $1/1.1$ であることを考慮すると、当り時に変動番号10～12の後変動パターンに決定される確率は約 $1/320$ である。そして、この場合において群予告が実行される確率は約85%であるため、当り時に群予告が実行される確率は約0.27%になる。このことから、群予告が実行された場合に大当りとなる確率(信頼度、期待度)は約64%になる。なお、群予告の信頼度(期待度)は、64%に限らず、50%を超えていれば、実行されることで、遊技者に大当りが発生することを期待させることができる。

【0492】

図29(b)には、ステージBにおいて群予告抽選を実行するための抽選テーブルが示されている。詳しくは後述するが、本実施の形態において、ステージBは、爆チューというキャラクタによる演出が行われるステージである。

【0493】

図29(b)に示すように、ハズレに対応する後変動番号6～8の後変動パターンに決定された場合、10%の確率で群予告演出が実行され、そのうち、8%の確率で爆チュー群予告に決定され、2%の確率でボイング群予告に決定される。また、当りに対応する後変動番号10～12の後変動パターンに決定された場合、90%の確率で群予告演出が実行され、そのうち、60%の確率で爆チュー群予告に決定され、30%の確率でボイング群予告に決定される。

【0494】

ここで、前述したように、ハズレ時に変動番号6～8の後変動パターンに決定される確率は約 $1/102$ である。そして、この場合において群予告が実行される確率は約10%であるため、ハズレ時に群予告が実行される確率は約0.10%になる。一方、当り時に変動番号10～12の後変動パターンに決定される確率は約 $1/320$ である。そして、この場合において群予告が実行される確率は約90%であるため、当り時に群予告が実行される確率は約0.28%になる。このことから、群予告が実行された場合に大当りとなる確率(信頼度、期待度)は約74%になる。なお、群予告の信頼度(期待度)は、74%に限らず、50%を超えていれば、実行されることで、遊技者に大当りが発生することを期待させることができる。

【0495】

SP前半タイトル予告は、SPリーチに発展した場合に、SPリーチの前半のタイトルを示す文字画像の表示態様によって大当りになることを示唆する演出である。本実施の形態において、SP前半タイトルの文字画像の表示はステージAおよびステージBのいずれにおいても実行されるが、当該SP前半タイトルの文字画像の表示態様を変化させる予告演出は、ステージBの場合にのみ実行される。なお、ステージAの場合においてもSP前半タイトルの文字画像の表示態様を変化させる予告演出が実行されてもよい。

【0496】

本実施の形態においては、SP前半タイトル予告は、SPリーチや最終リーチに発展す

10

20

30

40

50

る後変動番号6～12の後変動パターンに決定されたときに、SP前半タイトル予告抽選で実行されるか否か、および実行するSP前半タイトル予告の種類が決定される。

【0497】

図29(c)に示すように、ハズレに対応する後変動番号6～8の後変動パターンに決定された場合、20%の確率でSP前半タイトル予告が実行され、当りに対応する後変動番号10～12の後変動パターンに決定された場合、80%の確率でSP前半タイトル予告が実行される。

【0498】

ここで、前述したように、ハズレ時に変動番号6～8の後変動パターンに決定される確率は約 $1/102$ である。そして、この場合においてSP前半タイトル予告が実行される確率は約20%であるため、ハズレ時にSP前半タイトル予告が実行される確率は約0.20%になる。一方、当り時に変動番号10～12の後変動パターンに決定される確率は約 $1/320$ である。そして、この場合においてSP前半タイトル予告が実行される確率は約80%であるため、当り時にSP前半タイトル予告が実行される確率は約0.25%になる。このことから、SP前半タイトル予告が実行された場合に大当たりとなる確率(信頼度、期待度)は約56%になる。なお、SP前半タイトル予告の信頼度(期待度)は、56%に限らず、50%を超えていれば、実行されることで、遊技者に大当たりが発生することを期待させることができる。

【0499】

このように、群予告における信頼度(大当たりの期待度)は64%(ステージAの場合)や74%(ステージBの場合)であるのに対して、SP前半タイトル予告における信頼度(大当たりの期待度)は56%であり、群予告は、SP前半タイトル予告よりも、信頼度が高くなっている。このため、群予告が実行されたときは、SP前半タイトル予告が実行されたときよりも、遊技者にとっての有利度合いが高く、遊技者は、SP前半タイトル予告よりも群予告が実行されることを期待するようになっている。

【0500】

また、ステージAにおけるポインゴ群予告は、ハズレ時においては2%の確率でしか実行されないのに対して、当り時においては30%の確率で実行されるため、ポインゴ群予告が実行されたときは、ほぼ大当たりである可能性が高い。一方、ステージAにおける6人群予告は、ハズレ時においては13%の確率で実行されるのに対して、当り時においては55%の確率で実行されるため、6人群予告が実行されてもハズレである可能性はポインゴ群予告よりも大きい。このため、ポインゴ群予告が実行されたときは、6人群予告が実行されたときよりも、遊技者にとっての有利度合いが高く、遊技者は、6人群予告よりもポインゴ群予告が実行されることを期待するようになっている。

【0501】

同様に、ステージBにおけるポインゴ群予告は、ハズレ時においては2%の確率でしか実行されないのに対して、当り時においては30%の確率で実行されるため、ポインゴ群予告が実行されたときは、ほぼ大当たりである可能性が高い。一方、ステージBにおける爆チュー群予告は、ハズレ時においては8%の確率で実行されるのに対して、当り時には60%の確率で実行されるため、爆チュー群予告が実行されてもハズレである可能性はポインゴ群予告よりも大きい。このため、ポインゴ群予告が実行されたときは、爆チュー群予告が実行されたときよりも、遊技者にとっての有利度合いが高く、遊技者は、爆チュー群予告よりもポインゴ群予告が実行されることを期待するようになっている。

【0502】

さらに、ステージAにおける6人群予告は、ハズレ時においては13%の確率で実行されるのに対して、当り時においては55%の確率で実行される。一方、ステージBにおける爆チュー群予告は、ハズレ時においては8%の確率で実行されるのに対して、当り時には60%の確率で実行される。このため、ステージBにおける爆チュー群予告は、ステージAにおける6人群予告よりも、大当たり時に実行される割合が高くなっている。これにより、ステージBにおいて爆チュー群予告が実行されたときは、ステージAにおいて

6 人 群 予 告 が 実 行 さ れ た と き よ り も、遊 技 者 に と っ て の 有 利 度 合 い が 高 く、遊 技 者 は、6 人 群 予 告 よ り も 6 人 群 予 告 が 実 行 さ れ る こ と を 期 待 す る よ う に な っ て い る。

【0503】

な お、ス テ ー ジ A に お け る 群 予 告 の 信 頼 度 と、ス テ ー ジ B に お け る 群 予 告 の 信 頼 度 と は、同 じ に な る よ う に 設 計 さ れ て も よ い。こ の 場 合 に お い て、ス テ ー ジ A に お け る 群 予 告 お よ び ス テ ー ジ B に お け る 群 予 告 は い ず れ も S P 前 半 タ イ ト ル 予 告 よ り も 信 頼 度 が 高 く な っ て い れ ば よ く、ま た、ポ イ ン ゴ 群 予 告 は 6 人 群 予 告 や 爆 チ ュ ー 群 予 告 よ り も 信 頼 度 が 高 く な っ て い れ ば よ い。

【0504】

〔動作〕

次 に、パ チ ン コ 遊 技 機 1 の 動 作（作 用）を 説 明 す る。

【0505】

（主 基 板 1 1 の 主 要 な 動 作）

ま ず、主 基 板 1 1 に お け る 主 要 な 動 作 を 説 明 す る。

【0506】

（特 別 図 柄 プ ロ セ ス 処 理）

図 3 0 は、遊 技 制 御 メ イ ン 処 理 の 一 例 を 示 す フ ロ ー チ ャ ー ト で あ る。パ チ ン コ 遊 技 機 1 に 対 し て 電 力 供 給 が 開 始 さ れ る と、遊 技 制 御 用 マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ 1 0 0 が 起 動 し、C P U 1 0 3 に よ っ て 遊 技 制 御 メ イ ン 処 理 が 実 行 さ れ る。

【0507】

図 3 0 に 示 す 遊 技 制 御 メ イ ン 処 理 に お い て、C P U 1 0 3 は、ま ず、割 込 禁 止 に 設 定 す る（ス テ ッ プ S 9 0 1）。続 い て、C P U 1 0 3 は、必 要 な 初 期 設 定 を 行 う（ス テ ッ プ S 9 0 2）。初 期 設 定 に は、ス タ ッ ク ポ イ ン タ の 設 定、内 蔵 デ バ イ ス（C T C（カ ウ ン タ／タ イ マ 回 路）、パ ラ レ ル 入 出 力 ポ ー ト な ど）の レ ジ ス タ 設 定、R A M 1 0 2 を ア ク セ ス 可 能 状 態 に す る 設 定 な ど が 含 ま れ る。

【0508】

次 に、C P U 1 0 3 は、復 旧 条 件 が 成 立 し た か 否 か を 判 定 す る（ス テ ッ プ S 9 0 3）。復 旧 条 件 は、ク リ ア 信 号 が オ フ 状 態 で あ り、バ ッ ク ア ッ プ デ ー タ が あ り、バ ッ ク ア ッ プ R A M が 正 常 で あ る 場 合 に、成 立 可 能 で あ る。パ チ ン コ 遊 技 機 1 の 電 力 供 給 が 開 始 さ れ た と き に、た と え ば 電 源 基 板 1 7 に 設 け ら れ た ク リ ア ス イ ッ チ 9 2 が 押 圧 操 作 さ れ て い れ ば、オ ン 状 態 の ク リ ア 信 号 が 遊 技 制 御 用 マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ 1 0 0 に 入 力 さ れ る。こ の よ う な オ ン 状 態 の ク リ ア 信 号 が 入 力 さ れ て い る 場 合 に は、ス テ ッ プ S 9 0 3 に て 復 旧 条 件 が 成 立 し て い な い と 判 定 す れ ば よ い。バ ッ ク ア ッ プ デ ー タ は、遊 技 制 御 用 の バ ッ ク ア ッ プ R A M と な る R A M 1 0 2 に 保 存 可 能 で あ れ ば よ い。ス テ ッ プ S 9 0 3 で は、バ ッ ク ア ッ プ デ ー タ の 有 無 や デ ー タ 誤 り の 有 無 な ど を 確 認 あ る い は 検 査 し て、復 旧 条 件 が 成 立 し 得 る か 否 か を 判 定 す れ ば よ い。

【0509】

C P U 1 0 3 は、復 旧 条 件 が 成 立 し た 場 合 に は（ス テ ッ プ S 9 0 3 で Y）、復 旧 処 理（ス テ ッ プ S 9 0 4）を 実 行 し た 後 に、設 定 確 認 処 理（ス テ ッ プ S 9 0 5）を 実 行 す る。C P U 1 0 3 は、ス テ ッ プ S 9 0 4 の 復 旧 処 理 に よ り、R A M 1 0 2 の 記 憶 内 容 に 基 づ い て 作 業 領 域 の 設 定 が 行 わ れ る。R A M 1 0 2 に 記 憶 さ れ た バ ッ ク ア ッ プ デ ー タ を 用 い て 作 業 領 域 を 設 定 す る こ と で、電 力 供 給 が 停 止 し た と き の 遊 技 状 態 に 復 旧 し、た と え ば 特 別 図 柄 の 変 動 中 で あ っ た 場 合 に は、停 止 前 の 状 態 か ら 特 別 図 柄 の 変 動 を 再 開 可 能 で あ れ ば よ い。

【0510】

C P U 1 0 3 は、復 旧 条 件 が 成 立 し な か っ た 場 合 に は（ス テ ッ プ S 9 0 3 で N）、初 期 化 処 理（ス テ ッ プ S 9 0 6）を 実 行 し た 後 に、設 定 変 更 処 理（ス テ ッ プ S 9 0 7）を 実 行 す る。ス テ ッ プ S 9 0 6 の 初 期 化 処 理 は、R A M 1 0 2 に 記 憶 さ れ る フ ラ グ、カ ウ ン タ、バ ッ フ ァ を ク リ ア す る ク リ ア 処 理 を 含 み、ク リ ア 処 理 の 実 行 に よ り 作 業 領 域 に 初 期 値 が 設 定 さ れ る。

【0511】

10

20

30

40

50

ステップ S 9 0 5 の設定確認処理では、予め定められた設定確認条件が成立したか否かを判定する。設定確認条件は、たとえば電力供給が開始されたときに、扉開放センサ 9 0 からの検出信号がオン状態であるとともに設定キー 5 1 がオン操作されている場合に成立する。ステップ S 9 0 5 の設定確認処理が実行されるのは、ステップ S 9 0 3 において、クリア信号がオフ状態であることを含めた復旧条件が成立した場合である。したがって、設定確認条件が成立し得るのは、クリア信号がオフ状態である場合となるので、クリア信号がオフ状態であることも、設定確認条件に含めることができる。

【 0 5 1 2 】

ステップ S 9 0 5 の設定確認処理において設定確認条件が成立した場合には、パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値を確認可能な設定確認状態となり、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定確認開始コマンドが送信される。設定確認状態においては、パチンコ遊技機 1 にて設定されている設定値を表示モニタ 2 9 の表示により確認することが可能となっている。設定確認状態を終了するときには、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定確認終了コマンドが送信される。

【 0 5 1 3 】

パチンコ遊技機 1 が設定確認状態であるときには、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を停止させる遊技停止状態としてもよい。遊技停止状態であるときには、打球操作ハンドル 3 0 の操作による遊技球の発射、各種スイッチによる遊技球の検出などが停止され、また、ハズレ図柄などを停止表示したり、ハズレ図柄とは異なる遊技停止状態に対応した表示が行われたりするように制御すればよい。設定確認状態が終了するときには、これに伴う遊技停止状態も終了すればよい。

【 0 5 1 4 】

C P U 1 0 3 は、ステップ S 9 0 7 の設定変更処理では、予め定められた設定変更条件が成立したか否かを判定する。設定変更条件は、たとえば電力供給が開始されたときに、扉開放センサ 9 0 からの検出信号がオン状態であるとともに設定キー 5 1 がオン操作されている場合に成立する。設定変更条件は、クリア信号がオン状態であることを含んでいてもよい。

【 0 5 1 5 】

ステップ S 9 0 7 の設定変更処理において設定変更条件が成立した場合には、パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値を変更可能な設定変更状態となり、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定変更開始コマンドが送信される。設定変更状態においては、表示モニタ 2 9 に設定値が表示され、設定切替スイッチ 5 2 の操作を検出するごとに表示モニタ 2 9 に表示している数値を順次更新して表示する。その後、C P U 1 0 3 は、設定キー 5 1 が遊技場の係員などによる操作でオフとなったことに基づいて、表示モニタ 2 9 に表示されている設定値を R A M 1 0 2 のバックアップ領域に格納（更新記憶）するとともに、表示モニタ 2 9 を消灯させる。設定変更状態を終了するときには、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して、設定変更終了コマンドが送信される。

【 0 5 1 6 】

パチンコ遊技機 1 が設定変更状態であるときには、設定確認状態であるときと同様に、パチンコ遊技機 1 を遊技停止状態としてもよい。設定変更状態が終了するときには、これに伴う遊技停止状態も終了すればよい。

【 0 5 1 7 】

演出制御基板 1 2 側では、設定確認開始コマンドや設定変更開始コマンドを受信すると、設定確認中である旨や設定変更中である旨を報知する制御が行われてもよい。たとえば、画像表示装置 5 において所定の画像を表示したり、スピーカ 8 L , 8 R から所定の音を出力したり、遊技効果ランプ 9 といった発光部材を所定の態様により発光させたりしてもよい。

【 0 5 1 8 】

クリア信号は、たとえば電源基板 1 7 に設けられたクリアスイッチ 9 2 の押圧操作などによりオン状態となる。したがって、電力供給が開始されたときに、扉開放センサ 9 0 か

10

20

30

40

50

らの検出信号がオンであるとともに設定キー 51 がオンである場合には、クリアスイッチ 92 がオンであればステップ S 906 の初期化处理とともにステップ S 907 の設定変更処理が実行されて設定変更状態に制御可能となり、クリアスイッチ 92 がオフであればステップ S 904 の復旧処理とともにステップ S 905 の設定確認処理が実行されて設定確認状態に制御可能となる。電力供給が開始されたときに、扉開放センサ 90 からの検出信号がオフである場合、または設定キー 51 がオフである場合には、クリアスイッチ 92 がオンであればステップ S 906 の初期化处理が実行される一方で設定変更状態には制御されず、クリアスイッチ 92 がオフであればステップ S 904 の復旧処理が実行される一方で設定確認状態には制御されない。

【0519】

設定確認処理または設定変更処理を実行した後に、CPU 103 は、乱数回路 104 を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップ S 908）。そして、CPU 103 は、所定時間（たとえば 2 ms）ごとに定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に内蔵されている CTC のレジスタの設定を行い（ステップ S 909）、割込みを許可する（ステップ S 9010）。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間（たとえば 2 ms）ごとに CTC から割込み要求信号が CPU 103 へ送出され、CPU 103 は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0520】

（遊技制御用タイマ割込み処理）

図 31 は、遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。遊技制御メイン処理を実行した CPU 103 は、CTC からの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図 31 のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図 31 に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU 103 は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路 110 を介してゲートスイッチ 21、第 1 始動口スイッチ 22A、第 2 始動口スイッチ 22B、カウントスイッチ 23 といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップ S 21）。続いて、CPU 103 は、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機 1 の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップ S 22）。この後、CPU 103 は、所定の情報出力処理を実行することにより、たとえばパチンコ遊技機 1 の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当り情報（大当りの発生回数などを示す情報）、始動情報（始動入賞の回数などを示す情報）、確率変動情報（確変状態となった回数などを示す情報）などのデータを出力する（ステップ S 23）。

【0521】

CPU 103 は、情報出力処理に続いて、主基板 11 の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップ S 24）。この後、CPU 103 は、特別図柄プロセス処理を実行する（ステップ S 25）。CPU 103 がタイマ割込みごとに特別図柄プロセス処理を実行することにより、特図ゲームの実行および保留の管理や、大当り遊技状態や小当り遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される。

【0522】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップ S 26）。CPU 103 がタイマ割込みごとに普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ 21 からの検出信号に基づく（通過ゲート 41 に遊技球が通過したことに基づく）普図ゲームの実行および保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置 6B の開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普図表示部 26 を駆動することにより行われ、普図記憶表示部 25 を点灯させることにより普図保留数を表示する。

【0523】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理などが行われてもよい。その後、CP

10

20

30

40

50

U 1 0 3 は、コマンド制御処理を実行する（ステップ S 2 7）。C P U 1 0 3 は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップ S 2 7 のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板 1 2 などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

【 0 5 2 4 】

（特別図柄プロセス処理）

図 3 2 は、特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄プロセス処理は、図 3 1 に示すステップ S 2 5 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、C P U 1 0 3 は、まず、始動入賞判定処理を実行する（ステップ S 1 0 1）。

10

【 0 5 2 5 】

始動入賞判定処理では、始動入賞の発生を検出し、R A M 1 0 2 の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果（大当たり種別を含む）や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読判定する処理が実行されてもよい。保留情報や保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板 1 2 に始動入賞の発生、保留記憶数、先読判定などの判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、たとえば特別図柄プロセス処理が終了した後、図 3 1 に示すステップ S 2 7 のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して伝送される。

20

【 0 5 2 6 】

ステップ S 1 0 1 にて始動入賞判定処理を実行した後、C P U 1 0 3 は、R A M 1 0 2 に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップ S 1 1 0 ～ S 1 2 0 の処理のいずれかを選択して実行する。なお、特別図柄プロセス処理の各処理（ステップ S 1 1 0 ～ S 1 2 0）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板 1 2 に送信するための送信設定が行われる。

【 0 5 2 7 】

ステップ S 1 1 0 の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”（初期値）のときに実行される。この特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第 1 特図ゲームまたは第 2 特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かや「大当たり」とする場合の大当たり種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当たり図柄や小当たり図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。なお、第 2 特図を用いた特図ゲームが第 1 特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようにしてもよい（特図 2 優先消化ともいう）。また、第 1 始動入賞口および第 2 始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい（入賞順消化ともいう）。

30

40

【 0 5 2 8 】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、R O M 1 0 1 に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板 1 1 における他の決定、演出制御基板 1 2 における各種の決定についても同じである。演出制御基板 1 2 においては、各種のテーブルが R O M 1 2 1 に格納されている。

【 0 5 2 9 】

ステップ S 1 1 1 の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“ 1 ”のときに

50

実行される。この変動パターン設定処理には、表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かの事前決定結果などに基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”に更新され、変動パターン設定処理は終了する。

【 0 5 3 0 】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無など）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類など）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

10

【 0 5 3 1 】

ステップ S 1 1 2 の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“ 2 ”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、特図 1 可変表示部 2 1 や特図 2 可変表示部 2 2 において特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

【 0 5 3 2 】

ステップ S 1 1 3 の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“ 3 ”のときに実行 20 される。この特別図柄停止処理には、特図 1 可変表示部 2 1 や特図 2 可変表示部 2 2 にて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当り」である場合には特図プロセスフラグの値が“ 4 ”に更新される。また、表示結果が「ハズレ」である場合には、特図プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新される。表示結果が「ハズレ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終了する。

【 0 5 3 3 】

ステップ S 1 1 4 の大当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行 30 される。この大当り開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、たとえば大当り種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新され、大当り開放前処理は終了する。

【 0 5 3 4 】

ステップ S 1 1 5 の大当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行 40 される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”に更新し、大当り開放中処理を終了する。

【 0 5 3 5 】

ステップ S 1 1 6 の大当り開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行 50 される。この大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当り遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンド

の実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当り解放後処理は終了する。

【 0 5 3 6 】

ステップ S 1 1 7 の大当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される。この大当り終了処理には、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“ 0 ” 10

【 0 5 3 7 】

パチンコ遊技機 1 は、設定値に応じて大当りの当選確率や出玉率が変わる構成とされている。たとえば、特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当りの当選確率や出玉率が変わるようになっている。たとえば設定値は 1 ～ 6 の 6 段階からなり、6 が最も大当りの当選確率が高く、6、5、4、3、2、1 の順に値が小さくなるほど大当りの当選確率が低くなる。この例において、設定値として 6 が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、6、5、4、3、2、1 の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。設定値に応じて大当りの当選確率が変われば、出玉率も設定値に応じて変わってもよい。大当りの当選確率は設定値に関わらず一定であるのに対し、大当り遊技状態におけるラウンド数が設定値に応じて変わってもよい。パチンコ遊技機 1 は、遊技者にとっての有利度が異なる複数の設定値のうちいずれかを設定可能に構成されていればよい。パチンコ遊技機 1 において設定されている設定値は、主基板 1 1 の側から演出制御基板 1 2 の側へ設定値指定コマンドが送信されることにより通知される。 20

【 0 5 3 8 】

パチンコ遊技機 1 に設定可能な設定値は、5 個以下や 7 個以上であってもよい。パチンコ遊技機 1 に設定される設定値が小さいほど遊技者にとって有利となるようにしてもよい。パチンコ遊技機 1 に設定される設定値に応じて遊技性が変化するようにしてもよい。たとえば、パチンコ遊技機 1 に設定される設定値が 1 である場合は、通常状態での大当り確率が 1 / 3 2 0、確変状態が 6 5 % の割合でループする遊技性（いわゆる確変ループタイプ）とし、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 2 である場合は、通常状態での大当り確率が 1 / 2 0 0、大当り遊技中に遊技球が、特別可変入賞球装置 7 の内部に設けられた所定スイッチを通過することに基づいて大当り遊技終了後の遊技状態を確変状態に制御する一方で、変動特図に応じて大当り遊技中に遊技球が所定スイッチを通過する割合が異なる遊技性（いわゆる V 確変タイプ）とし、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 3 である場合は、大当り確率が 1 / 3 2 0 で小当り確率が 1 / 5 0 であり、高ベース中（時短制御中）に遊技球が特別可変入賞球装置 7 の内部に設けられた所定スイッチを通過することに基づいて大当り遊技状態に制御する遊技性（いわゆる 1 種 2 種混合タイプ）としてもよい。パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 1 ～ 3 のいずれかである場合は 30 遊技性が同一であるが、これら設定値が 1 ～ 3 のいずれかである場合よりも大当り確率や小当り確率が高い一方で大当り遊技中に獲得可能な賞球数が少ない設定（たとえば、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 4 ～ 6 のいずれかである場合）を設けてもよい。設定値に応じて遊技性を変化させる場合は、共通のスイッチを異なる用途に使用してもよい。具体的には、設定値が 1 ～ 3 の場合は、特別可変入賞球装置 7 内に設けられた所定スイッチを演出用スイッチ（遊技球が所定領域を通過するごとに所定の演出を実行するためのスイッチ）として使用し、設定値が 4 ～ 6 の場合は、所定スイッチを遊技用スイッチ（遊技球が所定スイッチを通過したことに基づいて遊技状態を確変状態や大当り遊技状態に制御するためのスイッチ）として使用してもよい。 40

【 0 5 3 9 】

大当り種別は、大当り種別判定テーブルにおける判定値の割当てに基づいて、設定値に応じて異なる割合で決定されてもよい。あるいは、大当り種別は、設定値に関わらず共通の割合で決定されてもよい。変動パターンは、変動パターン判定テーブルにおける判定値の割当てに基づいて、設定値に応じて異なる割合で決定されてもよい。あるいは、変動パターンは、設定値に関わらず共通の割合で決定されてもよい。設定値に応じてノーマルリーチやスーパーリーチの実行割合が異なることで、ノーマルリーチやスーパーリーチが実行される頻度により設定値が示唆されてもよい。あるいは、設定値に関わらずノーマルリーチやスーパーリーチの実行割合は共通であってもよい。その他、設定値に応じて、異なる割合で任意の設定示唆演出を実行可能としたものであってもよい。

【0540】

（始動入賞判定処理）

図33は、始動入賞判定処理を示すフローチャートである。CPU103は、図32に示す特別図柄プロセス処理のS101において始動入賞判定処理を実行する。始動入賞判定処理においてCPU103は、まず、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口に対応して設けられた第1始動口スイッチ22Aからの検出信号に基づき、第1始動口スイッチ22Aがオンであるか否かを判定する（ステップS51）。このとき、第1始動口スイッチ22Aがオンであれば（ステップS51でY）、第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第1特図保留記憶数が、所定の上限値（たとえば上限記憶数としての「4」）となっているか否かを判定する（ステップS52）。CPU103は、たとえば図示しない遊技制御カウンタ設定部に設けられた第1保留記憶数カウンタの格納値である第1保留記憶数カウント値を読み取ることにより、第1特図保留記憶数を特定できればよい。ステップS52にて第1特図保留記憶数が上限値ではないときには（ステップS52でN）、たとえば図示しない遊技制御バッファ設定部に設けられた始動口バッファの格納値を、「1」に設定する（ステップS53）。

【0541】

ステップS51にて第1始動口スイッチ22Aがオフであるときや（ステップS51でN）、ステップS52にて第1特図保留記憶数が上限値に達しているときには（ステップS52でY）、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に対応して設けられた第2始動口スイッチ22Bからの検出信号に基づき、第2始動口スイッチ22Bがオンであるか否かを判定する（ステップS54）。このとき、第2始動口スイッチ22Bがオンであれば（ステップS54でY）、第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第2特図保留記憶数が、所定の上限値（たとえば上限記憶数としての「4」）となっているか否かを判定する（ステップS55）。CPU103は、たとえば図示しない遊技制御カウンタ設定部に設けられた第2保留記憶数カウンタの格納値である第2保留記憶数カウント値を読み取ることにより、第2特図保留記憶数を特定できればよい。ステップS55にて第2特図保留記憶数が上限値ではないときには（ステップS55でN）、たとえば図示しない遊技制御バッファ設定部に設けられた始動口バッファの格納値を、「2」に設定する（ステップS56）。

【0542】

ステップS53、ステップS56の処理のいずれかを実行した後は、始動口バッファの格納値である始動口バッファ値に応じた特図保留記憶数を1加算するように更新する（ステップS57）。たとえば、始動口バッファ値が「1」であるときには第1保留記憶数カウント値を1加算する一方で、始動口バッファ値が「2」であるときには第2保留記憶数カウント値を1加算する。こうして、第1保留記憶数カウント値は、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第1特図を用いた特図ゲームに対応した第1始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。また、第2保留記憶数カウント値は、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第2特図を用いた特図ゲームに対応した第2始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。このときには、合計保留記憶数も1加算するように更新する（ステップS58）。たとえば、図示しない遊技制御カウンタ設定部に設けられた合計保留記憶数カウンタの格納値である合計保留記憶数カウント値を、1

加算するように更新すればよい。

【0543】

ステップS58の処理を実行した後に、CPU103は、乱数回路104や図示しない遊技制御カウンタ設定部のランダムカウンタによって更新されている数値データのうちから、大当たり判定用の乱数値ランダム1や大当たり種類判定用の乱数値ランダム2、変動パターン判定用の乱数値ランダム3,4を示す数値データを抽出する(ステップS59)。こうして抽出した各乱数値を示す数値データは、始動口バッファ値に応じた特図保留記憶部における空きエントリの先頭に、保留情報としてセットされることで記憶される(ステップS60)。たとえば、始動口バッファ値が「1」であるときには、図示しない第1特図保留記憶部に乱数値ランダム1～ランダム4を示す数値データが格納される一方、始動口バッファ値が「2」であるときには、図示しない第2特図保留記憶部に乱数値ランダム1～ランダム4を示す数値データが格納される。

10

【0544】

大当たり判定用の乱数値ランダム1や大当たり種類判定用の乱数値ランダム2を示す数値データは、特別図柄や飾り図柄の変動表示結果を「大当たり」とするか否か、さらには変動表示結果を「大当たり」とする場合の大当たり種別を判定するために用いられる。変動パターン判定用の乱数値ランダム3,4は、特別図柄や飾り図柄の変動表示時間を含む変動パターンを判定するために用いられる。CPU103は、ステップS59の処理を実行することにより、特別図柄や飾り図柄の変動表示結果や変動表示時間を含む可変表示態様の判定に用いられる乱数値のうち全部を示す数値データを抽出する。

20

【0545】

ステップS59の処理に続いて、始動口バッファ値に応じた始動口入賞指定コマンドの送信設定が行われる(ステップS60)。たとえば、始動口バッファ値が「1」であるときにはROM101における第1始動入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタにより指定されたバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して第1始動入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。これに対して、始動口バッファ値が「2」であるときにはROM101における第2始動入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファのバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して第2始動入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。こうして設定された始動入賞指定コマンドは、たとえば特別図柄プロセス処理が終了した後、図31に示すS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

30

【0546】

CPU103は、ステップS60の処理に続いて、保留記憶に対応する保存領域に乱数値を保存する(ステップS61)。その後、CPU103は、始動口バッファをクリアして、その格納値を「0」に初期化してから(ステップS62)、始動入賞判定処理を終了する。これにより、第1始動口スイッチ22Aと第2始動口スイッチ22Bの双方が同時に有効な遊技球の始動入賞を検出した場合でも、確実に双方の有効な始動入賞の検出に基づく処理を完了できる。

【0547】

40

(特別図柄通常処理)

図34は、特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。図34に示すように、特別図柄通常処理において、CPU103は、第1保留記憶バッファ(第1特別図柄の保留記憶情報を記憶するための記憶バッファ)または第2保留記憶バッファ(第2特別図柄の保留記憶情報を記憶するための記憶バッファ)に保留記憶データがあるか否かを判定する(ステップS1001)。第1保留記憶バッファおよび第2保留記憶バッファのどちらにも保留記憶データがない場合には(ステップS1001でN)、変動停止から所定期間が経過したか否かを判定する(ステップS1002)。変動停止から所定期間が経過しない場合(ステップS1002でN)、特別図柄通常処理を終了する。一方、変動停止から所定期間が経過している場合(ステップS1002でY)、客待ちデモ指定コマンドを

50

送信するための処理をし（ステップ S 1 0 0 3）、特別図柄通常処理を終了する。ここで、客待ちデモ指定コマンドを送信すると、客待ちデモ指定コマンドを送信したことを示す客待ちデモ指定コマンド送信済フラグをセットする。そして、客待ちデモ指定コマンドを送信した後に次のタイマ割込以降の特別図柄通常処理を実行する場合には、客待ちデモ指定コマンド送信済フラグがセットされていることに基づいて、重ねて客待ちデモ指定コマンドを送信しないように制御される。このような客待ちデモ指定コマンド送信済フラグは、次の特別図柄の変動表示が開始されるときにリセットされる。

【0548】

第1保留記憶バッファまたは第2保留記憶バッファに保留記憶データがあるときには（ステップ S 1 0 0 1 で Y）、CPU 1 0 3 は、保留特定領域に設定されているデータのうちの1番目のデータが「第2」を示すデータであるか否かを判定する（ステップ S 1 0 0 4）。保留特定領域に設定されている1番目のデータが「第2」を示すデータでない（すなわち、「第1」を示すデータである）場合（ステップ S 1 0 0 4 で N）、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタ（第1特別図柄について特別図柄プロセス処理を行っているのか第2特別図柄について特別図柄プロセス処理を行っているのかを示すフラグ）に「第1」を示すデータを設定する（ステップ S 1 0 0 5）。保留特定領域に設定されている1番目のデータが「第2」を示すデータである場合（ステップ S 1 0 0 4 で Y）、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタに「第2」を示すデータを設定する（ステップ S 1 0 0 6）。

【0549】

この実施の形態では、以下、特別図柄ポインタに「第1」を示すデータが設定されたか「第2」を示すデータが設定されたかに応じて、第1特別図柄の変動表示と、第2特別図柄の変動表示とを、共通の処理ルーチンを用いて実行する。特別図柄ポインタに「第1」を示すデータが設定されたときには、第1保留記憶バッファに記憶された保留記憶データに基づいて、第1特別図柄の変動表示が行われる。一方、特別図柄ポインタに「第2」を示すデータが設定されたときには、第2保留記憶バッファに記憶された保留記憶データに基づいて、第2特別図柄の変動表示が行われる。

【0550】

ステップ S 1 0 0 4 ～ステップ S 1 0 0 6 の制御により、第2保留記憶バッファ内に第2保留記憶のデータが1つでも存在すれば、その第2保留記憶のデータに基づいた第2特別図柄の変動表示が、第1保留記憶のデータに基づいた第1特別図柄の変動表示に優先して実行される。

【0551】

次に、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 1 0 2 の保留記憶バッファに格納する（ステップ S 1 0 0 7）。具体的には、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合には、第1保留記憶バッファにおける第1保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 1 0 2 の保留記憶バッファに格納する。また、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタが「第2」を示している場合には、第2保留記憶バッファにおける第2保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して RAM 1 0 2 の保留記憶バッファに格納する。

【0552】

そして、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップ S 1 0 0 8）。具体的には、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合には、第1保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、第1保留記憶バッファにおける各保存領域の内容をシフトする。また、特別図柄ポインタが「第2」を示している場合に、第2保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、第2保留記憶バッファにおける各保存領域の内容をシフトする。

【0553】

すなわち、CPU 1 0 3 は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合に、RAM

10

20

30

40

50

102の第1保留記憶バッファにおいて第1保留記憶数 $=n$ ($n=2, 3, 4$)に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第1保留記憶数 $=n-1$ に対応する保存領域に格納する。また、特別図柄ポインタが「第2」を示す場合に、RAM102の第2保留記憶バッファにおいて第2保留記憶数 $=n$ ($n=2, 3, 4$)に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第2保留記憶数 $=n-1$ に対応する保存領域に格納する。

【0554】

よって、各第1保留記憶数（または、各第2保留記憶数）に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、第1保留記憶数（または、第2保留記憶数） $=1, 2, 3, 4$ の順番と一致するようになっている。

【0555】

次に、CPU103は、減算後の特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数カウンタの値に基づいて、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数指定コマンドを演出制御用CPU120に送信する制御を行う（ステップS1009）。この場合、特別図柄ポインタに「第1」を示す値が設定されている場合には、CPU103は、第1保留記憶数指定コマンドを送信する制御を行う。また、特別図柄ポインタに「第2」を示す値が設定されている場合には、CPU103は、第2保留記憶数指定コマンドを送信する制御を行う。

【0556】

次に、CPU103は、背景指定コマンドを送信し（ステップS1010）、保留記憶バッファからランダムR（大当たり判定用乱数）を読み出し、大当たり判定モジュールを実行する（ステップS1011）。なお、この場合、CPU103は、始動入賞判定処理で抽出し第1保留記憶バッファや第2保留記憶バッファに予め格納した大当たり判定用乱数を読み出し、大当たり判定を行う。大当たり判定モジュールは、予め決められている大当たり判定値（図19参照）と大当たり判定用乱数とを比較し、それらが一致したら大当たりとすることに決定する処理を実行するプログラムである。すなわち、大当たり判定の処理を実行するプログラムである。

【0557】

大当たり判定の処理では、遊技状態が確変状態（高確率状態）の場合は、遊技状態が非確変状態（通常遊技状態および時短状態）の場合よりも、大当たりとなる確率が高くなるように構成されている。具体的には、予め大当たり判定値の数が多く設定されている確変時大当たり判定テーブル（図20（a）の下欄の数値が設定されているテーブル）と、大当たり判定値の数が確変時大当たり判定テーブルよりも少なく設定されている通常時大当たり判定テーブル（図20（a）の上欄の数値が設定されているテーブル）とが設けられている。そして、CPU103は、遊技状態が確変状態であるか否かを確認し、遊技状態が確変状態であるときは、確変時大当たり判定テーブルを使用して大当たりの判定の処理を行い、遊技状態が通常状態や時短状態であるときは、通常時大当たり判定テーブルを使用して大当たりの判定の処理を行う。すなわち、CPU103は、大当たり判定用乱数（ランダム1）の値が図20（a）に示すいずれかの大当たり判定値に一致すると、特別図柄に関して大当たりとすることに決定する。大当たりとすることに決定した場合には（ステップS1011でY）、ステップS1012に移行する。なお、大当たりとするか否か決定するということは、大当たり遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、特別図柄における停止図柄を大当たり図柄とするか否か決定するということでもある。

【0558】

なお、現在の遊技状態が確変状態であるか否かの確認は、確変フラグがセットされているか否かにより行われる。確変フラグは、遊技状態を確変状態に移行するときにセットされ、確変状態を終了するときにリセットされる。具体的には、確変フラグは、大当たり遊技を終了する処理においてセットされ、その後、所定回数（たとえば、150回）の変動表示が行われたという条件と、次回の大当たりが決定されたという条件とのいずれか早い方の条件が成立したときに、特別図柄の変動表示を終了して停止図柄を停止表示するタイミングでリセットされる。

【0559】

10

20

30

40

50

大当り判定用乱数（ランダム１）の値がいずれの大当り判定値にも一致しなければ（ステップＳ１０１１でＮ）、後述するステップＳ１０１５に進む。

【０５６０】

ステップＳ１０１１において大当り判定用乱数（ランダム１）の値がいずれかの大当り判定値に一致すれば、ＣＰＵ１０３は、大当りであることを示す大当りフラグをセットする（ステップＳ１０１２）。なお、大当りフラグは、大当り遊技が終了するときにリセットされる。そして、大当り種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、図２０（ｂ）の第１特別図柄大当り種類判定用テーブルおよび図２０（ｃ）の第２特別図柄大当り種類判定用テーブルのうち、いずれかのテーブルを選択する。具体的には、ＣＰＵ１０３は、特別図柄ポインタが「第１」を示している場合には、図２０（ｂ）に示す第１特別図柄大当り種類判定用テーブルを選択する。また、ＣＰＵ１０３は、特別図柄ポインタが「第２」を示している場合において、図２０（ｃ）の第２特別図柄大当り種類判定用テーブルを選択する。そして、ＣＰＵ１０３は、始動入賞判定処理で抽出し第１保留記憶バッファや第２保留記憶バッファに予め格納した大当り種別判定用乱数を読み出し、選択した大当り種別判定テーブルを用いて、保留記憶バッファに格納された大当り種類判定用の乱数（ランダム２）の値と一致する値に対応した大当り種別および大当り図柄を決定する（ステップＳ１０１３）。

10

【０５６１】

また、ＣＰＵ１０３は、決定した大当り種別を示す大当り種別データをＲＡＭ１０２における大当り種別バッファに設定する（ステップＳ１０１４）。

20

【０５６２】

次に、ＣＰＵ１０３は、特別図柄の停止図柄を設定する（ステップＳ１０１５）。具体的には、大当りフラグがセットされていない場合には、ハズレ図柄となる「－」を特別図柄の停止図柄として設定する。大当りフラグがセットされている場合には、大当り種別の決定結果に応じて、ステップＳ１０１４により決定された大当り図柄を特別図柄の停止図柄に設定する。

【０５６３】

そして、ＣＰＵ１０３は、表示結果指定コマンドを送信し（ステップＳ１０１６）、特別図柄プロセスフラグの値を変動パターン設定処理（ステップＳ１１１）に対応した値に更新する（ステップＳ１０１７）。

30

【０５６４】

（変動パターン設定処理）

図３５は、変動パターン設定処理の一例を示すフローチャートである。図３５に示すように、変動パターン設定処理において、ＣＰＵ１０３は、保留記憶数および大当りの有無に応じて、ランダム３，４に基づいて後変動パターンを決定する（ステップＳ１１０１）。具体的には、ＣＰＵ１０３は、ハズレ時の場合、保留記憶数に応じて図２４に示す後変動パターン判定テーブルを選択し、選択した後変動パターン判定テーブルと、ランダム３の値とに基づいて後変動パターンを決定する。また、ＣＰＵ１０３は、大当り時の場合、大当りの種類に応じて図２５に示す後変動パターン判定テーブルを選択し、選択した後変動パターン判定テーブルと、ランダム４の値とに基づいて後変動パターンを決定する。

40

【０５６５】

次に、ＣＰＵ１０３は、ランダム５に基づいて、前変動パターンを決定する（ステップＳ１１０２）。具体的には、ＣＰＵ１０３は、Ｓ１１０２で決定した後変動パターンに応じて図２６に示す前変動パターン判定テーブルを選択し、選択した前変動パターン判定テーブルと、ランダム５の値とに基づいて前変動パターンを決定する。

【０５６６】

次に、ＣＰＵ１０３は、決定した変動パターン（前変動パターンおよび後変動パターン）に対応する変動パターンコマンドを、演出制御用ＣＰＵ１２０に送信する制御を行う（ステップＳ１１０３）。

【０５６７】

50

次に、CPU103は、RAM102に形成されている変動時間タイマに、選択された変動パターンに対応した変動時間に応じた値を設定する（ステップS1104）。そして、CPU103は、図柄変動指定コマンドを、演出制御用CPU120に送信する制御を行い（ステップS1105）、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄変動処理（ステップS112）に対応した値に更新する（ステップS1106）。

【0568】

（特別図柄変動処理）

図36は、特別図柄変動処理の一例を示すフローチャートである。図36に示すように、特別図柄変動処理において、CPU103は、変動時間タイマを1減算し（ステップS1201）、変動時間タイマがタイムアウトしたら（ステップS1202でY）、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄停止処理（ステップS113）に対応した値に更新する（ステップS1203）。変動時間タイマがタイムアウトしていない場合には（ステップS1202でN）、そのまま処理を終了する。

10

【0569】

（特別図柄停止処理）

図37は、特別図柄停止処理の一例を示すフローチャートである。図37に示すように、特別図柄停止処理において、CPU103は、終了フラグをセットして特別図柄の変動表示を終了させ、特図1可変表示部21または特図2可変表示部22に停止図柄を導出表示する制御を行う（ステップS1301）。なお、特別図柄ポインタに「第1」を示すデータが設定されている場合には特図1可変表示部21での第1特別図柄の変動を終了させ、特別図柄ポインタに「第2」を示すデータが設定されている場合には特図2可変表示部22での第2特別図柄の変動を終了させる。また、演出制御用CPU120に図柄確定指定コマンドをセットする（ステップS1302）。これにより、図柄確定指定コマンドが演出制御用CPU120に送信される。次に、CPU103は、大当たりフラグがセットされているか否かを判定する（ステップS1303）。そして、大当たりフラグがセットされていない場合には（ステップS1303でN）、ステップS1309に移行する。

20

【0570】

大当たりフラグがセットされている場合には（ステップS1303でY）、CPU103は、確変フラグおよび時短フラグをリセットする（ステップS1304）。次に、演出制御用CPU120に、大当たり開始指定コマンドおよび右打ち表示点灯コマンドを送信する（ステップS1305）。

30

【0571】

また、ROM101に記憶されている開放パターンデータを参照し、通常大入賞口およびV大入賞口について、開放回数（たとえば、5回や10回）、開放時間（たとえば、29秒）、ラウンド間のインターバル時間（たとえば、0.5秒）などの開放態様を示すデータを所定の記憶領域にセットする（ステップS1306）。たとえば、3Rの通常大当りの場合、1～3Rの全てにおいて通常大入賞口を開放させる開放態様などをRAM102に設けられる所定の記憶領域に記憶する。5Rの確変大当りの場合、1～3R目および5R目に通常大入賞口を開放させ、4R目にV大入賞口を開放させる開放態様などをRAM102に設けられる所定の記憶領域に記憶する。また、10Rの確変大当りの場合、1～8R目および10R目に通常大入賞口を開放させ、9R目にV大入賞口を開放させる開放態様などをRAM102に設けられる所定の記憶領域に記憶する。開放回数（5回や10回）のデータは、開放回数を計数するための開放回数カウンタにセットされる。

40

【0572】

また、大入賞口制御タイマに、大当たり表示時間であるファンファーレ時間（大当たりが発生したことをたとえば、画像表示装置5において報知する時間）に相当する値を設定する（ステップS1307）。以降、大当たり開放前処理において、大入賞口制御タイマが1減算されて、0になると大入賞口が開放されてラウンドが開始される。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大当たり開放前処理（ステップS114）に対応した値に更新し（ステップS1308）、処理を終了する。

50

【0573】

ステップS1303で大当りフラグがセットされていないと判定された場合には（ステップS1304でN）、CPU103は、時短状態であることを示す時短フラグがセットされているか否かを判定する（ステップS1309）。時短フラグがセットされていない場合は（ステップS1309でN）、ステップS1316の処理へ移行する。時短フラグがセットされている場合には（ステップS1309でY）、時短状態の残り変動回数を示す時短回数カウンタのカウンタ値を1減算する（ステップS1310）。次に、CPU103は、時短回数カウンタの値が0になったか否かを確認する（ステップS1311）。時短回数カウンタの値が0になった場合は（ステップS1311でY）、時短状態の継続期間が終了したと判断して、時短フラグをリセットする（ステップS1312）。これにより、時短状態においてハズレ表示結果となる変動表示が特定回数（150回）行われたときに、遊技状態が時短状態から非時短状態に移行する。ステップS1311において、時短回数カウンタの値が0になっていない場合には（ステップS1311でN）、ステップS1316の処理へ移行する。

10

【0574】

ステップS1312の後は、確変状態であることを示す確変フラグがセットされているか否かを判定する（ステップS1313）。確変フラグがセットされている場合には（ステップS1313でY）、確変フラグをリセットする（ステップS1314）。次に、CPU103は、遊技状態が時短状態から通常状態（低確率／低ベース状態）に移行したことに応じて、演出制御用CPU120に通常状態指定コマンドを送信し（ステップS1315）、ステップS1316に進む。ステップS1313において確変フラグがセットされていない場合には（ステップS1313でN）、ステップS1314の処理を行わずに、ステップS1315に移行する。そして、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理（ステップS110）に対応した値に更新し（ステップS1316）、処理を終了する。

20

【0575】

（大当り開放前処理）

図38は、大当り開放前処理の一例を示すフローチャートである。図38に示すように、大当り開放前処理において、CPU103は、大入賞口制御タイマの値を-1（減算更新）する（ステップS1401）。そして、大入賞口制御タイマの値が0であるか否かを判定し（ステップS1402）、大入賞口制御タイマの値が0になっていなければ（ステップS1402でN）、処理を終了する。

30

【0576】

大入賞口制御タイマの値が0になっている場合には（ステップS1402でY）、演出制御用CPU120に大入賞口開放中指定コマンドを送信する（ステップS1403）。そして、開放パターンに応じてソレノイド82を駆動して通常大入賞口を開放する（ステップS1404）。これにより、1R目においては通常大入賞口が開放する。

【0577】

次に、CPU103は、開放パターンデータ（たとえば、ステップS1306によりRAM102に記憶されたデータ）に基づいて、大入賞口制御タイマに、大入賞口が開放可能な最大時間（大入賞口開放時間）に応じた大入賞口開放時間（たとえば、29秒）を設定する（ステップS1405）。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大当り開放中処理（ステップS115）に応じた値に更新し（ステップS1406）、処理を終了する。

40

【0578】

（大当り開放中処理）

図39は、大当り開放中処理の一例を示すフローチャートである。図39に示すように、大当り開放中処理において、CPU103は、大入賞口制御タイマの値を-1（減算更新）する（ステップS1501）。

【0579】

そして、CPU103は、大入賞口制御タイマの値が0になったか否かを確認する（ス

50

テップ S 1 5 0 2)。大入賞口制御タイマの値が 0 になっているときは（ステップ S 1 5 0 2 で Y）、ステップ S 1 5 1 1 の処理へ移行する。大入賞口制御タイマの値が 0 になっていないときは（ステップ S 1 5 0 2 で N）、通常大入賞口または V 大入賞口を開放中か否かを判定する（ステップ S 1 5 0 3）。通常大入賞口または V 大入賞口が開放中か否かは、開放回数カウンタの値により判定すればよい。

【0580】

ステップ S 1 5 0 3 で、通常大入賞口または V 大入賞口が開放中でないと判定された場合には（ステップ S 1 5 0 3 で N）、処理を終了する。

【0581】

通常大入賞口または V 大入賞口が開放中であれば（ステップ S 1 5 0 3 で Y）、カウントスイッチ 2 3 または V 入賞スイッチ 2 4 がオンになっているか否かを判定する（ステップ S 1 5 0 4）。カウントスイッチ 2 3 と V 入賞スイッチ 2 4 のいずれもがオンになっていなければ（ステップ S 1 5 0 4 で N）、処理を終了する。一方、カウントスイッチ 2 3 または V 入賞スイッチ 2 4 のいずれか一方がオンとなっていれば（ステップ S 1 5 0 4 で Y）、入賞個数カウンタを + 1（加算更新）する（ステップ S 1 5 0 5）。

【0582】

次に、確変決定フラグがセットされているか否かを判定する（ステップ S 1 5 0 6）。確変決定フラグは、V 入賞が発生したときに確変状態に制御されることが決定されたことによりセットされるフラグである。確変決定フラグがセットされていれば（ステップ S 1 5 0 6 で Y）、ステップ S 1 5 1 0 の処理へ移行する。一方、確変決定フラグがセットされていなければ（ステップ S 1 5 0 6 で N）、V 入賞スイッチ 2 4 がオンになっているか否かを判定する（ステップ S 1 5 0 7）。V 入賞スイッチ 2 4 がオンになっていなければ（ステップ S 1 5 0 7 で N）、ステップ S 1 5 1 0 の処理へ移行する。一方、V 入賞スイッチがオンとなっていれば（ステップ S 1 5 0 7 で Y）、確変決定フラグをセットし（ステップ S 1 5 0 8）、確変判定装置通過指定コマンドを送信し（ステップ S 1 5 0 9）、ステップ S 1 5 1 0 の処理へ移行する。

【0583】

そして、CPU 1 0 3 は、入賞個数カウンタの値が所定数（たとえば 1 0）になっているか否かを判定する（ステップ S 1 5 1 0）。入賞個数カウンタの値が所定数になっていなければ（ステップ S 1 5 1 0 で N）、処理を終了する。

【0584】

入賞個数カウンタの値が所定数になっているときには（ステップ S 1 5 1 0 で Y）、CPU 1 0 3 は、ソレノイド 8 2 を駆動して通常大入賞口を閉鎖する制御、または、ソレノイド 8 3 を駆動して V 大入賞口を閉鎖する制御のいずれか一方の制御を行う（ステップ S 1 5 1 1）。次に、CPU 1 0 3 は、入賞個数カウンタの値をクリアする（0 にする）処理を行う（ステップ S 1 5 1 2）。次に、CPU 1 0 3 は、特別図柄プロセスフラグの値を大当たり開放後処理（ステップ S 1 1 6）に応じた値に更新し（ステップ S 1 5 1 3）、処理を終了する。

【0585】

（大当たり開放後処理）

図 4 0 は、大当たり開放後処理の一例を示すフローチャートである。図 4 0 に示すように、大当たり開放後処理において、CPU 1 0 3 は、開放回数カウンタの値が 0 であるか否かを判定する（ステップ S 1 6 0 1）。

【0586】

開放回数カウンタの値が 0 であれば（ステップ S 1 6 0 1 で Y）、演出制御用 CPU 1 2 0 に大当たり終了指定マンドを送信し（ステップ S 1 6 0 2）、大入賞口制御タイマに大当たり終了時間（大当たり遊技が終了したことをたとえば、画像表示装置 5 において報知する時間）に相当する値を設定し（ステップ S 1 6 0 3）、特別図柄プロセスフラグの値を大当たり終了処理（ステップ S 1 1 7）に応じた値に更新し（ステップ S 1 6 0 4）、処理を終了する。

【0587】

ステップS1601において、開放回数カウンタの値が0でなければ（ステップS1601でN）、演出制御用CPU120に大入賞口開放後指定マンドを送信し（ステップS1605）、大入賞口制御タイマに、ラウンドが終了してから次のラウンドが開始するまでのインターバル時間に相当する値を設定する（ステップS1606）。

【0588】

次に、CPU103は、V大入賞口が開放するラウンド（V開放ラウンドとも称する）の前、すなわち、次のラウンドがV開放ラウンドであるか否かを判定する（ステップS1607）。V開放ラウンド前でない場合（ステップS1607でN）、ソレノイド82を駆動して通常大入賞口を開放する制御を行う（ステップS1608）。一方、V開放ラウンド前である場合（ステップS1607でY）、ソレノイド83を駆動してV大入賞口を開放する制御を行う（ステップS1609）。

【0589】

ステップS1608またはステップS1609の後、CPU103は、演出制御用CPU120に大入賞口開放中指定マンドを送信する（ステップS1610）。そして、CPU103は、特別図柄プロセスフラグの値を大当り開放中処理（ステップS115）に応じた値に更新し（ステップS1611）、処理を終了する。

【0590】

（大当り終了処理）

図41は、大当り終了処理の一例を示すフローチャートである。図41に示すように、大当り終了処理において、CPU103は、大当り終了時間が設定された大入賞口制御タイマの値を1減算する（ステップS1701）。そして、CPU103は、大入賞口制御タイマの値が0になっているか否か（大当り終了時間が経過したか否か）を判定する（ステップS1702）。大入賞口制御タイマの値が0になっていなければ（ステップS1702でN）、処理を終了する。大入賞口制御タイマの値が0になっていれば（ステップS1702でY）、大当りフラグをリセットする（ステップS1703）。

【0591】

次に、CPU103は、V入賞領域を通過することでセットされる確変決定フラグがセットされているか否かを判定する（ステップS1704）。確変決定フラグがセットされていなければ（ステップS1704でN）、ステップS1705の処理へ移行する。ステップS1704において、確変決定フラグがセットされていれば（ステップS1704でY）、確変状態であることを示す確変フラグをセットする（ステップS1707）。次に、演出制御用CPU120に確変状態指定コマンドを送信し（ステップS1708）、確変決定フラグをリセットし（ステップS1709）、ステップS1710の処理へ移行する。

【0592】

ステップS1710では、時短状態であることを示す時短フラグをセットし（ステップS1710）、時短回数カウンタに150をセットする（ステップS1711）。そして、ステップS1712の処理へ移行する。

【0593】

一方、ステップS1704において、確変決定フラグがセットされていなければ（ステップS1704でN）、ステップS1705では、時短状態であることを示す時短フラグをセットし（ステップS1705）、時短回数カウンタに100をセットし（ステップS1706）、ステップS1712の処理へ移行する。

【0594】

ステップS1712では、演出制御用CPU120に時短状態指定コマンドを送信する（ステップS1712）。そして、CPU103は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理（ステップS110）に対応した値に更新し（ステップS1713）、処理を終了する。なお、演出制御用CPU120側は、CPU103から送信される確変状態指定コマンドなどにより、確変、時短、通常のいずれの遊技状態にあるかを認識すること

が可能となる。

【0595】

（演出制御基板12の主要な動作）

次に、演出制御基板12における主要な動作を説明する。

【0596】

（演出制御メイン処理）

演出制御基板12では、電源基板などから電源電圧の供給を受けると、演出制御用CPU120が起動して、図42のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図42は、演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。図42に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用CPU120は、まず、所定の初期化処理を実行して（ステップS71）、RAM122のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板12に搭載されたCTC（カウンタ／タイマ回路）のレジスタ設定などを行う。また、初期動作制御処理を実行する（ステップS72）。初期動作制御処理では、可動体32を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体32の初期動作を行う制御が実行される。

10

【0597】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う（ステップS73）。タイマ割込みフラグは、たとえばCTCのレジスタ設定に基づき、所定時間（たとえば2ミリ秒）が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば（ステップS73でN）、ステップS73の処理を繰り返し実行して待機する。

20

【0598】

また、演出制御基板12の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板11からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、たとえば主基板11からの演出制御INT信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用CPU120は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならないCPUを用いている場合には、割込み禁止命令（DI命令）を発光することが望ましい。演出制御用CPU120は、演出制御INT信号がオン状態となることによる割込みに対応して、たとえば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I/O125に含まれる入力ポートのうちで、中継基板15を介して主基板11から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、たとえばRAM122に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用CPU120は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

30

【0599】

ステップS73にてタイマ割込みフラグがオンである場合には（ステップS73でY）、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに（ステップS74）、コマンド解析処理を実行する（ステップS75）。コマンド解析処理では、たとえば主基板11の遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。たとえば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容などを演出制御プロセス処理などで確認できるように、読み出された演出制御コマンドをRAM122の所定領域に格納したり、RAM122に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部123に指示してもよい。

40

【0600】

ステップS75にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する（ステップS76）。演出制御プロセス処理では、たとえば画像表示装置5の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ8L、8Rからの音声出力動作、遊技効果ラン

50

ブ 9 および装飾用 L E D といった装飾発光体における点灯動作、可動体 3 2 の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板 1 1 から送信された演出制御コマンドなどに応じた判定や決定、設定などが行われる。

【 0 6 0 1 】

ステップ S 7 6 の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ステップ S 7 7）、演出制御基板 1 2 の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップ S 7 3 の処理に戻る。ステップ S 7 3 の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

【 0 6 0 2 】

（演出制御プロセス処理）

図 4 3 は、演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。演出制御プロセス処理は、図 4 2 のステップ S 7 6 にて実行される処理である。図 4 3 に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、先読予告設定処理を実行する（ステップ S 1 6 1）。先読予告設定処理では、たとえば、主基板 1 1 から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づいて、先読予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

【 0 6 0 3 】

ステップ S 1 6 1 の処理を実行した後、演出制御用 C P U 1 2 0 は、たとえば R A M 1 2 2 に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップ S 1 7 0 ～ S 1 7 7 の処理のいずれかを選択して実行する。

【 0 6 0 4 】

ステップ S 1 7 0 の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“ 0 ”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板 1 1 から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を“ 1 ”に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

【 0 6 0 5 】

ステップ S 1 7 1 の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が“ 1 ”のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果などを反映した演出制御パターン（表示制御部 1 2 3 に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部 1 2 3 に指示し、演出プロセスフラグの値を“ 2 ”に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部 1 2 3 は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

【 0 6 0 6 】

ステップ S 1 7 2 の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 2 ”のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を指示することで、ステップ S 1 7 1 にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置 5 の表示画面に表示させることや、可動体 3 2 を駆動させること、音声制御基板 1 3 に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ 8 L，8 R から音声や効果音を出力させること、ランプ制御基板 1 4 に対する指令（電飾信号）の出力により遊技効果ランプ 9 や装飾用 L E D を点灯／消灯／点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、たとえば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこ

10

20

30

40

50

と、あるいは、主基板 11 から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が“3”に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

【0607】

ステップ S 173 の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“3”のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用 CPU 120 は、主基板 11 から大当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を“4”に更新する。また、大当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」と判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

10

【0608】

ステップ S 174 の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“4”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用 CPU 120 は、たとえば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターンなどを設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、たとえば主基板 11 から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“5”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

20

【0609】

ステップ S 175 のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“5”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用 CPU 120 は、たとえば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターンなどを設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

【0610】

30

（可変表示開始設定処理）

図 44 は、可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。図 44 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、可変表示の結果がハズレに決定されているか否かを確認する（ステップ S 7101）。演出制御用 CPU 120 は、ハズレに決定されている場合には、変動パターンコマンドとして、非リーチ変動パターンに対応したコマンドを受信したか否か確認する（ステップ S 7103）。

【0611】

演出制御用 CPU 120 は、非リーチ変動パターンに対応したコマンドを受信したと判定した場合、ハズレ図柄決定用データテーブルを用いて、リーチにならないハズレの表示結果を演出図柄の最終停止として決定し（ステップ S 7105）、ステップ S 7106 へ進む。

40

【0612】

ステップ S 7103 の処理で非リーチ変動パターンではないと判定した場合（リーチ変動パターンであると判定した場合）は、リーチ図柄の組合せを構成する演出図柄の停止図柄を決定し（ステップ S 7104）、ステップ S 7106 へ進む。

【0613】

また、ステップ S 7101 の処理でハズレとすることに決定されていない場合（大当りとなることが決定された場合）に、演出制御用 CPU 120 は、大当りの種別に応じて、大当り図柄の組合せを構成する演出図柄の停止図柄を決定し（ステップ S 7102）、ステップ S 7106 へ進む。

50

【0614】

次に、変動表示における各種演出を設定するための処理（たとえば、群予告設定処理など）を行う演出設定処理（ステップS7106）を実行した後、ステップS7107に進む。

【0615】

ステップS7107では、演出制御パターンを複数種類の演出制御パターンのうちのいずれかに決定する。ステップS7107においては、変動パターン指定コマンドによって指定された変動パターン、および、ステップS7106の処理で決定した演出の演出制御パターン等により指定された各種演出制御（演出動作）パターンに応じて、図柄変動制御パターンテーブルに格納されている複数種類の図柄変動制御パターンのうち、指定された各種演出動作パターンに対応するいずれかの演出制御パターンを使用パターンとして選択決定する。

10

【0616】

ROM121に記憶されている制御パターンテーブルには、たとえば、演出図柄の変動が開始されてから最終停止図柄となる確定演出図柄が停止表示されるまでの期間における画像表示装置5の表示領域における演出図柄の変動表示動作、リーチ演出における演出表示動作、擬似連の演出による演出表示動作、および、予告演出における演出表示動作といった各種の演出動作の制御内容を示すデータが、図柄変動制御パターンとして複数種類格納されている。

【0617】

また、各図柄変動制御パターンは、たとえば、演出制御プロセスタイマ設定値、演出制御プロセスタイマ判定値、演出表示制御データ、音声制御データ、ランプ制御データ、および、終了コードといった、演出図柄の変動表示に応じた各種の演出動作を制御するための制御データを含み、時系列的に、各種の演出制御の内容、および、演出制御の切替えタイミングなどが設定されている。

20

【0618】

次に、演出制御パターンに応じたプロセステーブルを選択する（ステップS7108）。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータにおけるプロセスタイマ（演出設定プロセスタイマ）をスタートさせる（ステップS7109）。

【0619】

ステップS7109の処理を実行したら、プロセスデータの内容（表示制御実行データ、ランプ制御実行データ、音番号データ）にしたがって演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ、および、演出用部品としてのスピーカ8L, 8R）の制御を開始する（ステップS7110）。たとえば、表示制御実行データにしたがって、画像表示装置5において変動パターンに応じた画像（演出図柄を含む。）を表示させるために指令を出力する。また、各種LEDなどの発光体を点灯／消灯制御を行わせるために、ランプ制御基板14に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ8L, 8Rからの音声出力を行わせるために、音声制御基板13に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

30

【0620】

そして、変動表示時間タイマに、変動パターンコマンドで特定される変動時間に相当する値を設定し（ステップS7111）、演出制御プロセスフラグの値を可変表示中演出処理（ステップS172）に対応した値にし（ステップS7112）、可変表示開始設定処理が終了する。

40

【0621】

（群予告設定処理）

図45は、群予告設定処理の一例を示すフローチャートである。群予告設定処理は、可変表示開始設定処理（ステップS171）に含まれる処理である。

【0622】

図45に示すように、演出制御用CPU120は、群予告を実行可能な変動パターンコ

50

マンドを受信したか否かを判定する（ステップ S 7 0 6 1）。具体的には、演出制御用 CPU 1 2 0 は、ハズレ時には後変動番号 6 ～ 8 の後変動パターンを含む変動パターンコマンドを、当たり時には後変動番号 1 0 ～ 1 2 の後変動パターンを含む変動パターンコマンドを受信したか否かを判定する。なお、後変動番号 6 ～ 8 の後変動パターンを含む変動パターンは、メイン変動番号 8 ～ 1 5 の変動パターンであり、後変動番号 1 0 ～ 1 2 の後変動パターンを含む変動パターンは、メイン変動番号 1 8 ～ 2 6 の変動パターンである。

【 0 6 2 3 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告を実行可能な変動パターンコマンドを受信していない場合（ステップ S 7 0 6 1 で N）、処理を終了する。一方、演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告を実行可能な変動パターンコマンドを受信した場合（ステップ S 7 0 6 1 で Y）、変動パターンコマンドに対応する変動パターンの変動時間をフレーム数に変換する（ステップ S 7 0 6 2）。たとえば、メイン変動番号 2 2 の変動パターンの場合、前変動時間が 4 1 5 0 0 m s e c であるため、そのフレーム数は約 1 2 4 6 枚となり、後変動時間が 9 1 9 0 0 m s e c であるため、そのフレーム数は約 3 0 0 0 枚となる。また、たとえば、メイン変動番号 2 6 の変動パターンの場合、前変動時間が 6 2 0 0 0 m s e c であるため、そのフレーム数は約 1 8 6 1 枚となり、後変動時間が 1 4 2 8 0 0 m s e c であるため、そのフレーム数は約 4 2 8 8 枚となる。

10

【 0 6 2 4 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告抽選を実行する（ステップ S 7 0 6 3）。具体的には、演出制御用 CPU 1 2 0 は、図 2 9（a），（b）に示す群予告抽選テーブルを用いて、後変動番号に基づいて群予告を実行するか否か、および実行する群予告の種類を決定する。

20

【 0 6 2 5 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告抽選で当選したか否かを判定する。演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告抽選で当選しなかった場合（ステップ S 7 0 6 4 で N）、処理を終了する。一方、演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告抽選で当選した場合（ステップ S 7 0 6 4 で Y）、ステージに応じた群予告実行用の演出制御パターンを抽出し（ステップ S 7 0 6 5）、処理を終了する。

【 0 6 2 6 】

たとえば、例 1 に示すように、メイン変動番号 2 2 の変動パターンの場合であってかつステージ A の場合、前変動における 1 2 4 6 枚のフレームのうち、9 8 5 フレーム目から群予告を実行するように演出制御パターンが設定される。また、メイン変動番号 2 2 の変動パターンの場合であってかつステージ B の場合、後変動における 3 0 0 0 枚のフレームのうち、1 3 8 5 フレーム目から群予告を実行するように演出制御パターンが設定される。

30

【 0 6 2 7 】

たとえば、例 2 に示すように、メイン変動番号 2 6 の変動パターンの場合であってかつステージ A の場合、前変動における 1 8 6 1 枚のフレームのうち、1 6 0 0 フレーム目から群予告を実行するように演出制御パターンが設定される。また、メイン変動番号 2 6 の変動パターンの場合であってかつステージ B の場合、後変動における 4 2 8 8 枚のフレームのうち、2 0 0 0 フレーム目から群予告を実行するように演出制御パターンが設定される。

40

【 0 6 2 8 】

このように、本実施の形態においては、ステージ A の場合には前変動において群予告が実行されるのに対して、ステージ B の場合には後変動において群予告が実行されるようになっている。

【 0 6 2 9 】

（群予告実行処理）

図 4 6 は、群予告実行処理の一例を示すフローチャートである。群予告実行処理は、可

50

変表示中演出処理（ステップ S 1 7 2）に含まれる処理である。

【0630】

図 4 6 に示すように、演出制御用 CPU 1 2 0 は、可変表示開始設定処理において設定された演出制御パターンに対応するフレーム数から 1 フレームずつ減算する（ステップ S 7 2 0 1）。たとえば、演出制御用 CPU 1 2 0 は、メイン変動番号 2 6 の変動パターンに対応する演出制御パターンが設定されている場合、全フレーム数である 6 1 4 9 フレーム目から 1 フレームずつ減算する。

【0631】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告実行用の演出制御パターンを設定していない場合（ステップ S 7 2 0 2 で N）、処理を終了する。一方、演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告実行用の演出制御パターンを設定している場合（ステップ S 7 2 0 2 で Y）、群予告の実行タイミングのフレームに到達したか否かを判定する（S 7 2 0 3）。たとえば、演出制御用 CPU 1 2 0 は、メイン変動番号 2 6 の変動パターンの場合であってかつステージ A の場合、1 6 0 0 フレーム目に到達したか否かを判定する。

【0632】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告の実行タイミングのフレームに到達していない場合（ステップ S 7 2 0 3 で N）、処理を終了する。一方、演出制御用 CPU 1 2 0 は、群予告の実行タイミングのフレームに到達した場合（ステップ S 7 2 0 3 で Y）、群予告を実行するために各種演出装置を制御する（ステップ S 7 2 0 4）。たとえば、演出制御用 CPU 1 2 0 は、後述する図 6 1 ～図 6 7 に示す群予告点灯テーブルに基づき遊技効果ランプ 9 に対して点灯、点滅、または消灯させるための制御を行い、スピーカ 8 R, 8 L に対して音を出力させるための制御を行う。その後、演出制御用 CPU 1 2 0 は、処理を終了する。

【0633】

〔遊技の進行の概略〕

上述したように構成されているパチンコ遊技機 1 においては、以下のように遊技が進行する。パチンコ遊技機 1 においては、遊技者はまず左打ちによって、遊技領域のうちの左側の領域を通る第 1 流下経路に向けて遊技球を発射させる。発射された遊技球が入賞球装置 6 A に形成された第 1 始動入賞口に進入すると、第 1 特図ゲームが開始される。第 1 特図ゲームの結果、特図 1 可変表示部 2 1 が大当り図柄を示す表示態様となると、大当りが発生する。

【0634】

第 1 特図ゲームにおける大当りの種別としては、前述したように、通常大当り 1, 2、確変大当り 1 ～ 4 がある。大当りが発生すると、ファンファーレ演出が実行されるとともに、遊技者に対して右打ちを促す右打ち促進演出が実行される。右打ち促進演出としては、画像表示装置 5 の画面上に右打ちを促す文字（たとえば、「右打ち」）および図形（たとえば、第 2 流下経路の方向である右方向に向けられた矢印）の画像を表示するとともに、特図 LED 基板 9 0 2 0 の右打ち表示部 9 0 3 0 および第 4 図柄ユニット 9 0 5 0 の右打ち表示部 9 0 5 5 においてもたとえば LED などの点灯手段の点灯によって右打ちを促す。これにより、遊技者は、それ以降、右打ちをすることになる。

【0635】

大当り遊技状態のラウンド中においては、大入賞口が所定回数（たとえば、3 R の通常大当りの場合は 3 回、1 0 R の確変大当りの場合は 1 0 回）に亘って開放する。大入賞口の 1 回の開放は、所定期間（たとえば 2 9 秒間）の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（たとえば 1 0 個）に達するまでのタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。

【0636】

大当り遊技状態後のエンディング演出が終了すると、所定回数（たとえば、1 0 0 回）の変動に亘って遊技状態が時短状態に制御される。さらに、大当りラウンド中に V 入賞が発生した場合、時短状態に制御されている所定回数（たとえば 1 0 0 回）の変動に亘って

遊技状態が確変状態に制御される。

【0637】

大当たりラウンド後の確変状態や時短状態においても、引き続き、画像表示装置5、右打ち表示部30、および右打ち表示部55によって右打ち促進演出が継続して実行される。このため、遊技者は、最初の大当たり（初当たりとも称する）が発生した以降、大当たりラウンドが終了した後の時短状態においても、常に右打ち促進演出によって右打ちするように促される。

【0638】

時短状態においては、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御が実行されたり、また、平均的な普図変動時間（普図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御が実行されたり、さらに、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる制御が実行されたりする。また、時短状態においては、第2始動入賞口を形成する可変入賞球装置6Bが開状態になる頻度を高くすることにより第2始動入賞口に遊技球が進入する頻度を高くして第2始動入賞口への入賞を容易化（高進入化、高頻度化）する電チューサポート制御が行われてもよい。

【0639】

大当たりラウンド後の時短状態においては、発射された遊技球が可変入賞球装置6Bに形成された第2始動入賞口に進入することで、第2特図ゲームが開始される。第2特図ゲームの結果、特図2可変表示部22が大当たり図柄を示す表示態様となると、大当たり（連チャン当たりとも称する）が発生する。

【0640】

第2特図ゲームにおける大当たりの種別としては、前述したように、確変大当たり5～9がある。大当たりが発生すると、ファンファーレ演出が実行される。なお、画像表示装置5、右打ち表示部30、および右打ち表示部55による右打ち促進演出は、初当たり時から継続している。

【0641】

大当たり遊技状態のラウンド中においては、大入賞口が所定回数（たとえば、10回）に亘って開放する。大入賞口の1回の開放は、所定期間（たとえば29秒間）の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（たとえば10個）に達するまでのタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。

【0642】

そして、大当たり遊技状態後のエンディング演出が終了すると、初当たり時と同様に、所定回数（たとえば、100回）の変動に亘って遊技状態が時短状態かつ確変状態（高確高ベース状態）に制御される。連チャン当りにおける大当たりラウンド後の確変状態においても、引き続き、画像表示装置5、右打ち表示部30、および右打ち表示部55によって右打ち促進演出が継続して実行される。このため、遊技者は、初当たりが発生した以降、大当たりラウンドが終了した後の確変状態や時短状態において連チャン当りが発生し、当該連チャン当りの大当たりラウンドが終了した後の確変状態や時短状態においても、常に右打ち促進演出によって右打ちするように促される。

【0643】

初当たりの大当たりラウンドが終了した後の確変状態や時短状態、および連チャン当りの大当たりラウンドが終了した後の確変状態や時短状態のいずれかで大当たりが発生することなく確変状態や時短状態が終了すると、通常状態（低確低ベース状態）に遊技状態が制御され、画像表示装置5、右打ち表示部30、および右打ち表示部55による右打ち促進演出も終了する。これにより、遊技者は、再び左打ちによって、遊技領域のうちの左側の領域を通る第1流下経路に向けて遊技球を発射させることになる。

【0644】

〔群予告演出の設計〕

次に、パチンコ遊技機1の開発段階における群予告演出の設計について説明する。

【0645】

(群予告作業工程)

図 4 7 は、群予告作業工程の一例を示すフローチャートである。図 4 7 に示すように、群予告の作業工程は、その作業順に、概要書の作成工程（ステップ S 9 0 1）と、アニメーション制作工程（ステップ S 9 0 2）と、本映像制作工程（ステップ S 9 0 3）と、オーサリング工程（ステップ S 9 0 4）と、音作成工程（ステップ S 9 0 5）と、抽選の組込工程（ステップ S 9 0 6）と、映像の組込工程（ステップ S 9 0 7）と、音の組込工程（ステップ S 9 0 8）と、ランプデータ作成工程（ステップ S 9 0 9）と、ランプの組込工程（ステップ S 9 1 0）とを含む。

【 0 6 4 6 】

ステップ S 9 0 1 の概要書の作成工程においては、パチンコ遊技機 1 において群予告を新たに設計するための概要書が作成される。

10

【 0 6 4 7 】

ステップ S 9 0 2 のアニメーション制作工程においては、群予告で用いられるアニメーションの絵コンテの作成、アニメーションに用いられるキャラクタや背景などのデザイン、アニメーションを作成するための台本となる V コンテの作成、アニメーション用の CG 制作、および実際のアニメーションの制作などが行われる。

【 0 6 4 8 】

ステップ S 9 0 3 の本映像制作工程においては、アニメーション制作工程において作成されたアニメーションを用いて、群予告で用いられる映像データが作成される。なお、群予告で用いられる映像データは、この本映像制作工程において作成されるが、その作成される映像データの再生時間は、実際にパチンコ遊技機 1 において実行される群予告の実行時間よりも長めに作成される。これにより、設計変更によって群予告の実行時間が長くなったとしても、本映像制作工程において作成された映像データを変更することなく、そのまま使用することができる。また、本映像制作工程においては、演出ごとに予め定められたタイミングで映像データが再生されるように、映像データごとに再生タイミングも設計される。たとえば、メイン変動番号 2 2 の変動パターンにおいては、ステージ A の群予告は 9 8 5 フレーム目から群予告が実行されるように本映像に群予告のアニメーションが組み込まれ、ステージ B の群予告は 1 3 8 5 フレーム目から群予告が実行されるように本映像に群予告のアニメーションが組み込まれる。また、メイン変動番号 2 6 の変動パターンにおいては、ステージ A の群予告は 1 6 0 0 フレーム目から群予告が実行されるように本映像に群予告のアニメーションが組み込まれ、ステージ B の群予告は 2 0 0 0 フレーム目から群予告が実行されるように本映像に群予告のアニメーションが組み込まれる。

20

30

【 0 6 4 9 】

ステップ S 9 0 4 のオーサリング工程においては、本映像制作工程で作成された映像データを用いて、パチンコ遊技機 1 で実行される映像再生用のソフトウェア（プログラム）が作成される。

【 0 6 5 0 】

ステップ S 9 0 5 の音作成工程においては、群予告の映像に合わせて、群予告で用いられる BGM（背景音）や効果音などの各種音のデータが作成される。

【 0 6 5 1 】

ステップ S 9 0 6 の抽選の組込工程においては、群予告抽選など、群予告に関連する各種の抽選についてのデータが作成される。なお、この抽選の組込工程において、群予告の期待度（信頼度）などが設計される。作成された抽選データは、パチンコ遊技 1 で実行される抽選用のソフトウェアとしてパチンコ遊技機 1 に組み込まれる。

40

【 0 6 5 2 】

ステップ S 9 0 7 の映像の組込工程においては、オーサリング工程で作成された映像再生用のソフトウェアが、群予告で実行される映像再生用のソフトウェアとしてパチンコ遊技機 1 に組み込まれる。

【 0 6 5 3 】

ステップ S 9 0 8 の音の組込工程においては、音作成工程で作成された音のデータが、

50

群予告で実行される音再生用のソフトウェアとしてパチンコ遊技機 1 に組み込まれる。

【0654】

ステップ S 9 0 8 のランプデータ作成工程においては、群予告で用いられるランプや L E D などの点灯手段（発光手段）における点灯、点滅、消灯などの各種点灯のデータが作成される。

【0655】

ステップ S 9 1 0 のランプの組込工程においては、ランプデータ作成工程で作成されたランプや L E D などの各種の点灯、点滅、消灯などのデータが、パチンコ遊技機 1 で実行されるランプ再生用のソフトウェアとしてパチンコ遊技機 1 に組み込まれる。

【0656】

これら各工程における作業を経ることで、群予告演出に関連する抽選や映像、および音のデータなどが作成されて、パチンコ遊技機 1 において実行されるようにソフトウェアとして組み込まれる。

【0657】

（本映像制作）

図 4 8 ～図 5 1 を参照しながら、群予告の本映像制作工程について具体的に説明する。

図 4 8 ～図 5 1 は、本映像制作工程の一例を説明するための図である。

【0658】

図 4 8 に示すように、まず、S T E P 1 において、群予告で用いられるキャラクタ画像を準備する。たとえば、群予告においては夢夢ちゃんという主人公のキャラクタが用いられるが、夢夢ちゃんが走る様子を表すための 4 つの画像 g 1 ～ g 4 を準備する。なお、このようなキャラクタ画像は、アニメーション制作工程において作成される。

【0659】

次に、S T E P 2 において、動画作成ツールを用いて、4 つのキャラクタ画像 g 1 ～ g 4 によってキャラクタが足踏みをする動画を作成する。たとえば、動画作成ツールを起動すると、タイムライン画面 7 1 0 が表示される。タイムライン画面 7 1 0 においては、縦軸に 1 または複数のレイヤーが配置され、横軸が時間軸となっている。各レイヤーは、上から順にレイヤー 1、2、3 … といったように番号順に配置され、上に配置されるほど（つまり、番号が若いほど）、画像表示装置 5 の画面上において背面側に画像が位置するようになっている。レイヤーの数および時間軸の幅は、ユーザが所望する値に設定可能である。

【0660】

S T E P 2 においては、各キャラクタ画像 g 1 ～ g 4 が所定のレイヤーの欄に配置される。たとえば、（a）に示す例では、キャラクタ画像 g 1 ～ g 4 がレイヤー 1 に対応するタイムライン上に配置され、動画データ A 1 ～ A 4 を構成する。動画データ A 1 ～ A 4 によれば、キャラクタ画像 g 1 ～ g 4 からなるパターンの足踏み動画となる。

【0661】

上述したようにして作成された足踏みをする動画データ A 1 ～ A 4 のセットを繰り返しタイムライン上に配置すれば、キャラクタが足踏みをする動画が繰り返される。たとえば、（b）に示す例では、動画データ A 1 ～ A 4 が 3 周期分繰り返されている。そして、この足踏み動画データが出力される。このようにして、他のキャラクタも同様の作業で足踏み動画が作成される。

【0662】

図 4 9 に示すように、S T E P 3 においては、キャラクタが進行する動画が作成される。まず、画像表示装置 5 における画面サイズを所定のサイズに設定する。たとえば、（a）に示す例では、画面上の横方向に沿った X 軸の幅が 8 0 0、画面上の縦方向に沿った X Y 軸の幅が 6 4 0 に設定されている。なお、X 軸および Y 軸ともに、中央の位置に対応する値が 0 になっている。このため、画面サイズは、 $-400 \leq X \leq 400$ 、 $-320 \leq Y \leq 320$ となる。

【0663】

10

20

30

40

50

動画作成ツールの設定画面 730 を用いれば、動画データが移動する幅を設定することができる。たとえば、(b) に示す例では、キャラクタ画像 g1 ~ g4 からなるパターンの足踏み動画データ A1 ~ A4 の 1 周期分を 500 とし、 $-1000 \leq X \leq 500$ の範囲で X 軸上を直線移動するように設定されている。

【0664】

図 50 に示すように、STEP 4 においては、複数のキャラクタが進行する動画が作成される。たとえば、(a) に示す例では、同様の作成手順で、群予告に用いられるジャムちゃんというキャラクタが $-1000 \leq X \leq 500$ の範囲で X 軸上を直線移動する動画データが作成されている。

【0665】

上述したように、複数のキャラクタについて、 $-1000 \leq X \leq 500$ の範囲で X 軸上を直線移動する動画データを作成すると、(b) に示すように、各キャラクタの動画データを互いに異なるレイヤーに配置する。また、キャラクタ間で時間軸をずらせば、登場するタイミングをずらすことができる。さらに、キャラクタ間で Y 軸の位置をずらせば、キャラクタが登場する Y 軸上の位置をずらすことができる。なお、Z 軸は、画面の前面側（手前側）と背面側（奥行側）との間の軸であり、値が入力されることで、画面の前面側（手前側）と背面側（奥行側）の間をキャラクタが移動するように群予告（本実施の形態のポインゴ群予告）の演出を設計することができる。

【0666】

図 51 に示すように、STEP 5 においては、最終的に群予告の動画が作成される。たとえば、(a) に示すように、キャラクタ A ~ F といった 6 種類のキャラクタの動画データがレイヤーのタイムライン上に配置されることで、群予告の動画が完成する。

【0667】

また、タイムライン上の動画データの長さを変更すれば、アニメーション自体はキャラクタ画像 g1 ~ g4 からなるパターンの動画が 3 周期分繰り返される動画を維持しつつ、キャラクタが移動する速度を変化させることができる。たとえば、レイヤー 10 に配置されたキャラクタ C の動画データは、レイヤー 9 に配置されたキャラクタ C の動画データと同じく、キャラクタ画像 g1 ~ g4 からなるパターンの動画が 3 周期分繰り返される動画データであるが、レイヤー 10 に配置されたキャラクタ C の動画データにおけるタイムライン上の長さは、レイヤー 9 に配置されたキャラクタ C の動画データにおけるタイムライン上の長さよりも短い。これにより、レイヤー 10 に配置されたキャラクタ C は、レイヤー 9 に配置されたキャラクタ C と同じアニメーションを保ちつつも、レイヤー 9 に配置されたキャラクタ C よりも速い速度で画面上を進行するようになる。

【0668】

なお、6 人群予告においては、画面上に配置された座標において、同じタイミングおよび同じ速度で複数のキャラクタが配置されないようになっている。たとえば、図 51 (a) に示す例においても、タイムライン上で同じタイミングかつ同じ長さで複数のキャラクタの動画データが配置されないようになっている。

【0669】

さらに、(b) に示すように、最も背面側に位置するレイヤー 1 に砂煙の動画データを配置すれば、複数のキャラクタが進行する動画に対して、砂煙の動画を組み合わせることができる。

【0670】

以上のようにして、複数のキャラクタが進行する群予告の動画データを作成することができる。なお、群予告の動画データの実際の作成においては、所定サイズ（たとえば、19 インチ）の画面の端部に遊技盤 2 が覆い被さることを想定して、画面に対して遊技盤 2 が覆い被さる位置に対応する領域にマスクを被せた状態で群予告の動画データが作成される。さらに、画面の所定サイズ（たとえば、19 インチ）よりも大きなサイズ（たとえば、20 インチなど）に適用できるように、当該大きなサイズに対応する領域まで群予告の動画データが作成される。

10

20

30

40

50

【0671】

(群予告作業工程)

図52は、6人群予告の全体像を示す図である。図52に示すように、群予告演出に含まれる6人群予告においては、メイドA～メイドFといった6人のキャラクタが群となって進行する画像が表示される。群予告演出は、6人のキャラクタに限らず、各キャラクタが複数人登場することで、パチンコ遊技機1において実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出となっている。メイドA～メイドFは、いずれも同一または略同一のメイド服を着ているため、顔で認識する以外にはキャラクタの種類を見分けることは難しくなっている。本実施の形態においては、各キャラクタが身につけているエプロンの図柄がキャラクタごとに異なっているが、一見しただけではその違いを認識することは難しくなっている。なお、メイドAは、主人公である夢夢ちゃんであり、メイドBは、主人公である夢夢ちゃんの次の優先度の高いキャラクタであるジャムちゃんである。

10

【0672】

6人群予告においては、キャラクタ画像が画像表示装置5の表示領域に収まる場合もあれば、キャラクタ画像の一部（たとえば、顔や足）が画像表示装置5の表示領域に収まらずにはみ出している場合もある。たとえば、6人群予告に登場するキャラクタのうち、メイドA（夢夢ちゃん）は6人登場するが、そのうち顔が見えているメイドAは5人である。すなわち、メイドAは登場する6人のうち、1人の顔が画像表示装置5の表示領域に収まっていない。6人群予告に登場するキャラクタのうち、メイドB（ジャムちゃん）は5人登場するが、そのうち顔が見えているメイドBは4人である。すなわち、メイドBは登場する5人のうち、1人の顔が画像表示装置5の表示領域に収まっていない。6人群予告に登場するキャラクタのうち、メイドCは5人登場するが、そのうち顔が見えているメイドCは3人である。すなわち、メイドCは登場する5人のうち、2人の顔が画像表示装置5の表示領域に収まっていない。6人群予告に登場するキャラクタのうち、メイドDは5人登場するが、そのうち顔が見えているメイドDは3人である。すなわち、メイドDは登場する5人のうち、2人の顔が画像表示装置5の表示領域に収まっていない。6人群予告に登場するキャラクタのうち、メイドEは5人登場するが、そのうち顔が見えているメイドEは3人である。すなわち、メイドEは登場する5人のうち、2人の顔が画像表示装置5の表示領域に収まっていない。6人群予告に登場するキャラクタのうち、メイドFは5人登場するが、そのうち顔が見えているメイドFは3人である。すなわち、メイドFは登場する5人のうち、2人の顔が画像表示装置5の表示領域に収まっていない。

20

30

【0673】

このように、群予告演出において表示される複数のキャラクタは、全身が画面の表示領域に収まって表示されるキャラクタと、全身の一部分（たとえば、顔）が当該画面の表示領域に収まることなく当該全身の他の部分（たとえば、顔以外の部分）が当該画面の表示領域に収まって表示されるキャラクタとを含む。

【0674】

また、群予告演出において表示される複数のキャラクタは、メイドC～Fのようにパチンコ遊技機1のコンテンツにおいて重要度の低いキャラクタと、メイドA（夢夢ちゃん）やメイドB（ジャムちゃん）のようにパチンコ遊技機1のコンテンツにおいてメイドC～Fよりも重要度の高いキャラクタとを含み、メイドAやメイドBは、メイドC～Fよりも、顔が画面の表示領域に収まることなく全身の顔以外の部分が当該画面の表示領域に収まって表示される割合が低い。つまり、メイドAやメイドBは、メイドC～Fよりも、顔を見せながら登場する割合が高くなるように、6人群予告が設計されている。

40

【0675】

(補助表示)

図53は、群予告演出において用いられる補助表示を説明するための図である。図53に示すように、群予告演出においては、キャラクタが進行していることを強調する補助表示が行われる。本実施の形態においては、補助表示として、砂煙の画像が表示される。キャラクタの近辺、より効果的には進行するキャラクタの後ろに続くように砂煙の画像を表

50

示すれば、キャラクタの進行によって砂煙が生じているかのように遊技者に思わせることができ、そうすることで、キャラクタが走り抜ける様子を強調することができる。上述した図51(b)に示すように、補助表示である砂煙の画像は、最も背面側に位置するレイヤー1に配置される。このため、図53に示すように、砂煙の画像は、登場するキャラクタのいずれよりも背面側に位置するようになっている。

【0676】

具体的には、図53に示すように、メイドEの画像が配置されるレイヤーは、メイドCの画像が配置されるレイヤーよりも前面側であるため、メイドEの画像はメイドCの画像よりも前面側で表示される。その一方で、メイドEに対応する補助表示の画像は、メイドEの画像およびメイドCの画像のいずれよりも背面側に位置するようになっている。

10

【0677】

このように、メイドEの表示とメイドCの表示とが重なったときは、当該メイドEの表示が当該他のメイドCの表示よりも優先される一方で、当該メイドEに対応する補助表示とメイドCの表示とが重なったときは、当該メイドCの表示が当該メイドEに対応する補助表示よりも優先されるようになっている。

【0678】

(モーションブラー処理)

図54は、群予告演出において用いられるモーションブラー処理を説明するための図である。図54に示すように、群予告演出においては、進行するキャラクタに対してモーションブラー処理が施されている。モーションブラー処理とは、オブジェクト（たとえば、キャラクタ）を残像表示させるための処理であり、進行するキャラクタの表示に対してモーションブラー処理が施されることで、進行するキャラクタの後に当該キャラクタの残像が表示されるようになる。これにより、躍動感のある群予告演出を作成することができる。また、一のキャラクタに対するモーションブラー処理による画像が、他のキャラクタに対するモーションブラー処理による画像に重なったときは、当該他のキャラクタの視認性を阻害しないように、当該一のキャラクタに対するモーションブラー処理による画像が透明になっている。

20

【0679】

(キャラクタが重なるときの輪郭の態様)

図55は、群予告演出においてキャラクタが重なるときの輪郭の態様を説明するための図である。図55に示すように、群予告演出においては、一のキャラクタが他のキャラクタを追い抜くことがある。その際、追い抜くキャラクタの表示と他のキャラクタの表示とが重なるときに、追い抜くキャラクタの輪郭が、他のキャラクタの輪郭よりも太く表示されるようになっている。

30

【0680】

たとえば、(a)に示す例では、メイドAの前面側に位置するメイドBが当該メイドAを追い抜く様子が示されているが、この場合において、メイドBの輪郭は、メイドAの輪郭よりも太くなっており、メイドBがメイドAよりも強調して表示されている。また、メイドFの前面側に位置するメイドAが当該メイドFを追い抜く様子が示されているが、この場合において、メイドAの輪郭は、メイドFの輪郭よりも太くなっており、メイドAがメイドFよりも強調して表示されている。

40

【0681】

さらに、(b)に示す例では、メイドAの前面側に位置するメイドBが当該メイドAを追い抜く様子が示されているが、この場合において、メイドBの輪郭は、メイドAの輪郭よりも太くなっており、メイドBがメイドAよりも強調して表示されている。また、メイドDの前面側に位置するメイドAが当該メイドDを追い抜く様子が示されているが、この場合において、メイドAの輪郭は、メイドDの輪郭よりも太くなっており、メイドAがメイドDよりも強調して表示されている。

【0682】

なお、一のキャラクタが他のキャラクタを追い抜く場合においては、一のキャラクタの

50

輪郭を太くするものに限らず、一のキャラクタのサイズを大きくしたり、一のキャラクタの明度を他のキャラクタの明度よりも高くしたり、一のキャラクタのコントラストを他のキャラクタのコントラストよりも明確にしたりすることで、一のキャラクタを他のキャラクタよりも強調して表示するものであってもよい。

【0683】

（画像表示装置の画面の表示）

図56は、群予告演出の実行中に遊技盤2と画像表示装置5との間を覗いた図である。上述した図53～図55に示すように、画像表示装置5の画面の端部には遊技盤2が覆い被さっているため、パチンコ遊技機1を正面から見ると、画像表示装置5の画面の端部のうち、遊技盤2が覆い被さっている部分は見えなくなっている。しかし、図56に示すように、遊技盤2と画像表示装置5との間を覗くと、遊技盤2の背面側に位置する画像表示装置5の画面の端部を視認可能になっている。

10

【0684】

ここで、図56においては、6人群予告において、(a)に示すように、主人公であるメイドA（夢夢ちゃん）の全体が未だ表示されていない一方で当該メイドAの一部（この例では顔の一部）が表示されている第1状況から、(b)に示すように、最初に表示されたメイドAの全体が未だ表示されていない一方で当該メイドAの一部が第1状況よりも表示され、かつ2番目に表示されたメイドB（ジャムちゃん）の全体が未だ表示されていない一方で当該メイドBの一部（この例では顔の一部）が表示された第2状況になることが示されている。また、最初に表示されたキャラクタ（メイドA）と、2番目に表示されたキャラクタ（メイドB）とは、画面上の縦方向に沿ったY軸の位置座標が異なっている。

20

【0685】

このような第1状況から第2状況への変化は、遊技盤2が画像表示装置5の画面の端部に覆い被さった状態で画像表示装置5を視認した場合、および遊技盤2と画像表示装置5との間を覗いた状態で画像表示装置5を視認した場合のいずれであっても起こる。つまり、図56は遊技盤2と画像表示装置5との間を覗いた状態で画像表示装置5を視認した場合であるが、図16(b)に示すように、遊技盤2が画像表示装置5の画面の端部に覆い被さった状態であっても、6人群予告において、主人公であるメイドA（夢夢ちゃん）の全体が未だ表示されていない一方で当該メイドAの一部（この例では顔の一部）が表示されている第1状況から、最初に表示されたメイドAの全体が未だ表示されていない一方で当該メイドAの一部が第1状況よりも表示され、かつ2番目に表示されたメイドB（ジャムちゃん）の全体が未だ表示されていない一方で当該メイドBの一部（この例では顔の一部）が表示された第2状況になる。

30

【0686】

（爆チュー群予告の全体像）

図57は、爆チュー群予告の全体像を示す図である。図57に示すように、群予告演出に含まれる爆チュー群予告においては、爆チューといったキャラクタが群となって進行する画像が表示される。

【0687】

爆チュー群予告においては、キャラクタ画像が画像表示装置5の表示領域に収まる場合もあれば、キャラクタ画像の一部（たとえば、耳や足）が画像表示装置5の表示領域に収まらずにはみ出している場合もある。

40

【0688】

このように、爆チュー群予告においては、1種類のキャラクタが進行するように動作するアニメーションの画像を画面上に配置することで、爆チュー群予告の動画データが作成されている。なお、爆チュー群予告における動画データも、6人群予告における動画データと同様の手法で、図47～図51に示す作業工程に基づき作成される。

【0689】

（群予告演出における音量の変化および輝度データテーブル）

図58は、群予告演出における音量の変化および輝度データテーブルを説明するための

50

図である。図 5 8 に示すように、群予告演出（6 人群予告、爆チュー予告、ボインゴ群予告）は、第 1 表示期間（1 0 0 0 m s e c）と、第 2 表示期間（1 3 1 0 m s e c）と、第 3 表示期間（8 3 0 m s e c）とに分かれている。

【0 6 9 0】

第 1 表示期間は、群予告演出においてキャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの期間である。より具体的には、第 1 表示期間は、群予告演出においていずれかのキャラクタが最初に登場してから、いずれかのキャラクタが最初に消えるまでの期間である。たとえば、群予告演出において一のキャラクタが最初に登場し、当該一のキャラクタがそのままトップで進行するのであれば、当該一のキャラクタが消えるまでの期間が第 1 表示期間となる。あるいは、群予告演出において一のキャラクタが最初に登場し、当該一のキャラクタが他のキャラクタに抜かされるのであれば、当該他のキャラクタが画面の端から消えるまでの期間が第 1 表示期間となる。なお、本実施の形態においては、第 1 表示期間において、最初に表示されたキャラクタの表示が終了する前に、2 番目に表示されたキャラクタの表示が終了するようになっている。すなわち、第 1 表示期間において、最初のキャラクタが登場し、当該最初のキャラクタが 2 番目に登場したキャラクタに抜かされて、そのまま 2 番目のキャラクタが最初に画面の端から消えるようになっている。

10

【0 6 9 1】

第 2 表示期間は、第 1 表示期間よりも長い期間であって、新たなキャラクタの表示が開始して終了する状態が継続する期間である。より具体的には、第 2 表示期間は、群予告演出においていずれかのキャラクタがいずれかのキャラクタが最初に消えてから、次々と新たなキャラクタが登場する状態が継続するとともに、最後のキャラクタが登場するまでの期間である。なお、第 2 表示期間は、第 1 表示期間および第 3 表示期間の各々よりも長い期間である。また、第 2 表示期間は、第 1 表示期間および第 3 表示期間の各々よりも登場するキャラクタの数が多くなっている。

20

【0 6 9 2】

第 3 表示期間は、新たなキャラクタの表示が開始することなくキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間である。より具体的には、第 3 表示期間は、群予告演出において最後のキャラクタが登場してから、全てのキャラクタが消えるまでの期間である。なお、最後に消えるキャラクタは、最後に登場するキャラクタに限らず、当該最後に登場するキャラクタによって抜かされたキャラクタであってもよい。なお、第 3 表示期間は、第 1 表示期間よりも長い期間である。

30

【0 6 9 3】

群予告演出における音量の変化について、スピーカ 8 L，8 R は、第 1 表示期間の開始に関連するタイミングで群予告演出に対応する演出音の出力を開始し、当該第 1 表示期間において当該演出音の音量を特定音量まで上げ、第 2 表示期間において当該演出音の音量を当該特定音量で維持し、第 3 表示期間において当該演出音の音量を下げるようになっている。

【0 6 9 4】

たとえば、図 5 7 に示すように、群予告演出に対応する演出音について、第 1 表示期間の最初においては音量が最小（たとえば、消音または最低音量）であり、その後段階的に徐々に大きくなって規定値に達し、それ以降は規定値（たとえば、設定音量または最大音量）で維持される。第 2 表示期間においても、音量は規定値を維持したままである。その後、第 3 表示期間においては、音量が規定値で維持された後、段階的に徐々に小さくなって最小となる。

40

【0 6 9 5】

なお、第 1 表示期間において音量が最小から規定値まで段階的に徐々に大きくなることを、音量のフェードインと称する。また、第 3 表示期間において音量が規定値から最小まで段階的に徐々に小さくなることを、音量のフェードアウトと称する。本実施の形態においては、第 1 表示期間において演出音が出力されてから当該演出音の音量が最小から規定

50

値まで上がるまでのフェードイン時間は、第3表示期間において当該演出音の音量が下がり始めてから当該演出音の音量が最小になるまでのフェードアウト時間よりも短くなっている。

【0696】

輝度データテーブルは、複数の点灯手段の各々を点灯させるための複数の輝度データで構成されている。複数の点灯手段は、枠ランプ9（枠左ランプ9L、枠右ランプ9R）、役物ランプ9A、盤左ランプ9B、盤上ランプ9C、アタッカランプ9E、Vアタッカランプ9F、Vランプ9G、電チューランプ9H、スティックコントローラランプ9J、およびトリガボタンランプ9Kなどの遊技効果ランプを含む。輝度データテーブルは、第1表示期間に対応する第1輝度データテーブルと、前記第2表示期間に対応する第2輝度データテーブルと、前記第3表示期間に対応する第3輝度データテーブルとを含む。つまり、第1表示期間においては、第1輝度データテーブルに含まれる輝度データに基づき所定の遊技効果ランプ9が点灯、点滅、または消灯し、第2表示期間においては、第2輝度データテーブルに含まれる輝度データに基づき所定の遊技効果ランプ9が点灯、点滅、または消灯し、第3表示期間においては、第3輝度データテーブルに含まれる輝度データに基づき所定の遊技効果ランプ9が点灯、点滅、または消灯する。

10

【0697】

（ステージAにおける6人群予告の発生タイミング）

図59は、ステージAにおける6人群予告の発生タイミングを説明するための図である。上述したように、ステージAにおいては、前変動中の1600フレーム目から6人群予告が実行される。

20

【0698】

たとえば、図59に示すように、SPリーチ前半でハズレになる変動番号9の変動パターンの場合、前変動の変動時間が62000ms（1861フレーム）となり、後変動の変動時間が37400ms（1123フレーム）となっており、6人群予告は、前変動の53280ms（1600フレーム目）から開始する。このため、SPリーチ前半でハズレになる変動番号9の変動パターンの場合、6人群予告が実行されるタイミング（1600フレーム目）は、全変動時間（2984フレーム）のうちの後半に属する。つまり、SPリーチ前半でハズレの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示がハズレ表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（2984フレーム）においては、当該所定期間のうちの後半（1600フレーム目）で6人群予告の第1表示期間が開始する。

30

【0699】

SPリーチ前半で当りになる変動番号20の変動パターンの場合、前変動の変動時間が62000ms（1861フレーム）となり、後変動の変動時間が93300ms（2801フレーム）となっており、6人群予告は、前変動の53280ms（1600フレーム目）から開始する。このため、SPリーチ前半で当りになる変動番号20の変動パターンの場合、6人群予告が実行されるタイミング（1600フレーム目）は、全変動時間（4662フレーム）のうちの前半に属する。つまり、SPリーチ前半で当りの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示が当り表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（4662フレーム）においては、当該所定期間のうちの前半（1600フレーム目）で6人群予告の第1表示期間が開始する。さらに、6人群予告が実行されるタイミング（1600フレーム目）は、全変動時間（4662フレーム）のうちの前半部分のうち、全変動時間（4662フレーム）の半分（2331フレーム目）に近いタイミング（後半部分）である。

40

【0700】

SPリーチ後半で当りになる変動番号23の変動パターンの場合、前変動の変動時間が62000ms（1861フレーム）となり、後変動の変動時間が99900ms（3000フレーム）となっており、6人群予告は、前変動の53280ms（1600フレーム目）から開始する。このため、SPリーチ後半で当りになる変動番号2

50

3の変動パターンの場合、6人群予告が実行されるタイミング（1600フレーム目）は、全変動時間（4861フレーム）のうちの前半に属する。つまり、SPリーチ後半で当りの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示が当り表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（4861フレーム）においては、当該所定期間のうちの前半（1600フレーム目）で6人群予告の第1表示期間が開始する。さらに、6人群予告が実行されるタイミング（1600フレーム目）は、全変動時間（4861フレーム）のうちの前半部分のうち、全変動時間（4861フレーム）の半分（約2430フレーム目）に近いタイミング（後半部分）である。

【0701】

最終リーチで当りになる変動番号26の変動パターンの場合、前変動の変動時間が62000ms（1861フレーム）となり、後変動の変動時間が142800ms（4288フレーム）となっており、6人群予告は、前変動の53280ms（1600フレーム目）から開始する。このため、最終リーチで当りになる変動番号26の変動パターンの場合、6人群予告が実行されるタイミング（1600フレーム目）は、全変動時間（6149フレーム）のうちの前半に属する。つまり、最終リーチで当りの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示が当り表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（6149フレーム）においては、当該所定期間のうちの前半（1600フレーム目）で6人群予告の第1表示期間が開始する。さらに、6人群予告が実行されるタイミング（1600フレーム目）は、全変動時間（6149フレーム）のうちの前半部分のうち、全変動時間（6149フレーム）の半分（約3074フレーム目）に近いタイミング（後半部分）である。

【0702】

なお、本実施の形態においては、SPリーチ後半や最終リーチでハズレになる変動番号10～15の変動パターンの場合、後変動時間が長めに設定されているため、可変表示が開始してから当該可変表示がハズレ表示結果であることが示唆されるまでの所定期間において、当該所定期間のうちの前半（1600フレーム目）で6人群予告の第1表示期間が開始するようには構成されていない。しかしながら、SPリーチ後半や最終リーチでハズレになる変動番号10～15の変動パターンの場合であっても、可変表示が開始してから当該可変表示がハズレ表示結果であることが示唆されるまでの所定期間において、当該所定期間のうちの前半で6人群予告の第1表示期間が開始するようには構成されてもよい。

【0703】

図60は、ステージBにおける爆チュー群予告の発生タイミングを説明するための図である。上述したように、ステージBにおいては、後変動中の2000フレーム目から爆チュー群予告が実行される。

【0704】

たとえば、図60に示すように、SPリーチ前半でハズレになる変動番号9の変動パターンの場合、前変動の変動時間が62000ms（1861フレーム）となり、後変動の変動時間が37400ms（1123フレーム）となっており、爆チュー群予告は、前変動の66600ms（2000フレーム目）から開始する。このため、SPリーチ前半でハズレになる変動番号9の変動パターンの場合、爆チュー群予告が実行されるタイミング（2000フレーム目）は、全変動時間（2984フレーム）のうちの後半に属する。つまり、SPリーチ前半でハズレの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示がハズレ表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（2984フレーム）においては、当該所定期間のうちの後半（2000フレーム目）で爆チュー群予告の第1表示期間が開始する。

【0705】

SPリーチ前半で当りになる変動番号20の変動パターンの場合、前変動の変動時間が62000ms（1861フレーム）となり、後変動の変動時間が93300ms（2801フレーム）となっており、爆チュー群予告は、前変動の66600ms（2000フレーム目）から開始する。このため、SPリーチ前半で当りになる変動番

号 20 の変動パターンの場合、爆チュー群予告が実行されるタイミング（2000 フレーム目）は、全変動時間（4662 フレーム）のうちの前半に属する。つまり、S P リーチ前半で当りの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示が当り表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（4662 フレーム）においては、当該所定期間のうちの前半（2000 フレーム目）で爆チュー群予告の第 1 表示期間が開始する。さらに、爆チュー群予告が実行されるタイミング（2000 フレーム目）は、全変動時間（4662 フレーム）のうちの前半部分のうち、全変動時間（4662 フレーム）の半分（2331 フレーム目）に近いタイミング（後半部分）である。

【0706】

S P リーチ後半で当りになる変動番号 23 の変動パターンの場合、前変動の変動時間が 62000 msec（1861 フレーム）となり、後変動の変動時間が 99900 msec（3000 フレーム）となっており、爆チュー群予告は、前変動の 66600 msec（2000 フレーム目）から開始する。このため、S P リーチ後半で当りになる変動番号 23 の変動パターンの場合、爆チュー群予告が実行されるタイミング（2000 フレーム目）は、全変動時間（4861 フレーム）のうちの前半に属する。つまり、S P リーチ後半で当りの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示が当り表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（4861 フレーム）においては、当該所定期間のうちの前半（2000 フレーム目）で爆チュー群予告の第 1 表示期間が開始する。さらに、爆チュー群予告が実行されるタイミング（2000 フレーム目）は、全変動時間（4861 フレーム）のうちの前半部分のうち、全変動時間（4861 フレーム）の半分（約 2430 フレーム目）に近いタイミング（後半部分）である。

【0707】

最終リーチ後半で当りになる変動番号 26 の変動パターンの場合、前変動の変動時間が 62000 msec（1861 フレーム）となり、後変動の変動時間が 142800 msec（4288 フレーム）となっており、爆チュー群予告は、前変動の 66600 msec（2000 フレーム目）から開始する。このため、最終リーチで当りになる変動番号 26 の変動パターンの場合、爆チュー群予告が実行されるタイミング（2000 フレーム目）は、全変動時間（6149 フレーム）のうちの前半に属する。つまり、最終リーチで当りの場合、表示結果であることが示唆される場合であって、可変表示が開始してから当該可変表示が当り表示結果であることが示唆されるまでの所定期間（6149 フレーム）においては、当該所定期間のうちの前半（2000 フレーム目）で爆チュー群予告の第 1 表示期間が開始する。さらに、爆チュー群予告が実行されるタイミング（2000 フレーム目）は、全変動時間（6149 フレーム）のうちの前半部分のうち、全変動時間（6149 フレーム）の半分（約 3074 フレーム目）に近いタイミング（後半部分）である。

【0708】

なお、本実施の形態においては、S P リーチ後半や最終リーチでハズレになる変動番号 10～15 の変動パターンの場合、後変動時間が長めに設定されているため、可変表示が開始してから当該可変表示がハズレ表示結果であることが示唆されるまでの所定期間において、当該所定期間のうちの前半（2000 フレーム目）で爆チュー群予告の第 1 表示期間が開始するようには構成されていない。しかしながら、S P リーチ後半や最終リーチでハズレになる変動番号 10～15 の変動パターンの場合であっても、可変表示が開始してから当該可変表示がハズレ表示結果であることが示唆されるまでの所定期間において、当該所定期間のうちの爆チュー群予告の第 1 表示期間が開始するように構成されてもよい。

【0709】

〔輝度データ〕

図 61～図 85 を参照しながら、本実施の形態に係るパチンコ遊技機 1 において、演出制御用 CPU 120 が各種点灯手段を制御する際に参照する輝度データについて説明する。これら輝度データテーブルは、ROM 121 に格納されている。たとえば、演出制御用

10

20

30

40

50

CPU120は、輝度データテーブルに格納された輝度データに基づき、群予告における表示に合わせて遊技効果ランプの点灯（発光）箇所を移動させる。本実施の形態において、点灯箇所とは、文字通り点灯している箇所を指し、たとえば、枠ランプに含まれる複数のランプのうち、点灯しているランプが位置する箇所を点灯箇所と言い、その他の点灯していないランプ（つまり、消灯しているランプ）が位置する箇所を点灯箇所とは言わない。なお、他の例において、点灯箇所とは、高輝度で点灯している箇所を指し、たとえば、枠ランプに含まれる複数のランプのうち、高輝度で点灯しているランプが位置する箇所を点灯箇所と言い、当該点灯箇所に位置するランプの輝度よりも低い輝度で点灯しているランプが位置する箇所を点灯箇所とは言わないものであってもよい。

【0710】

10

より具体的には、ランプを点灯または消灯させるためのデータ（要素とも称する）は、輝度データテーブルによって規定されるが、このような輝度データテーブルにおいて、特定のランプが参照するデータの格納領域に0のデータ（たとえば、RGBに対応して「000」のデータ）が格納されていれば、当該特定のランプは消灯する。また、輝度データテーブルにおいて特定のランプが参照するデータの格納領域が存在しないか、あるいは、輝度データテーブル自体が存在しない場合には、当該特定のランプは消灯する。一方、特定のランプが参照する輝度データテーブルが存在し、かつ特定のランプが参照するデータの格納領域に1以上のデータ（たとえば、RGBに対応して「100」、「010」、「001」が格納されていれば、当該特定のランプは点灯する。なお、たとえば、通常背景に対応する演出時に大当りの予告演出のような特定演出が実行される場合において、当該特定演出で参照される輝度データテーブルに特定のランプのデータが規定されていなくても、通常背景に対応する演出で参照される輝度データテーブルに特定のランプのデータが規定されていれば、当該特定のランプは点灯することになる。

20

【0711】

（群予告輝度データテーブルにおける親テーブル）

図61は、群予告輝度データテーブルにおける親テーブルの一例を説明するための図である。図61に示すように、群予告輝度データテーブルにおける親テーブルでは、枠ランプ（枠右ランプ9R、枠左ランプ9L）、役物ランプ9A、盤左ランプ9B、盤上ランプ9C、およびアタッカランプ9Eといった、遊技効果ランプ9に含まれる各ランプについて、群予告演出の各々の演出時間が規定されている。

30

【0712】

たとえば、遊技効果ランプ9における各ランプは、群予告演出に合わせるように3140msに亘って制御されるようになっている。

【0713】

（群予告輝度データテーブルにおける子テーブル）

図62は、群予告輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。図62に示すように、群予告輝度データテーブルにおける子テーブルでは、遊技効果ランプ9における各ランプについて、群予告演出の時間を細分化するとともに、各時間帯で参照される孫テーブル（輝度データテーブルともいう）が指定されている。

【0714】

40

たとえば、群予告演出が実行される期間のうち、第1表示期間（後述する図94～図95、図150～図152に示す演出の期間）においては、枠ランプについてW1、役物ランプ9AについてY1、盤左ランプ9BについてL1、盤上ランプ9CについてU1、およびアタッカランプ9EについてA1の孫テーブルが各々設けられている。これら、第1表示期間で用いられる孫テーブルは、図58に示す第1輝度データテーブルに対応する。

【0715】

群予告演出が実行される期間のうち、第2表示期間（後述する図96、図97、図153、図154に示す演出の期間）においては、枠ランプについてW2、役物ランプ9AについてY2、盤左ランプ9BについてL2、盤上ランプ9CについてU2、およびアタッカランプ9EについてA2の孫テーブルが各々設けられている。これら、第2表示期間で

50

用いられる孫テーブルは、図 5 8 に示す第 2 輝度データテーブルに対応する。

【0716】

群予告演出が実行される期間のうち、第 3 表示期間（後述する図 9 8，図 9 9，図 1 5 5，図 1 5 6 に示す演出の期間）においては、枠ランプについて W 3、役物ランプ 9 A について Y 3、盤左ランプ 9 B について L 3、盤上ランプ 9 C について U 3、およびアタッカランプ 9 E について A 3 の孫テーブルが各々設けられている。これら、第 3 表示期間で用いられる孫テーブルは、図 5 8 に示す第 3 輝度データテーブルに対応する。

【0717】

図 6 2 に示すように、群予告演出で参照される輝度データテーブルについて、第 1 表示期間、第 2 表示期間、および第 3 表示期間のいずれにおいても、枠左ランプ 9 L、枠右ランプ 9 R、役物ランプ 9 A、盤左ランプ 9 B、盤上ランプ 9 C、およびアタッカランプの 6 種類の輝度データテーブルが設けられている。

【0718】

なお、V ランプ 9 G は、群予告演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置（たとえば、群予告演出においてキャラクタが登場する付近）にあるが、群予告演出においては用いられないため、その孫テーブルも用意されていない。V ランプ 9 G は、V 入賞が発生可能な大当り遊技状態のラウンド中であることや V 入賞が発生したことを報知するランプ、あるいは大当りが発生したことを報知するランプであるため、群予告演出において点灯してしまうと、遊技者が V 入賞したり大当りしたりしているのかと勘違いしてしまうからであり、このような不都合を回避するために、V ランプ 9 G は、群予告演出において用いられていない。なお、V ランプ 9 G は、群予告演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置として、盤左ランプ 9 B の付近などその他の位置に設けられてもよいが、この場合であっても、群予告演出においては用いられないようにすればよい。

【0719】

また、スティックコントローラ 3 1 A に設けられたスティックコントローラランプ 9 J やプッシュボタン 3 1 B に設けられたトリガボタンランプ 9 K は、群予告演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置（たとえば、群予告演出においてキャラクタが進行している真下付近）にあるが、群予告演出においては用いられないため、その孫テーブルも用意されていない。スティックコントローラランプ 9 J は、操作演出（後述する図 1 3 1（c 9 1）に示す演出）などにおいて、スティックコントローラ 3 1 A を引く操作を促すために点灯し、トリガボタンランプ 9 K は、P U S H 演出（後述する図 9 2（a 1 9）に示す演出）などにおいて、プッシュボタン 3 1 B を押圧する操作を促すために点灯するランプであるため、群予告演出において点灯してしまうと、遊技者がスティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B を操作できるのではないかと勘違いしてしまうからであり、このような不都合を回避するために、スティックコントローラランプ 9 J やトリガボタンランプ 9 K は、群予告演出において用いられていない。なお、スティックコントローラランプ 9 J やトリガボタンランプ 9 K は、群予告演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置として、盤左ランプ 9 B の付近などその他の位置に設けられてもよいが、この場合であっても、群予告演出においては用いられないようにすればよい。

【0720】

群予告演出における孫テーブルに用いられる孫テーブル W 1 ～ W 3 についての特徴をまとめると以下ようになる。具体的には、高輝度の点灯箇所の数について、W 1 よりも W 2 の方が多くなっている。切替間隔について、W 1 は 1 0 0 m s e c で等間隔に点灯制御を行うのに対して、W 2 は W 1 よりも短い 5 0 ～ 8 0 m s e c で非等間隔に点灯制御を行い、W 3 については枠左ランプ 9 L に対して 1 0 m s e c と短い間隔で点灯制御を行うのに対して、枠右ランプ 9 R に対して 8 0 m s e c と長い間隔で点灯制御を行う。

【0721】

点灯パターンについて、W 1 は群予告の進行方向に合わせて点灯箇所を移動させながら高輝度で点灯させるように輝度データが規定されているのに対して、W 2 は複数箇所に亘って高輝度で点灯させるように輝度データが規定され、W 3 については枠左ランプ 9 L お

10

20

30

40

50

よび枠右ランプ 9 R のいずれに対しても群予告の進行方向に合わせて消灯または低輝度で点灯させるように輝度データが規定されている。最初の輝度データについて、W 1 は全てのランプを消灯または低輝度で点灯させるように輝度データが規定されているのに対して、W 2 および W 3 は所定の点灯個所については高輝度で発光させるように輝度データが規定されている。一方、最後の輝度データについて、W 3 は枠左ランプ 9 L および枠右ランプ 9 R のいずれに対しても全てのランプを消灯または低輝度で点灯させるように輝度データが規定されている。

【0722】

輝度データのループについて、W 1 および W 3 は同じ輝度データを繰り返し用いるように輝度データが規定されていないのに対して、W 2 は同じ輝度データを繰り返し用いるように輝度データが規定されている。不具合対策用の 10 分間の輝度データについて、W 1 および W 3 は規定されているのに対して、W 2 は規定されていない。

10

【0723】

（群予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブル）

図 6 3 は、群予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、枠ランプに含まれる各ランプは複数色（この例では、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の 3 色）の LED であり、データとしては、「0」～「F」の 16 進数で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

20

【0724】

図 6 3（a）に示すように、第 1 表示期間で用いられる孫テーブル W 1 においては、100 msec で等間隔で T 1-1～T 1-10 に亘って各ランプに対して RGB のデータが規定され、さらに最後の時間 T 1-11 においては不具合対策用の 10 分間（60000 msec）のデータが規定されている。また、W 1 においては、時間ごとに、枠ランプに含まれる各ランプを消灯または低輝度で点灯させるためのデータと各ランプを高輝度で点灯させるためのデータとを組み合わせた第 1 輝度データと、各ランプを消灯または低輝度で点灯させるためのデータと各ランプを高輝度で点灯させるためのデータとの組み合わせが当該第 1 輝度データと異なる第 2 輝度データとで構成されている。たとえば、T 1-2 に対応する各ランプのデータの集まりを第 1 輝度データとすれば、T 1-3 に対応する各ランプのデータの集まりを第 2 輝度データとすることができる。その他の時間ごとに対しても所定の輝度データが規定されている。

30

【0725】

W 1 においては、第 1 表示期間の最初の 100 msec（T 1-1）において、枠ランプに含まれる全てのランプに対して「R」に低輝度を示す「1」が規定され、「G」および「B」に消灯を示す「0」が規定されている。これにより、後述する図 9 3（a 2 2）および図 1 5 0（b 4 3）に示すように、群予告演出における第 1 表示期間の最初においては、枠ランプに含まれる全てのランプが消灯または低輝度で点灯するようになる。これにより、これから群予告演出が実行されることに対して遊技者に注目させ易くすることができる。なお、本実施の形態においては、各ランプが赤色を主体として点灯することで演出を効果的にするため、「R」に低輝度を示す「1」が規定され、「G」および「B」に消灯を示す「0」が規定されているが、たとえば、各ランプが緑色を主体として点灯する場合には「G」に低輝度を示す「1」が規定され、「R」および「B」に消灯を示す「0」が規定されればよく、各ランプが青色を主体として点灯する場合には「B」に低輝度を示す「1」が規定され、「R」および「G」に消灯を示す「0」が規定されればよい。

40

【0726】

また、W 1 においては、点線の矢印で示すように、T 1-2 から T 1-10 に亘って、枠右ランプ 9 R 5～9 R 8 付近から枠左ランプにかけて高輝度で点灯するランプの箇所が

50

100 msecの等間隔で移動するように輝度データが規定されている。ここで、枠右ランプ9R5～9R8付近は、群予告においてキャラクタが登場する箇所に対応しており、キャラクタが進行する方向に合わせて高輝度で点灯するランプの箇所が移動するように輝度データが規定されている。枠左ランプについては、最初は消灯または低輝度で点灯するようになっており、キャラクタが進行する方向に合わせて高輝度で点灯するランプの箇所が移動するに伴って、段階的に徐々に高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。一方、最初に高輝度で点灯していた枠右ランプ9R5～9R8は、キャラクタが進行する方向に合わせて高輝度で点灯するランプの箇所が移動するに伴って、消灯または低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。これにより、後述する図93～図95および図150～図152に示すように、群予告においてキャラクタが画面の右端から登場して進行する演出に合わせて、枠ランプもパチンコ遊技機1の右側から左側にかけて高輝度で点灯する位置を変化させるようになる。

10

【0727】

また、W1においては、一の枠ランプを高輝度で点灯させ、当該一の枠ランプと隣合う他の枠ランプを消灯させるデータを含み、段階的に点灯するランプの箇所が移動するように輝度データが規定されている。これにより、W1においては、キャラクタが進行する方向に合わせて高輝度で点灯するランプの箇所を移動させることができる。

【0728】

また、W1においては、第1表示期間の最後の10分間(60000ms)(T1-11)において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の第2表示期間に移行した場合に枠ランプの点灯態様について違和感がないように、第2表示期間で用いられる孫テーブルW2に合わせて、枠ランプがまばらに高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

20

【0729】

ここで、仮にこの10分間のデータを設けなかった場合、W1を用いて点灯制御を行っていた場合に何らかの異常でW2に移行しなかったときに再度T1-1からランプの点灯制御が行われてしまい、既に群予告のキャラクタが登場して進行しているにも関わらず、点線の矢印で示すように、T1-2からT1-10に亘って、再び枠右ランプ9R5～9R8付近から高輝度で点灯するランプの箇所が移動するようになってしまい、遊技者に違和感を与えてしまう。しかしながら、本実施の形態においては、T1-11で10分間のデータを設けているため、W1を用いて点灯制御を行っていた場合に何らかの異常でW2に移行しなかった場合でも、10分間においては孫テーブルW2に合わせた発光態様で枠ランプを点灯させることができるため、違和感を生じさせなくすることができる。そして、この10分間において異常が解消すれば、特に違和感なく遊技者に遊技を続けさせることができる。

30

【0730】

W1においては、上述したような10分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T1-1～T1-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0731】

また、W1において規定された10分間の不具合対策用の輝度データは、1つ前のT1-10の状態から点灯箇所がずれるように、隣合う枠ランプを順番に規則的に点灯させる輝度データである。

40

【0732】

図63(b)に示すように、第2表示期間で用いられる孫テーブルW2においては、50～80msecで非等間隔でT2-1～T2-10に亘って各ランプに対してRGBのデータが規定されている。また、W2においては、時間ごとに、枠ランプに含まれる各ランプを消灯または低輝度で点灯させるためのデータと各ランプを高輝度で点灯させるためのデータとを組み合わせた第1輝度データと、各ランプを消灯または低輝度で点灯させるためのデータと各ランプを高輝度で点灯させるためのデータとの組み合わせが当該第1輝

50

度データと異なる第2輝度データとで構成されている。たとえば、T2-2に対応する各ランプのデータの集まりを第1輝度データとすれば、T2-3に対応する各ランプのデータの集まりを第2輝度データとすることができる。その他の時間ごとに対しても所定の輝度データが規定されている。

【0733】

W2においては、一の枠ランプを高輝度で点灯させ、当該一の枠ランプと隣合う他の枠ランプも高輝度で点灯させる輝度データを含み、まばらに（ランダムに）高輝度で点灯するランプが変化するように輝度データが規定されている。たとえば、W2においては、複数箇所亘って高輝度で点灯させるようにまばらに高輝度のデータ（たとえば、「A」）が規定されている。これにより、後述する図96，図97および図153，図154に示すように、群予告演出における第2表示期間においては、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせて枠ランプがまばらに高輝度で点灯するようになる。また、W2は、W1よりも、多くの枠ランプを高輝度で点灯させるように設計されている。

10

【0734】

なお、W2においては、W1のように不具合対策用の輝度データが設けられていないため、T2-1～T2-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われるようになっている。ここで、仮にW2を用いて点灯制御を行っていた場合に何らかの異常でW3に移行しなかったときに再度T2-1からランプの点灯制御が行われてしまっても、枠ランプがまばらに高輝度で点灯する態様が繰り返されるものに過ぎないため、特に遊技者に違和感を与えることはない。

20

【0735】

また、W2とは異なり、T2-1～T2-10に亘る輝度データを繰り返さずに、全時間に亘って時間ごとに参照されるデータの全てを設けることもできるが、各データを作成する時間や、作成したデータが正しいことを確認する時間が掛かり、非常に効率が悪くなる。一方、本実施の形態のW2のように、T2-1～T2-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われるようにすることで、繰り返し参照される1セットのデータのみを作成すればよく、時間効率を向上させることができる。なお、群予告演出における第2表示期間において1セットのデータを繰り返し用いて点灯制御を行うようにしている理由は、群予告演出における第2表示期間が第1表示期間や第3表示期間よりも長く、かつ群予告演出において第2表示期間は複数のキャラクタによって画面上を埋め尽くされて当該複数のキャラクタが群となって進行するような時間帯であるため、そのような演出に対応する点灯態様も、同じような点灯を繰り返すだけで足りるからである。

30

【0736】

図63(c)に示すように、第3表示期間で用いられる孫テーブルW3においては、80msc間隔でT3-1～T3-6に亘って枠左ランプおよび枠右ランプに対してRGBのデータが規定されている。その後、枠左ランプについては10mscという短い間隔でT3-7～T3-38に亘ってRGBのデータが規定され、枠右ランプについては引き続き80mscという長い間隔でT3-7～T3-38に亘ってRGBのデータが規定されている。

40

【0737】

また、W3においては、点線の矢印で示すように、T3-2からT3-30に亘って、枠右ランプ9R5～9R8付近から高輝度で点灯していたランプが段階的に徐々に消灯または低輝度で点灯するように、消灯または低輝度で点灯するランプの数を増やしていく。また、T3-7～T3-38について、枠右ランプ9R2～9R12の場合は80msc間隔で輝度データが規定されているのに対して、群予告においてキャラクタが進行する方向に位置する枠左ランプ9L5～9L12については、10mscという短い間隔で高輝度から消灯または低輝度となるように輝度データが規定されている。これにより、後述する図98，図99および図155，図156に示すように、群予告においてキャラクタが画面の左端へと消えていく演出に合わせて、枠ランプもパチンコ遊技機1の右側から

50

左側にかけて消灯または低輝度で点灯する位置を変化させるようになる。

【0738】

また、W3においては、T3-30移行の時間において枠ランプに含まれる全てのランプが消灯または低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。さらに、W3においては、W1と同様に、第3表示期間の最後の10分間(600000ms)(T3-39)において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の演出に移行した場合に枠ランプの点灯態様について違和感がないように、枠ランプが消灯または低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0739】

W3においては、上述したような10分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T3-1~T3-38に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0740】

(群予告輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブル)

図64は、群予告輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。上述したように、役物ランプ9Aは、役物ランプ9A1~9A4といった複数のランプから構成されており、図64に示す輝度データテーブルにおいては、役物ランプ9A1~9A4に対応して順番に「RRRR」と表されている。なお、役物ランプ9A1~9A4の各々は、単色(この例では赤色)のLEDであり、データとしては、「0」~「6」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」~「6」は各々点灯に対応するデータである。「1」~「6」のうち、「1」~「3」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「4」~「6」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。なお、単色のLEDは、フルカラーのLEDよりも、光を遮るフィルタとなるものが少ないため、その分光が強く発光される。このため、単色のLEDは、フルカラーのLEDよりも、高輝度に対応する輝度データが小さくなっている。

【0741】

図64(a)に示すように、第1表示期間で用いられる孫テーブルY1においては、100msecで等間隔でT1-1~T1-10に亘って各ランプに対して輝度データが規定され、さらに最後の時間T1-11においては不具合対策用の10分間(600000msec)のデータが規定されている。

【0742】

Y1においては、第1表示期間の最初の100msec(T1-1)において、役物ランプ9Aに含まれる全てのランプに対して低輝度を示す「1」が規定されている。これにより、後述する図93(a22)および図150(b43)に示すように、群予告演出における第1表示期間の最初においては、役物ランプ9Aに含まれる全てのランプが消灯または低輝度で点灯するようになる。これにより、これから群予告演出が実行されることに對して遊技者に注目させ易くすることができる。

【0743】

また、Y1においては、第1表示期間の最後の10分間(600000ms)(T1-11)において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の第2表示期間に移行した場合に役物ランプ9Aの点灯態様について違和感がないように、第2表示期間で用いられる孫テーブルY2に合わせて、役物ランプ9Aがまばらに高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0744】

Y1においては、上述したような10分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T1-1~T1-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0745】

図64(b)に示すように、第2表示期間で用いられる孫テーブルY2においては、5

0～80 msecで非等間隔でT2-1～T2-10に亘って役物ランプ9Aの各ランプに対して輝度データが規定されている。

【0746】

Y2においては、一のランプを高輝度で点灯させ、当該一のランプと隣合う他のランプも高輝度で点灯させる輝度データを含み、まばらに（ランダムに）高輝度で点灯するランプが変化するように輝度データが規定されている。これにより、後述する図96、図97および図153、図154に示すように、群予告演出における第2表示期間においては、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせて役物ランプ9Aがまばらに高輝度で点灯するようになる。

【0747】

なお、Y2においては、Y1のように不具合対策用の輝度データが設けられていないため、T2-1～T2-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われるようになっている。

【0748】

図64(c)に示すように、第3表示期間で用いられる孫テーブルY3においては、80 msec間隔でT3-1～T3-6に亘って役物ランプ9Aに対して輝度データが規定されている。その後、10 msecという短い間隔でT3-7～T3-38に亘って輝度データが規定されている。

【0749】

さらに、Y3においては、Y1と同様に、第3表示期間の最後の10分間（600000 ms）（T3-39）において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の演出に移行した場合に役物ランプ9Aの点灯態様について違和感がないように、役物ランプ9Aが低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0750】

Y3においては、上述したような10分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T3-1～T3-38に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0751】

（群予告輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブル）

図65は、群予告輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。上述したように、盤左ランプ9Bは、盤左ランプ9B1～9B5といった複数のランプから構成されており、図65に示す輝度データテーブルにおいては、盤左ランプ9B1～9B5に対応して順番に「WWWWW」と表されている。なお、盤左ランプ9B1～9B5の各々は、単色（この例では白色）のLEDであり、データとしては、「0」～「6」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「6」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「6」のうち、「1」～「3」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「4」～「6」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。なお、上述した役物ランプ9Aの場合、赤色のみのLEDであったが、盤左ランプ9Bのような白色のみのLEDであっても、高輝度を表す値は最高で「6」に設定されている。

【0752】

図65(a)に示すように、第1表示期間で用いられる孫テーブルL1においては、100 msecで等間隔でT1-1～T1-10に亘って各ランプに対して輝度データが規定され、さらに最後の時間T1-11においては不具合対策用の10分間（600000 msec）のデータが規定されている。

【0753】

L1においては、第1表示期間の最初の100 msec（T1-1）において、盤左ランプ9Bに含まれる全てのランプに対して低輝度を示す「1」が規定されている。これにより、後述する図93(a22)および図150(b43)に示すように、群予告演出に

10

20

30

40

50

おける第1表示期間の最初においては、盤左ランプ9Bに含まれる全てのランプが消灯または低輝度で点灯するようになる。これにより、これから群予告演出が実行されることに對して遊技者に注目させ易くすることができる。

【0754】

また、L1においては、第1表示期間の最後の10分間（60000ms）（T1-11）において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の第2表示期間に移行した場合に盤左ランプ9Bの点灯態様について違和感がないように、第2表示期間で用いられる孫テーブルL2に合わせて、盤左ランプ9Bがまばらに高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0755】

L1においては、上述したような10分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T1-1～T1-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0756】

図65（b）に示すように、第2表示期間で用いられる孫テーブルL2においては、50～80msecで非等間隔でT2-1～T2-10に亘って盤左ランプ9Bの各ランプに對して輝度データが規定されている。

【0757】

L2においては、一のランプを高輝度で点灯させ、当該一のランプと隣合う他のランプも高輝度で点灯させる輝度データを含み、まばらに（ランダムに）高輝度で点灯するランプが変化するように輝度データが規定されている。これにより、後述する図96，図97および図153，図154に示すように、群予告演出における第2表示期間においては、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせて盤左ランプ9Bがまばらに高輝度で点灯するようになる。

【0758】

なお、L2においては、L1のように不具合対策用の輝度データが設けられていないため、T2-1～T2-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われるようになっている。

【0759】

図65（c）に示すように、第3表示期間で用いられる孫テーブルL3においては、80msec間隔でT3-1～T3-6に亘って盤左ランプ9Bに對して輝度データが規定されている。その後、10msecという短い間隔でT3-7～T3-38に亘って輝度データが規定されている。

【0760】

さらに、L3においては、L1と同様に、第3表示期間の最後の10分間（60000ms）（T3-39）において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の演出に移行した場合に盤左ランプ9Bの点灯態様について違和感がないように、盤左ランプ9Bが低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0761】

L3においては、上述したような10分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T3-1～T3-38に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0762】

（群予告輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブル）

図66は、群予告輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。上述したように、盤上ランプ9Cは、盤上ランプ9C1～9C13といった複数のランプから構成されており、盤上ランプ9C1～9C5，9C9～9C13の各々は、複数色（この例では、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の3色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」の16進数で輝度が表されている。「0」は消灯に對するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に對するデータである。「1」

10

20

30

40

50

～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。一方、盤上ランプ9C6～9C8の各々は、単色（この例では白色）のLEDであり、データとしては、「0」～「6」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「6」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「6」のうち、「1」～「3」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「4」～「6」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。このように、複数色のLEDで用いられる高輝度の値は、単色のLEDで用いられる高輝度の値よりも大きくなっている。なお、上述した役物ランプ9Aの場合、赤色のみのLEDであったが、盤上ランプ9Cのような白色のみのLEDであっても、高輝度を表す値は最高で「6」に設定されている。

10

【0763】

図66(a)に示すように、第1表示期間で用いられる孫テーブルU1においては、100msで等間隔でT1-1～T1-10に亘って各ランプに対して輝度データが規定され、さらに最後の時間T1-11においては不具合対策用の10分間(60000ms)のデータが規定されている。

【0764】

U1においては、第1表示期間の最初の100ms(T1-1)において、役物ランプ9Aに含まれる全てのランプに対して低輝度を示す「1」または「0」が規定されている。これにより、後述する図93(a22)および図150(b43)に示すように、群予告演出における第1表示期間の最初においては、盤上ランプ9Cに含まれる全てのランプが消灯または低輝度で点灯するようになる。これにより、これから群予告演出が実行されることに對して遊技者に注目させ易くすることができる。

20

【0765】

また、U1においては、第1表示期間の最後の10分間(60000ms)(T1-11)において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の第2表示期間に移行した場合に盤上ランプ9Cの点灯態様について違和感がないように、第2表示期間で用いられる孫テーブルU2に合わせて、盤上ランプ9Cがまばらに高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

30

【0766】

U1においては、上述したような10分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T1-1～T1-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0767】

図66(b)に示すように、第2表示期間で用いられる孫テーブルU2においては、50～80msで非等間隔でT2-1～T2-10に亘って盤上ランプ9Cの各ランプに対して輝度データが規定されている。

【0768】

U2においては、一のランプを高輝度で点灯させ、当該一のランプと隣合う他のランプも高輝度で点灯させる輝度データを含み、まばらに(ランダムに)高輝度で点灯するランプが変化するように輝度データが規定されている。これにより、後述する図96, 図97および図153, 図154に示すように、群予告演出における第2表示期間においては、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせて盤上ランプ9Cがまばらに高輝度で点灯するようになる。

40

【0769】

なお、U2においては、U1のように不具合対策用の輝度データが設けられていないため、T2-1～T2-10に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われるようになっている。

【0770】

50

図 6 6 (c) に示すように、第 3 表示期間で用いられる孫テーブル U 3 においては、8 0 m s e c 間隔で T 3 - 1 ~ T 3 - 6 に亘って盤上ランプ 9 C に対して輝度データが規定されている。その後、1 0 m s e c という短い間隔で T 3 - 7 ~ T 3 - 3 8 に亘って輝度データが規定されている。

【0 7 7 1】

さらに、U 3 においては、U 1 と同様に、第 3 表示期間の最後の 1 0 分間 (6 0 0 0 0 0 m s) (T 3 - 3 9) において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この 1 0 分間においては、次の演出に移行した場合に盤上ランプ 9 C の点灯態様について違和感がないように、盤上ランプ 9 C が消灯または低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

10

【0 7 7 2】

U 3 においては、上述したような 1 0 分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T 3 - 1 ~ T 3 - 3 8 に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0 7 7 3】

なお、U 1、U 2、および U 3 のいずれにおいても、単色である盤上ランプ 9 C 6 ~ 9 C 8 については「0」のデータのみが規定されている。すなわち、盤上ランプ 9 C 6 ~ 9 C 8 は、群予告演出において用いられないようになっている。

【0 7 7 4】

(群予告輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブル)

20

図 6 7 は、群予告輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。アタッカランプ 9 E および電チューランプ 9 H の各々は、複数色 (この例では、赤色 (R)、緑色 (G)、青色 (B) の 3 色) の L E D であり、データとしては、「0」~「F」の 1 6 進数で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」~「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」~「F」のうち、「1」~「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」~「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。一方、V アタッカランプ 9 F は、単色 (この例では白色) の L E D であり、データとしては、「0」~「6」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」~「6」は各々点灯に対応するデータである。「1」~「6」のうち、「1」~「3」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「4」~「6」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。このように、複数色の L E D で用いられる高輝度の値は、単色の L E D で用いられる高輝度の値よりも大きくなっている。なお、上述した役物ランプ 9 A の場合、赤色のみの L E D であったが、V アタッカランプ 9 F のような白色のみの L E D であっても、高輝度を表す値は最高で「6」に設定されている。

30

【0 7 7 5】

図 6 7 (a) に示すように、第 1 表示期間で用いられる孫テーブル A 1 においては、1 0 0 m s e c で等間隔で T 1 - 1 ~ T 1 - 1 0 に亘って各ランプに対して輝度データが規定され、さらに最後の時間 T 1 - 1 1 においては不具合対策用の 1 0 分間 (6 0 0 0 0 0 m s e c) のデータが規定されている。

40

【0 7 7 6】

A 1 においては、第 1 表示期間の最初の 1 0 0 m s e c (T 1 - 1) において、全てのランプに対して低輝度を示す「1」または「0」が規定されている。これにより、後述する図 9 3 (a 2 2) および図 1 5 0 (b 4 3) に示すように、群予告演出における第 1 表示期間の最初においては、アタッカランプ 9 E、電チューランプ 9 H、および V アタッカランプ 9 F が消灯または低輝度で点灯するようになる。これにより、これから群予告演出が実行されることに対して遊技者に注目させ易くすることができる。

【0 7 7 7】

50

また、A 1においては、第 1 表示期間の最後の 10 分間（60000ms）（T 1-11）において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この 10 分間においては、次の第 2 表示期間に移行した場合に各ランプの点灯態様について違和感がないように、第 2 表示期間で用いられる孫テーブル A 2 に合わせて、各ランプがまばらに高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0778】

A 1においては、上述したような 10 分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T 1-1～T 1-10 に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0779】

図 67（b）に示すように、第 2 表示期間で用いられる孫テーブル A 2 においては、50～80ms で非等間隔で T 2-1～T 2-10 に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。

【0780】

A 2においては、一のランプを高輝度で点灯させ、当該一のランプと隣合う他のランプも高輝度で点灯させる輝度データを含み、まばらに（ランダムに）高輝度で点灯するランプが変化するように輝度データが規定されている。これにより、後述する図 96，図 97 および図 153，図 154 に示すように、群予告演出における第 2 表示期間においては、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせてアタッカランプ 9E、電チューランプ 9H、および V アタッカランプ 9F がまばらに高輝度で点灯するようになる。

【0781】

なお、A 2においては、A 1のように不具合対策用の輝度データが設けられていないため、T 2-1～T 2-10 に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われるようになっている。

【0782】

図 67（c）に示すように、第 3 表示期間で用いられる孫テーブル A 3 においては、80ms 間隔で T 3-1～T 3-6 に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。その後、10ms という短い間隔で T 3-7～T 3-38 に亘って輝度データが規定されている。

【0783】

さらに、A 3においては、A 1と同様に、第 3 表示期間の最後の 10 分間（60000ms）（T 3-39）において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この 10 分間においては、次の演出に移行した場合にアタッカランプ 9E、電チューランプ 9H、および V アタッカランプ 9F の点灯態様について違和感がないように、アタッカランプ 9E、電チューランプ 9H、および V アタッカランプ 9F が消灯または低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0784】

A 3においては、上述したような 10 分間の不具合対策用の輝度データが規定されているため、T 3-1～T 3-38 に亘る輝度データを繰り返し用いて点灯制御が行われないようになっている。

【0785】

（リーチライン輝度データテーブルにおける親テーブル）

図 68 は、リーチライン輝度データテーブルにおける親テーブルの一例を説明するための図である。図 68 に示すように、リーチライン輝度データテーブルにおける親テーブルでは、枠ランプ（枠右ランプ 9R、枠左ランプ 9L）、役物ランプ 9A、盤左ランプ 9B、盤上ランプ 9C、およびアタッカランプ 9E といった、遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプについて、リーチライン演出の各々の演出時間が規定されている。

【0786】

リーチライン演出とは、群予告演出とは異なり、特図や飾り図柄による可変表示の表示

10

20

30

40

50

結果が大当り図柄が停止する表示結果となることを予告する演出であって、リーチになったことを遊技者に示唆（あるいは報知）する演出である。リーチライン演出においては、後述する図 88～図 91 および図 138～図 141 に示すように、画像表示装置 5 の画面の中央部分から光のフラッシュとともに光の筋（リーチラインとも称する）が現れて、リーチを構成する左右の飾り図柄を繋げるようにリーチラインが内外（左右方向）に延び縮みしながら広がり、その後リーチラインが消えるような演出が実行される。

【0787】

リーチライン輝度データテーブルにおける親テーブルにおいて、遊技効果ランプ 9 における各ランプは、リーチライン演出に合わせるように 1500 msec に亘って制御されるようになっている。

【0788】

（リーチラインデータテーブルにおける子テーブル）

図 69 は、リーチライン輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。図 69 に示すように、リーチライン輝度データテーブルにおける子テーブルでは、遊技効果ランプ 9 における各ランプについて、リーチライン演出の時間を細分化するとともに、各時間帯で参照される孫テーブル（輝度データテーブルともいう）が指定されている。

【0789】

たとえば、リーチライン演出が実行される期間のうち、フラッシュが発生する期間（後述する図 88（a8）、（a9）および図 138（a8）、（a9）に示す演出の期間）においては、枠ランプについて W11、役物ランプ 9A について Y11、盤左ランプ 9B について L11、盤上ランプ 9C について U11、およびアタッカランプ 9E について A11 の孫テーブルが各々設けられている。

【0790】

リーチライン演出が実行される期間のうち、リーチラインが発生する期間（後述する図 89 および図 139 に示す演出の期間）においては、枠ランプについて W12、役物ランプ 9A について Y12、および盤左ランプ 9B について L12 の孫テーブルが各々設けられている。なお、リーチラインが発生する期間においては、盤上ランプ 9C およびアタッカランプ 9E は用いられないため、孫テーブルが用意されていない。

【0791】

リーチライン演出が実行される期間のうち、リーチラインが内外に延び縮みしながら広がる期間（後述する図 90（a13）～図 91（b17）および図 140（a13）～図 141（b17）に示す演出の期間）においては、枠ランプについて W13、役物ランプ 9A について Y13、盤左ランプ 9B について L13、盤上ランプ 9C について U13、およびアタッカランプ 9E について A13 の孫テーブルが各々設けられている。

【0792】

リーチライン演出が実行される期間のうち、リーチラインが消える期間（後述する図 91（a18）および図 141（b18）に示す演出の期間）においては、枠ランプについて W14、役物ランプ 9A について Y14、盤左ランプ 9B について L14、盤上ランプ 9C について U14、およびアタッカランプ 9E について A14 の孫テーブルが各々設けられている。

【0793】

図 69 に示すように、リーチライン演出で参照される輝度データテーブルについて、フラッシュが発生する期間、リーチラインが内外に延び縮みしながら広がる期間、およびリーチラインが消える期間のいずれにおいても、枠左ランプ 9L、枠右ランプ 9R、役物ランプ 9A、盤左ランプ 9B、盤上ランプ 9C、およびアタッカランプの 6 種類の輝度データテーブルが設けられている。一方、リーチライン演出で参照される輝度データテーブルについて、リーチラインが発生する期間で参照される輝度データテーブルにおいては、枠左ランプ 9L、枠右ランプ 9R、役物ランプ 9A、および盤左ランプ 9B の 4 種類の輝度データテーブルが設けられている。

10

20

30

40

50

【0794】

このように、リーチライン演出においては、群予告演出と同じ数のランプまたは群予告演出よりも少ない数のランプに対して輝度データテーブルが設けられている。

【0795】

(リーチライン輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブル)

図70は、リーチライン輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、枠ランプに含まれる各ランプは複数色（この例では、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の3色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」の16進数で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

10

【0796】

図70(a)に示すように、孫テーブルW11においては、枠左ランプ9Lの輝度データのみが規定され、枠右ランプ9Rの輝度データは省略されているが、枠右ランプ9Rの輝度データは枠左ランプ9Lの輝度データと対称に共通のデータが用いられる。たとえば、枠右ランプ9R2～9R12の各々の輝度データは、枠左ランプ9L2～9L12の各々の輝度データと共通である。リーチライン演出はリーチになったことを遊技者に示唆する演出であり、群予告演出のように大当りを示唆することで遊技者の期待感を煽る演出ではない。このため、リーチライン演出は、群予告演出のように枠右ランプ9Rと枠左ランプ9Lとで異なる輝度データを設けて各ランプを個別に制御するような凝った点灯制御を行うのではなく、枠右ランプ9Rと枠左ランプ9Lとで共通の輝度データを設けて各ランプと一緒に制御するようになっている。さらに、リーチライン演出は群予告演出よりも実行時間が短いため、群予告演出のように枠右ランプ9Rと枠左ランプ9Lとで異なる輝度データを設けて各ランプを個別に制御するような凝った点灯制御を行うのではなく、枠右ランプ9Rと枠左ランプ9Lとで共通の輝度データを設けて各ランプと一緒に制御するようになっている。

20

【0797】

W11においては、30msec間隔でT11-1～T11-2に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図88(a8)および図138(b8)に示すように、フラッシュが発生するタイミングでは、枠ランプに含まれる全てのランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

30

【0798】

図70(b)に示すように、孫テーブルW12においては、枠左ランプ9Lの輝度データのみが規定され、枠右ランプ9Rの輝度データは省略されているが、枠右ランプ9Rの輝度データは枠左ランプ9Lの輝度データと対称に共通のデータが用いられる。たとえば、枠右ランプ9R2～9R12の各々の輝度データは、枠左ランプ9L2～9L12の各々の輝度データと共通である。

【0799】

W12においては、30msec間隔でT12-1～T12-2に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図89および図139に示すように、リーチラインが発生する間では、枠ランプに含まれるランプのうち、画面の左右に位置する枠左ランプ9L6, 9L7, 9R6, 9R7が高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

40

【0800】

図70(c)に示すように、孫テーブルW13においては、枠左ランプ9Lの輝度データのみが規定され、枠右ランプ9Rの輝度データは省略されているが、枠右ランプ9Rの輝度データは枠左ランプ9Lの輝度データと対称に共通のデータが用いられる。たとえば、枠右ランプ9R2～9R12の各々の輝度データは、枠左ランプ9L2～9L12の各

50

々の輝度データと共通である。

【0801】

W13においては、60msec間隔でT13-1～T13-4に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図90および図140に示すように、リーチラインが発生する間では、枠ランプに含まれるランプのうち、画面の左右に位置する枠左ランプ9L6，9L7，9R6，9R7が高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0802】

図70(d)に示すように、孫テーブルW14においては、枠左ランプ9Lの輝度データのみが規定され、枠右ランプ9Rの輝度データは省略されているが、枠右ランプ9Rの輝度データは枠左ランプ9Lの輝度データと対称に共通のデータが用いられる。たとえば、枠右ランプ9R2～9R12の各々の輝度データは、枠左ランプ9L2～9L12の各々の輝度データと共通である。

10

【0803】

W14においては、100msec(T14-1)に亘って各ランプに対して輝度データが規定されているが、その値は「0」である。これにより、後述する図91(a18)および図141(b18)に示すように、リーチラインが消えることに合わせて枠ランプも消灯する。

【0804】

(リーチライン輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブル)

20

図71は、リーチライン輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、役物ランプ9A1～9A4の各々は、単色(この例では赤色)のLEDであり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

【0805】

図71(a)に示すように、孫テーブルY11においては、30msec間隔でT11-1～T11-2に亘って役物ランプ9Aに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図88(a8)および図138(b8)に示すように、フラッシュが発生するタイミングでは、役物ランプ9Aに含まれる全てのランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

30

【0806】

図71(b)に示すように、孫テーブルY12においては、30msec間隔でT12-1～T12-2に亘って役物ランプ9Aに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図89および図139に示すように、リーチラインが発生する間では、役物ランプ9Aに含まれる全てのランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0807】

図71(c)に示すように、孫テーブルY13においては、30msec間隔でT13-1～T13-2に亘って役物ランプ9Aに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図90および図140に示すように、リーチラインが発生する間では、役物ランプ9Aに含まれる全てのランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

40

【0808】

図71(d)に示すように、孫テーブルY14においては、100msec(T14-1)に亘って役物ランプ9Aに対して輝度データが規定されているが、その値は「0」である。これにより、後述する図91(a18)および図141(b18)に示すように、リーチラインが消えることに合わせて役物ランプ9Aも消灯する。

【0809】

(リーチライン輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブル)

50

図 7 2 は、リーチライン輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、盤左ランプ 9 B 1 ~ 9 B 5 の各々は、単色（この例では白色）の LED であり、データとしては、「0」~「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」~「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」~「F」のうち、「1」~「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」~「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

【0810】

図 7 2 (a) に示すように、孫テーブル L 1 1 においては、30 msec 間隔で T 1 1 - 1 ~ T 1 1 - 2 に亘って盤左ランプ 9 B に対して輝度データが規定されている。特に、後述する図 8 8 (a 8) および図 1 3 8 (b 8) に示すように、フラッシュが発生するタイミングでは、盤左ランプ 9 B に含まれる全てのランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

10

【0811】

図 7 2 (b) に示すように、孫テーブル L 1 2 においては、30 msec 間隔で T 1 2 - 1 ~ T 1 2 - 2 に亘って盤左ランプ 9 B に対して輝度データが規定されている。特に、後述する図 8 9 および図 1 3 9 に示すように、リーチラインが発生する間では、盤左ランプ 9 B に含まれる全てのランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0812】

図 7 2 (c) に示すように、孫テーブル L 1 3 においては、60 msec 間隔で T 1 3 - 1 ~ T 1 3 - 4 に亘って盤左ランプ 9 B に対して輝度データが規定されている。特に、後述する図 9 0 および図 1 4 0 に示すように、リーチラインが発生する間では、盤左ランプ 9 B に含まれる全てのランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

20

【0813】

図 7 2 (d) に示すように、孫テーブル L 1 4 においては、100 msec (T 1 4 - 1) に亘って盤左ランプ 9 B に対して輝度データが規定されているが、その値は「0」である。これにより、後述する図 9 1 (a 1 8) および図 1 4 1 (b 1 8) に示すように、リーチラインが消えることに合わせて盤左ランプ 9 B も消灯する。

【0814】

(リーチライン輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブル)

30

図 7 3 は、リーチライン輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、盤上ランプ 9 C 1 ~ 9 C 5, 9 C 9 ~ 9 C 1 3 の各々は、複数色（この例では、赤色 (R)、緑色 (G)、青色 (B) の 3 色）の LED であり、データとしては、「0」~「F」で輝度が表されている。また、盤上ランプ 9 C 6 ~ 9 C 8 の各々は、単色（この例では白色）の LED であり、データとしては、「0」~「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」~「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」~「F」のうち、「1」~「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」~「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

40

【0815】

図 7 3 (a) に示すように、孫テーブル U 1 1 においては、30 msec 間隔で T 1 1 - 1 ~ T 1 1 - 2 に亘って盤上ランプ 9 C に対して輝度データが規定されている。特に、後述する図 8 8 (a 8) および図 1 3 8 (b 8) に示すように、フラッシュが発生するタイミングでは、盤上ランプ 9 C に含まれるランプのうち、中央の盤上ランプ 9 C 6 ~ 9 C 8 以外のランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0816】

図 7 3 (b) に示すように、孫テーブル U 1 3 においては、60 msec 間隔で T 1 3 - 1 ~ T 1 3 - 4 に亘って盤上ランプ 9 C に対して輝度データが規定されている。特に、後述する図 9 0 および図 1 4 0 に示すように、リーチラインが発生する間では、盤上ランプ

50

9 Cに含まれるランプのうち、中央の盤上ランプ9 C 6～9 C 8以外のランプが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0817】

図73(d)に示すように、孫テーブルL14においては、100 msec(T14-1)に亘って盤上ランプ9 Cに対して輝度データが規定されているが、その値は「0」である。これにより、後述する図91(a18)および図141(b18)に示すように、リーチラインが消えることに合わせて盤上ランプ9 Cも消灯する。

【0818】

(リーチライン輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブル)

図74は、リーチライン輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、アタッカランプ9 Eおよび電チューランプ9 Hの各々は、複数色(この例では、赤色(R)、緑色(G)、青色(B)の3色)のLEDであり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。また、Vアタッカランプ9 Fは、単色(この例では白色)のLEDであり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

【0819】

図74(a)に示すように、孫テーブルA11においては、30 msec間隔でT11-1～T11-2に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図88(a8)および図138(b8)に示すように、フラッシュが発生するタイミングでは、アタッカランプ9 E、電チューランプ9 H、およびVアタッカランプ9 Fが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0820】

図74(b)に示すように、孫テーブルA13においては、60 msec間隔でT13-1～T13-4に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。特に、後述する図90および図140に示すように、リーチラインが発生する間では、アタッカランプ9 E、電チューランプ9 H、およびVアタッカランプ9 Fが高輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0821】

図74(d)に示すように、孫テーブルA14においては、100 msec(T14-1)に亘って各ランプに対して輝度データが規定されているが、その値は「0」である。これにより、後述する図91(a18)および図141(b18)に示すように、リーチラインが消えることに合わせてアタッカランプ9 E、電チューランプ9 H、およびVアタッカランプ9 Fも消灯する。

【0822】

(背景予告輝度データテーブルにおける親テーブル)

図75は、背景予告輝度データテーブルにおける親テーブルの一例を説明するための図である。図75に示すように、背景予告輝度データテーブルにおける親テーブルでは、枠ランプ(枠右ランプ9 R、枠左ランプ9 L)、役物ランプ9 A、盤左ランプ9 B、盤上ランプ9 C、およびアタッカランプ9 Eといった、遊技効果ランプ9に含まれる各ランプについて、背景予告演出の各々の演出時間が規定されている。

【0823】

背景予告演出とは、群予告演出とは異なり、特図や飾り図柄による可変表示の表示結果が大当たり図柄が停止する表示結果となることを予告する演出であって、特定のキャラクタ(たとえば、ジャムちゃん)が特定の背景(たとえば、星空の背景)とともに表示される演出である。

【0824】

背景予告輝度データテーブルにおける親テーブルにおいて、遊技効果ランプ9における

10

20

30

40

50

各ランプは、背景予告演出に合わせるように5500msecに亘って制御されるようになっている。

【0825】

（背景予告輝度データテーブルにおける子テーブル）

図76は、背景予告輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。図76に示すように、背景予告輝度データテーブルにおける子テーブルでは、遊技効果ランプ9における各ランプについて、背景予告演出の時間を細分化するとともに、各時間帯で参照される孫テーブル（輝度データテーブルともいう）が指定されている。

【0826】

たとえば、背景予告演出が実行される期間のうち、最初の2000msecにおいては、枠ランプについてW21、役物ランプ9AについてY21、盤左ランプ9BについてL21、盤上ランプ9CについてU21、およびアタッカランプ9EについてA21の孫テーブルが各々設けられている。

【0827】

背景予告演出が実行される期間のうち、途中の100msecにおいては、枠ランプについてW22、役物ランプ9AについてY22、盤左ランプ9BについてL22、盤上ランプ9CについてU22、およびアタッカランプ9EについてA22の孫テーブルが各々設けられている。

【0828】

背景予告演出が実行される期間のうち、最後の600000msecにおいては、枠ランプについてW23、役物ランプ9AについてY23、盤左ランプ9BについてL23、盤上ランプ9CについてU23、およびアタッカランプ9EについてA23の孫テーブルが各々設けられている。

【0829】

図76に示すように、背景予告演出で参照される輝度データテーブルについて、最初の200msec、途中の100msec、および最後の600000msecのいずれにおいても、枠左ランプ9L、枠右ランプ9R、役物ランプ9A、盤左ランプ9B、盤上ランプ9C、およびアタッカランプの6種類の輝度データテーブルが設けられている。

【0830】

このように、背景予告演出においては、群予告演出と同じ数のランプに対して輝度データテーブルが設けられている。

【0831】

（背景予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブル）

図77は、背景予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、枠ランプに含まれる各ランプは複数色（この例では、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の3色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」の16進数で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

【0832】

図77（a）に示すように、孫テーブルW21においては、枠左ランプ9Lの輝度データのみが規定され、枠右ランプ9Rの輝度データは省略されているが、枠右ランプ9Rの輝度データは枠左ランプ9Lの輝度データと対称に共通のデータが用いられる。たとえば、枠右ランプ9R2～9R12の各々の輝度データは、枠左ランプ9L2～9L12の各々の輝度データと共通である。W21においては、50msec間隔でT21-1～T21-4に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。

【0833】

図77（b）に示すように、孫テーブルW22においては、枠左ランプ9Lの輝度デー

10

20

30

40

50

タのみが規定され、枠右ランプ 9 R の輝度データは省略されているが、枠右ランプ 9 R の輝度データは枠左ランプ 9 L の輝度データと対称に共通のデータが用いられる。たとえば、枠右ランプ 9 R 2 ～ 9 R 1 2 の各々の輝度データは、枠左ランプ 9 L 2 ～ 9 L 1 2 の各々の輝度データと共通である。W 2 2 においては、2 0 m s e c 間隔で T 2 2 - 1 ～ T 2 2 - 2 に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。

【0 8 3 4】

図 7 7 (c) に示すように、孫テーブル W 2 3 においては、枠左ランプ 9 L の輝度データのみが規定され、枠右ランプ 9 R の輝度データは省略されているが、枠右ランプ 9 R の輝度データは枠左ランプ 9 L の輝度データと対称に共通のデータが用いられる。たとえば、枠右ランプ 9 R 2 ～ 9 R 1 2 の各々の輝度データは、枠左ランプ 9 L 2 ～ 9 L 1 2 の各々の輝度データと共通である。W 2 3 においては、2 4 0 m s e c と 2 3 0 m s e c とを繰り返しながら T 2 3 - 1 ～ T 2 3 - 6 に亘って各ランプに対して輝度データが規定されている。

10

【0 8 3 5】

(背景予告輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブル)

図 7 8 は、背景予告輝度データテーブルにおける役物ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、役物ランプ 9 A 1 ～ 9 A 4 の各々は、単色（この例では赤色）の L E D であり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

20

【0 8 3 6】

図 7 8 (a) に示すように、孫テーブル Y 2 1 においては、5 0 m s e c 間隔で T 2 1 - 1 ～ T 2 1 - 4 に亘って役物ランプ 9 A に対して輝度データが規定されている。

【0 8 3 7】

図 7 8 (b) に示すように、孫テーブル Y 2 2 においては、2 0 m s e c 間隔で T 2 2 - 1 ～ T 2 2 - 2 に亘って役物ランプ 9 A に対して輝度データが規定されている。

【0 8 3 8】

図 7 8 (c) に示すように、孫テーブル Y 2 3 においては、2 4 0 m s e c と 2 3 0 m s e c とを繰り返しながら T 2 3 - 1 ～ T 2 3 - 6 に亘って役物ランプ 9 A に対して輝度データが規定されている。

30

【0 8 3 9】

(背景予告輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブル)

図 7 9 は、背景予告輝度データテーブルにおける盤左ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、盤左ランプ 9 B 1 ～ 9 B 5 の各々は、単色（この例では白色）の L E D であり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

40

【0 8 4 0】

図 7 9 (a) に示すように、孫テーブル L 2 1 においては、5 0 m s e c 間隔で T 2 1 - 1 ～ T 2 1 - 4 に亘って盤左ランプ 9 B に対して輝度データが規定されている。

【0 8 4 1】

図 7 9 (b) に示すように、孫テーブル L 2 2 においては、2 0 m s e c 間隔で T 2 2 - 1 ～ T 2 2 - 2 に亘って盤左ランプ 9 B に対して輝度データが規定されている。

【0 8 4 2】

図 7 9 (c) に示すように、孫テーブル L 2 3 においては、2 4 0 m s e c と 2 3 0 m s e c とを繰り返しながら T 2 3 - 1 ～ T 2 3 - 6 に亘って盤左ランプ 9 B に対して輝度デ

50

ータが規定されている。

【0843】

（背景予告輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブル）

図80は、背景予告輝度データテーブルにおける盤上ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、盤上ランプ9C1～9C5，9C9～9C13の各々は、複数色（この例では、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の3色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。また、盤上ランプ9C6～9C8の各々は、単色（この例では白色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

10

【0844】

図80（a）に示すように、孫テーブルU21においては、50ms e c間隔でT21-1～T21-4に亘って盤上ランプ9Cに対して輝度データが規定されている。

【0845】

図80（b）に示すように、孫テーブルU22においては、20ms e c間隔でT22-1～T22-2に亘って盤上ランプ9Cに対して輝度データが規定されている。

【0846】

図80（c）に示すように、孫テーブルU23においては、240ms e cと230ms e cとで繰り返しながらT23-1～T23-6に亘って盤上ランプ9Cに対して輝度データが規定されている。

20

【0847】

（背景予告輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブル）

図81は、背景予告輝度データテーブルにおけるアタッカランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、アタッカランプ9Eおよび電チューランプ9Hの各々は、複数色（この例では、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の3色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。また、Vアタッカランプ9Fは、単色（この例では白色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

30

【0848】

図81（a）に示すように、孫テーブルA21においては、50ms e c間隔でT21-1～T21-2に亘ってアタッカランプ9E、電チューランプ9H、およびVアタッカランプ9Fの各ランプに対して輝度データが規定されている。

【0849】

図81（b）に示すように、孫テーブルA22においては、20ms e c間隔でT22-1～T22-2に亘ってアタッカランプ9E、電チューランプ9H、およびVアタッカランプ9Fの各ランプに対して輝度データが規定されている。

40

【0850】

図81（c）に示すように、孫テーブルA23においては、240ms e cと230ms e cとで繰り返しながらT23-1～T23-6に亘ってアタッカランプ9E、電チューランプ9H、およびVアタッカランプ9Fの各ランプに対して輝度データが規定されている。

【0851】

（全点灯時輝度データテーブル）

図82は、全点灯時輝度データテーブルの一例を説明するための図である。図82（a）～（h）に示すように、全点灯時輝度データテーブルにおいては、枠ランプ、役物ラン

50

ブ 9 A、盤左ランプ 9 B、盤上ランプ 9 C、アタッカランプ 9 E、Vアタッカランプ 9 F、電チューランプ 9 H、Vランプ 9 G、スティックコントローラランプ 9 J、およびトリガボタンランプ 9 Kといった各遊技効果ランプ 9 に対して、高輝度の輝度データ（この例では最大値である「F」）が規定されている。

【0852】

（PUSH演出時輝度データテーブル）

図 8 3 は、PUSH演出時輝度データテーブルの一例を説明するための図である。PUSH演出とは、後述する図 9 2（a 1 9）に示すように、プッシュボタン 3 1 Bを押圧する操作を促す演出である。

【0853】

図 8 3（a）は、スティックコントローラランプ 9 Jに対する輝度データテーブル S 4 1が示されている。S 4 1においては、20 msec 間隔で T 4 1-1～T 4 1-4 に亘ってスティックコントローラランプ 9 Jに対して輝度データが規定されている。なお、PUSH演出時におけるスティックコントローラランプ 9 Jの点灯色は、群予告演出において枠ランプなどが点灯する点灯色と同じ色（この例では赤色）である。

【0854】

図 8 3（b）は、トリガボタンランプ 9 Kに対する輝度データテーブル T 4 1が示されている。T 4 1においては、150 msec 間隔で T 5 1-1～T 5 1-2 に亘ってトリガボタンランプ 9 Kに対して輝度データが規定されている。なお、PUSH演出時におけるトリガボタンランプ 9 Kの点灯色は、群予告演出において枠ランプなどが点灯する点灯色と同じ色（この例では赤色）である。

【0855】

（変形例に係る群予告輝度データテーブルにおける子テーブル）

図 8 4 は、変形例に係る群予告輝度データテーブルにおける子テーブルの一例を説明するための図である。図 8 4 に示すように、変形例に係る群予告輝度データテーブルにおける子テーブルでは、遊技効果ランプ 9 における各ランプについて、群予告演出の時間を細分化するとともに、各時間帯で参照される孫テーブル（輝度データテーブルともいう）が指定されている。

【0856】

たとえば、群予告演出が実行される期間のうち、第 1 表示期間の途中までの期間（2000 msec）においては、枠ランプについて W 1 0 1、役物ランプ 9 Aについて Y 1 0 1、盤左ランプ 9 Bについて L 1 0 1、盤上ランプ 9 Cについて U 1 0 1、およびアタッカランプ 9 Eについて A 1 0 1の孫テーブルが各々設けられている。これらの孫テーブルは、変形例に係る第 1 輝度データテーブルに対応する。

【0857】

群予告演出が実行される期間のうち、第 1 表示期間の残り、第 2 表示期間、および第 3 表示期間の途中までの期間（2790 msec）においては、枠ランプについて W 1 0 2、役物ランプ 9 Aについて Y 1 0 2、盤左ランプ 9 Bについて L 1 0 2、盤上ランプ 9 Cについて U 1 0 2、およびアタッカランプ 9 Eについて A 1 0 2の孫テーブルが各々設けられている。これらの孫テーブルは、変形例に係る第 2 輝度データテーブルに対応する。

【0858】

群予告演出が実行される期間のうち、第 3 表示期間の残りの期間（150 msec）においては、枠ランプについて W 1 0 3、役物ランプ 9 Aについて Y 1 0 3、盤左ランプ 9 Bについて L 1 0 3、盤上ランプ 9 Cについて U 1 0 3、およびアタッカランプ 9 Eについて A 1 0 3の孫テーブルが各々設けられている。これらの孫テーブルは、変形例に係る第 3 輝度データテーブルに対応する。

【0859】

このように、変形例に係る群予告輝度データテーブルにおいては、第 1 輝度データテーブルにおいて、第 1 表示期間の開始に関連するタイミングで遊技効果ランプ 9 の制御が開始し、当該第 1 表示期間中に遊技効果ランプ 9 の制御が終了し、第 2 輝度データテーブル

10

20

30

40

50

において、第1表示期間中に遊技効果ランプ9の制御が開始するとともに当該第2表示期間中においても遊技効果ランプ9の制御が継続し、第3表示期間中に遊技効果ランプ9の制御が終了し、第3輝度データテーブルにおいて、第3表示期間中に遊技効果ランプ9の制御が開始するようになっている。

【0860】

（変形例に係る群予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブル）

図85は、変形例に係る群予告輝度データテーブルにおける枠ランプ用孫テーブルの一例を説明するための図である。なお、枠ランプに含まれる各ランプは複数色（この例では、赤色（R）、緑色（G）、青色（B）の3色）のLEDであり、データとしては、「0」～「F」の16進数で輝度が表されている。「0」は消灯に対応するデータであり、「1」～「F」は各々点灯に対応するデータである。「1」～「F」のうち、「1」～「7」は各々低輝度の点灯に対応するデータであり、「8」～「F」は各々高輝度の点灯に対応するデータである。なお、低輝度の概念として消灯を含める場合、「0」は低輝度に対応するデータに含まれる。

【0861】

図85（a）に示すように、孫テーブルW101においては、20msecで等間隔でT101-1～T101-10に亘って各ランプに対してRGBのデータが規定され、さらに最後の時間T101-11においては不具合対策用の10分間（600000msec）のデータが規定されている。

【0862】

図85（b）に示すように、孫テーブルW102においては、50～80msecで非等間隔でT102-1～T102-10に亘って各ランプに対してRGBのデータが規定されている。W102においては、一の枠ランプを高輝度で点灯させ、当該一の枠ランプと隣合う他の枠ランプも高輝度で点灯させる輝度データを含み、まばらに（ランダムに）高輝度で点灯するランプが変化するように輝度データが規定されている。たとえば、W102においては、複数箇所を亘って高輝度で点灯させるようにまばらに高輝度のデータ（たとえば、「A」）が規定されている。これにより、群予告演出においては、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせて枠ランプがまばらに高輝度で点灯するようになる。また、W102は、W101よりも、多くの枠ランプを高輝度で点灯させるように設計されている。

【0863】

図85（c）に示すように、孫テーブルW103においては、14msec間隔でT103-1～T103-6に亘って枠左ランプおよび枠右ランプに対してRGBのデータが規定されている。その後、枠左ランプについては2msecという短い間隔でT103-7～T103-38に亘ってRGBのデータが規定され、枠右ランプについては引き続き14msecという長い間隔でT103-7～T103-38に亘ってRGBのデータが規定されている。

【0864】

また、W103においては、T103-2からT103-30に亘って、枠右ランプ9R5～9R8付近から高輝度で点灯していたランプが段階的に徐々に消灯または低輝度で点灯するように、消灯または低輝度で点灯するランプの数を増やしていく。また、T103-7～T103-38について、枠右ランプ9R2～9R12の場合は14msec間隔で輝度データが規定されているのに対して、群予告においてキャラクタが進行する方向に位置する枠左ランプ9L5～9L12については、2msecという短い間隔で高輝度から消灯または低輝度となるように輝度データが規定されている。これにより、群予告においてキャラクタが画面の左端へと消えていく演出に合わせて、枠ランプもパチンコ遊技機1の右側から左側にかけて消灯または低輝度で点灯する位置を変化させるようになる。

【0865】

また、W103においては、T103-30移行の時間において枠ランプに含まれる全てのランプが消灯または低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。さらに、

W103においては、W101と同様に、第3表示期間の最後の10分間（60000ms）（T103-39）において、不具合対策用の輝度データが規定されている。この10分間においては、次の演出に移行した場合に枠ランプの点灯態様について違和感がないように、枠ランプが消灯または低輝度で点灯するように輝度データが規定されている。

【0866】

〔パチンコ遊技機1の演出態様〕

次に、図86～図171を参照しながら、遊技中におけるパチンコ遊技機1の演出態様について説明する。なお、本実施の形態においては、擬似変動が2回行われるメイン変動番号9、12、15、20、23、26のいずれかの変動パターンが選択された場合の演出態様について説明する。また、図中においては、遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯や点滅する様子をハッチングで示す。

10

【0867】

（ステージAにおける演出態様）

図86～図108を参照しながら、ステージAにおける演出態様について説明する。

【0868】

図86（a1）に示すように、1個の保留記憶に基づき可変表示が開始すると、画像表示装置5の画面上では、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄が可変表示するとともに、第4図柄5Jが可変表示し、さらに、小図柄5Mが可変表示する。画面上では、可変表示中の背景としてキャラクタや景色の画像を含む背景画像が表示される。本実施の形態においては、ステージAで登場するキャラクタとしてメイドA（夢夢ちゃん）が飛んでいる画像が表示される。なお、可変表示中においては、可変表示に応じた態様で遊技効果ランプ9が点灯するとともに、可変表示に応じた態様で演出音がスピーカ8L、8Rから出力される。

20

【0869】

図86（a2）に示すように、擬似連演出が行われて、2回目の可変表示が行われることを示す「×2」の文字が表示されると、図86（a3）に示すように、2回目の可変表示が行われる。

【0870】

図87（a4）に示すように、さらに擬似連演出が行われて、3回目の可変表示が行われることを示す「×3」の文字が表示されると、図87（a5）に示すように、3回目の可変表示が行われる。その後、図87（a6）に示すように、左の飾り図柄表示エリア5Lにおいて「3」が停止するとともに、右の飾り図柄表示エリア5Rにおいても「3」が停止すると、可変表示の態様がリーチ態様となる。

30

【0871】

図88（a7）に示すように、可変表示の態様がリーチ態様となったことを報知するリーチライン演出用の飾り図柄が表示される。図88（a8）に示すように、リーチライン演出が開始する。このとき、画像表示装置5の画面の中央部分から光のフラッシュが現れる。リーチライン演出中においては、図68～図74に示した輝度データテーブルに基づき、リーチライン演出に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。図88（a8）に示す状態では、枠ランプに含まれる全てのランプが高輝度で点灯する。なお、リーチライン演出中においては、リーチライン演出に応じた演出音がスピーカ8L、8Rから出力される。

40

【0872】

図88（a9）に示すように、画面中央の飾り図柄が左右方向に回転し始め、光のフラッシュが大きくなる。

【0873】

図89（a10）に示すように、画面中央の飾り図柄が左右方向に回転し続け、光のフラッシュが大きくなるとともに、画面中央にリーチラインが現れる。リーチラインとは、リーチ態様を構成する左右の飾り図柄の間を結ぶ光の筋（光線）であり、青色や赤色などの所定の色が付されている。リーチラインが表示されることで、可変表示の態様がリーチ

50

態様となった、あるいはリーチ態様となることを遊技者に示唆することができる。

【0874】

図89(a11)に示すように、画面中央の飾り図柄が左右方向に回転し続け、光のフラッシュが大きくなるとともに、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）に伸び始める。図89(a12)に示すように、画面中央の飾り図柄が元の位置に戻り、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）にさらに伸びる。図89に示すように、リーチライン演出中においては、画面の左右に位置する枠左ランプ9L6, 9L7, 9R6, 9R7が高輝度で点灯する。

【0875】

図90(a13)に示すように、画面中央の飾り図柄が段階的に徐々に拡大し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）に伸びていく。図90(a14)に示すように、画面中央の飾り図柄がさらに拡大し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）にさらに伸びていく。図90(a15)に示すように、画面中央の飾り図柄がさらに拡大し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）にさらに伸びていく。図90に示すように、リーチライン中においては、画面の左右に位置する枠左ランプ9L6, 9L7, 9R6, 9R7が高輝度で点灯する。

【0876】

図91(a16)に示すように、画面中央の飾り図柄が今度は段階的に徐々に縮小し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（内側）に縮み始める。図91(b17)に示すように、画面中央の飾り図柄がさらに縮小し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（内側）にさらに縮み、定位置で止まる。このとき、画面の左右に位置する枠左ランプ9L6, 9L7, 9R6, 9R7が高輝度で点灯する。その後、図91(a18)に示すように、画面中央のリーチラインが消える。このとき、遊技効果ランプ9も消灯する。

【0877】

図91(a18)に示すようにリーチライン演出が終了した後、6人群予告が実行される場合には図92(a19)に示す演出に移行し、背景予告が実行される場合には図101(a101)に示す演出に移行し、ランプ予告が実行される場合には図102(a111)に示す演出に移行する。

【0878】

なお、上述したように、6人群予告は、特別図柄や飾り図柄の可変表示の表示結果が所定の大当り図柄になることを示唆する演出であって、メイドの格好をした6人のキャラクターが群となって進行する演出である。背景予告は、特図や飾り図の可変表示の表示結果が所定の大当り図柄になることを示唆する演出であって、特定のキャラクター（たとえば、主役などのキャラクター、レアなキャラクターなど）が特定の背景（たとえば、星空の背景）とともに表示される演出である。ランプ予告は、特図や飾り図の可変表示の表示結果が所定の大当り図柄になることを示唆する演出であって、遊技効果ランプ9に含まれる所定のランプ（たとえば、役物ランプ9Aなど）が点灯や点滅をする演出である。ランプ予告においては、遊技効果ランプ9に含まれるランプのうち、いずれか1つのランプ、または複数のランプが点灯や点滅をしてもよいし、遊技効果ランプ9以外に設けられたランプが点灯や点滅をしてもよい。

【0879】

ステージAにおいては、前変動のリーチライン演出の後に群予告（たとえば、6人群予告やポインゴ群予告）が実行される。たとえば、リーチライン演出の後に6人群予告が実行される場合、図92(a19)に示すように、PUSH演出が実行される。PUSH演出が実行されると、画像表示装置5の画面中央に押しボタン31Bを示す画像および押圧操作が可能な制限時間を示すメータ画像が表示されるとともに、「PUSH!!」の文字画像が表示される。さらに、PUSH演出中においては、図83に示した輝度データテーブルに基づき、PUSH演出に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。たとえば、PUSH演出中においては、スティックコントローラランプ9Jおよびトリガボタンランプ9Kが点灯や点滅をする。なお、PUSH演出中においては、

10

20

30

40

50

スピーカ 8 L, 8 R からプッシュボタン 3 1 B を押圧する操作を遊技者に促す効果音が出力されてもよい。このように、P U S H 演出においては、画像表示やランプの点灯や点滅、あるいは音によってプッシュボタン 3 1 B を押圧する操作を遊技者に促すようになっている。

【0880】

図 9 2 (a 2 0) に示すように、P U S H 演出中にプッシュボタン 3 1 B が押圧操作されると、画像表示装置 5 の画面中央に表示されていたプッシュボタン 3 1 B を示す画像、メータ画像、および「P U S H ! !」の文字画像が消えるようなエフェクト発生する。また、プッシュボタン 3 1 B が押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様でスピーカ 8 L, 8 R から P U S H 音が出力される。当該 P U S H 音が出力されることで、遊技者は P U S H 演出中にプッシュボタン 3 1 B を有効に押圧できたことを認識することができる。なお、このスピーカ 8 L, 8 R からの P U S H 音の出力は、群予告演出（この例では 6 人群予告）が開始するまでに終了する。また、プッシュボタン 3 1 B が押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様で遊技効果ランプ 9 が点灯や点滅する。この例では、枠ランプが全て高輝度で点灯する。

10

【0881】

図 9 2 (a 2 1) に示すように、一旦、画像表示装置 5 の画面の表示が通常的背景画像の表示に戻り、背景に対応する態様で遊技効果ランプ 9 が点灯や点滅する。

【0882】

図 9 3 (a 2 2) に示すように、6 人群予告が開始するが、キャラクタが登場する前に、一旦遊技効果ランプ 9 が消灯する。これにより、これから群予告演出が実行することに対して遊技者に注目させることができる。

20

【0883】

図 9 3 (a 2 3) に示すように、第 1 表示期間において、1 番目（最初）のキャラクタとして主人公のメイド A（夢夢ちゃん）が登場する。なお、図 9 3 (a 2 3) に示す状態は、図 5 6 (a) に示す状態に対応しており、主人公であるメイド A（夢夢ちゃん）の全体が未だ表示されていない一方で当該メイド A の一部（この例では顔の一部）が表示されている第 1 状況を表している。

【0884】

6 人群予告の実行中においては、図 6 1 ~ 図 6 7 に示した輝度データテーブルに基づき、群予告演出に対応する態様で遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプが点灯する。たとえば、図 9 3 ~ 図 9 5 に示す第 1 表示期間においては、群予告においてキャラクタが登場する箇所付近に位置する枠右ランプ 9 R 5 ~ 9 R 8 が高輝度で点灯し始め、その後、キャラクタが進行する方向に合わせて高輝度で点灯するランプの箇所が移動する。なお、群予告演出（6 人群予告、爆チュー予告、後述のボインゴ予告）が実行された場合、群予告演出に関する画像以外の他の画像（たとえば、背景画像や S P リーチ前半予告演出に関する画像など）については、明度が下がるようになっている。群予告演出中に下がっている他の画像の明度は、第 3 表示期間において段階的に徐々に元の明度に戻る。一方、第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数を示す第 4 図柄 5 J や小図柄 5 M、および第 1 保留記憶表示エリア 5 D、第 2 保留記憶表示エリア 5 U、アクティブ表示エリア 5 A など、遊技者にとって遊技の勝敗や有利度に関して重要度の高い遊技に関する情報の表示については優先度を高くして、群予告演出が実行されても明度を下げないようになっている。

30

40

【0885】

群予告演出中においては、群予告演出に応じた演出音がスピーカ 8 L, 8 R から出力される。なお、群予告演出に応じた演出音の音量について、図 5 8 に示したように、第 1 表示期間の開始に関連するタイミングで群予告演出に対応する演出音の出力を開始し、当該第 1 表示期間において当該演出音の音量を特定音量まで上げ、第 2 表示期間において当該演出音の音量を当該特定音量で維持し、第 3 表示期間において当該演出音の音量を下げるようになっている。なお、群予告演出が開始したときには、群予告演出に応じた演出音とは別に、群予告演出の開始を示唆する開始音がスピーカ 8 L, 8 R から出力されるが、2

50

番目のキャラクタが登場するまでには開始音の出力が停止する。

【0886】

図93(a24)に示すように、最初のキャラクタが登場して間もなく、2番目のキャラクタが登場する。なお、図93(a24)に示す状態は、図56(b)に示す状態に対応しており、最初に表示されたメイドAの全体が未だ表示されていない一方で当該メイドAの一部が第1状況よりも表示され、かつ2番目に表示されたメイドB(ジャムちゃん)の全体が未だ表示されていない一方で当該メイドBの一部(この例では顔の一部)が表示された第2状況を表している。

【0887】

図94(a25)に示すように、キャラクタが次々と登場し、画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。図94(a26)に示すように、2番目に登場したキャラクタが1番目に登場したキャラクタを抜かすようなアニメーションが表示される。図94(a27)に示すように、キャラクタが次々と登場し、画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。

【0888】

図95(a28)に示すように、キャラクタが進行し続け、やがてトップ(先頭)を走る2番目に登場したキャラクタが画面左端に到達する。図95(a29)に示すように、トップ(先頭)を走る2番目に登場したキャラクタが画面左端から消え始める。図95(a30)に示すように、トップを走る2番目に登場したキャラクタが画面左端から最初に消える。これにより、第1表示期間が終了する。

【0889】

図96(a31)に示すように、第2表示期間において、キャラクタが次々と登場し、画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。図96および図97に示す第2表示期間においては、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせて枠ランプがまばらに高輝度で点灯する。これにより、キャラクタが群を形成して走り抜けるアニメーション表示に合わせて枠ランプが点灯や点滅するようになる。また、スピーカ8L, 8Rから出力される群予告に対応する演出音には、たとえば、キャラクタが走り抜けるアニメーション表示に合わせて足音などが含まれる。その後、図96(a32)~図97(a36)に示すように、キャラクタが次々と登場し、画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。

【0890】

図98(a37)に示すように、第3表示期間においては、最後のキャラクタが登場し、他のキャラクタとともに画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。なお、第3表示期間においては、新たなキャラクタは登場しない。第3表示期間においては、図98および図99に示すように、群予告においてキャラクタが画面の左端へと消えていく演出に合わせて、枠ランプもパチンコ遊技機1の右側から左側にかけて消灯または低輝度で点灯する位置を変化させるようになる。なお、図98(a37)に示すように、第3表示期間に入ると、遊技効果ランプ9の全てが一旦、高輝度で点灯する。

【0891】

図98(a38)に示すように、キャラクタが画面の左端へと消えていくに従って、枠ランプが消灯し始める。図98(a38)に示す例では、画面の右半分の領域でキャラクタが表示されていないため、枠右ランプ9Rの一部が消灯している。図98(a39)に示すように、さらにキャラクタが画面の左端へと消えていくに従って、消灯する枠右ランプ9Rの数が増加する。

【0892】

図99(a40)および(a41)に示すように、キャラクタが段階的に徐々に消えるに従って、消灯する遊技効果ランプ9の数が増加する。図99(a42)に示すように、最後のキャラクタが消えると群予告演出が終了する。

【0893】

ここで、図100を参照しながら、6人群予告の比較例と、本実施の形態に係る6人群

10

20

30

40

50

予告とを比較する。図100(a201)に示す比較例においては、図93(a23)に示す本実施の形態と同様に、主人公であるメイドA(夢夢ちゃん)の全体が未だ表示されていない一方で当該メイドAの一部(この例では顔の一部)が表示されている第1状況となる。

【0894】

その後、図93(a24)に示す本実施の形態においては、最初に表示されたメイドAの全体が未だ表示されていない一方で当該メイドAの一部が第1状況よりも表示され、かつ2番目に表示されたメイドB(ジャムちゃん)の全体が未だ表示されていない一方で当該メイドBの一部(この例では顔の一部)が表示された第2状況となるのに対して、図100(a202)に示す比較例においては、2番目のメイドBが登場することなく、メイドAが走り続けて、当該メイドAの全体が表示されている。そして、図100(a203)に示す比較例においては、1番目のメイドAが画面中央よりも左側を走り抜けた後によりやく2番目のメイドBが登場している。このような比較例では、単に1人のキャラクタが登場しているに過ぎず、群予告演出には見えない。

【0895】

一方、本実施の形態においては、図93～図99に示すように、複数のキャラクタが間を空けることなく次々と登場して走り抜けるアニメーションが表示されるため、複数のキャラクタが群となって進行することで、迫力のある演出とすることができる。また、他のキャラクタを追い抜かすキャラクタの数は、追い抜くキャラクタによって追い抜かれる他のキャラクタの数よりも少なくなっているため、群予告演出を複雑なものになり過ぎることを防止することができる。なお、他のキャラクタを追い抜かすキャラクタの数は、追い抜くキャラクタによって追い抜かれる他のキャラクタの数よりも多くてもよい。この場合、躍動感のある群予告演出を遊技者に見せることができる。

【0896】

リーチライン演出の後に背景予告が実行される場合、図101(a101)に示すように、PUSH演出が実行される。PUSH演出が実行されると、画像表示装置5の画面中央にプッシュボタン31Bを示す画像および押圧操作が可能な制限時間を示すメータ画像が表示されるとともに、「PUSH!!」の文字画像が表示される。さらに、PUSH演出中においては、図83に示した輝度データテーブルに基づき、PUSH演出に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。

【0897】

図101(a102)に示すように、PUSH演出中にプッシュボタン31Bが押圧操作されると、画像表示装置5の画面中央に表示されていたプッシュボタン31Bを示す画像、メータ画像、および「PUSH!!」の文字画像が消える。また、プッシュボタン31Bが押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様でスピーカ8L, 8RからPUSH音が出力される。プッシュボタン31Bが押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様で遊技効果ランプ9が点灯や点滅する。この例では、枠ランプが全て高輝度で点灯する。

【0898】

その後、図101(a103)に示すように、背景予告の演出として、特定のキャラクタ(この例では、メイドB(ジャムちゃん))が特定の背景(この例では、星空の背景)とともに画像表示装置5の画面上に表示される。さらに、背景予告の演出中においては、図67に示した輝度データテーブルに基づき、背景予告の演出に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。なお、背景予告の演出に対応する態様でスピーカ8L, 8Rから演出音も出力される。

【0899】

リーチライン演出の後にランプ予告が実行される場合、図102(a111)に示すように、PUSH演出が実行される。PUSH演出が実行されると、画像表示装置5の画面中央にプッシュボタン31Bを示す画像および押圧操作が可能な制限時間を示すメータ画像が表示されるとともに、「PUSH!!」の文字画像が表示される。さらに、PUSH

10

20

30

40

50

演出中においては、図 8 3 に示した輝度データテーブルに基づき、P U S H 演出に対応する態様で遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプが点灯する。

【0900】

図 1 0 2 (a 1 1 2) に示すように、P U S H 演出中にプッシュボタン 3 1 B が押圧操作されると、画像表示装置 5 の画面中央に表示されていたプッシュボタン 3 1 B を示す画像、メータ画像、および「P U S H ! !」の文字画像が消える。また、プッシュボタン 3 1 B が押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様でスピーカ 8 L , 8 R から P U S H 音出力される。プッシュボタン 3 1 B が押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様で遊技効果ランプ 9 が点灯や点滅する。この例では、枠ランプが全て高輝度で点灯する。

10

【0901】

その後、図 1 0 2 (a 1 1 3) に示すように、ランプ予告が実行され、遊技効果ランプ 9 に含まれる所定のランプ（たとえば、役物ランプ 9 A など）が点灯や点滅をする。なお、ランプ予告の演出に対応する態様でスピーカ 8 L , 8 R から演出音も出力される。

【0902】

図 9 9 (a 4 2) に示すように群予告の第 3 表示期間が終了した後、あるいは、図 1 0 1 (a 1 0 3) に示す背景予告や図 1 0 2 (a 1 1 3) に示すランプ予告が終了した後、図 1 0 3 ~ 図 1 0 7 に示すように図柄送り演出が実行される。図柄送り演出は、リーチ態様となった飾り図柄において、可変表示中の飾り図柄（本実施の形態においては、真ん中の飾り図柄表示エリア 5 C の飾り図柄）が停止するか否か、および停止する飾り図柄が大当たり図柄を構成する飾り図柄であるか否かを遊技者に煽る演出である。図柄送り演出中においては、所定の輝度データテーブルに基づき、図柄送り演出に対応する態様で遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプが点灯する。なお、図柄送り演出に対応する態様でスピーカ 8 L , 8 R から演出音も出力される。

20

【0903】

図 1 0 3 (a 4 3) に示すように、図柄送り演出が開始すると、真ん中の飾り図柄表示エリア 5 C に位置する可変表示中の飾り図柄が大きく表示され、所定の第 1 速度（たとえば、遅めの速度）で可変表示し始める。このとき、リーチ態様となっている左右の飾り図柄表示エリア 5 L , 5 R に位置する飾り図柄と同じ飾り図柄（すなわち、大当たりを構成する飾り図柄）から図柄送り演出が開始されるが、その開始位置は、リーチ態様となっている飾り図柄から離れた下方の位置である。

30

【0904】

その後、図 1 0 3 (a 4 4) ~ 図 1 0 4 (a 4 8) に示すように、所定の第 1 速度（たとえば、遅めの速度）で真ん中の飾り図柄が可変表示し続ける。その後、図 1 0 5 (a 4 9) ~ 図 1 0 6 (a 5 4) に示すように、真ん中の飾り図柄が可変表示していくに従って飾り図柄の可変表示の速度が大きくなり、図 1 0 7 (a 5 5) ~ (a 5 7) に示すように、最終的には所定の第 2 速度（たとえば、第 1 速度よりも速い速度）で真ん中の飾り図柄が可変表示する。図 1 0 7 (a 5 7) に示すように、概ね真ん中の飾り図柄が 2 周に亘って可変表示すると、図柄送り演出が終了する。

【0905】

図柄送り演出が終了した後、図 1 0 8 (a 5 8) , (a 5 9) に示すように、ホワイトアウトと称される演出効果によって、キャラクタ画像およびリーチ態様となった「3」の飾り図柄を含む画像の色が段階的に白くなり、最終的にはキャラクタ画像およびリーチ態様となった「3」の飾り図柄を含む画像が完全に見えなくなる。その後、図 1 0 8 (a 5 9) に示すように、ホワイトアウトによって白くなった前面側の画面全体の透明度を段階的に上げていくと、その背面側で切り替えられていた後変動用の演出画像が画面上に現れる。

40

【0906】

（S P リーチ前半における演出態様）

図 1 0 9 ~ 図 1 1 7 を参照しながら、S P リーチ前半における演出態様について説明す

50

る。

【0907】

図109(a61)，(a62)に示すように、後変動に移行した後、SPリーチのタイトル画像が表示されるまで、キャラクタのアニメーションが表示される。当該キャラクタは、主人公などの優先度の高いキャラクタであってもよいし、SPリーチにおいて登場するキャラクタであってもよい。図109(a63)に示すように、SPリーチのタイトルが表示される。本実施の形態においては、SPリーチの演出として、夢夢ちゃんなどのメイドキャラクタが爆チューを捕まえる演出が行われるため、「爆チューを捕まえろ！」のタイトルが表示される。SPリーチ前半の演出中においては、所定の輝度データテーブルに基づき、SPリーチ前半に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。なお、SPリーチ前半に対応する態様でスピーカ8L，8Rから演出音も出力される。

10

【0908】

図110(c1)に示すように、SPリーチ前半の演出が実行されると、メイドA(夢夢ちゃん)が仁王立ちした画像が表示される。その後、図110(c2)に示すように、相手方のキャラクタ(敵キャラクタ)である爆チューが驚く画像が表示される。その後、図110(c3)～図111(c5)に示すように、逃げる爆チューをメイドAが追いかけるようなアニメーションが表示される。

【0909】

図111(c6)に示すように、メイドAが爆チューに飛びかかるようなアニメーションが表示された後、ハズレ時(メイン変動番号9の変動パターンの場合)は図112(c11)に示す演出へ移行し、大当たり時(メイン変動番号20の変動パターンの場合)は図114(c21)に示す演出へ移行し、SPリーチの後半に移行する場合(メイン変動番号12，23の変動パターンの場合)または最終リーチに移行する場合(メイン変動番号15，26の変動パターンの場合)は図117(c31)に示す演出へ移行する。

20

【0910】

SPリーチの前半でハズレが確定する場合、図111(c6)に示す演出の後、図112(c11)に示す演出に移行する。図112(c11)に示す演出においては、メイドAが爆チューを捕まえられずに落ち込んでいる画像が表示されるとともに、真ん中の飾り図柄表示エリア5Cに位置する飾り図柄としてハズレ図柄である「4」が停止する。その後、図112(c12)に示すように、ブラックアウトと称される演出効果によって、キャラクタ画像およびハズレ態様となった「3」，「4」，「3」の飾り図柄を含む画像の色が段階的に黒くなり、図112(c13)に示すように、最終的にはキャラクタ画像およびハズレ態様となった「3」，「4」，「3」の飾り図柄を含む画像が完全に見えなくなる。

30

【0911】

その後、図113(c14)，(c15)に示すように、ブラックアウトによって黒くなった前面側の画面全体の透明度を段階的に上げていくと、その背面側で切り替えられていた通常背景用の演出画像が現れて見えるようになる。そして、図113(c16)に示すように、飾り図柄の可変表示が完全に停止するとともに、小図柄5Mの可変表示も完全に停止し、ハズレが確定する。

40

【0912】

SPリーチの前半で大当たりが確定する場合、図111(c6)に示す演出の後、図114(c21)に示す演出に移行する。図114(c21)に示す演出においては、メイドAが爆チューを捕まえてピースサインを出している画像が表示されるとともに、真ん中の飾り図柄表示エリア5Cに位置する飾り図柄として大当たり図柄である「3」が停止する。

【0913】

その後、ファンファーレ演出が実行される。ファンファーレ演出においては、図114(c22)に示すように、「3」，「3」，「3」で揃った飾り図柄が段階的に徐々に拡大していき、図114(c23)に示すように、飾り図柄が画面上からはみ出すように表

50

示される。その後、図 1 1 5 (c 2 4), (c 2 5) に示すように、飾り図柄が動くようなアニメーションが表示される。そして、図 1 1 5 (c 2 6) に示すように、飾り図柄の可変表示が完全に停止するとともに、小図柄 5 M の可変表示も完全に停止し、大当たりが確定する。

【0914】

その後、図 1 1 6 (c 2 7) ~ (c 2 9) に示すように、主人公であるメイド A (夢夢ちゃん) の顔画像が大きく表示され、「F E V E R !」の文字が流れるようなアニメーションが表示される。

【0915】

S P リーチの後半または最終リーチに移行する場合、図 1 1 1 (c 6) に示す演出の後、図 1 1 7 (c 3 1) に示す演出に移行する。図 1 1 7 (c 3 1) に示す演出においては、メイド A が爆チューを捕まえられずに落ち込んでいる画像が表示されるとともに、真ん中の飾り図柄表示エリア 5 C に位置する飾り図柄としてハズレ図柄である「4」が停止する。その後、図 1 1 7 (c 3 2) に示すように、ブラックアウトによって、キャラクタ画像およびハズレ態様となった「3」, 「4」, 「3」の飾り図柄を含む画像の色が段階的に黒くなる。ここまでは図 1 1 2 (c 1 1), (c 1 2) で示した S P リーチ前半でハズレになった場合と同じ演出である。ところが、図 1 1 7 (c 3 3) に示すように、S P リーチ後半または最終リーチに移行する場合は、S P リーチ前半でハズレになった場合では起こらなかった可動体 3 2 が落下する演出が実行される。

【0916】

そして、可動体 3 2 が落下する演出が実行された後、S P リーチの後半に移行する場合 (メイン変動番号 1 2, 2 3 の変動パターンの場合) は図 1 1 8 (c 4 1) に示す演出へ移行し、最終リーチに移行する場合 (メイン変動番号 1 5, 2 6 の変動パターンの場合) は図 1 2 5 (c 7 1) に示す演出へ移行する。このように、大当たりとなる変動パターンの中には、一旦、S P リーチの前半でハズレが確定するかと見せかけて、S P リーチの後半や最終リーチに移行する変動パターンが含まれる。これにより、遊技者からすると、一旦、S P リーチの前半でハズレが確定と思った後に、救済によって S P リーチの後半や最終リーチに移行することになり、遊技の興趣を向上させることができる。

【0917】

(S P リーチ後半における演出態様)

図 1 1 8 ~ 図 1 2 4 を参照しながら、S P リーチ後半における演出態様について説明する。

【0918】

S P リーチの後半に移行する場合、図 1 1 7 (c 3 3) に示す演出の後、図 1 1 8 (c 4 1) に示す演出に移行する。図 1 1 8 (c 4 1) に示す演出においては、キャラクタ画像および背景画像などが完全に見えなくなる。

【0919】

その後、図 1 1 8 (c 4 2) に示すように、ブラックアウトによって黒くなった前面側の画面全体の透明度を段階的に上げていくと、その背面側で切り替えられていた S P リーチ後半の演出画像が現れて見えるようになる。S P リーチ後半の演出中においては、所定の輝度データテーブルに基づき、S P リーチ後半に対応する態様で遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプが点灯する。なお、S P リーチ後半に対応する態様でスピーカ 8 L, 8 R から演出音も出力される。

【0920】

図 1 1 8 (c 4 2) に示すように、S P リーチ後半の演出が実行されると、メイド A (夢夢ちゃん) およびメイド B (ジャムちゃん) が仁王立ちして爆チューに対して宣戦布告をしている画像が表示される。その後、図 1 1 8 (c 4 3) ~ 図 1 1 9 (c 4 5) に示すように、逃げる爆チューをメイド A およびメイド B が追いかけるようなアニメーションが表示される。

【0921】

図 1 1 8 (c 4 6) に示すように、メイド A およびメイド B が爆チューに飛びかかるようなアニメーションが表示された後、ハズレ時 (メイン変動番号 1 2 の変動パターンの場合) は図 1 2 0 (c 5 1) に示す演出へ移行し、大当たり時 (メイン変動番号 2 3 の変動パターンの場合) は図 1 2 2 (c 6 1) に示す演出へ移行し、最終リーチに移行する場合 (メイン変動番号 1 5 , 2 6 の変動パターンの場合) は図 1 2 5 (c 7 1) に示す演出へ移行する。

【 0 9 2 2 】

S P リーチの後半でハズレが確定する場合、図 1 1 9 (c 4 6) に示す演出の後、図 1 2 2 (c 5 1) に示す演出に移行する。図 1 2 2 (c 5 1) に示す演出においては、メイド A およびメイド B が爆チューを捕まえられずに落ち込んでいる画像が表示されるとともに、真ん中の飾り図柄表示エリア 5 C に位置する飾り図柄としてハズレ図柄である「4」が停止する。その後、図 1 2 0 (c 5 2) に示すように、ブラックアウトによって、キャラクタ画像およびハズレ態様となった「3」, 「4」, 「3」の飾り図柄を含む画像の色が段階的に黒くなり、図 1 2 0 (c 5 3) に示すように、最終的にはキャラクタ画像およびハズレ態様となった「3」, 「4」, 「3」の飾り図柄を含む画像が完全に見えなくなる。

【 0 9 2 3 】

その後、図 1 2 1 (c 5 4) , (c 5 5) に示すように、ブラックアウトによって黒くなった前面側の画面全体の透明度を段階的に上げていくと、その背面側で切り替えられていた通常背景用の演出画像が現れて見えるようになる。そして、図 1 2 1 (c 5 6) に示すように、飾り図柄の可変表示が完全に停止するとともに、小図柄 5 M の可変表示も完全に停止し、ハズレが確定する。

【 0 9 2 4 】

S P リーチの後半で大当たりが確定する場合、図 1 1 9 (c 4 6) に示す演出の後、図 1 2 2 (c 6 1) に示す演出に移行する。図 1 2 2 (c 6 1) に示す演出においては、メイド A およびメイド B が爆チューを捕まえてピースサインを出している画像が表示されるとともに、真ん中の飾り図柄表示エリア 5 C に位置する飾り図柄として大当たり図柄である「3」が停止する。

【 0 9 2 5 】

その後、ファンファーレ演出が実行される。ファンファーレ演出においては、図 1 2 2 (c 6 2) に示すように、「3」, 「3」, 「3」で揃った飾り図柄が段階的に徐々に拡大していき、図 1 2 2 (c 6 3) に示すように、飾り図柄が画面上からはみ出すように表示される。その後、図 1 2 3 (c 6 4) , (c 6 5) に示すように、飾り図柄が動くようなアニメーションが表示される。そして、図 1 2 3 (c 6 6) に示すように、飾り図柄の可変表示が完全に停止するとともに、小図柄 5 M の可変表示も完全に停止し、大当たりが確定する。

【 0 9 2 6 】

その後、図 1 2 4 (c 6 7) ~ (c 6 9) に示すように、主人公であるメイド A (夢夢ちゃん) の顔画像が大きく表示され、「F E V E R !」の文字が流れるようなアニメーションが表示される。

【 0 9 2 7 】

(最終リーチにおける演出態様)

図 1 2 5 ~ 図 1 3 5 を参照しながら、最終リーチにおける演出態様について説明する。

【 0 9 2 8 】

最終リーチに移行する場合、図 1 1 9 (c 4 6) に示す演出の後、図 1 2 5 (c 7 1) に示す演出に移行する。最終リーチに移行するときには、図 1 2 5 (c 7 1) に示すように、突然、画面全体が真っ黒になるとともに、図 1 2 5 (c 7 2) に示すように、画面の中央に十字型をした光のエフェクトが表示される。その後、図 1 2 5 (c 7 3) に示すように、最終リーチの開始を報知する演出が実行され、画面いっぱい主人公であるメイド A (夢夢ちゃん) の顔画像が表示されるとともに、「行くよー！」の文字画像が表示され

る。なお、図 1 2 5 (c 7 2) に示すような光のエフェクト表示の演出は、図 1 2 5 (c 7 1) に示すブラックアウトの演出と、図 1 2 5 (c 7 3) に示す主人公の顔画像が表示される演出との間に敢えて挿入される。これにより、図 1 2 5 (c 7 2) に示す演出によって、最終リーチに発展することを遊技者により分かり易く伝えることができる。

【0929】

それ以降、最終リーチ中の演出が実行される。最終リーチ後半の演出中においては、所定の輝度データテーブルに基づき、最終リーチ後半に対応する態様で遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプが点灯する。なお、最終リーチ後半に対応する態様でスピーカ 8 L, 8 R から演出音も出力される。

【0930】

図 1 2 6 (c 7 4) に示すように、メイド A がピースサインを出している画像が表示される。その後、図 1 2 6 (c 7 5) ~ 図 1 2 6 (c 7 8) に示すように、複数タイミングごとに 1 文字ずつの画像が表示されるとともに、図 1 2 6 (c 7 9) に示すように、文章全体の画像が表示されることで最終リーチで実行される演出のテーマが示される。この例では、「全員集合」と示される。

【0931】

その後、図 1 2 8 (c 8 0) ~ 図 1 2 9 (c 8 5) に示すように、複数タイミングごとに、最終リーチの演出で登場するキャラクタが紹介されるアニメーションが表示される。たとえば、この例では、メイド F、メイド E、メイド D、メイド C、メイド B、メイド A といったように、脇役のキャラクタから順番に登場し、最終付近（あるいは後半）で主人公などの優先度の高いキャラクタが登場する。なお、主人公などの優先度の高いキャラクタから順番に登場してもよい。すなわち、主人公などの優先度の高いキャラクタは、脇役などの優先度の低いキャラクタよりも目立つように、最初（あるいは前半）や最終の付近（あるいは後半）で登場する方が好ましい。

【0932】

その後、図 1 3 0 (c 8 6) に示すように、最終リーチの演出が実行されると、6 人群予告で登場した 6 人のキャラクタが仁王立ちして爆チューに対して宣戦布告をしている画像が表示される。その後、図 1 3 0 (c 8 7) ~ 図 1 3 1 (c 8 9) に示すように、逃げる爆チューを 6 人のキャラクタが追いかけるようなアニメーションが表示される。

【0933】

図 1 3 1 (c 9 0) に示すように、6 人のキャラクタが爆チュー追い込むようなアニメーションが表示された後、図 1 3 1 (c 9 1) に示すように、トリガー演出が実行される。トリガー演出が実行されると、画像表示装置 5 の画面中央にスティックコントローラ 3 1 A を示す画像およびスティックコントローラ 3 1 A の操作が可能な制限時間を示すメータ画像が表示されるとともに、「引け!!」の文字画像が表示される。

【0934】

図 1 3 1 (c 9 1) に示すトリガー演出中にスティックコントローラ 3 1 A を引く操作がされた後、ハズレ時（メイン変動番号 1 5 の変動パターンの場合）は図 1 3 2 (c 1 0 1) に示す演出へ移行し、大当たり時（メイン変動番号 2 6 の変動パターンの場合）は図 1 3 3 (c 1 1 1) に示す演出へ移行する。

【0935】

最終リーチでハズレが確定する場合、図 1 3 1 (c 9 1) に示すトリガー演出中にスティックコントローラ 3 1 A を引く操作がされた後、図 1 3 2 (c 1 0 1) に示す演出に移行する。図 1 3 2 (c 1 0 1) に示す演出においては、6 人のキャラクタが爆チューを捕まえられずに落ち込んでいる画像が表示されるとともに、真ん中の飾り図柄表示エリア 5 C に位置する飾り図柄としてハズレ図柄である「4」が停止する。その後、図 1 3 2 (c 1 0 2) に示すように、ブラックアウトによって、キャラクタ画像およびハズレ態様となった「3」, 「4」, 「3」の飾り図柄を含む画像の色が段階的に黒くなり、図 1 3 2 (c 1 0 3) に示すように、最終的にはキャラクタ画像およびハズレ態様となった「3」, 「4」, 「3」の飾り図柄を含む画像が完全に見えなくなる。

【0936】

その後、図示は省略するが、ブラックアウトによって黒くなった前面側の画面全体の透明度を段階的に上げていくと、その背面側で切り替えられていた通常背景用の演出画像が現れて見えるようになる。そして、飾り図柄の可変表示が完全に停止するとともに、小図柄5Mの可変表示も完全に停止し、ハズレが確定する。

【0937】

最終リーチで大当たりが確定する場合、図131(c91)に示す演出の後、図133(c111)に示す演出に移行する。図133(c111)に示す演出においては、6人のキャラクタが爆チューを捕まえている画像が表示されるとともに、真ん中の飾り図柄表示エリア5Cに位置する飾り図柄として大当たり図柄である「3」が停止する。

10

【0938】

その後、ファンファーレ演出が実行される。ファンファーレ演出においては、図133(c112)に示すように、「3」、「3」、「3」で揃った飾り図柄が段階的に徐々に拡大していき、図133(c113)に示すように、飾り図柄が画面上からはみ出すように表示される。その後、図134(c114)、(c115)に示すように、飾り図柄が動くようなアニメーションが表示される。そして、図134(c116)に示すように、飾り図柄の可変表示が完全に停止するとともに、小図柄5Mの可変表示も完全に停止し、大当たりが確定する。

【0939】

その後、図135(c117)～(c119)に示すように、主人公であるメイドA(夢夢ちゃん)の顔画像が大きく表示され、「FEVER!」の文字が流れるようなアニメーションが表示される。

20

【0940】

(ステージBにおける演出態様)

図136～図156を参照しながら、ステージBにおける演出態様について説明する。

【0941】

図136(b1)に示すように、1個の保留記憶に基づき可変表示が開始すると、画像表示装置5の画面上では、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄が可変表示するとともに、第4図柄5Jが可変表示し、さらに、小図柄5Mが可変表示する。画面上では、可変表示中の背景としてキャラクタや景色の画像を含む背景画像が表示される。本実施の形態においては、ステージBで登場するキャラクタとして爆チューの画像が表示される。なお、可変表示中においては、可変表示に応じた態様で遊技効果ランプ9が点灯するとともに、可変表示に応じた態様で演出音がスピーカ8L、8Rから出力される。

30

【0942】

図136(b2)に示すように、擬似連演出が行われて、2回目の可変表示が行われることを示す「×2」の文字が表示されると、図136(b3)に示すように、2回目の可変表示が行われる。

【0943】

図136(b4)に示すように、さらに擬似連演出が行われて、3回目の可変表示が行われることを示す「×3」の文字が表示されると、図137(b5)に示すように、3回目の可変表示が行われる。その後、図137(b6)に示すように、左の飾り図柄表示エリア5Lにおいて「3」が停止するとともに、右の飾り図柄表示エリア5Rにおいても「3」が停止すると、可変表示の態様がリーチ態様となる。

40

【0944】

図138(b7)に示すように、可変表示の態様がリーチ態様となったことを報知するリーチライン演出用の飾り図柄が表示される。図138(b8)に示すように、リーチライン演出が開始する。このとき、画像表示装置5の画面の中央部分から光のフラッシュが現れる。リーチライン演出中においては、図68～図74に示した輝度データテーブルに基づき、リーチライン演出に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。なお、図68～図74に示した輝度データテーブルは、ステージAのリーチライン

50

演出において用いられる輝度データテーブルと同じである。図 1 3 8 (b 8) に示す状態では、枠ランプに含まれる全てのランプが高輝度で点灯する。なお、リーチライン演出中においては、リーチライン演出に応じた演出音がスピーカ 8 L, 8 R から出力される。

【0945】

図 1 3 8 (b 9) に示すように、画面中央の飾り図柄が左右方向に回転し始め、光のフラッシュが大きくなる。

【0946】

図 1 3 9 (b 1 0) に示すように、画面中央の飾り図柄が左右方向に回転し続け、光のフラッシュが大きくなるとともに、画面中央にリーチラインが現れる。リーチラインとは、リーチ態様を構成する左右の飾り図柄の間を結ぶ光の筋（光線）であり、青色や赤色などの所定の色が付されている。リーチラインが表示されることで、可変表示の態様がリーチ態様となった、あるいはリーチ態様となることを遊技者に示唆することができる。なお、ステージ B において現れるリーチラインは、ステージ A において現れるリーチラインと同じであってもよいし、たとえば、色や形、大きさなどが異なってもよい。

【0947】

図 1 3 9 (b 1 1) に示すように、画面中央の飾り図柄が左右方向に回転し続け、光のフラッシュが大きくなるとともに、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）に伸び始める。図 1 3 9 (b 1 2) に示すように、画面中央の飾り図柄が元の位置に戻り、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）にさらに伸びる。図 1 3 9 に示すように、リーチライン演出中においては、画面の左右に位置する枠左ランプ 9 L 6, 9 L 7, 9 R 6, 9 R 7 が高輝度で点灯する。

【0948】

図 1 4 0 (b 1 3) に示すように、画面中央の飾り図柄が段階的に徐々に拡大し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）に伸びていく。図 1 4 0 (b 1 4) に示すように、画面中央の飾り図柄がさらに拡大し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）にさらに伸びていく。図 1 4 0 (b 1 5) に示すように、画面中央の飾り図柄がさらに拡大し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（外側）にさらに伸びていく。図 1 4 0 に示すように、リーチライン中においては、画面の左右に位置する枠左ランプ 9 L 6, 9 L 7, 9 R 6, 9 R 7 が高輝度で点灯する。

【0949】

図 1 4 1 (b 1 6) に示すように、画面中央の飾り図柄が今度は段階的に徐々に縮小し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（内側）に縮み始める。図 1 4 1 (b 1 7) に示すように、画面中央の飾り図柄がさらに縮小し、画面中央のリーチラインが画面の左右方向（内側）にさらに縮み、定位置で止まる。このとき、画面の左右に位置する枠左ランプ 9 L 6, 9 L 7, 9 R 6, 9 R 7 が高輝度で点灯する。その後、図 1 4 1 (b 1 8) に示すように、画面中央のリーチラインが消える。このとき、遊技効果ランプ 9 も消灯する。

【0950】

図 1 4 1 (b 1 8) に示すようにリーチライン演出が終了した後、図 1 4 2 ~ 図 1 4 6 に示すように図柄送り演出が実行される。図柄送り演出中においては、所定の輝度データテーブルに基づき、図柄送り演出に対応する態様で遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプが点灯する。なお、図柄送り演出に対応する態様でスピーカ 8 L, 8 R から演出音も出力される。

【0951】

図 1 4 2 (b 1 9) に示すように、図柄送り演出が開始すると、真ん中の飾り図柄表示エリア 5 C に位置する可変表示中の飾り図柄が大きく表示され、所定の第 1 速度（たとえば、遅めの速度）で可変表示し始める。このとき、リーチ態様となっている左右の飾り図柄表示エリア 5 L, 5 R に位置する飾り図柄と同じ飾り図柄（すなわち、大当りを構成する飾り図柄）から図柄送り演出が開始されるが、その開始位置は、リーチ態様となっている飾り図柄から離れた下方の位置である。

【0952】

その後、図142 (b20)～図143 (b24)に示すように、所定の第1速度（たとえば、遅めの速度）で真ん中の飾り図柄が可変表示し続ける。その後、図144 (b25)～図145 (b30)に示すように、真ん中の飾り図柄が可変表示していくに従って飾り図柄の可変表示の速度が大きくなり、図146 (b31)～(b33)に示すように、最終的には所定の第2速度（たとえば、第1速度よりも速い速度）で真ん中の飾り図柄が可変表示する。図146 (b33)に示すように、概ね真ん中の飾り図柄が2周に亘って可変表示すると、図柄送り演出が終了する。

【0953】

図柄送り演出が終了した後、図147 (b34), (b35)に示すように、ホワイトアウトによって、キャラクタ画像およびリーチ態様となった「3」の飾り図柄を含む画像の色が段階的に白くなり、最終的にはキャラクタ画像およびリーチ態様となった「3」の飾り図柄を含む画像が完全に見えなくなる。その後、図147 (b36)に示すように、ホワイトアウトによって白くなった前面側の画面全体の透明度を段階的に上げていくと、その背面側で切り替えられていた後変動用の演出画像が画面上に現れる。

【0954】

図148 (b37), (b38)に示すように、後変動に移行した後、SPリーチのタイトル画像が表示されるまで、キャラクタのアニメーションが表示される。当該キャラクタは、主人公などの優先度の高いキャラクタであってもよいし、SPリーチにおいて登場するキャラクタであってもよい。図148 (b39)に示すように、SPリーチのタイトル（「爆チューを捕まえろ！」）が表示される。SPリーチ前半の演出中においては、所定の輝度データテーブルに基づき、SPリーチ前半に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。なお、SPリーチ前半に対応する態様でスピーカ8L, 8Rから演出音も出力される。

【0955】

ステージBにおいては、後変動のSPリーチ前半のタイトル表示が行われている期間中に群予告（たとえば、爆チュー予告やポインゴ群予告）が実行される。たとえば、SPリーチ前半のタイトル表示が行われている期間中に爆チュー群予告が実行される場合、図149 (b40)に示すように、PUSH演出が実行される。PUSH演出が実行されると、画像表示装置5の画面中央にプッシュボタン31Bを示す画像および押圧操作が可能な制限時間を示すメタ画像が表示されるとともに、「PUSH!!」の文字画像が表示される。さらに、PUSH演出中においては、図83に示した輝度データテーブルに基づき、PUSH演出に対応する態様で遊技効果ランプ9に含まれる各ランプが点灯する。たとえば、PUSH演出中においては、スティックコントローラランプ9Jおよびトリガボタンランプ9Kが点灯や点滅をする。なお、PUSH演出中においては、スピーカ8L, 8Rからプッシュボタン31Bを押圧する操作を遊技者に促す効果音も出力されてよい。このように、PUSH演出においては、画像表示やランプの点灯や点滅、あるいは音によってプッシュボタン31Bを押圧する操作を遊技者に促すようになっている。

【0956】

図149 (b41)に示すように、PUSH演出中にプッシュボタン31Bが押圧操作されると、画像表示装置5の画面中央に表示されていたプッシュボタン31Bを示す画像、メタ画像、および「PUSH!!」の文字画像が消える。また、プッシュボタン31Bが押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様でスピーカ8L, 8RからPUSH音が出力される。当該PUSH音が出力されることで、遊技者はPUSH演出中にプッシュボタン31Bを有効に押圧できたことを認識することができる。なお、このスピーカ8L, 8RからのPUSH音の出力は、群予告演出（この例では爆チュー群予告）が開始するまでに終了する。また、プッシュボタン31Bが押圧操作されたときに、ボタン押圧に対応する態様で遊技効果ランプ9が点灯や点滅する。この例では、枠ランプが全て高輝度で点灯する。

【0957】

図 1 4 9 (b 4 2) に示すように、一旦、画像表示装置 5 の画面の表示が通常的背景画像の表示に戻り、背景に対応する態様で遊技効果ランプ 9 が点灯や点滅する。

【0 9 5 8】

図 1 5 0 (b 4 3) に示すように、爆チュー群予告が開始するが、キャラクターが登場する前に、一旦遊技効果ランプ 9 が消灯する。これにより、これから群予告演出が実行することに対して遊技者に注目させることができる。

【0 9 5 9】

図 1 5 0 (b 4 4) に示すように、第 1 表示期間において、1 番目（最初）のキャラクターが登場する。なお、図 1 5 0 (b 4 4) に示す状態は、最初（1 番目）に表示されたキャラクターの全体が未だ表示されていない一方で当該最初に表示されたキャラクターの一部（この例では顔の一部）が表示されている第 1 状況を表している。

10

【0 9 6 0】

爆チュー群予告の実行中においては、図 6 1～図 6 7 に示した輝度データテーブルに基づき、群予告演出に対応する態様で遊技効果ランプ 9 に含まれる各ランプが点灯する。たとえば、図 1 5 0～図 1 5 2 に示す第 1 表示期間においては、群予告においてキャラクターが登場する箇所付近に位置する枠右ランプ 9 R 5～9 R 8 が高輝度で点灯し始め、その後、キャラクターが進行する方向に合わせて高輝度で点灯するランプの箇所が移動する。

【0 9 6 1】

群予告演出中においては、群予告演出に応じた演出音がスピーカ 8 L，8 R から出力される。なお、群予告演出に応じた演出音の音量について、図 5 8 に示したように、第 1 表示期間の開始に関連するタイミングで群予告演出に対応する演出音の出力を開始し、当該第 1 表示期間において当該演出音の音量を特定音量まで上げ、第 2 表示期間において当該演出音の音量を当該特定音量で維持し、第 3 表示期間において当該演出音の音量を下げるようになっている。なお、群予告演出が開始したときには、群予告演出に応じた演出音とは別に、群予告演出の開始を示唆する開始音がスピーカ 8 L，8 R から出力されるが、2 番目のキャラクターが登場するまでには開始音の出力が停止する。

20

【0 9 6 2】

図 1 5 0 (b 4 5) に示すように、最初のキャラクターが登場して間もなく、2 番目のキャラクターが登場する。なお、図 1 5 0 (b 4 5) に示す状態は、最初に表示されたキャラクターの全体が未だ表示されていない一方で当該最初に表示されたキャラクターの一部が第 1 状況よりも表示され、かつ 2 番目に表示されたキャラクターの全体が未だ表示されていない一方で当該 2 番目に表示されたキャラクターの一部（この例では顔の一部）が表示された第 2 状況を表している。

30

【0 9 6 3】

図 1 5 1 (b 4 6)～(b 4 8) に示すように、キャラクターが次々と登場し、画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。なお、群予告演出において用いられる画面上の表示領域は、SP 前半タイトル予告演出における「爆チューを捕まえる！」の表示領域よりも大きい。

【0 9 6 4】

図 1 5 2 (b 4 9) に示すように、キャラクターが進行し続け、やがてトップ（先頭）を走る最初に表示されたキャラクターが画面左端に到達する。図 1 5 2 (b 5 0) に示すように、トップ（先頭）を走る最初に表示されたキャラクターが画面左端から消え始める。図 1 5 2 (b 5 1) に示すように、トップを走る最初に表示されたキャラクターが画面左端から最初に消える。これにより、第 1 表示期間が終了する。

40

【0 9 6 5】

図 1 5 3 (b 5 2) に示すように、第 2 表示期間において、キャラクターが次々と登場し、画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。図 1 5 3 および図 1 5 4 に示す第 2 表示期間においては、群予告演出においてキャラクターが群をなして進行する様子に合わせて枠ランプがまばらに高輝度で点灯する。これにより、キャラクターが群を形成して走り抜けるアニメーション表示に合わせて枠ランプが点灯や点滅するよう

50

になる。また、スピーカ 8 L, 8 R から出力される群予告に対応する演出音には、たとえば、キャラクタが走り抜けるアニメーション表示に合わせて足音などが含まれる。その後、図 1 5 3 (b 5 2) ~ 図 1 5 4 (b 5 7) に示すように、キャラクタが次々と登場し、画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。

【0966】

キャラクタが群となって画面の左側から右側に向かって走り抜けることにより、画面全体をキャラクタが覆うことになり、遊技者が「爆チューを捕まえる！」のタイトル表示を視認困難または視認できないようになる。

【0967】

図 1 5 5 (b 5 8) に示すように、第 3 表示期間においては、最後のキャラクタが登場し、他のキャラクタとともに画面の左側から右側に向かって走り抜けるアニメーションが表示される。なお、第 3 表示期間においては、新たなキャラクタは登場しない。第 3 表示期においては、図 1 5 5 および図 1 5 6 に示すように、群予告においてキャラクタが画面の左端へと消えていく演出に合わせて、枠ランプもパチンコ遊技機 1 の右側から左側にかけて消灯または低輝度で点灯する位置を変化させるようになる。なお、図 1 5 5 (b 5 8) に示すように、第 3 表示期間に入ると、遊技効果ランプ 9 の全てが一旦、高輝度で点灯する。

【0968】

図 1 5 5 (b 5 9) に示すように、キャラクタが画面の左端へと消えていくに従って、枠ランプが消灯し始める。図 1 5 5 (b 5 9) に示す例では、画面の右半分の領域でキャラクタが表示されていないため、枠右ランプ 9 R の一部が消灯している。図 1 5 5 (b 6 0) に示すように、さらにキャラクタが画面の左端へと消えていくに従って、消灯する枠右ランプ 9 R の数が増加する。

【0969】

図 1 5 5 に示すように、キャラクタが画面の左端へと消えていくに従って、「爆チューを捕まえる！」のタイトル表示が段階的に徐々に再び現れる。このとき、SP 前半タイトル予告抽選で当選している場合、「爆チューを捕まえる！」のタイトル表示の表示態様（たとえば、色、模様、形など）が変化することで SP 前半タイトル予告が行われる。たとえば、図 1 4 8 (b 3 9) に示すように爆チュー群予告が実行される前においては、SP リーチ前半におけるタイトル表示の「爆チューを捕まえる！」の文字が白色であるが、図 1 5 4 (b 5 6) に示すように、その後、タイトル表示が行われているレイヤーの前面側のレイヤーで群予告におけるキャラクタ画像が表示されると、タイトル表示が視認困難または見えなくなる。群予告におけるキャラクタ画像によって画面全体が覆われている間、タイトル表示における「爆チューを捕まえる！」の文字が赤色に切り替わり、図 1 5 5 (b 5 9), (b 6 0) に示すように、群予告におけるキャラクタが画面の左端へと消えていくと、その赤色になったタイトル表示が段階的に徐々に現れて見えるようになる。

【0970】

図 1 5 6 (b 6 1) および (b 6 2) に示すように、キャラクタが段階的に徐々に消えるに従って、消灯する遊技効果ランプ 9 の数が増加する。図 1 5 6 (b 6 3) に示すように、最後のキャラクタが消えると群予告演出が終了する。その後、図 1 1 0 (c 1) に示す SP リーチ前半の演出に移行する。

【0971】

(ボインゴ群予告)

図 1 5 7 ~ 図 1 6 6 を参照しながら、ボインゴ群予告の演出態様について説明する。

【0972】

前述した 6 人群予告および爆チュー群予告は、画面の右端から左端に向かって複数のキャラクタが群となって進行するものであった。このように、6 人群予告および爆チュー群予告は、図 4 9 に示す X-Y 平面において X 軸方向にキャラクタが進行する演出であった。一方、ボインゴ群予告は、画面の Z 軸方向にもキャラクタ（ボインゴ）が移動可能である。すなわち、ボインゴ群予告は、X-Y-Z の 3 次元の立体空間においてキャラクタが

10

20

30

40

50

進行する３Ｄ演出である。

【０９７３】

図１５７～図１６２は、ステージＡにおいてボイング群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。なお、ステージＢにおいてボイング群が実行された場合においても、図１５７～図１６２に示す演出態様と同じである。また、図示は省略するが、ボイング群予告演出においても、６人群予告演出や爆チュー群予告演出と同様に、第１表示期間、第２表示期間、および第３表示期間が設けられている。

【０９７４】

図１５７（ｄ１）に示すように、ボイング群予告が開始するが、キャラクタが登場する前に、一旦遊技効果ランプ９が消灯する。これにより、これから群予告演出が実行することに対して遊技者に注目させることができる。

【０９７５】

ボイング群予告の実行中においては、たとえば、図６１～図６７に示した輝度データテーブルに基づき、群予告演出に対応する態様で遊技効果ランプ９に含まれる各ランプが点灯する。たとえば、群予告においてキャラクタが登場する箇所付近に位置する枠右ランプ９Ｒ５～９Ｒ８が高輝度で点灯し始め、その後、キャラクタが進行する方向に合わせて高輝度で点灯するランプの箇所が移動する。また、群予告演出においてキャラクタが群をなして進行する様子に合わせて枠ランプがまばらに高輝度で点灯する。これにより、キャラクタが群を形成して走り抜けるアニメーション表示に合わせて枠ランプが点灯や点滅するようになる。また、スピーカ８Ｌ，８Ｒから出力される群予告に対応する演出音には、たとえば、キャラクタが走り抜けるアニメーション表示に合わせて足音などが含まれる。

【０９７６】

図１５７（ｄ２）に示すように、画面における特定位置においてキャラクタ（ボイング）が現れる前の前段演出として光のエフェクトによる前段画像が表示される。特定位置は、キャラクタ群が出現する群出現ポイントである。その後、図１５７（ｄ３）に示すように、光のエフェクトによる前段画像によって視認困難となった特定位置から最初のキャラクタが現れる。

【０９７７】

その後、図１５８（ｄ４），（ｄ５）に示すように２番目および３番目のキャラクタが登場するとともに、各キャラクタが段階的に徐々に画面に向かうようにして進行してくるようなアニメーションが表示される。図１５８（ｄ６）に示すように、最初に表示されたキャラクタ（１番目のキャラクタ）が拡大表示されていくに従って、キャラクタが現れる特定位置が１番目のキャラクタによって視認困難または視認できなくなる。

【０９７８】

その後、図１５９（ｄ７）～（ｄ９）に示すように、キャラクタが群となって画面の奥行側から手前側に向かって進行することにより、画面全体をキャラクタが覆うことになる。図１６０（ｄ１０）～（ｄ１２）に示すように、最後のキャラクタが登場し、画面の奥行側から手前側に向かって進行する。

【０９７９】

その後、図１６１（ｄ１３），（ｄ１４）に示すように、最後のキャラクタが画面の奥行側から手前側に向かって進行するに従って、画面の大部分を覆うようになる。そして、図１６１（ｄ１５）に示すように、最後のキャラクタが画面の一端部から他端部に及び範囲に亘って拡大表示され、最後のキャラクタによって画面全体が覆われる。

【０９８０】

その後、図１６２（ｄ１６），（ｄ１７）に示すように、最後のキャラクタが画面から消えるに従って、元の背景画像が表示されていき、図１５３（ｄ１８）に示すように、最後のキャラクタが消えると群予告演出が終了する。

【０９８１】

図１６３は、ボイング群予告の詳細を説明するための図である。図１６３（Ａ）～（Ｆ）は、各々図１５７（ｄ３）～図１５８（ｄ６），図１５９（ｄ８），（ｄ９）に対応す

10

20

30

40

50

る。

【0982】

図163(A)に示すように、群出現ポイントから最初のキャラクタが登場し、図163(B)～(F)に示すように、群出現ポイントからキャラクタが次々と登場する。ここで、最初に表示されたキャラクタ(1番目のキャラクタ)が拡大表示されていくに従って、キャラクタが現れる特定位置が1番目のキャラクタによって視認困難または視認できなくなる。このため、図163(E)，(F)に示すように、1番目のキャラクタによって隠れた位置には後続のキャラクタ画像を配置しても視認できないため、当該後続のキャラクタ画像を配置しなくてもよい。

【0983】

ここで、図164および図165を参照しながら、ポインゴ群予告の比較例と、本実施の形態に係るポインゴ群予告とを比較する。図164に示す比較例においては、画面における特定位置(群出現ポイント)においてキャラクタ(ポインゴ)が現れるが、図157(d2)に示すような光のエフェクトによる前段画像は表示されない。このため、突然、キャラクタが大きく現れるという違和感を無くすために、図164および図165に示すように、キャラクタを小さく表示させて、段階的に徐々に大きく表示するようにアニメーションを作成しなければならない。

【0984】

よって、比較例においては、図165(d106)に示すような図157(d3)に示す大きさでキャラクタが表示できるまで、図164(d101)～図165(d105)に示すようなアニメーション表示を経由しなければならない。その分、演出時間も余分に掛かるし、アニメーション用の画像も作成しなければならない。これに対して、本実施の絵形態の場合、図157(d2)，(d3)に示すように、キャラクタが現れる前の前段演出として光のエフェクトによる前段画像が表示されるため、この光のエフェクトによる前段画像の表示によって視認困難となった特定位置から最初のキャラクタを表示させることで、ある程度の大きさ(図157(d3)や図165(d106)に示す大きさ)で最初からキャラクタを表示させることができる。

【0985】

(ポインゴ群予告の変形例)

図166は、変形例に係るポインゴ群予告が実行された場合の演出態様を説明するための図である。図166に示す例を、図162に示す例に置き換えてもよい。たとえば、図166(d101)～(d103)に示すように、最後に表示されたキャラクタが消えていくに従って、SP前半のタイトル画像が表示されてもよい。すなわち、図157(d1)に示すように、通常背景の画像が表示されたレイヤーの前面側のレイヤーで群予告演におけるキャラクタ画像によって画面全体が覆われている間、図166(d103)に示すように、通常背景の画像がSP前半のタイトル画像に切り替わってもよい。このように、SP前半タイトル予告演出などの予告演出の実行中において、群予告演出が実行されてもよい。

【0986】

また、ポインゴ群予告におけるSP前半のタイトル画像は、図156に示すように表示態様が変化することで大当りの予告を行うものであってもよい。また、最後のキャラクタが拡大表示されることで画面全体を覆うのではなく、群予告演出に用いられた背景画像が巻物のように巻かれるアニメーションによって、次の演出に切り替わってもよい。

【0987】

(犬群予告)

図167～図169を参照しながら、犬群予告の演出態様について説明する。

【0988】

本実施の形態においては、群予告演出として、6人群予告、爆チュー予告、およびポインゴ群予告を例示したが、パチンコ遊技機1は、図167～図169に示すような犬群予告と称される群予告演出を実行するものであってもよい。

【0989】

具体的には、図167(e1)に示すように、1番目のキャラクタが表示され、その後、図167(e2)に示すように複数の犬のキャラクタが次々と登場し、図167(e3)に示すように画面領域がキャラクタ群によって覆われてもよい。

【0990】

その後、図168(e4)～(e6)に示すように、最後に表示されたキャラクタが消えていくに従って、SP前半のタイトル画像が表示される。すなわち、図167(e3)に示すように、通常背景の画像が表示されたレイヤーの前面側のレイヤーで群予告演出におけるキャラクタ画像によって画面全体が覆われている間、図168(e6)に示すように、通常背景の画像がSP前半のタイトル画像に切り替わる。そして、最後尾に位置する複数のキャラクタが通過した後の画面においては、その後のSPリーチ前半の演出に対応するSP前半のタイトル画像の表示が行われる。

【0991】

また、犬群予告におけるSP前半のタイトル画像は、図156に示すように表示態様が変化することで大当りの予告を行うものであってもよい。

【0992】

図169に示すように、6人群予告と犬群予告とを比較すると、犬群予告において最初に表示されるキャラクタと最後に表示されるキャラクタとの間の距離(X軸上における両者間の長さ)X2は、6人群予告において最初に表示されるキャラクタと最後に表示されるキャラクタとの間の距離(X軸上における両者間の長さ)X1よりも短い。また、実行時間は両者で同じまたは略同一であるため、犬群予告においてキャラクタが進行する速度V2は、6人群予告においてキャラクタが進行する速度V1よりも遅い。さらに、犬群予告における複数のキャラクタの密集度D2は、6人群予告における複数のキャラクタの密集度D1よりも大きい。また、犬群予告演出は6人群予告演出よりも大当りの期待度(信頼度)が高くなっており、犬群予告演出は6人群予告演出よりも出現率(実行確率)が低くなっている。

【0993】

(リーチライン演出中の群予告演出の実行)

図170および図171を参照しながら、リーチライン中に群予告演出が実行された場合の演出態様について説明する。

【0994】

図170(f1)に示すように、リーチライン演出が実行された状態において、図170(f2)～(f4)に示すように群予告演出が実行され、その後、図171(f5)、(f6)に示すように、図柄送り演出が実行されてもよい。

【0995】

[主な構成および効果]

以下に、パチンコ遊技機1の各種の構成により得られる技術的效果を個別に列挙する。

【0996】

(1-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態(たとえば、大当り遊技状態)に制御可能な遊技機(たとえば、パチンコ遊技機1)であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出(たとえば、群予告演出)を実行する群演出実行手段(たとえば、図46に示す群予告実行処理、図93～図99に示す6人群予告演出)と、

可変表示の表示結果が前記特定表示結果となったことを祝福する画像を表示する祝福演出(たとえば、ファンファーレ演出)を実行する祝福演出実行手段(たとえば、演出制御用CPU120によるファンファーレ演出を実行する処理)と、を備え、

前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み(たとえば、図58に示す期間)、

前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キ

ャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図 9 3（a 2 3）～図 9 5（a 3 0）に示す期間）、

前記第 2 表示期間は、前記第 1 表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 9 6（a 3 1）～図 9 7（a 3 6）に示す期間）、

前記第 3 表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 9 8（a 3 7）～図 9 9（a 4 2）に示す期間）、

前記祝福演出は、前記群演出よりも後に実行可能であり（たとえば、図 9 3～図 9 9 に示す 6 人群予告演出が実行された後に図 1 1 4～図 1 1 6 に示すファンファーレ演出が実行される）、

可変表示の表示結果が前記特定表示結果とは異なるハズレ表示結果であることが示唆される場合（たとえば、変動番号 9 の変動パターンの場合）であって、当該可変表示が開始してから当該可変表示が当該ハズレ表示結果であることが示唆されるまでの第 1 所定期間（たとえば、図 5 9 に示す T 1 + T 2 の期間）においては、当該第 1 所定期間のうちの後半で前記第 1 表示期間が開始し（たとえば、図 5 9，図 6 0 に示す例）、

可変表示の表示結果が前記特定表示結果であることが示唆される場合（たとえば、変動番号 2 0，2 3，2 6 の変動パターンの場合）であって、当該可変表示が開始してから当該可変表示が当該特定表示結果であることが示唆されるまでの第 2 所定期間（たとえば、T 3 + T 4 の期間、T 5 + T 6 の期間、T 7 + T 8 の期間）においては、当該第 2 所定期間のうちの前半で前記第 1 表示期間が開始する（たとえば、図 5 9，図 6 0 に示す例）。

【0 9 9 7】

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第 2 表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第 1 表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、可変表示の結果が確定するまでの間、時間の経過とともに高揚感は薄れてくることがあるが、可変表示の結果がハズレ表示結果となる変動パターンの場合、可変表示の時間の後半で群予告演出が実行されることで高揚感を持続させたり再び呼び起したりすることができる。一方、可変表示の結果が当たり表示結果となる変動パターンの場合、祝福演出であるファンファーレ演出が実行されるため、可変表示の時間の前半で群予告演出が実行されることで高揚感を持たせ、その後、時間の経過とともに高揚感が薄れたとしても、祝福演出によって高揚感を持続させたり再び呼び起したりすることができる。

【0 9 9 8】

「特定表示結果」は、可変表示の表示結果がその特定表示結果となったことに基づいて有利状態に制御可能となる表示結果である。すなわち、特定表示結果は、導出されたとしても、遊技状態が有利状態に制御されるための表示結果である。本実施の形態においては、特図 L E D 基板 9 0 2 0 の特図 1 可変表示部 9 0 2 1 における点灯態様の組合せが大当りに対応する点灯態様の組合せとなったときに大当たりが発生し、当該大当たりに対応する点灯態様の組合せが特定表示結果となる。また、特図 L E D 基板 9 0 2 0 の特図 2 可変表示部 9 0 2 2 における点灯態様の組合せが大当りに対応する点灯態様の組合せとなったときに大当たりが発生し、当該大当たりに対応する点灯態様の組合せが特定表示結果となる。さらに、画像表示装置 5 の飾り図柄表示エリア 5 L，5 C，5 R において可変表示している飾り図柄が特定の特別図柄（たとえば、「3，3，3」や「7，7，7」などの大当たり図柄組合せ）となって停止したときに大当たりが発生し、当該特定の特別図柄の表示が特定表示結果となる。

【0 9 9 9】

「ハズレ表示結果」は、特定表示結果とは異なる表示結果であり、可変表示の表示結果がそのハズレ表示結果となったことに基づいては有利状態に制御されない表示結果である。すなわち、ハズレ表示結果は、導出されたとしても、遊技状態が有利状態に制御されないことがない表示結果である。本実施の形態においては、特図 L E D 基板 9 0 2 0 の特図 1

可変表示部 9021 における点灯態様の組合せがハズレに対応する点灯態様の組合せとなったときに当該ゲームの結果がハズレとなり、当該ハズレに対応する点灯態様の組合せがハズレ表示結果となる。また、特図 LED 基板 9020 の特図 2 可変表示部 9022 における点灯態様の組合せがハズレに対応する点灯態様の組合せとなったときに当該ゲームの結果がハズレとなり、当該ハズレに対応する点灯態様の組合せがハズレ表示結果となる。さらに、画像表示装置 5 の飾り図柄表示エリア 5L, 5C, 5R において可変表示している飾り図柄が特定の所定図柄（たとえば、「3, 2, 3」などのハズレ図柄組合せ）となって停止したときに当該ゲームの結果がハズレとなり、当該所定図柄の表示がハズレ表示結果となる。

【1000】

10

「有利状態」は、遊技者にとって有利な状態であり、制御されることによって、遊技用価値付与率（たとえば、遊技球の払出率）が 1 以上または 1 を超える遊技状態である。本実施の形態においては、有利状態として、通常大当り 1, 2、確変大当り 1~9 の各々が発生したときに制御される大当り遊技状態が例示されている。なお、有利状態は、小当りが発生したときに制御される小当り遊技状態であってもよいし、確変状態や時短状態であってもよい。

【1001】

「キャラクタの新たな表示」は、群予告演出において最初に表示されたキャラクタと同じ種類のキャラクタであってもよいし、群予告演出において最初に表示されたキャラクタと異なる種類のキャラクタであってもよい。

20

【1002】

「祝福演出」は、可変表示の表示結果が特定表示結果となったことを祝福する画像を表示する演出であり、可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づき有利状態に制御されることを祝福する画像を表示する演出でもある。「祝福する」は、可変表示の表示結果が特定表示結果となったこと、あるいは有利状態に制御されることを遊技者に示唆または報知したりすることを含む。また、「祝福する」は、可変表示の表示結果が特定表示結果となったこと、あるいは有利状態に制御されることを示唆または報知したりすることで、遊技者の有利状態に対する期待感を向上させたりすることを含む。たとえば、祝福演出は、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 9021 における点灯態様の組合せが大当りに対応する点灯態様の組合せとなったこと、特図 LED 基板 9020 の特図 2 可変表示部 9022 における点灯態様の組合せが大当りに対応する点灯態様の組合せとなったこと、あるいは、画像表示装置 5 の飾り図柄表示エリア 5L, 5C, 5R において可変表示している飾り図柄が特定の特別図柄（大当り図柄）となったこと、あるいは大当り遊技状態に制御されることを遊技者に示唆または報知したりする画像を表示することを含む。

30

【1003】

「前記祝福演出は、前記群演出よりも後に実行可能であり」は、1 の保留記憶に基づく可変表示内において群予告演出が実行され、その後、当該 1 の保留記憶に基づく可変表示内において祝福演出が実行されることを含む。また、「前記祝福演出は、前記群演出よりも後に実行可能であり」は、1 の保留記憶に基づく可変表示の表示結果が特定表示結果となることを当該 1 の保留記憶に基づく可変表示の表示結果が開始される前から示唆または予告する先読み演出として、群予告演出が実行される場合、当該群予告演出が実行され、その後、当該 1 の保留記憶に基づく可変表示が開始されて当該 1 の保留記憶に基づく可変表示内において祝福演出が実行されることを含む。

40

【1004】

「第 1 所定期間」は、可変表示が開始してから当該可変表示の表示結果がハズレ表示結果であることが示唆されるまでの期間であり、本実施の形態においては、図 59 および図 60 に示す T1 + T2 の期間によって例示される。「可変表示の表示結果がハズレ表示結果であることが示唆される」は、特図 LED 基板 9020 の特図 1 可変表示部 9021 における点灯態様の組合せがハズレに対応する点灯態様の組合せとなること、特図 LED 基

50

板 9 0 2 0 の特図 2 可変表示部 9 0 2 2 における点灯態様の組合せが大当りに対応する点灯態様の組合せがハズレに対応する点灯態様の組合せとなること、画像表示装置 5 の飾り図柄表示エリア 5 L , 5 C , 5 R において可変表示している飾り図柄が特定の所定図柄（ハズレ図柄組合せ）となって停止することを含む。また、可変表示の表示結果がハズレ表示結果となるときに特定タイミングで可動体 3 2 が動作しない一方で、可変表示の表示結果が当り表示結果となるときに特定タイミングで可動体 3 2 が動作する場合、「可変表示の表示結果がハズレ表示結果であることが示唆される」は、特定タイミングで可動体 3 2 が動作しないことで遊技者に可変表示の表示結果がハズレ表示結果となることを示唆または報知することを含む。なお、特定タイミングは、遊技者に対して上述した P U S H 演出などの操作手段の操作を促す演出が行われ、遊技者が操作手段を操作することで大当り時は可動体 3 2 が動作するタイミングであってもよい。

10

【1 0 0 5】

「第 2 所定期間」は、可変表示が開始してから当該可変表示の表示結果が特定表示結果であることが示唆されるまでの期間であり、本実施の形態においては、図 5 9 および図 6 0 に示す T 3 + T 4 の期間、T 5 + T 6 の期間、および T 7 + T 8 の期間によって例示される。「可変表示の表示結果が特定表示結果であることが示唆される」は、特図 L E D 基板 9 0 2 0 の特図 1 可変表示部 9 0 2 1 における点灯態様の組合せが大当りに対応する点灯態様の組合せとなること、特図 L E D 基板 9 0 2 0 の特図 2 可変表示部 9 0 2 2 における点灯態様の組合せが大当りに対応する点灯態様の組合せとなること、画像表示装置 5 の飾り図柄表示エリア 5 L , 5 C , 5 R において可変表示している飾り図柄が特定の特別図柄（大当り図柄組合せ）となって停止することを含む。また、可変表示の表示結果がハズレ表示結果となるときに特定タイミングで可動体 3 2 が動作しない一方で、可変表示の表示結果が当り表示結果となるときに特定タイミングで可動体 3 2 が動作する場合、「可変表示の表示結果が特定表示結果であることが示唆される」は、特定タイミングで可動体 3 2 が動作することで遊技者に可変表示の表示結果が特定表示結果となることを示唆または報知することを含む。なお、特定タイミングは、遊技者に対して上述した P U S H 演出などの操作手段の操作を促す演出が行われ、遊技者が操作手段を操作することで大当り時は可動体 3 2 が動作するタイミングであってもよい。

20

【1 0 0 6】

(1 - 2) 前記第 2 表示期間は、前記第 1 表示期間および前記第 3 表示期間の各々よりも長い期間であり、前記第 3 表示期間は、前記第 1 表示期間よりも長い期間である（たとえば、図 5 8 に示す各表示期間）。

30

【1 0 0 7】

これより、群予告演出において次々とキャラクタが登場する第 2 表示期間を最も長い期間とすることで、群予告演出を迫力のあるものにすることができる。さらに、最初にキャラクタが登場してから最初にキャラクタが去っていくまでの第 1 表示期間を最も短い期間とすることで、突然実行される群予告演出がだらけたものとなることを防止することができる。

【1 0 0 8】

(1 - 3) 前記第 1 表示期間において最初に表示されるキャラクタは、前記遊技機のコンテンツにおいて優先度の高いキャラクタ（たとえば、主人公である夢夢ちゃん）である。

40

【1 0 0 9】

これにより、群予告演出において最初に登場するキャラクタは、主人公のような優先度の高いキャラクタであり、遊技者にとって見慣れたキャラクタであるが、その後、他の演出などにおいて主人公より登場頻度の少ないキャラクタが群予告演出で登場することで、群予告演出について遊技者に驚きを与えたり、レアな演出であると遊技者に感じさせたりすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1 0 1 0】

「優先度の高いキャラクタ」は、パチンコ遊技機 1 で用いられるコンテンツにおいて登

50

場する主人公や当該主人公以外のキャラクタの中で最も優先度の高いキャラクタを含み、他のキャラクタよりもパチンコ遊技機 1 で実行される演出において登場する頻度（回数）が大きいキャラクタを含む。

【1011】

（1-4） 可変表示の表示結果が前記特定表示結果であることが示唆される場合（たとえば、変動番号 20, 23, 26 の変動パターンの場合）であって、前記群演出においてキャラクタの表示が最初に開始するタイミングは、前記第 2 所定期間のうちの前半部分のうち、当該第 2 所定期間の半分に近いタイミングである（たとえば、図 59, 図 60 に示す例）。

【1012】

これにより、可変表示の結果が当り表示結果となる変動パターンの場合において、可変表示の時間の前半で群予告演出を実行したとしても、当該前半でも後半に近い付近で群予告演出を実行することで、群予告演出の余韻を少しでも後の方に延ばすことができる。

【1013】

（1-5） 可変表示の表示結果が前記特定表示結果であることが示唆されるパターン（たとえば、変動番号 20, 23, 26 の変動パターン）は、当該可変表示の表示結果が前記ハズレ表示結果となるように見せかけた後に、当該可変表示結果が前記特定表示結果となる救済パターン（たとえば、変動番号 23, 26 の変動パターン）を含み、

前記救済パターンにおいても、可変表示が開始してから当該可変表示が当該特定表示結果であることが示唆されるまでの前記第 2 所定期間においては、当該第 2 所定期間のうちの前半で前記第 1 表示期間が開始する（たとえば、図 59, 図 60 に示す例）。

【1014】

これにより、可変表示の表示結果がハズレ表示結果となるように見せかけた後に、当該可変表示の表示結果が当り表示結果となる救済パターンの場合においても、祝福演出であるファンファーレ演出が実行されるため、可変表示の時間の前半で群予告演出が実行されることで高揚感を持たせ、その後、時間の経過とともに高揚感が薄れたとしても、祝福演出によって高揚感を持続させたり再び呼び起したりすることができる。

【1015】

（1-6） 可変表示の表示結果が前記ハズレ表示結果であることが示唆されるパターン（たとえば、メイン変動番号 9, 12, 15 の変動パターン）と、可変表示の表示結果が前記特定表示結果であることが示唆されるパターン（たとえば、メイン変動番号 20, 23, 26 の変動パターン）とでは、可変表示の表示結果が前記ハズレ表示結果または前記特定表示結果であることが示唆されるまで、共通する表示が行われる（たとえば、図 86 ~ 図 135 に示す例）。

【1016】

これにより、たとえば、変動番号 9 の変動パターンと変動番号 20 の変動パターンとでは表示結果が確定するまで共通の演出が実行され、変動番号 12 の変動パターンと変動番号 23 の変動パターンとでは表示結果が確定するまで共通の演出が実行され、さらに、変動番号 15 の変動パターンと変動番号 26 の変動パターンとでは表示結果が確定するまで共通の演出が実行されるため、共通の演出が実行されている最中で群予告演出が実行されることに対して遊技者に注目させることができる。

【1017】

なお、可変表示の表示結果が前記ハズレ表示結果であることが示唆されるパターン（たとえば、メイン変動番号 9, 12, 15 の変動パターン）と、可変表示の表示結果が前記特定表示結果であることが示唆されるパターン（たとえば、メイン変動番号 20, 23, 26 の変動パターン）とでは、可変表示の表示結果が前記ハズレ表示結果または前記特定表示結果であることが示唆されるまで、互いに異なる表示が行われてもよい。

【1018】

これにより、互いに異なる演出が実行されている最中で群予告演出が実行されることに対して遊技者に注目させることができる。

10

20

30

40

50

【1019】

(1-7) 前記群演出の実行期間と、当該群予告とは異なる演出であって可変表示の表示結果が前記特定表示結果となることを予告する予告演出（たとえば、SP前半タイトル予告演出）の実行期間とが重なることがあり、

前記予告演出は、前記第3表示期間が終了した後に終了し、

前記群演出における表示は、前記予告演出における表示よりも、表示領域が大きい（たとえば、図150～図156に示す例）。

【1020】

これにより、SP前半タイトル予告演出などの予告演出が実行されているときに群予告演出が実行されたとしても、SP前半タイトル予告演出を遊技者に見せることができる。

10

【1021】

(1-8) 前記予告演出の実行中において、前記群演出が実行される（たとえば、図150～図156に示す例）。

【1022】

これにより、SP前半タイトル予告演出などの予告演出が実行されているときにおいて、群予告演出が実行されることに対して遊技者を注目させることができる。なお、SP前半タイトル予告演出などの予告演出と群予告演出とが同時に実行を開始することはない。

【1023】

(1-9) 前記群演出が実行されたときは、前記予告演出が実行されたときよりも、可変表示の表示結果が前記特定表示結果となる確率が高い（たとえば、図29に示すように、群予告は、SP前半タイトル予告よりも信頼度が高い）。

20

【1024】

これにより、群予告演出よりも大当りの期待度が低い他の予告演出は、群予告演出よりも優先度が高い前面側のレイヤーに表示されることはないため、遊技者に対して好適に大当りの示唆を行うことができる。このように、本実施の形態においては、大当りの期待度の高い演出に対して期待度の低い演出を前面側に被せることはない。

【1025】

(1-12) 前記群演出の実行中において、背景表示、および前記予告演出における表示のいずれにおいても明度が下がる一方で、遊技に関する情報の表示（たとえば、第1保留記憶数や第2保留記憶数を示す第4図柄5Jや小図柄5M、および第1保留記憶表示エリア5D、第2保留記憶表示エリア5U、アクティブ表示エリア5A）においては明度が下がらない。

30

【1026】

これにより、群予告演出が実行された場合、背景表示や他の予告演出に関する画像（たとえば、群予告演出よりも期待度の低いSP前半タイトル予告演出に関する画像）については明度を下げる一方で、遊技者にとって遊技の勝敗や有利度に関して重要度の高い遊技に関する情報の表示については優先度を高くして、群予告演出が実行されても明度を下げないため、極力、遊技者に対して重要な情報を示すことができる。

【1027】

(2-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機1）であって、

40

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図46に示す群予告実行処理、図93～図99に示す6人群予告演出）を備え、

前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み（たとえば、図58に示す期間）、

前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図93（a23）～図95（a30）に示す期間）、

50

前記第 2 表示期間は、前記第 1 表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 9 6（a 3 1）～図 9 7（a 3 6）に示す期間）、

前記第 3 表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 9 8（a 3 7）～図 9 9（a 4 2）に示す期間）、

前記第 1 表示期間において、最初に表示されたキャラクタの一部が表示されている第 1 状況から、当該最初に表示されたキャラクタの一部が前記第 1 状況よりも表示され、かつ 2 番目に表示されたキャラクタの一部が表示された第 2 状況になる（たとえば、図 5 6，図 9 3 に示す例）。

【1028】

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第 2 表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第 1 表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、群予告演出において、1 人のみが表示されてしまう状況がないため、群予告演出であるのか否かといった疑問や 1 人しか登場しないのではないかという勘違いを生じさせないようにすることができる。

【1029】

「最初に表示されたキャラクタの一部が表示されている第 1 状況」は、図 5 6（a）に示したように、画像表示装置 5 の画面において、最初に表示されたキャラクタの全体が未だ表示されていない一方で、画像表示装置 5 の画面の端において、当該キャラクタの一部が表示されている状況、あるいは、図 9 3（a）に示したように、遊技機用枠 3 が画像表示装置 5 の画面に被さった状態における遊技者が視認可能な表示領域において、最初に表示されたキャラクタの全体が未だ表示されていない一方で、遊技者が視認可能な表示領域の端において、当該キャラクタの一部が表示されている状況を含む。すなわち、第 2 状況は、最初に登場するキャラクタが完全に見えないが、当該最初に登場するキャラクタの一部は見える状況を含む。

【1030】

「当該最初に表示されたキャラクタの一部が前記第 1 状況よりも表示され、かつ 2 番目に表示されたキャラクタの一部が表示された第 2 状況」は、図 5 6（b）に示したように、画像表示装置 5 の画面において、最初に表示されたキャラクタの全体が未だ表示されていない一方で、画像表示装置 5 の画面の端において、当該キャラクタの一部が第 1 状況よりも表示され、かつ 2 番目に表示されたキャラクタの全体が未だ表示されていない一方で、画像表示装置 5 の画面の端において、当該キャラクタの一部が表示されている状況、あるいは、図 9 3（b）に示したように、遊技機用枠 3 が画像表示装置 5 の画面に被さった状態における遊技者が視認可能な表示領域において、最初に表示されたキャラクタの全体が未だ表示されていない一方で、遊技者が視認可能な表示領域端において、当該キャラクタの一部が第 1 状況よりも表示され、かつ 2 番目に表示されたキャラクタの全体が未だ表示されていない一方で、遊技者が視認可能な表示領域端において、当該キャラクタの一部が表示されている状況を含む。すなわち、第 2 状況は、最初に登場するキャラクタが完全に見える前に、当該最初に登場するキャラクタに続いて 2 番目のキャラクタが登場する状況を含む。

【1031】

（2-2） 前記群演出において、最初に表示されたキャラクタと、2 番目に表示されたキャラクタとは、画面上の縦方向に沿った Y 軸の位置座標が異なる。

【1032】

これにより、最初のキャラクタと 2 番目のキャラクタとが Y 軸上で重なることがないため、1 人しか登場しないのではないかという勘違いを生じさせないようにすることができる。

【1033】

10

20

30

40

50

(2-3) 前記群演出におけるキャラクタの表示に対してモーションブラー処理が行われている(たとえば、図54に示す例)。

【1034】

これにより、各キャラクタが複数のキャラクタであるように見せる効果があるため、1人しか登場しないのではないかという勘違いをより生じさせないようにすることができる。

【1035】

(2-4) 前記群予告演出の開始を示唆する音は、当該群演出において最初に表示されるキャラクタの表示中では出力されるが、2番目に表示されるキャラクタの表示が開始するまでに終了する(たとえば、図93に示す例)。

【1036】

これにより、群予告演出の開始を示唆する音が出力されるとともに最初のキャラクタが登場することで、群予告演出が実行されたことを遊技者に知らせることができる一方で、2番目のキャラクタが登場するまでには開始音が終了することで、好適に群予告演出を提供することができる。

【1037】

開始音は、最初に登場するキャラクタが登場する前から出力されてもよいし、最初に登場するキャラクタが登場したと同時に出力されてもよいが、2番目のキャラクタが登場するまでには終了する。

【1038】

(2-5) 前記群演出において表示される前記複数のキャラクタは、全身が画面の表示領域に収まって表示されるキャラクタと、全身の一部が当該画面の表示領域に収まることなく当該全身の他の部分が当該画面の表示領域に収まって表示されるキャラクタを含む(たとえば、図52に示す例)。

【1039】

これにより、領域に制限のある表示領域においてより多くのキャラクタを群予告演出に登場させることができる。

【1040】

(2-6) 前記群演出において表示される前記複数のキャラクタは、第1キャラクタ(たとえば、メイドA)と、当該第1キャラクタとは種類が異なる第2キャラクタ(たとえば、メイドB)とを含み、

前記第1表示期間、前記第2表示期間、および前記第3表示期間の各々において、全身が画面の表示領域に収まって表示される前記第1キャラクタと、全身の一部が当該画面の表示領域に収まることなく当該全身の他の部分が当該画面の表示領域に収まって表示される前記第1キャラクタとが混在して表示される(たとえば、図52に示す例)。

【1041】

これにより、領域に制限のある表示領域においてより多くの種類のキャラクタが群予告演出に登場しているかのように錯覚させることができる。

【1042】

(2-7) 画面の一部に遮蔽物(たとえば、遊技機用枠3)が覆い被さっており、当該遮蔽物が覆い被さっている位置において、前記群演出において最初に表示されるキャラクタの表示が開始し、その後、2番目に表示されるキャラクタの表示が開始するものであり、

前記遮蔽物が覆い被さった状態で画面を視認した場合であっても、前記第1表示期間において、前記第1状況から前記第2状況になる(たとえば、図56に示す例)。

【1043】

これにより、遊技者が実際に見る画面の表示領域においても、群予告演出において、1人のみが表示されてしまう状況がないため、群予告演出であるのか否かといった疑問や1人しか登場しないのではないかという勘違いを生じさせないようにすることができる。

【1044】

10

20

30

40

50

(2-8) 前記画面と前記遮蔽物との間に向けて前記遊技機を横から視認した場合、当該画面の端部を視認することが可能である(たとえば、図56に示す例)。

【1045】

これにより、遊技者がパチンコ遊技機1を横から視認して画面の端部を視認した場合であっても、群予告演出において、1人のみが表示されてしまう状況がないため、群予告演出であるのか否かといった疑問や1人しか登場しないのではないかという勘違いを生じさせないようにすることができる。

【1046】

(2-9) 設計段階において、所定サイズの画面に前記遮蔽物の位置に対応する領域にマスクを被せた状態で前記群演出に関する表示が作成され、さらに、当該画面の当該所定サイズ(たとえば、19インチ)よりも大きなサイズ(たとえば、20インチ)に適用できるように、当該大きなサイズに対応する領域まで当該群演出に関する表示が作成される。

10

【1047】

これにより、急に所定サイズよりも大きなサイズを用いるようにパチンコ遊技機1が設計変更された場合でも、作成した群予告演出のデータを適用することができる。

【1048】

(2-10) 前記群演出において表示される前記複数のキャラクタは、前記遊技機のコンテンツにおいて重要度の低い低重要度キャラクタ(たとえば、メイドC~F)と、当該低重要度キャラクタよりも当該遊技機のコンテンツにおいて重要度の高い高重要度キャラクタ(たとえば、メイドA, B)とを含み、

20

前記高重要度キャラクタは、前記低重要度キャラクタよりも、顔が画面の表示領域に収まることなく全身の顔以外の部分が当該画面の表示領域に収まって表示される割合が低い(たとえば、図52に示す例)。

【1049】

これにより、主人公のような重要度の高いキャラクタは、脇役のような重要度の低いキャラクタよりも、群予告演出において顔を認識させ易くすることで、遊技の興趣を向上させることができる。

【1050】

(3-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態(たとえば、大当り遊技状態)に制御可能な遊技機(たとえば、パチンコ遊技機1)であって、

30

演出を実行する演出実行手段(たとえば、図46に示す群予告実行処理などを実行する演出制御用CPU120)を備え、

前記演出実行手段によって実行される演出は、複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出(たとえば、図93~図99に示す群予告演出)を含み、

前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み(たとえば、図58に示す期間)、

前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり(たとえば、図93(a23)~図95(a30)に示す期間)、

40

前記第2表示期間は、前記第1表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり(たとえば、図96(a31)~図97(a36)に示す期間)、

前記第3表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり(たとえば、図98(a37)~図99(a42)に示す期間)、

前記群演出は、前記演出実行手段によって実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出である。

【1051】

50

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第2表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第1表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、群予告演出においては、全ての演出の中で最も多くのキャラクタが登場するため、大当たりとなる期待が持てる可変表示が行われていると遊技者に気付かせることができる。

【1052】

「前記群演出は、前記演出実行手段によって実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出である」は、パチンコ遊技機1において実行される全ての演出の中で、1の画面において表示されているキャラクタの数が最も多い演出が群予告演出であることを含む。また、「前記群演出は、前記演出実行手段によって実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出である」は、パチンコ遊技機1において実行される全ての演出のうち、飾り図柄の可変表示時の演出、リーチ時の演出、擬似連演出、大当たり発生時の演出など、1の保留記憶に基づく可変表示が行われている期間中に実行される演出の中で、1の画面において表示されているキャラクタの数が最も多い演出が群予告演出であることを含む。また、「前記群演出は、前記演出実行手段によって実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出である」は、大当たり遊技状態中やその後の確変状態や時短状態において実行される演出の中で、1の画面において表示されているキャラクタの数が最も多い演出が群予告演出であることを含む。なお、上述した例において、群予告演出は、表示されるキャラクタの種類の数については最も多い演出でなくともよい。

【1053】

さらに、「前記群演出は、前記演出実行手段によって実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出である」は、パチンコ遊技機1において実行される全ての演出の中で、当該演出中の全ての画面において表示されているキャラクタの合計数が最も多い演出が群予告演出であることを含む。また、「前記群演出は、前記演出実行手段によって実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出である」は、パチンコ遊技機1において実行される全ての演出のうち、飾り図柄の可変表示時の演出、リーチ時の演出、擬似連演出、大当たり発生時の演出など、1の保留記憶に基づく可変表示が行われている期間中に実行される演出の中で、当該演出中の全ての画面において表示されているキャラクタの合計数が最も多い演出が群予告演出であることを含む。また、「前記群演出は、前記演出実行手段によって実行可能な演出のうち、表示されるキャラクタの数が最も多い演出である」は、大当たり遊技状態中やその後の確変状態や時短状態において実行される演出の中で、当該演出中の全ての画面において表示されているキャラクタの合計数が最も多い演出が群予告演出であることを含む。なお、上述した例において、群予告演出は、表示されるキャラクタの種類の数については最も多い演出でなくともよい。

【1054】

(3-2) 前記群演出よりも表示されるキャラクタの数が少ない演出であって、複数のキャラクタが表示される特定演出（たとえば、SPリーチ後半や最終リーチの演出）が実行される。

【1055】

これにより、多様な演出を実行することができ、その中でも群予告演出において最も多くのキャラクタを登場させることができる。

【1056】

なお、特定演出は、表示されるキャラクタの種類の数については群予告演出よりも多い演出であってもよい。

【1057】

(3-3) 前記群演出の前記第2表示期間において表示されるキャラクタの数は、前記特定演出において表示されるキャラクタの数よりも多い。

【1058】

これにより、群予告演出の中でも、最も長い期間である第2表示期間において迫力のあ

る演出を遊技者に見せることができる。

【1059】

なお、群予告演出の第2表示期間において表示されるキャラクタの種類の数については、特定演出において表示されるキャラクタの種類の数よりも多くてもよい。

【1060】

(4-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機1）であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図46に示す群予告実行処理，図93～図99に示す6人群予告演出）を備え、

前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み（たとえば、図58に示す期間）、

前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図93（a23）～図95（a30）に示す期間）、

前記第2表示期間は、前記第1表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図96（a31）～図97（a36）に示す期間）、

前記第3表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図98（a37）～図99（a42）に示す期間）、

前記群演出において、

キャラクタが進行していることを表す補助表示が行われ、

第1キャラクタの表示と第2キャラクタの表示とが重なったときは、当該第1キャラクタの表示が当該第2キャラクタの表示よりも優先される一方で、当該第1キャラクタに対応する前記補助表示と前記第2キャラクタの表示とが重なったときは、当該第2キャラクタの表示が当該第1キャラクタに対応する前記補助表示よりも優先される（たとえば、図53に示す例）。

【1061】

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第2表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第1表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、キャラクタに対して補助表示をすることでより躍動感のある群予告演出を遊技者に見せることができつつも、補助表示で他のキャラクタの視認性を阻害しないため、より多くのキャラクタを明確に遊技者にみせることができる。

【1062】

「補助表示」は、キャラクタが進行していることを表す表示であればいずれのものであってもよく、たとえば、図53に示したようにキャラクタが進行していることを強調する画像表示（たとえば、砂煙の画像表示）であってもよいし、キャラクタが通った形跡を表す画像表示（たとえば、キャラクタの足跡の画像表示）であってもよいし、キャラクタ自体に付される画像表示（たとえば、キャラクタのオーラを表す画像表示）であってもよい。「補助表示」は、キャラクタの進行と関連して当該キャラクタの近辺において行われる画像表示であればよい。

【1063】

(4-2) 前記群演出におけるキャラクタの表示と、当該群演出における前記補助表示とでは、画面に表示されるレイヤーが異なる（たとえば、図51に示すように、砂煙の画像はレイヤー1、キャラクタの画像はレイヤー2以降のレイヤーに配置される）。

【1064】

これにより、群予告演出において、キャラクタ画像と補助表示を好適に遊技者にみせる

10

20

30

40

50

ことができる。

【1065】

(4-3) 前記群演出において表示される前記複数のキャラクタは、同じ種類の複数のキャラクタ（たとえば、レイヤー9、10のキャラクタC）を含み、

前記群演出に対応する動画データは、同じ種類の複数のキャラクタの各々に対応する第1キャラクタデータ（たとえば、レイヤー9のキャラクタCの動画データ）および第2キャラクタデータ（たとえば、レイヤー10のキャラクタCの動画データ）を含み、

前記第1キャラクタデータと、前記第2キャラクタデータとでは、キャラクタの移動速度に関するパラメータ値が異なる一方で、キャラクタの動作に関するアニメーションパラメータ値は同じである。

【1066】

これにより、キャラクタの移動速度を変更する際にでも、キャラクタの動作に関するアニメーションパラメータ値を共通化することで、群予告演出の設計に関して作業工程を削減することができる。

【1067】

(4-4) 前記群演出においては、画面上に配置された座標において、同じタイミングおよび同じ速度で複数のキャラクタが配置されない（たとえば、図51に示す例）。

【1068】

これにより、複数のキャラクタが同じ位置で同じように動作することがないため、群予告演出を好適に遊技者に見せることができる。

【1069】

(5-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機1）であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図46に示す群予告実行処理，図93～図99に示す6人群予告演出）を備え、

前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み（たとえば、図58に示す期間）、

前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図93（a23）～図95（a30）に示す期間）、

前記第2表示期間は、前記第1表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図96（a31）～図97（a36）に示す期間）、

前記第3表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることがなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図98（a37）～図99（a42）に示す期間）、

前記第1表示期間において、最初に表示されたキャラクタの表示が終了する前に、新たに表示されたキャラクタ（たとえば、2番目に表示されたキャラクタ）の表示が終了する（たとえば、図94，図95に示す例）。

【1070】

「新たに表示されたキャラクタ」は、図93～図95に示したように群予告演出において2番目に登場したキャラクタであってもよいし、群予告演出において3番目以降に登場したキャラクタであってもよい。群予告演出が複数のキャラクタが群となって進行する演出であることを鑑みると、「新たに表示されたキャラクタ」として、群予告演出において2番目に登場したキャラクタが最初に表示されたキャラクタの直後に位置して、当該2番目に登場したキャラクタが最初に表示されたキャラクタを追い抜かす方が躍動感や臨場感が出て好ましい。

【1071】

10

20

30

40

50

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第2表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第1表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、2番目に登場したキャラクタが最初に登場したキャラクタを抜かしてそのままトップで消えるため、躍動感のある群予告演出を遊技者に見せることができる。

【1072】

(5-2) 前記群演出において表示される前記複数のキャラクタは、他のキャラクタを追い抜くキャラクタを含み、

前記追い抜くキャラクタの数は、当該追い抜くキャラクタによって追い抜かれる前記他のキャラクタの数よりも多いか、または少ないかのいずれか一方である。

10

【1073】

これにより、群予告演出を複雑なものになり過ぎることを防止することができたり、躍動感のある群予告演出を遊技者に見せることができたりといったように、群予告演出を好適に遊技者にみせることができる。

【1074】

(5-3) 前記追い抜くキャラクタが前記他のキャラクタを追い抜く場合において、当該追い抜くキャラクタの表示と当該他のキャラクタの表示とが重なるときに、当該追い抜くキャラクタの輪郭は、当該他のキャラクタの輪郭よりも太く表示される(たとえば、図55に示す例)。

【1075】

20

これにより、キャラクタが他のキャラクタを追い抜く様子を分かり易く遊技者に見せることができる。

【1076】

(6-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態(たとえば、大当り遊技状態)に制御可能な遊技機(たとえば、パチンコ遊技機1)であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出(たとえば、群予告演出)を実行する群演出実行手段(たとえば、図46に示す群予告実行処理、図93~図99に示す6人群予告演出)と、

前記群演出の実行を示唆する示唆画像(たとえば、プッシュボタン31Bを示す画像、メータ画像、および「PUSH!!」の文字画像)を表示する示唆演出(たとえば、PUSH演出)を実行する示唆演出実行手段(たとえば、演出制御用CPU120によるPUSH演出を実行する処理)と、を備え、

30

前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み(たとえば、図58に示す期間)、

前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり(たとえば、図93(a23)~図95(a30)に示す期間)、

前記第2表示期間は、前記第1表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり(たとえば、図96(a31)~図97(a36)に示す期間)、

40

前記第3表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることがなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり(たとえば、図98(a37)~図99(a42)に示す期間)、

前記示唆画像の表示は、前記群演出における前記第1表示期間が開始するまでに終了する(たとえば、図92に示す例)。

【1077】

「示唆画像」は、群予告演出の実行を示唆する画像であればいずれの画像であってもよく、図92に示したように操作手段の操作を遊技者に促す画像であってもよいし、群予告演出の実行を示唆する前に実行される光や模様などのエフェクト画像であってもよいし、

50

群予告演出が実行されるまでの時間を計時するタイマー演出における時計画像であってもよいし、群予告演出の実行を示唆する文字画像（たとえば、「群」の文字画像）であってもよい。なお、タイマー演出において時計画像によって群予告演出が実行されるまでの時間を計時し、計時された時間が所定時間になったときに群予告演出の実行を示唆する文字画像（「群」の文字画像）を表示するものであってもよい。

【1078】

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第2表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第1表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、最初にキャラクタが登場することに対して遊技者に注目させ易くすることができる。

10

【1079】

(6-2) 前記示唆画像に関するエフェクト（たとえば、プッシュボタン31Bが押圧操作されたことを示すエフェクト）の表示が終了した後に、前記第1表示期間においてキャラクタの表示が最初に開始する（たとえば、図92に示す例）。

【1080】

これにより、最初にキャラクタが登場することに対して遊技者に注目させ易くすることができる。

【1081】

(6-3) 前記示唆画像は、操作手段の操作を遊技者に促す画像（たとえば、プッシュボタン31Bを示す画像、メータ画像、および「PUSH!!」の文字画像）を含み、前記示唆画像の表示中において前記操作手段が操作されたときの音（たとえば、PUSH音）の出力は、前記第1表示期間においてキャラクタの表示が最初に開始するまでに終了する（たとえば、図92に示す例）。

20

【1082】

これにより、最初にキャラクタが登場することに対して遊技者に注目させ易くすることができる。

【1083】

(6-4) 前記示唆画像の表示中において前記操作手段が操作されたときに、前記群演出を含む複数の演出（たとえば、6人群予告、背景予告、ランプ予告）のうちのいずれかが実行される（たとえば、図92，図101，図102に示す例）。

30

【1084】

これにより、遊技者による操作を分岐点として、複数の演出が実行されるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【1085】

(7-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機1）であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図46に示す群予告実行処理，図93～図99に示す6人群予告演出，図167～図169に示す犬群予告演出）を備え、

40

前記群演出における画像の表示期間は、第1表示期間と、第2表示期間と、第3表示期間とを含み（たとえば、図58に示す期間）、

前記第1表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図93(a23)～図95(a30)に示す期間）、

前記第2表示期間は、前記第1表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図96(a31)～図97(a36)に示す期間）、

前記第3表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることなく、表示されているキャラ

50

ラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 9 8（a 3 7）～図 9 9（a 4 2）に示す期間）、

前記群演出は、第 1 群演出（たとえば、6 人群予告演出）と第 2 群演出（たとえば、犬群予告演出）とを含み、

前記第 1 群演出において表示される複数のキャラクタは、各々同一または略同一の第 1 速度（たとえば、速度 V_1 ）で進行し、

前記第 2 群演出において表示される複数のキャラクタは、各々同一または略同一の第 2 速度（たとえば、速度 V_2 ）で進行し、

前記第 1 速度は、前記第 2 速度よりも速く、

前記第 1 群演出は、前記第 2 群演出よりも、最初に表示されるキャラクタから最後に表示されるキャラクタまでの直線距離が長くなるように構成されている（たとえば、図 1 6 9 に示す例）。

10

【1 0 8 6】

「最初に表示されるキャラクタから最後に表示されるキャラクタまでの直線距離」は、図 1 6 9 に示したように、6 人群予告演出や犬群予告演出などの群予告演出において、最初に表示されるキャラクタの端から最後に表示されるキャラクタの端までの直線距離（X 軸状の距離）である。この直線距離は、画像表示装置 5 の画面の端から最初のキャラクタが表示されてから最後のキャラクタが表示されるまでの時間を T とし、かつ各キャラクタの速度を V とすれば、時間 T に速度 V を乗算すること（ $T \times V$ ）によって算出できる。

【1 0 8 7】

20

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第 2 表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第 1 表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、2 種類の群予告演出を好適に遊技者に見せることができる。

【1 0 8 8】

（7-2） 前記第 1 群演出の実行時間（たとえば、 X_1 / V_1 ）は、前記第 2 群演出の実行時間（たとえば、 X_2 / V_2 ）と同じまたは略同一である（たとえば、図 1 6 9 に示す例）。

【1 0 8 9】

これにより、同一または略同一の時間を用いて 2 種類の群予告演出を実行することができる。

30

【1 0 9 0】

（7-3） 前記第 2 群演出が実行されたときは、前記第 1 群演出が実行されたときよりも、可変表示の表示結果が前記特定表示結果となる確率が高く、

前記第 2 群演出の実行確率は、前記第 1 群演出の実行確率よりも低い。

【1 0 9 1】

これにより、6 人群予告よりも実行確率が低くて期待度の高い犬群予告演出について、キャラクタの速度を 6 人群予告よりも遅くすることで、たとえば、遊技者が犬群予告演出のキャラクタを撮影する機会を増やすことができる。

【1 0 9 2】

40

（7-4） 前記第 2 群演出において表示される複数のキャラクタが密集する度合い（たとえば、密集度 D_2 ）は、前記第 1 群演出において表示される複数のキャラクタが密集する度合い（たとえば、密集度 D_1 ）よりも大きい。

【1 0 9 3】

これにより、群予告演出においてキャラクタの速度や移動距離を考慮して適切な密集度でキャラクタが配置されるため、遊技者に好適な群予告演出を提供することができる。

【1 0 9 4】

（7-5） 前記第 2 群演出において、画面の下部から上部に亘って最後尾に位置する複数のキャラクタが配置され、

前記最後尾に位置する複数のキャラクタが通過した後の画面においては、その後の演出

50

に対応する表示が行われる（たとえば、図 1 6 8 に示す例）。

【1 0 9 5】

これにより、群予告演出を契機に次の演出のための画像に切り替えて遊技者に見せることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1 0 9 6】

（8-1） 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態（たとえば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機 1）であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図 4 6 に示す群予告実行処理，図 1 5 7 ～図 1 6 6 に示すポインゴ群予告演出）を備え、

前記群演出における画像の表示期間は、第 1 表示期間と、第 2 表示期間と、第 3 表示期間とを含み（たとえば、図 5 8 に示す期間）、

前記第 1 表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり、

前記第 2 表示期間は、前記第 1 表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり、

前記第 3 表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり、

前記第 1 表示期間において、画面上の奥側から手前側へ向けてキャラクタが進行するように特定位置からキャラクタの表示が開始され、

前記特定位置においてキャラクタの表示が最初に開始することに関連したタイミングで、当該特定位置におけるキャラクタの表示を視認困難とする前段表示（たとえば、光のエフェクトによる前段画像の表示）が行われる（たとえば、図 1 5 7 に示す例）。

【1 0 9 7】

「前段表示」は、キャラクタの表示を視認困難とする表示であればいずれのものであってもよく、キャラクタが登場する特定位置を隠すような表示（たとえば、光や模様などのエフェクト画像の表示など）を含む。「視認困難」とは、遊技者が特定位置を完全に視認できない状態、遊技者が特定位置を視認できるが当該視認が困難な状態、遊技者が特定位置を視認できるが当該特定位置からキャラクタが登場する様子を視認できない状態、遊技者が特定位置を視認できかつ当該特定位置からキャラクタが登場する様子を視認できるが当該視認が困難な状態を含む。

【1 0 9 8】

「特定位置においてキャラクタの表示が最初に開始することに関連したタイミング」は、特定位置においてキャラクタの表示が最初に開始するタイミングと同じタイミング、あるいは特定位置においてキャラクタの表示が最初に開始するタイミングの前後所定期間内のタイミング（この所定期間は、遊技者が特定位置においてキャラクタの表示が最初に開始するタイミングであると錯覚するような期間）を含む。

【1 0 9 9】

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第 2 表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第 1 表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、前段画像の表示によって視認困難となった特定位置から最初のキャラクタが表示されるため、ある程度の大きさで最初からキャラクタを表示させることができ、突然、大きなキャラクタが表示されてしまうといった違和感を遊技者に生じさせない。

【1 1 0 0】

（8-2） 前記第 1 表示期間において、画面上の奥行方向から手前方向へと進行するようにキャラクタが拡大表示され、

拡大表示されたキャラクタによって前記特定位置におけるキャラクタの表示を視認困難とする（図 1 6 3 に示す例）。

【1 1 0 1】

これにより、まるで奥行のある位置から複数のキャラクタが続々と登場するかのような視覚効果を与えることができる。

【1 1 0 2】

（8－3） 前記群演出において最後に表示されるキャラクタは、少なくとも画面の一端部から当該一端部に対向する他端部にまで及ぶ範囲に亘って拡大表示される（図 1 6 1 に示す例）。

【1 1 0 3】

これにより、最後のキャラクタの画像表示を利用して、群予告演出の後の演出に好適に切り替えることができる。

【1 1 0 4】

（8－4） 前記群演出において最後に表示されるキャラクタの動作に連動して、前記第 3 表示期間で表示された背景表示が、その後の演出に対応する背景表示に切り替わる（たとえば、図 1 6 1，図 1 6 2 に示す例）。

【1 1 0 5】

これにより、最後のキャラクタの画像表示を利用して、群予告演出の後の演出に好適に切り替えることができる。

【1 1 0 6】

（8－5） 前記群演出において最後に表示されるキャラクタは、少なくとも画面の一端部から当該一端部に対向する他端部にまで及ぶ範囲に亘って拡大表示され、

前記最後に表示されるキャラクタの背面側では前記群演出における他のキャラクタは表示されていない（たとえば、図 1 6 3 に示す例）。

【1 1 0 7】

これにより、1 番目のキャラクタによって隠れた位置には後続のキャラクタ画像を配置しても視認できないため、当該後続のキャラクタ画像を配置しなくてもよく、まるで奥行のある位置から複数のキャラクタが続々と登場するかのような視覚効果を与えることができる。

【1 1 0 8】

（9－1） 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機 1）であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図 4 6 に示す群予告実行処理，図 9 3～図 9 9 に示す 6 人群予告演出）と、

音を出力する音出力手段（たとえば、スピーカ 8 L，8 R）と、を備え、

前記群演出における画像の表示期間は、第 1 表示期間と、第 2 表示期間と、第 3 表示期間とを含み（たとえば、図 5 8 に示す期間）、

前記第 1 表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図 9 3（a 2 3）～図 9 5（a 3 0）に示す期間）、

前記第 2 表示期間は、前記第 1 表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 9 6（a 3 1）～図 9 7（a 3 6）に示す期間）、

前記第 3 表示期間は、キャラクタの新たな表示がされことなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 9 8（a 3 7）～図 9 9（a 4 2）に示す期間）、

前記音出力手段は、前記第 1 表示期間の開始に関連するタイミングで前記群演出に対応する演出音の出力を所定音量で開始し、その後の当該第 1 表示期間において当該演出音の音量を当該所定音量よりも大きい特定音量とし、前記第 2 表示期間においても当該演出音

10

20

30

40

50

の音量を当該特定音量とし、前記第 3 表示期間において当該演出音の音量を当該特定音量よりも小さい音量となるように当該演出音を出力する。

【1109】

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第 2 表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第 1 表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、第 1 表示期間中に音量を特定音量まで上げ、第 2 表示期間中においても特定音量で出音を維持することで、第 2 表示期間の前から特定音量で群予告演出を盛り上げることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1110】

音量は、音出力手段が上げたり下げたりするように制御してもよいし、音出力手段の音量制御は一定であるが当該音出力手段が参照する音データにおいて音量の上げ下げが規定されていることで音量が上がったり下がったりするものであってもよい。

【1111】

(9-2) 前記第 1 表示期間において前記演出音が出力されてから当該演出音の音量が特定音量まで上がるまでのフェードイン時間は、前記第 3 表示期間において当該演出音の音量が下がり始めてから当該演出音の音量が無くなるまでのフェードアウト時間よりも短い（たとえば、図 58 に示す例）。

【1112】

これにより、群予告演出における出音は、フェードインが短い時間で行われ、フェードアウトはフェードインよりも長い時間で行われるため、群予告演出の音を好適に出力することができる。

【1113】

(10-1) 可変表示の表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機 1）であって、

複数のキャラクタが群となって進行する画像を表示する群演出（たとえば、群予告演出）を実行する群演出実行手段（たとえば、図 46 に示す群予告実行処理，図 93～図 99 に示す 6 人群予告演出）と、

複数の点灯手段（たとえば、枠ランプなどの遊技効果ランプ 9）と、を備え、

前記群演出における画像の表示期間は、第 1 表示期間と、第 2 表示期間と、第 3 表示期間とを含み（たとえば、図 58 に示す期間）、

前記第 1 表示期間は、前記群演出において最初のキャラクタの表示を開始してから、キャラクタの新たな表示がされ、いずれかのキャラクタの表示が最初に終了するまでの期間であり（たとえば、図 93（a23）～図 95（a30）に示す期間）、

前記第 2 表示期間は、前記第 1 表示期間よりも長い期間であって、キャラクタの新たな表示がされ、かつ表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 96（a31）～図 97（a36）に示す期間）、

前記第 3 表示期間は、キャラクタの新たな表示がされることがなく、表示されているキャラクタの表示が終了する状態が継続する期間であり（たとえば、図 98（a37）～図 99（a42）に示す期間）、

前記複数の点灯手段の各々を点灯させるための複数の輝度データで構成された輝度データテーブルは、前記第 1 表示期間に対応する第 1 輝度データテーブル（たとえば、図 63（a）に示す枠ランプ用孫テーブル W1）と、前記第 2 表示期間に対応する第 2 輝度データテーブル（たとえば、図 63（b）に示す枠ランプ用孫テーブル W2）と、前記第 3 表示期間に対応する第 3 輝度データテーブル（たとえば、図 63（c）に示す枠ランプ用孫テーブル W3）とを含み、

前記第 1 輝度データテーブルおよび前記第 2 輝度データテーブルの各々は、前記点灯手段を低輝度で点灯させるためのデータと前記点灯手段を高輝度で点灯させるためのデータとを組み合わせた第 1 輝度データと、前記点灯手段を低輝度で点灯させるためのデータと前記点灯手段を高輝度で点灯させるためのデータとの組み合わせが当該第 1 輝度データと

10

20

30

40

50

異なる第2輝度データとで構成され（たとえば、図63に示す枠ランプ用孫テーブルの例）、

前記第2輝度データテーブルは、前記第1輝度データテーブルよりも、多くの前記点灯手段を高輝度で点灯させるように設定されている（たとえば、枠ランプ用孫テーブルW2は枠ランプ用孫テーブルW1よりも多くのランプに高輝度（「0」～「F」）のデータが格納されている）。

【1114】

これにより、群予告演出において、次々とキャラクタが登場して進行する第2表示期間が、キャラクタの表示が最初に開始してから、キャラクタの表示が最初に終了するまでの第1表示期間よりも長尺に設計することで、好適な群予告演出を提供することができる。また、各表示期間に対応する輝度データテーブルが設けられており、第2輝度データテーブルは第1輝度データテーブルよりも、高輝度でランプを点灯させるように設計されているため、第1表示期間においては複数のキャラクタが登場するときの弱めの足音を表現でき、第2表示期間においては複数のキャラクタが次々と登場するときの強めの足音を表現でき、より好適な群予告演出を遊技者に提供することができる。

【1115】

「点灯手段を低輝度で点灯させるためのデータ」や「点灯手段を高輝度で点灯させるためのデータ」は、各点灯手段に含まれる複数の点灯部（たとえば、枠左ランプ9L1におけるRGB、盤上ランプ9Cにおける中のWWW）における時間ごとの点灯データ（点灯要素）であり、たとえば、図63（a）に示す例では、T1-1における枠左ランプ9L1（RGB）のデータ（100）である。なお、RGBのデータとして、消灯に対応するデータは「000」であり、低輝度の点灯に対応するデータは「100」であり、高輝度の点灯に対応するデータは「F00」である。

【1116】

「輝度データ」は、各点灯手段（たとえば、枠ランプ、盤上ランプ9C）における時間ごとの点灯データであって、「点灯手段を低輝度で点灯させるためのデータ」や「点灯手段を高輝度で点灯させるためのデータ」の時間ごとの集まりであり、たとえば、図63（a）に示す例では、T1-1における枠左ランプ9Lや枠右ランプ9Rのデータである。

【1117】

輝度データテーブルは、所定期間（たとえば、親テーブルや子テーブルで規定された点灯時間）における「輝度データ」の集まりであり、たとえば、図63（a）に示す例では、T1-1～T1-11における枠左ランプ9Lや枠右ランプ9Rのデータである。

【1118】

（10-2） 前記第1輝度データテーブルは、前記第2輝度データテーブルよりも、輝度データの切替間隔が長い（たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1は100ms/c間隔で切り替え、枠ランプ用孫テーブルW2は50～80ms/c間隔で切り替える）。

【1119】

これにより、第2表示期間においては、第1表示期間よりも、キャラクタが速く走っていることを表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1120】

（10-3） 前記第1輝度データテーブルは、輝度データの切替間隔が等間隔である一方で、前記第2輝度データテーブルは、輝度データの切替間隔が等間隔でない（たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1は100ms/c間隔で切り替え、枠ランプ用孫テーブルW2は50～80ms/c間隔で切り替える）。

【1121】

これにより、第2表示期間においては、第1表示期間よりも、複数のキャラクタが足並みを揃えずに走っていることを表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1122】

10

20

30

40

50

(11-1) 前記第1輝度データテーブルは、前記群演出においてキャラクタが進行する方向へ点灯箇所を移動させる輝度データを含み(たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1は群予告の進行方向に合わせて高輝度で点灯し)、

前記第2輝度データテーブルは、前記群演出においてキャラクタが進行する方向へ点灯箇所を移動させない輝度データを含む(たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW2は複数箇所に亘って高輝度で点灯する)。

【1123】

これにより、第1表示期間においてキャラクタが登場し、第2表示期間において複数のキャラクタが次々と登場する様子を表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

10

【1124】

(11-2) 前記第1輝度データテーブルは、前記群演出において最初に表示されたキャラクタの進行位置に合わせて、当該キャラクタの近辺に位置する前記点灯手段を高輝度で点灯させ、当該キャラクタが到達していない箇所の近辺に位置する前記点灯手段を消灯または低輝度で点灯させる輝度データを含む(たとえば、図63(a)に示す枠ランプ用孫テーブルW1の例)。

【1125】

これにより、最初に表示された先頭を走るキャラクタが進行することに合わせて、ランプが高輝度で点灯し、未だ到達していない箇所ではランプが消灯または低輝度で点灯するため、ランプの点灯を用いて先頭を走るキャラクタが進行する様子を表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

20

【1126】

(11-3) 前記第1輝度データテーブルは、前記点灯手段を高輝度で点灯させ、その後、前記群演出において最初に表示されたキャラクタが進行するにつれて、当該点灯手段消灯または低輝度で点灯させる輝度データを含む(たとえば、図63(a)に示す枠ランプ用孫テーブルW1の例)。

【1127】

これにより、最初に表示された先頭を走るキャラクタが進行することに合わせて、ランプが高輝度で点灯し、未だ到達していない箇所や既に通った箇所ではランプが消灯または低輝度で点灯するため、ランプの点灯を用いて先頭を走るキャラクタが進行する様子を表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

30

【1128】

(11-4) 前記第1輝度データテーブルは、前記点灯手段を高輝度で点灯させ、その後、前記群演出においてキャラクタが進行する方向に位置する前記点灯手段を高輝度で点灯させる輝度データを含み(たとえば、図63(a)に示す枠ランプ用孫テーブルW1の例)、

前記第2輝度データテーブルは、前記点灯手段を高輝度で点灯させ、その後、前記群演出においてキャラクタが進行する方向に位置する前記点灯手段を高輝度で点灯させない輝度データを含む(たとえば、図63(b)に示す枠ランプ用孫テーブルW2の例)。

【1129】

これにより、第1表示期間においては、最初に表示された先頭を走るキャラクタが進行することに合わせて、ランプが高輝度で点灯し、未だ到達していない箇所や既に通った箇所ではランプが消灯または低輝度で点灯するため、ランプの点灯を用いて先頭を走るキャラクタが進行する様子を表現することができる。また、第2表示期間においては、複数のキャラクタが次々と進行する様子を表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

40

【1130】

(11-5) 前記第1輝度データテーブルは、前記点灯手段を高輝度で点灯させ、当該点灯手段と隣合う前記点灯手段を消灯させる輝度データを含み(たとえば、図63(a)に示す枠ランプ用孫テーブルW1の例)、

50

前記第2輝度データテーブルは、前記点灯手段を高輝度で点灯させ、当該点灯手段と隣合う前記点灯手段を点灯させる輝度データを含む（たとえば、図63（b）に示す枠ランプ用孫テーブルW2の例）。

【1131】

これにより、第1表示期間においては、最初に表示された先頭を走るキャラクタが進行することに合わせて、ランプが高輝度で点灯し、未だ到達していない箇所や既に通った箇所ではランプが消灯または低輝度で点灯するため、ランプの点灯を用いて先頭を走るキャラクタが進行する様子を表現することができる。また、第2表示期間においては、複数のキャラクタが次々と進行する様子を表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

10

【1132】

（12-1） 前記第3輝度データテーブルは、前記群演出におけるキャラクタの進行に合わせて消灯させる前記点灯手段の数を増やす輝度データを含む（たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW3は群予告の進行方向に合わせて消灯または低輝度で点灯する）。

【1133】

これにより、第3表示期間においては、キャラクタが進行することに合わせて、ランプが消灯または低輝度で点灯するため、ランプの消灯または点灯を用いてキャラクタが進行する様子を表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1134】

20

（12-3） 前記第3輝度データテーブルは、前記群演出においてキャラクタが進行する方向に位置する前記遊技機の枠に配置された前記点灯手段における輝度データの切替間隔が、前記群演出においてキャラクタが進行する方向とは逆に位置する前記遊技機の枠に配置された前記点灯手段における輝度データの切替間隔よりも短い（たとえば、図62に示すように、枠左ランプ9Lの切替間隔は10msであり、枠右ランプ9Rの切替間隔は80msである）。

【1135】

これにより、第3表示期間においては、キャラクタがパチンコ遊技機1の右側から左側へと進行して消えていく様子を表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

30

【1136】

（13-1） 前記第1輝度データテーブルは、前記第1表示期間の開始に関連するタイミングで前記点灯手段の制御が開始し、当該第1表示期間中に前記点灯手段の制御が終了し、

前記第2輝度データテーブルは、前記第1表示期間中に前記点灯手段の制御が開始するとともに当該第2表示期間中においても当該点灯手段の制御が継続し、前記第3表示期間中に前記点灯手段の制御が終了し、

前記第3輝度データテーブルは、前記第3表示期間中に前記点灯手段の制御が開始する（たとえば、図84に示す群予告輝度データテーブルの例）。

【1137】

40

これにより、第1表示期間の途中から、第2表示期間と同じように高輝度でランプが点灯するため、第2表示期間の前からキャラクタが進行する様子をランプの点灯で盛り上げて表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1138】

（13-2） 前記第2輝度データテーブルは、前記第1輝度データテーブルおよび前記第3輝度データテーブルよりも、前記点灯手段の制御期間が長く設定されており、

前記第1輝度データテーブルは、前記第3輝度データテーブルよりも、前記点灯手段の制御期間が長く設定されている（たとえば、図84に示す群予告輝度データテーブルの例）。

【1139】

50

これにより、第1表示期間において複数のキャラクタが次々と登場する様子を適切な長さで表現することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1140】

(14-1) 前記第1輝度データテーブルにおいて最初に規定された輝度データは、前記群演出において用いられる複数の前記点灯手段を消灯または低輝度で点灯させる輝度データである(たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1においては全てのランプについて最初の輝度データが消灯または低輝度で点灯する)。

【1141】

これにより、群予告演出が実行される前に行われていたランプの点灯と混じることなく、一旦、区切りをつけた上で群予告演出が実行されたときにランプが点灯するため、より好適な群予告演出を提供することができる。

10

【1142】

(14-2) 前記第2輝度データテーブルおよび前記第3輝度データテーブルの各々において最初に規定された輝度データは、前記群演出において用いられる複数の前記点灯手段を消灯または低輝度で点灯させない輝度データである(たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW2, W3においては最初の輝度データについて高輝度でランプが点灯する)。

【1143】

これにより、群予告演出が実行された後、キャラクタが次々と進行しているときには、演出の流れを重視して、全てのランプの消灯や低輝度の点灯によって区切ることなく群予告演出を遊技者に見せることができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

20

【1144】

(14-3) 前記第3輝度データテーブルにおいて最後に規定された輝度データは、前記群演出において用いられる複数の前記点灯手段を消灯または低輝度で点灯させる輝度データである(たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW3においては全てのランプについて最後の輝度データが消灯または低輝度で点灯する)。

【1145】

これにより、群予告演出が終了するときには、全てのランプを消灯または低輝度で点灯させることで、群予告演出が終了することを遊技者に認識させることができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

30

【1146】

(15-1) 前記第1輝度データテーブルは、同じ制御内容の輝度データを繰り返さないように設計されている一方で、前記第2輝度データテーブルは、同じ制御内容の輝度データを繰り返すように設計されている(たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1においては同じ輝度データを繰り返し用いるように輝度データが規定されず、枠ランプ用孫テーブルW2においては同じ輝度データを繰り返し用いるように輝度データが規定されている)。

【1147】

これにより、長時間に亘って設定されている第2表示期間における輝度データについて、データ容量を削減することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

40

【1148】

(15-2) 前記第3輝度データテーブルは、同じ制御内容の輝度データを繰り返さないように設計されている(たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW3においては同じ輝度データを繰り返し用いるように輝度データが規定されていない)。

【1149】

これにより、第2表示期間よりも長時間に亘ることなく設定されている第3表示期間における輝度データについては、輝度データをそのまま規定することで、設計の自由度が上がる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

50

【1150】

(16-1) 前記第1輝度データテーブルは、同じ制御内容の輝度データを繰り返さないように設計されている一方で、前記第2輝度データテーブルは、同じ制御内容の輝度データを繰り返すように設計されており（たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1においては同じ輝度データを繰り返し用いるように輝度データが規定されず、枠ランプ用孫テーブルW2においては同じ輝度データを繰り返し用いるように輝度データが規定されている）、

前記第1輝度データテーブルにおいては、不具合対策用の輝度データが最後に規定されている一方で、前記第2輝度データテーブルにおいては、不具合対策用の輝度データが最後に規定されていない（たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1においては不具合対策用の10分間データが規定され、枠ランプ用孫テーブルW2においては不具合対策用の10分間データが規定されていない）。

10

【1151】

これにより、長時間に亘って設定されている第2表示期間における輝度データについて、データ容量を削減することができる。一方、第1表示期間における輝度データについては、輝度データをそのまま規定しているが、その代わり、不具合対策用の10分間データが規定されていることで、その10分間の間に不具合対策をすることができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1152】

(16-2) 前記不具合対策用の輝度データは、前記第1輝度データテーブルを構成する輝度データの中で最も長い時間が規定された輝度データであって、前記第1輝度データテーブルの最初から前記点灯手段が制御されてしまうことを防止するための輝度データである（たとえば、図62に示すように、枠ランプ用孫テーブルW1においては不具合対策用の10分間データが規定されている）。

20

【1153】

これにより、第1輝度データテーブルの最初からランプの点灯制御が行われてしまうことを不具合対策用の10分間データによって防止することができるため、好適な群予告演出を提供することができる。

【1154】

(16-3) 前記不具合対策用の輝度データは、隣合う前記点灯手段を順番に規則的に点灯させる輝度データである（たとえば、図63(a)に示すように、10分間の不具合対策用の輝度データは、1つ前の状態から点灯箇所がずれるように、隣合う枠ランプを順番に規則的に点灯させる輝度データである）。

30

【1155】

これにより、不具合が発生しても、1つ前の状態から点灯箇所がずれるように、隣合う枠ランプを順番に規則的に点灯させるため、見栄えが悪くなることを防ぐことができ、好適な群予告演出を提供することができる。

【1156】

(17-1) 前記点灯手段は、単色で点灯する単色点灯手段（たとえば、盤上ランプ9C6～9C8）と、複数の色で点灯する複数色点灯手段（たとえば、盤上ランプ9C1～9C5, 9C9～9C13）とを含み、

40

前記単色点灯手段を特定の高輝度で点灯させる輝度データは、当該特定の高輝度の点灯に対応する値として特定値（たとえば、「6」）を含み、

前記複数色点灯手段を前記特定の高輝度で点灯させる輝度データは、当該特定の高輝度の点灯に対応する値として特定値よりも大きい値（たとえば、「8」～「F」）を含む。

【1157】

これにより、発光手段の種類に応じて高輝度の点灯に対応する値を適切なものにすることで、高輝度で点灯するランプ間の光のばらつきを調整することができ、好適な群予告演出を提供することができる。

【1158】

50

(17-2) 前記単色点灯手段は、第1色で点灯する第1色点灯手段（たとえば、盤上ランプ9C6～9C8）と、第2色で点灯する第2色点灯手段（たとえば、盤左ランプ9B1～9B5）とを含み、

前記第1色点灯手段および前記第2色点灯手段のいずれを前記特定の高輝度で点灯させる輝度データであっても、当該特定の高輝度の点灯に対応する値として前記特定値（たとえば、「6」）を含む。

【1159】

これにより、同じ単色で点灯するランプ間においても、光のばらつきを調整することができ、好適な群予告演出を提供することができる。

【1160】

(18-1) 前記第1輝度データテーブルおよび前記第2輝度データテーブルはいずれも、前記遊技機の左右に設けられた前記点灯手段の各々に対して互いに異なる輝度データを含み（たとえば、図63に示す枠ランプ用孫テーブル）、

前記群演出とは異なる演出であって可変表示の表示結果が前記特定表示結果となることを予告する予告演出において用いられる前記輝度データテーブルは、前記遊技機の左右に設けられた前記点灯手段の各々に対して共通の輝度データを含む（たとえば、図70に示す枠ランプ用孫テーブル）。

【1161】

これにより、群予告演出においては枠左ランプ9Lと枠右ランプ9Rとで個別に点灯制御を行うことで、より詳細な点灯態様を実現することができ、好適な群予告演出を提供することができる。

【1162】

(19-1) 前記群演出とは異なる演出であって可変表示の表示結果が前記特定表示結果となることを予告する予告演出（たとえば、リーチライン演出）の実行中において、前記群演出が割り込んで実行されることがあり、

前記群演出が割り込んで実行された場合においても、前記予告演出に対応する前記輝度データテーブルに従って前記点灯手段が点灯し続けるものであり（たとえば、図170、図171に示す例）、

前記群演出において用いられる前記点灯手段は、前記予告演出において用いられる前記点灯手段と同じであるか、または当該予告演出において用いられる前記点灯手段と当該予告演出において用いられない前記点灯手段とを含む（たとえば、図69に示すように、リーチライン演出においては、群予告演出で常に用いられる盤上ランプおよびアタッカランプが用いられない期間がある）。

【1163】

これにより、群予告演出が他の予告演出に割り込んで実行された場合でも、共通のランプが点灯しているため、違和感なく点灯による演出を実現することができ、好適な群予告演出を提供することができる。たとえば、群予告演出が他の予告演出に割り込んで実行された場合、群予告演出におけるランプの点灯と他の予告演出におけるランプの点灯とが混在することになるが、仮に両方で点灯するランプが互いに異なっていれば、数多くのランプが煩雑に点灯するため、見栄えが悪く、遊技者に違和感を与えてしまう虞がある。この点、群予告演出におけるランプの点灯と他の予告演出におけるランプの点灯とを共通にしておけば、数多くのランプが煩雑に点灯することを防止することができる。

【1164】

(19-2) 前記群演出の実行中に前記予告演出が終了し、かつ当該予告演出とは異なる所定演出（たとえば、図柄送り演出）が実行されるものであり（たとえば、図170、図171に示す例）、

前記群演出において用いられる前記点灯手段は、前記所定演出において用いられる前記点灯手段と同じであるか、または当該所定演出において用いられる前記点灯手段と当該所定演出において用いられない前記点灯手段とを含む（たとえば、図170、図171に示す例）。

10

20

30

40

50

【1165】

これにより、群予告演出中に他の演出に切り替わった場合でも、共通のランプが点灯しているため、違和感なく点灯による演出を実現することができ、好適な群予告演出を提供することができる。

【1166】

(19-3) 前記群演出は100%未満の所定の実行確率で実行される(たとえば、図29に示す群予告抽選)。

【1167】

これにより、群予告演出は他の演出に関係なく抽選によって実行するか否かが決まるため、群予告演出の実行に関する処理負担を軽減することができ、好適な群予告演出を提供することができる。

10

【1168】

(20-1) 前記点灯手段は、前記群演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置にある特定点灯手段(たとえば、Vランプ9G)を含み、

前記特定点灯手段は、前記有利状態に制御するときに点灯可能であり、かつ当該有利状態に制御しないときに点灯せず(たとえば、Vランプ9Gは、V入賞が発生可能な大当り遊技状態のラウンド中であることやV入賞が発生したことを報知するために点灯する)、

前記第1輝度データテーブルおよび前記第2輝度データテーブルは、前記特定点灯手段を点灯させる輝度データを含まない(たとえば、図62に示す輝度データテーブルの例)。

20

【1169】

これにより、群予告演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置にあるランプが群予告演出中に点灯してしまうことで、大当りなどの有利状態に制御されたのかと遊技者に勘違いをさせてしまうことを防止することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1170】

(20-2) 前記点灯手段は、前記群演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置にある特定点灯手段(たとえば、スティックコントローラランプ9J, トリガボタンランプ9K)を含み、

前記特定点灯手段は、遊技者に対して操作手段の操作が有効であることを点灯によって示唆するものであり(たとえば、スティックコントローラランプ9Jはスティックコントローラ31Aを引く操作を促すために点灯し、トリガボタンランプ9Kは押しボタン31Bを押圧する操作を促すために点灯する)、

前記第1輝度データテーブルおよび前記第2輝度データテーブルは、前記特定点灯手段を点灯させる輝度データを含まない(たとえば、図62に示す輝度データテーブルの例)。

30

【1171】

これにより、群予告演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置にあるランプが群予告演出中に点灯してしまうことで、操作手段の操作を促しているのかと遊技者に勘違いをさせてしまうことを防止することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

40

【1172】

[変形例]

上述したパチンコ遊技機1の変形例について説明する。

【1173】

(群予告演出の表示期間について)

本実施の形態においては、第3表示期間が第1表示期間よりも長い期間であったが、第1表示期間が第3表示期間よりも長い期間であってもよい。

【1174】

これにより、第1表示期間において最初に登場したキャラクタを長めにみせることで、

50

大当りを示唆する群予告演出が実行されたことに対して注目させ易くすることができる。

【1175】

（群予告演出の実行タイミングについて）

本実施の形態においては、可変表示の結果がハズレ表示結果となる変動パターンの場合、100%の確率で可変表示の時間の後半で群予告演出が実行されるものであったが、これに限らない。たとえば、可変表示の結果がハズレ表示結果となる変動パターンの場合、可変表示の時間の前半よりも、可変表示の時間の後半の方が高い確率で群予告演出が実行されるものであってもよい。

【1176】

また、本実施の形態においては、可変表示の結果が当り表示結果となる変動パターンの場合、100%の確率で可変表示の時間の前半で群予告演出が実行されるものであったが、これに限らない。たとえば、可変表示の結果が当り表示結果となる変動パターンの場合、可変表示の時間の後半よりも、可変表示の時間の前半の方が高い確率で群予告演出が実行されるものであってもよい。

【1177】

（群予告演出で登場するキャラクタについて）

本実施の形態においては、第1表示期間において、1番目（最初）のキャラクタとして主人公のメイドA（夢夢ちゃん）が登場したが、第2表示期間において最も多く登場するキャラクタが主人公のメイドA（夢夢ちゃん）であってもよい。

【1178】

これにより、最も長い第2表示期間において、主人公のキャラクタを遊技者に頻繁に見せることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1179】

また、第1表示期間において最初に表示されるキャラクタは、プレミアムキャラクタであってよい。

【1180】

これにより、最初の第1表示期間において、プレミアムキャラクタを遊技者に最初に見せることができ、群予告演出をインパクトのあるものとするすることができる。なお、第1表示期間において最初に表示されるキャラクタがプレミアムキャラクタの場合、大当りが確定するものであってもよい。さらに、この場合、枠ランプなどの各ランプの点灯パターンをレインボー（七色）を含むパターンにしてもよい。

【1181】

なお、プレミアムキャラクタは、全ての状態や演出の中で最も登場割合の低いキャラであってもよいし、群予告演出以外では登場しないキャラクタであってもよい。また、プレミアムキャラクタは、他のキャラクタよりも、登場することで大当りの期待度が高いことを示唆するキャラクタであってもよい。

【1182】

（群予告演出における点灯制御について）

本実施の形態においては、図63に示す枠ランプ用孫テーブルに示すように輝度データが規定されていたが、以下のように輝度データが規定されてもよい。すなわち、点灯手段を低輝度で点灯させるためのデータと点灯手段を高輝度で点灯させるためのデータとを組み合わせた第1特定輝度データと、点灯手段を低輝度で点灯させるためのデータを含む一方で点灯手段を高輝度で点灯させるためのデータを含まない第2特定輝度データとがあり、第1輝度データテーブルは、第1特定点灯データが用いられず、第2輝度データテーブルは、第2特定点灯データを用いるものであってもよい。

【1183】

このようにすれば、第1表示期間においては、高輝度で点灯するデータが規定されないため、低輝度でランプが点灯することで複数のキャラクタが近づいてくる様子を表現することができ、第2表示期間においては、高輝度で点灯するデータが規定されるため、複数のキャラクタが次々と進行する様子を表現することができる。

【1184】

また、第3輝度データテーブルは、第2輝度データテーブルで点灯していた点灯手段を全て消灯させる輝度データを含むものであってもよい。

【1185】

このようにすれば、第3表示期間においてキャラクタが進行して消える様子をランプの消灯によって表現することができる。

【1186】

また、点灯手段は、群演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置にある特定点灯手段を含み、

特定点灯手段の前面側には、光を透過可能な特定部材が配置されており、

特定点灯手段が点灯することで、特定部材を介して視認される色味が特定色となり、

第1輝度データテーブルおよび第2輝度データテーブルは、特定色とは異なる色で点灯手段を点灯させる輝度データを含み、

第1輝度データテーブルおよび前記第2輝度データテーブルは、特定点灯手段を点灯させる輝度データを含まないものであってもよい。

【1187】

このようにすれば、群予告演出においてキャラクタが進行する方向に関連する位置にあるランプが群予告演出中に点灯してしまうことで、当該ランプの前面側に位置する透明な特定部材を介して視認される色味が群予告演出においては用いられていない特定色になってしまうことで、群予告演出の色味を邪魔してしまうことを防止することができる。よって、好適な群予告演出を提供することができる。

【1188】

(群予告演出の動画データについて)

本実施の形態においては、図51に示すように、動作対象となるキャラクタと当該キャラクタの動作内容(動作パターン)とが予め対応付けられた動画データを設計段階で作成しておき、当該動画データをRAM122またはROM121に格納するものであった。そして、パチンコ遊技機1において、演出制御用CPU120は、CPU103から受信した変動パターンコマンドに基づき、群予告演出の実行タイミングになったときに、RAM122またはROM121に格納された動画データを再生するようになっていた。しかしながら、上記と異なる方法で群予告演出の動画を再生するものであってもよい。

【1189】

たとえば、動作対象となるキャラクタのデータと、動作内容(動作パターン)を示すデータとを、各々別のデータとしてRAM122またはROM121に格納してもよい。そして、パチンコ遊技機1において、演出制御用CPU120は、CPU103から受信した変動パターンコマンドに基づき、群予告演出の実行タイミングになったときに、RAM122またはROM121に格納されたキャラクタのデータと動作パターンを示すデータとを各々選択し、両者を組み合わせて動画データを作成し、作成した当該動画データを再生するものであってもよい。

【1190】

より具体的には、RAM122またはROM121においては、キャラクタA、キャラクタB、キャラクタCの各々が走ったり歩いたりする複数のデータを記憶領域1に格納するとともに、キャラクタが決められていないが任意の複数のキャラクタが群予告演出に係る複数の動作パターンを示す動画データを記憶領域2に格納すればよく、演出制御用CPU120は、群予告演出の実行タイミングになったときに、記憶領域1からキャラクタを抽出し、さらに記憶領域2から群予告演出に係る動画データを抽出し、それらを組み合わせて1つの群予告演出の動画データを作成し、作成した当該動画データを再生するものであってもよい。

【1191】

(群予告演出と他の予告演出とが重なる場合について)

本実施の形態においては、図155および図168に示すように、群予告演出の実行期

間と他の予告演出の実行期間とが重なる場合、群予告演出における画像の表示領域が他の予告演出における画像の表示領域よりも大きく、かつ群予告演出における画像の表示が他の予告演出における画像の表示よりも優先されるもの（たとえば、群予告演出における画像の表示のレイヤーが他の予告演出における画像の表示のレイヤーよりも前面側）であった。しかしながら、これに限らない。たとえば、群予告演出の実行期間と他の予告演出の実行期間とが重なる場合、他の予告演出における画像の表示領域が群予告演出における画像の表示領域よりも大きく、かつ他の予告演出における画像の表示が群予告演出における画像の表示よりも優先されるもの（たとえば、他の予告演出における画像の表示のレイヤーが群予告演出における画像の表示のレイヤーよりも前面側）であってもよい。あるいは、群予告演出の実行期間と他の予告演出の実行期間とが重なる場合、群予告演出における画像の表示領域が他の予告演出における画像の表示領域よりも大きく、かつ他の予告演出における画像の表示が群予告演出における画像の表示よりも優先されるもの（たとえば、他の予告演出における画像の表示のレイヤーが群予告演出における画像の表示のレイヤーよりも前面側）であってもよい。また、群予告演出の実行期間と他の予告演出の実行期間とが重なる場合、他の予告演出における画像の表示領域が群予告演出における画像の表示領域よりも大きく、かつ群予告演出における画像の表示が他の予告演出における画像の表示よりも優先されるもの（たとえば、群予告演出における画像の表示のレイヤーが他の予告演出における画像の表示のレイヤーよりも前面側）であってもよい。なお、他の予告演出における画像の表示領域が群予告演出における画像の表示領域よりも大きい場合とは、たとえば、大当りを示唆する画像など遊技者が注目する予告画像については群予告演出における画像によって隠されているが、当該予告画像の周りに位置する画像（たとえば、予告画像を取り巻く炎やオーラなどを示す画像）については群予告演出における画像によって隠されずに視認可能であるものを含む。

10

20

【1192】

（当りを經由しない時短制御例）

次に、時短状態として、当り（大当り、小当りなど）を經由しない時短制御を実行する例を説明する。

（時短図柄を用いた時短制御例）

【1193】

（A1） 上記した各特徴部や変形例においては、時短状態（高ベース状態）への移行については、必ず特別可変入賞球装置7Aが作動する大当り状態や小当り状態を經由して移行する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、たとえば、特別図柄として時短図柄が導出表示された場合に、特別可変入賞球装置7Aを作動させることなく時短状態（高ベース状態）に移行するようにしてもよい。つまり、時短状態としては、当り（大当り、小当りなど）を經由しない時短制御を実行してもよい。

30

【1194】

（A2） なお、上記した時短図柄としては、これらの時短図柄をハズレ図柄の一部としてもよいし、小当り図柄の一部としてもよい。

【1195】

（A3） また、時短図柄の導出表示に関する抽選処理を行う場合には、これらの抽選処理に、時短図柄抽選用の専用の乱数を用いて抽選を実行してもよいし、ハズレ図柄の抽選乱数や大当り図柄の抽選乱数や小当り図柄の抽選乱数、大当り抽選判定用乱数、転落抽選の抽選乱数などの他の抽選を行う乱数を用いて抽選を行うようにしてもよい。

40

【1196】

（A4） また、これら時短図柄については、複数種類の図柄であってもよいとともに、その他の図柄である小当り図柄やハズレ図柄で表示される図柄の組み合わせと併用してもよい。なお、この場合、併用する小当り図柄によって時短状態の移行の有無を決定してもよい。但し、時短図柄に当選した場合に、更に抽選によって時短状態への移行の有無を抽選することや、時短回数を抽選することは行わない。

【1197】

50

(A 5) また、時短図柄の抽選を行う場合であって、設定値を変更可能である場合には、設定値に応じて時短図柄の抽選確率は変化しない、つまり、全ての設定値において時短図柄の抽選確率は同一とするが、これら時短図柄の抽選確率を第1特図と第2特図とで異なる確率としてもよい。

【1198】

(A 6) また、時短図柄の抽選を行う場合の乱数取得のタイミングについては、専用の乱数を使用する場合であっても、他の乱数を使用する場合であっても、始動口（第1始動入賞口、第2始動入賞口）への入賞時でよい。

【1199】

(A 7) また、時短図柄の抽選を行う場合の当選については、専用の乱数（時短抽選乱数）を用いる場合は専用の乱数（時短抽選乱数）による抽選結果を当選値とし、時短図柄の抽選に小当り図柄乱数を用いる場合は特定の小当り図柄乱数値を当選値とし、時短図柄の抽選に転落抽選判定値用乱数を用いる場合は転落抽選判定値用乱数を当選値とすることができるとともに、構造物を用いた抽選、たとえば、特別可変入賞球装置7A内部に時短領域を設け、該時短領域を遊技球が通過したことを時短図柄の当選としてもよい。

【1200】

(A 8) なお、時短図柄の抽選を、構造物を用いて行う場合において小当り図柄が時短図柄を併用する際に、時短状態の可変表示回数（時短回数）は、時短領域の通過の有無で変化しないようにする。

【1201】

(A 9) また、時短図柄の抽選を行う場合の当選については、時短図柄の抽選にハズレ図柄乱数を用いる場合は特定のハズレ図柄乱数値を当選値とし、時短図柄の抽選に大当り図柄乱数を用いる場合は特定の当り図柄乱数値を当選値とすることができる。但し、これらの乱数値を当選値とする場合には、設定によって大当り確率以外の性能に差異がでることから、設定値の変更が不能なものに限り可能である。

【1202】

(A 10) また、時短図柄の抽選結果の判定タイミングは、大当り判定後のタイミングにおいて実行すればよい。なお、時短図柄の抽選は、抽選に使用する乱数値がいずれの乱数値であっても、時短状態（高ベース）や高確率時においては実行せずに、低確率低ベース状態においてのみ実行する。但し、既に、時短状態となっている状態で、時短図柄が導出表示された場合に、時短回数の再セットや抽選しないことのずれであっても、遊技機ごとに決まっていればよい。

【1203】

(A 11) また、時短図柄が導出表示されたときの時短回数については、当選値（図柄）と遊技状態毎に応じて、予め定められた複数の時短回数をもつことができる。また、時短図柄ごとに時短の付与条件を異なるようにすることもできる。

【1204】

(A 12) また、時短図柄に応じて時短回数が異なるときには、特図1と特図2で、時短図柄の振り分け抽選を変更することができる。

【1205】

(A 13) また、同一の時短図柄が導出表示されたときでも、その時の遊技状態に応じて付与される時短回数が異なるようにしてもよい。ただし、遊技状態に対して予め定められたものであることを要する。

【1206】

(A 14) また、低確率低ベース状態における時短図柄の抽選結果として「時短回数0回」の抽選結果を含めることができる。

【1207】

(A 15) また、時短終了図柄の導出抽選（時短終了抽選）を実行し、時短回数を時短開始後において時短終了図柄が導出表示されるまで、或いは大当り図柄が導出表示されるまでの回数としてもよい。つまり、時短の回数を設定せずに、原則、無制限としてもよ

10

20

30

40

50

い。

【1208】

(A16) また、時短図柄により制御される時短状態と、大当りの発生によって制御される時短状態とで、時短回数や付与条件を異なるようにしてもよい。

【1209】

(A17) また、時短図柄が導出表示された場合において時短状態に制御されるタイミングは、時短図柄の図柄確定時間が経過した時点となる。但し、時短図柄の抽選に小当り図柄乱数を用いる場合にあって、小当りに当選して時短状態に移行する場合には、小当りの動作終了時が時短状態に制御されるタイミングとなる。

【1210】

(A18) また、構造物を用いた抽選の場合に時短状態に制御されるタイミングは、構造物を動作させる遊技状態（たとえば、小当り状態）における構造物の動作終了時のタイミングとなる。

【1211】

(A19) また、大当り後において所定の可変表示回数に亘って高確率低ベース状態に制御される遊技機（所謂、規定回数確変機（ST機））の場合に、遊技場の開店時に高確率低ベース状態であり、該高確率低ベース状態が規定回数の可変表示が実行されて終了した後、時短状態に制御するようにしてもよい。

【1212】

(A20) また、時短リミッタ機能を搭載する場合にあって、時短図柄が導出表示された場合には、時短リミッタの回数を更新する。

【1213】

(A21) また、時短図柄の図柄確定時間を、他の図柄の図柄確定時間と異なる時間としてもよい。

【1214】

（時短図柄を用いたその他の時短制御例）

時短図柄を用いたその他の時短制御としては、以下に説明する制御を実行してもよい。

【1215】

(B1) 通常状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果（特別表示結果）が表示されたことに基づいて通常状態から時短状態（特別状態）に移行させる遊技制御をし、時短状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果が表示されたことに基づいてさらに当該時短状態から同様の時短状態に移行させる遊技制御をしない（時短図柄が表示されても時短状態を上書するような（時短状態が再度発生するような）遊技状態の切替制御をしない）ようにしてもよい。そして、通常状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果が表示されたときと、時短状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果が表示されたときとで異なる演出をしてもよい（飾り図柄について、通常状態では時短図柄として特殊図柄を表示し、時短状態では一般的なハズレ図柄を表示するなど）。これにより、時短図柄の可変表示結果が表示されるときの状態に応じて好適な制御が可能となる（たとえば、状態の移行有無に応じて演出が実行されることにより興趣が向上する）。

【1216】

(B2) (B1)の制御をする遊技機において、特別図柄の表示結果が時短図柄となる場合に、特別図柄は通常状態と時短状態とで共通の時短図柄を表示し、飾り図柄は通常状態と時短状態とで異なる図柄を表示結果として表示するようにしてもよい（たとえば飾り図柄は通常状態では時短図柄に対応する特殊図柄を表示するが、時短状態では単なるハズレ図柄を表示するなど、時短図柄に対応する図柄を表示しないなど）。これにより、時短状態での飾り図柄の表示結果によって、遊技者が損をした感覚を生じさせず、遊技興趣の低下を抑制できる。

【1217】

(B3) (B1)の制御をする遊技機において、通常状態では、飾り図柄の表示結果が特殊図柄（時短図柄）となるか否かを示唆する演出を実行するが、時短状態では、飾り

10

20

30

40

50

図柄の表示結果が特殊図柄（時短図柄）となるか否かを示唆する演出を実行しないようにしてもよい。これにより、時短状態での演出によって飾り図柄の表示結果により遊技者が損をした感覚を生じさせず、遊技興趣の低下を抑制できる。

【1218】

（B4）（B1）の制御をする遊技機において、通常状態と時短状態とで、飾り図柄の確定表示時間（確定した表面結果を表示してからその表示状態を維持させる時間）が異なるように制御してもよい。これにより、時短状態での飾り図柄の演出によって遊技者が損をした感覚を生じさせず、遊技興趣の低下を抑制できる。

【1219】

（B5）第1特別図柄による第1可変表示を行った後と、第2特別図柄による第2可変表示とを行った後とに、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能であり、通常状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果（特別表示結果）が表示されたことに基づいて通常状態から時短状態（特別状態）に移行させる遊技制御をし、時短状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果が表示されたことに基づいてさらに当該時短状態から同様の時短状態に移行させる遊技制御をしない（時短図柄が表示されても時短状態を上書するような（時短状態が再度発生するような）遊技状態の切替制御をしない）ようにしてもよい。そして、第2可変表示の方が第1可変表示よりも時短図柄の可変表示結果が表示される割合が高く、可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶し、時短状態が終了したときに保留記憶情報が記憶されているか否かに応じて異なる演出を実行可能であり（時短制御に移行するときは時短継続表示、時短制御に移行制御に移行しないときは時短制御が実行されないことを特定可能な表示をする演出など）、時短状態中は右打ち報知（右打ちを指示する報知）に応じて右打ち遊技がされ、時短状態が終了したときに記憶されている保留記憶情報にもとづく可変表示がすべて終了するまで。左打ち報知（左打ちを指示する報知）をしないようにしてもよい。これにより、時短図柄の可変表示結果が表示されるときに状態に応じて好適な制御が可能となる（たとえば、状態の移行有無に応じて演出が実行されることにより興趣が向上する）。

【1220】

（B6）第1特別図柄による第1可変表示を行った後と、第2特別図柄による第2可変表示とを行った後とに、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能であり、通常状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果（特別表示結果）が表示されたことに基づいて通常状態から時短状態（特別状態）に移行させる遊技制御をし、時短状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果が表示されたことに基づいてさらに当該時短状態から同様の時短状態に移行させる遊技制御をしない（時短図柄が表示されても時短状態を上書するような（時短状態が再度発生するような）遊技状態の切替制御をしない）ようにしてもよい。そして、第2可変表示の方が第1可変表示よりも時短図柄の可変表示結果が表示される割合が高く、可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶し、時短状態が終了したときに保留記憶情報が記憶されているか否かに応じて異なる演出を実行可能であり（時短制御に移行するときは時短継続表示、時短制御に移行制御に移行しないときは時短制御が実行されないことを特定可能な表示をする演出など）、時短状態中は右打ち報知に応じて右打ち遊技がされ、時短状態が終了したときに記憶されている残保留記憶情報にもとづく可変表示がすべて終了するまで。左打ち報知（左打ちを指示する報知）をしないようにしてもよい。これにより、時短図柄の可変表示結果が表示されるときに状態に応じて好適な制御が可能となる（たとえば、状態の移行有無に応じて演出が実行されることにより興趣が向上する）。

【1221】

（B7）時短状態が終了したときに記憶されている残保留記憶情報にもとづく可変表示（第2可変表示）が終了した後に実行される可変表示（第1可変表示）において左打ち報知を実行してもよい。これにより、好適に打ち方の指示が出るので円滑に遊技を進行させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1222】

10

20

30

40

50

(B 8) 時短状態が終了したときに記憶されている残保留記憶情報にもとづく可変表示(第2可変表示)において時短図柄の表示結果が表示された場合と、残保留記憶情報にもとづく可変表示が実行されるとき以外の通常状態での可変表示(第1可変表示)において当り(小当り、大当り)となった場合とで、当りとなったことに応じて実行する右打ち報知の報知態様が異なるようにしてもよい。これにより、右打ち報知の報知態様の演出によって飾り図柄の表示結果により遊技者が損をした感覚を生じさせず、遊技興趣の低下を抑制できる。

【1223】

(B 9) 時短状態が終了したときに記憶されている残保留記憶情報において、時短図柄の表示結果が表示される保留記憶情報があるときと、当該保留記憶情報がないときとで、共通の演出を実行した後に異なる演出を実行可能(たとえば4個の残保留記憶のうち4個目の保留記憶情報に時短図柄の表示結果が表示される保留記憶情報があるときに、3個目の保留記憶情報にもとづく可変表示までは時短状態に復帰するか否かを示唆する共通の演出を実行し、4個目の保留記憶情報にもとづく可変表示で当該共通の演出とは異なる時短状態復帰演出を実行可能)であるようにしてもよい。これにより、右打ち報知の報知態様の演出によって飾り図柄の表示結果により遊技者が損をした感覚を生じさせず、遊技興趣の低下を抑制できる。

【1224】

(B 10) 時短状態が終了したときに記憶されている残保留記憶情報にもとづく可変表示(第2可変表示)の表示結果にもとづく時短状態移行時の演出と、残保留記憶情報にもとづく可変表示が実行されるとき以外の通常状態での可変表示(第1可変表示)の表示結果にもとづく時短状態移行時の演出とで、当りとなったことに応じて実行する右打ち報知の報知態様が異なるようにしてもよい。これにより、遊技状態に応じて演出が変わるので、遊技興趣を向上させることができる。

【1225】

(B 11) 時短状態が終了したときに記憶されている残保留記憶情報にもとづく可変表示(第2可変表示)における表示結果の確定表示時間(確定した表面結果を表示してからその表示状態を維持させる時間)と、残保留記憶情報にもとづく可変表示が実行されるとき以外の通常状態での可変表示(第1可変表示)における表示結果の確定表示時間とが共通であるようにしてもよい。これにより、制御データの増大を抑制することができる。

【1226】

(B 12) 時短状態が終了したときに記憶されている残保留記憶情報にもとづく可変表示(第2可変表示)が実行される期間においては右打ち報知を実行せず、残保留記憶情報にもとづく可変表示において時短図柄の表示結果が表示された場合に、次の可変表示の開始当初期間に右打ち報知を実行してもよい。これにより、好適に打ち方の指示が出るので円滑に遊技を進行させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1227】

(B 13) 通常状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果(特別表示結果)が表示されたことに基づいて通常状態から時短状態(特別状態)に移行させる遊技制御をし、可変表示結果が小当り図柄および大当り図柄のような当り図柄(特定表示結果)になる場合と時短図柄(特別表示結果)になる場合とで、共通の特定演出(リーチ演出、予告演出)を実行可能であり、複数種類設けられた共通の特定演出のうちいずれの共通の特定演出が実行されるかに応じて、時短図柄(特別表示結果)になる割合が異なるようにしてもよい。そして、可変表示において時短図柄の表示結果が表示された場合に、次の可変表示の開始当初期間に右打ち報知を実行してもよい。これにより、時短図柄(特別表示結果)が表示されるときに遊技状態に応じて、好適に演出制御をすることができる。

【1228】

(B 14) 前記共通の特定演出を実行した後に、表示結果が、当り図柄(特定表示結果)となる場合と、時短図柄(特別表示結果)になる場合とがある。これにより、可変表示の演出結果のバリエーションが豊富化し、遊技の興趣を向上させることができる。

【1229】

(B15) 遊技制御用のCPU103は、当り図柄（特定表示結果）となる場合と、時短図柄（特別表示結果）になる場合と、ハズレ図柄（所定表示結果）となる場合とで共通の変動パターンを選択可能であり、演出制御用CPU120は、遊技制御用のCPU103から同じ変動パターンを指定するコマンドを受信した場合でも、表示結果を指定する図柄指定コマンドの種類に応じて、可変表示において異なる演出を実行可能であるようにしてもよい。これにより、可変表示の演出のバリエーションが豊富化し、遊技の興趣を向上させることができる。

【1230】

(B16) 前記共通の特定演出を実行した後に、時短図柄（特別表示結果）になるときに実行可能な特別演出を実行可能である。これにより、共通の特定演出の実行後の特別演出により遊技の興趣を向上させることができる。

10

【1231】

(B17) 前記共通の特定演出の種類によって、時短図柄（特別表示結果）になるときに実行可能な特別演出が実行される場合と、実行されない場合とがあるようにしてもよい（たとえば複数種類のスーパーリーチ演出のうちでも当りになる期待度が高い方の演出を実行するときには特別演出を実行しないなど）。これにより、過度に時短状態のみを煽る演出が実行されずに当りとなる期待感も持続するので遊技の興趣を向上させることができる。

【1232】

20

(B18) 前記共通の特定演出の種類によって、前記特別演出が実行されたときに時短図柄（特別表示結果）になる期待度（割合）が異なるようにしてもよい。これにより、過度に時短状態のみを煽る演出が実行されずに当りとなる期待感も持続するので遊技の興趣を向上させることができる。

【1233】

(B18) 前記共通の特定演出の種類によって、前記特別演出が実行されたときに時短図柄（特別表示結果）になる期待度（割合）が異なるようにしてもよい。これにより、過度に時短状態のみを煽る演出が実行されずに当りとなる期待感も持続するので遊技の興趣を向上させることができる。

【1234】

30

(B19) 前記共通の特定演出とは異なる所定演出（たとえば当りへの期待度によって表示態様に変化可能なアクティブ表示（保留表示の表示位置から別の表示位置に移動した表示であり、現在実行中の可変表示に対応する当りの期待度を示唆可能な演出をする表示）を表示する演出）の演出態様に依拠して、時短図柄（特別表示結果）になる期待度（割合）が異なるようにしてもよい。これにより、過度に時短状態のみを煽る演出が実行されずに当りとなる期待感も持続するので遊技の興趣を向上させることができる。

【1235】

(B20) 時短図柄（特別表示結果）になるときに実行可能な特別演出において、時短図柄（特別表示結果）になることを示唆する演出（時短示唆演出など）を実行した後に、当り図柄（特定表示結果）を報知する演出（時短状態よりも遊技価値が高い特別な大当りなど）を実行可能としてもよい。これにより、過度に時短状態のみを煽る演出が実行されずに当りとなる期待感も持続するので遊技の興趣を向上させることができる。

40

【1236】

(B21) 遊技制御用のCPU103は、複数種類設けられた時短図柄（特別表示結果）の種類に応じて時短回数（時短継続期間）が異なる時短状態（特別状態）に制御可能であり（たとえば第1時短図柄：時短50回、第2時短図柄：時短100回など）、演出制御用CPU120は、実行した演出の種類（たとえばリーチ演出の種類など）によって、時短図柄が停止したときに付与される時短回数（継続期間）が異なる演出を実行してもよい。これにより、演出の種類によりその後の時短回数に遊技者の注目が集まり遊技興趣を向上させることができる。

50

【1237】

(B22) 通常状態において特別図柄で時短図柄の可変表示結果（特別表示結果）が表示されたことに基づいて通常状態から時短状態（特別状態）に移行させる遊技制御をし、遊技の進行を制御する遊技制御用のCPU103（遊技制御手段）からコマンドを送信し、当該コマンドを受信した演出制御用CPU120（演出制御手段）により、コマンドにもとづく演出を実行可能である。そして、送信されるコマンドには、通常状態から時短状態（特別状態）に移行（制御）することを指定可能な特別コマンドが含まれ、演出制御用CPU120は、特別コマンドを含む複数種類のコマンドを受信したときに、保留記憶情報の先読みに基づいて、時短状態（特別状態）に移行可能な可変表示が実行されることが特定された保留記憶情報以降に発生した保留記憶情報に対する先読み予告演出の実行を制限（まったく実行しない、稀に実行可能とするなど）するようにしてもよい。これにより、時短図柄（特別表示結果）が表示されるときに遊技状態に応じて好適に演出制御を実行することができる。

10

【1238】

(B23) 保留記憶情報の先読みに基づいて、大当り遊技状態（特定遊技状態）に移行（制御）可能な可変表示が実行されることが特定された保留記憶情報以降に発生した保留記憶情報に対する先読み予告演出の実行を制限するようにしてもよい。そして、このような先読み予告演出の実行制限中における先読み予告演出として、共通態様の演出を実行可能としてもよい。これにより、遊技状態の移行に伴って、実際の遊技状態に対応しない演出制御が実行されるのを制限することにより、遊技の興趣低下を抑制することができる。

20

【1239】

(B24) 先読み対象が保留記憶情報にもとづく可変表示が、時短図柄（特別表示結果）が表示される可変表示である場合と、時短図柄（特別表示結果）が表示されると見せかけて表示されない可変表示である場合との両方について、当該保留記憶情報の後に発生した保留記憶情報に対する先読み予告演出の実行を制限するようにしてもよい。これにより遊技状態の移行に伴って、実際の遊技状態に対応しない演出制御が実行されるのを制限することにより、遊技の興趣低下を抑制することができる。

【1240】

(B25) 前記先読み予告演出の実行制限中における先読み予告演出は、特定の期待度よりも期待度が高い演出を実行しない（たとえば保留表示の色の期待度が青<緑<赤の場合において保留表示の色を赤に変化させないなど）。これにより遊技状態の移行に伴って、実際の遊技状態に対応しない演出制御が実行されるのを制限することにより、遊技の興趣低下を抑制することができる。

30

【1241】

(B26) 前記先読み予告演出の実行制限中における先読み予告演出は、特定の種類の演出を実行しない（たとえば保留表示の色の期待度が青<緑<赤の場合において保留表示の色を赤に変化させないなど）。これにより遊技状態の移行に伴って、実際の遊技状態に対応しない演出制御が実行されるのを制限することにより、遊技の興趣低下を抑制することができる。

40

【1242】

（ハズレ可変表示回数などの所定表示結果となった可変表示回数を用いた時短制御例）
次に、通常状態において所定表示結果（ハズレ表示結果、大当たりとならない小当たり表示結果など）となった可変表示回数（ハズレとなった可変表示の継続回数）を用いた時短制御例を説明する。以下のように、時短状態（特別状態）は、所定表示結果（ハズレ表示結果、大当たりとならない小当たり表示結果など）となった可変表示の継続回数が特別回数（たとえば1000回）に到達したことを条件として実行可能としてもよい。なお、前記所定結果としては、ハズレ表示結果となった可変表示の継続回数が特別回数に到達したことを条件として時短状態（特別状態）を実行可能としてもよい。

【1243】

50

(C1) 第1特別図柄による第1可変表示を行った後と、第2特別図柄による第2可変表示とを行った後とに、可変表示結果が特定表示結果となったことに基づいて遊技者にとって有利な有利状態に制御可能であり、通常状態において所定表示結果（ハズレ表示結果、大当たりとならない小当たり表示結果など）となった可変表示の実行回数の数値情報を更新し、当該数値情報に基づいて、前記所定表示結果となった可変表示の実行回数（継続回数）が特別回数（たとえば1000回など）に到達した特別条件が成立した場合に、通常状態から時短状態（特別状態）に移行させる遊技制御をしてもよい。そして、前記数値情報は、第1可変表示で前記所定表示結果となったときと、第2可変表示で前記所定表示結果となったときとの両方で更新してもよい。これにより、第1可変表示と第2可変表示とのどちらが実行可能な状況でも前記所定表示結果となった回数の数値情報の更新が継続されるので、時短状態による遊技者の救済がされやすくなり、遊技者の遊技意欲を高めることができる。したがって、時短状態による遊技者の救済を好適に実現することが可能となる。

10

【1244】

(C2) 前記特別条件は、前記数値情報に基づいて、前記特定表示結果とは異なる所定表示結果が特別回数（たとえば1000回など）連続して表示されたことが判定された場合に成立するようにしてもよい。これにより、遊技者にとって不利な表示結果が連続した場合に時短状態（特別状態）に移行することで遊技者を救済可能であるので、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【1245】

20

(C3) 前記数値情報は、通常状態とは異なる状態（確変状態、時短状態）においても、可変表示が実行された場合に更新されるようにしてもよい。これにより、遊技者にとって不利な表示結果が連続した場合に遊技者を好適に救済することができる。

【1246】

(C4) 前記数値情報は、所定の初期化条件が成立したときに初期化されるようにしてもよい。そのような初期化条件は、前記有利状態に制御されたことにより成立するようにしてもよい。これにより、遊技者にとって有利な有利状態になったときなど、遊技者を救済する必要がなくなったときに救済することを抑制でき、必要以上に射幸性を高めないようにすることができる。

【1247】

30

(C5) 通常状態において前記特定表示結果とは異なる特別表示結果（時短図柄）が可変表示結果として表示されたときに、時短状態（特別状態）に移行する制御が実行可能であり、前記所定条件は、前記特別表示結果が表示されたときに成立するようにしてもよい。これにより、遊技者にとって有利な時短状態（特別状態）になったときなど、遊技者を救済する必要がなくなったときに救済することを抑制でき、必要以上に射幸性を高めないようにすることができる。

【1248】

(C6) 前記所定条件は、可変表示が特別回数実行されたときに成立するようにしてもよい。これにより、実質的に次の有利状態が発生するまでの時短状態（特別状態）に制御可能となるので、遊技者への救済度合いを高めることができる。

40

【1249】

(C7) 停電などにより電断状態となったときに前記数値情報を含む各種データをバックアップ記憶可能であり、電源投入時の初期化操作などの特定条件が成立したときに、前記バックアップ記憶されたデータを初期化可能であり、前記数値情報は、前記特定条件が成立したときに初期化されるようにしてもよい。これにより、電断時においてバックアップされた数値情報が、データの初期化時に初期化されて残らないこととなるので、遊技場側の不利益となることが抑制される。

【1250】

(C8) 前記数値情報が前記特別回数（たとえば1000回など）となったことに基づいて前記特別回数以上（たとえばさらに1000回以上など）の期間の時短状態（特別

50

状態)に制御可能であり、前記時短状態(特別状態)中において、前記数値情報がさらに前記特別回数となったことに基づいて再度前記時短状態(特別状態)に制御可能であり、1回目の時短状態(特別状態)と、2回目の時短状態(特別状態)とで異なる演出を実行してもよい。これにより、2回目の時短状態(特別状態)に制御されたような極めて不利な状態となっている遊技において、2回目の時短状態の方が1回目の時短状態よりも可変表示時間を短縮するなど、演出の見た目を変更することが可能となり、遊技興趣の低下を防ぐことができる。なお、このような演出を実行せずに、1回目の時短状態(特別状態)と、2回目の時短状態(特別状態)とで同様の演出を実行してもよい。これにより、2回目の時短状態(特別状態)に制御されたような極めて不利な状態となっていることを必要以上遊技者に意識させないようにすることが可能となり、遊技興趣の低下を抑制することができる。

10

【1251】

(C9) 特図プロセスフラグの値が第1数値(0~2)のときに可変表示に関する第1処理を実行し、特図プロセスフラグの値が第1数値とは異なる第2数値(4以降)のときに有利状態(大当り遊技状態)に関する第2処理を実行し、特図プロセスフラグの値が第1数値および第2数値とは異なる第3数値(3)のときに前記特別条件の成立にもとづく時短状態(特別状態)に制御するための第3処理を実行する。また、第1経路(左側遊技領域)と第2経路(右側遊技領域)とに遊技球を打分け可能であって、通常状態では第1経路に遊技球を打込み、時短状態(特別状態)では第2経路に遊技球を打込んで遊技が行なわれる。そして、前記第3処理の実行中においては、時短状態(特別状態)に制御されていないが、前記第2経路に発射すべき旨の報知(たとえば右打ちランプなどによる右打ち報知)をするようにしてもよい。また、前記第3処理の実行中においては、時短状態(特別状態)に移行することの報知演出をしてもよい。これにより、新たな機能が遊技機に搭載されて仕様が複雑になったとしても好適な制御をすることが可能となる。たとえば、遊技制御用のCPU103により右打ちランプを点灯させることにより、実際に時短状態(特別状態)に移行するときに早め(現実の時短変動開始前)に発射方向の報知の演出などが実行可能となる。

20

【1252】

(C10) 前記特別条件が成立する可変表示において前記特定表示結果が表示される場合は、前記第1処理の実行後に前記第2処理を実行し、前記第3処理を実行しないようにしてもよい。これにより、特別条件の成立にもとづく時短状態(特別状態)に制御するよりも、有利状態に制御することが優先されるので、遊技者にとってより有利な結果とならず、遊技者の遊技興趣の低下を抑制することができる。

30

【1253】

(C11) 前記数値情報は、可変表示が開始されるときに更新され、更新後の数値情報が前記特別回数に対応する特定値となったことに基づいて、当該数値情報が特定値となった可変表示が終了した後(次変動開始、客待ち)に時短状態(特別状態)に制御し、更新後の数値情報が前記特別回数に対応する特定値となったときに特別情報(特別回数到達フラグ)を第1数値から第2数値に変更し(フラグセット)、時短状態(特別状態)へ制御するときに、当該特別情報を第2数値から第1数値へ変更する(フラグリセット)ようにしてもよい。これにより、特別情報を管理することによって時短状態(特別状態)へ移行させる制御を好適に実行することができる。

40

【1254】

(C12) 遊技制御用のCPU103は、可変表示の変動パターンを選択決定し、前記特別情報が前記第1情報のときと前記第2情報のときとで異なる図柄確定時間の変動パターンを選択決定するようにしてもよい。これにより、前記特別回数の可変表示が実行されたときに好適に演出を実行可能になる。

【1255】

(C13) 特図プロセスフラグの値が第1数値(0~2)のときに可変表示に関する第1処理を実行し、特図プロセスフラグの値が第1数値とは異なる第2数値(4以降)の

50

ときに有利状態（大当り遊技状態）に関する第2処理を実行し、特図プロセスフラグの値が第1数値および第2数値とは異なる第3数値（3）のときに特別条件の成立にもとづく時短状態（特別状態）に制御するための第3処理を実行する。また、遊技の進行を制御する遊技制御用のCPU103（遊技制御手段）からコマンドを送信し、当該コマンドを受信した演出制御用CPU120（演出制御手段）により、コマンドにもとづく演出を実行可能である。そして、前記特別状態であるときに特図プロセスフラグの値が前記第2数値であるときと前記第3数値であるときとに応じた特定情報（背景指定、変動パターン）を送信可能としてもよい。これにより、新たな機能が遊技機に搭載されて仕様が複雑になったとしても好適な制御をすることが可能となる。たとえば、異なる遊技状態を好適に識別できるので、遊技制御が容易になる。そして、その際に識別した遊技状態に応じてコマンドを異ならせれば、演出制御用CPU120（演出制御手段）により、遊技状態に応じて好適な演出制御を実行することができる。

10

【1256】

（C14） 前記時短状態（特別状態）中において、前記特別条件が成立したときには、特図プロセスフラグの値を前記第1数値、前記第2数値、および、前記第3数値とは異なる第4数値とすることにより、再度前記時短状態（特別状態）に制御可能であるようにしてもよい。これにより、新たな機能が遊技機に搭載されて仕様が複雑になったとしても好適な制御をすることが可能となる。

【1257】

（C15） 時短状態（特別状態）中においては、前記特定表示結果（当り図柄）が表示されたことに基づいて時短状態（特別状態）に制御された場合と、前記特別条件（可変表示回数の条件）が成立して時短状態（特別状態）に制御された場合とで、異なる演出を実行可能であるようにしてもよい（たとえば、可変表示回数が特別回数以上の条件で時短状態となったときは、大当り遊技状態の終了後に時短状態となったときよりも変動時間が短い時短状態演出とするなど）。これにより、遊技状況に応じた時短状態（特別状態）の演出を実行可能となり、遊技興趣を向上させることができる。

20

【1258】

（C16） 時短状態（特別状態）中においては、前記特定表示結果（当り図柄）が表示されたことに基づいて時短状態（特別状態）に制御された場合と、前記特別条件（可変表示回数の条件）が成立して時短状態（特別状態）に制御された場合とで、同様の演出を実行可能であるようにしてもよい（たとえば、可変表示回数が特別回数以上の条件で時短状態となったときと、大当り終了後に時短状態となったときとで、変動時間が同様の時短状態演出とするなど）。これにより、新規の演出データなどを必要としないので開発費を増やさず、また、遊技者を混乱させないことにより遊技興趣を向上させることができる。

30

【1259】

（C17） 時短状態（特別状態）中においては、前記特別表示結果（時短図柄）が表示されたことに基づいて時短状態（特別状態）に制御された場合と、前記特別条件（可変表示回数の条件）が成立して時短状態（特別状態）に制御された場合とで、異なる演出を実行可能であるようにしてもよい（たとえば、可変表示回数が特別回数以上の条件で時短状態となったときは、大当り終了後に時短状態となったときよりも変動時間が短い時短状態演出とするなど）。これにより、遊技状況に応じた時短状態（特別状態）の演出を実行可能となり、遊技興趣を向上させることができる。

40

【1260】

（C18） 時短状態（特別状態）中においては、前記特別表示結果（時短図柄）が表示されたことに基づいて時短状態（特別状態）に制御された場合と、前記特別条件（可変表示回数の条件）が成立して時短状態（特別状態）に制御された場合とで、同様の演出を実行可能であるようにしてもよい（たとえば、可変表示回数が特別回数以上の条件で時短状態となったときは、大当り終了後に時短状態となったときよりも変動時間が短い時短状態演出とするなど）。これにより、新規の演出データなどを必要としないので開発費を増やさず、また、遊技者を混乱させないことにより遊技興趣を向上させることができる。

50

【1261】

(C19) 停電などにより電断状態となったときに前記数値情報を含む各種データをバックアップ記憶可能であり、遊技制御用CPU103は、電源投入時に、バックアップ記憶されたデータに基づいて、所定情報（コールドスタート時にラムクリアコマンド、ホットスタート時に時短状態終了までの変動表示回数を通知するコマンド）を演出制御用CPU120に送信可能であり、演出制御用CPU120は、前記所定情報を受信したことに基づいて、電源が投入された後の所定期間において可変表示が実行された回数に関する示唆演出（所謂朝イチ出目が違う、背景画像が違う、100回転変動以内は遠いか近いかを示唆する演出を実行しやすいなど）を実行可能であるようにしてもよい。遊技者に朝イチの遊技動機を与えることになり遊技機の稼働率が上昇するとともに処理負担を増やさないようにすることができる。

10

【1262】

(C20) 遊技制御用CPU103は、可変表示が実行されたことに関連して特定情報（時短状態に関する情報を特定可能なコマンド）を演出制御用CPU120へ送信可能であり、演出制御用CPU120は、前記特定情報に基づいて特別条件の成立に基づいて特別状態に制御されることに関連する特別演出（時短状態回数の終了示唆の演出など）を実行可能であるようにしてもよい。そして、前記特定情報として、可変表示が実行された回数と前記特別回数との差分が所定値（たとえば127）以下であることを特定可能な第1特定情報（第1背景指定、専用のカウントダウン演出情報）と、可変表示が実行された回数と特別回数との差分が所定値（たとえば127）より大きいことを特定可能な第2特定情報（100回転ごとにカウントダウンするコマンドなど）と、を含むようにしてもよい。これにより、遊技者に機能の示唆を定期的に行うことにより知らずに損をさせるリスクを低減できるとともにコマンド処理を好適に実現できる。

20

【1263】

(C21) 演出制御用CPU120は、前記特別回数より少ない第1所定回数（例えば300回など）の可変表示が実行されたことに基づいて、特別条件が成立したときに時短状態（特別状態）に制御されることを示唆する示唆演出（時短状態示唆演出制御用）を実行可能であり、前記特別回数の可変表示が実行されるよりも前に、第1所定回数より少ない第2所定回数（たとえば100回など）の可変表示が実行される毎に示唆演出を実行可能である。これにより、遊技者に機能の示唆を定期的に行うことにより知らずに損をさせるリスクを低減できる。

30

【1264】

(C22) 停電などにより電断状態となったときに前記数値情報を含む各種データをバックアップ記憶可能であり、遊技制御用CPU103は、電源投入時の初期化操作などの特定条件が成立したときに、前記バックアップ記憶されたデータを初期化可能であり、演出制御用CPU120は、当該バックアップ記憶されたデータの初期化がされた後前記特定表示結果が表示されるよりも前に前記特別条件（可変表示回数の条件）の成立に基づいて時短状態（特別状態）に制御されるときと、当該バックアップ記憶されたデータの初期化がされた後に特定表示結果（当り図柄）が表示されてから前記特別条件の成立に基づいて特別状態に制御されるときと、において時短状態（特別状態）に制御されるときに異なる演出（時短状態に移行するときの演出が異なるなど）を実行する。これにより、新たな機能が遊技機に搭載されて仕様が複雑になったとしても好適な制御をすることが可能となる。また、バックアップ記憶されたデータの初期化がされたか否かが演出の異なりにより遊技者が把握可能となるので、たとえば、大当り確率の設定変更が可能な遊技機の場合には、設定変更がされた可能性があることを把握できるので設定を推測するための要素が増えて遊技興趣を向上させることができる。

40

【1265】

(C23) 停電などにより電断状態となったときに前記数値情報を含む各種データをバックアップ記憶可能であり、遊技制御用CPU103は、電源投入時の初期化操作などの特定条件が成立したときに、前記バックアップ記憶されたデータを初期化可能であり、

50

演出制御用CPU120は、当該バックアップ記憶されたデータの初期化がされた後前記特定表示結果が表示されるよりも前に前記特別条件（可変表示回数の条件）の成立に基づいて時短状態（特別状態）に制御されるときと、当該バックアップ記憶されたデータの初期化がされた後に特定表示結果（当り図柄）が表示されてから前記特別条件の成立に基づいて特別状態に制御されるときと、において時短状態（特別状態）に制御された後に異なる演出を実行する（時短状態に移行した後の演出が異なるなど）。これにより、新たな機能が遊技機に搭載されて仕様が複雑になったとしても好適な制御をすることが可能となる。また、バックアップ記憶されたデータの初期化がされたか否かが演出の異なりにより遊技者が把握可能となるので、たとえば、大当り確率の設定変更が可能な遊技機の場合には、設定変更がされた可能性があることを把握できるので設定を推測するための要素が増えて遊技興趣を向上させることができる。

10

【1266】

（D1） 可変表示の結果が時短図柄が導出される結果になる場合と、大当りが発生する場合と、ハズレになる場合とで、群予告演出の実行割合を異ならせてもよい。

【1267】

この発明は、上記で説明したパチンコ遊技機1に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形および応用が可能である。パチンコ遊技機1の特徴に関する各構成は、他の特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組合せられてもよい。このように組合せられた特徴部、あるいは、組合せられていない個別の特徴部について、他の特徴部に関する各構成の一部または全部と、適宜、組合せられてもよい。

20

【1268】

上記のパチンコ遊技機1は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【1269】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは1種類の図柄（たとえば、「ー」を示す記号）だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよい。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい（表示結果としては「ー」を示す記号が表示されなくてもよい）。

30

【1270】

上記説明では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組合せになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（たとえば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、RT、AT、ART、CZ（以下、ボーナスなど）のうち1以上を搭載するスロット機）にも本発明を適用可能である。

【1271】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「0%」の割合であることを含んでもよい。たとえば、一方が「0%」の割合で、他方が「100%」の割合または「100%」未満の割合であることも含む。

40

【1272】

今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【符号の説明】

【1273】

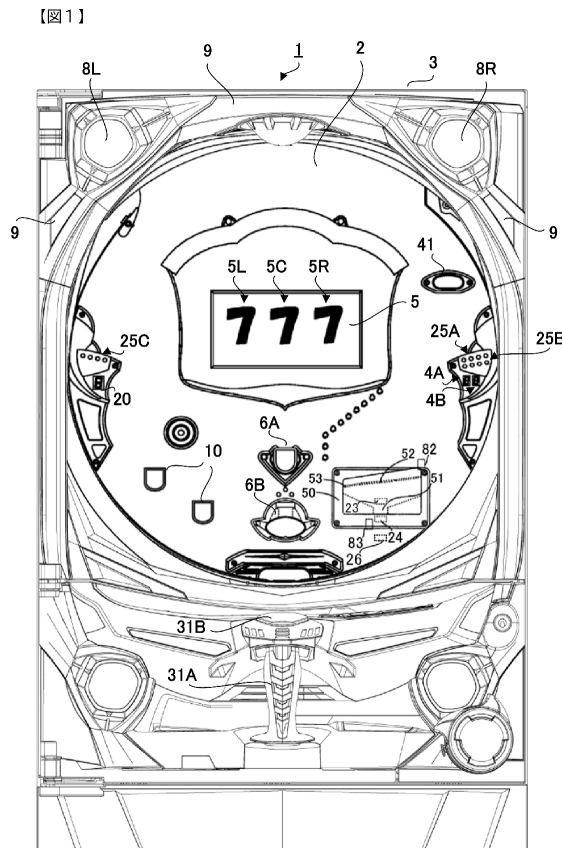
50

1 パチンコ遊技機、2 遊技盤、3 遊技機用枠、5 画像表示装置、5C, 5L, 5R 飾り図柄表示エリア、6A 入賞球装置、6B 可変入賞球装置、8L, 8R スピーカ、9 遊技効果ランプ、10 一般入賞口、11 主基板、12 演出制御基板、13 音声制御基板、14 ランプ制御基板、15 中継基板、9020 特図LED基板、21 ゲートスイッチ、22A 第1始動口スイッチ、22B 第2始動口スイッチ、23 カウントスイッチ、24 V入賞スイッチ、30 打球操作ハンドル、31A スティックコントローラ、31B プッシュボタン、32 可動体、35A コントローラセンサユニット、35B プッシュセンサ、41 通過ゲート、9050 第4図柄ユニット、81, 82, 83 ソレノイド、100 遊技制御用マイクロコンピュータ、101, 121 ROM、102, 122 RAM、104, 124 乱数回路、106 RTC、110 スイッチ回路、111 出力回路、123 表示制御部。

10

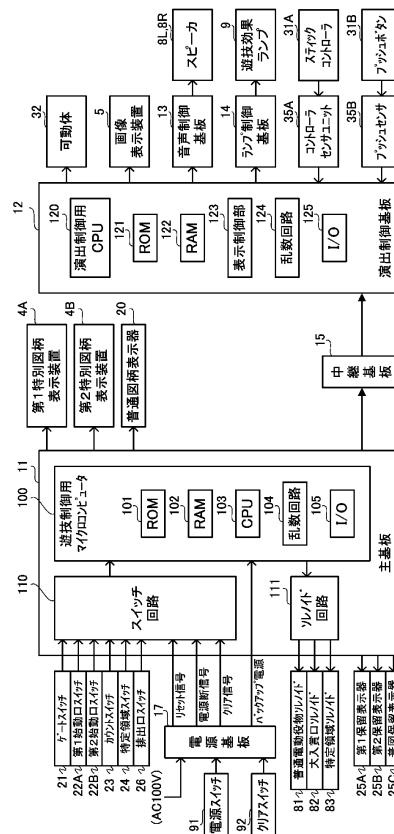
【図面】

【図1】



【図2】

【図2】



20

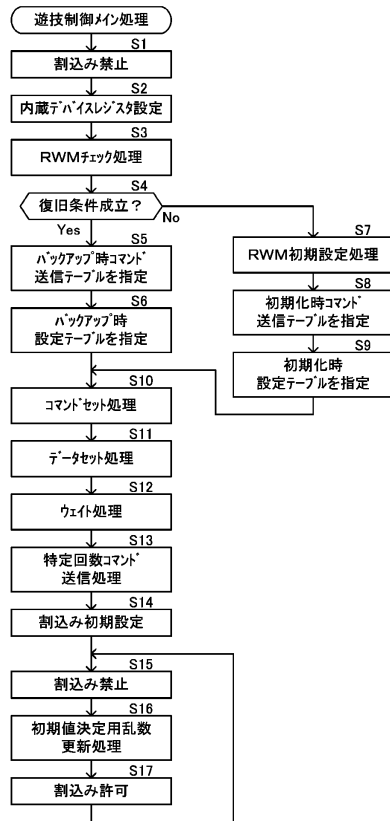
30

40

50

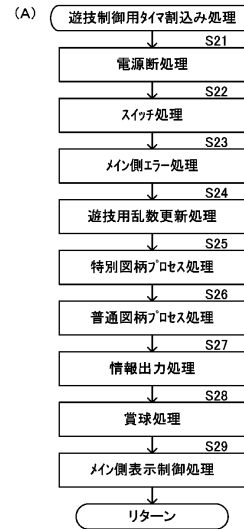
【図 3】

【図 3】



【図 4】

【図 4】

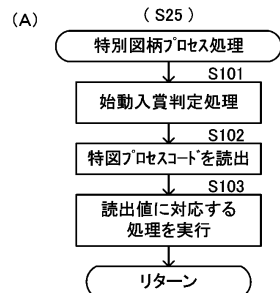


(B)

乱数	範囲	用途
MR1	0～65535	特別図柄判定用
MR2	0～99	当り図柄選択用
MR3	0～99	MR2初期値決定用
MR4	0～238	変動パターン種別選択用
MR5	0～250	変動パターン決定用
MR6	0～198	普通図柄当り判定用
MR7	0～198	MR6初期値決定用

【図 5】

【図 5】



(B)

特図プロセスコード	実行する処理
00	特別図柄通常処理
01	特別図柄変動処理
02	特別図柄停止処理
03	小当り開放前処理
04	小当り開放中処理
05	小当り開放後処理
06	小当り排出球待機処理
07	小当り終了処理
08	大入賞口開放前処理
09	大入賞口開放中処理
0A	大入賞口開放後処理
0B	大当り終了処理

【図 6】

【図 6】

始動口入賞指定値	MR1判定値	特図表示結果
1	20001～20285 確率:1/230	大当り
	21001～21285 確率:1/230	小当り
	22001～22200 確率:1/327	時短
	上記数値以外	ハズレ
2	20001～20285 確率:1/230	大当り
	21001～21282 確率:1/7.91	小当り
	22001～22655 確率:1/100	時短
	上記数値以外	ハズレ

10

20

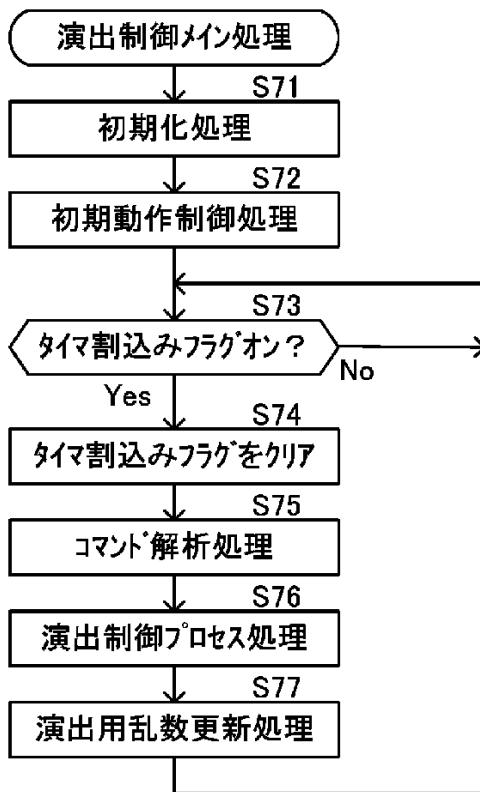
30

40

50

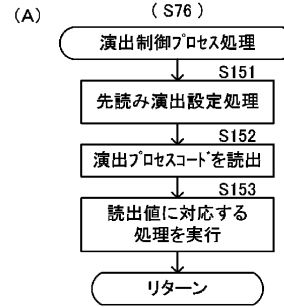
【図 7】

【図 7】



【図 8】

【図 8】

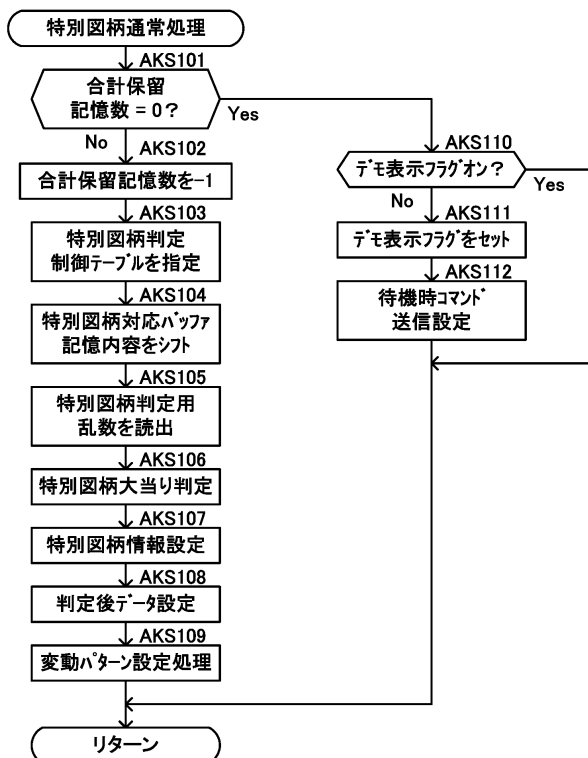


(B)

演出プロセスコード	実行する処理
00	変動パターンコマンド待ち処理
01	演出図柄変動開始処理
02	演出図柄変動中処理
03	演出図柄変動停止処理
04	小当り表示処理
05	小当り開放中処理
06	小当り終了演出処理
07	大当り表示処理
08	ラウンド中処理
09	ラウンド後処理
0A	大当り終了演出処理

【図 9 - 1】

【図 9-1】



【図 9 - 2】

【図 9-2】

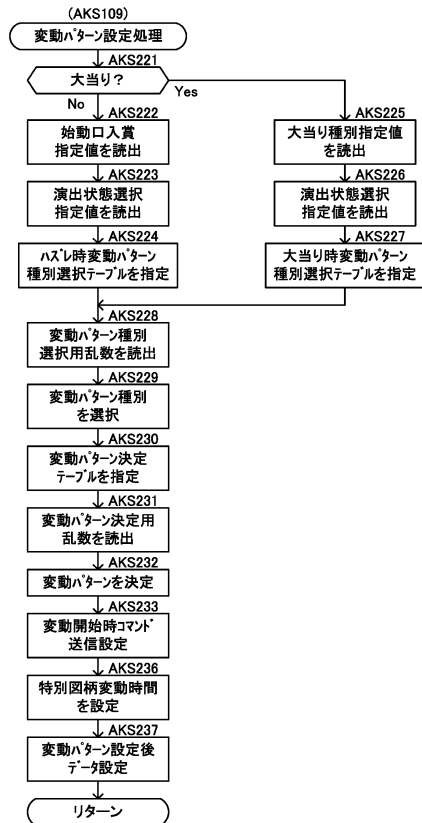
大当り種別決定例

AKD01

始動口入賞 指定値	高ベース制御					
	確変制御					
	なし		あり		あり	
	大当り種別	決定割合	大当り種別	決定割合	大当り種別	決定割合
1	NA01	11/200	NA02	11/200	NA08	11/200
	NA02	44/200	NA02	44/200	NA08	44/200
	NA03	11/200	NA04	11/200	NA08	11/200
	NA04	34/200	NA04	34/200	NA08	34/200
	KA01	12/200	KA02	12/200	KA11	12/200
	KA02	7/200	KA02	7/200	KA11	7/200
	KA03	12/200	KA04	12/200	KA11	12/200
	KA04	19/200	KA04	19/200	KA11	19/200
	KA05	15/200	KA05	15/200	KA15	15/200
	KA06	35/200	KA06	35/200	KA15	35/200
2	NA05	2/200	NA05	2/200	NA09	2/200
	NA05	2/200	NA05	2/200	NA09	2/200
	NA06	2/200	NA06	2/200	NA10	2/200
	NA06	2/200	NA06	2/200	NA10	2/200
	NA07	1/200	NA07	1/200	NA11	1/200
	NA07	1/200	NA07	1/200	NA11	1/200
	NA07	2/200	NA07	2/200	NA11	2/200
	KA07	62/200	KA07	62/200	KA12	62/200
	KA08	50/200	KA08	50/200	KA13	50/200
	KA09	62/200	KA09	62/200	KA14	62/200
	KA10	14/200	KA10	14/200	KA15	14/200

【図 9 - 3】

【図9-3】



【図 9 - 4】

【図9-4】

ハズレ変動パターン

変動パターン	特図変動時間(ms)	内容
PA1-1	20000	通常時短縮なし→非リーチ(ハズレ)
PA1-2	14000	通常時第1短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PA1-3	3500	通常時第2短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PA1-4	3500	通常時第3短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PA1-5	20320	通常時第1カセ→非リーチ(ハズレ)
PA1-6	67500	通常時第2カセ→非リーチ(ハズレ)
PB1-1	10000	時短中短縮なし→非リーチ(ハズレ)
PB1-2	3500	時短中第1短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PB1-3	500	時短中第2短縮あり→非リーチ(ハズレ)
PB1-4	500	時短中第1カセ→非リーチ(ハズレ)
PB1-5	2000	時短中第2カセ→非リーチ(ハズレ)
PB1-6	9000	時短中第1最終→非リーチ(ハズレ)
PB1-7	12500	時短中第2最終→非リーチ(ハズレ)
PB1-8	12500	時短中第3最終→非リーチ(ハズレ)
PB1-9	29900	時短中第4最終→非リーチ(ハズレ)
PA2-1	45000	ノーマルリーチNOA(ハズレ)
PA2-2	53000	ノーマルリーチNOB(ハズレ)
PA2-3	36000	ノーマルリーチNOC(ハズレ)
PA2-4	82200	スーパーリーチSPA(ハズレ)
PA2-5	95900	スーパーリーチSPB(ハズレ)
PA2-6	149000	スーパーリーチSPC(ハズレ)
PA2-7	169000	スーパーリーチSPD(ハズレ)
PB2-1	3500	高速リーチSRA(ハズレ)
PB2-2	16500	スーパーリーチSPE(ハズレ)
PB2-3	35500	スーパーリーチSPF(ハズレ)

10

20

【図 9 - 5】

【図9-5】

大当り変動パターン

変動パターン	特図変動時間(ms)	内容
PA3-1	71650	ノーマルリーチNOA(大当り)
PA3-2	66200	ノーマルリーチNOB(大当り)
PA3-3	46000	ノーマルリーチNOC(大当り)
PA3-4	158500	スーパーリーチSPA1(大当り)
PA3-5	159500	スーパーリーチSPA2(大当り)
PA3-6	157900	スーパーリーチSPA3(大当り)
PA3-7	135200	スーパーリーチSPA4(大当り)
PA3-8	86000	スーパーリーチSPB(大当り)
PA3-9	78400	スーパーリーチSPC(大当り)
PA3-10	87400	スーパーリーチSPD(大当り)
PB3-1	2500	高速SQA(大当り)
PB3-2	4500	高速リーチSRA(大当り)
PB3-3	11500	スーパーリーチSPE(大当り)
PB3-4	30500	スーパーリーチSPF(大当り)
PB3-5	49500	スーパーリーチSPG1(大当り)
PB3-6	15500	スーパーリーチSPG2(大当り)
PB3-7	34500	スーパーリーチSPG3(大当り)
PB3-8	53500	スーパーリーチSPG4(大当り)
PB3-9	11500	スーパーリーチSPH1(大当り)
PB3-10	30500	スーパーリーチSPH2(大当り)
PB3-11	49500	スーパーリーチSPH3(大当り)

【図 9 - 6】

【図9-6】

(A) ハズレ時参照テーブル AKA01

演出状態 選択指定値	参照テーブル
00	TS01
06	TS02
07	TS03
08	TS04
09	TS05
0A	TS06
0B	TS07
0C	TS08
0D	TS09
0E	TS02

(B)

TS01

始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1	0	0	TA10
	1	0	TA11
	2	0	TA12
	3	0	TA13
2	0	0~3	TA20
	1~4	0~3	TA21

(C)

TS02

始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1	0~3	0	TB10
	0~4	0	TB20
2	0~4	1~3	TB21

(D)

TS03

始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1	0~3	0	TB10
	0~4	0	TB22
2	0~4	1~3	TB23

(E)

TS04

始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1	0~3	0	TB10
	0~4	0	TB24
2	0~4	1~3	TB25

30

40

50

【図 9 - 7】

【図9-7】

(A) TS05			
始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1,2	0~4	0~4	TB11

(B) TS06			
始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1	0~3	0	TB12
2	0~4	0	TB26
	0~4	1~3	TB27

(C) TS07			
始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1,2	0~4	0~4	TB13

(D) TS08			
始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1,2	0~4	0~4	TB14

(E) TS09			
始動口入賞 指定値	第1保留記憶数	第2保留記憶数	選択テーブル
1,2	0~4	0~4	TB15

【図 9 - 8】

【図9-8】

大当たり時参照テーブル

TS21

演出状態 選択指定値	大当たり種別	選択テーブル
00	NA01,NA02,NA05, KA01,KA02,KA07	TA30
	NA03,NA04,NA06, KA03,KA04,KA05, KA08	TA31
	NA07, KA06,KA09,KA10	TA32
06,0E	NA08~NA11, KA11~KA15	TB30
07	NA08,NA09, KA11,KA12	TB31
	NA10,KA13	TB32
	NA11,KA14	TB33
	KA15	TB34
08	NA08,NA09, KA11,KA12	TB35
	NA10,KA13	TB36
	NA11,KA14	TB37
	KA15	TB38
09,0B, 0C,0D	NA08~NA11, KA11~KA14	TB40
	KA15	TB41
0A	NA08,NA09, KA11,KA12	TB42
	NA10,KA13	TB43
	NA11,KA14	TB44
	KA15	TB45

10

20

【図 9 - 9】

【図9-9】

(A) TA10		(E) TA20	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CA1-1	204/239	CA1-1	239/239
CA1-5	24/239		
CA2-1	6/239		
CA2-2	4/239		
CA2-3	1/239		

(B) TA11		(F) TA21	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CA1-2	204/239	CA1-3	239/239
CA1-5	24/239		
CA2-1	6/239		
CA2-2	4/239		
CA2-3	1/239		

(C) TA12		(D) TA13	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CA1-3	204/239	CA1-4	204/239
CA1-5	24/239	CA1-5	24/239
CA2-1	6/239	CA2-1	6/239
CA2-2	4/239	CA2-2	4/239
CA2-3	1/239	CA2-3	1/239

【図 9 - 10】

【図9-10】

(A) TB10		(G) TB20	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CB1-1	239/239	CB1-2	239/239

(B) TB11		(H) TB21	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CB1-5	239/239	CB1-3	239/239

(C) TB12		(I) TB22	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CB1-1	239/239	CB1-2	204/239
		CB1-4	24/239
		CB2-1	11/239

(D) TB13		(J) TB23	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CB1-7	239/239	CB1-3	204/239
		CB1-4	24/239
		CB2-1	11/239

(E) TB14		(K) TB24	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CB1-8	239/239	CB1-2	204/239
		CB1-4	24/239
		CB2-1	11/239

(F) TB15		(L) TB25	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CB1-9	239/239	CB1-3	204/239
		CB1-4	24/239
		CB2-1	11/239

(M) TB26		(N) TB27	
変動パターン種別	選択割合	変動パターン種別	選択割合
CB1-2	215/239	CB1-3	215/239
CB1-6	13/239	CB1-6	13/239
CB2-2	11/239	CB2-2	11/239

30

40

50

【図 9 - 1 1】

【図9-11】

(A) TA30	
変動パターン種別	選択割合
CA3-1	3/239
CA3-2	214/239
CA3-3	22/239

(B) TA31	
変動パターン種別	選択割合
CA3-1	3/239
CA3-2	167/239
CA3-3	63/239
CA3-4	6/239

(C) TA32	
変動パターン種別	選択割合
CA3-2	206/239
CA3-3	31/239
CA3-4	2/239

(D) TB30	
変動パターン種別	選択割合
CB3-1	239/239

(E) TB31	
変動パターン種別	選択割合
CB3-2	239/239

(F) TB32	
変動パターン種別	選択割合
CB3-3	239/239

(G) TB33	
変動パターン種別	選択割合
CB3-4	239/239

(H) TB34	
変動パターン種別	選択割合
CB3-5	239/239

(I) TB35	
変動パターン種別	選択割合
CB3-2	239/239

(J) TB36	
変動パターン種別	選択割合
CB3-3	239/239

(K) TB37	
変動パターン種別	選択割合
CB3-4	239/239

(L) TB38	
変動パターン種別	選択割合
CB3-5	239/239

【図 9 - 1 2】

【図9-12】

(A) TB40	
変動パターン種別	選択割合
CB4-1	239/239

(B) TB41	
変動パターン種別	選択割合
CB4-2	239/239

(C) TB42	
変動パターン種別	選択割合
CB4-3	239/239

(D) TB43	
変動パターン種別	選択割合
CB4-4	239/239

(E) TB44	
変動パターン種別	選択割合
CB4-5	239/239

(F) TB45	
変動パターン種別	選択割合
CB4-6	239/239

10

20

【図 9 - 1 3】

【図9-13】

(A) CA1-1	
変動パターン	決定割合
PA1-1	120/251
PA1-5	93/251
PA1-6	38/251

(I) CA3-1	
変動パターン	決定割合
PA3-1	2/251
PA3-2	1/251
PA3-3	248/251

(B) CA1-2	
変動パターン	決定割合
PA1-2	251/251

(J) CA3-2	
変動パターン	決定割合
PA3-4	80/251
PA3-5	80/251
PA3-6	88/251
PA3-7	3/251

(C) CA1-3	
変動パターン	決定割合
PA1-3	251/251

(K) CA3-3	
変動パターン	決定割合
PA3-8	251/251

(D) CA1-4	
変動パターン	決定割合
PA1-4	251/251

(L) CA3-4	
変動パターン	決定割合
PA3-9	125/251
PA3-10	126/251

(E) CA1-5	
変動パターン	決定割合
PA1-5	196/251
PA1-6	55/251

【図 9 - 1 4】

【図9-14】

(A) CB1-1	
変動パターン	決定割合
PB1-1	251/251

(J) CB2-1	
変動パターン	決定割合
PB2-1	141/251
PB2-2	101/251
PB2-3	9/251

(B) CB1-2	
変動パターン	決定割合
PB1-2	251/251

(K) CB2-2	
変動パターン	決定割合
PB2-1	155/251
PB2-2	78/251
PB2-3	18/251

(C) CB1-3	
変動パターン	決定割合
PB1-3	251/251

(D) CB1-4	
変動パターン	決定割合
PB1-4	201/251
PB1-5	50/251

(E) CB1-5	
変動パターン	決定割合
PB1-6	251/251

(F) CB1-6	
変動パターン	決定割合
PB1-4	226/251
PB1-5	25/251

(G) CB1-7	
変動パターン	決定割合
PB1-7	251/251

(H) CB1-8	
変動パターン	決定割合
PB1-8	251/251

(I) CB1-9	
変動パターン	決定割合
PB1-9	251/251

30

40

50

【図 9 - 1 5】

【図9-15】

(A) CB3-1	
変動パターン	決定割合
PB3-1	251/251
(B) CB3-2	
変動パターン	決定割合
PB3-1	75/251
PB3-2	176/251
(C) CB3-3	
変動パターン	決定割合
PB3-2	39/251
PB3-3	80/251
PB3-4	25/251
PB3-5	1/251
PB3-6	80/251
PB3-7	25/251
PB3-8	1/251
(D) CB3-4	
変動パターン	決定割合
PB3-2	39/251
PB3-3	59/251
PB3-4	21/251
PB3-5	1/251
PB3-6	99/251
PB3-7	31/251
PB3-8	1/251
(E) CB3-5	
変動パターン	決定割合
PB3-9	151/251
PB3-10	75/251
PB3-11	25/251

【図 9 - 1 6】

【図9-16】

(A) CB4-1	
変動パターン	決定割合
PB3-2	251/251
(B) CB4-2	
変動パターン	決定割合
PB3-9	251/251
(C) CB4-3	
変動パターン	決定割合
PB3-1	1/251
PB3-2	250/251
(D) CB4-4	
変動パターン	決定割合
PB3-2	11/251
PB3-3	6/251
PB3-4	18/251
PB3-5	36/251
PB3-6	18/251
PB3-7	54/251
PB3-8	108/251
(E) CB4-5	
変動パターン	決定割合
PB3-2	11/251
PB3-3	6/251
PB3-4	18/251
PB3-5	36/251
PB3-6	18/251
PB3-7	54/251
PB3-8	108/251
(F) CB4-6	
変動パターン	決定割合
PB3-9	26/251
PB3-10	75/251
PB3-11	150/251

10

20

【図 9 - 1 7】

【図9-17】

演出図柄指定コマンド設定例

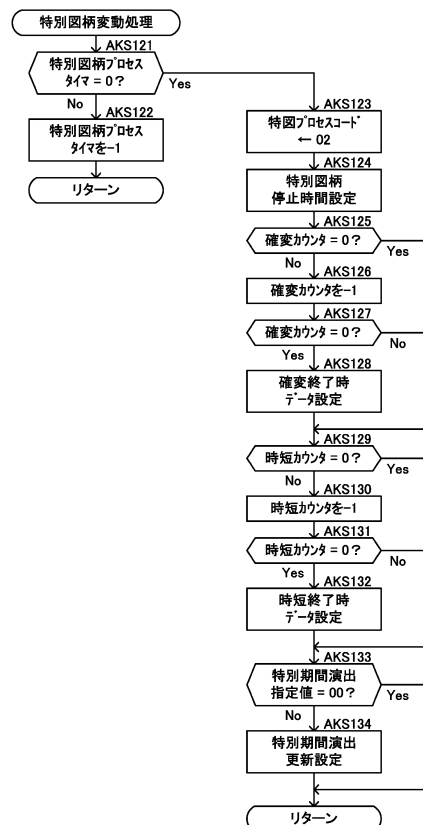
AKB01

大当り種別	演出図柄指定コマンド
NA01	8C01
NA02	8C01
NA03	8C02
NA04	8C02
NA05	8C0B
NA06	8C02
NA07	8C0C
NA08	8C01
NA09	8C0B
NA10	8C02
NA11	8C0C

大当り種別	演出図柄指定コマンド
KA01	8C0A
KA02	8C04
KA03	8C09
KA04	8C05
KA05	8C07
KA06	8C08
KA07	8C03
KA08	8C05
KA09	8C06
KA10	8C08
KA11	8C04
KA12	8C03
KA13	8C05
KA14	8C06
KA15	8C08

【図 9 - 1 8】

【図9-18】



30

40

50

【図 9 - 19】

【図9-19】

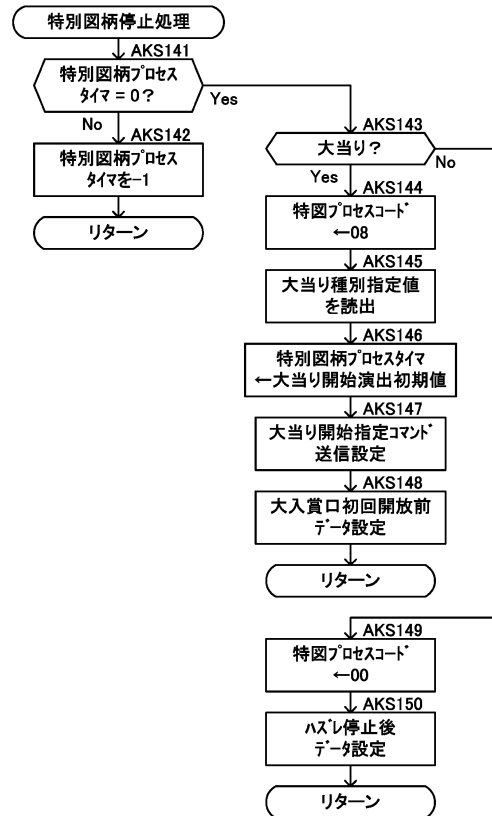
特別期間演出設定テーブル

AKT01

特別期間 演出指定値	時短カウンタ 判定値	演出状態選択 指定値	背景指定 コメント
05	63	03	9503
	62	07	9506
	1	0C	9506
	0	00	9500
06	63	03	9503
	62	08	9505
	1	0C	9505
	0	00	9500
07	66	07	9506
	1	0C	9506
	0	00	9500
08	66	08	9505
	1	0C	9505
	0	00	9500
09	1	0C	9506
	0	00	9500
0A	1	0C	9505
	0	00	9500
0B	566	07	9506
	501	09	9506
	500	0A	9504
	1	0B	9504
	0	00	9500
0C	566	08	9505
	501	09	9505
	500	0A	9504
	1	0B	9504
	0	00	9500
0D	9996	07	9506
	9931	0D	9506
	9930	0E	9509
	0	00	9500
0E	9996	08	9505
	9931	0D	9505
	9930	0E	9509
	0	00	9500

【図 9 - 20】

【図9-20】



10

20

【図 9 - 21】

【図9-21】

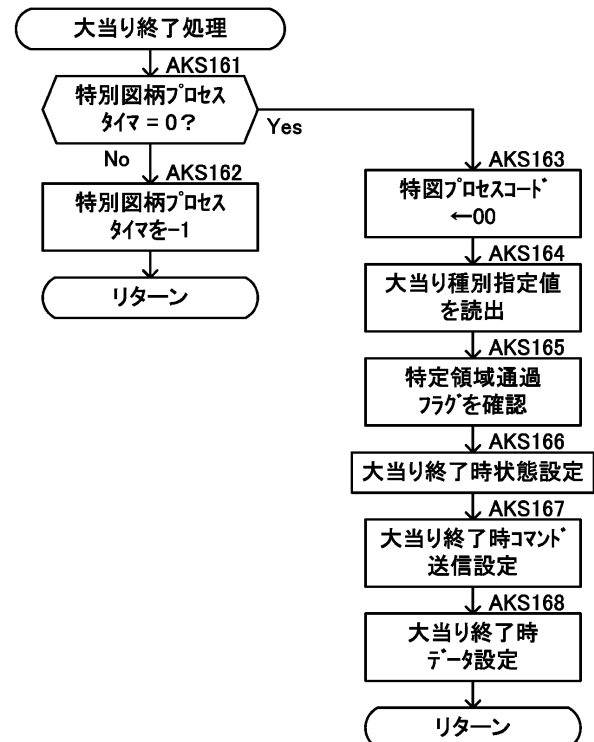
大当り開始時設定例

AKB02

大当り種別	大入賞口開放 回数最大値	大当り開始 指定コメント	大当り開始 演出時間(ms)	大当り開始 演出パターン
NA01	03	A001	7500	APA1
NA02	03	A001	7500	APA1
NA03	03	A001	7500	APA1
NA04	03	A001	7500	APA1
NA05	02	A000	7500	APA1
NA06	04	A00F	7500	APA1
NA07	07	A002	8000	APA2
NA08	03	A00E	100	APA31
NA09	02	A00A	100	APA32
NA10	04	A00B	100	APA33
NA11	07	A00C	100	APA34
KA01	03	A005	7500	APA1
KA02	03	A006	7500	APA1
KA03	03	A005	7500	APA1
KA04	03	A006	7500	APA1
KA05	10	A008	7500	APA1
KA06	10	A009	8000	APA2
KA07	02	A004	7500	APA1
KA08	04	A010	7500	APA1
KA09	07	A007	8000	APA2
KA10	10	A009	8000	APA2
KA11	03	A00E	100	APA31
KA12	02	A00A	100	APA32
KA13	04	A00B	100	APA33
KA14	07	A00C	100	APA34
KA15	10	A00D	14000	APA35

【図 9 - 22】

【図9-22】



30

40

50

【図 9 - 2 3】

【図9-23】

大当り終了時設定例

AKB11

大当り種別	時短カウンタ初期値	大当り終了演出時間(ms)	演出状態選択指定値
NA01	8	48000	02
NA02	100	48000	02
NA03	8	48000	02
NA04	100	48000	02
NA05	70	9500	06
NA06	70	9500	06
NA07	70	9500	06
NA08	570	3500	06
NA09	10000	3500	06
NA10	10000	3500	06
NA11	10000	3500	06
KA01	8	48000	02
KA02	70	48000	02
KA03	8	48000	02
KA04	70	48000	02
KA05	70	9500	06
KA06	70	9500	06
KA07	70	9500	06
KA08	70	9500	06
KA09	70	9500	06
KA10	70	9500	06
KA11	70	3500	06
KA12	70	3500	06
KA13	70	3500	06
KA14	70	3500	06
KA15	70	3500	06

確変カウンタ初期値 = 70 (V入賞あり)

【図 9 - 2 4】

【図9-24】

大当り終了時設定例

AKB12

大当り種別	V入賞	大当り終了指定マント	特別期間演出指定値	大当り後背景指定
NA01	なし	A300	01	9502
	あり	A300	02	9508
NA02	なし	A301	03	9502
	あり	A307	04	9503
NA03	なし	A300	01	9502
	あり	A300	02	9508
NA04	なし	A301	03	9502
	あり	A307	04	9503
NA05	なし	A303	08	9505
	あり	A303	07	9506
NA06	なし	A303	08	9505
	あり	A303	07	9506
NA07	なし	A303	08	9505
	あり	A303	07	9506
NA08	なし	A308	0C	9505
	あり	A308	0B	9506
NA09	なし	A306	0E	9505
	あり	A306	0D	9506
NA10	なし	A306	0E	9505
	あり	A306	0D	9506
NA11	なし	A306	0E	9505
	あり	A306	0D	9506

10

20

【図 9 - 2 5】

【図9-25】

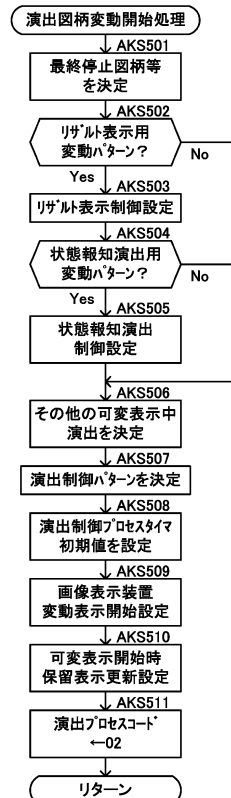
大当り終了時設定例

AKB13

大当り種別	V入賞	大当り終了指定マント	特別期間演出指定値	大当り後背景指定
KA01	なし	A300	01	9502
	あり	A300	02	9508
KA02	なし	A302	06	9503
	あり	A302	05	9503
KA03	なし	A300	01	9502
	あり	A300	02	9508
KA04	なし	A302	06	9503
	あり	A302	05	9503
KA05	なし	A303	0A	9505
	あり	A303	09	9506
KA06	なし	A303	0A	9505
	あり	A303	09	9506
KA07	なし	A303	08	9505
	あり	A303	07	9506
KA08	なし	A303	08	9505
	あり	A303	07	9506
KA09	なし	A303	08	9505
	あり	A303	07	9506
KA10	なし	A303	08	9505
	あり	A303	07	9506
KA11	なし	A305	08	9505
	あり	A305	07	9506
KA12	なし	A305	08	9505
	あり	A305	07	9506
KA13	なし	A305	08	9505
	あり	A305	07	9506
KA14	なし	A305	08	9505
	あり	A305	07	9506
KA15	なし	A305	08	9505
	あり	A305	07	9506

【図 9 - 2 6】

【図9-26】



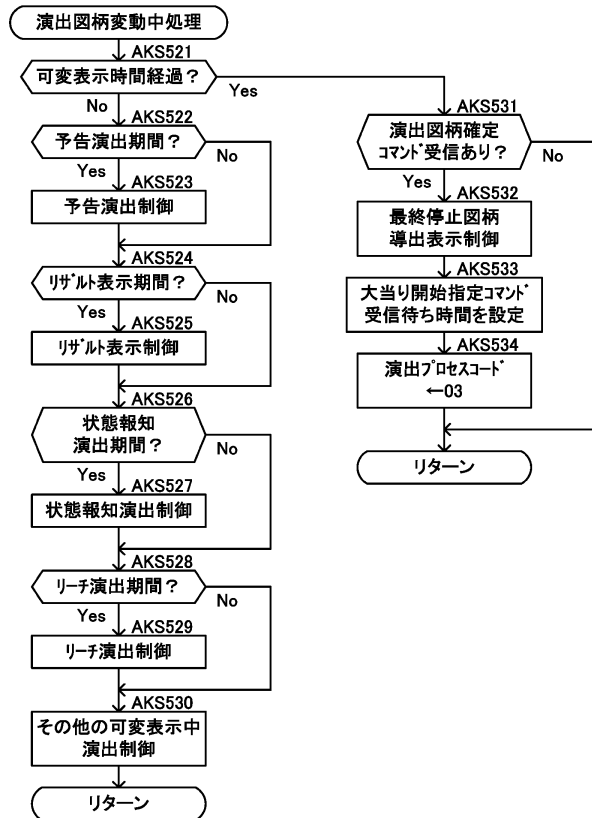
30

40

50

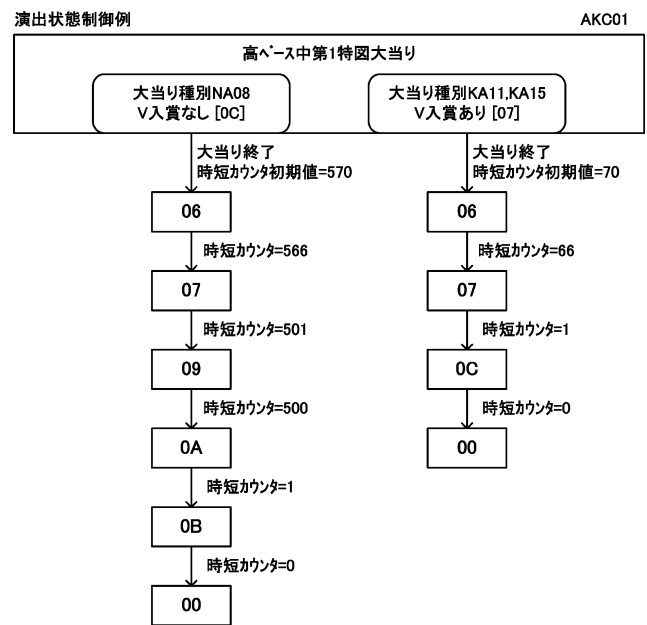
【図 9 - 2 7】

【図9-27】



【図 9 - 2 8】

【図9-28】

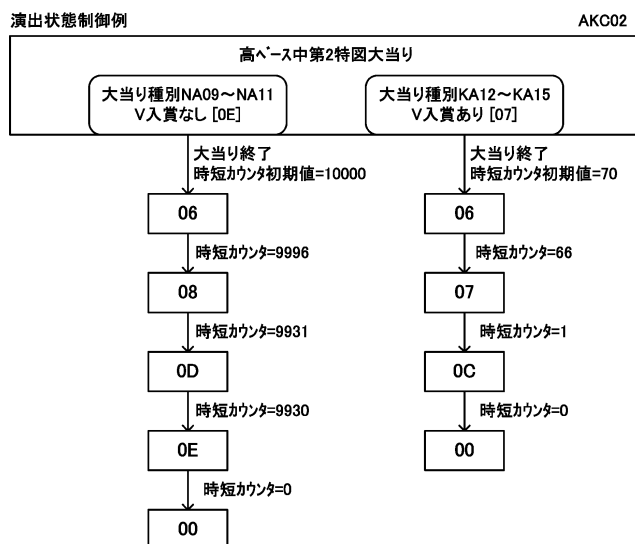


10

20

【図 9 - 2 9】

【図9-29】



【図 9 - 3 0】

【図9-30】

演出状態制御例					
AKC11					
演出状態選択指定値	遊技状態	可変表示結果	決定可能パターン種別	決定可能パターン	特図変動時間(ms)
0C	高確高ベース	ハズレ	CB1-8	PB1-8	12500
0D	低確高ベース	ハズレ	CB1-9	PB1-9	29900

大当り制御例			
AKC12			
大当り種別	大入賞口開放回数最大値	時短カウンタ初期値	高ベース中決定率(第2特図)
NA09	02	10000	2%
NA10	04	10000	2%
NA11	07	10000	2%
KA12	02	70	31%
KA13	04	70	25%
KA14	07	70	31%
KA15	10	70	7%

大当り時演出制御例					
AKC13					
大当り種別	大入賞口開放回数最大値	大当り開始演出時間(ms)	大当り開始演出パターン	大当り中演出パターン	大当り終了演出パターン
NA09	02	100	APA32	APB32	APC32
NA10	04	100	APA33	APB33	APC33
NA11	07	100	APA34	APB34	APC34
KA12	02	100	APA32	APB32	APC32
KA13	04	100	APA33	APB33	APC33
KA14	07	100	APA34	APB34	APC34
KA15	10	14000	APA35	APB35	APC35

30

40

50

【図 9 - 3 1】

【図9-31】

可変表示制御例	大入賞口開放回数最大値	決定可能ハターン種別	決定可能ハターン	特図変動時間(ms)	決定割合	平均変動時間(ms)
AKC21	02	CB3-2	PB3-1	2500	75/251	3900
			PB3-2	4500	176/251	
			PB3-3	4500	39/251	
	04	CB3-3	PB3-3	11500	80/251	16190
			PB3-4	30500	25/251	
			PB3-5	49500	17/251	
			PB3-6	15500	80/251	
			PB3-7	34500	25/251	
	07	CB3-4	PB3-8	53500	1/251	16740
			PB3-2	4500	39/251	
			PB3-3	11500	59/251	
	10	CB3-5	PB3-4	30500	21/251	20960
			PB3-5	49500	1/251	
			PB3-6	15500	99/251	
			PB3-7	34500	31/251	
			PB3-8	53500	1/251	
AKC22	10	CB3-5	PB3-9	11500	151/251	20960
			PB3-10	30500	75/251	
	10	CB3-5	PB3-11	49500	25/251	

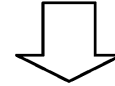
【図 9 - 3 2】

【図9-32】

可変表示制御例

AKC22

大当り種別	平均変動時間(ms)	高ベース中決定率 (第2特図)
NA09	3900	2%
NA10	16190	2%
NA11	16740	2%
KA12	3900	31%
KA13	16190	25%
KA14	16740	31%
KA15	20960	7%



平均変動時間(全体)
12650ms

10

20

【図 9 - 3 3】

【図9-33】

(A) 可変表示制御例

AKC31

演出状態 選択指定値	遊技状態	可変表示結果	変動パターン 種別	変動パターン	特図変動時間(ms)
07	高確高ベース	ハズレ	CB2-1	PB2-2	16500
				PB2-3	35500
08	低確高ベース	ハズレ	CB2-1	PB2-2	16500
				PB2-3	35500
0C	高確高ベース	ハズレ	CB1-8	PB1-8	12500
				PB3-2	4500
0D	低確高ベース	ハズレ	CB4-2	PB3-9	11500
				PB1-9	29900
		大当り	CB4-1	PB3-2	4500
				PB3-9	11500

(B) 可変表示制御例

AKC32

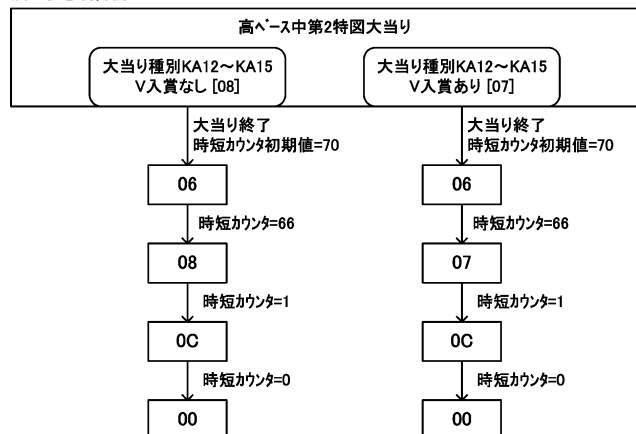
演出状態 選択指定値	大当り種別	大入賞口開放 回数最大値	決定可能 ハターン種別	決定可能ハターン	特図変動時間(ms)
07,08	NA09,KA12	02	CB3-2	PB3-1	2500
				PB3-2	4500
				PB3-3	4500
				PB3-4	11500
	NA10,KA13	04	CB3-3	PB3-4	30500
				PB3-5	49500
				PB3-6	15500
				PB3-7	34500
0C,0D	NA09,KA12	02	CB4-1	PB3-2	4500
				PB3-9	11500
	NA10,KA13	04	CB4-1	PB3-2	4500
				PB3-9	11500

【図 9 - 3 4】

【図9-34】

演出状態制御例

AKC41



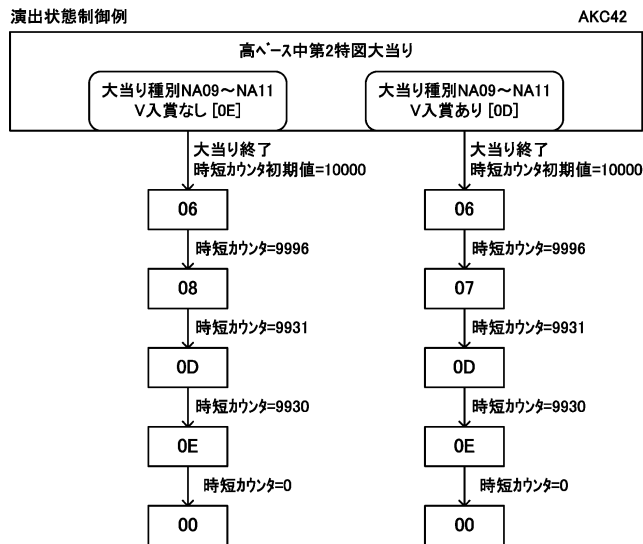
30

40

50

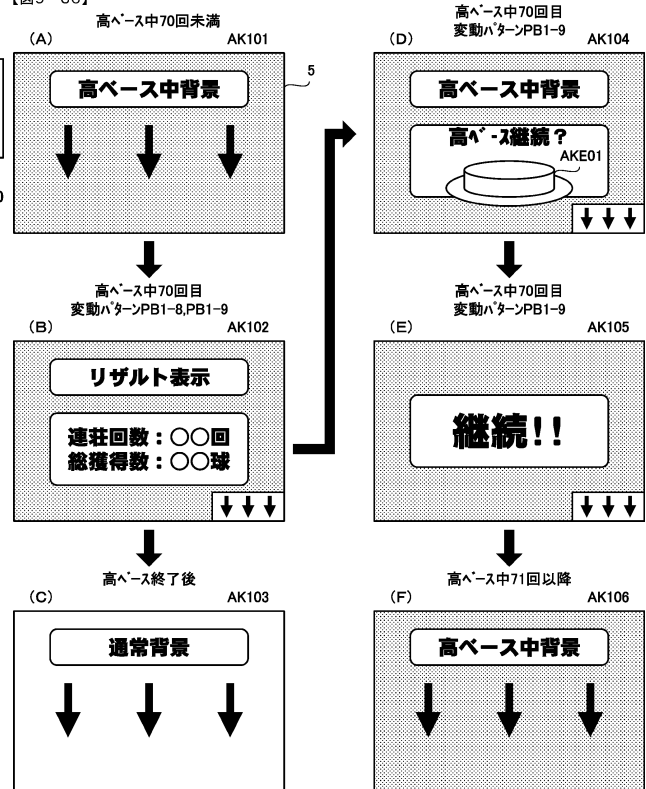
【図 9 - 3 5】

【図9-35】



【図 9 - 3 6】

【図9-36】

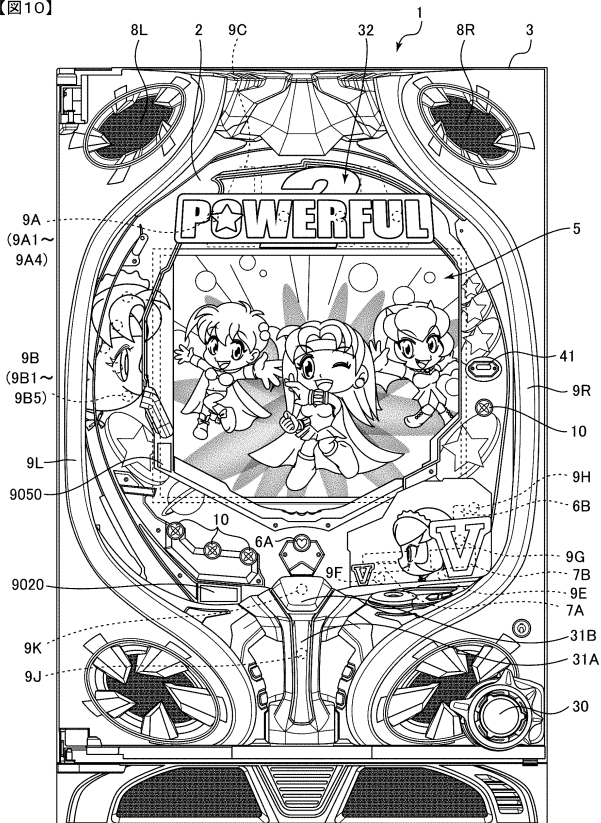


10

20

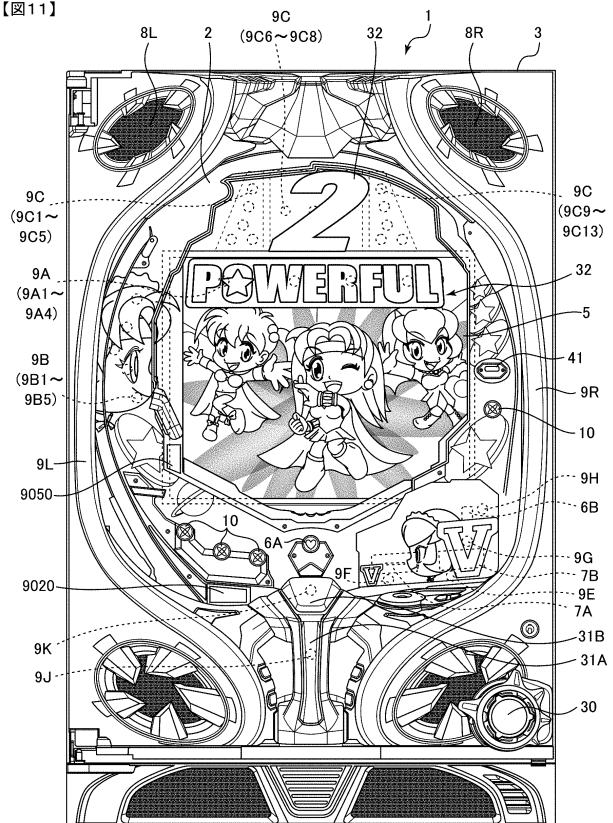
【図 1 0】

【図10】



【図 1 1】

【図11】



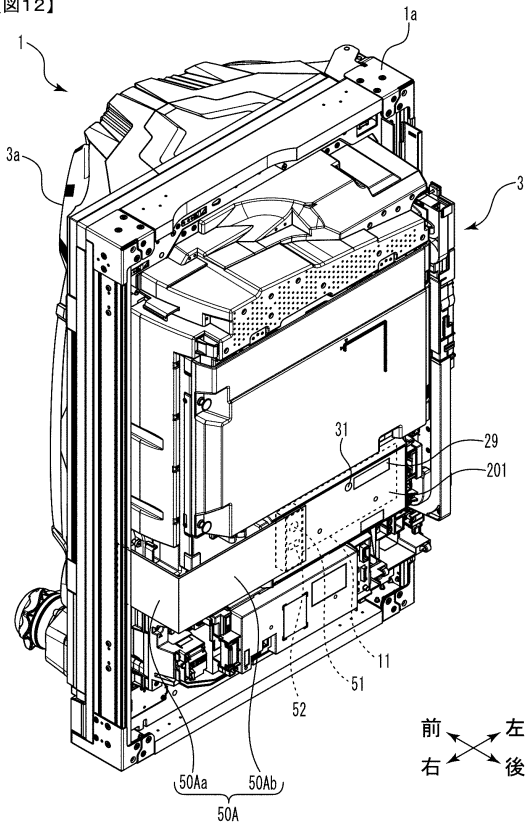
30

40

50

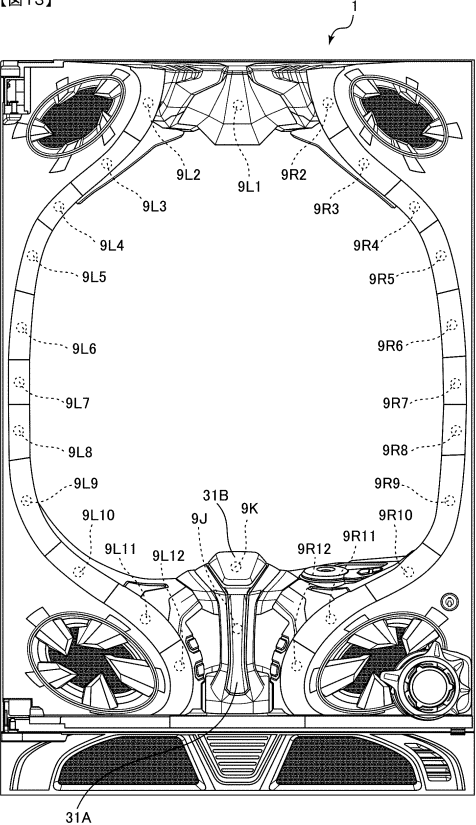
【図 1 2】

【図12】



【図 1 3】

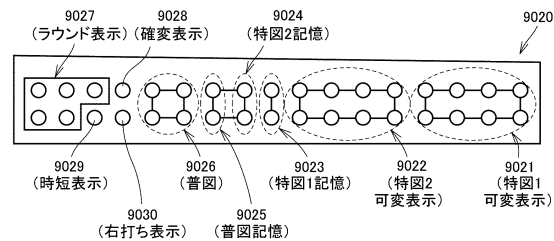
【図13】



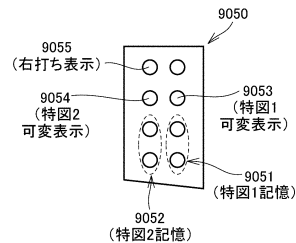
【図 1 4】

【図14】

(a)特図LED基板



(b)第4図柄ユニット

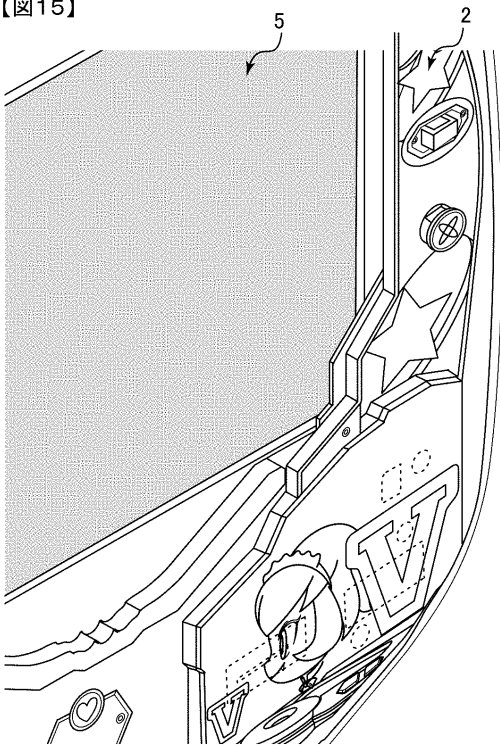


(c)第4図柄ユニットとSPリーチ時の遊技効果ランプとの関係

演出制御コマンド	第4図柄ユニット	遊技効果ランプ
変動パターンコマンド	停止を示す消灯から変動を示す点滅に切り替える	維持
図柄確定コマンド	変動を示す点滅から停止を示す消灯に切り替える	維持

【図 1 5】

【図15】



10

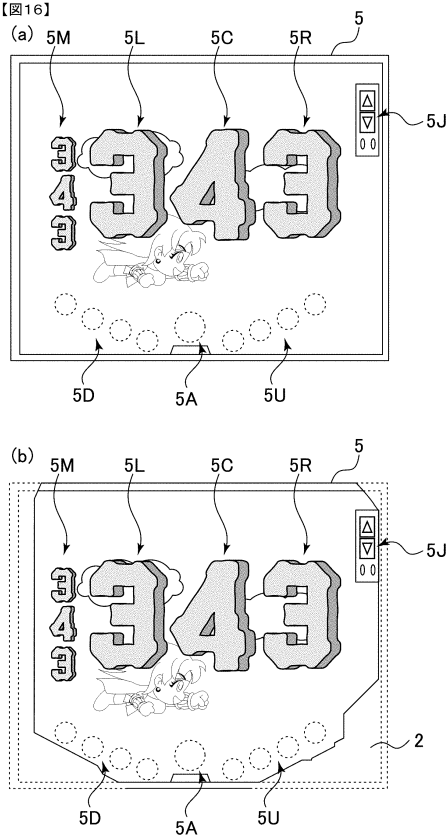
20

30

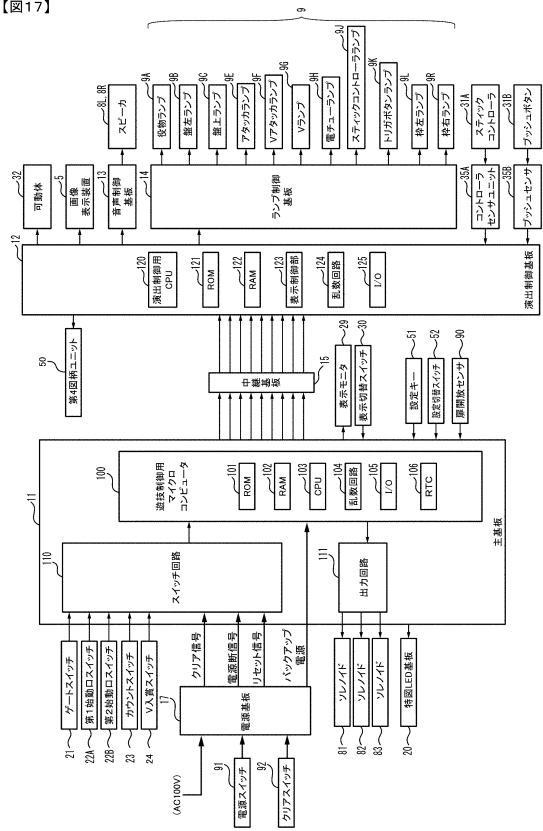
40

50

【図 16】



【図 17】



【図 18】

【図18】

当り種別

当り種別	当り後 大当り確率	当り後ベース	開放 回数
通常大当り1	低確率	高ベース (変動50回まで)	3
通常大当り2	低確率	高ベース (変動100回まで)	3
確変大当り1	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	3
確変大当り2	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	3
確変大当り3	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	3
確変大当り4	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	3
確変大当り5	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	3
確変大当り6	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	5
確変大当り7	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	7
確変大当り8	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	10
確変大当り9	高確率 (変動100回まで)	高ベース (変動100回まで)	10

【図 19】

【図19】

乱数

乱数	用途	最大判定値
ランダム1	大当り判定 (通常時、確変時共通)	65536
ランダム2	大当り種類判定 (第1特図、第2特図共通)	100
ランダム3	後変動パターン判定 (ハズレ時)	65519
ランダム4	後変動パターン判定 (当り時)	239
ランダム5	前変動パターン判定	251
ランダム6	普通図柄当り判定	201

10

20

30

40

50

【図 2 0】

【図20】

(a)大当り判定

状態	ランダム1判定値数 (最大判定値65536)
通常時	205
確変時	789

大当り確率	ハズレ確率
約1/320	約319/320
約1/83	約82/83

(b)第1特別図柄大当り種類判定

大当り種類	ランダム2判定値数 (最大判定値100)
通常大当り1	25
通常大当り2	25
確変大当り1	5
確変大当り2	37
確変大当り3	4
確変大当り4	4

(c)第2特別図柄大当り種類判定

大当り種類	ランダム2判定値数 (最大判定値100)
確変大当り5	10
確変大当り6	5
確変大当り7	5
確変大当り8	70
確変大当り9	10

【図 2 1】

【図21】

演出制御コマンド

MODE	EXT	名称	内容
80	x x	前変動パターン× x 指定	図柄の前変動パターンの指定 (x x = 前変動パターン番号)
81	01	第1可変表示開始	第1特別図柄の可変表示の開始を指定
81	02	第2可変表示開始	第2特別図柄の可変表示の開始を指定
84	x x	後変動パターン× x 指定	図柄の後変動パターンの指定 (x x = 後変動パターン番号)
8C	01	表示結果1指定 (はずれ指定)	はずれに決定されていることの指定
8C	02	表示結果2指定 (通常大当り1指定)	通常大当り1に決定されていることの指定
8C	03	表示結果3指定 (通常大当り2指定)	通常大当り2に決定されていることの指定
8C	04	表示結果4指定 (確変大当り1指定)	確変大当り1に決定されていることの指定
8C	05	表示結果5指定 (確変大当り2指定)	確変大当り2に決定されていることの指定
8C	06	表示結果6指定 (確変大当り3指定)	確変大当り3に決定されていることの指定
8C	07	表示結果7指定 (確変大当り4指定)	確変大当り4に決定されていることの指定
8C	08	表示結果8指定 (確変大当り5指定)	確変大当り5に決定されていることの指定
8C	09	表示結果9指定 (確変大当り6指定)	確変大当り6に決定されていることの指定
8C	10	表示結果10指定 (確変大当り7指定)	確変大当り7に決定されていることの指定
8C	11	表示結果11指定 (確変大当り8指定)	確変大当り8に決定されていることの指定
8C	12	表示結果12指定 (確変大当り9指定)	確変大当り9に決定されていることの指定
8D	01	第1図柄変動指定	第1特別図柄の変動を開始することの指定 (第1図柄図柄の変動開始指定)
8D	02	第2図柄変動指定	第2特別図柄の変動を開始することの指定 (第2図柄図柄の変動開始指定)
8F	00	図柄確定指定	図柄の変動を終了することの指定
90	00	初期化指定 (電源投入指定)	電源投入時の初期画面を表示することの指定
92	00	停電復旧指定	停電復旧画面を表示することの指定
95	00	通常状態指定	通常状態の背景を指定
95	01	時短状態指定	時短状態の背景を指定
95	02	確変状態指定	確変状態の背景を指定
9F	00	待ちチグモ指定	待ちチグモステーション表示の指定
A0	01	大当り開始1指定	通常大当り1を開始することの指定
A0	02	大当り開始2指定	通常大当り2を開始することの指定
A0	03	大当り開始3指定	通常大当り3を開始することの指定
A0	04	大当り開始4指定	通常大当り4を開始することの指定
A0	05	大当り開始5指定	通常大当り5を開始することの指定
A0	06	大当り開始6指定	通常大当り6を開始することの指定
A0	07	大当り開始7指定	通常大当り7を開始することの指定
A0	08	大当り開始8指定	通常大当り8を開始することの指定
A0	09	大当り開始9指定	通常大当り9を開始することの指定
A0	10	大当り開始10指定	通常大当り10を開始することの指定
A0	11	大当り開始11指定	通常大当り11を開始することの指定
A1	x x	大入賞口開放中指定	xxで示す回数目の大入賞口開放中表示指定 (xx=01(H)~0F(H))
A2	x x	大入賞口の開放後指定	xxで示す回数目の大入賞口開放後表示指定 (xx=01(H)~0F(H))
A3	01	大当り終了1指定	通常大当り1を終了することの指定
A3	02	大当り終了2指定	通常大当り2を終了することの指定
A3	03	大当り終了3指定	通常大当り3を終了することの指定
A3	04	大当り終了4指定	通常大当り4を終了することの指定
A3	05	大当り終了5指定	通常大当り5を終了することの指定
A3	06	大当り終了6指定	通常大当り6を終了することの指定
A3	07	大当り終了7指定	通常大当り7を終了することの指定
A3	08	大当り終了8指定	通常大当り8を終了することの指定
A3	09	大当り終了9指定	通常大当り9を終了することの指定
A3	10	大当り終了10指定	通常大当り10を終了することの指定
A3	11	大当り終了11指定	通常大当り11を終了することの指定
A0	00	確変判定通過後指定	確変判定通過後の通過を指定
B1	00	第1給動入賞指定	第1給動入賞があったことの指定
B2	00	第2給動入賞指定	第2給動入賞があったことの指定
C1	x x	第1保留記憶回数指定	第1保留記憶回数がx xで示す数になったことの指定
C2	x x	第2保留記憶回数指定	第2保留記憶回数がx xで示す数になったことの指定
C4	x x	図柄指定コマンド	給動入賞時の入賞時判定結果 (表示結果) を指定
C6	x x	変動開始コマンド	給動入賞時の入賞時判定結果 (変動パターン種別) を指定
FD	x x	大入賞口入賞指定	xxで示す回数目の大入賞口への通過を指定
FD	b04=0	右打ち表示消灯指定	右打ち表示の消灯を指定
FD	b04=1	右打ち表示点灯指定	右打ち表示の点灯を指定

【図 2 2】

【図22】

前変動パターン(メイン側)

前変動番号	前変動パターン コマンド		内容	変動時間 [ms]	フレーム数 (約33.3ms/ フレーム)
	MODE	EXT			
1	80	00	通常変動	12700	381
2	80	01	短縮変動	6700	201
3	80	02	超短縮変動	2700	81
4	80	03	ノーマルリーチ(役物×)	21000	630
5	80	04	ノーマルリーチ(役物○)	21000	630
6	80	05	ノーマルリーチ(最終リーチ発展)	21000	630
7	80	06	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物×)	41500	1246
8	80	07	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物○)	41500	1246
9	80	08	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発展)	41500	1246
10	80	09	【擬似3】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物×)	62000	1861
11	80	0A	【擬似3】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物○)	62000	1861
12	80	0B	【擬似3】擬似→擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発展)	62000	1861

【図 2 3】

【図23】

後変動パターン(メイン側)

後変動番号	前変動パターン コマンド		内容	変動時間 [ms]	フレーム数 (約33.3ms/ フレーム)
	MODE	EXT			
1	84	00	13S変動	300	9
2	84	01	7S変動	300	9
3	84	02	3S変動	300	9
4	84	03	擬似連ガセ	9300	279
5	84	04	ノーマルリーチ(ハズレ)	1700	51
6	84	05	SP前半(ハズレ)	37400	1123
7	84	06	SP前半→SP後半(ハズレ)	76900	2309
8	84	07	SP前半→最終リーチ(ハズレ)	127700	3834
9	84	08	ノーマルリーチ(当り)	16400	492
10	84	09	SP前半(当り)	93300	2801
11	84	0A	SP前半→SP後半(当り)	99900	3000
12	84	0B	SP前半→最終リーチ(当り)	142800	4288

10

20

30

40

50

【図 2 4】

【図24】

後変動パターン判定(ハズレ時)

(a)保留0個→0個、保留1個→0個用

後変動パターン		ランダム3判定値数 (最大判定値65519)
後変動番号	内容	
1	13S変動→非リーチ(ハズレ)	50074
4	擬似連がセ(調整用)→非リーチ(ハズレ)	7700
4	擬似連がセ(先読み用)→非リーチ(ハズレ)	5850
5	ノーマルリーチ(ハズレ)	1250
6	SP前半(ハズレ)	307
7	SP前半→SP後半(ハズレ)	249
8	SP前半→最終リーチ(ハズレ)	89

※後変動番号6～8の選択率≒1/102

(b)保留2個→1個用

後変動パターン		ランダム3判定値数 (最大判定値65519)
後変動番号	内容	
1	13S変動→非リーチ(ハズレ)	57773
4	擬似連がセ(調整用)→非リーチ(ハズレ)	1
4	擬似連がセ(先読み用)→非リーチ(ハズレ)	5850
5	ノーマルリーチ(ハズレ)	1250
6	SP前半(ハズレ)	307
7	SP前半→SP後半(ハズレ)	249
8	SP前半→最終リーチ(ハズレ)	89

※後変動番号6～8の選択率≒1/102

(c)保留3個→2個用

後変動パターン		ランダム3判定値数 (最大判定値65519)
後変動番号	内容	
2	7S変動→非リーチ(ハズレ)	57773
4	擬似連がセ(調整用)→非リーチ(ハズレ)	1
4	擬似連がセ(先読み用)→非リーチ(ハズレ)	5850
5	ノーマルリーチ(ハズレ)	1250
6	SP前半(ハズレ)	307
7	SP前半→SP後半(ハズレ)	249
8	SP前半→最終リーチ(ハズレ)	89

※後変動番号6～8の選択率≒1/102

(d)保留4個→3個用

後変動パターン		ランダム3判定値数 (最大判定値65519)
後変動番号	内容	
3	3S変動→非リーチ(ハズレ)	57773
4	擬似連がセ(調整用)→非リーチ(ハズレ)	1
4	擬似連がセ(先読み用)→非リーチ(ハズレ)	5850
5	ノーマルリーチ(ハズレ)	1250
6	SP前半(ハズレ)	307
7	SP前半→SP後半(ハズレ)	249
8	SP前半→最終リーチ(ハズレ)	89

※後変動番号6～8の選択率≒1/102

【図 2 6】

【図26】

前変動パターン判定

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
1	通常変動	251

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
2	短縮変動	251

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
3	短縮短縮変動	251

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
1	通常変動	251

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
4	ノーマルリーチ(役物×)	126
7	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物×)	126

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
4	ノーマルリーチ(役物×)	101
7	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物×)	100
10	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物×)	50

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
5	ノーマルリーチ(役物○)	31
8	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物○)	50
11	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物○)	170

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
5	ノーマルリーチ(役物○)	21
8	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物○)	50
11	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物○)	100

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
6	ノーマルリーチ(最終リーチ発露)	1
9	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)	60
12	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)	100

前変動パターン		ランダム5判定値数 (最大判定値251)
前変動番号	内容	
6	ノーマルリーチ(最終リーチ発露)	1
9	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)	50
12	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)	200

【図 2 5】

【図25】

後変動パターン判定(大当たり時)

(a)通常大当り1.2、確変大当り1.2,5,6,7,8用

後変動パターン		ランダム4判定値数 (最大判定値239)
後変動番号	内容	
9	ノーマルリーチ(当り)	20
10	SP前半(当り)	23
11	SP前半→SP後半(当り)	65
12	SP前半→最終リーチ(当り)	131

※後変動番号10～12の選択率≒1/1.1

(b)確変大当り3,9用

後変動パターン		ランダム4判定値数 (最大判定値239)
後変動番号	内容	
9	ノーマルリーチ(当り)	12
10	SP前半(当り)	21
11	SP前半→SP後半(当り)	44
12	SP前半→最終リーチ(当り)	162

※後変動番号10～12の選択率≒1/1.1

(c)確変大当り4用

後変動パターン		ランダム4判定値数 (最大判定値239)
後変動番号	内容	
9	ノーマルリーチ(当り)	4
10	SP前半(当り)	14
11	SP前半→SP後半(当り)	114
12	SP前半→最終リーチ(当り)	107

※後変動番号10～12の選択率≒1/1.1

【図 2 7】

【図27】

前変動パターン(メイン・サブ)

メイン 変動番号	前変動 番号	前変動パターン		変動時間 [ms]	フレーム数 (約33.3ms/1フレーム)	後変動 番号	前変動パターン		変動時間 [ms]	フレーム数 (約33.3ms/1フレーム)
		内容	内容				内容	内容		
1	1	通常変動		12700	381	1	13S変動→非リーチ(ハズレ)		300	9
2	2	短縮変動		8700	261	2	7S変動→非リーチ(ハズレ)		300	8
3	3	短縮短縮変動		2700	81	3	3S変動→非リーチ(ハズレ)		300	8
4	1	通常変動		12700	381	4	擬似連がセ→非リーチ(ハズレ)		9300	279
5	4	ノーマルリーチ(役物×)		21000	630	5	ノーマルリーチ(ハズレ)		1700	51
6	7	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物×)		41500	1246	5	ノーマルリーチ(ハズレ)		1700	51
7	4	ノーマルリーチ(役物×)		21000	630	6	SP前半(ハズレ)		37400	1123
8	7	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物×)		41500	1246	6	SP前半(ハズレ)		37400	1123
9	10	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物×)		62000	1861	6	SP前半(ハズレ)		37400	1123
10	5	ノーマルリーチ(役物○)		21000	630	7	SP前半→SP後半(ハズレ)		76900	2309
11	8	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物○)		41500	1246	7	SP前半→SP後半(ハズレ)		76900	2309
12	11	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物○)		62000	1861	7	SP前半→SP後半(ハズレ)		76900	2309
13	6	ノーマルリーチ(最終リーチ発露)		21000	630	8	SP前半→最終リーチ(ハズレ)		127700	3834
14	9	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)		41500	1246	8	SP前半→最終リーチ(ハズレ)		127700	3834
15	12	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)		62000	1861	8	SP前半→最終リーチ(ハズレ)		127700	3834
16	4	ノーマルリーチ(役物×)		21000	630	9	ノーマルリーチ(当り)		16400	492
17	7	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物×)		41500	1246	9	ノーマルリーチ(当り)		16400	492
18	4	ノーマルリーチ(役物×)		21000	630	10	SP前半(当り)		93300	2801
19	7	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物×)		41500	1246	10	SP前半(当り)		93300	2801
20	10	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物×)		62000	1861	10	SP前半(当り)		93300	2801
21	5	ノーマルリーチ(役物○)		21000	630	11	SP前半→SP後半(当り)		99900	3000
22	8	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(役物○)		41500	1246	11	SP前半→SP後半(当り)		99900	3000
23	11	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(役物○)		62000	1861	11	SP前半→SP後半(当り)		99900	3000
24	6	ノーマルリーチ(最終リーチ発露)		21000	630	12	SP前半→最終リーチ(当り)		142800	4288
25	9	【擬似2】擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)		41500	1246	12	SP前半→最終リーチ(当り)		142800	4288
26	12	【擬似2】擬似→擬似→ノーマルリーチ(最終リーチ発露)		62000	1861	12	SP前半→最終リーチ(当り)		142800	4288

10

20

30

40

50

【図 28】

【図28】

全変動パターン(サブ側)

サブ 変動番号	前変動パターン		後変動パターン		メイン 変動番号
	前変動 番号	内容	後変動 番号	内容	
1	1	通常変動	1	13S変動→非リチ(ハズレ)	1
2	2	短縮変動	2	7S変動→非リチ(ハズレ)	2
3	3	超短縮変動	3	3S変動→非リチ(ハズレ)	3
4	1	通常変動	4	疑似連ガセ→非リチ(ハズレ)	4
5	4	ノーマルリチ(役物×)	5	ノーマルリチ(ハズレ)	5
6	7	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(役物×)	5	ノーマルリチ(ハズレ)	6
7	4	ノーマルリチ(役物×)	6	SP前半(ハズレ)	7
8	7	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(役物×)	6	SP前半(ハズレ)	8
9	10	【疑似3】疑似→疑似→ノーマルリチ(役物×)	6	SP前半(ハズレ)	9
10	5	ノーマルリチ(役物○)	7	SP前半→SP後半(ハズレ)	10
11	8	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(役物○)	7	SP前半→SP後半(ハズレ)	11
12	11	【疑似3】疑似→疑似→ノーマルリチ(役物○)	7	SP前半→SP後半(ハズレ)	12
13	6	ノーマルリチ(最終リチ発展)	8	SP前半→最終リチ(ハズレ)	13
14	9	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(最終リチ発展)	8	SP前半→最終リチ(ハズレ)	14
15	12	【疑似3】疑似→疑似→ノーマルリチ(最終リチ発展)	8	SP前半→最終リチ(ハズレ)	15
16	4	ノーマルリチ(役物×)	9	ノーマルリチ(当り)	16
17	7	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(役物×)	9	ノーマルリチ(当り)	17
18	4	ノーマルリチ(役物×)	10	SP前半(当り)	18
19	7	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(役物×)	10	SP前半(当り)	19
20	10	【疑似3】疑似→疑似→ノーマルリチ(役物×)	10	SP前半(当り)	20
21	5	ノーマルリチ(役物○)	11	SP前半→SP後半(当り)	21
22	8	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(役物○)	11	SP前半→SP後半(当り)	22
23	11	【疑似3】疑似→疑似→ノーマルリチ(役物○)	11	SP前半→SP後半(当り)	23
24	6	ノーマルリチ(最終リチ発展)	12	SP前半→最終リチ(当り)	24
25	9	【疑似2】疑似→ノーマルリチ(最終リチ発展)	12	SP前半→最終リチ(当り)	25
26	12	【疑似3】疑似→疑似→ノーマルリチ(最終リチ発展)	12	SP前半→最終リチ(当り)	26

【図 29】

【図29】

(a)群予告抽選(ステージA時)

後変動 番号	群予告			
	6人群	爆チュー群	ポインゴ群	実行なし
6~8 (ハズレ)	13%	0%	2%	85%
10~12 (当り)	55%	0%	30%	20%

※後変動番号6~8の選択率 $\approx 319/320 \times 1/102 \approx 1/102$
 後変動番号10~12の選択率 $\approx 1/320 \times 1/1.1 \approx 1/320$

ハズレかつ群予告ありの確率 $\approx 0.15\%$
 当りかつ群予告ありの確率 $\approx 0.27\%$
 $\Rightarrow$ 群予告の信頼度 $\approx 64\%$

(b)群予告抽選(ステージB時)

後変動 番号	群予告			
	6人群	爆チュー群	ポインゴ群	実行なし
6~8 (ハズレ)	0%	8%	2%	90%
10~12 (当り)	0%	60%	30%	20%

ハズレかつ群予告ありの確率 $\approx 0.10\%$
 当りかつ群予告ありの確率 $\approx 0.28\%$
 $\Rightarrow$ 群予告の信頼度 $\approx 74\%$

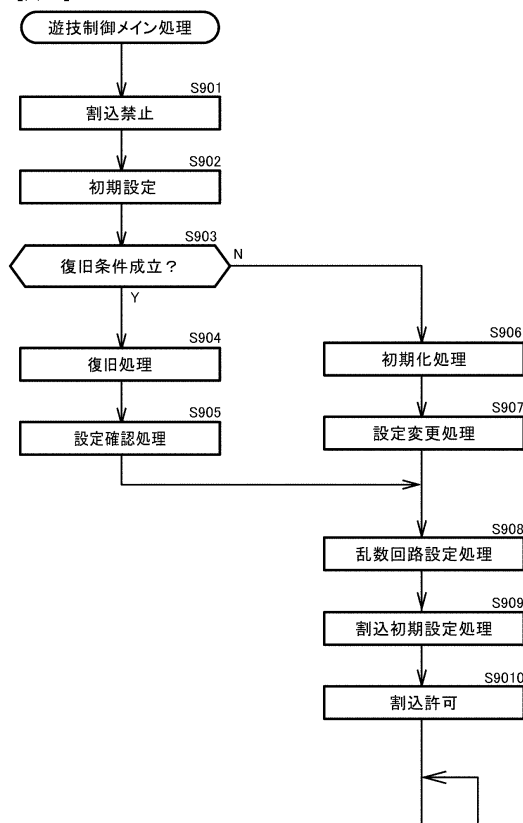
(c)SP前半タイトル予告抽選(ステージB時)

後変動 番号	SP前半タイトル予告(タイトルの色変化)の有無	
	あり	なし
6~8 (ハズレ)	20%	80%
10~12 (当り)	80%	20%

ハズレかつSP前半タイトル予告ありの確率 $\approx 0.20\%$
 当りかつSP前半タイトル予告ありの確率 $\approx 0.25\%$
 $\Rightarrow$ SP前半タイトル予告の信頼度 $\approx 56\%$

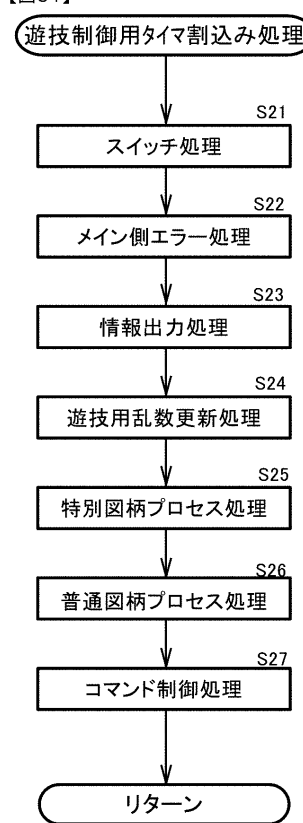
【図 30】

【図30】



【図 31】

【図31】



10

20

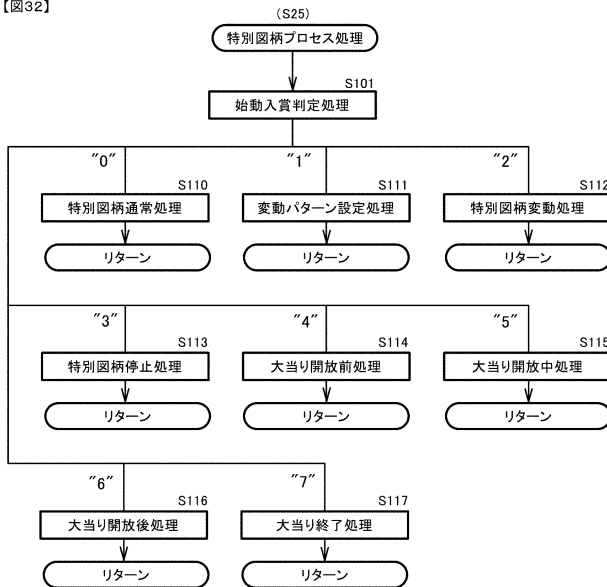
30

40

50

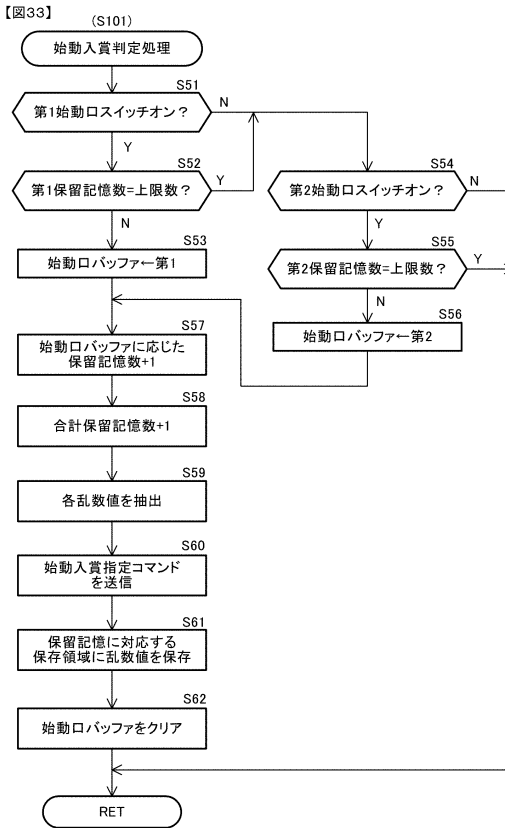
【図 3 2】

【図32】



【図 3 3】

【図33】

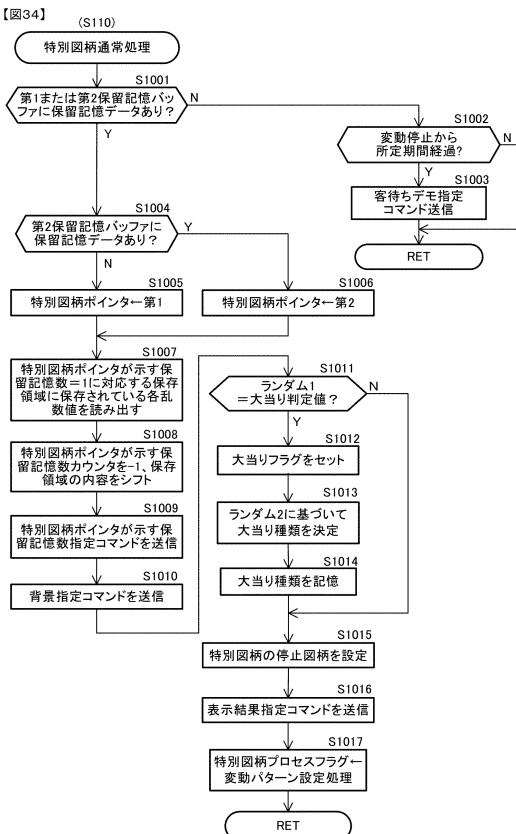


10

20

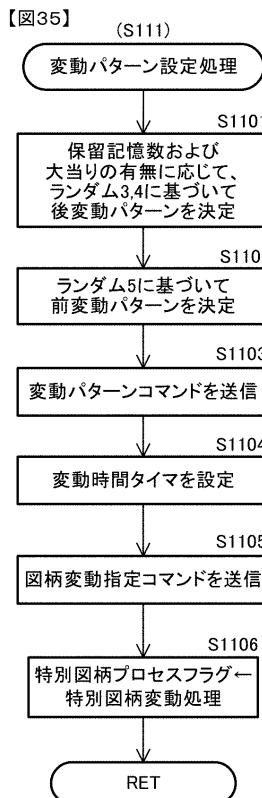
【図 3 4】

【図34】



【図 3 5】

【図35】



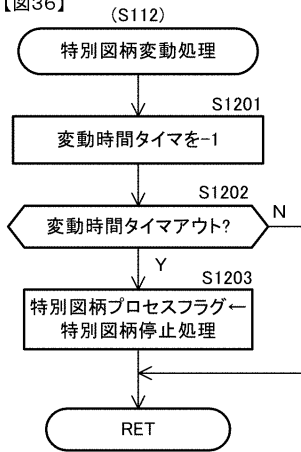
30

40

50

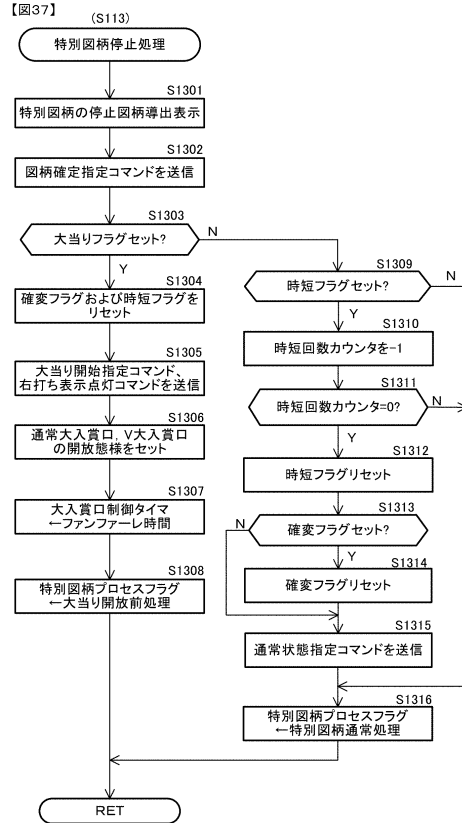
【図 36】

【図36】



【図 37】

【図37】

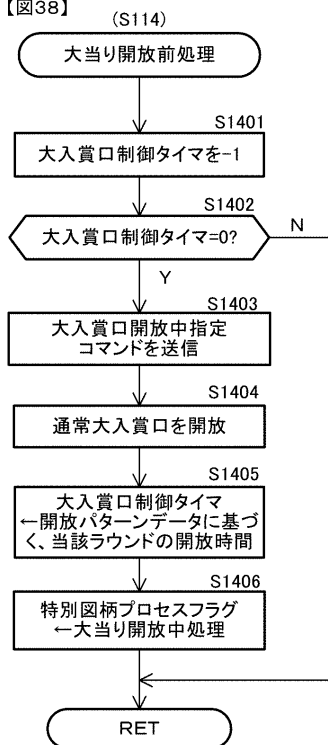


10

20

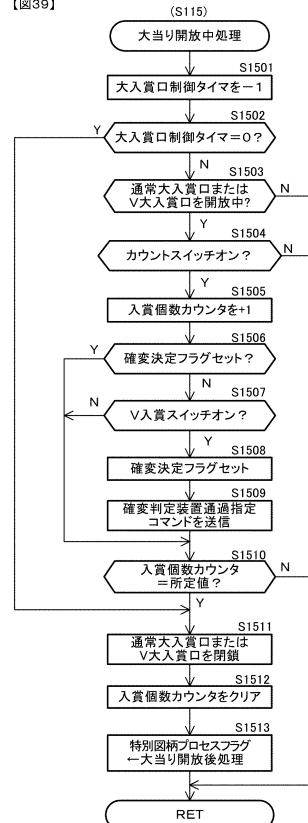
【図 38】

【図38】



【図 39】

【図39】



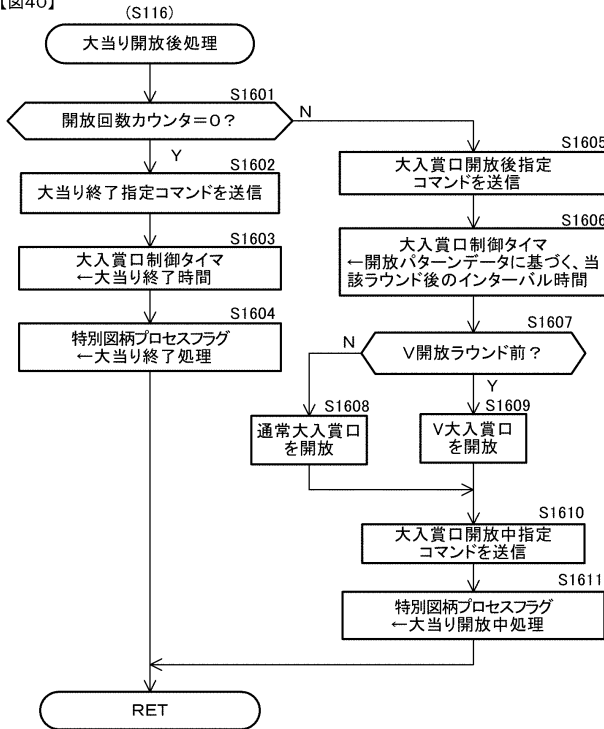
30

40

50

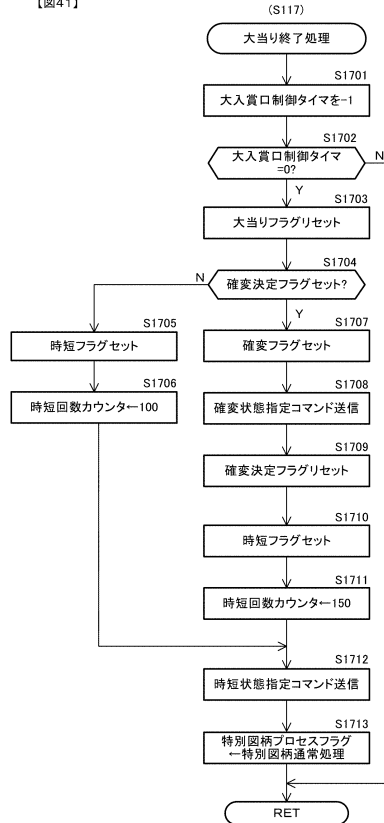
【図 40】

【図40】



【図 41】

【図41】

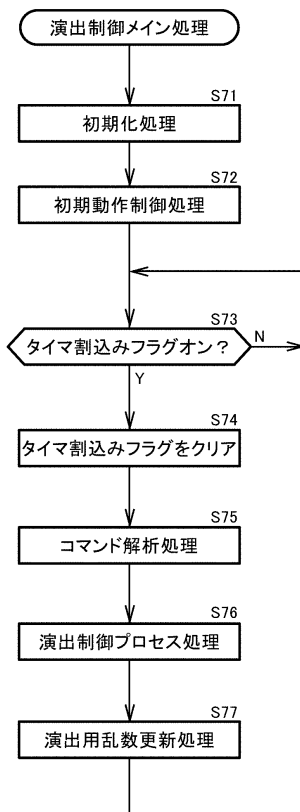


10

20

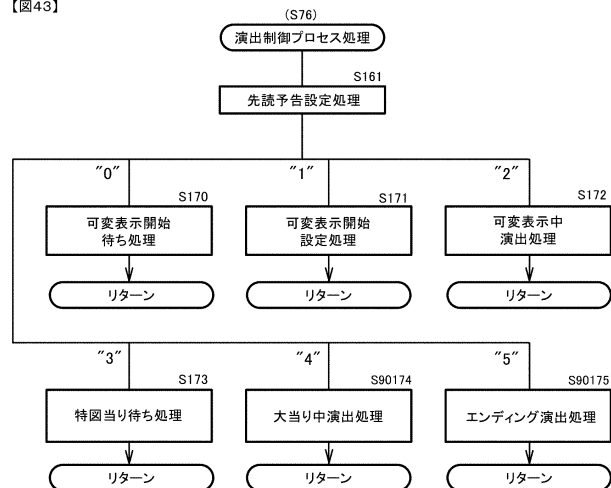
【図 42】

【図42】



【図 43】

【図43】

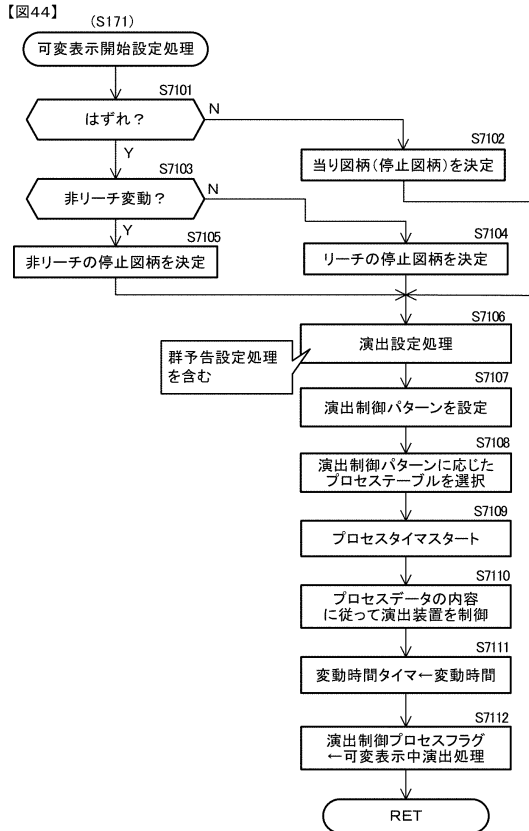


30

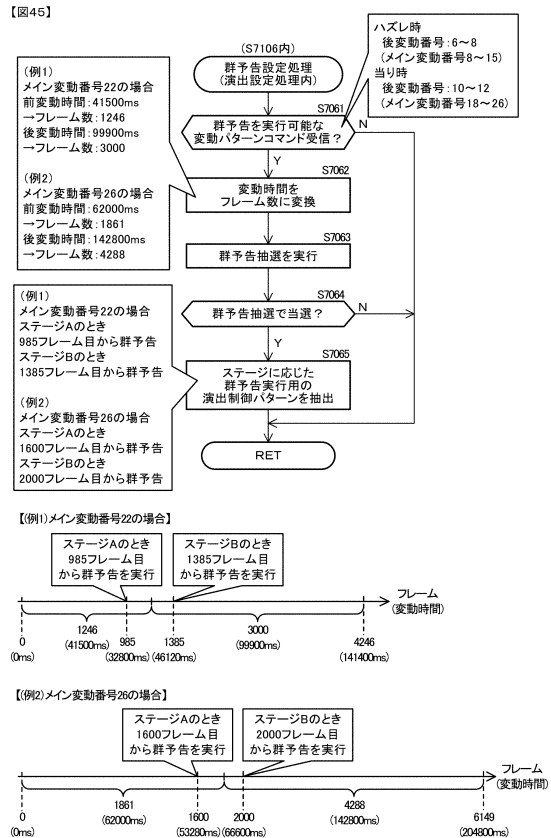
40

50

【図 4 4】



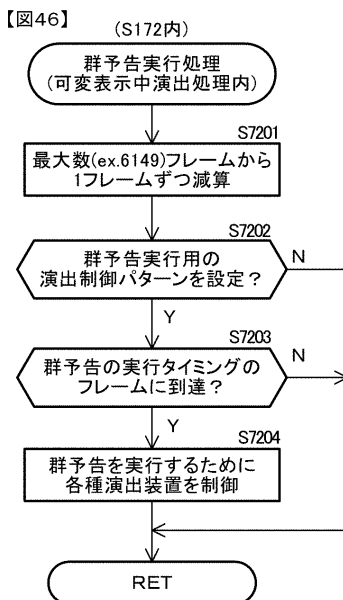
【図 4 5】



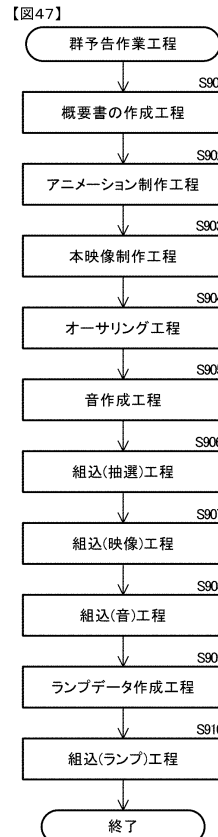
10

20

【図 4 6】



【図 4 7】



30

40

50

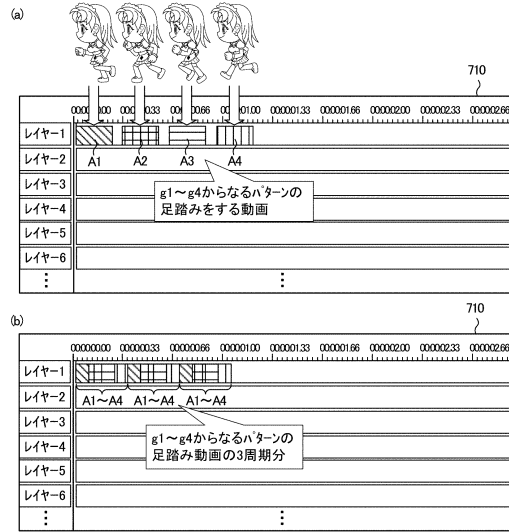
【図 48】

【図48】
本映像制作工程

STEP1: キャラクタ画像の準備



STEP2: キャラクタが足踏みをする動画の作成

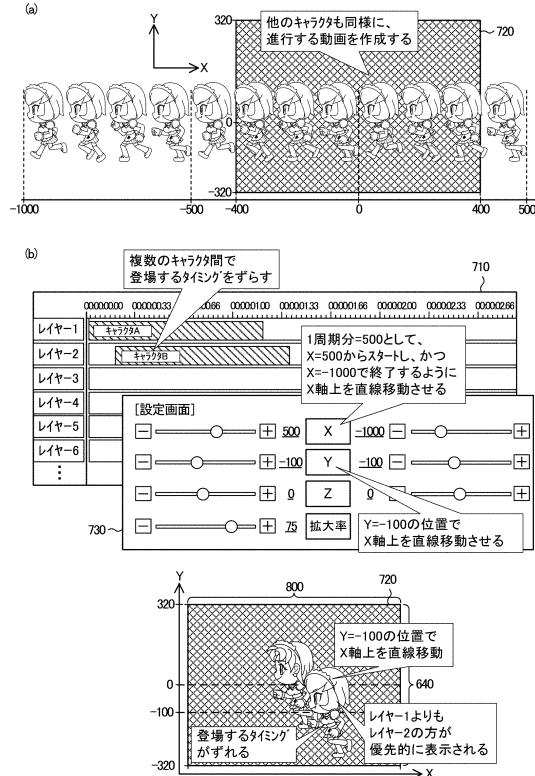


足踏み動画データを出力
(他のキャラクターも同様の作業で足踏み動画を作成)

【図 50】

【図50】
本映像制作工程

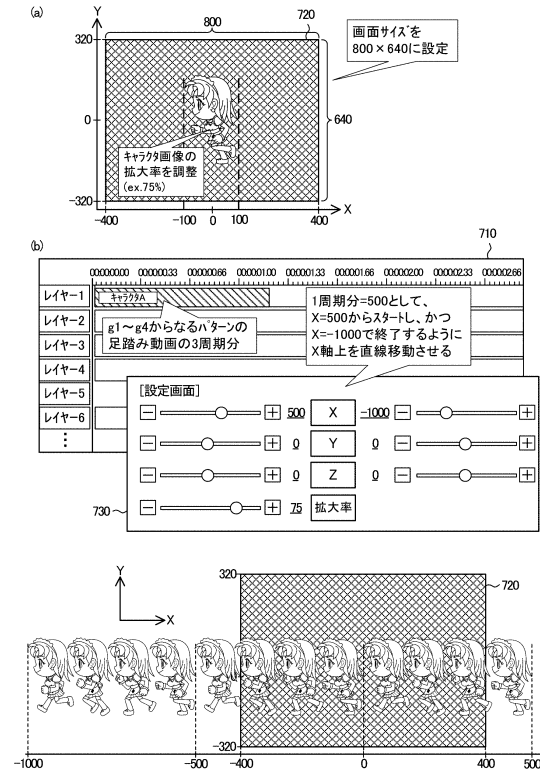
STEP4: 複数のキャラクターが進行する動画の作成



【図 49】

【図49】
本映像制作工程

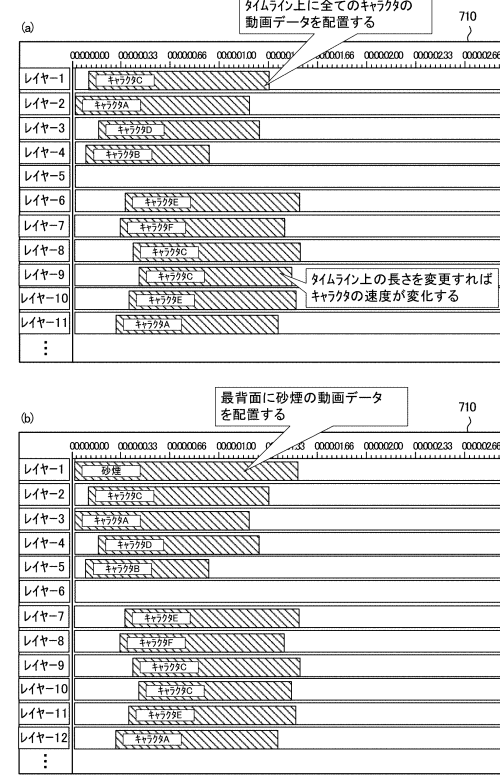
STEP3: キャラクタが進行する動画の作成



【図 51】

【図51】
本映像制作工程

STEP5: 群予告動画の作成



10

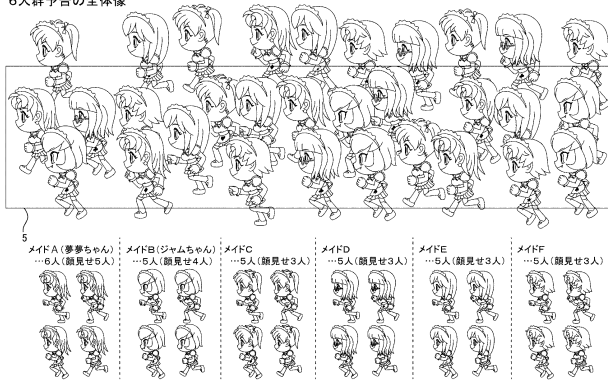
20

30

40

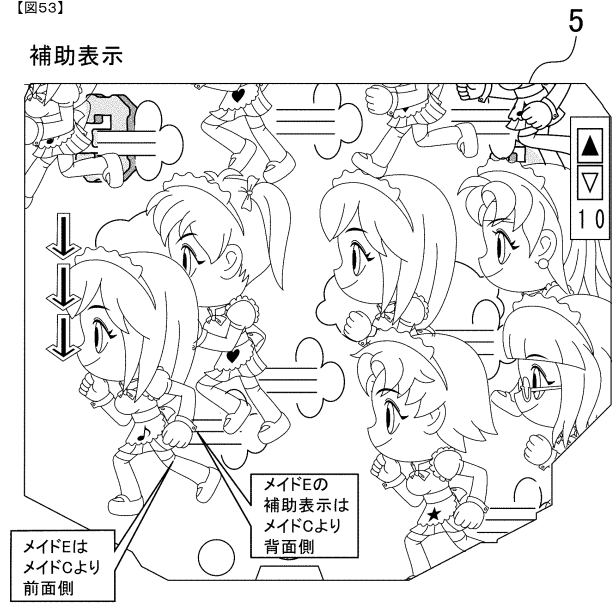
50

【図 5 2】

【図52】
6人群予告の全体像

【図 5 3】

【図53】



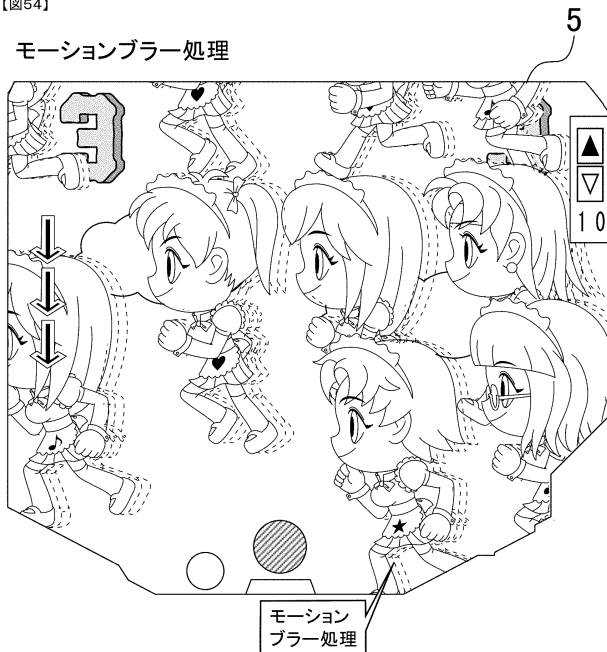
10

20

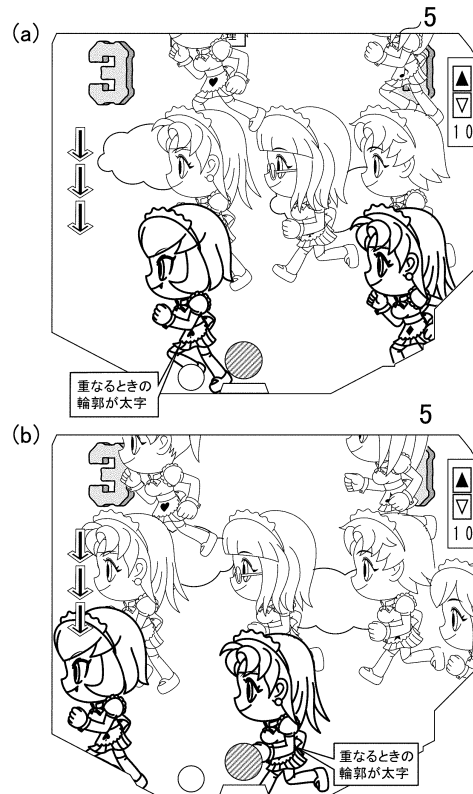
【図 5 4】

【図54】

モーションブラー処理



【図 5 5】

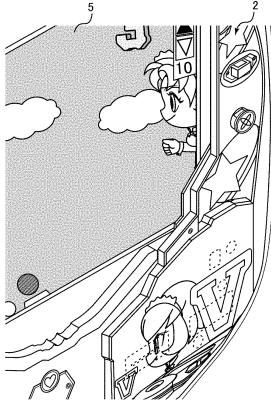
【図55】
キャラクタが重なるときの輪郭

30

40

50

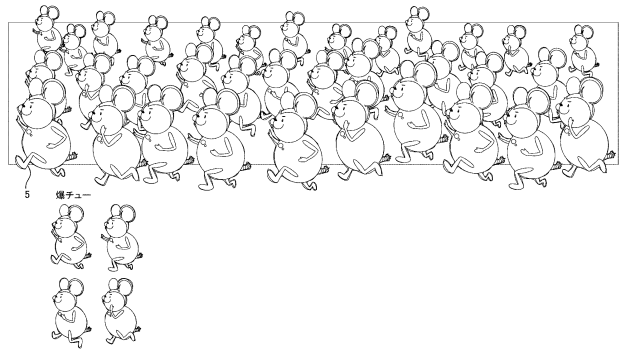
【図 56】

【図56】
(a)

(b)



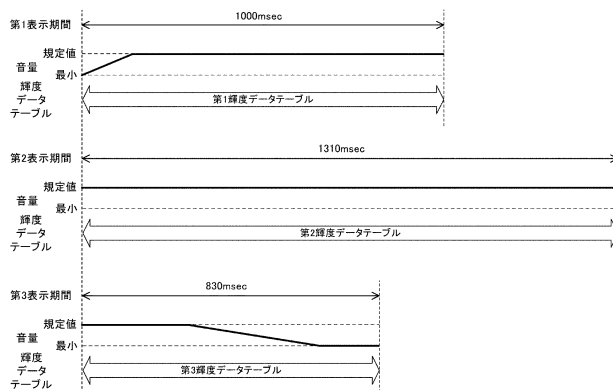
【図 57】

【図57】
爆チュー群予告の全体像

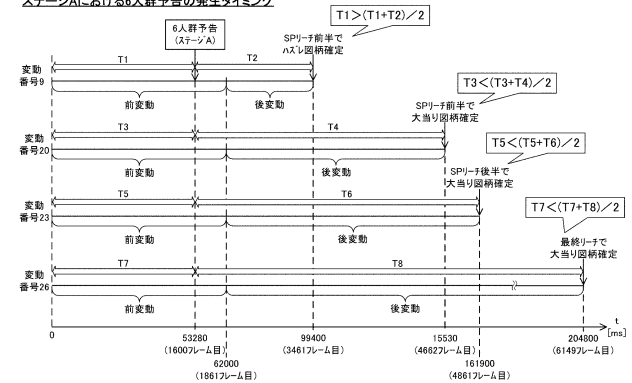
10

20

【図 58】

【図58】
群予告演出における音量の変化および輝度データテーブル

【図 59】

【図59】
ステージAにおける6人群予告の発生タイミング

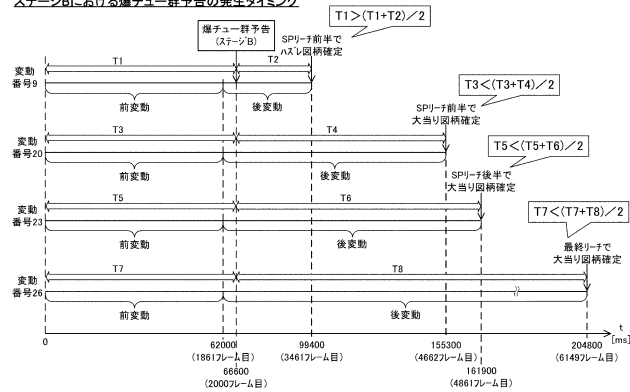
30

40

50

【図 60】

【図60】
ステージBにおける爆チュー群予告の発生タイミング



【図 6 2】

【図62】
群予告輝度データテーブル
(子テーブル)

点灯箇所	時間ごとに参照する孫テーブル		
	1000msec間 (第1表示期間)	1310msec間 (第2表示期間)	830msec間 (第3表示期間)
枠ランプ(右&左)	W1	W2	W3
役物ランプ(「POWERFUL」の文字付近)	Y1	Y2	Y3
盤左ランプ(夢夢ちゃんの横顔付近)	L1	L2	L3
盤右ランプ(役物の背面側付近)	U1	U2	U3
アタックランプ	A1	A2	A3

枠ランプに関する孫テーブルの特徴

比較項目	W1	W2
高輝度の点灯箇所	少	多
切替間隔	長い(100msec)	短い(50~80msec)
	等間隔(100msec)	非等間隔(50~80msec)
点灯パターン	群予告の進行方向にあわせて 高輝度で点灯	複数箇所に亘って 高輝度で点灯
最初の輝度データ	全て消灯or低輝度	高輝度の点灯箇所あり
輝度データのループ	なし	あり
不具合対策用の輝度データ(10分間)	あり(T1~11)	なし

比較項目	W3	
	枠左ランプ	枠右ランプ
切替間隔	短い(10msec)	長い(80msec)
点灯パターン	群予告の進行方向にあわせて 消灯or低輝度で点灯	群予告の進行方向にあわせて 消灯or低輝度で点灯
最初の輝度データ	高輝度の点灯箇所あり	高輝度の点灯箇所あり
最後の輝度データ	全て消灯or低輝度	全て消灯or低輝度
輝度データのループ	なし	なし
不具合対策用の輝度データ(10分間)	あり(73-38)	あり(73-38)

【図 6 1】

【図61】
群予告輝度データテーブル
(親テーブル)

点灯箇所	群予告演出時間[msec]
枠ランプ(右&左)	3140
役物ランプ(「POWERFUL」の文字付近)	3140
盤左ランプ(夢夢ちゃんの横顔付近)	3140
盤上ランプ(役物の背面側付近)	3140
アタッカランプ	3140

【图 6 3】

【図63】
(a)群予告輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW1)

時間[ms]	各センサの精度データ																各センサの精度データ																精度保証[mm]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	8.1, 8.2	8.3, 8.4	8.5, 8.6	8.7, 8.8	8.9, 9.0	9.1, 9.2	9.3	9.4	9.5	9.6	9.7	9.8	9.9	10.0	10.1	10.2	10.3	10.4	10.5	10.6	10.7	10.8	10.9	11.0	11.1	11.2	11.3	11.4	11.5	11.6	11.7	11.8	11.9	12.0	12.1	12.2	12.3	12.4	12.5	12.6	12.7	12.8	12.9	13.0	13.1	13.2	13.3	13.4	13.5	13.6	13.7	13.8	13.9	14.0	14.1	14.2	14.3	14.4	14.5	14.6	14.7	14.8	14.9	15.0	15.1	15.2	15.3	15.4	15.5	15.6	15.7	15.8	15.9	16.0	16.1	16.2	16.3	16.4	16.5	16.6	16.7	16.8	16.9	17.0	17.1	17.2	17.3	17.4	17.5	17.6	17.7	17.8	17.9	18.0	18.1	18.2	18.3	18.4	18.5	18.6	18.7	18.8	18.9	19.0	19.1	19.2	19.3	19.4	19.5	19.6	19.7	19.8	19.9	20.0	20.1	20.2	20.3	20.4	20.5	20.6	20.7	20.8	20.9	21.0	21.1	21.2	21.3	21.4	21.5	21.6	21.7	21.8	21.9	22.0	22.1	22.2	22.3	22.4	22.5	22.6	22.7	22.8	22.9	23.0	23.1	23.2	23.3	23.4	23.5	23.6	23.7	23.8	23.9	24.0	24.1	24.2	24.3	24.4	24.5	24.6	24.7	24.8	24.9	25.0	25.1	25.2	25.3	25.4	25.5	25.6	25.7	25.8	25.9	26.0	26.1	26.2	26.3	26.4	26.5	26.6	26.7	26.8	26.9	27.0	27.1	27.2	27.3	27.4	27.5	27.6	27.7	27.8	27.9	28.0	28.1	28.2	28.3	28.4	28.5	28.6	28.7	28.8	28.9	29.0	29.1	29.2	29.3	29.4	29.5	29.6	29.7	29.8	29.9	30.0	30.1	30.2	30.3	30.4	30.5	30.6	30.7	30.8	30.9	31.0	31.1	31.2	31.3	31.4	31.5	31.6	31.7	31.8	31.9	32.0	32.1	32.2	32.3	32.4	32.5	32.6	32.7	32.8	32.9	33.0	33.1	33.2	33.3	33.4	33.5	33.6	33.7	33.8	33.9	34.0	34.1	34.2	34.3	34.4	34.5	34.6	34.7	34.8	34.9	35.0	35.1	35.2	35.3	35.4	35.5	35.6	35.7	35.8	35.9	36.0	36.1	36.2	36.3	36.4	36.5	36.6	36.7	36.8	36.9	37.0	37.1	37.2	37.3	37.4	37.5	37.6	37.7	37.8	37.9	38.0	38.1	38.2	38.3	38.4	38.5	38.6	38.7	38.8	38.9	39.0	39.1	39.2	39.3	39.4	39.5	39.6	39.7	39.8	39.9	40.0	40.1	40.2	40.3	40.4	40.5	40.6	40.7	40.8	40.9	41.0	41.1	41.2	41.3	41.4	41.5	41.6	41.7	41.8	41.9	42.0	42.1	42.2	42.3	42.4	42.5	42.6	42.7	42.8	42.9	43.0	43.1	43.2	43.3	43.4	43.5	43.6	43.7	43.8	43.9	44.0	44.1	44.2	44.3	44.4	44.5	44.6	44.7	44.8	44.9	45.0	45.1	45.2	45.3	45.4	45.5	45.6	45.7	45.8	45.9	46.0	46.1	46.2	46.3	46.4	46.5	46.6	46.7	46.8	46.9	47.0	47.1	47.2	47.3	47.4	47.5	47.6	47.7	47.8	47.9	48.0	48.1	48.2	48.3	48.4	48.5	48.6	48.7	48.8	48.9	49.0	49.1	49.2	49.3	49.4	49.5	49.6	49.7	49.8	49.9	50.0	50.1	50.2	50.3	50.4	50.5	50.6	50.7	50.8	50.9	51.0	51.1	51.2	51.3	51.4	51.5	51.6	51.7	51.8	51.9	52.0	52.1	52.2	52.3	52.4	52.5	52.6	52.7	52.8	52.9	53.0	53.1	53.2	53.3	53.4	53.5	53.6	53.7	53.8	53.9	54.0	54.1	54.2	54.3	54.4	54.5	54.6	54.7	54.8	54.9	55.0	55.1	55.2	55.3	55.4	55.5	55.6	55.7	55.8	55.9	56.0	56.1	56.2	56.3	56.4	56.5	56.6	56.7	56.8	56.9	57.0	57.1	57.2	57.3	57.4	57.5	57.6	57.7	57.8	57.9	58.0	58.1	58.2	58.3	58.4	58.5	58.6	58.7	58.8	58.9	59.0	59.1	59.2	59.3	59.4	59.5	59.6	59.7	59.8	59.9	60.0	60.1	60.2	60.3	60.4	60.5	60.6	60.7	60.8	60.9	61.0	61.1	61.2	61.3	61.4	61.5	61.6	61.7	61.8	61.9	62.0	62.1	62.2	62.3	62.4	62.5	62.6	62.7	62.8	62.9	63.0	63.1	63.2	63.3	63.4	63.5	63.6	63.7	63.8	63.9	64.0	64.1	64.2	64.3	64.4	64.5	64.6	64.7	64.8	64.9	65.0	65.1	65.2	65.3	65.4	65.5	65.6	65.7	65.8	65.9	66.0	66.1	66.2	66.3	66.4	66.5	66.6	66.7	66.8	66.9	67.0	67.1	67.2	67.3	67.4	67.5	67.6	67.7	67.8	67.9	68.0	68.1	68.2	68.3	68.4	68.5	68.6	68.7	68.8	68.9	69.0	69.1	69.2	69.3	69.4	69.5	69.6	69.7	69.8	69.9	70.0	70.1	70.2	70.3	70.4	70.5	70.6	70.7	70.8	70.9	71.0	71.1	71.2	71.3	71.4	71.5	71.6	71.7	71.8	71.9	72.0	72.1	72.2	72.3	72.4	72.5	72.6	72.7	72.8	72.9	73.0	73.1	73.2	73.3	73.4	73.5	73.6	73.7	73.8	73.9	74.0	74.1	74.2	74.3	74.4	74.5	74.6	74.7	74.8	74.9	75.0	75.1	75.2	75.3	75.4	75.5	75.6	75.7	75.8	75.9	76.0	76.1	76.2	76.3	76.4	76.5	76.6	76.7	76.8	76.9	77.0	77.1	77.2	77.3	77.4	77.5	77.6	77.7	77.8	77.9	78.0	78.1	78.2	78.3	78.4	78.5	78.6	78.7	78.8	78.9	79.0	79.1	79.2	79.3	79.4	79.5	79.6	79.7	79.8	79.9	80.0	80.1	80.2	80.3	80.4	80.5	80.6	80.7	80.8	80.9	81.0	81.1	81.2	81.3	81.4	81.5	81.6	81.7	81.8	81.9	82.0	82.1	82.2	82.3	82.4	82.5	82.6	82.7	82.8	82.9	83.0	83.1	83.2	83.3	83.4	83.5	83.6	83.7	83.8	83.9	84.0	84.1	84.2	84.3	84.4	84.5	84.6	84.7	84.8	84.9	85.0	85.1	85.2	85.3	85.4	85.5	85.6	85.7	85.8	85.9	86.0	86.1	86.2	86.3	86.4	86.5	86.6	86.7	86.8	86.9	87.0	87.1	87.2	87.3	87.4	87.5	87.6	87.7	87.8	87.9	88.0	88.1	88.2	88.3	88.4	88.5	88.6	88.7	88.8	88.9	89.0	89.1	89.2	89.3	89.4	89.5	89.6	89.7	89.8	89.9	90.0	90.1	90.2	90.3	90.4	90.5	90.6	90.7	90.8	90.9	91.0	91.1	91.2	91.3	91.4	91.5	91.6	91.7	91.8	91.9	92.0	92.1	92.2	92.3	92.4	92.5	92.6	92.7	92.8	92.9	93.0	93.1	93.2	93.3	93.4	93.5	93.6	93.7	93.8	93.9	94.0	94.1	94.2	94.3	94.4	94.5	94.6	94.7	94.8	94.9	95.0	95.1	95.2	95.3	95.4	95.5	95.6	95.7	95.8	95.9	96.0	96.1	96.2	96.3	96.4	96.5	96.6	96.7	96.8	96.9	97.0	97.1	97.2	97.3	97.4	97.5	97.6	97.7	97.8	97.9	98.0	98.1	98.2	98.3	98.4	98.5	98.6	98.7	98.8	98.9	99.0	99.1	99.2	99.3	99.4	99.5	99.6	99.7	99.8	99.9	100.0
(00T7-1)	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001	0.01001																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

(b)群予告輝度データテーブル
(控ランプ用種テーブルW2)

[illegible]

(c)群予告輝度データテーブル
(検ランプ用添付テーブルW3)

[illegible]

【図 6 4】

【図64】

(a)群予告精度データテーブル
(従右ランプ用添テーブルY1)

時間[msec]	従右ランプの精度データ	車色(R)
100(T1-1)	RRRR	高輝度は「G」 低輝度は「L」
70(T2-2)	0x1111	
100(T1-2)	0x1111	
100(T1-3)	0x1111	
100(T1-4)	0x1111	
100(T1-5)	0x1116	
100(T1-6)	0x1665	
100(T1-7)	0x6556	
100(T1-8)	0x1165	
100(T1-9)	0x1165	
100(T1-10)	0x5611	
600000(T1-11)	0x5551	

(b)群予告精度データテーブル
(従右ランプ用添テーブルY2)

時間[msec]	従右ランプの精度データ
50(T2-1)	RRRR
70(T2-2)	0x1111
60(T2-3)	0x1116
50(T2-4)	0x1166
70(T2-5)	0x1666
60(T2-6)	0x6661
50(T2-7)	0x6611
70(T2-8)	0x1166
60(T2-9)	0x6666
80(T2-10)	0x6611

(c)群予告精度データテーブル
(従右ランプ用添テーブルY3)

時間[msec]	従右ランプの精度データ
80(T3-1)	RRRR
80(T3-2)	0x5555
80(T3-3)	0x5555
80(T3-4)	0x5555
80(T3-5)	0x5552
80(T3-6)	0x5222
10(T3-7)	
10(T3-8)	
10(T3-9)	
10(T3-10)	
10(T3-11)	0x2222
10(T3-12)	
10(T3-13)	
10(T3-14)	
10(T3-15)	
10(T3-16)	
10(T3-17)	
10(T3-18)	
10(T3-19)	0x2222
10(T3-20)	
10(T3-21)	
10(T3-22)	
10(T3-23)	
10(T3-24)	
10(T3-25)	
10(T3-26)	0x2222
10(T3-27)	
10(T3-28)	
10(T3-29)	
10(T3-30)	
10(T3-31)	
10(T3-32)	
10(T3-33)	
10(T3-34)	0x2222
10(T3-35)	
10(T3-36)	
10(T3-37)	
10(T3-38)	
600000(T3-39)	0x2222

【図 6 5】

【図65】

(a)群予告精度データテーブル
(従左ランプ用添テーブルL1)

時間[msec]	従左ランプの精度データ	車色(W)
100(T1-1)	WWWWW	高輝度は「G」 低輝度は「L」
100(T1-2)	0x1111	
100(T1-3)	0x1111	
100(T1-4)	0x1111	
100(T1-5)	0x1111	
100(T1-6)	0x1111	
100(T1-7)	0x1111	
100(T1-8)	0x1155	
100(T1-9)	0x6661	
100(T1-10)	0x5111	
600000(T1-11)	0x6116	

(b)群予告精度データテーブル
(従左ランプ用添テーブルL2)

時間[msec]	従左ランプの精度データ
50(T2-1)	WWWWW
70(T2-2)	0x1166
60(T2-3)	0x6616
50(T2-4)	0x1161
70(T2-5)	0x1111
60(T2-6)	0x1166
50(T2-7)	0x6166
70(T2-8)	0x6661
60(T2-9)	0x1661
80(T2-10)	0x1111

(c)群予告精度データテーブル
(従左ランプ用添テーブルL3)

時間[msec]	従左ランプの精度データ
80(T3-1)	WWWWW
80(T3-2)	0x5555
80(T3-3)	0x5555
80(T3-4)	0x5555
80(T3-5)	0x5555
80(T3-6)	0x5555
10(T3-7)	
10(T3-8)	
10(T3-9)	
10(T3-10)	
10(T3-11)	0x5552
10(T3-12)	
10(T3-13)	
10(T3-14)	
10(T3-15)	
10(T3-16)	
10(T3-17)	
10(T3-18)	0x5552
10(T3-19)	
10(T3-20)	
10(T3-21)	
10(T3-22)	
10(T3-23)	
10(T3-24)	
10(T3-25)	
10(T3-26)	0x2222
10(T3-27)	
10(T3-28)	
10(T3-29)	
10(T3-30)	
10(T3-31)	
10(T3-32)	
10(T3-33)	
10(T3-34)	0x2222
10(T3-35)	
10(T3-36)	
10(T3-37)	
10(T3-38)	
600000(T3-39)	0x2222

10

20

【図 6 6】

【図66】

(a)群予告精度データテーブル
(従上ランプ用添テーブルU1)

時間[msec]	R01.R02	R03	R04.R05	R06.R07.R08	R09.RG10	RG11	RG12.RG13
	R0B.R0B	R0B	R0B.R0B	W.W.W	R0B.R0B	R0B	R0B.R0B
100(T1-1)	0x10100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0x100100
100(T1-2)	0x10100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0x100100
100(T1-3)	0x10100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0x100100
100(T1-4)	0x10100	0x100	0x100100	0x000	0x100A00	0x100	0xA00A00
100(T1-5)	0x10100	0x100	0x100100	0x000	0xA00000	0x200	0x000000
100(T1-6)	0x10100	0x100	0x100100	0x000	0x000A00	0x200	0xA00A00
100(T1-7)	0x10100	0x200	0x100A00	0x000	0xA00100	0x200	0x100000
100(T1-8)	0xA00A00	0x200	0xA00000	0x000	0x100100	0x200	0x100100
100(T1-9)	0x000000	0x200	0x000100	0x000	0x000A00	0x200	0xA00100
100(T1-10)	0x100A00	0x200	0xA00100	0x000	0x000A00	0x200	0x000000
600000(T1-11)	0x100000	0x200	0x000A00	0x000	0x000A00	0x200	0x000000

(b)群予告精度データテーブル
(従上ランプ用添テーブルU2)

時間[msec]	R01.R02	R03	R04.R05	R06.R07.R08	W.W.W	R0B.R0B	R0B	RG12.RG13
	R0B.R0B	R0B	R0B.R0B	R0B.R0B	W.W.W	R0B.R0B	R0B	R0B.R0B
50(T2-1)	0xA00A00	0xA00	0xA00100	0x000	0x100100	0x100	0x100100	
70(T2-2)	0x10100	0x100	0xA00A00	0x000	0x100A00	0x100	0x100A00	
60(T2-3)	0x10100	0x100	0xA00A00	0x000	0xA00A00	0xA00	0x100A00	
50(T2-4)	0x10100	0x100	0x100A00	0x000	0xA00100	0xA00	0xA00100	
70(T2-5)	0x10100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0xA00100	
60(T2-6)	0x100A00	0xA00	0xA00100	0x000	0x100A00	0x100	0x100100	
50(T2-7)	0xA00A00	0xA00	0xA00100	0x000	0x100A00	0x100	0x100100	
70(T2-8)	0xA00100	0x100	0x100A00	0x000	0xA00A00	0xA00	0x100100	
60(T2-9)	0x10100	0x100	0x100A00	0x000	0xA00100	0xA00	0xA00A00	
80(T2-10)	0xA00A00	0xA00	0x100100	0x000	0xA00100	0x100	0xA00A00	

(c)群予告精度データテーブル
(従上ランプ用添テーブルU3)

時間[msec]	R01.R02	R03	R04.R05	R06.R07.R08	R09.RG10	RG11	RG12.RG13
	R0B.R0B	R0B	R0B.R0B	W.W.W	R0B.R0B	R0B	R0B.R0B
80(T3-1)	0xA00A00	0xA00	0xA00A00	0x000	0xA00A00	0xA00	0xA00A00
80(T3-2)	0xA00A00	0xA00	0xA00A00	0x000	0xA00A00	0xA00	0xA00A00
80(T3-3)	0xA00A00	0xA00	0xA00A00	0x000	0xA00A00	0xA00	0xA00A00
80(T3-4)	0xA00A00	0xA00	0xA00A00	0x000	0xA00100	0xA00	0x100100
80(T3-5)	0xA00A00	0xA00	0xA00A00	0x000	0x100100	0x100	0x100100
10(T3-7)	0xA00A00	0xA00	0xA00A00	0x000	0x100100	0x100	0x100100
10(T3-8)							
10(T3-9)							
10(T3-10)	0xA00A00	0x100	0xA00100	0x000	0x100100	0x100	0x100100
10(T3-11)							
10(T3-12)							
10(T3-13)							
10(T3-14)							
10(T3-15)							
10(T3-16)							
10(T3-17)							
10(T3-18)							
10(T3-19)	0x100100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0x100100
10(T3-20)							
10(T3-21)							
10(T3-22)							
10(T3-23)							
10(T3-24)							
10(T3-25)							
10(T3-26)	0x100100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0x100100
10(T3-27)							
10(T3-28)							
10(T3-29)							
10(T3-30)							
10(T3-31)							
10(T3-32)							
10(T3-33)							
10(T3-34)	0x100100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0x100100
10(T3-35)							
10(T3-36)							
10(T3-37)							
10(T3-38)							
600000(T3-39)	0x100100	0x100	0x100100	0x000	0x100100	0x100	0x100100

【図 6 7】

【図67】

(a)群予告精度データテーブル
(アタッカランプ用添テーブルA1)

時間[msec]	アタッカランプの精度データ	アタッカ	Vアタッカ電デュー
	R0B.R0B	R0B.R0B	WWW.R0B
100(T1-1)	0x100100	0x100100	0x111100
100(T1-2)	0x100100	0x100100	0x111100
100(T1-3)	0x100100	0x100100	0x112A00
100(T1-4)	0x10A0A0	0x10A0A0	0x662900
100(T1-5)	0x100000	0x100000	0x552A00
100(T1-6)	0x200A00	0x200A00	0x112100
100(T1-7)	0x200000	0x200000	0x112100
100(T1-8)	0x200100	0x200100	0x112100
100(T1-9)	0x200100	0x200100	0x552100
100(T1-10)	0x20A0A0	0x20A0A0	0x662900
600000(T1-11)	0x200000	0x200000	0x552A00

(b)群予告精度データテーブル
(アタッカランプ用添テーブルA2)

時間[msec]	アタッカ	Vアタッカ電デュー
	R0B.R0B	WWW.R0B
50(T2-1)	0xA00A00	0x111100
70(T2-2)	0xA00100	0x666100
60(T2-3)	0x10A0A0	0x666A00
50(T2-4)	0x10A0A0	0x111A00
70(T2-5)	0xA00100	0x111A00
60(T2-6)	0xA00100	0x111100
50(T2-7)	0x100100	0x116A00
70(T2-8)	0x100100	0x666A00
60(T2-9)	0x10A0A0	0x666A00
80(T2-10)	0x100A00	0x111100

(c)群予告精度データテーブル
(アタッカランプ用添テーブルA3)

時間[msec]	アタッカ	Vアタッカ電デュー
	R0B.R0B	WWW.R0B
80(T3-1)	0xA00A00	0x555A00
80(T3-2)	0xA00A00	0x555A00
80(T3-3)	0xA00A00	0x555100
80(T3-4)	0xA00100	0x222100
80(T3-5)	0xA00100	0x222100
10(T3-7)	0x100100	0x222100
10(T3-8)		
10(T3-9)		
10(T3-10)	0x100100	0x222100
10(T3-11)		
10(T3-12)		
10(T3-13)		
10(T3-14)		
10(T3-15)		
10(T3-16)		
10(T3-17)		
10(T3-18)	0x100100	0x222100
10(T3-19)		
10(T3-20)		
10(T3-21)		
10(T3-22)		
10(T3-23)		
10(T3-24)		
10(T3-25)		
10(T3-26)	0x100100	0x222100
10(T3-27)		
10(T3-28)		
10(T3-29)		
10(T3-30)		
10(T3-31)		
10(T3-32)		
10(T3-33)		
10(T3-34)		
10(T3-35)	0x100100	0x222100
10(T3-36)		
10(T3-37)		
10(T3-38)		
600000(T3-39)	0x100100	0x222100

40

50

【図 68】

【図68】
リーチライン輝度データテーブル
(親テーブル)

点灯箇所	群予告演出時間[msec]
枠ランプ(右&左)	1500
役物ランプ(「POWERFUL」の文字付近)	1500
盤左ランプ(夢夢ちゃんの横顔付近)	1500
盤上ランプ(役物の背面側付近)	1500
アタッカランプ	1500

【図 69】

【図69】
リーチライン輝度データテーブル
(子テーブル)

点灯箇所	時間ごとに参照する孫テーブル			
	330msec間 (フラッシュ)	830msec間 (リーチライン)	240msec間 (内外に広がる)	600000msec間 (消える)
枠ランプ(右&左)	W11	W12	W13	W14
役物ランプ(「POWERFUL」の文字付近)	Y11	Y12	Y13	Y14
盤左ランプ(夢夢ちゃんの横顔付近)	L11	L12	L13	L14
盤上ランプ(役物の背面側付近)	U11	—	U13	U14
アタッカランプ	A11	—	A13	A14

群予告よりも
発光するランプ
の数が少ないリーチラインに
用いられない

10

【図 70】

【図70】
(a)リーチライン輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW11)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ						枠右ランプの輝度データ					
	SL1,SL2	SL3,SL4	SL5,SL6	SL7,SL8	SL9,SL10	SL11,SL12	—,SR2	SR3,SR4	SR5,SR6	SR7,SR8	SR9,SR10	SR11,SR12
30(T11-1)	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	—,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB
30(T11-2)	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A	0x58A58A
30(T11-2)	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123	0x123123

(b)リーチライン輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW12)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ						枠右ランプの輝度データ					
	SL1,SL2	SL3,SL4	SL5,SL6	SL7,SL8	SL9,SL10	SL11,SL12	—,SR2	SR3,SR4	SR5,SR6	SR7,SR8	SR9,SR10	SR11,SR12
30(T12-1)	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	—,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB
30(T12-2)	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000
30(T12-2)	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000

(c)リーチライン輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW13)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ						枠右ランプの輝度データ					
	SL1,SL2	SL3,SL4	SL5,SL6	SL7,SL8	SL9,SL10	SL11,SL12	—,SR2	SR3,SR4	SR5,SR6	SR7,SR8	SR9,SR10	SR11,SR12
60(T13-1)	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	—,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB
60(T13-2)	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000
60(T13-2)	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000
60(T13-2)	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000
60(T13-4)	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000	0x00A000

(d)リーチライン輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW14)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ						枠右ランプの輝度データ					
	SL1,SL2	SL3,SL4	SL5,SL6	SL7,SL8	SL9,SL10	SL11,SL12	—,SR2	SR3,SR4	SR5,SR6	SR7,SR8	SR9,SR10	SR11,SR12
100(T14-1)	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	—,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB
100(T14-1)	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000	0x000000

【図 71】

(a)リーチライン輝度データテーブル
(役物ランプ用孫テーブルY11)

時間[msec]	役物ランプの輝度データ
	RRRR
30(T11-1)	0xAAAA
30(T11-2)	0x3333

(b)リーチライン輝度データテーブル
(役物ランプ用孫テーブルY12)

時間[msec]	役物ランプの輝度データ
	RRRR
30(T12-1)	0xA9A9
30(T12-2)	0x9A9A

(c)リーチライン輝度データテーブル
(役物ランプ用孫テーブルY13)

時間[msec]	役物ランプの輝度データ
	RRRR
30(T13-1)	0xA9A9
30(T13-2)	0x9A9A

(d)リーチライン輝度データテーブル
(役物ランプ用孫テーブルY14)

時間[msec]	役物ランプの輝度データ
	RRRR
100(T14-1)	0x0000

20

30

40

50

【図 7 2】

【図72】

(a)リーチライン輝度データテーブル
(盤左ランプ用孫テーブルL11)

時間[msec]	盤左ランプの輝度データ
	WWWWW
30(T11-1)	0xAAAAA
30(T11-2)	0x33333

(b)リーチライン輝度データテーブル
(盤左ランプ用孫テーブルL12)

時間[msec]	盤左ランプの輝度データ
	WWWWW
30(T12-1)	0xA9A00
30(T12-2)	0x9A900

(c)リーチライン輝度データテーブル
(盤左ランプ用孫テーブルL13)

時間[msec]	盤左ランプの輝度データ
	WWWWW
60(T13-1)	0xA9A00
60(T13-2)	0x9A900
60(T13-3)	0xA9A9A
60(T13-4)	0x9A9A9

(d)リーチライン輝度データテーブル
(盤左ランプ用孫テーブルL14)

時間[msec]	盤左ランプの輝度データ
	WWWWW
100(T14-1)	0x00000

【図 7 4】

【図74】

(a)リーチライン輝度データテーブル
(アタッカランプ用孫テーブルA11)

時間[msec]	アタッカランプの輝度データ	
	アタッカ	Vアタッカ,電チュー
	RGB,RGB	WWW,RGB
30(T11-1)	0x58A58A	0xAAA58A
30(T11-2)	0x123123	0x333123

(b)リーチライン輝度データテーブル
(アタッカランプ用孫テーブルA13)

時間[msec]	アタッカランプの輝度データ	
	アタッカ	Vアタッカ,電チュー
	RGB,RGB	WWW,RGB
60(T13-1)	0x000000	0x000000
60(T13-2)	0x000000	0xA9A000
60(T13-3)	0x00900A	0x9A9009
60(T13-4)	0x00A009	0xA9A00A

(c)リーチライン輝度データテーブル
(アタッカランプ用孫テーブルA14)

時間[msec]	アタッカランプの輝度データ	
	アタッカ	Vアタッカ,電チュー
	RGB,RGB	WWW,RGB
100(T14-1)	0x000000	0x000000

【図 7 3】

【図73】

(a)リーチライン輝度データテーブル
(盤上ランプ用孫テーブルU11)

時間[msec]	盤上ランプの輝度データ						
	左下	左中	左上	中	右上	右中	右下
	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	W,W,W	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB
30(T11-1)	0x58A58A	0x58A	0x58A58A	0x000	0x58A58A	0x58A	0x58A58A
30(T11-2)	0x123123	0x123	0x123123	0x000	0x123123	0x123	0x123123

(b)リーチライン輝度データテーブル
(盤上ランプ用孫テーブルU13)

時間[msec]	盤上ランプの輝度データ						
	左下	左中	左上	中	右上	右中	右下
	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	W,W,W	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB
60(T13-1)	0x000000	0x000	0x000000	0x000	0x000000	0x000	0x000000
60(T13-2)	0x009000	0x009	0x000000	0x000	0x000000	0x009	0x000009
60(T13-3)	0x00A009	0x00A	0x00900A	0x000	0x00A009	0x00A	0x00900A
60(T13-4)	0x00900A	0x009	0x00A009	0x000	0x00900A	0x009	0x00A009

(c)リーチライン輝度データテーブル
(盤上ランプ用孫テーブルU14)

時間[msec]	盤上ランプの輝度データ						
	左下	左中	左上	中	右上	右中	右下
	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	W,W,W	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB
100(T14-1)	0x000000	0x000	0x000000	0x000	0x000000	0x000	0x000000

10

20

【図 7 5】

【図75】

背景予告輝度データテーブル
(親テーブル)

点灯箇所	群予告演出時間[msec]
枠ランプ(右 & 左)	5500
役物ランプ(「POWERFUL」の文字付近)	5500
盤左ランプ(夢夢ちゃんの横顔付近)	5500
盤上ランプ(役物の背面側付近)	5500
アタッカランプ	5500

30

40

50

【図 7 6】

【図76】

(a)背景予告輝度データテーブル
(子テーブル)

点灯箇所	時間ごとに参照する孫テーブル		
	200msec間	100msec間	600000msec間
枠ランプ(右 & 左)	W21	W22	W23
役物ランプ(「POWERFUL」の文字付近)	Y21	Y22	Y23
盤左ランプ(夢夢ちゃんの横顔付近)	L21	L22	L23
盤上ランプ(役物の背面側付近)	U21	U22	U23
アタッカランプ	A21	A22	A23

群予告と
点灯するランプ
の数が同じ

【図 7 8】

【図78】

(a)背景予告輝度データテーブル
(役物ランプ用孫テーブルY21)

時間[msec]	役物ランプの輝度データ
	RRRR
50(T21-1)	0x7777
50(T21-2)	0x9999
50(T21-3)	0x1111
50(T21-4)	0x3333

(b)背景予告輝度データテーブル
(役物ランプ用孫テーブルY22)

時間[msec]	役物ランプの輝度データ
	RRRR
20(T22-1)	0xAAAA
20(T22-2)	0x7777

(c)背景予告輝度データテーブル
(役物ランプ用孫テーブルY23)

時間[msec]	役物ランプの輝度データ
	RRRR
240(T23-1)	0x8646
230(T23-2)	0xA864
240(T23-3)	0x8A86
230(T23-4)	0x68A8
240(T23-5)	0x468A
230(T23-6)	0x6468

【図 7 7】

【図77】

(a)背景予告輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW21)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ						枠右ランプの輝度データ					
	BL1.BL2	BL3.BL4	BL5.BL6	BL7.BL8	BL9.BL10	BL11.BL12	— BR2	BR3.BR4	BR5.BR6	BR7.BR8	BR9.BR10	BR11.BR12
50(T21-1)	0x111111	0x111111	0x111111	0x111111	0x111111	0x111111	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
50(T21-2)	0x333333	0x333333	0x333333	0x333333	0x333333	0x333333	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
50(T21-3)	0x666666	0x666666	0x666666	0x666666	0x666666	0x666666	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
50(T21-4)	0x888888	0x888888	0x888888	0x888888	0x888888	0x888888	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB

(b)背景予告輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW22)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ						枠右ランプの輝度データ					
	BL1.BL2	BL3.BL4	BL5.BL6	BL7.BL8	BL9.BL10	BL11.BL12	— BR2	BR3.BR4	BR5.BR6	BR7.BR8	BR9.BR10	BR11.BR12
20(T22-1)	0x13013	0x13013	0x13013	0x13013	0x13013	0x13013	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
20(T22-2)	0x602602	0x602602	0x602602	0x602602	0x602602	0x602602	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB

(c)背景予告輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW23)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ						枠右ランプの輝度データ					
	BL1.BL2	BL3.BL4	BL5.BL6	BL7.BL8	BL9.BL10	BL11.BL12	— BR2	BR3.BR4	BR5.BR6	BR7.BR8	BR9.BR10	BR11.BR12
240(T23-1)	0x502301	0x502712	0xA14712	0x502301	0x502712	0xA14712	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
230(T23-2)	0x301502	0x712A14	0x712502	0x301502	0x712A14	0x712502	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
240(T23-3)	0x502712	0xA14712	0x502301	0x502712	0xA14712	0x502301	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
230(T23-4)	0x712A14	0x712502	0x301502	0x712A14	0x712502	0x301502	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
240(T23-5)	0xA14712	0x502301	0x502712	0xA14712	0x502301	0x502712	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB
230(T23-6)	0x712502	0x301502	0x712A14	0x712502	0x301502	0x712A14	— RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB	RGB.RGB

【図 7 9】

【図79】

(a)背景予告輝度データテーブル
(盤左ランプ用孫テーブルL21)

時間[msec]	盤左ランプの輝度データ
	WWWWW
50(T21-1)	0x33333
50(T21-2)	0x66666
50(T21-3)	0x88888
50(T21-4)	0x11111

(b)背景予告輝度データテーブル
(盤左ランプ用孫テーブルL22)

時間[msec]	盤左ランプの輝度データ
	WWWWW
20(T22-1)	0x99999
20(T22-2)	0x66666

(c)背景予告輝度データテーブル
(盤左ランプ用孫テーブルL23)

時間[msec]	盤左ランプの輝度データ
	WWWWW
240(T23-1)	0x53579
230(T23-2)	0x35797
240(T23-3)	0x57975
230(T23-4)	0x79753
240(T23-5)	0x97535
230(T23-6)	0x75357

10

20

30

40

50

【図 8 0】

【図80】

(a)背景予告輝度データテーブル
(盤上ランプ用孫テーブルU21)

時間[msec]	盤上ランプの輝度データ							
	9C1,9C2	9C3	9C4,9C5	9C6,9C7,9C8	9C9,9C10	9C11	9C12,9C13	
	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	W,W,W	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	
50(T21-1)	0x666333	0x666	0x333333	0x000	0x333333	0x666	0x333666	
50(T21-2)	0x888666	0x888	0x666666	0x000	0x666666	0x888	0x666888	
50(T21-3)	0x111888	0x111	0x888888	0x000	0x888888	0x111	0x888111	
50(T21-4)	0x333111	0x333	0x111111	0x000	0x111111	0x333	0x111333	

(b)背景予告輝度データテーブル
(盤上ランプ用孫テーブルU22)

時間[msec]	盤上ランプの輝度データ							
	9C1,9C2	9C3	9C4,9C5	9C6,9C7,9C8	9C9,9C10	9C11	9C12,9C13	
	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	W,W,W	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	
20(T22-1)	0x913913	0x913	0x913913	0x000	0x913913	0x913	0x913913	
20(T22-2)	0x602602	0x602	0x602602	0x000	0x602602	0x602	0x602602	

(c)背景予告輝度データテーブル
(盤上ランプ用孫テーブルU23)

時間[msec]	盤上ランプの輝度データ							
	9C1,9C2	9C3	9C4,9C5	9C6,9C7,9C8	9C9,9C10	9C11	9C12,9C13	
	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	W,W,W	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	
240(T23-1)	0x502301	0x502	0x712A14	0x000	0x502301	0x502	0x712A14	
230(T23-2)	0x301502	0x712	0xA14712	0x000	0x301502	0x712	0xA14712	
240(T23-3)	0x502712	0xA14	0x712502	0x000	0x502712	0xA14	0x712502	
230(T23-4)	0x712A14	0x712	0x502301	0x000	0x712A14	0x712	0x502301	
240(T23-5)	0xA14712	0x502	0x301502	0x000	0xA14712	0x502	0x301502	
230(T23-6)	0x712502	0x301	0x502712	0x000	0x712502	0x301	0x502712	

【図 8 2】

【図82】

(a)全点灯時輝度データテーブル
(棒上ランプ用テーブルW31)

時間[msec]	棒上ランプの輝度データ											
	9L1,9L2	9L3,9L4	9L5,9L6	9L7,9L8	9L9,9L10	9L11,9L12	→ 3R2	3R3,3R4	3R5,3R6	3R7,3R8	3R9,3R10	3R11,3R12
	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	→ RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB	RGB,RGB
600000(T31-1)	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF	0xFFFFFF

(b)全点灯時輝度データテーブル
(投物ランプ用テーブルV31)

時間[msec]	投物ランプの輝度データ	
	RGB	RGB
600000(T31-1)	0xFFFFFF	0xFFFFFF

(c)全点灯時輝度データテーブル
(壁面ランプ用テーブルL31)

時間[msec]	壁面ランプの輝度データ	
	WWW	WWW
600000(T31-1)	0xFFFFFF	0xFFFFFF

(d)全点灯時輝度データテーブル
(盤上ランプ用テーブルU31)

時間[msec]	盤上ランプの輝度データ							
	9C1,9C2	9C3	9C4,9C5	9C6,9C7,9C8	9C9,9C10	9C11	9C12,9C13	
	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	W,W,W	RGB,RGB	RGB	RGB,RGB	
600000(T31-1)	0xFFFFFF	0xFFF	0xFFFFFF	0xFFF	0xFFFFFF	0xFFF	0xFFFFFF	

(e)全点灯時輝度データテーブル
(アタッカランプ用孫テーブルA31)

時間[msec]	アタッカランプの輝度データ	
	アタッカ	Vアタッカ,電チュー
	RGB,RGB	WWW,RGB
600000(T31-1)	0xFFFFFF	0xFFFFFF

(f)全点灯時輝度データテーブル
(Vランプ用テーブルV31)

時間[msec]	Vランプの輝度データ	
	RGB	RGB
600000(T31-1)	0xFFFFFF	0xFFFFFF

(g)全点灯時輝度データテーブル
(スティックコントローラランプ用テーブルS31)

時間[msec]	スティックコントローラランプの輝度データ	
	SJ1,SJ2	SJ3,SJ4
	RGB,RGB	RGB,RGB
600000(T31-1)	0xFFFFFF	0xFFFFFF

(h)全点灯時輝度データテーブル
(トリガボタンランプ用テーブルT31)

時間[msec]	トリガボタンランプの輝度データ	
	RGB	RGB
600000(T31-1)	0xFFF	0xFFF

【図 8 1】

【図81】

(a)背景予告輝度データテーブル
(アタッカランプ用孫テーブルA21)

時間[msec]	アタッカランプの輝度データ	
	アタッカ	Vアタッカ,電チュー
	RGB,RGB	WWW,RGB
50(T21-1)	0x333333	0x666333
50(T21-2)	0x666666	0x888666
50(T21-3)	0x888888	0x111888
50(T21-4)	0x111111	0x333111

(b)背景予告輝度データテーブル
(アタッカランプ用孫テーブルA22)

時間[msec]	アタッカランプの輝度データ	
	アタッカ	Vアタッカ,電チュー
	RGB,RGB	WWW,RGB
20(T22-1)	0x913913	0x999913
20(T22-2)	0x602602	0x666602

(c)背景予告輝度データテーブル
(アタッカランプ用孫テーブルA23)

時間[msec]	アタッカランプの輝度データ	
	アタッカ	Vアタッカ,電チュー
	RGB,RGB	WWW,RGB
240(T23-1)	0x712301	0x975502
230(T23-2)	0xA14502	0x797301
240(T23-3)	0x712712	0x579502
230(T23-4)	0x502A14	0x357712
240(T23-5)	0x301712	0x535A14
230(T23-6)	0x502502	0x753712

【図 8 3】

【図83】

(a)PUSH演出時輝度データテーブル
(スティックコントローラランプ用テーブルS41)

時間[msec]	スティックコントローラランプの輝度データ	
	9J1,9J2	9J3,9J4
	RGB,RGB	RGB,RGB
20(T41-1)	0xF00000	0x000000
20(T41-2)	0x000F00	0x000000
20(T41-3)	0x000000	0xF00000
20(T41-4)	0x000000	0x000F00

(b)PUSH演出時輝度データテーブル
(トリガボタンランプ用テーブルT41)

時間[msec]	トリガボタンランプの輝度データ	
	RGB	RGB
150(T51-1)	0xF00	0xF00
150(T51-2)	0x000	0x000

群予告と
同じ発光色群予告と
同じ発光色

10

20

30

40

50

【図 8 4】

【図84】

家形例

群予告輝度データテーブル
(子テーブル)

点灯箇所	時間ごとに参照する孫テーブル			
	1000msec間 (第1表示期間)	1310msec間 (第2表示期間)	830msec間 (第3表示期間)	
	200msec	2790msec	150msec	
枠ランプ(右&左)	W101	W102	W103	
役物ランプ(「POWERFUL」の文字付近)	Y101	Y102	Y103	
盤左ランプ(夢夢ちゃんの横顔付近)	L101	L102	L103	
盤上ランプ(役物の背面側付近)	U101	U102	U103	
アタックランプ	A101	A102	A103	

【図 8 5】

【図85】

家形例

(a)群予告輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW101)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ												枠右ランプの輝度データ											
	R1,R2	R3,R4	R5,R6	R7,R8	R9,R10	R11,R12	R13,R14	R15,R16	R17,R18	R19,R20	R21,R22	R23,R24	R25,R26	R27,R28	R29,R30	R31,R32	R33,R34	R35,R36	R37,R38	R39,R40	R41,R42	R43,R44	R45,R46	R47,R48
	20(T101-1)	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100	0x100100

(a)群予告輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW102)

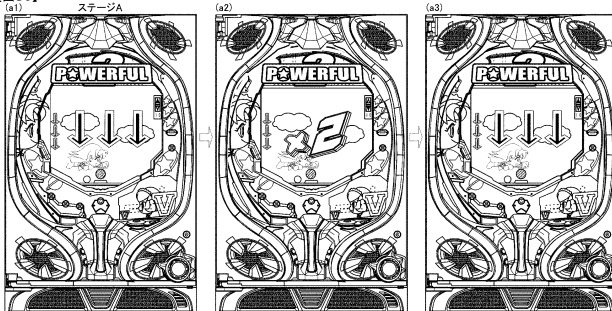
時間[msec]	枠左ランプの輝度データ												枠右ランプの輝度データ											
	R1,R2	R3,R4	R5,R6	R7,R8	R9,R10	R11,R12	R13,R14	R15,R16	R17,R18	R19,R20	R21,R22	R23,R24	R25,R26	R27,R28	R29,R30	R31,R32	R33,R34	R35,R36	R37,R38	R39,R40	R41,R42	R43,R44	R45,R46	R47,R48
	50(T102-1)	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00	0x100100	0x100A00

(a)群予告輝度データテーブル
(枠ランプ用孫テーブルW103)

時間[msec]	枠左ランプの輝度データ												枠右ランプの輝度データ											
	R1,R2	R3,R4	R5,R6	R7,R8	R9,R10	R11,R12	R13,R14	R15,R16	R17,R18	R19,R20	R21,R22	R23,R24	R25,R26	R27,R28	R29,R30	R31,R32	R33,R34	R35,R36	R37,R38	R39,R40	R41,R42	R43,R44	R45,R46	R47,R48
	14(T103-1)	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0	0xA0A0A0

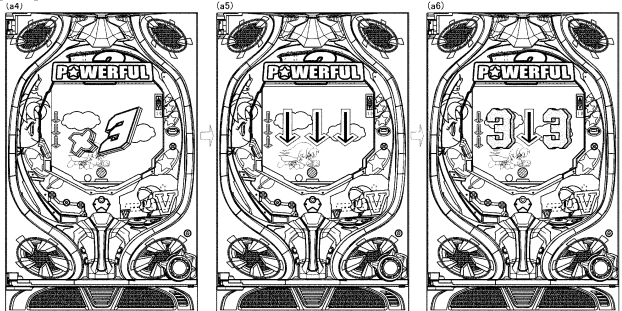
【図 8 6】

【図86】



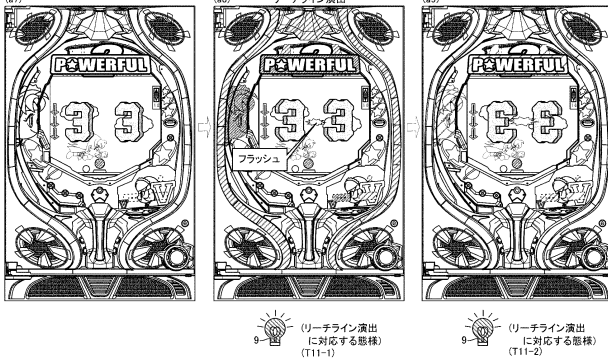
【図 8 7】

【図87】



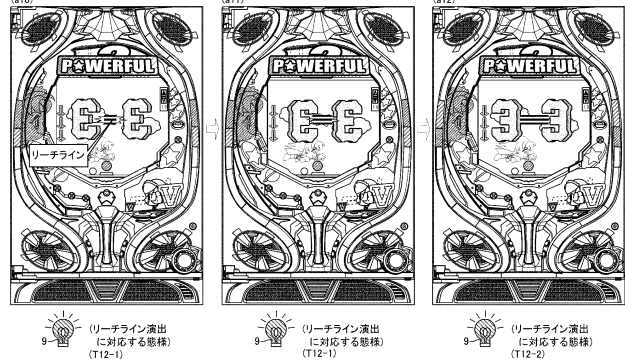
【図 88】

【図88】



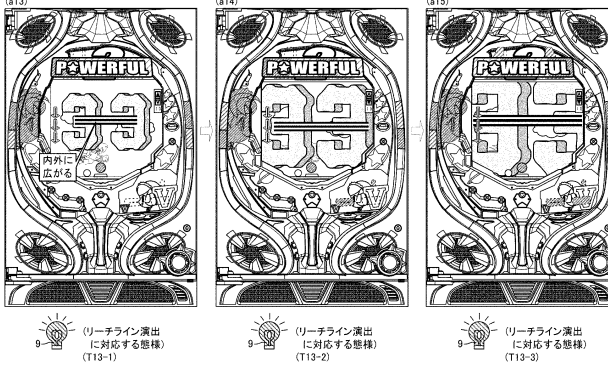
【図 89】

【図89】



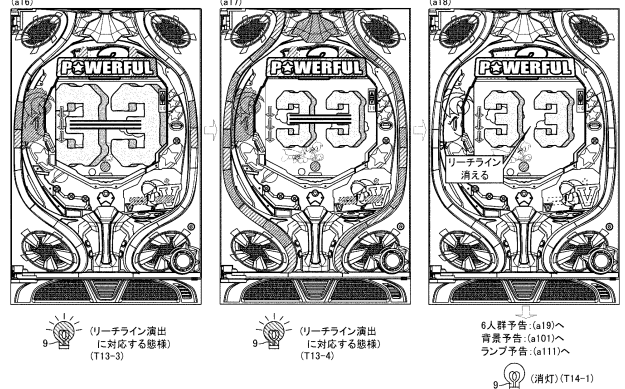
【図 90】

【図90】



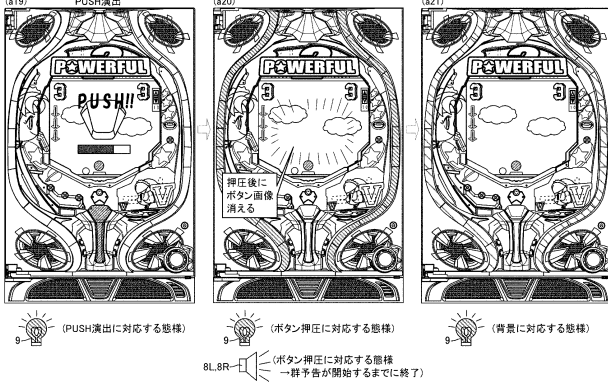
【図 91】

【図91】



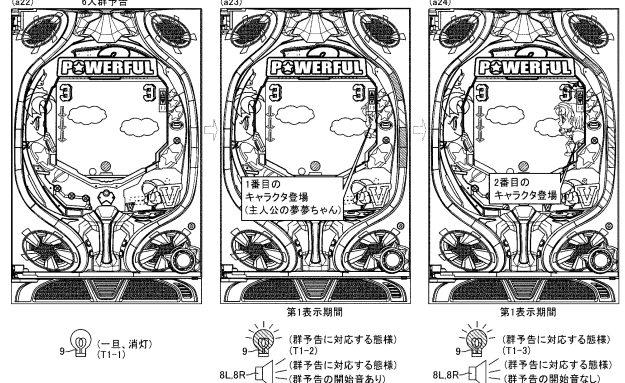
【図 92】

【図92】



【図 93】

【図93】



10

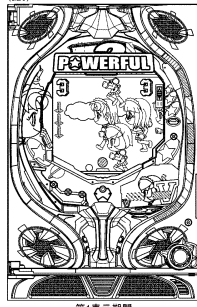
20

30

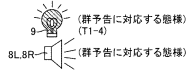
40

50

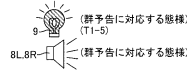
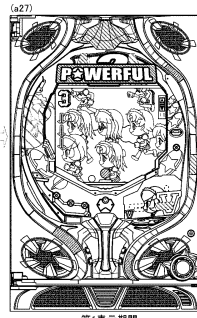
【図 94】

【図94】
(a25)

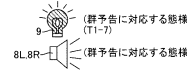
第1表示期間

(群予告に対応する態様)
(T1-4)

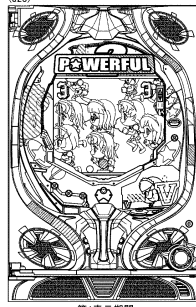
第1表示期間

(群予告に対応する態様)
(T1-5)

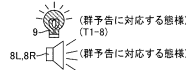
第1表示期間

(群予告に対応する態様)
(T1-7)

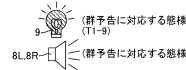
【図 95】

【図95】
(a28)

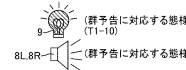
第1表示期間

(群予告に対応する態様)
(T1-8)

第1表示期間

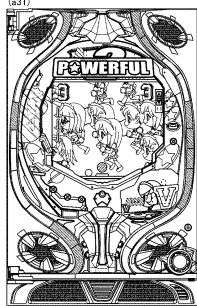
(群予告に対応する態様)
(T1-9)

第1表示期間

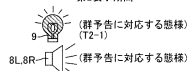
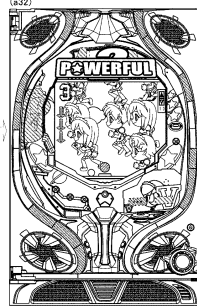
(群予告に対応する態様)
(T1-10)

10

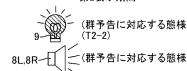
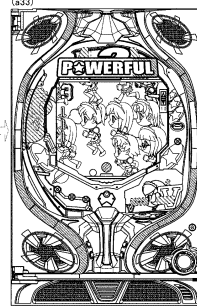
【図 96】

【図96】
(a31)

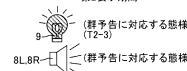
第2表示期間

(群予告に対応する態様)
(T2-1)

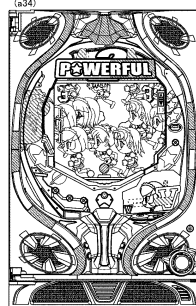
第2表示期間

(群予告に対応する態様)
(T2-2)

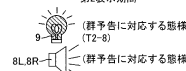
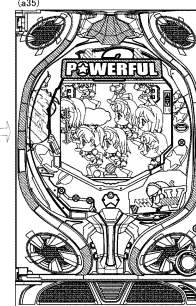
第2表示期間

(群予告に対応する態様)
(T2-3)

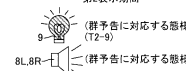
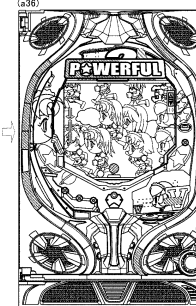
【図 97】

【図97】
(a34)

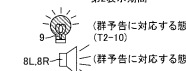
第2表示期間

(群予告に対応する態様)
(T2-8)

第2表示期間

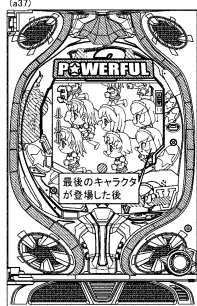
(群予告に対応する態様)
(T2-9)

第2表示期間

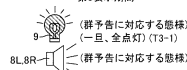
(群予告に対応する態様)
(T2-10)

20

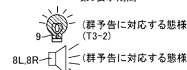
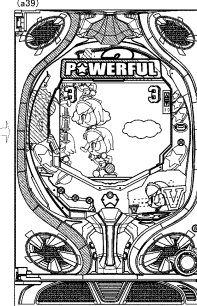
【図 98】

【図98】
(a37)

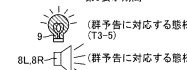
第3表示期間

(群予告に対応する態様)
(一旦、全点灯) (T3-1)

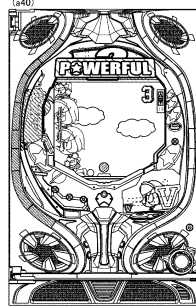
第3表示期間

(群予告に対応する態様)
(T3-2)

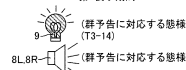
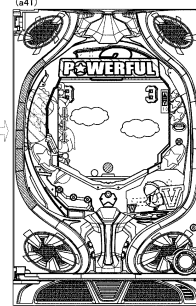
第3表示期間

(群予告に対応する態様)
(T3-5)

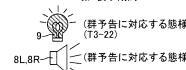
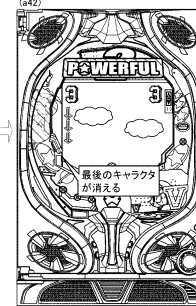
【図 99】

【図99】
(a40)

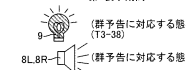
第3表示期間

(群予告に対応する態様)
(T3-14)

第3表示期間

(群予告に対応する態様)
(T3-22)

第3表示期間

(群予告に対応する態様)
(T3-38)

30

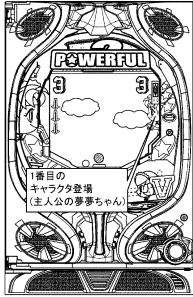
40

50

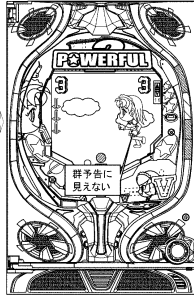
【図100】

【図100】

(a201) 6人群予告(比較例)

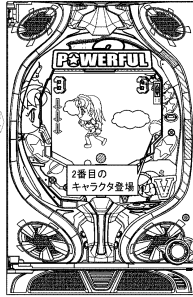


(a202)



第1表示期間

(a203)

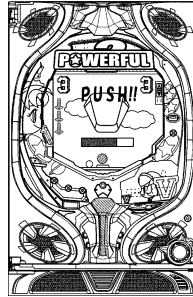


第1表示期間

【図101】

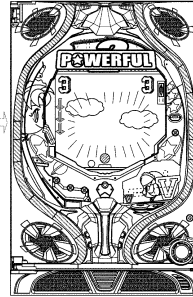
【図101】

(a101) PUSH演出



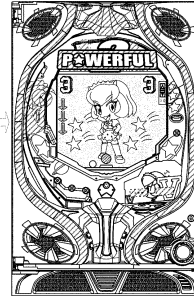
(PUSH演出に対応する態様)

(a102)



(ボタン押圧に対応する態様)

(a103)



(背景予告に対応する態様)

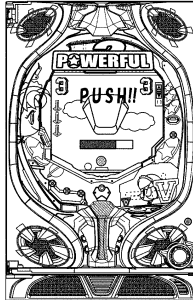
8L,8R (ボタン押圧に対応する態様)

10

【図102】

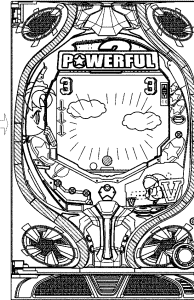
【図102】

(a111) PUSH演出



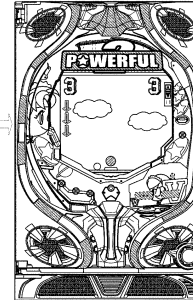
(PUSH演出に対応する態様)

(a112)



(ボタン押圧に対応する態様)

(a113)



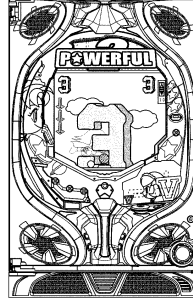
(ランプ予告に対応する態様)

8L,8R (ボタン押圧に対応する態様)

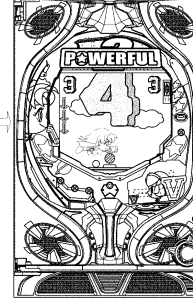
【図103】

【図103】

(a43)

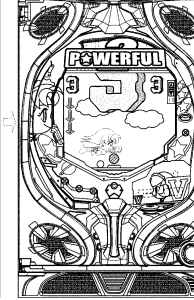


(a44)



(ボタン押圧に対応する態様)

(a45)



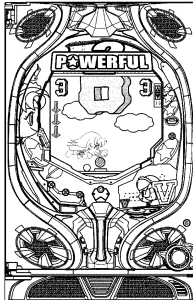
(ボタン押圧に対応する態様)

20

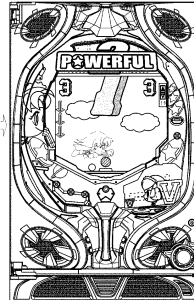
【図104】

【図104】

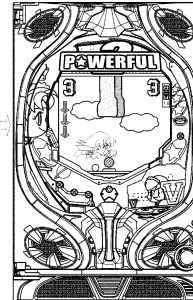
(a46)



(a47)



(a48)

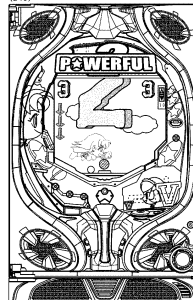


(ボタン押圧に対応する態様)

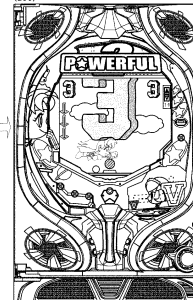
【図105】

【図105】

(a49)

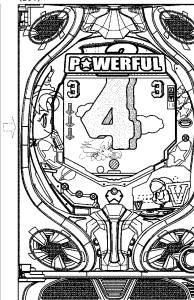


(a50)



(ボタン押圧に対応する態様)

(a51)



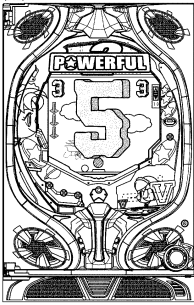
(ボタン押圧に対応する態様)

30

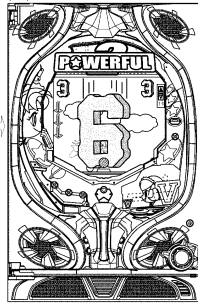
40

50

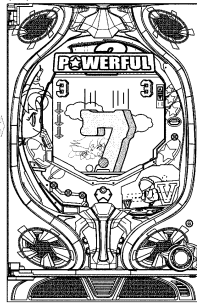
【図106】

【図106】
(a52)

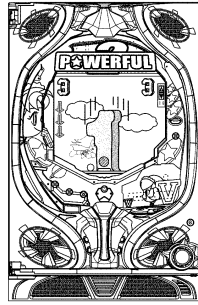
(a53)



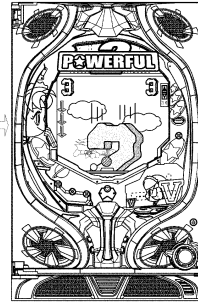
(a54)



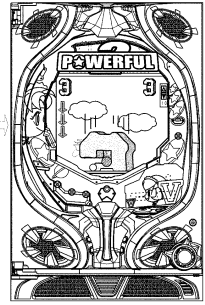
【図107】

【図107】
(a55)

(a56)

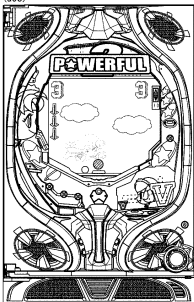


(a57)

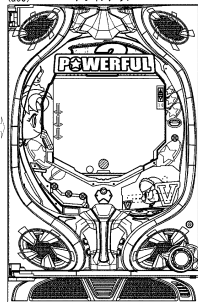


10

【図108】

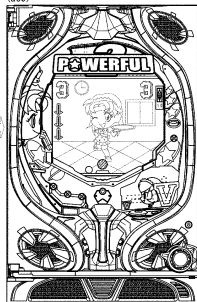
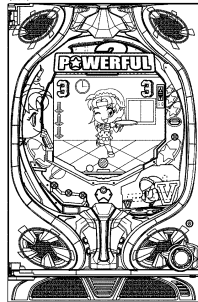
【図108】
(a58)

(a59)

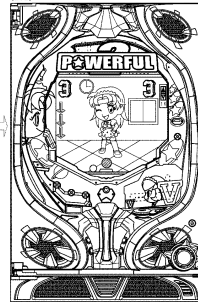


ホワイトアウト

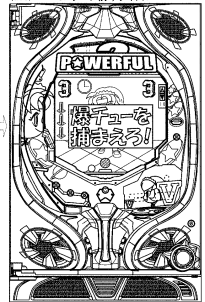
(a60)

【図109】
(a61)

(a62)



(a63)

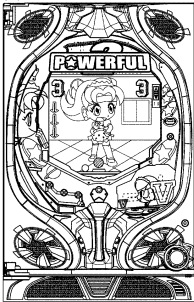


SPリーチ前半タイトル

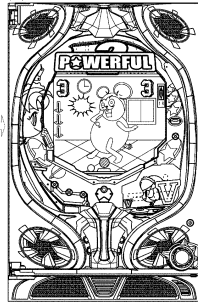
→ 後変動

20

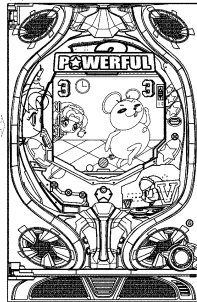
【図110】

【図110】
(c1)

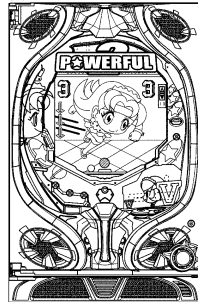
(c2)



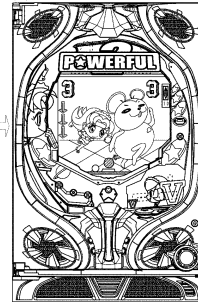
(c3)



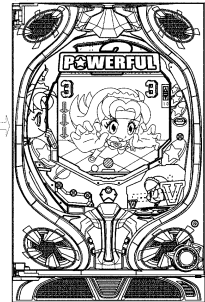
【図111】

【図111】
(c4)

(c5)



(c6)



↓
ハズレ時:(c1)へ
大当たり時:(c21)へ
SPリーチ後半or最終リーチに移行時:(c31)へ

30

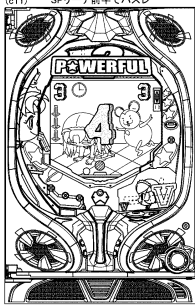
40

50

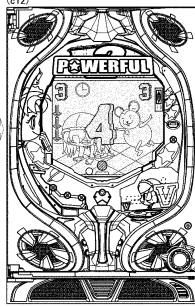
【図 112】

【図112】

(c11) SPIリーチ前半でハズレ

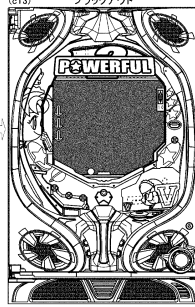


(c12)



(c13)

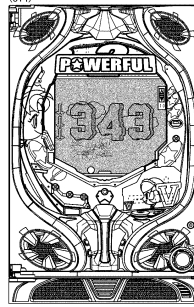
ブラックアウト



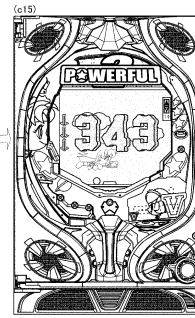
【図 113】

【図113】

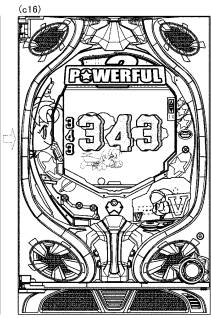
(c14)



(c15)



(c16)

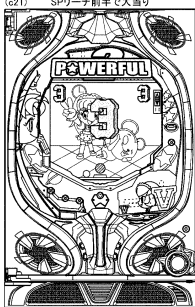


10

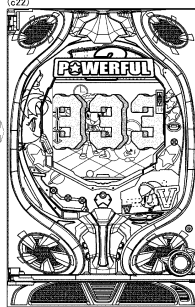
【図 114】

【図114】

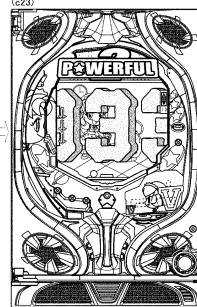
(c21) SPIリーチ前半で大当たり



(c22)



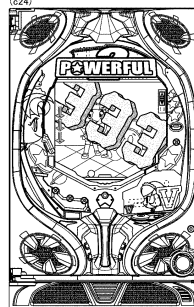
(c23)



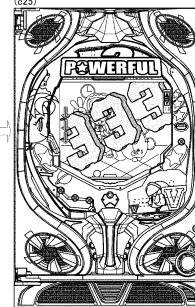
【図 115】

【図115】

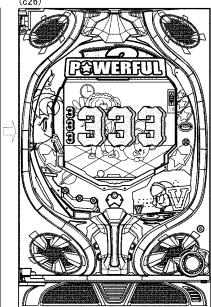
(c24)



(c25)



(c26)

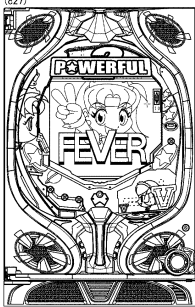


20

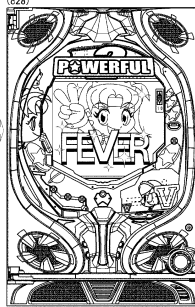
【図 116】

【図116】

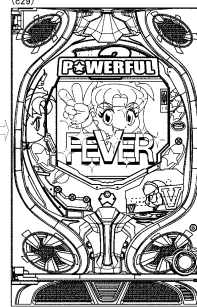
(c27)



(c28)



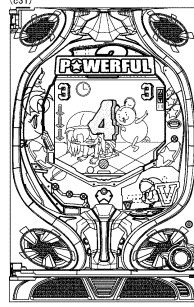
(c29)



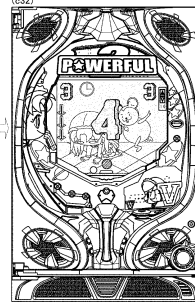
【図 117】

【図117】

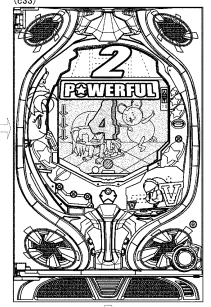
(c31)



(c32)



(c33)



30

SPIリーチ後半に移行時:(c41)へ
最終リーチに移行時:(c71)へ

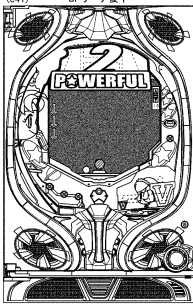
40

50

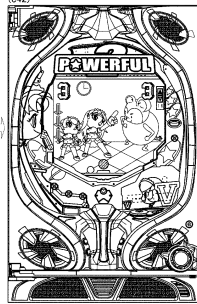
【図 118】

【図118】

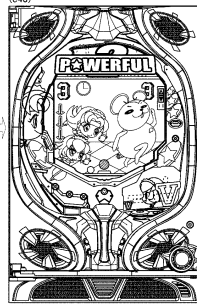
SPリーチ後半



(c42)

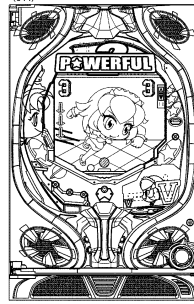


(c43)

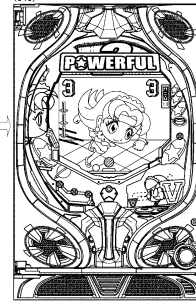


【図 119】

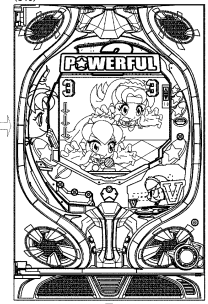
【図119】



(c45)



(c46)



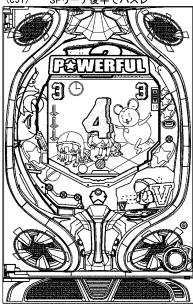
ハズレ時:(c51)へ
大当たり時:(c61)へ
最終リーチに移行時:(c71)へ

10

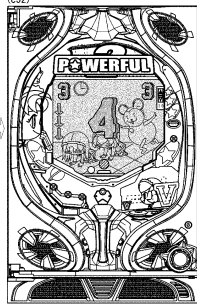
【図 120】

【図120】

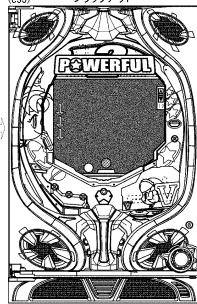
SPリーチ後半でハズレ



(c52)

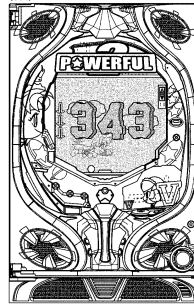


(c53)

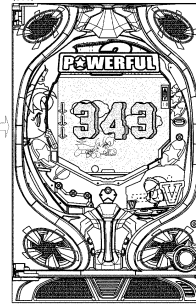


【図 121】

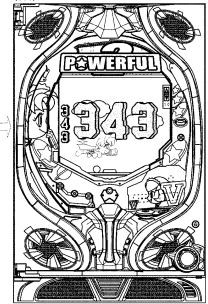
【図121】



(c55)



(c56)

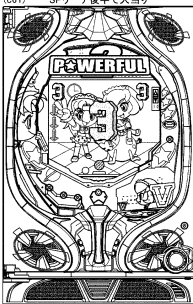


20

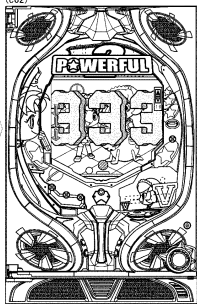
【図 122】

【図122】

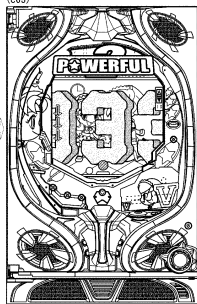
SPリーチ後半で大当たり



(c62)

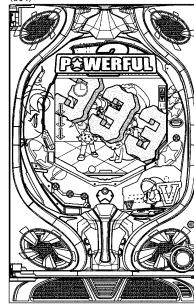


(c63)

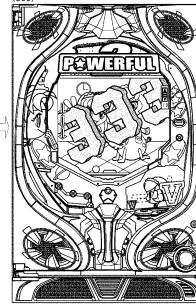


【図 123】

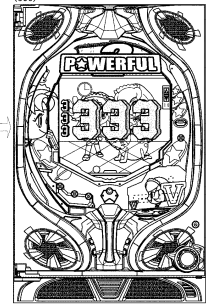
【図123】



(c65)



(c66)



30

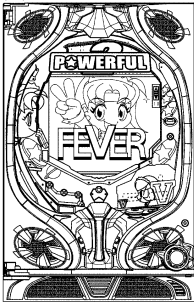
40

50

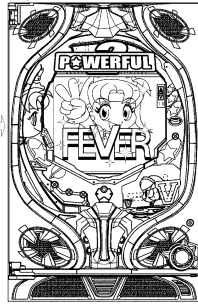
【図 1 2 4】

【図124】

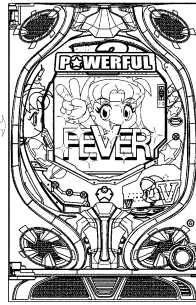
(c67)



(c68)



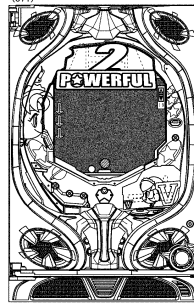
(c69)



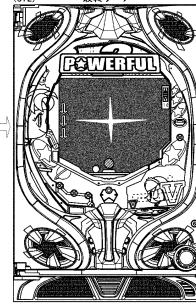
【図 1 2 5】

【図125】

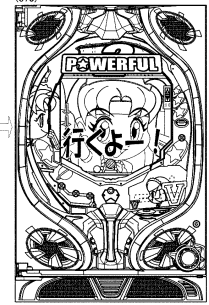
(c71)



(c72)



(c73)

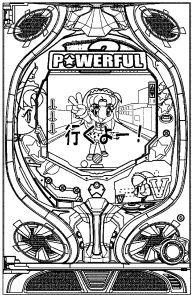


10

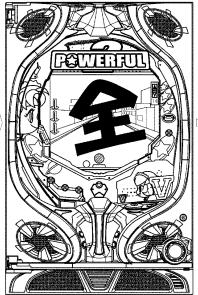
【図 1 2 6】

【図126】

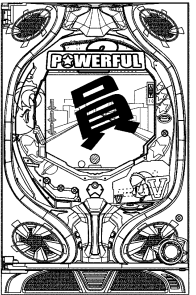
(c74)



(c75)



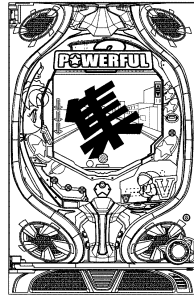
(c76)



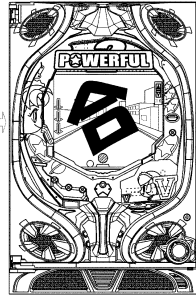
【図 1 2 7】

【図127】

(c77)



(c78)



(c79)

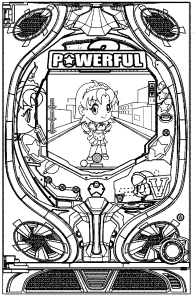


20

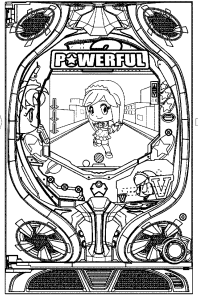
【図 1 2 8】

【図128】

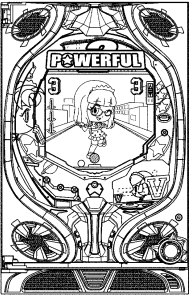
(c80)



(c81)



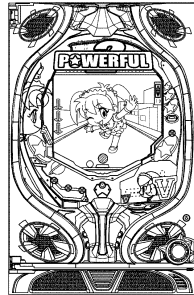
(c82)



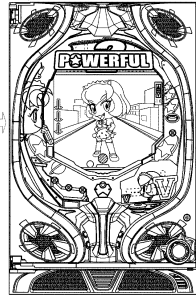
【図 1 2 9】

【図129】

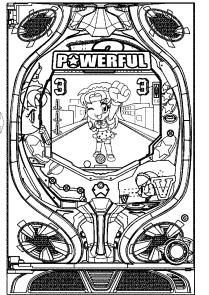
(c83)



(c84)



(c85)

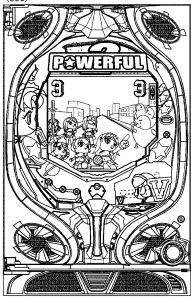


30

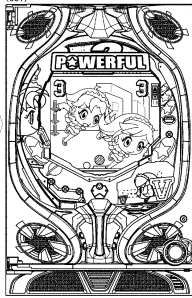
40

50

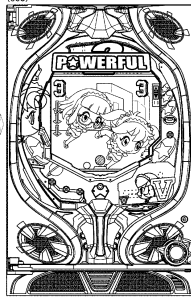
【図 130】

【図130】
(c86)

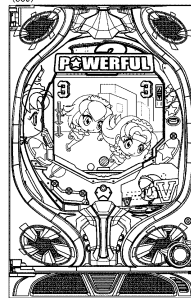
(c87)



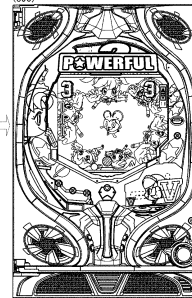
(c88)



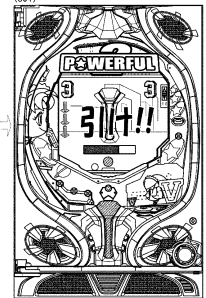
【図 131】

【図131】
(c89)

(c90)



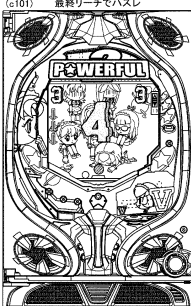
(c91)



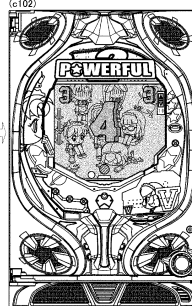
ハズレ時:(c10)へ
大当たり時:(c11)へ

10

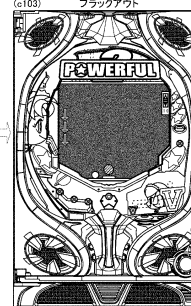
【図 132】

【図132】
(c101)

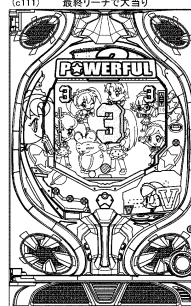
(c102)



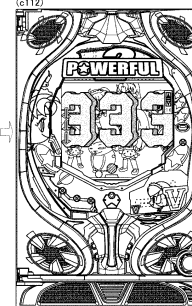
(c103)



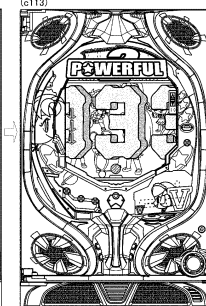
【図 133】

【図133】
(c111)

(c112)

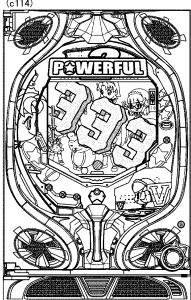


(c113)

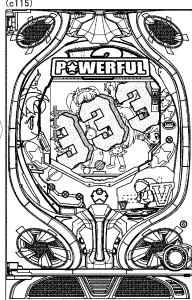


20

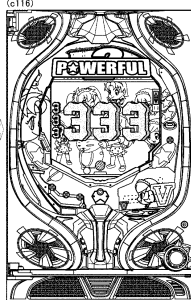
【図 134】

【図134】
(c114)

(c115)



(c116)



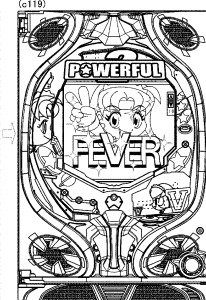
【図 135】

【図135】
(c117)

(c118)



(c119)



30

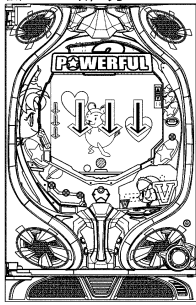
40

50

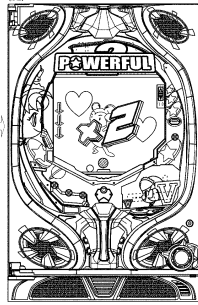
【図 136】

【図136】
(b1)

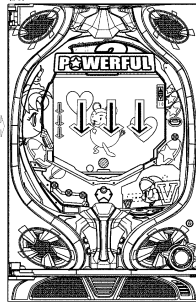
ステージB



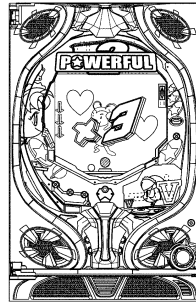
(b2)



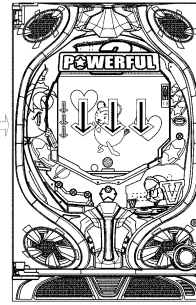
(b3)



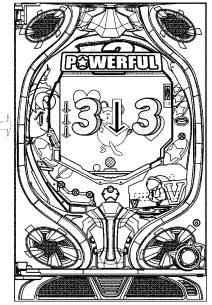
【図 137】

【図137】
(b4)

(b5)

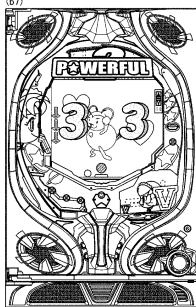


(b6)

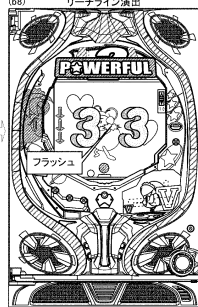


10

【図 138】

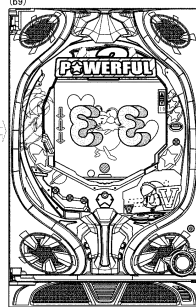
【図138】
(b7)

(b8)



フラッシュ

(b9)



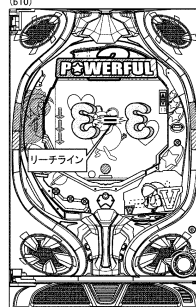
9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T11-1)

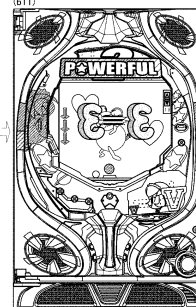
9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T11-2)

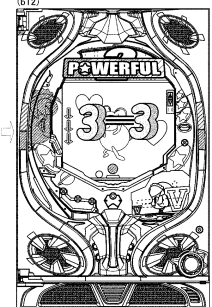
【図 139】

【図139】
(b10)

(b11)



(b12)



9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T12-1)

9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T12-2)

9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T12-1)

9

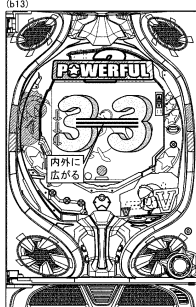
(リーチライン演出
に対応する態様)
(T12-1)

9

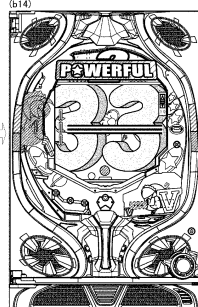
(リーチライン演出
に対応する態様)
(T12-2)

20

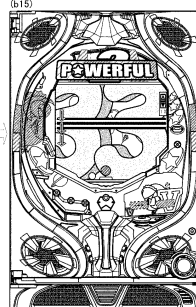
【図 140】

【図140】
(b13)

(b14)



(b15)



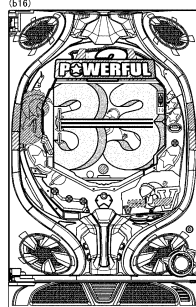
9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T13-1)

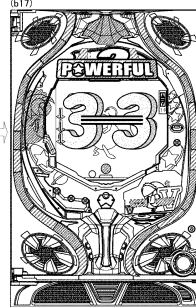
9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T13-2)

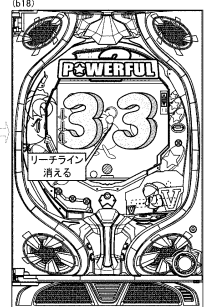
【図 141】

【図141】
(b16)

(b17)



(b18)



9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T13-3)

9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T13-3)

9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T13-3)

9

(リーチライン演出
に対応する態様)
(T13-4)

9

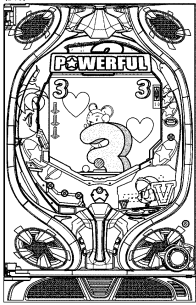
(消灯)
(T14-1)

30

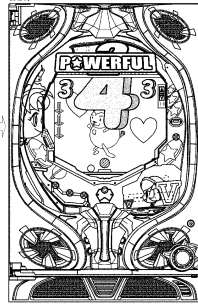
40

50

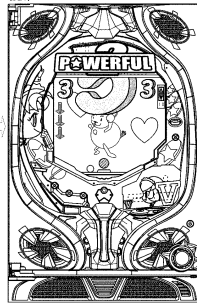
【図 1 4 2】

【図 142】
(b19)

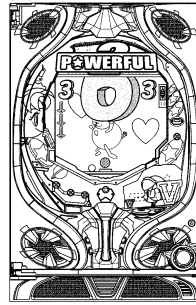
(b20)



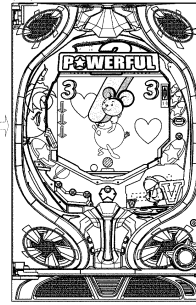
(b21)



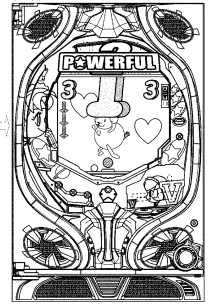
【図 1 4 3】

【図 143】
(b22)

(b23)

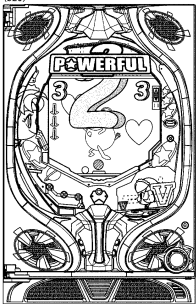


(b24)

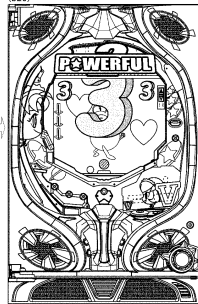


10

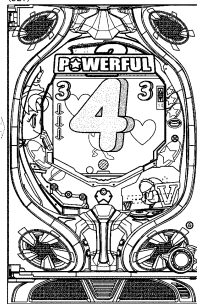
【図 1 4 4】

【図 144】
(b25)

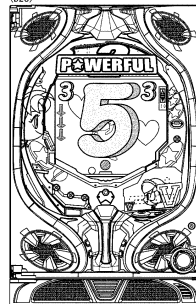
(b26)



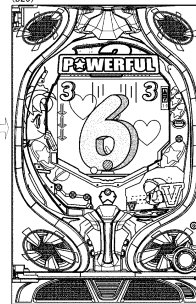
(b27)



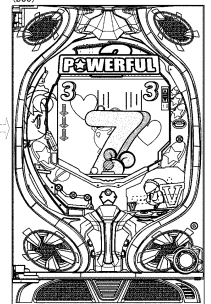
【図 1 4 5】

【図 145】
(b28)

(b29)

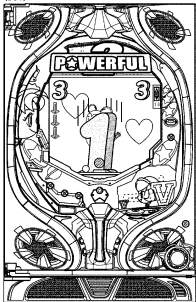


(b30)

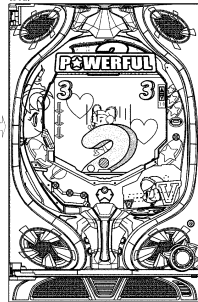


20

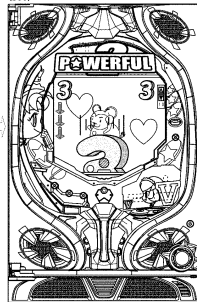
【図 1 4 6】

【図 146】
(b31)

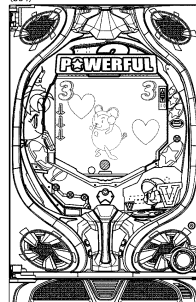
(b32)



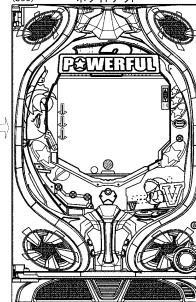
(b33)



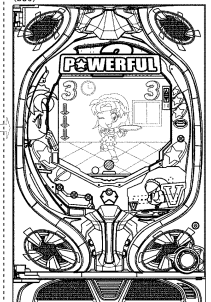
【図 1 4 7】

【図 147】
(b34)

(b35)



(b36)



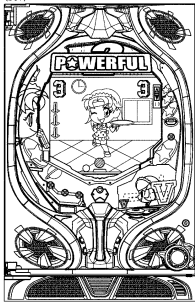
→ 後変動

30

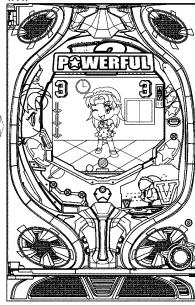
40

50

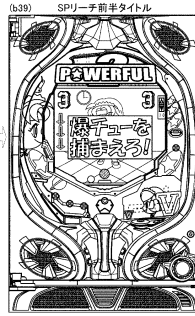
【図 148】

【図148】
(b37)

(b38)

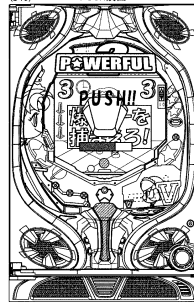


(b39)



SPIリーチ前半タイトル

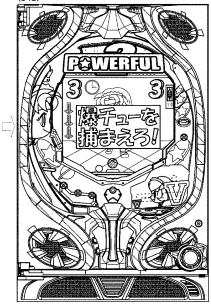
【図 149】

【図149】
(b40)

(b41)



(b42)



(PUSH演出に対応する態様)



(ボタン押圧に対応する態様)

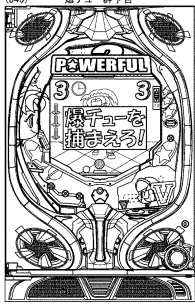


(背景に対応する態様)

8L8R- (ボタン押圧に対応する態様
→群予告が開始するまでに終了)

10

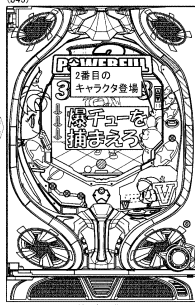
【図 150】

【図150】
(b43)

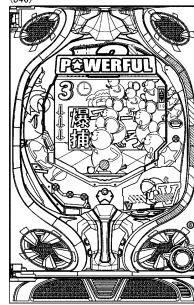
(b44)



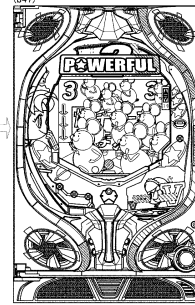
(b45)

9- (一旦、消灯)
(T1-1)9- (群予告に対応する態様)
(T1-2)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音あり)9- (群予告に対応する態様)
(T1-3)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音なし)

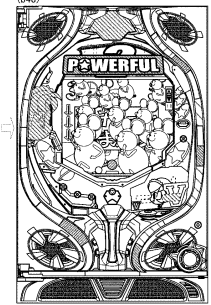
【図 151】

【図151】
(b46)

(b47)

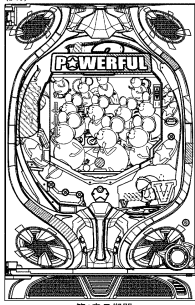


(b48)

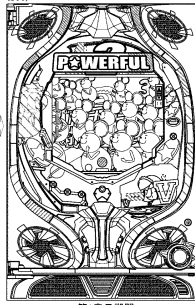
(群予告に対応する態様)
(T1-4)(群予告に対応する態様)
(T1-5)(群予告に対応する態様)
(T1-6)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音あり)(群予告に対応する態様)
(T1-7)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音なし)

20

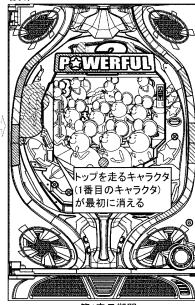
【図 152】

【図152】
(b49)

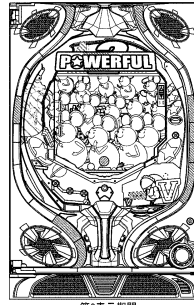
(b50)



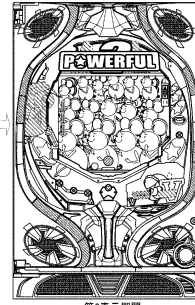
(b51)

9- (群予告に対応する態様)
(T1-8)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音あり)9- (群予告に対応する態様)
(T1-9)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音なし)9- (群予告に対応する態様)
(T1-10)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音あり)

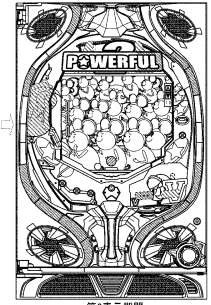
【図 153】

【図153】
(b52)

(b53)



(b54)

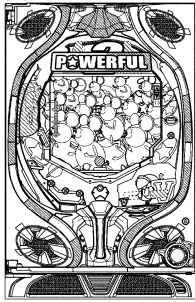
(群予告に対応する態様)
(T2-1)(群予告に対応する態様)
(T2-2)(群予告に対応する態様)
(T2-3)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音あり)(群予告に対応する態様)
(T2-4)8L8R- (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音なし)

30

40

50

【図 154】

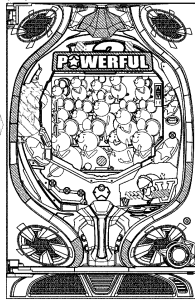
【図154】
(b55)

第2表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T2-8)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(b56)

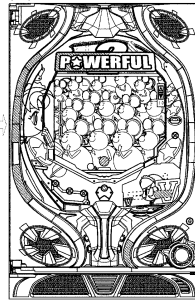


第2表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T2-9)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(b57)

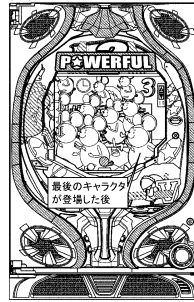


第2表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T2-10)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

【図 155】

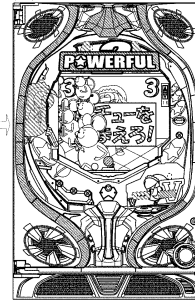
【図155】
(b58)

第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T3-1)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(b59)

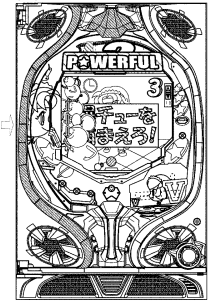


第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T3-2)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(b60)



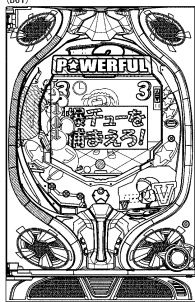
第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T3-5)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

10

【図 156】

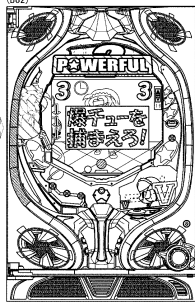
【図156】
(b61)

第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T3-14)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(b62)



第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T3-22)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(b63)

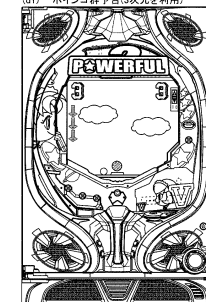


第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(T3-38)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

【図 157】

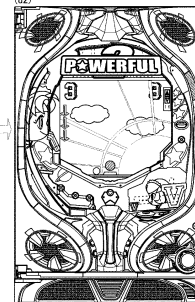
【図157】
(d1)

第3表示期間

9 (一旦、消灯)
(T1-1)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(d2)

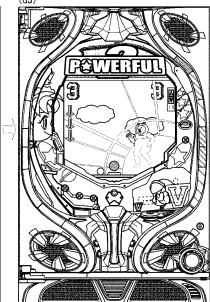


第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音あり)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(d3)



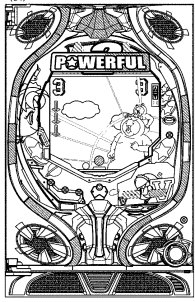
第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)
(群予告の開始音なし)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

20

【図 158】

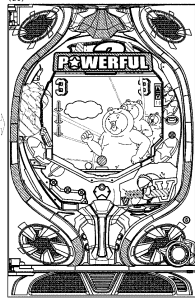
【図158】
(d4)

第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(d5)

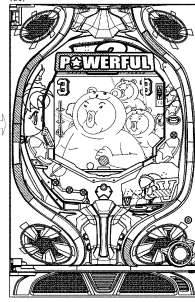


第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(d6)

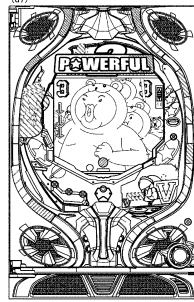


第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

【図 159】

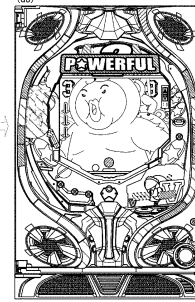
【図159】
(d7)

第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(d8)

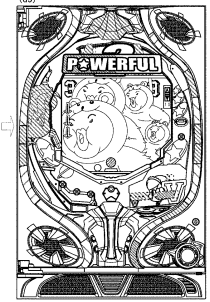


第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

(d9)



第3表示期間

9 (群予告に対応する態様)

8L, 8R (群予告に対応する態様)

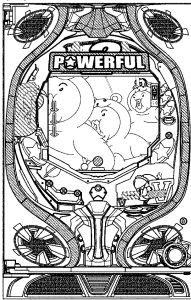
30

40

50

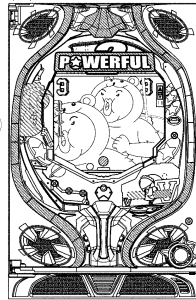
【図 160】

【図160】
(d10)



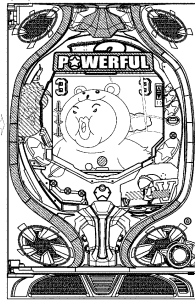
9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d11)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

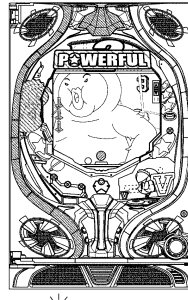
(d12)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

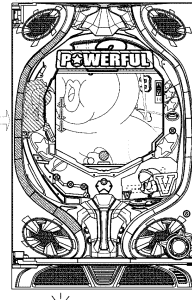
【図 161】

【図161】
(d13)



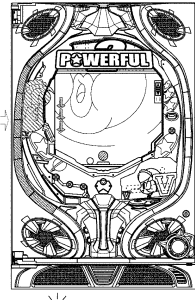
9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d14)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d15)

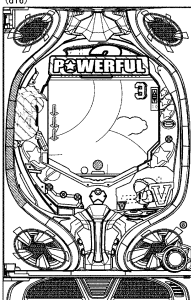


9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

10

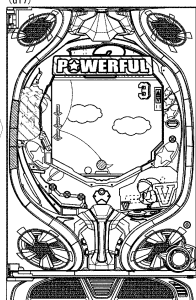
【図 162】

【図162】
(d16)



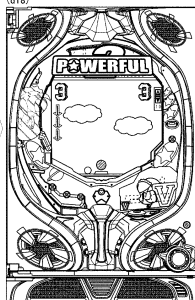
9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d17)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d18)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

【図 163】

【図163】
(A)



(B)



(C)



(E)



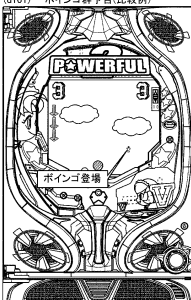
(F)



20

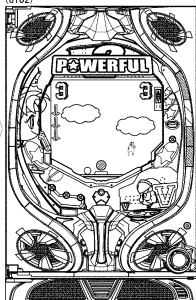
【図 164】

【図164】
(d101) ポインゴ群予告(比較例)



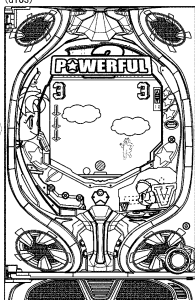
9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d102)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

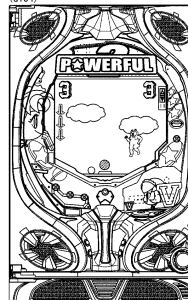
(d103)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

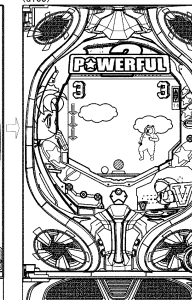
【図 165】

【図165】
(d104)



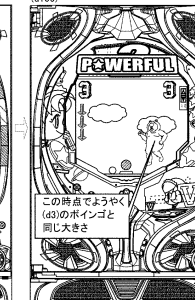
9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d105)



9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

(d106)



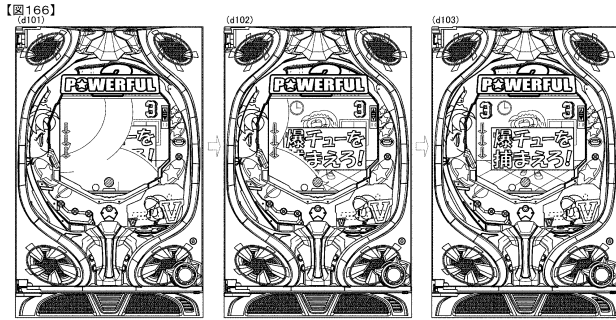
9 (群予告に対応する態様)
8L,8R (群予告に対応する態様)

30

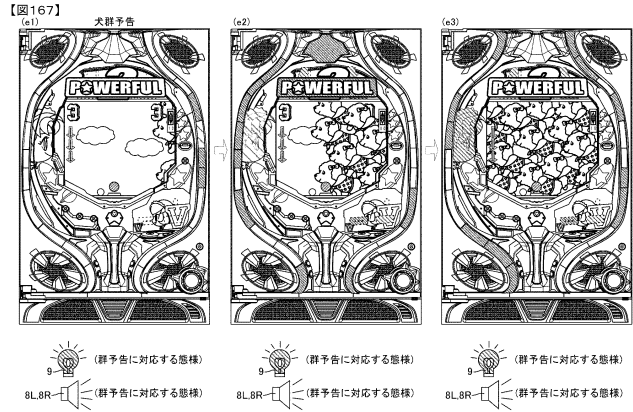
40

50

【図 166】

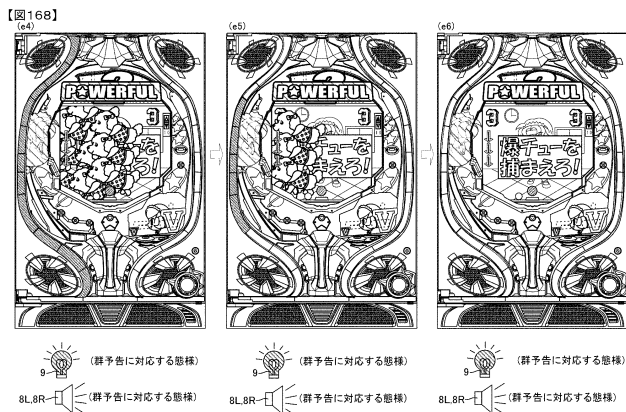


【図 167】

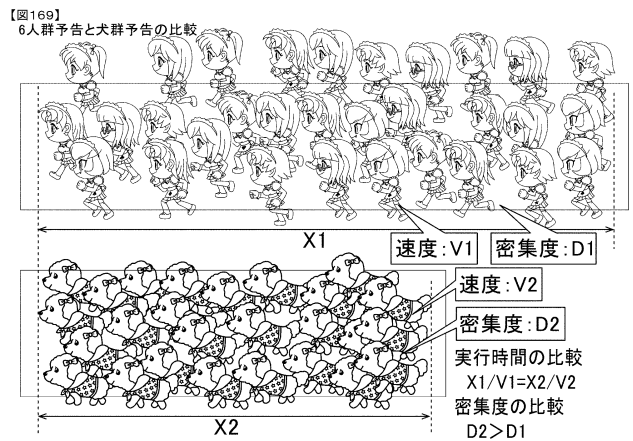


10

【図 168】

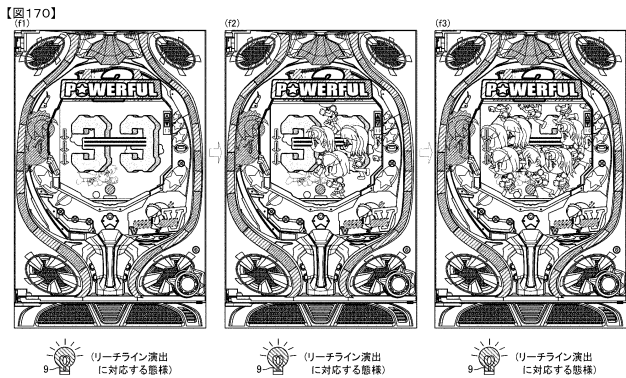


【図 169】

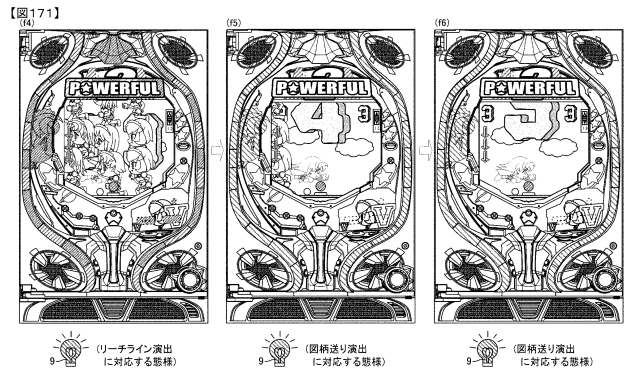


20

【図 170】



【図 171】



30

40

50